ミルコvsジョシュ実現か!?『PRIDE.28』&『武士道』特報!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
WANIMAGAZINE MOOK
840yen

紙のプロレス RADICAL

79
2004

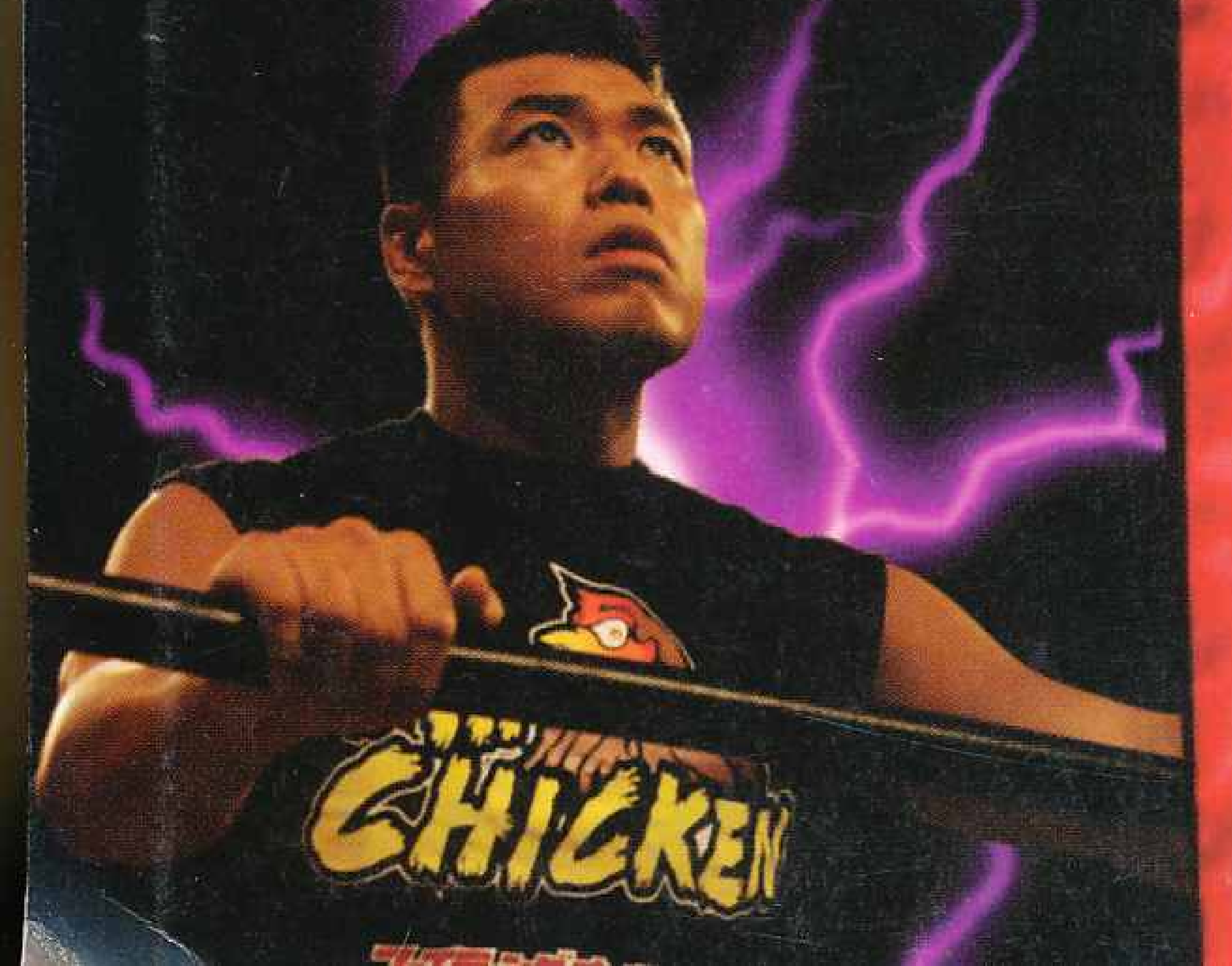


この男、ソウトウ凄い!!

プロレス暗黒時代に舞い降りた魔王!

高貴なお方が独占激白!
"言葉の鉄槌"を振り下ろす!!
髙田総統

54日間出場停止処分に"キャプテン"が、
『ハッスル5』へ"超大物"投入を予告!!
小川直也



『PRIDE』&『ハッスル』とは何か?
超異次元対談を読めぇぇぇぇ!
DSE榊原代表×ターザン山本!

『ハッスル5』&『ケッパレ1』
中綴じカラー16P大特集!

超美形グレイシーにタムタムたじたじ!
田村潔司×キーラ・グレイシー

マット界の片隅でひっそり結成!
金原モンスター軍座談会

K-1原点回帰! いまこそ考えよう
曙は是か非か?
堀辺正史/松永光弘/一宮章一、
他が徹底分析!

デビュー20周年記念同期対談
武藤敬司×AKIRA

"離脱の真相"を独占激白!
SUWA

プロレス界徹底改造論
ウルティモ・ドラゴン

紙のプロレス RADICAL NO.79 『ハッスル』怒濤の進撃!!

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3350-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188


ロシア軍最強の男も微笑んだ。
RTTグッズに秋の新作登場!!
NEW
SERGEY KHARITONOV
ハリトーノフ
パラシュートパーカー
アッシュグレー / ¥6,300(税込) M or L or XL
※9月下旬から発送予定です。
NEW
ハリトーノフ
パラシュートパーカー
ネイビー / ¥6,300(税込) M or L or XL
※9月下旬から発送予定です。
『PRIDE』HPで絶賛販売中!!
http://www.so-net.ne.jp/pride/
『紙プロHand』でも購入可能!!
ハリトーノフパラシュートTシャツ(ホワイト)
¥3,990(税込) S or M or L or XL
ハリトーノフパラシュートTシャツ(レッド)
¥3,990(税込) S or M or L or XL
Харитонов
ハリトーノフTシャツ
ホワイト / ¥3,990(税込) S or M or L or XL
コピィロフTシャツ
ホワイト / ¥3,990(税込) S or M or L or XL
VOLK
ヴォルク・ハンTシャツ
ホワイト / ¥3,990(税込) S or M or L or XL
MIKHAIL
RUSSIAN TOP TEAM
ミーシャTシャツ
ホワイト / ¥3,990(税込) S or M or L or XL
RTT トリコロールTシャツ
ホワイト / ¥3,990(税込) S or M or L or XL
※RTTとはロシアン・トップチーム略です
ロシアン・トップチームグッズは『紙プロ』通販でご購入できます。電話注文もできますよ!! (株)ダブルクロス　TEL.03-3403-5142(平日15:00〜22:00まで)
[代引き] 郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールをkapra@kamipro.comまで送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。
商品代金のほかに送料一律¥500(何枚でも可。離島、山間部は除く)代引手数料約¥315がかかります。(代引金額によって異なります)。)御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。



54日間ハッスル出場停止の小川君に代わって
『ハッスル5』には〝小川直也の化身〟が現れるようだな。

まぁいいだろう。チキン君だろうがチキン君でなかろうが

ハッスルできなきゃ皆同じ!!

ということだ。

それは低脳な諸君たちでもわかるだろう?


大魔王が独占激白!!
統降臨
MD受取人／ジャン斉藤　撮影／『髙田モンスター軍』写真部
designed by hisa (Two Three)

なけなしの小遣いをはたいて、この『紙のプロレス』とやらを購入した、プロレス・格闘技にしか興味がない哀れな諸君、御機嫌いかがかな？　我こそが世界中……いや、宇宙のありとあらゆる生物から羨望のまなざしを浴びる、『髙田モンスター軍』総統・髙田だ！

以前（本誌76号）のE―mailインタビューに続いて、私がこのしがないプロレス雑誌に登場したやったのは他でもない。我が『髙田モンスター軍』の偉大さ、素晴らしさを改めて伝えるのはもちろんのこと、9・20『ハッスル5』、10・21『ハッスル・ハウスVol.3』、10・23『ハッスル6』に向けての所信表明をしてやろうと思ったからだ。ひいてはチキンこと小川君を筆頭とするハッスル軍の貧弱さ、だらしなさがあぶり出されることになるだろうから、彼らのファンはせいぜいビビってたじろぐがいい。

残念ながら私は宇宙で一番多忙な身なので、直接インタビューを受けている時間はない。この偉大なる説法を参謀の島田に収録させて、古びた雑居ビルにある編集部にMDを送り届けてやったわけだ。私が発する高貴な言葉を一言一句聞き逃さずに、諸君らの脳裏に焼き付けることをお勧めしよう。

加えて、もうひとつ！

清潔とは無縁で薄汚い諸君らのこと。いますぐ洗濯しすぎて色あせたプロレスTシャツを脱ぎ捨て、消毒済みの手袋でもはめて、私のこのインタビューページを無垢な乙女を抱くかのように大事に大事にめくるがいい。それをもし拒否するならば、この高貴な杖で6回叩く！　なぜ6回叩くか？「手袋」をゆっくりと何度も繰り返して言ってみたまえ。てぶくろてぶくろてぶくろてぶくろてぶくろ……ロクブテ!!……ククク。私としたことが、ついつい古典的ギャグを披露してしまったよ。私がなぜいま、トゥ・マッチなギャグを披露したか教えてやろう。諸君らも子どものころはこういった遊びにも純粋に興じてたんじゃないのかな？そのころはプロレスに対してもヒネた見方などせずに純粋に接していたはずだ。実は『髙田モンスター軍』は諸君らにそのころの気持ちを思い起こさせる大事な何かが詰まっていると思うが、いかがかな？　ヒネすぎた諸君らにこの謎かけは難しすぎるかな。

（マントを翻しながら）まぁいい。そろそろ本題に入ろう！　先日9月2日、〝プロレスの聖地〟後楽園ホールで行われた『ハッスル・ハウスVol.2』は、サブタイトル通りに東京モンスターパークと化した。平日にも関わらずヒマでヒマで仕方がない、何の予定もないプロレスファンの諸君らが大挙として訪れたわけだが、傑作なことにハッスル軍の連中は、さも自分たちの力だけでファンを呼び込んだと勝手な妄想を抱いてるようだ。ハッスル軍の諸君、その足りない頭をフル回転させてあの日を振り返ってみるがいい。

あの日、一番の歓声を浴びていたのは一体、誰なんだ？

そう、『髙田モンスター軍』総統・髙田だ！　言うまでもなく私のことだ。私の姿をひと目観たくて、すべてのファンは足を運んだきたわけだ。

しかし、プロレスファン諸君の逆ギレの罵声がエネルギー源となる私からすれば、歓迎の声援はまったく好ましくない。以前から「〝総統コール〟はやめろー！」と口を酸っぱくして言い続けてきたわけだが、ハッスル軍の連中よりも大声援を浴びているのが現状だ。いかにハッスル軍の連中がだらしなく、いかに私のような光り輝く存在がいないということを現しているじゃないか。諸君らが私に声援を送りたくなる気持ちはよくわかる。ハッスル軍は応援する気も失せるガラクタ、もしくは未完成のヒヨコばかりが集っている集団



絶対無二!!　まさに“60億分の1”の大魔

髙田総

だからな。
思い出してみるがいい！　ガラクタハッスル軍の〝キャプテン〟を愚かにも自認するチキン君は、『PRIDE・GP決勝ラウンド』において、わずか54秒足らずでヒョードル君に敗北を喫した。その体たらくのあげく、大会終了後の会場外でのイベントでは、ファンの声援、いや同情に目を涙で潤ませた。
……情けない。私から言わせれば、〝負け犬同士〟が傷を舐め合ってる風にしか見えない！　私の古くからの友人、髙田延彦・PRIDE統括本部長も、負けてリング上でハッスル・ポーズを披露したチキン君の姿を見て、迂闊にも「胸が熱くなった」とコメントしたそうだが、親愛なる友人に忠告しよう！
髙田延彦氏よ、あなたは甘い！　甘すぎる!!
チキン君は、カップラーメンが出来上がる時間さえ保たなかったわけだ（誤解されないように付け加えるが、私はカップラーメンなぞ食さない。下品なチキン君にピッタリだから引用したまでだ）。そんなチキン君に恩情をかける必要はまるでない。私が彼に「54日間出場停止」を命じたあげたように、髙田氏にはもっと厳しくチキン君に接することを期待する。
……まぁいい。話を元に戻そう。
チキン君の他にも、ガラクタはまだいる！
古傷の右肩を手術するという理由でズル休みしている〝ハッスル・キング〟ならぬ〝ポンコツ・キング〟の橋本君だ。彼は右肩を治す前に、まずはその太鼓腹の脂肪を吸引した方がいいんじゃないのか？　もっとも、痩せたところで、ジーッと見入ると吹き出してしまう、その三枚目な顔はそのままだ。ハッキリ言おう！　橋本君の醜い風貌に変わりはないということだよ。
橋本君以外にもまだガラクタはいる！
所属する全日本プロレスが〝風前の灯火〟のせいか、他団体にノコノコ登場して小銭を稼いでいる川田君だ。〝ハッスルK〟の〝K〟は、〝経営危機〟の〝K〟なんだろう？　まったくデンジャラスKな話だよ。最近は〝俺だけの王道〟ならぬ〝俺だけのハッスル〟宣言をしたそうだが、何でも自分の物にしたがる、その引きこもりのオタク性は微塵も変わってないじゃないか。
川田君以外にもまだいる。ガラクタはまだまだいる！
相も変わらず保守的極まりないファイトを身勝手に披露し、時代に取り残されてることをまったく気づかない〝ロートルの黒パンツ〟こと長州君だ。
長州君にひとつ聞きたい。君の試合はいつも短すぎやしないかい？　私の辞書で〝長州力〟という単語を引いてみたが、案の定〝ギャラ泥棒〟と記されてあったよ。ファイトマネーに見合うように、せめて老体にムチ打って〝最後のひと花を咲かそう〟という意地でも見せてくないか？　このままでは〝革命戦士〟というニックネームが泣くというものだ。
どうだ。こんなガラクタ連中が束になったところで、日本のプロレス界が変わるわけがない。せいぜい時代が逆行するだけだ。日本のプロレス界を変えるのは我が『髙田モンスター軍』を置いて他にない。
参謀長の島田に聞くところによれば、ここ数年の日本のプロレス界は、薄っぺらい結束力と自己保身からのいがみ合いで離合集散を繰り返し、大いなる理念を抱かないために新しい道を切り拓けず、規模縮小を余儀なくされたというじゃないか。その状態になっても〝変化〟を拒絶し、保守的極まりなかったわけだ。
そういった悪しき要素を排除しようと立ち上がったハッスル軍は、いくらかマシだとは思う。しかし、たかだか〝コスプレごっこ〟に興じたぐらいでプロレスを変えたとは思ってないだろうな？　下品なハッスルポーズをする・しないで大騒ぎしてもらっては困るんだよ。
いいか。改めて宣言してやろう！
我が『髙田モンスター軍』は、そんなハッスル軍、そして日本のプロレス界を根こそぎブチ壊す！　そして崩れ落ちた瓦礫の山から私が〝真のプロレス〟を創造してやることを約束しよう。すなわち、プロレスがプロレスとして堂々と歩むための道しるべを指し示すのが我が『髙田モンスター軍』だ。
そのステップとして、いよいよ〝例の計画〟を発動させる。そして9・20『ハッスル5』でのハッスル軍との対抗戦に勝利した暁には、〝然るべき物〟を要求する！
そして、もうひとつ大事な話がある。チキン君は私が高貴な説教をしてやると、その言葉を無礼にも遮り、「リングに上がれ！」「勝負しろ！」などとほざいているよな。ハッスル軍の連中も、9・20『ハッスル5』の全面対抗戦でハッスル軍が勝ち越した場合、不敬にも私がリングに上がる条件を突きつけたそうじゃないか。まったくこざかしい話だ!!
仮に私がリングに上がるとするならば、重厚なるテーマ・崇高な動機・限りない必然性・鉄の理念などが存在する、至高かつ究極の舞台でなければならない。我が手下、アン・ジョー司令長官の言葉を借りれば「ド・パーフェクト」な環境が要求されるのだ。チキン君よ、まずは私が上がるに相応しい舞台をつくってみるがいい。一番手っ取り早いのは、私以外のモンスター軍をことごとく打ち破り私に辿り着くことだが……まぁこれは無理だろう。
ヒョードル君に54秒足らずで負けてしまった君のことだ。自ら作詞した『ハッスル音頭』でさえ満足に歌えず、音程が外れっぱなしで関係者から失笑を買った君のことだ。さらに付け加えるならば、『ハッスル音頭』の振り付けを覚えられず、PV監督からダメ出しを喰らった君のことだ。
そんなことすらも満足にこなせないチキン君が、私に辿り着くなどということは……無理な要求をしていることは十分わかっているよ。『ハッスル音頭』に



チキン君よ、私をリングに上げたいのなら、まずは私が上がるに相応しい舞台をつくってみるがいい!!

武士の情けで収録してやった私の美声を聞きながら、暗くてジメジメして野暮ったい、プロレス界の現状をせいぜい憂いてくれたまえ。

もう一度言おう。プロレスがプロレスとして堂々と歩むための道しるべを指し示すのは我が『髙田モンスター軍』だ。ハッスル軍にはどんな理念がある? なんの動機がある? それが見えない限り、私をリングに引っ張りあげるなどというのは戯言で終わるということだ。

……どうだ。ビビったか? たじろいだか!?

(高貴な腕時計を見やりながら)そろそろ終了の時間が来たようだな。本日はこの辺で失礼するよ。このしがないプロレス雑誌にはよくチキン君のインタビューが掲載されていると聞いているが、今号にもチキン君のページがあったとしても、目を通す必要はまったくない。なぜなら私のインタビューほうが、54倍面白いからだ! チキン君の言葉に耳を傾けるぐらいなら、私のページを穴が空くほど繰り返し熟読すればいい。いくら低レベルな諸君らでも、"モンスター軍の真理"が見えてくるはずだ。

さぁ、お別れの挨拶だ。この指を見たまえ……(グルグルと指を回しながら一点に定めて)ビターンッッッッッ!!!!!!!!



して
くのが

直 也

Naoya Ogawa

PRIDE・GPが終わっても“キャプテン”に休息なし！
そのハッスルぶりはさらに加速!!

とにかくハッスル
未来への道を拓
俺の役目!!






小川

GPが終わっても“キャプテン・ハッスル”に休息なし！　8月15日、皇帝ヒョードルに54秒で完敗を喫したものの、3大会に渡って行われた「査定試合」を完遂したオーちゃん。しかし、「ハッスルはこれからがスタート」の言葉通り、全国を飛び回り連日ハッスル中だ。そんなハードスケジュールの中、9・2『ハッスルハウスvol.2』の翌日、キャプテンを直撃した！

聞き手／堀江ガンツ
撮影／森モーリー鷹博、平工幸雄、山口比佐夫
designed by hisa（Two Three）

――「キャプテン・ハッスルに休息なし！」というわけで、『PRIDE・GP』が終わっても、休む間もなく、いろんな仕事がかなり舞い込んでるようですね？　今日もインターネット関係の、かなりハードな撮影だったみたいですけど。

小川　嬉しいことにいろんなお話をいただいてますよ。でも、疲れるね〜。スケジュールが容赦ないからさ。こう忙しいと、俺もおたくの〝ハッスル大統領〟（山口日昇・本誌鬼畜編集長）みたいに失踪したくなるよ（笑）。

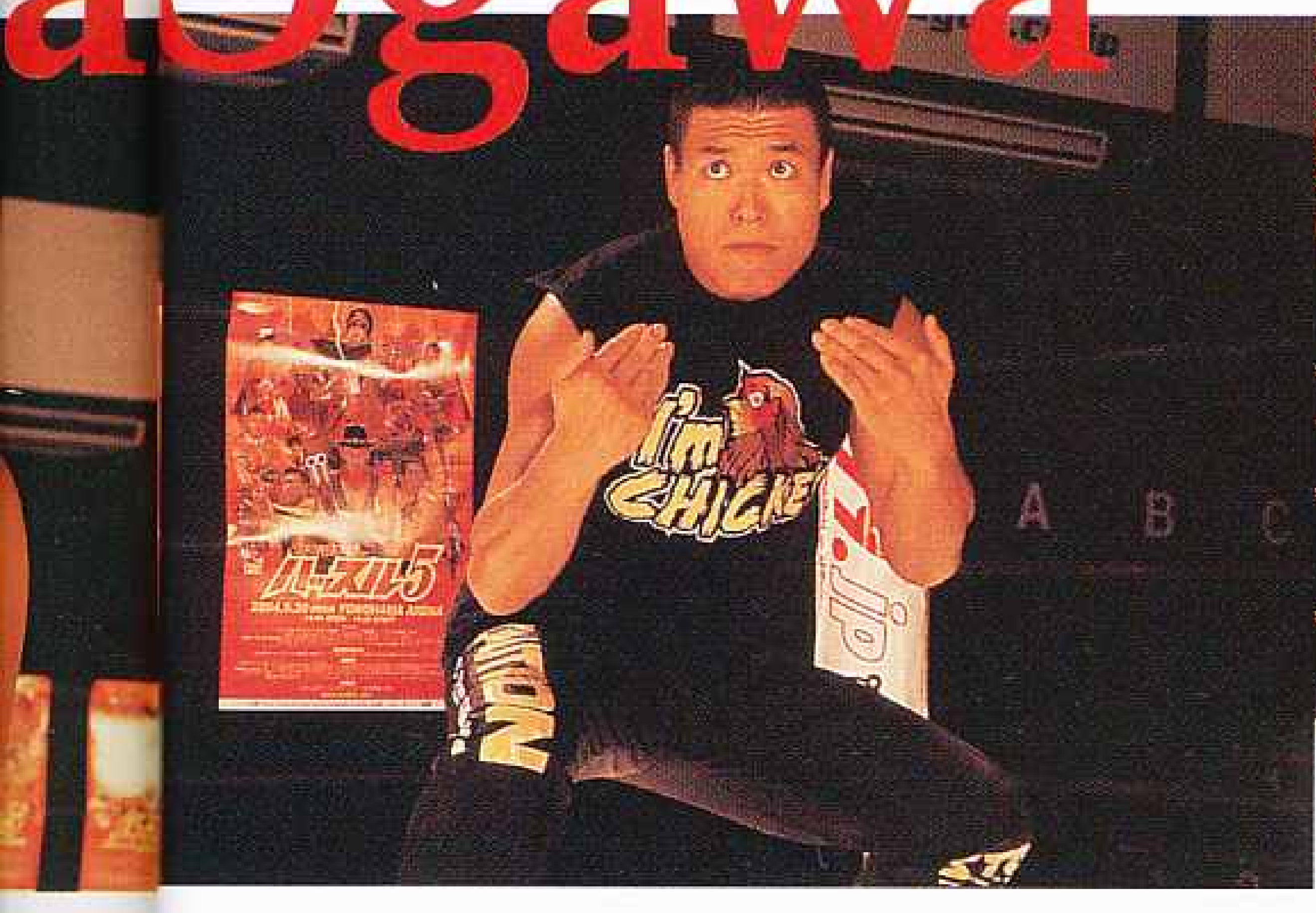
――ダハハハ、あの大統領はしょっちゅう人目がつかないところに旅に出ちゃいますからね。先日も島田参謀長とのトークショーを「12キロの渋滞にハマっていけない」ってドタキャンしたらしいです。日曜日の都内でそんな渋滞あるわけないって（笑）。

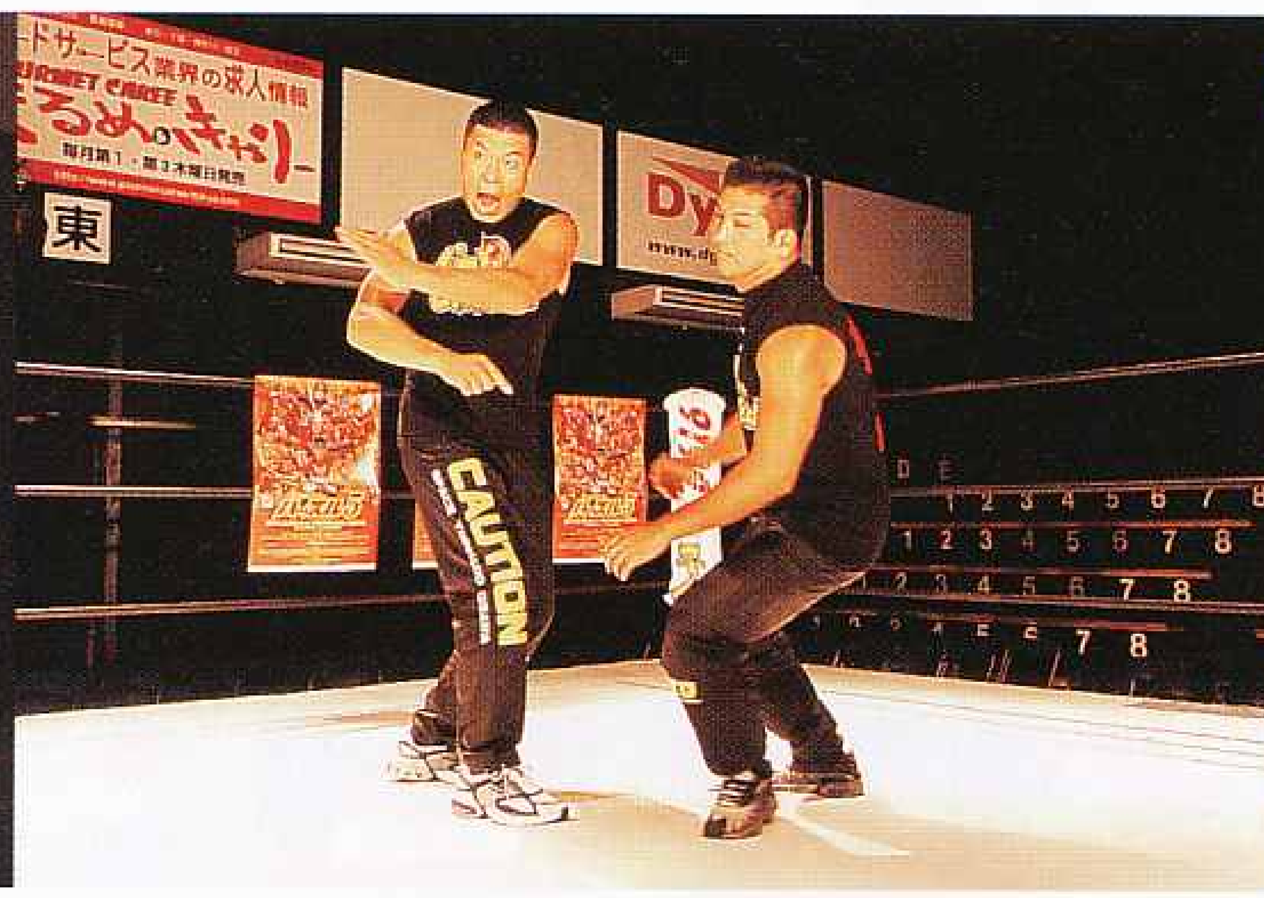
小川　ホントたまんないよね。今日も朝から一緒だったんだけど、「この後なんの仕事？　は？『紙プロ』の取材あんの？」な〜んて言われちゃったからね。自分の雑誌がどこで誰に取材してるかもわかんないだから、あの人（笑）。あ〜あ、俺も早く大統領ぐらい偉くなって、そういう生活したいな〜（嫌みたっぷりに）。まぁでも、いまやってるいろんな仕事も『ハッスル』に還元されることを祈ってやってますよ。

――そういった仕事もすべては『ハッスル』を伝導するため、と。

小川　やっぱり『PRIDE・GP』と同じで、〝意味合い〟がなきゃやらないし、『ハッスル』は、いろんな幅広い活動が還元できる舞台だと思ってるから。おかげさまで昨日（9・2）の『ハッスル・ハウス』も大盛況で、最高の盛り上がりの中、俺もリングに飛び込むことができた。ああいう風に盛り上げてもらえたら、気持ちが

aOgawa







E』と『ハッスル』が連動できたってことだから

前向きになるというか、素直に嬉しかったしね。

――前回に続いて『ハッスル・ハウス』はギッチギチの超満員ですからね。

小川　聞くところによると、チケット電話予約が10分でソールドアウトしたんでしょ？　凄いよね。いまプロレス界は大不況だって言われてるけど、そんな中でも『ハッスル』は後楽園ホールを瞬時に満杯にできるってことがわかったからね。それだけ期待が大きいんだろうし、この流れを裏切らないこと、それからプロレス界の未来に繋げる道を拓くことが、俺の役目かなぁとも思うよね。

――でも、『ハッスル』に期待というより、『ハッスル・ハウス』への期待値が高いような気がするのは、気のせいですかね？（笑）。

小川　そ、そういうこと言うか！　でもそうなんだよなぁ〜。参ったなぁ！　でも、横浜アリーナの『ハッスル5』も、笹原GMが俺の要求を珍しく受け入れて、今回からお手頃な入場料金で見やすくなったんで、食わず嫌いにならずに、ゼヒたくさんの人に見に来てもらいたいね。あと、『ハッスル6』が愛知県体育館であるんだけど（10月23日）、これはシリーズ初の試みである地方大会なんだよ。あっちの地域は、東海テレビで『ハッスル』の地上波放送やってるでしょ。その地域で、どれだけ浸透してて、どれだけファンが集まってくれて、どれだけ盛り上がるか？　これもひとつの実験なんだよね。あと、いままでは、後楽園か1万5千人規模の横浜アリーナかっていう、極端に小さいか大きいかだったんだけどさ、今回初めてその中間の7千〜8千人規模の会場でしょ。そこにはどういう熱や反響があるのかなっていうね。どうなるかわからないから、ある意味おっかない部分もあるけど、挑戦する意味はあるんじゃねぇかな。

――地方のファンもハッスルしたくてしょうがないでしょうからね。

小川　だからこれを皮切りに、『ハッスル・ハウス』で全国を回りたいっていう気持ちもあるしね。いつも「行く、行く」って言ってて「来ねぇじゃねーか！」って言われるかもしれないけど、ちょっと形は違っても、9月26日には盛岡の安比高原に乗り込むから‼

――みちのくプロレスのビッグイベント、『ケッパレ1』ですね。

小川　『ケッパレ』って津軽弁で〝頑張る〟っていう意味で、『ハッスル』と親戚みたいなもんらしいじゃん。だから、これも『ハッスル』の地方進出というものの試金石的な形にしたいね。『ケッパレ』は地元のテレビ局もバックアップしてくれるみたいだし、3000人ぐらいの規模で大型ビジョンまで設置するっていうんだから凄いよ。「よく、ここまでやってくれた！」って感じだよね。そんなけなげにケッパってるところに、髙田総統率いる髙田モンスター軍が侵略してくるって言うんだから……モンスター軍打倒は俺の使命だし、そうなったら俺とサスケのタッグで迎え撃つしかねぇだろ！

――おぉ！　打倒・髙田モンスター軍のために、夢の「ハッスル・ケッパレ連合軍」を結成しますか！

小川　イベントの見地から言えば、『ハッスル』と『ケッパレ』の部分的コラボだよ。

――まぁ、小川さんも髙田総統には『ハウス』で散々言葉の鉄槌を浴びせられたばかりですから、黙ってるわけにはいかないですよね。

小川　昨日は、総統の野郎のいいネタに使われたよ。でも、それはそれで、『PRIDE』を『ハッスル』にフィードバックできたってことでいいんじゃないの？

――いや、ヒドイことをあれだけ言われた小川さんがいいならいいんですけど（笑）。

小川　ネタで拾われたってことは、バーリ・トゥードとプロレスが連動できたってことだからね。ああいうさ、ある意味でシリアスな部分がイベントの引き金になればいいんじゃないかと。

――それにしても、あのド・シリアスなというか、格闘技界で最も注目された大一番である小川vsヒョードル戦の映像の上に、点数がピロピロピロピロ～ってスロットで回って、「オーちゃん3点！」ですからね（笑）。

小川　作るヤツもなかなか凄いよな。でも、俺もちょっと笑っちゃったけどさ。

――あ、笑っちゃいましたか（笑）。あれを真正面から受け止めて許容する小川さんも凄いですけどね。

小川　受け止めるっていうか、あれをなかったことにするんじゃなく、いい意味でさらけ出してね、いい意味でネタにしていかないとさ。ほら、やっぱりスキャンダルを経営に結びつけないと（笑）。

――ダハハハ！　師匠の教えを忠実に守ると（笑）。

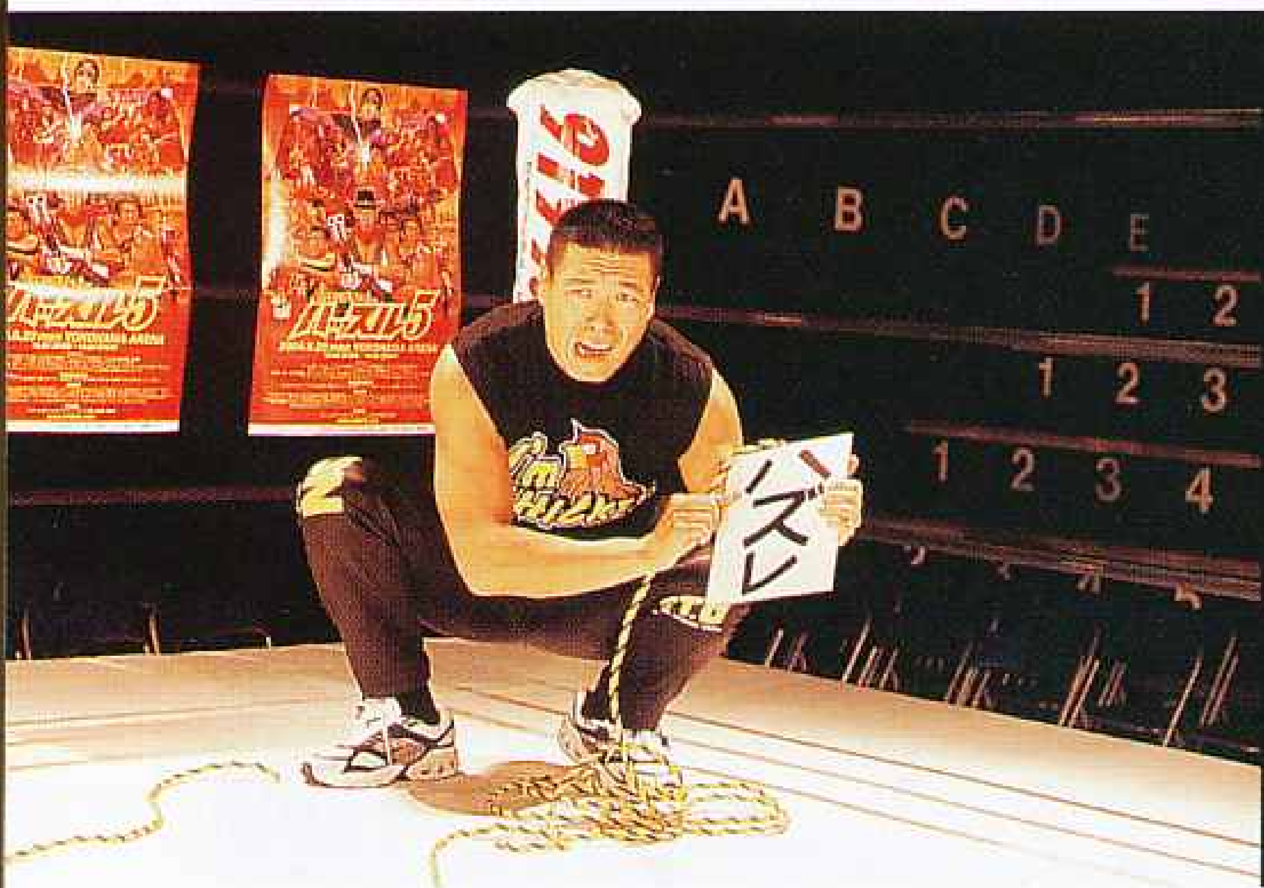
小川　ある意味のスキャンダルを、さらにコクのあるスキャンダルにしないといけねぇからさ。

――でも、いままでプロレスラーは、そういった真剣勝負の場に出て負けると、それがトラウマになったり、それを悪い意味で引きずって負い目になったり、ヘンに開き直ったりしてたじゃないですか。

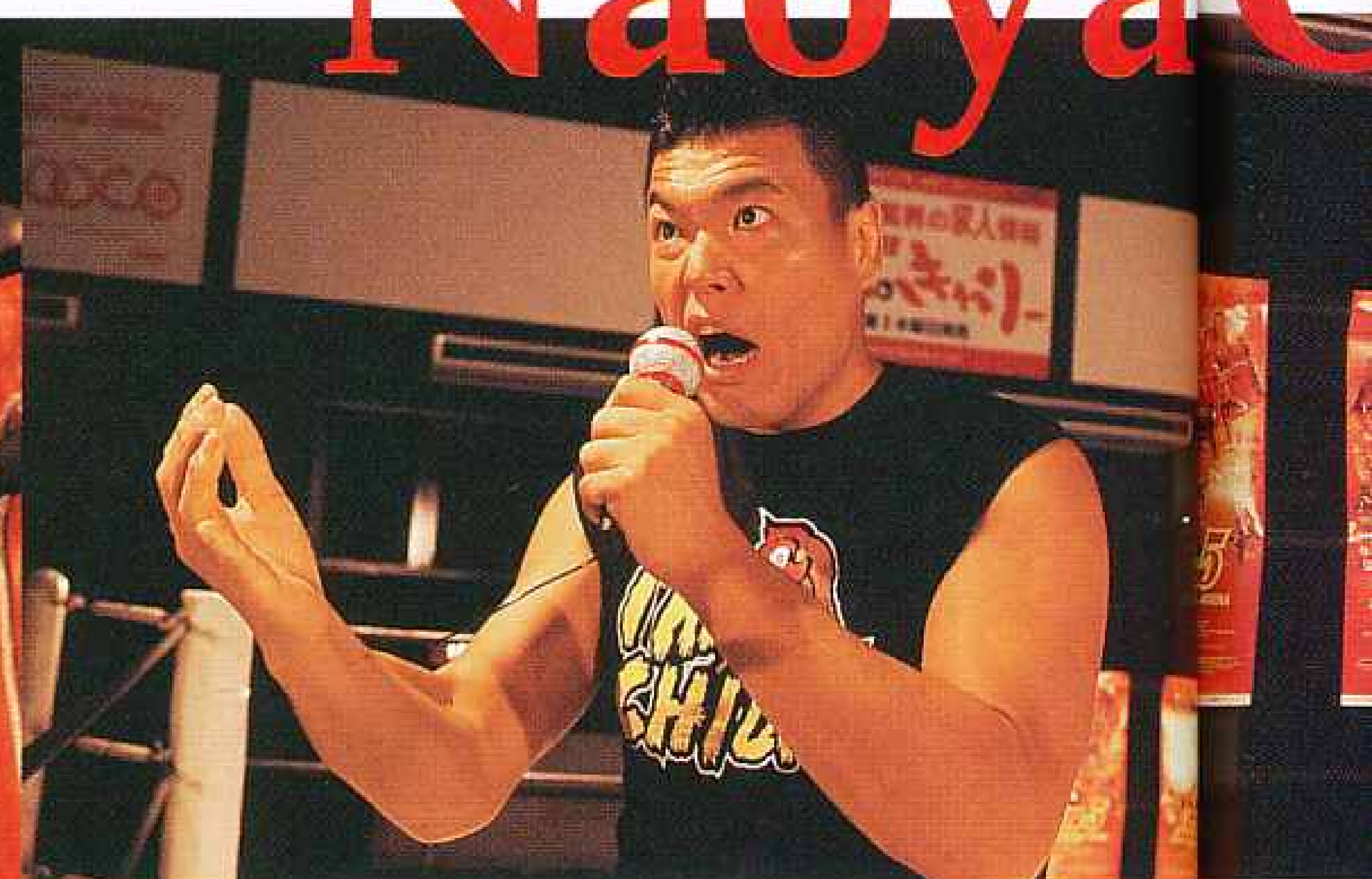
小川　引きずるようなら出なきゃいいんだ

このインタビューが収録された日、キャプテンはインターネット検索サイト「9199.jp（クイック・ジェーピー）」の撮影を行っていた。同サイトでは９月19日から2004年いっぱいまで、オープニングキャンペーンとして、小川直也を自由に命令できるゲームをダウンロードできる。これらの写真は、その“命令”の一例だ。とにかくまずはアクセス！

NaoyaO







「54秒」がネタに使われたのは『PRIDE』と『

よ！　勝負論の世界に討って出たんだから、負けることもある。ヘンに開き直るわけじゃなくて、〝何のために出たのか〟っていう思いや意味合いが強ければ強いほど、還元されるものは大きいんじゃないかと思うけどね。だからこそ、俺は意味合いにこだわったわけだし、その意味合いに芯を通そうと思ったわけだしね。でも、そういうところに出て行くのに、いままではみんな安易な発想じゃない。出れば少しは有名になるとかさ、そういうレベルで考えてるんじゃないの？

――勝てばおいしいとか（笑）。

小川　勝ったらおいしいものは、負けたらそりゃマズイんだよ！　最初からわかってる話だろ。そうじゃなくて、〝何のために出て、何のためにやるのか〟ってとこをプロとして明確にしとかなきゃいけないのにさ、悪い意味でグレーにしたままやってるからね。そんな考えで出ていってプロレス界にフィードバックするどころか悪影響与えてさ。それでもマスコミが「偉い」とかなんとかさ、ゴマすったりするからダメなんだよ。

――ボクも決してゴマするわけじゃないですけど、小川さんの場合は、ただ単に負けて開き直ってるわけじゃないし、あのヒョードル戦での敗戦を受け止めた上で、それを糧にして前向きにハッスルしていこうというわけですよね。

小川　無駄なことはしたくないじゃん。〝出なきゃよかった〟と後悔するなら出ない方がいいし。俺は今回『GP』に出て得たものっていうのは大きかったしね。だから俺も昨日リング上でヤング・ハッスルたちに言ったけどさ、「勝っても負けてもハッスルできなきゃみな同じ！」ってことを理念としてやってるだけだから。

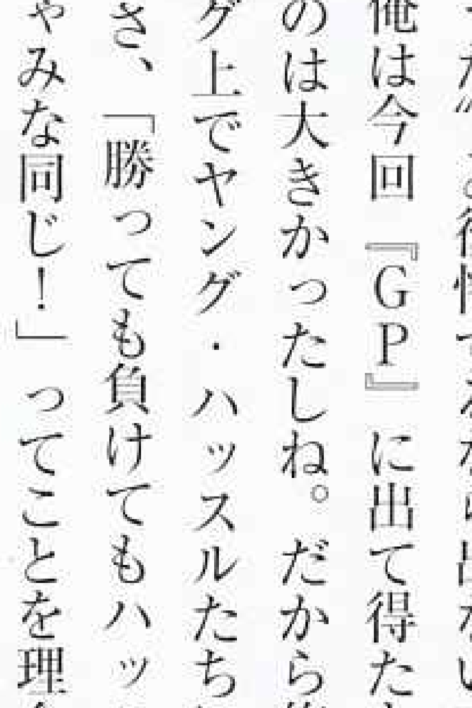
――やっぱり自分をさらけ出した上で、どれだけハッスルできるか。プロはそれが勝負だと。

小川　プロである以上はそのスタンスは変えたくないね。俺の場合は、『ハッスル』に還元できることが一番だから。

――昨日なんかも、ヒョードル戦敗戦の影が少しは落ちるかと思ったんですけど、小川さんが入場してきたら、もの凄い盛り上がりでしたから、ちゃんとフィードバックできてましたよ。

小川　あの歓声聞いたら、ますますハッスルしなきゃいけねぇなと思ったよね。でも、「よぉ～し、これからもハッスルするぞ～！」と思った途端に「54日間の出場停止」食らっちゃったから（笑）。どーすんだよ！「オーちゃん3点！」より出場停止のほうが痛いよ！

――しかも髙田総統が言うだけならまだし



ハッスル効果はCM界にも波及！キャプテンが『ごんぶと』CMに登場!!

『PRIDE・GP』が終わっても、“キャプテン・ハッスル”への追い風は止まらない！　自らをハッスル宣教師と称し、ハッスル普及に余念がないキャプテンは、9月7日、10月中旬から放送される日清うどん「ごんぶと」のCM撮影を行った。悪天候の中の撮影だったが、「ごんぶと食って、ハッスル、ハッスル！」と腰を振りPR。この他にもキャプテンはCM2本が決定済み。プロレス界は“氷河期”と言われるが、ハッスルの勢いは止まらない！

も、笹原GMにまで正式に「54日間の出場停止」辞令を出されてしまいましたからね（笑）。

小川　怪しいね、あのGMも。裏で高田総統の「ビターン！」を受けてんじゃねーのか？　最近、GMも映画に出たりして、人に媚びるってこと覚えてきたのかな？　中立と言いつつ媚びてるよね。「小川だったら大丈夫だけど、この人に背いたら危ない」とか、絶対に棲み分けしてやがるよ、あの野郎！

――出演した映画自体は素晴らしいハッスルぶりらしいですけどね。

小川　『まいっちんぐマチコ先生』の実写版ね（笑）。

――河崎実監督は笹原GMの〝むっつりスケベっぽさ〟にピーンと来て出演オファーを出したらしいですよ（笑）。

小川　次からGMはスケベキャラでいこうか？　ハッスルPRの臼杵ちゃんを襲っちゃうセクハラキャラで行こう！

――ダハハハハ！　勝手に決定！（笑）。

小川　セクハラキャラのGM、いいね～。これで『ハッスル』も安泰だよ（笑）。

――それで安泰！（笑）。でも、GMのセクハラはともかく、出場停止処分はどうするんですか？　マジメな話、『ハッスル』に小川直也が出れないのは一大事ですよ！

小川　まぁ、〝小川直也〟は出ないけど、俺に代わる大物Xが出ればいいかなと。

――大物X！　もしかして……今度こそマスクド・ノーフィアーが出るとか？

小川　いやいや、それはないだろう。あの大男はもうノーフィアーというより、ノ●●●だから。

――ダハハハハ！　ウマいけど、載せられませんよ！

小川　ダメか（笑）。でも、昨日も白使とやらが出てきたときに「どうせまた前回みたいに出てこねぇんだろ！」って言ったら、やけに受けてたけどさ。なんだったんだよ、あの6月の『ハッスル・ハウス』の謎の大男は！　見せかけで終わっちゃってさ。モンスター軍なんか見かけ倒しもいいところだよ。それに引き替え、ハッスル軍は俺の代わりに超大物を呼んでくるから!!

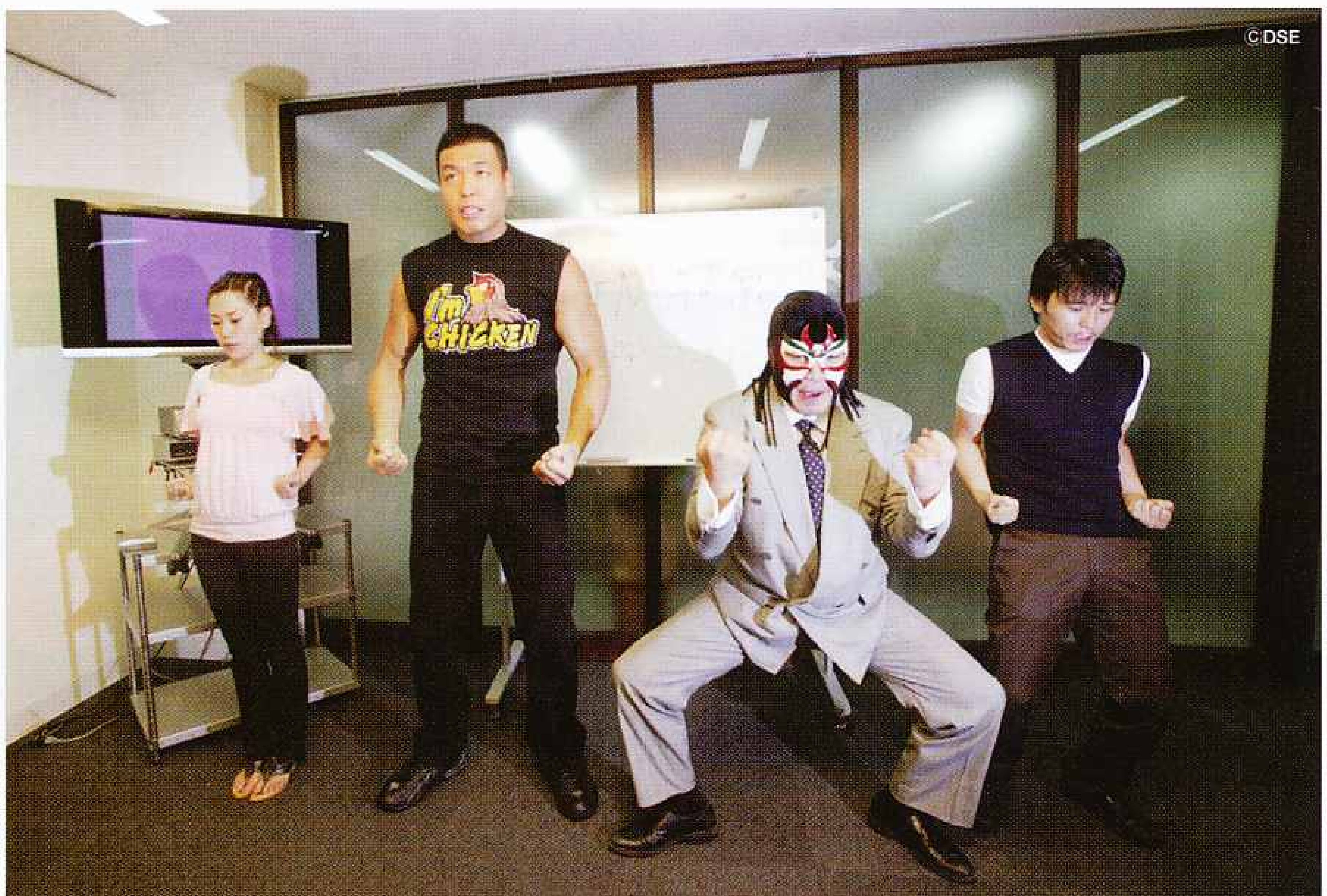
――おぉ～、その超大物についてヒントを少し教えてもらえませんか？

小川　俺の友だちだよ。だからアメリカに会いに行かなきゃいけないんだよ。

――ほう、アメリカ人！　もしかして身長193cm、体重115kgぐらいですか？

小川　いや、それは教えられねぇよ。でも、アメリカ人とは断定してないから。俺の尊敬するホーガンの友だち関係をちょっと当たってみようかなと。ホーガンはもうハリウッド・スターだから、直接会いに行かなきゃいけないから、大変なんだよ。

――『ハッスル5』に〝小川直也〟が出れないからと言っても、ガッカリするなと。







みちのくにまで及んだ高田モンスター軍の魔の手。『ハウスvol.2』では新たなモンスターとして白使が登場。この危機に小川＆サスケのハッスル・ケッパレ連合軍が電撃タッグ結成。その舞台は9・26『ケッパレ1』だ。

小川　まぁね。俺に代わるようなビッグなやつを連れてくるから、安心しろよ。

――それは総統もビビってたじろぐくらいの大物ですか？

小川　たぶんな。元・オリンピック柔道銀メダリストとだけ言っておくよ。

――じ、柔道銀メダリスト！　でも、総統がたじろいだところ、まだ見たことないですからね。

小川　あれはだじろがないね～。マスクド・ノーフィアーが来ないときもたじろがなかったからね、参っちゃうよ。言いたい放題言っちゃってさ、たまんないね。最近、どんどんどんどん巨大化してるしね。

――回を重ねるごとに言葉の鉄槌が止まらなくなってますよね。

小川　長いしね。もう俺なんか、その合い間に「テメー！」とか「うるせー！」とか「この野郎！」とか「降りてこい！」とかさ、「あ、よいしょ!!」って感じで合いの手入れるだけになってるから（笑）。

――ダハハ！　それで小川さん的にはいいんですか？

小川　突っ込めないんだよ！　マジで言っちゃってるからさ。〝ファイティング・オペラ〟っていう割には、言ってることはノンフィクションなんだから、言われる方はたまんねぇよ！　グサグサ突き刺さるからね。しかも俺の方は小川直也というノンフィクションなのに、総統はフィクションみたいなもんなんだから、汚ねぇよな。

――だから小川さんも「うるせー」とか



『ハッスル音頭』のＰＶ撮影のために商店街に繰り出したキャプテンを多くのファンが取り囲む。着実にハッスルの熱は浸透しつつある。

「この野郎」しか言えなくなってしまうと。なんか、「よしなさい！」しか言えない、ビートきよし状態ですね（笑）。

小川　そうそう、突っ込めなくてね。俺もそのうち「そうそう」って相づち打っちゃうかもしれないよ（笑）。

——「小川屋のチキン丼」にも賛成しちゃいますか？

小川　「早い、弱い、しょっぱい」だっけ？　でも、「早い」「しょっぱい」はわかるけど、弱いチキン丼ってどんなんだよ（笑）。「注文して54秒で出てくる」っていうのは、実にいいキャッチフレーズだけどね。

——こうなったら『破壊王弁当』みたいに『小川なお屋のチキン丼』もコンビニで売ってもらったらどうですか？

小川　「電子レンジ54秒でOK」とかね（笑）。……これから、なんか「54秒」が流行りそうだな。なんか勇気ついてきたな！　背番号54のNEWチキンTシャツでも緊急発売しようかな……もう、ここまで来たら、54秒の記録は誰にも破られたくない！

——ダハハハハ！

小川　『PRIDE』も「54秒」を永久欠番ならぬ永久欠〝秒〟にしてくれねぇかな。今後、『PRIDE』の試合に「54秒」は存在しない。1ラウンド10分じゃなくて、1ラウンド9分59秒になるとかさ。PRIDEルールディレクターにリング上から説明してもらいたいよね。「小川選手の申し出により、『PRIDE』では54秒めが永久欠〝秒〟となりました。よって1Rは9分59秒制で行います！」ってね。

大晦日にハッスル査定試合？同じ手が2度も通用するわけねーだろって！

——間違いなく、聞いたことないくらいのブーイングに包まれるでしょうね（笑）。

小川　ゼヒやってほしいね。「さいたまスーパーアリーナ観客動員記録を塗り替えた記念すべき日に、この記念すべき54秒という記録が生まれました」とか言ってさ。あの日は『PRIDE』初の大入り袋まで出たんだろ？

——ちなみに、その大入りに気をよくしたのか、某S代表は「また大晦日あたりに髙田総統が小川選手に〝ハッスル査定試合〟を組むんじゃないですか？」って不敵な笑みを浮かべてました（笑）。

小川　同じ手が2度通用するわけねーだろ！　もう引っかかんねーよ!!

——ダハハハハ！　もうその手には乗らない!!

小川　そういう風に一度味を占めて同じことをやったって、ファンも利口だから乗ってこないよ。また違った壮大な「ウソだろ？」っていうくらいのストーリーがないとダメよ。それより髙田総統が『PRIDE』復帰ってどう？　あ、「復帰」じゃねーや、髙田総統の『PRIDE』初出場!!

——あの恰好で『PRIDE』登場させますか！

小川　そう。統括本部長が「男の中の男、出てこいやーーーッ！」って言った後、なぜか舞台袖に引っ込んで、しばらくしたら葉

巻ふかしながら総統が登場すると（笑）。

——それはゼヒ『ＰＲＩＤＥ』の最終回でやっていただきたいです（笑）。昨日の後楽園で小川さんは、「髙田、降りてきて勝負しろ！」って叫んでましたけど、実際に『ＰＲＩＤＥ』じゃなく、『ハッスル』のリングで総統と決着をつけたい気持ちはあるんですか？

小川　必ず引きずり出すよ！　まぁ、でもまだ泳がしといていいでしょう。もっともっと太らせて、おいしくなったときにいただく。まだ、ファンもリング外の総統を楽しんでるから、それが「総統がリングに上がってコテンパンになる姿が見たい」ってなったときにね。それまではチラリチラリとヤツの本性を暴いていきますよ。

——ハッスル軍の"黒パンツのロートル"もチラリズムで焦らしてますよね？

小川　ホントだよ。いつハッスルするんだって！　昨日だって困っちゃったよ。

——毎回、キャプテンが弁解しないといけない（笑）。

小川　そうだよ！　なんで毎回俺が「長州さんはお腹が痛くて帰っちゃいました」とか言わなきゃいけないんだって。言い訳が苦しいよ！　ハッスルキング（橋本真也）が「看護婦さんのお尻追っかけてる」っていうのはリアルだからいいんだけど。

——ダハハハ！　リアルでしたか。

小川　黒パンツについては、こっちが理由考えないといけないんだから。対抗戦の先鋒戦に出たら、すぐ帰っちゃうんだから、参っちゃうよ。「ハッスル・パワー」とか「パワー・ハッスル」とか「ハッスル・リキ」とか『ハッスル』用に新しい名前をつけたいのに、それもままならないからね。進まねぇよ。

——それに対して、"ハッスルK"のほうは、率先してハッスルしまくってますね（笑）。

小川　いいね～～！　Ｋはいい！　トラックスーツの次はヌンチャクだってよ。

——もう決まってますか！（笑）。

小川　石狩（太一）が俺に教えてくれたよ。「キャプテン、Ｋの情報なんですが……実はヌンチャクを……」って言うんで「わかった。それ以上言わなくてもわかる」ってね。だから次はヌンチャク振り回すだろうね。

Naoya Ogawa



"小川直也"54日間出場停止処分にともない、一部で『ハッスル５』参戦が噂される"ハリウッド"ハルク・オーガン。はたして、メインのＸは本当にこの男なのか？

——なぜかいつもその通りに実現する『ハッスル』ポスターのイラストでも"Ｋ"はヌンチャクを持ってましたからね。そのポスターで小川さんはチョビひげを生やしてるわけですけど、「54日間の出場停止」となったいま、それは持ち越しですか？

小川　せっかく考えてくれたんだけど、次回に持ち越しだね。

——それは残念ですね。見たかったな～、チョビひげの小川直也（笑）。

小川　まぁ、俺が出ないぶん、若い奴らに頑張ってほしいんだけど、ヤング・ハッスルたちがハッスルしてないからね。でもさ、ひとり期待してる奴がいるんだよ。俺たちとヤング・ハッスルの中間に、ヤドカリ島田曰く"ナルチビ"（ナルシストのチビの略）ってヤツがいるじゃない？

——あ、坂田亘選手ですね（笑）。

小川　あいつはヤング・ハッスルの手本となって引っ張っていってもらわなきゃいけないんだけど、あいつもまだハッスルしきれてないんだよ。そこで俺がキャプテンとして、坂田にいいキャラを考えたというわけだ！

——ほう、どんなキャラですか？

小川　"アホの坂田"!!（キッパリ）。

——ダハハハハハ！

"超大物X"招聘のためにアメリカまで"ハリウッドスター"に会いにいくよ

小川　どう？

——どうって、ベタ過ぎますよ！（笑）。

小川　でも、あいつがアホの坂田をやったら、絶対にひと皮剥けると思うよ。

——あの坂田亘が、金太郎の恰好して、ピンクレディーの「ＵＦＯ！」ばりに「アッホー！」ってポーズとるわけですか（笑）。

小川　そう（笑）。坂田のために俺もいろいろ考えたんだけど、行き着いたところが"アホの坂田"だったんだよね。

——考えに考え抜いた結論が"アホの坂田"（笑）。

小川　やっぱりそこまで行かないとさ、若いヤツらが「ボクはそこまでできません」とか言い出すじゃない。そんなときは「坂田を見ろ！　あのナルシストだって、アホの恰好してるんだぞ！」って言ったら説得力あるでしょ？

——それは説得力バツグンです（笑）。

小川　そこまでやってこそハッスルだよ。坂田があの『アホの坂田』の音楽で入場してくるところ想像するだけで素晴らしい！（笑）。とにかくあのナルシストが早くアホの坂田への進化してくれることを願いたいよ。

——う～ん。アホらしいけど、考えようによっては深いテーマですね（笑）。ところでテーマといえば、『ハッスル５』のテーマは？

小川　髙田総統をどこまでリングに近づけられるかだね。総統の野郎はリングに来ようともしないから。葉巻くわえて長いトークで誤魔化そうとしてるから。総統はレスラーなのかどうなのかわからないけど、そろそろリングに近づけないと、誰も突っ込めないんだから、1年中でもしゃべってるようになるから。それは困るんだよ。俺もトラップ仕掛けるから。次は試合に出られ





Naoya Ogawa

ますます舌好調の高田総統。映像まで駆使して、その言葉の鉄槌はとどまることを知らないが、『ハッスル5』はついにリングを占拠するのか？

ない代わりにワナを仕掛けまくりますよ。

——総統がワナにハマるところは見たいですね～（笑）。

小川 そのためにはモンスター軍を蹴散らさなきゃいけないんだけど、な～んか手下が増えてるんだよな。なんだよ、あのアン・ジョー司令長官ってヤツは。アイツも調子に乗りやがってな。

——実にイキイキして見えますね（笑）。

小川 水を得たなんとやらってヤツだよな。「あなた、WHOネ！」とか「東北のド・カントリー」とかふざけた言葉ばっかし使いやがって。それで、いつの間にかナンバー2だからね。あれにナンバー2をやらせてるヤドカリもだらしないね。おまけに試合まで出されちゃってさ。

——ヤドカリは昨日は、もう少し痛めつけたほうが良かったって声もありますけどね。

小川 でも、ヤドカリもある意味たいしたもんだよ。後楽園ホールの目の肥えたファンの前でデビュー戦。しかもメインだからね。厳密に言えば、モンスター軍では高田総統がメインだけど（笑）。

——そのメインは譲りませんよね（笑）。

小川 『ハッスル・ハウス』を報道してる今日の日刊スポーツなんか面白いよ。裏一面ででっかく俺と高田総統の写真が出てるんだけど、「2人とも試合してねーじゃねーか」って自分で突っ込んじゃってたよ（笑）。ようやく日刊スポーツもわかってきたね。

『ハッスル5』のテーマは総統の野郎をどこまでリングに近づけられるかだね

——素晴らしいスポーツ報道です（笑）。

小川 ようやく彼らもハッスルの記事の書き方がわかってきたね。

——でも、それに引き換えプロレス界は大変ですよ。8月はオリンピックのあおりを食って、ほとんどスポーツ紙に載らないで、オリンピックが終わったら終わったで話題が何にもない。いまや『ハッスル』しかないんですよ。

小川 あ、そう。どうするんだろうね？ でも、週刊系のプロレス雑誌はいつまでも愛し続けてくれてるじゃない。ライオンマークと箱舟マークと日本地図マークの団体をさ。そういう風にどんなに時代が変わっても愛し続けるのはいいことなんじゃないの？ だってプロレス週刊誌って1万部ぐらい売れればいいんでしょ？

——し、知りません！

小川 違うの？ あんな編集方針だから目標1万部だと思ってたよ。プロレス週刊誌って公称何万部なの？

——公称40万部とか30万部だそうです。

小川 よ、よんじゅうまんぶ……（絶句）。「ひどいウォーターアップ（水増し）発表デース！」「300％エイプリルフールですネェ～！」って、アン・ジョー司令長官に言われちまうぞ！

——ダハハハハハ！

小川 いい加減にしろって話だよな。毎週40万人が欠かさず読んでる雑誌の割には俺の周りには一人も読んでるヤツいねぇぞ

って！
——いませんか。でも、日本は狭いようで広いですから、きっとどこかに40万人いるんですよ！
小川　どっかに隠れてんのかな。でも、40万部って言ったら、百歩譲っても1人ぐらい周りに読んでるヤツいてもいいんじゃねーか？　でも、いねーんだよな。それで公称10万部の『紙プロ』はたくさん読んでるってヤツいるからね。アベコベだよ！
——ま、ウチも「あくまで“アバウト”10万部デ～ス」って感じですけどね（笑）。
小川　ま、俺がプロレス週刊誌の心配することねぇんだよな。ひたすら俺たちは頑張っていけばいいし、『ハッスル』は『ハッスル』で、プロレスにとっての未来のあるべき姿を探っていくしかない。老舗があって新しいものがあっていいんじゃない？　でも、俺たちは古くからのファンも大事にしながら、新しいファン層開拓のためにやってるからね。
——でも、昨日の客層なんか見ても、古くからのマニアと新しいファンの両方を見事に取り込んでると思いますよ。
小川　別に内輪ウケっていうわけじゃなくて、やってる方も見てる方も面白い、それがいいんじゃないの。
——昨日は『ハッスル』の求めるところである、「パッケージとしての面白さ」という部分では、かなり完成度が高くなってきてたと思いますよ。

“ヤング・ハッスル”の手本となるべく“アホの坂田”になってもらうから！

小川　だからさ、日刊スポーツに試合じゃなくて、俺と高田総統の写真が大きく使われてることでもわかるじゃない。プロレスの見方も変わってきてるよね。記事のほうも凄かったよ。従来のプロレス報道って、「何分何秒、誰々の勝ち」とか書いてあって「『このままじゃ終わらせない』」なんて談話が載ったりしてただけじゃない。それが、スポーツ新聞に「高田総統がバルコニーから登場！」だからね（笑）。
——その影響力は馬鹿にできませんよ。さすがに公称40万部の大メジャー週刊誌と言えども、日刊スポーツの部数にはかなわないでしょうからね。
小川　そういう新聞の裏一面で『ハッスル』の試合以外の部分が大きく扱われたっていうのは、ある意味、自信にもなるよね。
——このまま行ったら、あの葉巻をくわえた21世紀の怪人が1面トップを飾る可能性もありますね。
小川　「時は来た！」って感じだね。そういう時代が間違いなく来ると思ってやってるから。『ハッスル』って、スタッフみんなが気持ちを込めて構築してるものだからさ。それが従来のプロレスってある意味、選手だけで終わっちゃって「裏方は黙ってろ」みたいなところがあったからね。やっぱり選手も裏方もみんなで頑張っていけば必ず面白いものはできる。WWEが映画作りみたいな感覚でやってるけど、なんとなくわかる気がするよね。それぞれのセクシ




9・2『ハッスルハウス　vol.2』でも、“ヤングハッスル”たちにさらなるハッスルを促すキャプテン。彼らがハジけるためには、やはり“ナルチビ”が一歩踏み出すしかないのか？（写真・上）　完全にハッスルぶりが板に付いた“K”。この日は、キャプテンに先駆けて、ダチョウ倶楽部のリーダーを呼びつけてセミファイナルあとに早くもハッスル。次回のヌンチャクを振り回すKにも期待だ！（写真・下）



Naoya Ogawa

選手、裏方、ファンが一体となって ハッスルを作り上げていきたいね

ヨンはそのセクションで全力で頑張って、ひとつのイベントを作りあげていくのがこれからのプロレスだと思うから。『ハッスル』もそこを目指して頑張っていきますよ！

——わかりました！　では、小川さん。最後にメインカットの撮影をさせてもらって終わりにしましょう……と思ったら、モーリー（UFO公式出入り禁止カメラマン）がいませんね。

小川　あいつまた写真も撮らずにサボってんの⁉

——さっきまで横にいたんですけどねぇ……。あ、いました！

【部屋の片隅で雑誌を読みふけるモーリーを発見】

小川　モーリー、お前、全然写真撮ってねーだろ！

モーリー　は、はひ！　いや、小川さん、聞いてください。インタビューカットは撮り終わったんで、話しが終わるの待ってようかなぁと……。

小川　モーリーも偉くなったもんだねぇ～。篠山（紀信）先生ばりに数カット撮って終わりか。で、さっきなに読んでたんだよ。

モーリー　べ、別に……そこにあったもんで……。

——え～とですね、『ビジュアルショック！完全悩殺・女子プロレス界の現役セクシークイーン』だそうです（笑）。

小川　エロカメラマン！　何を見てるんだよ、お前は！　仕事しろよ！

モーリー　は、はひ！　お、小川さん、ち、違うんですよ！

小川　こんなカメラマン見たことねーよ！　お前ホントに出入り禁止！　通算4度目の出入り禁止だよ！

——ダハハハハ！　というわけで、またしてもモーリーが出入り禁止になった模様をお伝えして、興奮の『新木場スーパーアリーナ（仮称）』からお別れします（笑）。ごきげんよう、さようなら！

モーリー　お、小川さん。メインカット、メインカットお願いしま～す！　はひ！

【04年9月3日／新木場スーパーアリーナ（仮称）にて収録】



自称・ハッスル宣教師
ターザン山本！

ドリームステージエンターテインメント代表取締役
榊原信行

ターザンの突撃会社訪問
ザ・売り込みトークバトル

意外や意外、会場等で会って挨拶するぐらいで、まともに話すのは今回が初めてだというターザン山本！とDSE榊原代表。今回の対談話をターザンに振ったところ「そうだ！　その時、ボクの方から榊原さんに、あるものを売り込みますよォ！　これが実現すれば凄いことになるよォォォ！」と対談前から大炎上！　一体、ターザンは榊原代表に何を売り込むつもりなのか？　その答えは次のページで明らかに。急いでページをめくれ～ッ!!

聞き手／松澤チョロ　撮影／堀江ガンツ　designed by hisa (Two Three)

ターザン　榊原さん！　今日は僕は売り込みに来たんですよォォォ！

榊原　え、売り込みですか？（笑）。僕はこの業界に入ってから、こうやってターザンさんと話をさせていただくのを楽しみにしてたんですよ。

ターザン　僕はハッキリ言ってね、プロレス・格闘技業界の天才ですよ。

榊原　僕はそう思ってますよ。いまFEGにいる谷川さんを始めとするスタッフ、『紙プロ』の山口さん。みんなターザンさんが育てたようなもんじゃないですか。

ターザン　そうですねぇ。

榊原　教え子の中でも、出来の良い悪いはあると思いますけど（笑）。

ターザン　ズバリ言いますねぇ！　みんな僕の良いところと悪いところを学ぶんですよォォォ！

榊原　反面教師の部分も含めて、ターザンさんからの影響を、直接じゃないにしろ間接的に受けて育っていったと思うんですよ。『ゴング』の金沢さんとかもそうですよね。

ターザン　彼は敵側というか、反対側にいただけに、影響受けすぎてますよねえ。

榊原　いまは悲しいかな、プロレス・格闘技界の中に、良い意味でも悪い意味でもターザンさんほどの毒があったりとか、文章にキレがあったりとか、物議を醸し出す人がいないんですよね。

ターザン　僕は、ファンとかマスコミにアジテーションして、扇動して、物議を醸す。それによって問題を提起する。是か非の論争を巻き起こす。そのことによって、みんなが学習して成長していくんですよ。

僕はハッキリ言ってね、プロレス・格闘技業界の天才ですよオオオ！



社長室に入り、榊原代表の姿を確認するやいなや「榊原さん！　今日は僕は売り込みに来たんでよォォ！」と大炎上！　ターザンが左手に握りしめた紙には『ハッスル共和国』と書かれていた……

榊原　熱を発生させて、そこに一つの議題を生むと。田原総一郎の役割みたいなもんですよ。

ターザン　（手を叩いて）それ言おうと思ったんですよォ！　だからテレ朝の『朝まで生プロレス』は僕を司会者にしなきゃおかしいんですよォォォ！

榊原　あんなのねえ、偽物ですよ。僕も呼ばれてないですし、おかしいですよ。

ターザン　榊原さんと僕が呼ばれてないなんて、八百長ですよォォ！

榊原　僕なんかもそうだし、アメリカにいるスタッフなんかも含めて、『SRS・DX』とか『ゴング』の方にもたくさん教えてもらったことがあるんですけど、でもその先にはターザンさんがいましたからね。ターザンさんが書く文章が唯一『SRS・DX』の格闘技界でのステータスを一歩押し上げてたと思うんですよ。

ターザン　それが大きな幹というか柱というか、中心軸というか、求心力になってたんですよ。

榊原　それを僕は見間違えませんでしたよ。

ターザンさんが『SRS・DX』を離れた時点で、あの雑誌はもう終わってましたよね。

ターザン　彼らは映像の方に走りましたからね。映像媒体をバックボーンとして『SRS・DX』という雑誌が絶対に必要であるということを、もっと発行人の柳沢さんと編集人の谷川さんには真面目に考えてほしかったというか。

榊原　彼らの中で唯一僕らがマネできない、館長も上井さんもマネできないことっていうのは雑誌を持ってたということなんですよね。それがアイデンティティーだったのに、それを投げ出して、柳沢さんと谷川さんはメディアに一番大事な紙媒体を捨てて映像にひれ伏しちゃったんですよね。素人がテレビ局に行ってやっても、テレビ局の人たちの方が、100倍テレビの作り方や人を操ることには長けてるわけだから。

ターザン　それがバカバカしいというか、腹が立つというか。いままでやってきた活字プロレス・活字格闘技の母体はどうなったんだと。これで失ったものは大きいですよォォ！

榊原　それをなくさずに、それがあって初めてテレビとかのメディアとも闘えるっていうか。それはテレビにもマネできないものなんですよ。彼らが体よく「インターネットの中で表現する」とか言ってたけど、まだまだそんな時代でもない中で……。

ターザン　（遮って）言ったことが一個も実現してないですもん。空手形のオンパレードですよォォ！

榊原　それは僕も同感ですね（笑）。

ターザン　……それで今日来たのはね、『ハッスル音頭』っていうのは僕が最初にアイディアしたんだってことを言いに来たんですよォォ！

榊原　そうなんですか？　聞いてないですねぇ、それは！

ターザン　そうなんですよォォ！　ここに証人がいますよ。

——あ、ボクが証人ですか（笑）。たしかに、かなり前から『ハッスル音頭』のことは言ってましたよね。

榊原　では、たまたまターザンさんが同じことを考えてたんですね。僕が「ハッスル音頭というものを作ろう」って作曲した原田君に言ったんですから。「ちょっとこんな感じでどう？」っていう話をしてたら、二日後に曲ができてきたんですよ。

ターザン　僕も『ハッスル音頭』を書いてるんですよ。「やられたあ！」

ターザンの突撃会社訪問
ザ・売り込みトークバトル

ハッスルソング！
け!!

『ハッスル共和国』

作詞　ターザン山本！（ハッスル宣教師）

ああ、こんな世の中だから
ああ、もうこんな時代だから
地震、台風、火事、水害
戦争、テロは当たり前
離婚、殺人、日常茶飯事
景気、不景気に踊らされ
天災、人災、集中砲火
みんなみんな人のせい
みんなみんな自然の猛威
みんなみんな世の中のせい
キレる若者、うつむく親父
何を信じる、何も信じられない
変革、改革はもう聞き飽きた
政治、経済、教育、宗教
古びてカビの生えまくり
ああ、こんな世の中だから
ああ、もうこんな時代だから
俺たちガマンしない、ガマンの限界
いっせい、いっせい
スリー、ツー、ワン
心に一揆
[illegible]
お前も俺も、ハッスル、ハッスル
ええじゃないか、ええじゃないか
ハッスル、ハッスル

って思って。先手必勝は世の中の常だけど、大晦日の興行だって、それをやる一年前から森下社長に「大晦日に興行をやるべきですよ!」って言ってたんですよ。闘魂百八つビンタも僕のアイディアなんですよ。全部持っていかれたんですよォォ!

榊原　そうでしたか（笑）。

ターザン　頭に来たので、今日は『ハッスル音頭』じゃなくて、『ハッスルソング』というものを持ってきたんですよ!

榊原　来年『ハッスル』でアルバムを出そうとしてるんですよ。先に言っておきますけど、次は『ハッスルサンバ』作りますからね（笑）。

ターザン　僕のはラップですよ!

榊原　では、それも入れて来年CDにすればいいじゃないですか。

ターザン　その名も『ハッスル共和国』。作詞・ターザン山本!としての肩書きはハッスル宣教師。

――もう肩書きもあるんですね（笑）。

榊原　いいですねえ（笑）。誰が歌うんですか?

ターザン　そりゃあ、小川直也ですよォォォ! でもラップだから長いんだよね。ホントはウチの弟子にパソコンで打たせようと思ったんですよ。忘れてしまい手書きになってるわけですけど、でもコレは凄くいいんですよォォ!

――全く読めませんね（笑）。

榊原　じゃあやってみましょうよ。

ターザン　いきますよォ!

『ああ、こんな世の中だから
ああ、もうこんな時代だから
地震、台風、火事、水害、
戦争、テロは当たり前
離婚、殺人、日常茶飯事
景気、不景気に踊らされ
天災、人災、集中砲火
みんなみんな人のせい
みんなみんな自然の猛威
みんなみんな世の中のせい
キレる若者、うつむく親父
何を信じる、何も信じられない
変革、革命はもう聞き飽きた
政治、経済、教育、宗教
古びたカビの生えまくり
ああ、こんな世の中だから
ああ、もうこんな時代だから』

――ま、まだ前振りでしたか（笑）。

ターザン　ここまでが前振りです。

……採用して下さいよ!（※以下、大幅に略）

榊原　面白いです（笑）。いいと思います。

ターザン　コレいいですよォ! いま一番重要なのは『ハッスル』というものを社会的イメージとして大衆に届かせ、ファンにも届かせる『ハッスル』のイメージ作りなんですね。コマーシャル業界と同じで、コンセプト作りですよ。そのために『ハッスル』とは何かということを、時代とリンクさせないと。時代がいまどんなストレスを抱えているかということを絡めながら、「だからハッスルしなくちゃいけない。自分が変革しなきゃダメだ。自分を解放しなきゃいけない。自分がアジテーションしなきゃいけない」と。『ハッスル』には核心をついた言語が必要でしょ?

榊原　非常にいいと思います。僕らがプロレスに『ハッスル』ってタイトルを付けるときも、タイトルに求心力を持たせたかったんですよ。メッセージ性を持たせたかった。

ターザン　でしょ? "プロレス"という四文字に代わる言葉が必要だっ

『ハッスル音頭』っていうのは僕が最初にアイディアしたんですよォ!



この写真は「ハッスル音頭」PV撮影時のもの。「ハッスル共和国」はこれに続けるのか?



これがターザン山本!作詞のハッスル『ハッスル共和国』ですよォォォ!!

※ラップ調でお読みください

スリー、ツー、ワン
心に一揆
心にレジスタンス
スリー、ツー、ワン
お前も俺も、ハッスル、ハッスル
ええじゃないか、ええじゃないか
ハッスル、ハッスル

オレたちみんなハッスル共和国
オレたちみんなハッスル運動体
合言葉は? ルールは?
決まっているじゃないか
最強、最強、最強の共犯関係
いっせい、いっせい
スリー、ツー、ワン
ええじゃないか、ええじゃないか
ハッスル、ハッスル
ラスト、ラスト、ラストメッセージ
俺たちの闘い
エンドレス、エンドレス、エンドレスウォー
ああ、こんな世の中だから
ああ、こんな時代だから
お前はなるんだ
お前の名前は今日から
ハッスル戦士、ハッスル戦士
いいじゃないか、いいじゃないか
ハッスル戦士
お前が変わらなきゃ時代は動かない
いったれ、いったれハッスル戦士
やったれ、やったれハッスル戦士
いっせい、いっせい
スリー、ツー、ワン
ハッスル、ハッスル、ハッスルだあ

さらばさらばお前のトラウマ
さらばさらばお前の弱気の虫
ワンスモア、ワンスモア
心に一揆
心にレジスタンス
いっせい、いっせい
ええじゃないか、ええじゃないか
ハッスル、ハッスル

ああ、こんな世の中だから
ああ、こんな時代だから
失うものは何もなし
ゲロしろ、吐き出せ、さらけ出せ
カミング、カミング、カミングアウトだ
さらばさらばしょっぱい世の中
さらばさらばしょっぱい自分
解放、解放、全面解放
居直り、居直り、全面居直り
抵抗、抵抗、全面抵抗
NG、NG、全面NG
だ・ま・さ・れ・る・な・よ
な・め・ら・れ・る・な・よ
ためらうなよ
いっせい、いっせい
スリー、ツー、ワン
ええじゃないか、ええじゃないか
ハッスル、ハッスル
いつ、なん時、どこでも
エニタイム、エニウエア、エブリシング

たわけですよ。プロレスという四文字は、残念ながら時代の中で古びてしまったというか、要するに錆びてしまったというか。新しい言語として『ハッスル』が出てきたんですよ。その意味付けというか概念付けをしなくちゃいけない。それがココにあるんですよ。お願いだから採用して下さいよォ！

榊原　これは預かって、ラップ調になるかどうなるかわかりませんが……（笑）。

ターザン　もしラップにならなくても、ひとつのハッスル憲章みたいな感じで、プリントして会場で配るとかさぁ。まずは『紙プロ』の誌面にドカンと載せますよ！

——また勝手に決めますね（笑）。

榊原　いいと思いますよ（笑）。そういうとこから始めて、曲も考えてっていう感じで。『ハッスル』のアルバムに採用できると思いますよ。

ターザン　（パチパチと拍手）いまの世の中は情報社会なので、言葉のイメージで人々は動くんですよ。女性誌みたらわかるじゃないですか。あの手この手で。女性誌のような作戦で、プロレス・格闘技もイメージを売っていかないといけないんですね。

榊原　いまの時代が求めてるのは、映画も音楽もドラマも、例えば『冬のソナタ』とか『セカチュー』にしてもそうだし、泥臭いものの方がいいんですよ。プロレスも格闘技も。

ターザン　コレは真実ですよ。

榊原　小川直也が泥臭さとかカッコ悪さとか、そういった素の姿をさらけ出したときの潔さみたいな部分が、いまの時代に受けてることのような気がしますね。

ターザン　ということは、現代人にはある意味全員、潜在的なトラウマがあって、みんなが悩んで引きこもってるんですよ。

榊原　みんなそうですよね。

ターザン　それをさらけ出せない、カミングアウトできない苦しさがあるので「そこでお前、カミングアウトしたら変われるんだよ」っていうことが『ハッスル』なんですよ！

榊原　若者もそうなんだけど、特に中高年の40~50歳代に届いて欲しいんですよ。最近の死因の一番は自殺だったりするじゃないですか。特に男性なんてそうなんですけど、最近も僕が過去にいた会社の上司だった人が首を吊ってしまったんですよ。小さなことに悩んだりせず、強く生きていくキッカケを『ハッスル』から発信したいですね。

ターザン　先進国で一番自殺が多いのは、いまや日本なんて見方もあるんですよ。

榊原　ガンで死ぬより自殺で死ぬ人の方が多いらしいですね。でも、ビートたけしさんが「生まれるのは選べないけど、死ぬことは自分の意志で選べる」と。どうやって死ぬ瞬間を完璧な環境で死んでいけるか、これがひょっとしたら、人間の究極の命題なのかもしれません。

ターザン　武士道とまではいかなくてもいいけど、僕はとにかく生き長らえる。生き長らえて何かすることがテーマだから。

榊原　それをテーマと掲げて自分の信条として生きていける人はいいんですけども、特に病的なものになってしまった人たちは、いつも死に場を探して生きてるんですよね。だから鬱病の人たちは常にカバンの中にナイフとか入れて、死に場を探してるらしいんですよね。

ターザン　いま心に形のない遺書を持ってる人は非常に多いんですよ。書いてはないけど。もの凄く多いですよ！　変な話だけど、キャバクラに行ったって、みんな心の悩みを抱えて働いてますよ。失恋とか借金とか両親の離婚とか、恋人に殴られたとか、虐待があったとか、そんなことばっかりですよ。そういった意味でも彼ら彼女たちに、あるいは中高年、団塊の世代、高齢者の何かを解放させるために、生き長らえる術を教えるというか、ヒントにしていくというか。これは重要ですよォォ！

榊原　『PRIDE』もそうですけど『ハッスル』も、もちろん新日本プロレスさんもK—1さんもそうですけど、エンターテインメントである以上、見る側に何か感動を与えるとか、明日の生きる活力を与えるとか、逆にムチャクチャ悲しい思いをさせるとか、狙いを持って仕掛けをしていかないと、ただ単に試合を組んでやってるだけではダメだと思うんです。だから『ハッスル』には、いまターザンさんが言ったようなメッセージを込めた場にして、みんなが会場に来たら、明日生きる喜びとか活力とか、「自分よりこんなバカな奴っているんだな」っていうことでもいいんで、それを感じてもらって元気になってもらいたいんですよ。

ターザン　ハッキリ言って、いまの日本の社会はアメリカよりも深刻で、精神的なカウンセラーが必要な状況ですよ。その精神的カウンセラーはそこらじゅうにいるわけですよ。それの受け皿として考えたとき、プロレスと格闘技にとって、こんな莫大なマーケットはないですよ！　カウンセリングが必要な人が「みんな『ハッスル』に行こう、みんな『PRIDE』に行こうよ。プロレス行こうよ」って。そう思いません？

榊原　そうですねぇ。

ターザン　オリンピックは4年に1回しかないんですよ。あれは世間の象徴だから、ひとつの競技とか祭りとしての形だから継続性がないですよ。基層社会に根ざした人たちの心を解放する意味では、プロレス・格闘技はマーケットとして凄いですよ。

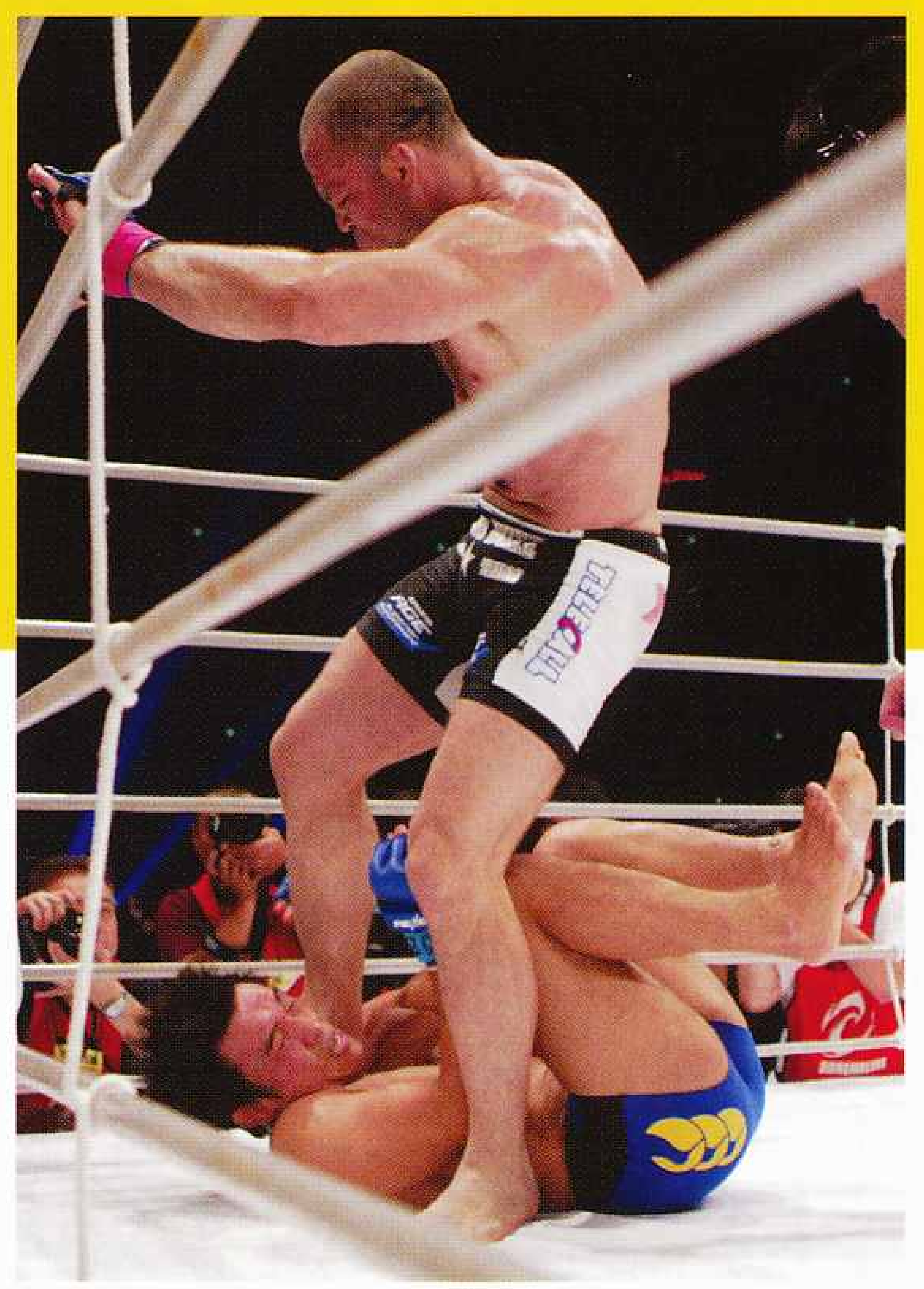
榊原　日常にあるスポーツもそうなのかも知れませんけど、プロレスにはもっと自分たちのメッセージを思いっ切り込められるわけですよ。やっぱり野球は正々堂々とスポーツライクにせざるを得ない。

ターザン　スポーツの価値観は健康的で明るく正義感に溢れた、身体にいいスポーツマンシップなんですよ。人間が一番望んでるのは、（急に声をひそめて）実はダーティーな人間ドラマなんですよォォ。

榊原　そうですね。

ターザン　あるいは失敗とか挫折ね。浜口京子ちゃんが銅メダルになった。青タン作ってもそれでも彼女はテレビのカメラの前にそのままの姿で出る。井上康生は予選で負ける。金メダリストのドーピングで、銀から金に繰り上がった室伏。人間のやって

人間が一番望んでるのは実はダーティーな人間ドラマですよォ！（ターザン）



ターザンの突撃会社訪問

ザ・売り込みトークバトル

ることは全部泥臭いですよォ！　その方が心に残るじゃないですか。オリンピックの閉会式で目立ってたのは京子ちゃんと井上康生ですよ。完全にで負けた2人ですよ。

榊原　そこにプロレスや格闘技が目指すべきテーマのヒントみたいなものがあるんですけどね。

ターザン　あるでしょう？

榊原　だから僕は間接的だけども、ターザンさんがやってきたことから学んできたことって多いんですよ。

ターザン　『週刊プロレス』がなぜあれだけ売れたかって言ったら、読んでた人がそこに青春を感じたというか、人間ドラマを感じたというか、その琴線に触れたんですよね。彼らはそこに青春の運動体を感じたというか、ドラマを表現して広めていかなきゃいけないよねえ。違います？

榊原　ホントにそうですね。何かキチッとした目的と理念を掲げて、それに対して戦術とか戦略を持って進めていくかということを考えていかなきゃいけませんよね。

ターザン　一番重要なのは戦術・戦略というものがありますけども、柳沢さんや谷川さんとかは戦術・戦略には長けてるんだけども、欠けているものが一つあるんですよ。それは哲学ですよ！　いかに生きるか、いかに死ぬか、そしていかに遊ぶかっていう。宮本武蔵が最後は禅の境地みたいなものに辿り着くじゃないですか。あるいは沢庵和尚がいたりするでしょう。日本って全部が〝剣の道〟みたいじゃないですか。剣という闘いと〝道〟というものを合体させる。〝道〟は要するに哲学なんですよ。柳生の考え方もすべて精神性にいくじゃないですか。アレが重要ですよね。

榊原　そうですよね。でもまだ、そこまで深く理論づけたりせずに、何となくフワッと。猪木さんとかは自分で考えてやったんですかね？

ターザン　猪木さんは勘ですよ！　勘と本能と皮膚感覚ですめてるいんですよ。石井館長もそう。でもそれを自分で体系付けて継続的にするところまでいかないという、そういうものがあるんですよ。だから最後は破綻しやすいんですよォォ！　凄いアイディアを持ってるんだけども、責任をとれずに行き当たりばったりですもん。

榊原　それがひとつの時代を間違いなく創ったんですよね。

ターザン　8月15日の『PRIDE・GP決勝戦』で一番何が凄かったかって、観客の巨大な熱ですよ！　あんなのねえ、見たことないですよォォ！　あの闘いに、勝負論と人間ドラマと、さまざまなものが複雑に絡みながら人々の心を動かしたというか、インパクトを与えちゃったんですよねえ。アレが我々にしてみたら、かつての新日本の蔵前国技館の最終戦ということなんですよォ！

榊原　同じですね。

ターザン　全く同じですよォォ！

榊原　まさに温故知新じゃないですけども、昔をそのまま現代に甦らせてるだけなんですよ。それだけです。もう猪木さんの試合を観て、ホントにハラハラドキドキしていた。それと同じ魅力とか、熱がいまの『PRIDE』にはあるんですよね。

ターザン　ありますねぇ。

榊原　でも、ある部分『PRIDE』で完結してしまってるんですね。また次のものが出てくるかもしれないですけど、当面は同じことを被せても無意味なんで。だから『ハッスル』というものはまったく違った世界観の中で、対極としてやっていきたいなって思ってるんですよ。



どこかで、ファンをいい意味で裏切っていかなきゃいけない（榊原）

ターザン　鏡で二つのものを見たら左右対称なんだけど、まったく別個なんだね。ハッキリ言って『PRIDE』と『ハッスル』は。光と陰みたいに全然違うもんだね。でも合わしたら重ね合わさるというか、ピタリとはまるというかね。でも今回のGPは小川さんがMVPだよね。

榊原　ホントそうですよね。

ターザン　小川さんが一歩踏み出した原因が『ハッスル』だったという、非常にパラドックスというか、何とも言えない気分ですよね。もし『ハッスル』がなかったら、こうはなってないわけですよ。『ハッスル』というものがキッカケになって、小川さんはジャンプしたんですよね。ホント世の中ってわかんないなあって。『PRIDE』と『ハッスル』が結びつくという、関連性ないように見えて関連性があったんですよォ！

榊原　ありましたねえ。

ターザン　でも榊原さん、普通だったらノゲイラvs小川選手でしょう？　アレは意外だったねえ。

榊原　ターザンさんが誰かに言ったのか、それを間接的に聞いて学習したりして来たんですけど、どこかでファンをいい意味で裏切っていかなきゃいけないし、大前提として、あの日の準決勝のカードはどう組まれてもファンは一定の満足はしてくれる状況だったんです。だから違うことになることで、みんなが「エッ⁉」って思ったり、熱が生まれたりするしてるわけだから。

ターザン　そういうのは恋愛と一緒だよね。ある部分で駆け引きというか、ちょっとつれなくするとか。追っかけて行くと逃げる、追っかけないと、相手がこっちに向かってくるみたいな、ファンとの駆け引きってあるよね。これって微妙なとこなんですよねぇ！

榊原　自分から押し売りしていっても売れないですからね。

ターザン　でも格闘技だから、どういう組み合わせになるのか、そういった意味では他力本願っていうところもあって、それと自力を噛み合わせていくわけだからたまらないよ。これはプロレスより面白いですよォ！

榊原　毎回ギャンブルしてるようなもんですからねぇ。

ターザン　メチャクチャ高いリスクのあるギャンブルですよ、コレ。だってコントロールできないですもん！

榊原　もし開幕戦で小川が負けて、ミルコもヒョードルもノゲイラも負けたらどうなるのかなって、いろいろ考えてましたから。開幕戦の次も、たまアリをスタジアムバージョンで押さえてたもんですから、どうなっちゃうのかなって思ってました。

ターザン　『夢の架け橋』のとき思



ってたのは、最後に腹くくったんですよ。僕はマッチメイクに参加してないんですよ。カードは各13団体にまかせたんですよ。だから全部下駄を預けてるから、すべて他力本願で、最後は祈りですよホンマに。親鸞の心境ですよォォ！

榊原　だけど『PRIDE』はホントに他力本願型ですよ。格闘技は特にそうですよね。

ターザン　でもそこまで完璧に創り込んでいくところは自力でしょ？　その創り込みを完璧にしないと、いい他力本願が生まれないですよ。ここが重要。いい仕込みをする、いい創り込みを最大限にする。ハードを最大限に仕切る。あとソフトであるリング内のことは他力本願で下駄を預けるという。この兼ね合いだよね！

GP決勝戦は観客が素の小川直也を引きずり出しましたね（榊原）

榊原　ここまでやってきた中で、なるべくリングの中に、どれだけの意志や想いをどう反映させるかは、選手に対する洗脳しかないわけですよ。何が求められてるのか、何をしなくちゃいけないのかっていうところですよね。これは長い歴史の中で、アメリカ人にもブラジル人にも相当突っ込みましたから、いい意味で選手の中でリーダーシップを持って、『PRIDE』のリングではどういう闘いをすればいいのか。どう闘えばお客が喜んで、プロモーターが評価してくれるのか」っていうのを伝承してこれてきてるんですよ。

ターザン　映画だって主演女優とか助演とか脇役とかいろいろあるんだから、それを理解しろと言いたいんだよね。ポジショニングがどこにあるのかということを。

榊原　それが理解できてると、働く場所は常にあるわけですよ。だから日本人がみんな「俺も桜庭になろう」とか、外国人も「俺もヒーローになろう。日本のファンに愛されよう」とか思うと間違えるわけです。

ターザン　その中で努力型の輝き方をしているノゲイラって、ホントに凄い男ですねえ。僕は花道を走ってきたときに、最高の男だって思いましたよ。『PRIDE』のリングで花道を走って登場するなんて、猪木さんを超えたかと思いましたよ。猪木さんがわざと足引きずってリングに行ったことがあったんですけどね、あの日のノゲイラを観たら、優勝するって思いましたよ、あの瞬間に。それとヒョードルの、いつ何時でもクールで微動だにしない男。凄いキャラを持ってますね、榊原さん！

榊原　僕が持ってるっていうわけじゃないですよ（笑）。

ターザン　みんな凄い玉ですよ！　プロレスラーってキャラクターが多いし、いろいろギミックはあるんだけど、格闘技の中でノゲイラとヒョードルの存在感が、飛び抜けて自然体で成立してるっていうことは、もの凄いですよ。昔のエリックとかブルーザーに匹敵するキャラですよォ。

榊原　ひとりだけではどうにもならないっていうか、ノゲイラがノゲイラとして他の大会に出たりとか、他で試合をしても、ああいう熱とか動員にはつながらないんで。いまはいい感じで闘う場所と選手が上手くリンクして、総合的な魅力を世の中に打ち出せてるとは思うんですよね。常にノゲイラとかヒョードルじゃなくていいんで、そこに強い想いを持って、すべてを賭けて闘う選手がドンドン出てくればいいですよね。

ターザン　榊原さんは最後にあんな結果になったときに、どういう心境になりました？　あれを観るとホントに興行って何が起こるかわかんないですよね？　わかんないことの中で、一番わかんないことが起きましたもん！　あれこそ猪木さんの舌出し事件以上のエラいことですよォ！

榊原　僕もそうだし、スタッフ全員、お客さんでもあの予想をした人はいないと思うんですよ。僕らも金メダルとトロフィーも作ったし、表彰台まで作ってるんだから（笑）。リハーサルもしたし。

ターザン　全部ダメになったときの心境ってどうでした？

榊原　ハプニングっていうのは、別に今回に限らずあるわけですよね。だから常に「どこかで何か起きるんじゃないか」っていう心の準備はあるわけですよ。

ターザン　アクシデントは1%はあるわけですよ。自分の予測を越えたこと、自分の限界を越えたこと、K点越えの出来事が起こることってあるわけですよね。

榊原　僕の立場だと、僕はどんなときもうろたえてたらダメなんですよ。何があっても「ああ、起きたの？」って、ムチャクチャ心臓がバクバクでも、一旦受けとめてあげないと周りが焦るわけですよ。「いいじゃん。起きたことは起きたんだから、これからどうするか決めようよ」っていうスタンスで、ホント小さな人間なんですけども、一応受けきる努力をするわけですよね。そうしないと「社長が慌ててる」ってなったら収拾つかないですから。

ターザン　ハッキリ言って、ああいうときこそ人って居直るもんなんですよ。

ターザンの突撃会社訪問
ザ・売り込みトークバトル

榊原　あそこで時間がかかったってよく言われるじゃないですか。時間がかかったのはお客さんがそれだけあの状況をここの中で真摯に受け止めて、さわがずに静かだったからですよ。普通だったら「バカヤロー、金返せ！」とか「早くしろ！」とかっていう声があがりますよね？　あそこで僕が一番考えたのはホイスvs吉田戦なんですよ。あの試合の後の大変さっていったらなかったですから。ホイスは僕が口説いたし、吉田君も対ホイスで話して、全部決めたわけですよ。いまでこそ言うけど、アレは完全に限りなくグレーだと思うんですよ、僕は。だけど一旦出しちゃったわけだから、万一ミスジャッジだとしても、サッカーの見えざる手でコールしたのと一緒で、変えられないわけですよ。でもグレイシーとしては、彼らの歴史を賭けて、エリオまで呼んだのに、その場で日本人にハメられたって思ってるわけですよ。

ターザン　グレイシーはいい意味でしつこいですよ。こだわりが大きいから。

榊原　アレを納めることの大変さに比べれば、まあ受けきれるかなって思いましたね。あとは選手に対して精一杯の時間と労力を使ってあげなきゃいけないと思ったんですよ。だから特にノゲイラに対しては「ルールに基づいてこうしなくちゃいけない」と。彼は闘えるわけですから、それでもリングを降りてノーコンテストを受け入れると。その場では無理でも、我々がその気持ちを理解せずに終わらせることはできない。

ターザン　あの終わり方というか、収め方っていうのは、榊原さん、日本人に救われたんだよ！

榊原　みんなに言われましたね。

ターザン　日本人の観客はある程度寛容性があるんですよ。和をもって尊しとなすみたいな。アバウトなところもあるし。外国人だったらエライことですよ。

榊原　暴動が起きたでしょうね。

ターザン　ファンが狩猟民族だったらエライことになりますよォ！　草食動物の日本人だから丸く収まったというか。悪く言ったらうやむやにするみたいな感じが出たよね。アレ、紙一重ですよ！

榊原　ホントですね。

ターザン　それまで、半年ぐらいズーッと満足感を与えられてきたからですよ。でも日本人は偉いですよ。

榊原　ホント立派です。あの日のファンの皆さんの行動には心から感謝しています。

ターザン　社長は日本人に足向けて寝れませんよォ！　8・15の『PRIDE』に来た観客は、いまの日本人の中で絶対に民意が高いですよ！

榊原　確かに。

ターザン　あの民意の高さに感謝しなきゃいけないですよ。

榊原　小川直也が負けた後でも暖かいハッスルポーズとか含めて、みんなホントに暖かかったですね。

ターザン　それでファンの人も「小川さん、負けてもハッスルやって下さい」って会場外でイベントやったんでしょう。小川さんはもともとメチャクチャ、デリケートな人だよね。一番救われたのは小川さんですよ。いままでの小川さんは衣をかぶっててさぁ、それがある意味カワイイというか、憎たらしいというか、子供っぽい衣のかぶり方をしてたわけですよォ！

榊原　いろんな意味で武装してたものを一枚ずつ剥がされたっていう感じですよね。

ターザン　まさかそれを『PRIDE』のリングで見せられるとは思わなかったですよ。

榊原　『PRIDE』のリングだったから逆に良かったのかも知れないですけども、小川直也のために創られたリングだったら、またちょっと違う展開になってましたよね。すでに出来上がっている『PRIDE』という場所の価値観に対して小川がそれを認めて出てきたっていうか、彼の場合は『ハッスル』というもののために出てきたんですけど、それにファンはしびれたんだと思いますけどね。

ターザン　予想してなかった触媒作用だもんね。驚いたなあ、アレには。久しぶりに目が覚めましたよ。まだまだプロレス・格闘技も捨てたもんじゃないなって。

榊原　アレだけの熱はどのスポーツ見たってないですよね。あんな5万人近くが声を枯らして叫んでないですから。

ターザン　あんな形でいまの日本人は本気になります？

榊原　もうお相撲も熱くなれませんよね。

ターザン　あれは年寄りが見るもんですよ。

榊原　野球もそうですし。

ターザン　野球がやれ1リーグ制だ、合併だ、ストだって言ってる時点で、もはや戦後一番繁栄したスポーツが一つの役割を終えて、終着駅みたいなところに来たんですよ。なぜかというと大リーグの方が価値観が高いからなんですよ。日本の野球界全体より、イチローや松井という個人のジャンルが上ですから。

榊原　完全にそうなってますよね。

ターザン　でも、いまフジとはいい関係にありますねぇ。フジは『PRIDE』に対してやる気満々ですよ！

榊原　紹介Vにしても『PRIDE』とか選手に何が必要かわかって作ってくれたりとか、凄くいい関係できてますね。フジに佐藤くん以下『PRIDE』の制作チームがあるんですが、自分の仕事と『PRIDE』にとびっきりの情熱と誇りを持った人たちがいてくれるんです。

ターザン　大晦日はDSEさんとフジはやる気満々でしょう！

榊原　どうですかねえ。去年、僕らとしては仕方なくああなったんですよ。

ターザン　曙vsサップが世間を大騒ぎさせたから裏番組みたいになっちゃったけど、メチャクチャ健闘しましたもんね！　アレ自信になったでしょ？

榊原　去年も今年も我々としては年末に何をもっていくかっていったら、結局いままでやってきたものの積み重ねをするべきだと思うんです。一過性のことをやってしまうと、その後の3月4月の大会に線としてつなげていくためには、選手とのコントロールを含めると、あんまり奇をてらったことってできないんですよ。それに大晦日でジリジリした勝負論を見せるよりは、『ハッスル』でやれた方が面白いと思うんですけどね、ホントは。

数年後には『ハッスルマニア』で年越しできればいいですね（笑）（榊原）

ターザン　それこそ紅白歌合戦と同じ土俵で勝負するわけですか？

榊原　そうですね。その方が僕はいいような気がするんだけどなぁ。

ターザン　じゃあ『ハッスル』は、もっと創り込まなきゃいけませんよ。

榊原　それに対してテレビ局の意向はどうなのかわかりませんけど。数年後には『ハッスルマニア』で年越しということで（笑）。

ターザン　『ハッスル』は誕生したばかりだから、長い目で見ていかなきゃいけないですよ。いまは、まだ手探り状態でしょう。

榊原　一回一回ホントそうですねえ。むずかしいですよ、本当に。でも後楽園ホールの『ハッスルハウス』なんかね、非常にいい感じになってきてると思いますから。

ターザン　あれは一番のキーワードだね。僕はもの凄く驚いたんだけど、プロレスファンの新規開拓っていうか、プロレスを知らない人たちに新しいものを訴えていくという形でスタートしてるわけですよ。ところが『ハッスルハウス』に反応してるの

は、ほとんどキャリアのある昭和のファンが一番楽しんでんだよねぇ。驚きましたよォォ！　それと新しいファンが混在してるわけですよ。ホントにアレを楽しんでるから野次を飛ばせるんですよ。あれは昔ながらのプロレスの生き残りで、プロレスをよくわかってるファンだから。『ハッスル』は何と一番濃いプロレスファンを獲得してるわけですよォ。これは最大の事件ですよォォォ！

榊原　そうですねぇ。

ターザン　その人たちは新日本育ちとか全日本育ちとかいるわけですけども、旧来のプロレスには満足できないけども、『ハッスル』を見ると、新日本とか全日本で育ってきたプロレスファンとしての何かを触発されて、あそこで面白がるとか野次を飛ばすとかいうことができるんですよ。それだけ求心力があるっていうことは可能性があるということですよォ！　ただそういう従来の濃いプロレスファンだけじゃなくて、新しいファンだけだったら、非常に闘龍門みたいに、闘龍門しか見ないファンみたいな感じの若者たちだけになるけども、年齢差もバラツキがあって。

榊原　後楽園だと、年齢層も性別もよく見えるじゃないですか。実際そうですよねぇ。

ターザン　従来のプロレスファンは髙田さんの歴史を知っていて、髙田総統を楽しんでるわけです。こういうことですよ。川田選手の四天王時代を知ってる。長州さんの維新軍時代を知ってる。それがハッスルKになったりハッスル長州になったりすると面白いんですよォォ！　ということは、『ハッスル』はプロレスファンに届いてるんですよォォ！

榊原　だけどプロレスマスコミはあまり取り上げてくれないじゃないですか（笑）。

ターザン　僕が編集長だったらエラいことになってますよォォォ！

時代の土台を創ったのはUインターとリングスですよォォォ！（ターザン）



その2つの団体がなければドームとかで大会はできませんでしたね（榊原）

榊原　『週プロ』の本多編集長に言ったんですけど、「いいも悪いも含めて、プロレスに対していろんなチャレンジをしてるわけだから、それをプロレスマスコミとして上手く取り上げて欲しい」って言ったんですよ。「無視することはないんじゃないの？」っていう感じなんですけどね。あんまり真剣に考えずにサラッと扱っちゃってるような気がして。ダメならダメで叩くべきだし、何がダメなのかっていうことをキチッと誌面で書くべきだし。

ターザン　『ハッスルハウス』は意外な成功形態を見せてるので、どうやって育てていくか。これからが新たな闘いというかテーマが見えたので、手応えは抜群にありますよ。しかも長州と川田も出てるでしょ？　だから藤波さんにも出ろって言いたいですよ。ハッスル・ドラゴンでいいんですよ！　悩んでる元社長に対して髙田総統が言うんですよ！

榊原　以前、野球で野村再生工場ってありましたけど、『ハッスル』はプロレスラーの再生工場だったりするんですよね。安生洋二なんてあんな才能があるって、みんなわかってなかったかもしれないですしね。

ターザン　帰国子女ですもん！

榊原　この前も髙田さんと話し合ったんですけど、Uインターにはどれだけの人材がいたかと。「プロレス界でも格闘技界でも活躍できる人材が揃ってたのに、それを活かし切れなかったUインターって凄いですね」って（笑）。

ターザン　それはねぇ、宮戸の頭の固さですよォォ！　いい意味でも悪い意味でも一つの方向性があったから。アレが壊れた瞬間にみんなのキャラが爆発したんですよ。高山さん、桜庭さん、安生さん。

榊原　田村選手もそうだし。みんな時代を掴んでますよ。

ターザン　だからUインターと、前田日明のリングス。この二つが化学的分解をしたことで『ハッスル』とか『PRIDE』に行ったんですよ。時代の土台を創ったのはUインター＆リングスですよ！

榊原　それは間違いないですね。

ターザン　この2つのダブルスタンダードですよ。リングスがあったからノゲイラとヒョードルがいるんだから。違います？

榊原　そうですね。『PRIDE』はそういうものがなければ、ドームとかで大会やったりはできませんでしたから。

ターザン　だからUWFがどれだけ凄いということか。

榊原　ホントそうですよ。

ターザン　でもね、〝U〟といったら断然、僕ですからねェ！

榊原　だからそれがいま形を変えて、その流れを脈々と韻を踏んでると思いますよ。

ターザン　踏んでますね。

榊原　異種格闘技もそうだしUWFもそうだし、一回その流れをキチッと踏まえて、いまの『PRIDE』があるわけですから。『PRIDE』がいまのプロレス・格闘技の歴史の突然変異では全くなくて、やってることは昔の焼き直しで、いまの時代に合うようにしてるだけですから。

ターザン　その一番の最先端に座ってるのが榊原さんですもんねぇ。

榊原　いやいや（苦笑）、スタッフが優秀なので、ここに座ってれば勝手にできていくんですよ。

ターザン　昔の戦国時代と一緒で、時代は名古屋が創るというか。谷川氏もそうだし、吉田秀彦選手もそうだし。


榊原　名古屋は多いですねぇ。

――佐伯さんも忘れないでください（笑）。

ターザン　榊原さん、今日はありがとう！　なんかメチャメチャ気が合うよねぇ。

榊原　あ、そうですか（笑）。ありがとうございます！

【9月13日／DSE事務所にて収録】



10・14大阪城ホール
『武士道・其ノ五』の
開催も迫る!

10・31『PRIDE.28』に
ハリトーノフ、ミルコ、そしてジョシュ参戦か!?

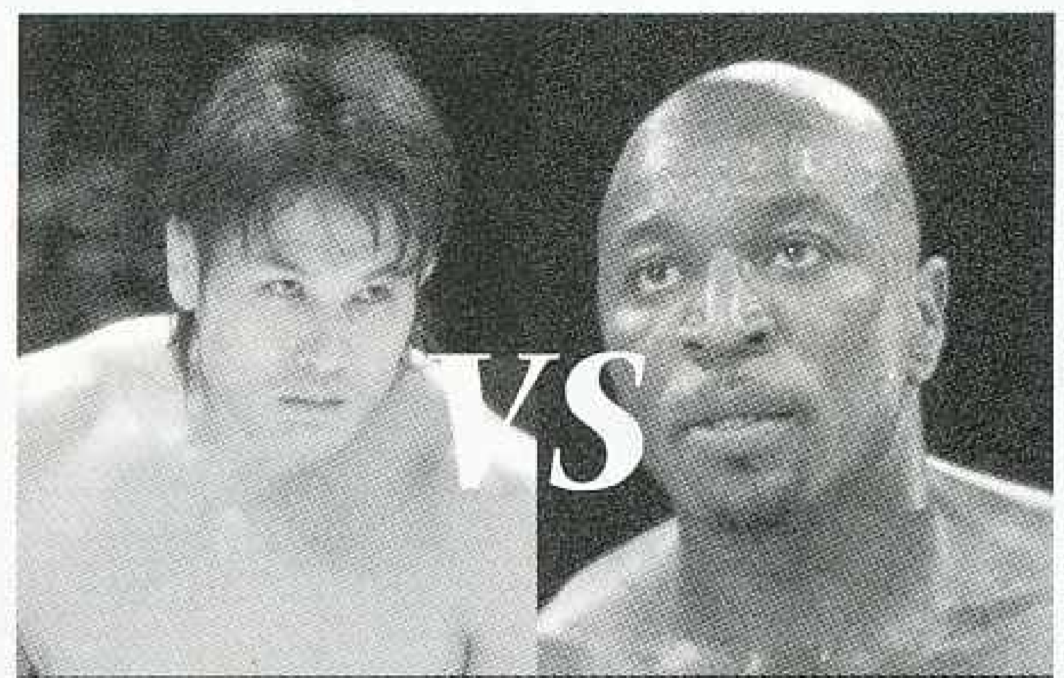
“最強”追撃戦スタート!!

10・14大阪城ホール『武士道・其ノ五』


桜井"マッハ"速人　VS　クラウスレイ・グレイシー


藤井軍鶏侍　VS　イゴール・ボブチャンチン

予想カード


美濃輪育久　VS　ベルトラン・アロモーゾ


戦闘竜　VS　ツイン・タイガー


マーク・ハント　VS　高橋義生


滑川康仁　VS　マウシリオ・ショーグン


長南亮　VS　カーロス・ニュートン

出場予定選手


五味隆典



上山龍紀

【日時】	【チケット】	【お問い合わせ】
10月14日(木) 17:00〜 【会場】 大阪城ホール	VIP席　￥50000 RRS席　￥23000 スタンドA席　￥13000 スタンドA席　￥6000	DSE 03-5464-1531

この号が書店に並ぶ18日頃には、何かしらのカード発表がされているかもしれないが、大阪で開催される『武士道・其ノ五』のラインナップは、ヘビー級から軽量級まで、幅広いものに落ち着きそうだとは関係者の見方だ。

ヘビー級では、一度はGPにエントリーしながら、ケガのため出場を断念したイゴール・ボブチャンチンが再起戦を飾る予定。そして、吉田秀彦に一本負けを喫したが、MMAデビュー戦とは思えない、そのポテンシャルの高さで関係者を唸らせた元K-1GP王者マーク・ハントも参戦予定。両者の対戦相手には、パンクラスの高橋義生、"小川の弟分"藤井軍鶏侍らが候補に挙がっている。

ミドル級では、"ニンジャの弟"マウシリロ・ショーグンvs滑川康仁のマッチメイクが予想されている。

興行的に重要となる、大会後半を飾る選手たちは、マッハ、美濃輪、五味隆典ら『武士道』常連メンバーたちになりそうだ。マッハの相手にはクラウスレイ・グレイシーが予想されている。クラウスレイはパンクラスのリングに一度だけ参戦。国奥を破っている。

美濃輪は日本人対決が候補のひとつとなっているが、1995年の柔道ヨーロッパクラブ選手権優勝者、ベルトラン・アモーゾ戦も有力視されている。アモーゾは『武士道・其ノ三』で挑戦試合に出場し、羅王を強烈な打撃でKO。組み技だけが強いファイターではない。また、長南亮vsカーロス・ニュートンの一戦はほぼ決定的とみていい。

どんなカードが組まれるせよ、『武士道』のブランドが根強く確立するためには、彼ら日本人中量級選手の活躍が大きなポイントになってくる。会場は大阪城ホール。この大会場を激しい激闘が生む熱気で包むことはできるのか? 初の"ミルコ抜き"開催となる『武士道』シリーズだけに、いよいよその真価が問われることになるだろう。

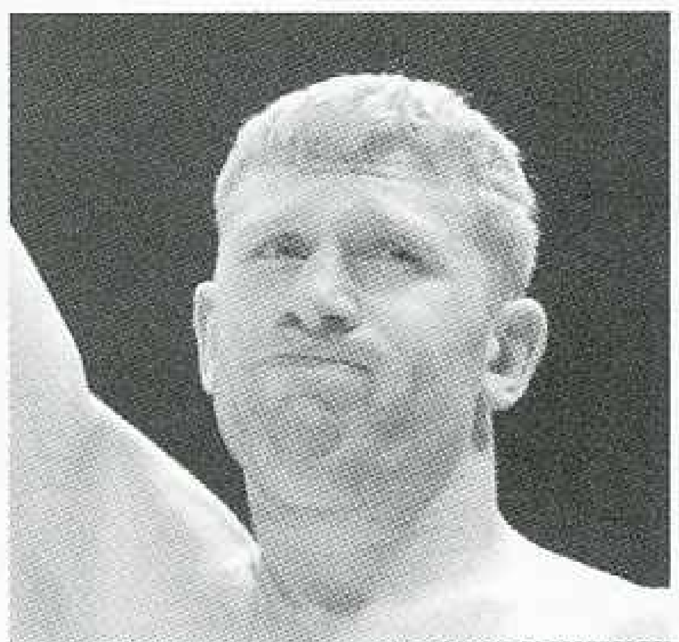
10・31さいたまスーパーアリーナ 『PRIDE.28』

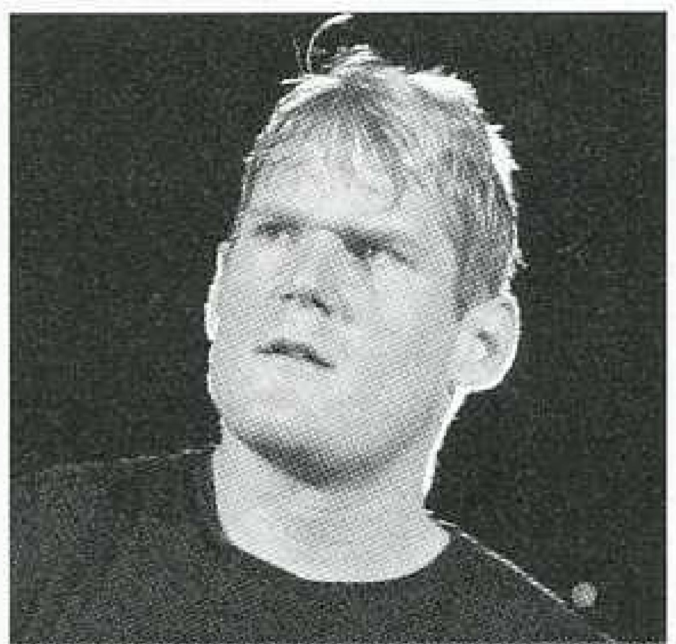
〈挑戦者〉
ランペイジ・ジャクソン

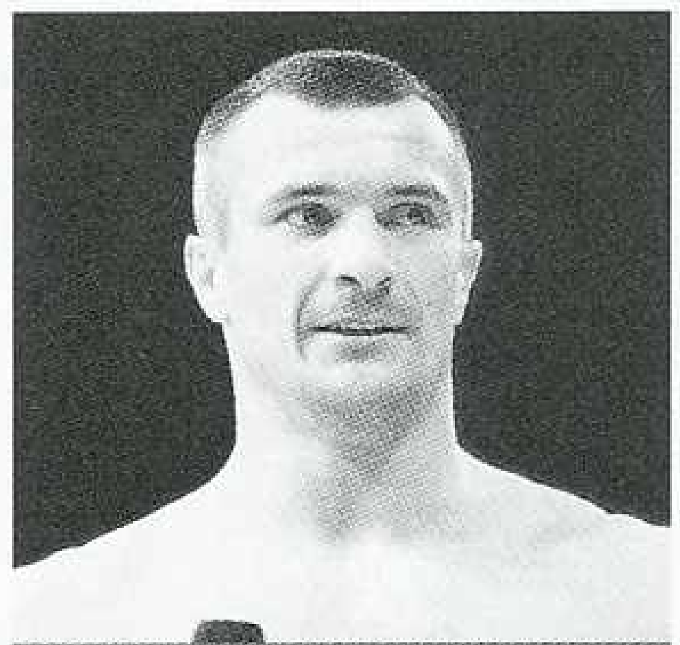


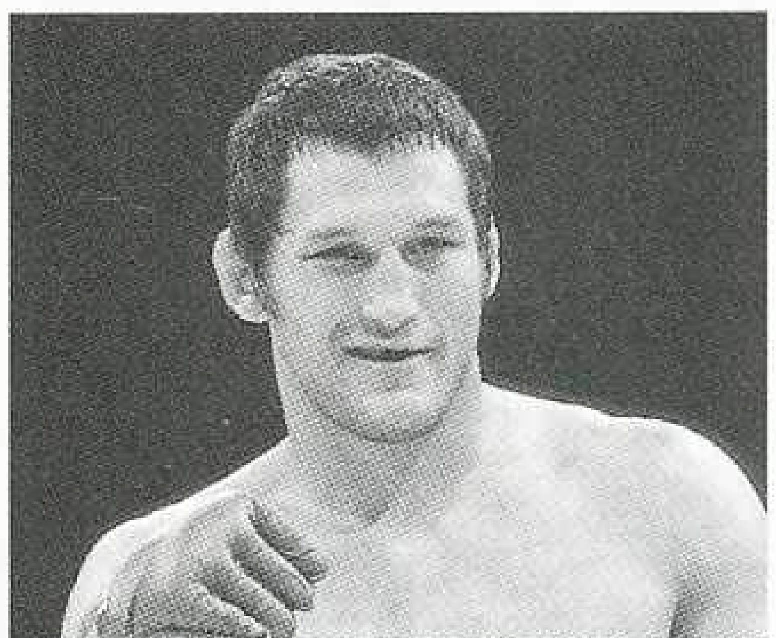
〈王者〉
ヴァンダレイ・シウバ

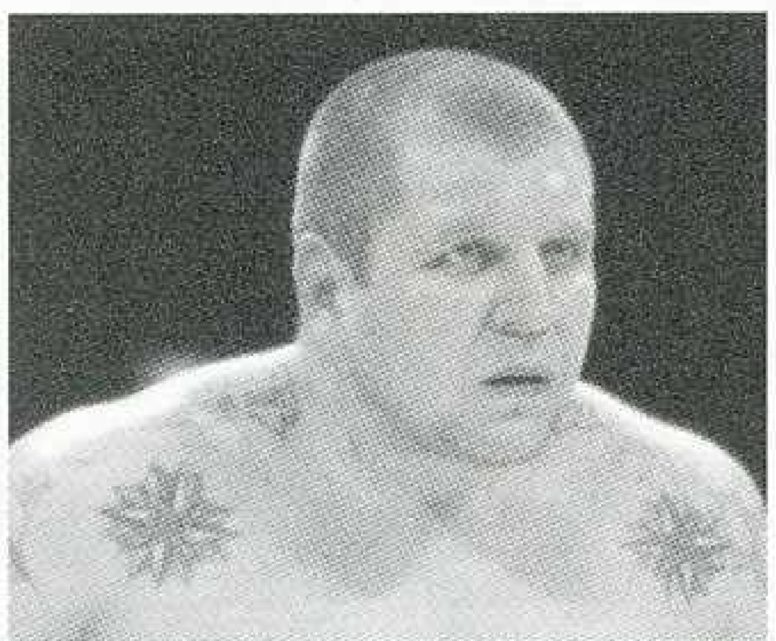

中村和裕


セルゲイ・ハリトーノフ

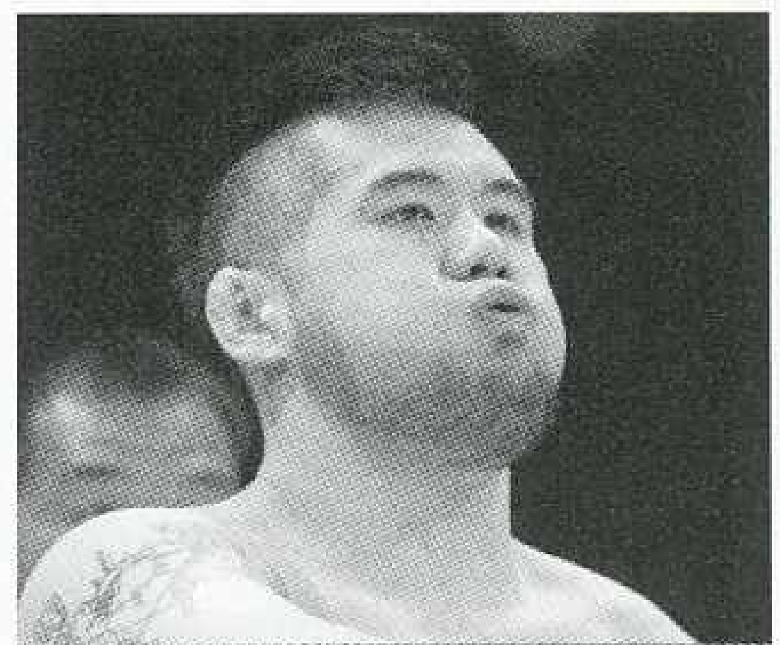

ジョシュ・バーネット

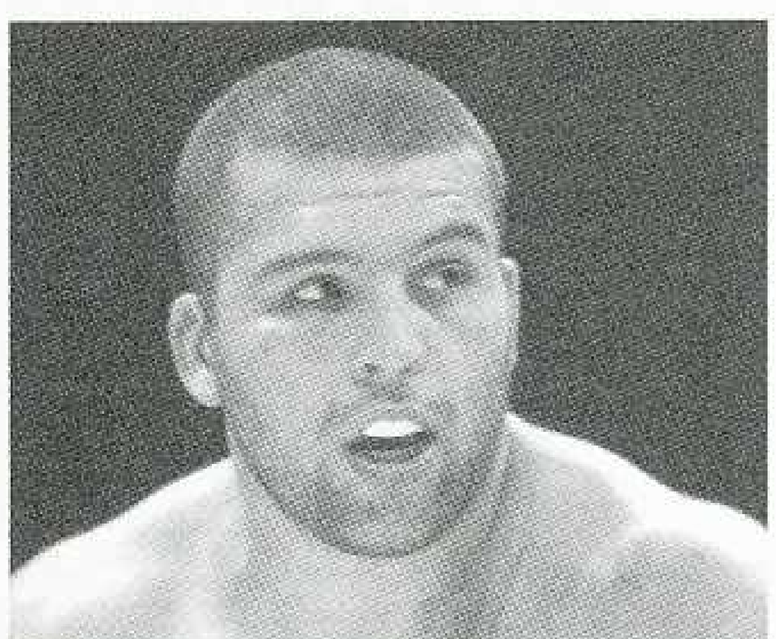

ミルコ・クロコップ

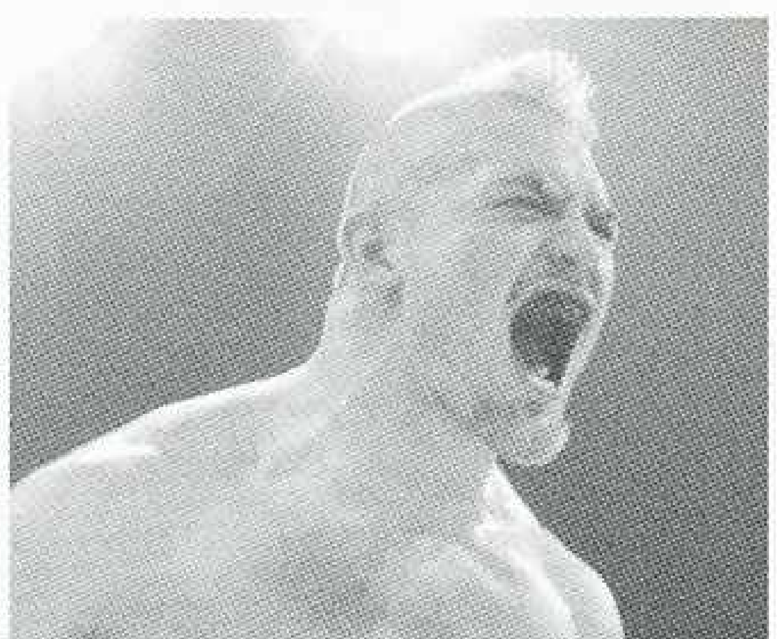

ダン・ヘンダーソン


アレキサンダー


金原弘光


横井宏考


ムリーロ・ニンジャ


ヒース・ヒーリング

【日時】
10月31日(木)
16:00～
【会場】
さいたまスーパーアリーナ


【チケット】
VIP席　￥100000
RRS席　￥30000
スタンドA席　￥17000
スタンドA席　￥7000

【お問い合わせ】
DSE 03-5464-1531

〝あの男〟がついに『PRIDE』のリングに参戦する可能性が高まってきた。〝あの男〟とは、元UFC王者にして、現・無差別級キング・オブ・パンクラシスト、ジョシュ・バーネットのことである。ジョシュと専属契約を結んでいる新日本プロレス側は、『PRIDE』からオファーされていることを明かしている。参戦はその交渉次第となるが、一説によれば、その対戦相手にはなんとミルコ・クロコップの名前も挙がっている。〝最強〟の最前線を突っ走るヒョードルやノゲイラを打倒できる最右翼として、かねてから評価が高かったジョシュ。ヒョードルのベルトを狙い、グランプリから遠く離れて〝武士道という名の裏街道〟をひた進んでいたミルコとの一戦がもし実現すれば、これは〝最強〟追撃戦の幕開けとなるだろう。

〝最強〟を追撃する男は、この2人だけではない。あのセルゲイ・ハリトーノフの参戦もほぼ濃厚。〝元トップ3〟ヒーリング、〝怪物君〟横井宏考らの登場も噂されている。まさかのアクシデント勃発により、決着をみなかったグランプリだが、ノゲイラもヒョードルも傷が癒えぬため、早期復帰は困難と見る向きもある。その〝空位の最強〟を狙うべく、多くの強豪選手らの参戦により、『PRIDE』ヘビー級戦線はますます混沌としていきそうな気配を十分に感じるのだ。

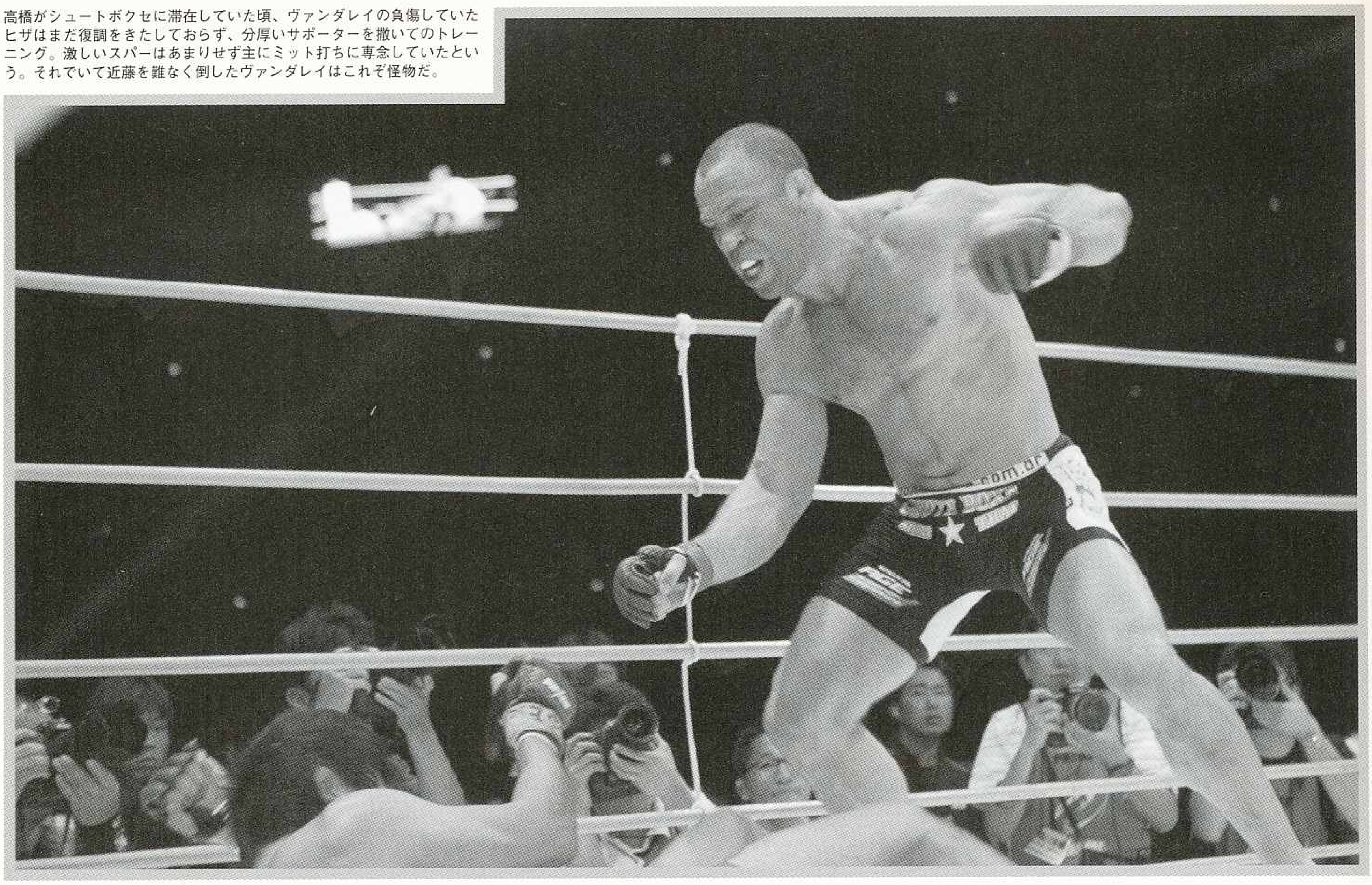
また、ミドル級バトルもにわかに活気づいている。因縁深いシウバvsジャクソンの『PRIDE』ミドル級タイトルマッチは決定済み。〝影の実力者〟ダン・ヘンダソーン、ヘビー級GPでは苦杯を喫したが、ムリーロ・ニンジャが階級を戻してのリスタート予定。ブラジルの重鎮・ブスタマンチを下した中村や、ロシアン・トップチームが自信を持って送りこむ〝ロシア・ミドル級の強豪〟セルゲイ・イグナチェフも不気味に出場を伺っている。ヘビー級もミドル級も激しいバトルが繰り広げられることは間違いなさそうなのだ。



ブラジル三ヶ月間 シュートボクセ滞在記

高橋涉［高田道場］

聞き手／橋本宗洋　構成／ジャン斉藤　撮影／松本崇　designed by Tani-Yan (Two three)



高橋がシュートボクセに滞在していた頃、ヴァンダレイの負傷していたヒザはまだ復調をきたしておらず、分厚いサポーターを撒いてのトレーニング。激しいスパーはあまりせず主にミット打ちに専念していたという。それでいて近藤を難なく倒したヴァンダレイはこれぞ怪物だ。

シュートボクセのスパーリングは相手が倒れても殴りに行くんです

ここで紹介する高橋渉は、髙田道場にとってエポックメイキングな存在になるかもしれない男である。

1984年生まれの20歳。子供時代はプロレス・格闘技に興味がなかった（オートレーサーになりたかったらしい）のだが、中学の時に『PRIDE武士道』を見て突如、格闘家を志願したという。そして高校のレスリング部の顧問が今村雄介の恩師だった縁で髙田道場の入門テストを受けると、これが一発合格。高校卒業と同時に新弟子として入門し、雑用&練習漬けの生活を送ってきた。選手としてはシュートボクシング、デモリッションに出場、『PRIDE』出場を目指し、着実にキャリアを積んでいる。

……と、ここまで書くと何の変哲もないかもしれないが、しかし高橋には他の先輩たちと決定的に違う部分がある。桜庭和志、松井大二郎はUインターで新弟子生活を送り、山本宜久はリングス出身。今村雄介にはレスリングで全国レベルの実績があった。対して高橋は、厳しい新弟子修行を行ないながらもプロレスラーではなく、といって格闘家としての高水準なバックボーンもない（柔道は経験しているが）。イチから総合格闘技を叩き込まれた〝純度100％の髙田道場生え抜き選手〟なのである。

つまり高橋の実力、高橋の活躍が、格闘技道場としての髙田道場の〝モノサシ〟になるわけで、今後の期待も責任も、非常に大きいものになるわけだ。

そんな高橋がこの夏、3カ月のブラジル修行を行った。滞在先はシュートボクセ。最初はスポーツライターの金子達仁氏とブラジルを訪問する髙田延彦総裁の付き人として行動を共にするはずが、いつの間にか試合を組まれ、さらには現地で長期修行を命じられるという意外すぎる展開。高橋はこの〝試練〟をどう受け止め、シュートボクセでどんな経験を積んできたのか。帰国した数日後、その貴重かつ壮絶なる体験を聞いてきた。

――今回、ブラジル修行を敢行してきた高橋選手ですが、最初はそんな予定じゃなかったんですよね？

高橋　はい。最初は髙田さんの付き人として、ずっと一緒に付いていくのかと思ってたんですよ。それがブラジルに行く数日前に試合の話が決まって……。

――付き人と試合じゃだいぶ違いますよね（笑）。

高橋　しかも最初は「素手でやるかもしれない」って言われて。正直驚いたんですけど……。

――でも髙田さんに言われたら「はい！」って答えるしかないですよね（笑）。で、ブラジルについて、最初は髙田さんたちと一緒にシュートボクセに行ったんですよね。

高橋　そうです。着いた日は日曜日で道場は休みだったんですけど、フジマールさん（シュートボクセ会長）が道場を開けてくれてて。ニーノ（・シェンブリ）とジャドソン・コスタ（『武士道・其の二』で五味隆典と対戦）と、あとルイス・アゼレドが来て、ボクと4人で練習しました。

――もう着いた初日に練習だったわけですね。

高橋　で、2日目に髙田さんに「そのままここで練習してろ」って言われまして。ボクは髙田さんや金子さんに付いて（ブラジリアン・）トップチームに行ったり、サッカー見に行ったりするのかなぁと思ってたんですけど……。

――いきなり置き去りで（笑）。シュートボクセの練習はどうでしたか？　激しいってことはよく聞くんですけど。



いくらVTのメッカのブラジルでも格闘家たちは貧しい生活を強いられている。"PRIDE御殿"をブッ建ってたノゲイラやヴァンダレイに続くこうと、日々鍛錬に励むハングリー精神旺盛な選手は数多い。今後もブラジリアンの猛威は振るい続けることになる。

ブラジルではバイトしても時給50円ぐらい。あのハングリーな環境は刺激になりました。

高橋　いやもう、とにかくガンガン来るんでビックリしました(笑)。しかも髙田さんが見に来てるんで、余計に……。

——みんな張り切っちゃって(笑)。

高橋　あとから聞いたら、スパーリングしたのは強い人ばっかりだったんですけど、もう激しくて前に出るのがイヤになりました(笑)。

——スパーリングって実戦形式で技術を確認するって要素があるんで、あんまり熱くなってもいけないんですよね、普通は。

高橋　普通はそうだと思います。

——ところがシュートボクセのスパーリングは違ったと。

高橋　そうですねぇ。あんなケンカみたいにやったら普通は周りに止められると思います(笑)。逆にスパーリングで殴り合いが激しくなると、周りが煽ってくるんですよ。

——ヤな練習だなぁ(笑)。

高橋　熱くなってるのがいると、周りが練習の手を休めて「いけいけ！」って(笑)。そのままKOされて、真後ろにひっくり返ってる人もいましたね。殴る方も殴る方で、体が一回転するぐらい思いっきりパンチを振り回してきますし。

——しかもその相手がシウバとかニンジャ、ショーグンだったりするんですよね。

高橋　その3人はやっぱり、飛び抜けて強かったですね。えらい動くんですよ。試合でも動きっぱなしで、全然休まなくて。ヴァンダレイもでっかいくせに動きは速いんですよね。いくら打たれても前に出ますし。練習ではけっこう打たれることもあるみたいなんですけど、でも絶対に下がらないですね。シュートボクセ全体がそういうスタイルが好きみたいで。

——練習はスパーリングがメインなんですか？

高橋　やっぱり多いですね。打撃の練習がとにかく多くて。

——そうなると技術を教わるっていうより、練習そのものが闘いってかんじですよね。

高橋　たとえば練習でケガするじゃないですか。そうすると痛み止めの薬を飲むんですよ。

——え？　その場で？

高橋　その場で。ボクが見た感じでは、その選手は拳が折れてたんですけど、痛み止めをとりあえず飲んで。

——ムチャクチャだ(笑)。

高橋　で、一週間後にはもう普通に練習やってるんですよ。

——一週間じゃ骨はくっついてないですよね(笑)。

高橋　そうだと思うんですよ。で、やっぱりしばらくしたらまた腫れてきて。ボクが「こんなんじゃ練習やっちゃダメだよ」って言ったんですけど「痛くなってことはもう治ってるんだ」って。

——すごい考え方ですね(笑)。

高橋　あと、スパーリングでクラクラッときたら、そこでやめるんですよ、普通は。でもシュートボクセは、そこからガーッとくるんですよ(笑)。

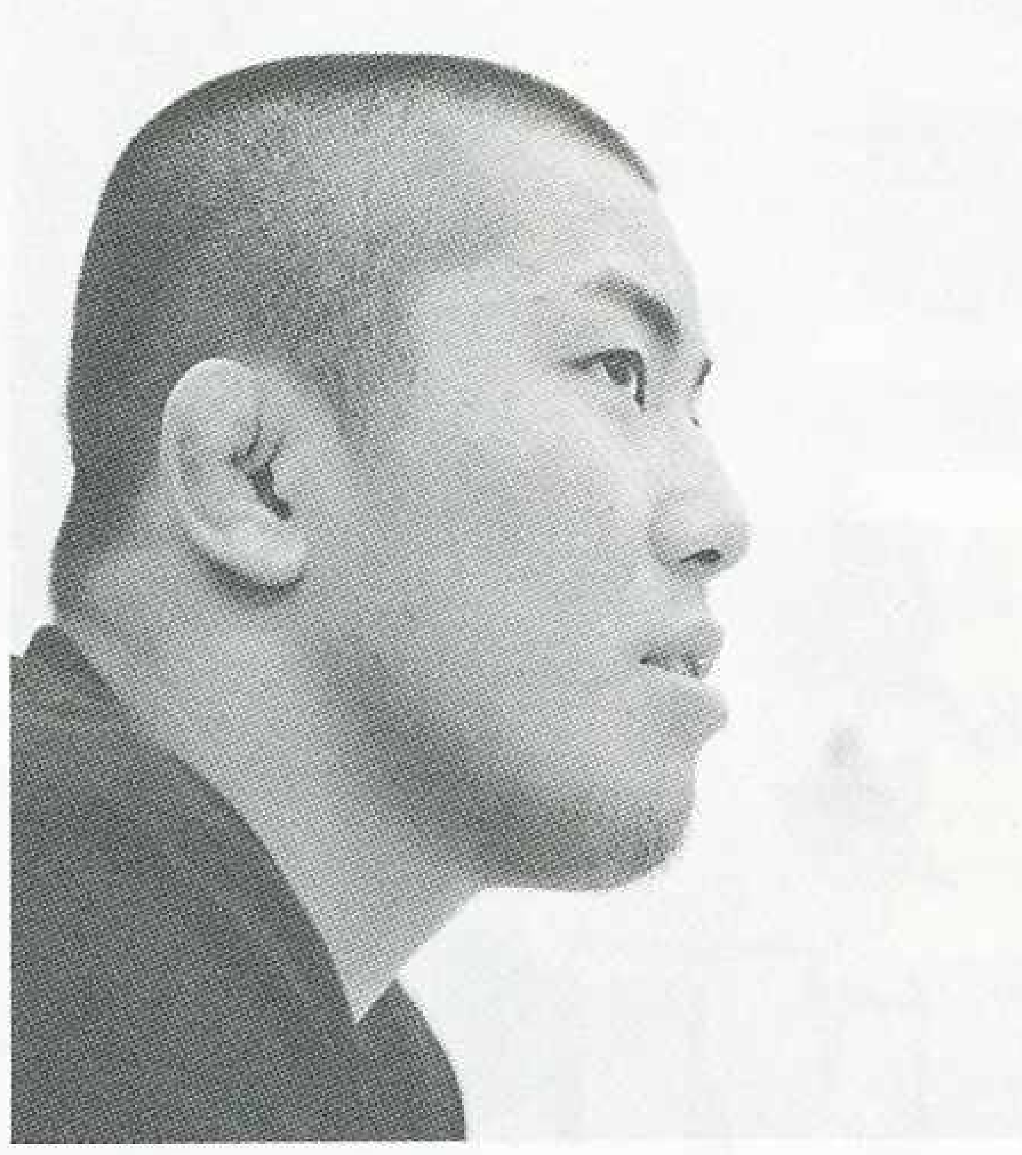
——試合だよ、それ(笑)。でもまあ、少ししたら髙田さんと一緒に別の場所に移動するんだし……と思ってたわけですよね、最初は(笑)。

高橋　はい。試合も控えてましたし(笑)。でもシュートボクセの人たちはみんな気さくで、凄くリラックスできましたね。よく話しかけてくれるし、あとみんなでご飯食べに行ったりとか。

——ずっとホテル暮らしだったんですか？

高橋　いや、道場の中に宿泊施設があるんですよ。で、その時マカコも一緒に泊まってて。彼は英語がしゃべれるんで、ポルトガル語よりはコミュニケ

ーションが取りやすかったんでいろいろ教えてくれましたね。
——で、一週間後の6月6日に試合（メッカ・ワールド・バーリ・トゥード でのエマーソン・ホディリコ戦）を迎えたわけですが。
高橋　会場がリオだったんで、シュートボクセは主催者側なんですけどアウェーなんですよ。トップチームの選手への応援が凄くて、最初はニルソン（・デ・カストロ）が出たんですけど大ブーイングで。「これは凄いとこに来たな……」と。でも、自分の試合になったらあんまり聞こえないもんで、意外に落ち着いてできました。
——試合では髙田さんもセコンドに付いてくれたんですよね。
高橋　はい。初めてですね。
——そっちのプレッシャーが大きかったとか？
高橋　いや、髙田さんの声のおかげで落ち着けました。
——相手はどんな選手だったんですか？
高橋　ボクシング出身の柔術家らしいんですけど。力が凄かったですね。オモプラッタを仕掛けたら腕力だけで返されたりとか。「これはヤバいな」と思ったんですけど、ちょうど首が空いてたんでチョークで勝てたんですけど。
——勝ったあとは「これでやっと帰れる」って感じだったんですか（笑）。
高橋　いやもう、とにかく勝てて嬉しかったですね。「やっと帰れる」っていうか、普通に帰るもんだと思ってて。帰りの飛行機のチケットも持ってましたし（笑）。
——ところが……と。ほとんどドッキリですよね（笑）。
高橋　試合が終わって、控室に戻る前に髙田さんに……。
——え？　試合直後にブラジルに残るように言われたんですか（笑）。
高橋　はい。「このまま3カ月練習していけ」「え、このままですか？」って（笑）。ホテルに荷物が置いてあったんで、それを持って髙田さんと一緒に返るつもりでいたんですけど。試合が始まったのが夜中の12時くらいで、試合が終わったその日に髙田さんたちは日本に戻って、ボクはシュートボクセの人たちとクリチバに戻って（笑）。
——寂しいなぁ、それは（笑）。
高橋　でも、よくよく考えたら嬉しいことなんで。



T a k a h a s h i W a t a r u

【たかはし・わたる】03年6月、シュートボクシングのリングでデビュー。立ち技の舞台が選ばれたのは、打撃が得意だからではなく打撃の弱さを克服するため。同行した金子達仁氏の原稿によると、初日のスパーではヴァンダレイにノックアウトされた（試合一週間前にする練習ではない！）が、フジマール会長からは「センスがいい」とお褒めの言葉を貰っている。173センチ、80キロ。20歳。

試合直後に高田さんから「このまま3カ月、ブラジルに残れ」と（笑）

——シュートボクセで3カ月練習できる機会なんてそうないですもんね。髙田さんがそれだけ期待してるってことでもあるでしょうし。
高橋　そうですね。ただそのときはそこまで考えられなかったですけど（笑）。
——試合が終わってからの生活っていうのはどうでしたか？　環境の変化に不慣れな人もいますけど。
高橋　いや、凄くリラックスできました。みんな親切でしたし、やっぱり気を使うことがないんで。
——ああ、先輩がいないですからね。なんにも気兼ねせずに練習だけしてればいいっていう。
高橋　あとジムの仕事とかもないんで。楽といえば楽でしたね。
——心臓強いなぁ。海外修行に行って気楽になったっていうのも珍しいですよ（笑）。
高橋　食あたりとかもしたんですけど、でも全然。練習は厳しいんですけど、それは慣れましたし。最初はガードが甘くて打たれてたんですけど、打たれるとホントに痛いんで、すぐガードを覚えましたね（笑）。
——まさに体で覚えるという（笑）。
高橋　やぱり理屈だけだとなかなか見に付かないのかもしれないですね。ハファエル・コルデイロっていう人が一番上の先生なんですけど、あの人はホントに強いんですよ。飛びヒザを脇腹に食らったら、試合の日までずっと痛くて（笑）。
——それじゃダメじゃないですか（笑）。でもまあ、それでガードを覚えて。
高橋　あとは気持ちの部分ですね。日本に来たことがあるジャドソン・コスタとかでも夕飯はホットドッグとかカップヌードルなんですよ。そのぐらいハングリーな環境で頑張ってる人たちの中にいたんで、刺激になりましたね。
——そういう中から、日本でチャンスを掴もうと練習しているんですから、強いのは当然ですよね。
高橋　向こうはバイトしても時給50円とか、そのぐらいらしいんで。ボクは凄い恵まれてるなと思いましたね。
——じゃあ心身ともにブラジルで鍛えられてきたって感じなんですね。
高橋　ホントにいい経験させてもらったんで、今後の試合に活かさなきゃなと思います。
——それに、髙田道場で新弟子生活を送ることで娑婆っ気を丸ごと抜かれてプロ格闘家の道を歩むのは、いまの時代では稀なシステムだと思うので、それも貴重な経験ですよね。
高橋　髙田道場も強い先輩たちばっかりなんで、他の道場の選手には負けられないなと思いますね。
——わかりました。高橋選手の今後の活躍を期待しています！

【04年9月3日／髙田道場にて収録】

I n f o m a t i o n

修行の成果は見られるか？　高橋、帰国第一戦!!
GCMコミュニケーション"DEMOLITION 040919 2周年記念大会"

■日時　9月19日（日）　開始 17:00
■場所　東京・スタジオドリームメーカー
（ゆりかもめ「台場」orりんかい線「東京テレポート」下車・メディアージュ内）
■主な対戦カード
高橋渉（高田道場）vs 村山暁洋（GUTSMAN修斗道場）
漆谷康宏（RJW/central）vs井口摂（バトラーツB-CLUB）
■チケット　S席 ¥6,000／A席¥5,000／B席¥4,000
■お問い合わせ　GCMコミュニケーション　TEL　03-3538-5801

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2004 NO.79



※コラムは来月から帰ってくるぜぇぇぇ!!

【他誌ではやらないスペシャルピンナップ】
髙田総統
ヒラヤマン・ビッグフット



谷川イベント・プロデューサー推薦企画


K-1原点回帰記念　今こそ考えよう

曙は是か非か？

いま、曙を考えることはK-1を考えることである！
いきすぎたモンスター路線の歪みからか、求心力を失い、“原点回帰”が叫ばれる昨今のK-1。しかし、なんだかんだ言って視聴率が取れるため、9・25K-1で王者ボンヤスキーの相手に決まったように、結局、曙が“主役”を張り続けている。K-1に繁栄と凋落を同時にもたらすこのモンスター。いったいK-1にとって曙は是なのか非なのか。『SRS・DX』亡きいま、『紙プロ』が徹底検証させていただきます！

構成／堀江ガンツ　designed by nogu（Two three）





谷川さんはよく解説で
「追え追え！」っていってますけど
あれは追っても
無駄です

学生相撲、空手、K-1を経験した
この男だからこそ言える

松永光弘

Mr.デンジャー流 瞬改造法!!

曙は是か非か？



曙選手を総合なんかに転向させたら今以上にブザマな姿を晒しますよ！

『紙プロ』前号が発売された直後、編集部に一本の電話がかかってきた。受話器を取ってみると、電話の主はなんと、〝ミスター・デンジャー〟松永光弘！

突然のデンジャーテレホンに何事かと聞いてみると、なんでも前号の「谷川貞治インタビュー」を読んで、曙に関して話したいことがあるとのこと。

K-1&曙とデスマッチ王のデンジャー。一見なんの接点もなさそうな組み合わせだが、実はデンジャーは学生相撲出身であり、K-1出場経験もある（もちろん有刺鉄線バット持参で）いわば曙の〝先輩〟なのだ。そんなデンジャーが語る曙改造論とはなにか？ さっそく電話があった翌日、ランチタイムが終わったころを見計らって、ステーキを焼き終えたデンジャーを直撃した！

（聞き手／堀江ガンツ）

——いや〜、ミスター・デンジャーから「曙選手について話がある」とお電話を突然いただいて、正直ビックリしてます（笑）。

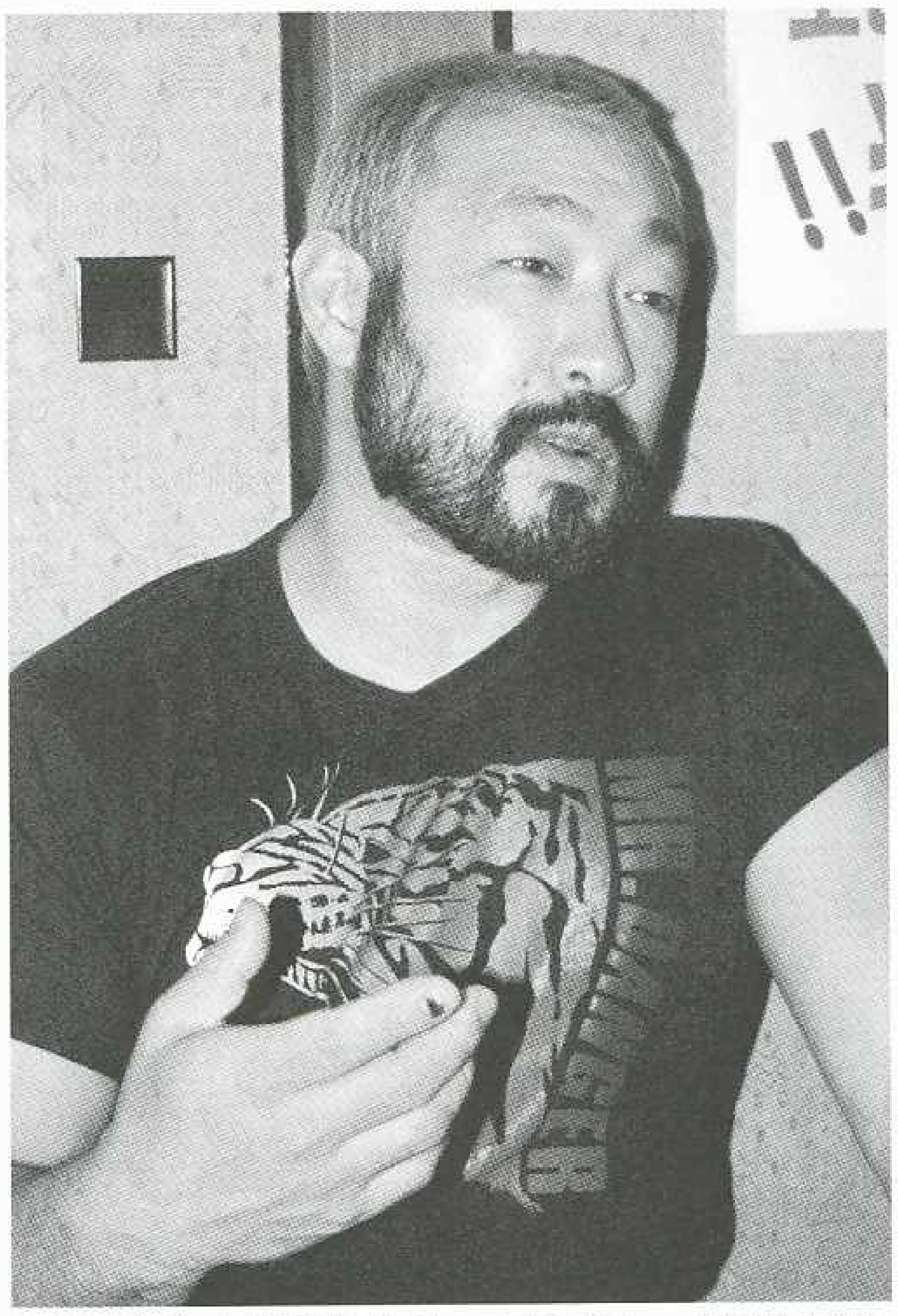
松永 実はですね、私、中学と高校の6年間学生相撲をやって、それから18歳で空手に転向してるんですよ。だから、いまの曙さんの気持ちが凄くよく分かるんです。

——自分がかつて通ってきた道だと（笑）。

松永 そうです。まぁ、相撲も空手も2流だったんで、偉そうなこと言うなって言われるかもしれないけど、実際にK-1での曙さんを見てでどうですか？ ハッキリ言って歯痒いですよね？ だから前号の『紙プロ』で谷川（貞治）さんが、「『SRS・DX』があったら『曙は是か非か』ってやりたかった」って言ってましたけど、それをいまやったらほとんどの人が〝非〟って言うと思うんですよ。

——少なくとも純K-1ファンはそう言うでしょうね。

松永 でもそれを何とか〝是〟にしなくちゃいかんわけじゃないですか。自分は相撲が好きだしK-1が好きなんで、何とかしてやりたいんですよね。



実は知る人ぞ知る理論派のデンジャー。インタビューが掲載されれば、毎回のように物議を醸し、トークの方でもデンジャーぶりをいかんなく発揮しているのだ。

——では、今日は「ミスター・デンジャー流の曙改造法」を語っていただけるわけですね？

松永 はい。自分はたかが学生相撲ですけど、最高で高校時代に全国大会でベスト8、それからエマニュエル・ヤーブロウが出てたアマ相撲世界選手権の前身の『国際相撲選手権』で3位になってるんですよ。でも大相撲の横綱と比べたら「学生相撲ごときが」っていう話ですけど、同じ相撲には変わりはないわけですから。そんな自分の経験から言わせてもらうと、相撲という競技は格闘技としてはあまりにも特殊すぎるんですよね。

——特殊ですか？

松永 自分が中学に入った頃って、垂直跳びが学年で1番で、あとリレーの選手にも選ばれたりして足も速かったんですよ。球技は苦手でしたけど、そういった陸上競技的な身体能力はあったんです。ところが、相撲を始めてからというもの、足も遅くなっていって、垂直跳びもクラスでは上の方かなっていう程度になって、一般の身体能力がどんどん落ちていくんですよ。

——相撲に関係ない運動能力がどんどん失われていくと（笑）。

松永 そう。独特の摺り足もあるし、そんなに動き回るスポーツでもないし。あと相撲って持久力が必要ないんで、そういう練習をしないからスタミナもなくなったんですよ。

——じゃあ、基本的に相撲の練習というのは、相撲以外には向かないということですか？

松永 そう言ってもいいと思いますよ。だって例えば『PRIDE』なんかでも、柔道やアマレス出身の選手は結構勝ってますけど、「なんで相撲取りってあんなに負けるんだ？」って思いません？

——それは不思議ですよね。バーリ・トゥードが世に出る前は、「大相撲最強説」が根強かったくらいなのに。

松永 でも総合で勝ったの見たことない。第1回UFCのテイラー・トゥリに始まり、ヤーブロウ、大刀光、戦闘龍、全部ダメでしたからね。強いて挙げれば安田（忠夫）さんがジェロム・レ・バンナに勝ったぐらいで。あれが相撲の勝利と言っても、安田さんはプロレスで相当シゴかれたわけですから、そのままの力士っていうわけじゃないですよね。

——その安田さんもあれ以外はレネ・ローゼに連敗とか、戦績はよくないですしね。

松永 じゃあ、何で負けるかっていうと、まず一つはスタミナがないんですよね。相撲ってスタミナがまったくと言っていいほど要求されない競技なんで。でも、他の格闘技は逆にスタミナって凄く重要視されるんですよ。だから、空手に転向したばかりのころの自分もそうでしたけど、1分ぐらいで息が上がっちゃうんですよね。

——たった1分！

松永 そんなもんですよ。1分といったら大相撲ですからね。で、スタミナが切れたら、いくら力があろうが体が大きかろうが、もうただの棒きれなんですよ。

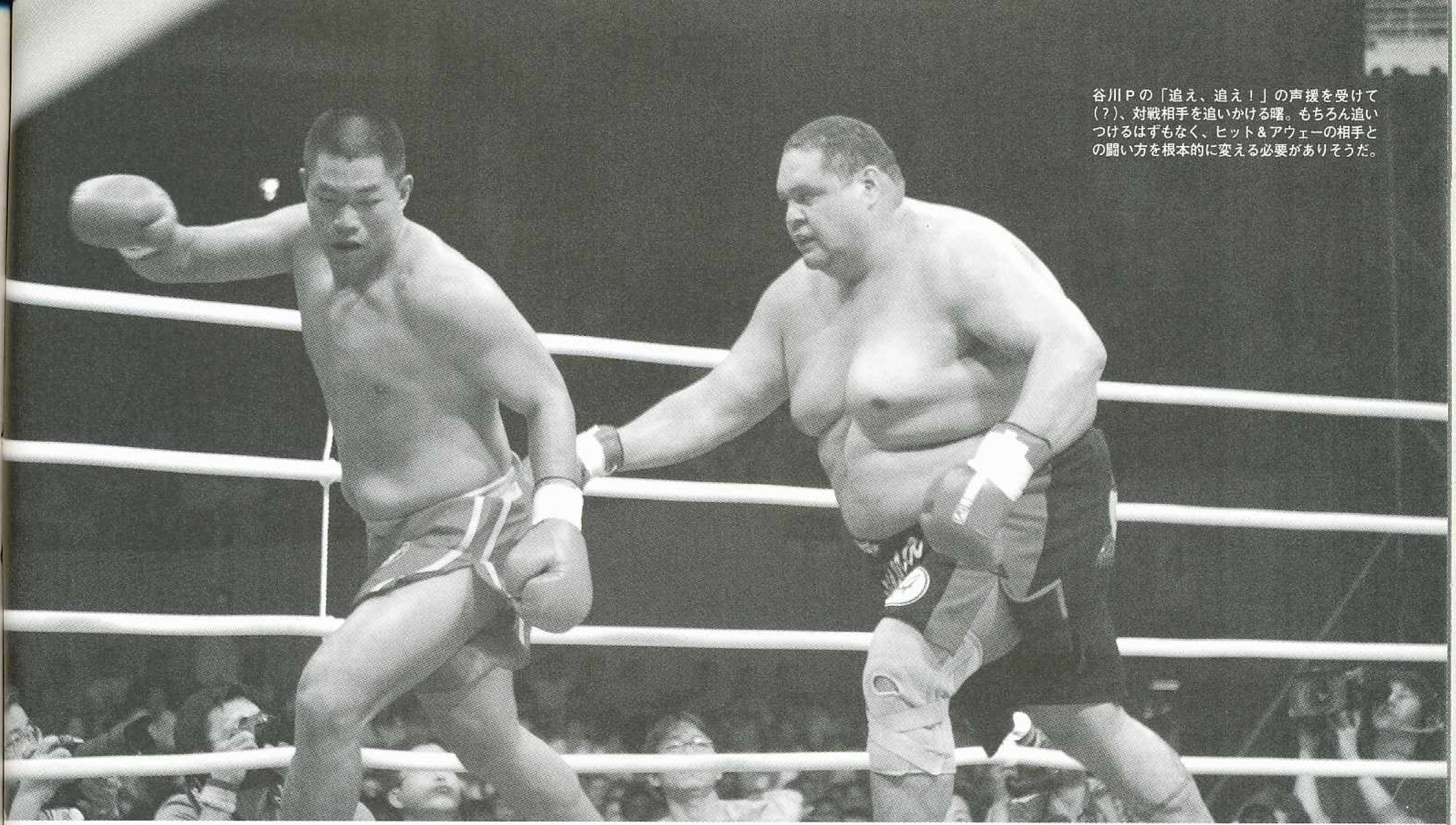
——棒きれですか（笑）。

松永 もう、殴られる、蹴られる、投げられる。されるがままですよ。自分も大道塾の選手と試合したとき、あそこは空手だけど投げアリですけど、「相撲やってたから、投げられることはない」と思ってたんですよね。ところが、スタミナが切れたら面白いように投げられましたから。

——格闘ゲームでゲージが0になったら何もできないっていう感じですね。

松永 そうです。スタミナが切れてしまえば、そんなもんなんですよ。だからそうやってみると、相撲出身者が出るバーリトゥードっていうと、最後はメッタ打ちにされちゃったり無様な姿を晒すことが多いですよね？ スタミナが切れてしまえば、あんなものなんですよ。ただの石ころです。

——石ころ（笑）。まぁ、元横綱・北尾さんなんかも5分経ったら、ひたす



谷川Pの「追え、追え！」の声援を受けて（?）、対戦相手を追いかける曙。もちろん追いつけるはずもなく、ヒット＆アウェーの相手との闘い方を根本的に変える必要がありそうだ。

わざとヒット&アウェーの選手をぶつけて、まぐれアタリで勝たせるつもりじゃないですか?

らオタービオに殴られるままになってましたからね。

松永　相撲って、スタミナ切れっていうものを経験する競技じゃないから、スタミナが切れた後、心が折れるのが早いんですよ。

――そのまま土俵わっちゃうって感じで（笑）。

松永　相撲の場合だと、スタミナ切れしたときは、相手もだいたいスタミナが切れてるんですよ。同じような人種なんで。だから自分のスタミナ切れがプレッシャーにならないんですけど、総合やK－1だと自分だけがスタミナ切れてて相手が元気だから、その瞬間「ああ、ダメだあ」って心が折れちゃうんですよ。

――じゃあ、まずは相撲出身者がK－1や『PRIDE』で勝とうと思ったら、とにかくスタミナをつけるのが最重要課題なわけですね。

松永　でも、「スタミナをつける」っていうのは、口で言うのは簡単ですけど、相撲やってた人間にとっては尋常じゃないことですよ。100～200m歩いただけで辛そうな顔してるくらいで、一般人よりスタミナないですから。3ラウンドって、とてつもなく長いですよ。

――でも、曙選手はなんだかんだ言って、フルラウンド闘い抜いてますよね？

松永　それはスタミナが切れるような闘いしてないですからですよ。ほとんど立ってるだけでしょ？

――確かにそうですね（笑）。

松永　ボブ・サップは1ラウンドから「勝つぞーッ！」って感じで、ガーッとラッシュしますよね？　だから短時間で圧勝するか、それが凌がれたら、スタミナ切れしてやられるがままになるわけですけど、曙選手の場合、スタミナがないのをわかってるから、敢えてラッシュをしないで、ひたすらカウンターを待ってるんだと思いますよ。

――ああ、なるほど。「とりあえず3ラウンド保つように闘って、その間に1発でも当たれば勝てるかも」っていう感じなんですかね。

松永　そんな感じじゃないですか。勝つとしたら、コーナーに詰めてクリンチになったときに、一回突き放してラッシュするしかないと思うんですよ。でもパンチに腰が入ってないんですよね。まあ腰が入るっていう体型じゃないですから。当たってもどれぐらい効くか疑問ですけど。

――手打ちのフックしかないですからね。

松永　谷川さんなんかも曙さんの試合の解説を聞いてると、よく「追え、追え！　行け、行け！」って言ってますよね。でも、あれっていくら追っても無駄ですよ（キッパリ）。

――え!?　無駄なんですか？（笑）。

松永　無駄です。あれは当たりません（キッパリ）。

――そんなにキッパリと……。では、谷川さんのあの解説の枠を越えた必死の声援も無駄だったんですね（笑）。

松永　はい。自分も空手のころ技巧派の選手とやったときに、同じことやりましたけど、あれは当たりませんよ。だって、そもそも考えてみて下さいよ。（フランソワ・）ボタとかですらK－1の選手にクリーンヒットのパンチを当てられないですよね。曙さんってキックがないですよね。パンチしかないっていうことはボクサーじゃないですか。それだったら元世界王者のパンチが当たらないのに、曙さんのパンチが当たるわけないですよね？

――そりゃそうですよね（笑）。

松永　当たったとしたら、ホントにラッキーパンチですよ。まぐれだとしてもまだ一回も当たってないですけど、確率的に言ったら、いくらやってもあのレベルでは無駄ですよ。まずそこから考えないとダメですよね。

――まぐれすら、巡ってくることはないと（笑）。

松永　いまのところ曙選手にはヒット&アウェイの相手を当ててますよね？

――デビュー戦のvsサップ以外は、なぜかそうですよね。

松永　何か「意地悪なカード」って言われてますけど、自分は逆だと思うんですよ。

――逆ですか？

松永　そうです。ヒット&アウェーの選手って、確かに曙さんはやりにくいと思いますけど、その反面、基本的に打撃が軽い選手が使う戦法なんで、曙

さんが倒されて無様な姿を晒す可能性は低いですよね。

――ああ、確かに。

松永　だから、ヒット＆アウェイの選手をぶつけて、まぐれ当たりで勝たせようとしてるように見えたんですよ。

――あのマッチメイクは意地悪じゃなくて、延命策だと（笑）。

松永　そういう相手なら、とりあえず倒されはしないですから。「俺は負けてない」って言わせるには、格好の相手かもしれない。だいたい「相撲取りは打たれ強い」って言われてますけど、自分の経験からすると、意外とそんなでもないですからね。

――そ、そうなんですか!?

松永　そこそこ打たれ強いとこもありますよ。でも相撲取りって腹で呼吸しますよね。腹を波打たせてゼーゼー呼吸してるじゃないですか。意外と脇腹とか鳩尾（みぞおち）とかが弱かったりするんですよ。それなのに何でいまのところ曙選手にそれが効いてないかっていうと、相手全員が軽いからですよね。だから例えばマーク・ハントやグッドリッジとかとやったら打たれ強いかどうかは分からないですよ。TOAとかガムリンとかにもやられちゃうかもしれない。TOAなんか結構、素質あると思いますからね。絶対、曙さんよりパンチ重いですよ。

――大相撲横綱がアマ相撲にKOされたら、それはヤバいですよね（笑）。

曙選手でも勝てる相手ってどんなタイプだかわかりますか？

松永　わざとヒット＆アウェイの選手をぶつけてるんだと思ったんですよ。その考えがあたってるかどうかはわからないですけど、K-1も曙さんには相当お金を使ってるだろうし。

――簡単に〝使い捨て〟するわけにもいかないでしょうね。

松永　だから谷川さんは「曙選手の総合が観たい」とか言ってるのかもしれませんね。でも、それだけは絶対にやめたほうがいい。総合なんかに出たらもっと無様な姿を晒すだけですよ！　だって歩くのが辛くて、一回倒れたら立つまでに凄く時間がかかるんですよ。そんなのボコボコにされるに決まってるじゃないですか！

――それこそ藤田vsサップ戦どころじゃなくなると（笑）。

松永　そうですよ。谷川さんは「曙さんは肩固め一本で世界を制する」なんて言ってますけど、それができるなら、ジャイアント・シルバがやってますよ！

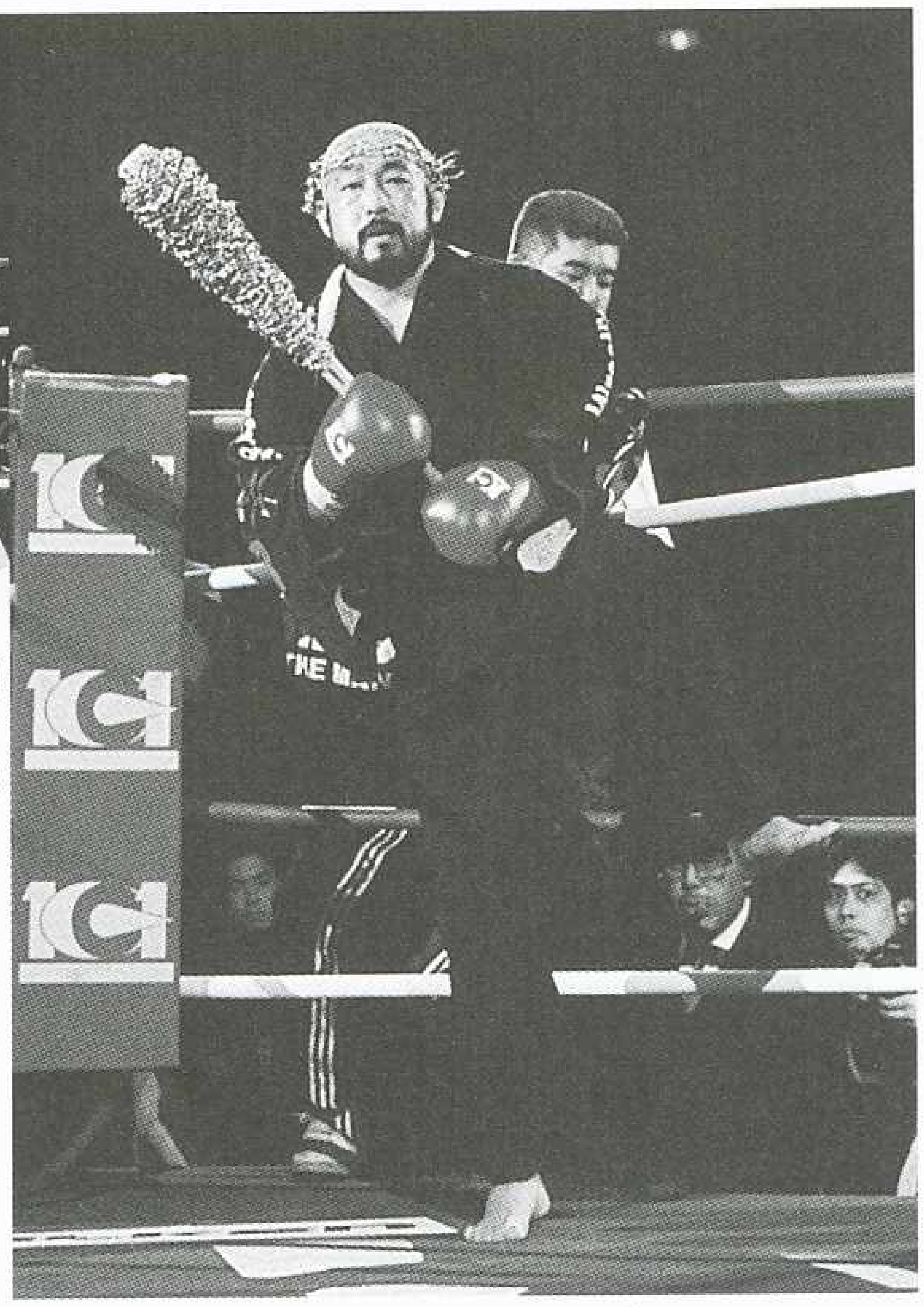
――確かにシルバは柔術習ってますからね（笑）。

松永　結局、『PRIDE・3』のヤーブロウvs高瀬戦の時点でわかってるじゃないですか。しかも、いまの総合のレベルは当時と比べものにならないくらい上がってますから、まず通用しないですよね。あと相撲の投げっていうのも、ああいう総合のリングで通用する投げじゃないですから。

――相撲の投げ技まで総合では決まりませんか？

松永　まず決まりませんね。柔道とかアマレスの投げは通用するんですけど、相撲の投げっていうのは、あくまでも土俵があっての話なんで。相手を土俵の外に押し出そうとすると、相手が我慢しますよね。その力を利用して投げるんですよ。だから下がっても負けじゃない競技では投げようがない。





2000年3月19日、横浜アリーナ。かつて一度だけK-1のリングに上がったことがあるデンジャー。頭に有刺鉄線ハチマキ、手には有刺鉄線バットという"正装"でアル・カポネに扮したグレート小鹿社長を引き連れ登場したデンジャーは、グレート草津と対戦。わずか1分30秒でタオル投入によるTKO負けを喫するが、試合後、タオルを投げた葛西純に火炎攻撃を浴びせ制裁。サップの乱闘どころじゃない、デンジャーワールドを貫いた。



――なるほど。なんか曙さんに対する希望の光がことごとく消えていってる気がするんですけど……（笑）。

松永　そうですよね。こういう言い方しちゃうと、相撲って最弱みたいな気がしますよね。ところが実際にストリートファイトになれば、ガードレールとか電柱に向けて思いっ切り突き飛ばして、上から踏んだりした場合は最強とも言えるかもしれないですけどね。

――リング上ではなくて、路上で最強の可能性が高いと（笑）。

松永　曙選手がK-1で相手を突き飛ばすと、ふっ飛んでいくじゃないですか。あんな調子でやれば路上では最強と言えるかも分かんないですよね。

――じゃあリングじゃなくて、『L-1』で使ったような、かなり小さめのオクタゴンとかだったら最強かもしれない。ようやく曙選手が勝つ方法がわかったわけですけど、K-1にはなんの関係もないのがちょっと問題ですね（笑）。曙選手はこれからどうしたらいいんでしょうか？

松永　これも自分の経験で言いますけど、自分はアマチュアの空手家時代、100キロぐらいの身体で、当時は極真以外の他流派は65〜75キロぐらいで80キロあればかなり大きい方だったから、当時の自分はサップや曙さんみたいなもんだったんですよ。

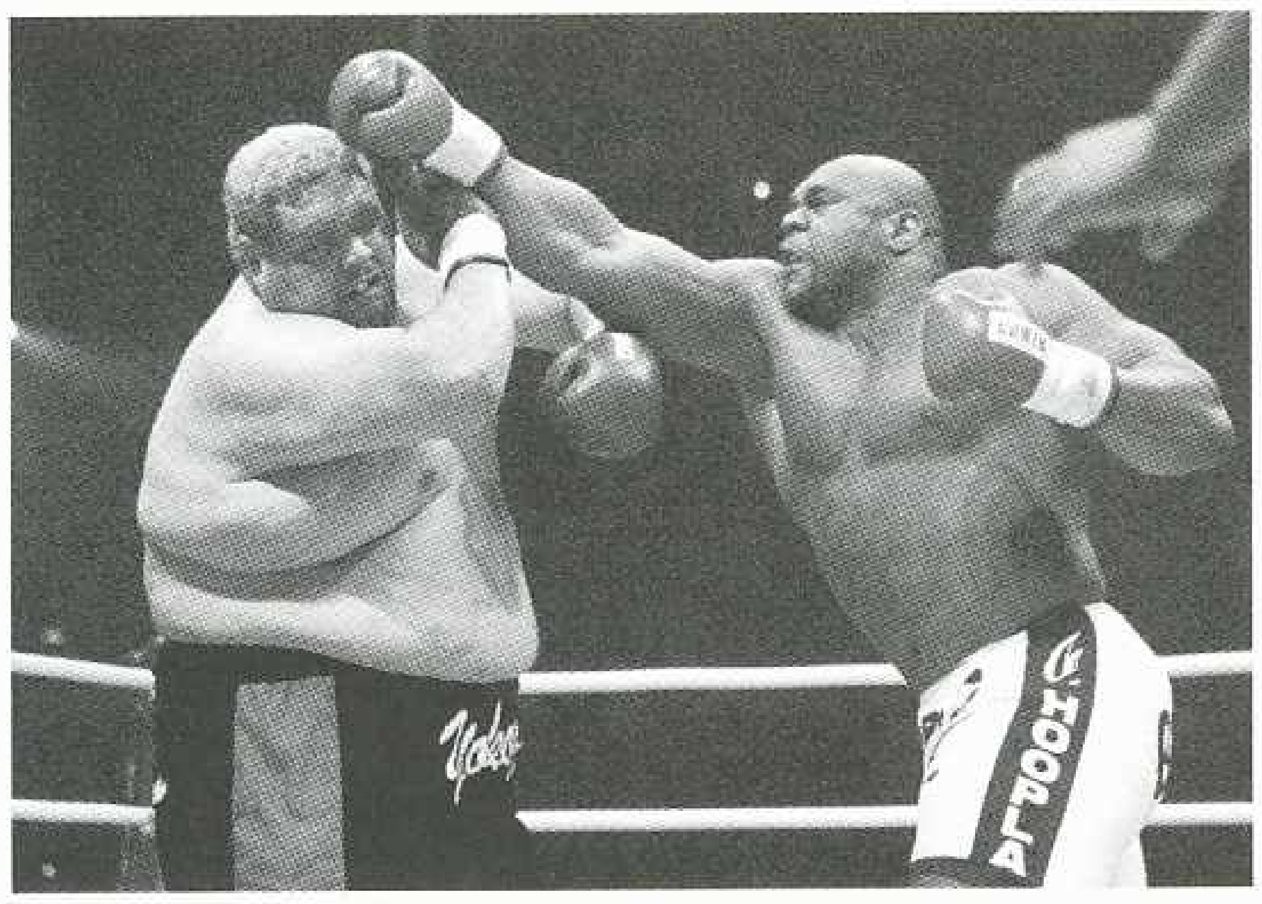
――空手界のサップ・曙だったと（笑）。

松永　それで空手の大会に13回出て、優勝1回、3位1回の戦績なんですけど、逆に言うとあとは全部負けてるわけですよね。で、勝つためにはどうしたらいいかって考えたら、結局体重を落とすしかなかったんですよ。減量して足も上がるようにして、キックもスムーズに出るようにして、ひたすらラウンド練習してスタミナをつけると。要するに空手家としてやっていくしかない。

――相撲時代の身体を活かすのではなく、空手家になるしかなかったと。

松永　それじゃなきゃ勝てなかったんですよね。でも、曙さんは220キロ

曙選手は「この体格とパワーを活かして勝ちたい」と思っているうちはダメですね



もあるのに、まだ頭が固いのか「この体格とパワーを生かして勝てるようになりたい」とか言ってるわけじゃないですか。あの考え方を変えない限り無理でしょうね。あと、曙選手があのパンチを当てようとするならば、具体的な戦法としては、ヒット&アウェイの選手をただ追うだけじゃダメです。ヒット&アウェイの選手もただ逃げてるだけじゃ勝てないから、絶対に来るときはあるじゃないですか。でも来た相手に合わせてもパンチが遅いから避けられますよね。だったら、1回自分もバックステップしてその打撃をかわすぐらいには最低でもならないとダメですよね。

――でも、相撲っていうのは必ず前に出る競技じゃないですか。バックステップっていうのは、また難しいんじゃないですか？

松永　だから自分が相撲から空手に転向したときは、モノになるのに人の2～3倍かかりましたよ。それこそハイキックとか踵落としがバチーンと蹴れるようになるのは、3年はかかりますね。でも、いまはK-1素人だった曙さんに教えてから1年も経ってないじゃないですか。

――K-1の練習始めて1ヶ月半ぐらいでデビューしちゃいましたからね（笑）。

松永　あれだったらバスケットボールとかサッカー、陸上競技とかやってる選手に教えた方が、まだ早いですよ。コツさえ覚えれば身体能力があるわけですから。相撲の身体能力って相撲でしか生かせないんで。

――ホントに特殊な相撲のためだけのものなんですね（笑）。じゃあ、ハッキリ言って曙さんがK-1で勝つには、体重を落として技術を身につけて、時間を掛けてK-1ファイターになるしかないってことですか？

松永　イチからやるしかないと思いますよ。でも、これから2～3年負け続けるわけにもいかないでしょうから、曙さんでも勝てる相手を探さないといけないと思いますけど、曙選手が勝てる可能性がある選手って誰だと思います？　基本的にK-1のリングに上がったことのある選手で。自分は別ですよ（笑）。

――ん～、なかなか思いつかないですねえ（笑）。

松永　分からないですか？　自分はわかりますよ。失礼なんで敢えて言いませんけど、勝てる可能性のある選手はいますよ。

――ヒントはないんですか？

松永　言ったら丸分かりなんでオフレコにしてください。

（テープを止めて）

――ああ、なるほど（笑）。

松永　「相撲vs●●」ってやれば話題にもなるカードですから。あとでこっそり谷川さんに伝えておいてください。「●●選手や△△選手なら勝つ可能性ありますよ」って。とにかく、顔面のガードが甘くて、フットワークを使わない人。そういう意味ではトニー・ホームみたいなタイプなんかもいいかもしれない（笑）。

――曙vsトニー・ホーム！　それならベイダーとかビガロ、ノートンとかともやってほしいですけどね（笑）。一宮選手なんかはは「横綱はプロレスにいくべき」って言ってますけど、その案についてはどう思いますか？

松永　それがいいんでしょうけど、K-1で1回ぐらい勝たせてから行かせたいっていうのが、K-1側の本音じゃないですか。1勝すれば気持ちよく送り出せますけど、負けっぱなしですからね。

――でも、プロレスにいった場合って動けるんですかね？

松永　いや、プロレスは動く必要はないですから（キッパリ）。

――ガハハハハ！　動けなくてもOK（笑）。

松永　マクガイヤー兄弟だってできるわけですからね。プロレスなら「動かなくていい」っていうタイプになればいいんですよ。でも、ホントにこれから谷川さんはどうするつもりなんですかね？

――谷川さんも困ってるでしょうね。やっぱり横綱のプライドがあるからなのか、なかなか言うこと聞いてくれないみたいですよ。

松永　え!?　谷川さんのアドバイスも聞かないんですか？

――「曙さん、もうちょっと痩せた方がいいんじゃないですか」とか言うと、ムッとするらしいですよ（笑）。

松永　（あきれて）じゃあ、全然ダメじゃないですか！　曙選手に自分のページを見せてやるべきですよ。これで頭が柔らかくならなかったら終わりですね。あくまでも業界を変えるときはイチから学ぶのが基本ですから。ああ、もう全然ダメですね。

――松永さんもこの商売を始めるときは、弟子入りしてイチからやってるわけですよね？

松永　トイレ掃除からやりましたよ。だからこそ、自分で言うのも何ですけど、成功できたわけですから。あ～あ、応援してやろうと思ったのに、谷川さんたちの話も聞かないようじゃ、話にならないですよ！　このインタビューの最初は「曙さんの気持ちがよくわかる」って言いましたけど、いまは谷川さんの苦しみがわかりますよ！

――曙問題で悩む気持ちがよくわかると（笑）。

松永　今度、機会があったら谷川さんと対談させてもらいたいですね。これを読んで興味を持っていただければ、ゼヒお会いしたいですよ。ボクはこの間の『朝まで生プロレス』（TVプロレス討論会）にも谷川さんの立場で出たかったくらいですから。

――ダハハハ！　なぜか〝K-1側〟として出たかった（笑）。

松永　だってあんなのプロレス側の理屈を全員でゴリ押ししてるだけじゃないですか。あのメンバーだったらわけないですよ。だから今度、あの番組があったら僕を呼んで欲しいですね。谷川さんにもそう伝えておいてください。僕はK-1の味方ですから！

【04年8月31日／亀戸『ミスター・デンジャー』にて収録】



曙は是か非か？



profile

1966年3月24日、愛知県出身。あの寛水流、誠心会館を経て、平成元年にFMWでデビュー。その後、初期W☆INGで伝説の「バルコニーダイブ」を敢行し、“ミスター・デンジャー”の称号を得、以降、日本のデスマッチをリードし続ける。現在は亀戸にステーキハウス『ミスターデンジャー』を営業中。
http://www.mrdanger.jp/

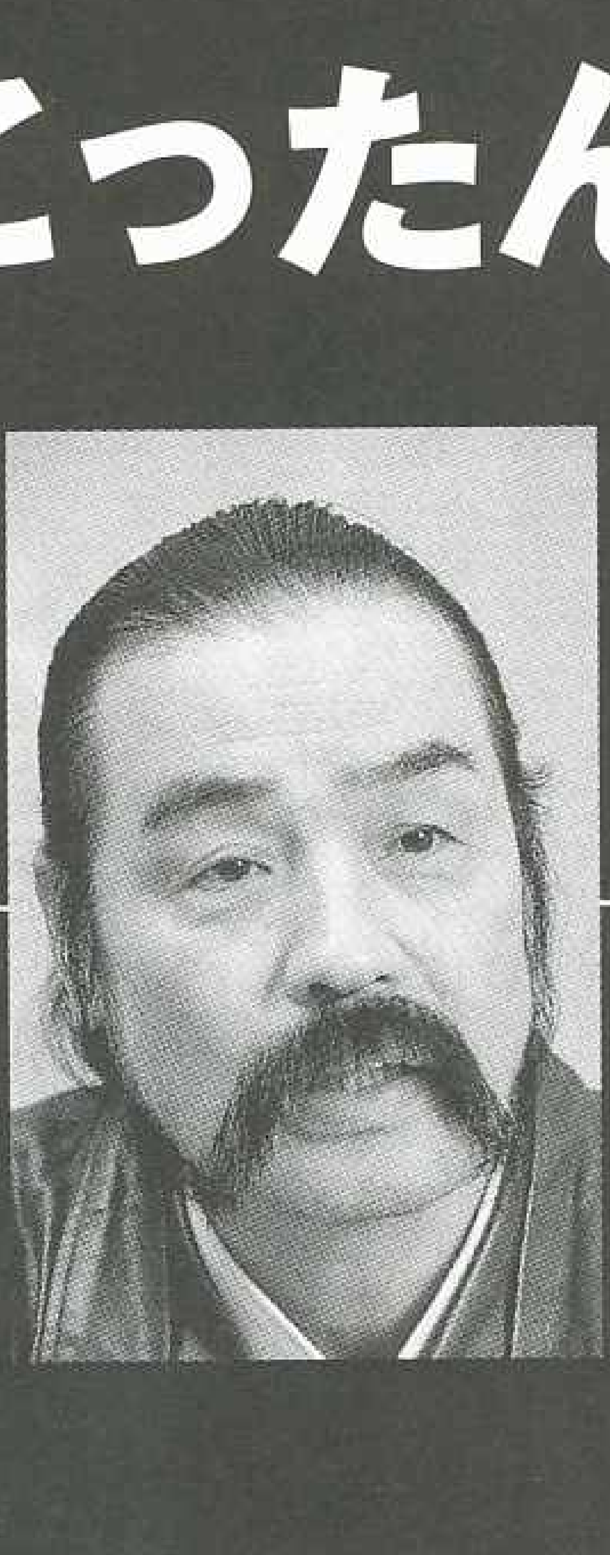


曙は是か非か？

今、改めて考えるK-1人気の原点
そして〝迷走〟の原因とは何か？

サップ、曙らの参戦によって K-1に 退行的進化 が起こったんです！

おなじみ
青春の大発見
シリーズ



日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

聞き手／堀江ガンツ

designed by bun-chan (Two Three)

——先生！　今日はですね、前号に登場していただいたK・1の谷川プロデューサーが「もし『SRS・DX』が続いていたら、曙は是か非か、堀辺先生に語ってもらいたかったな〜」とおっしゃってんで、『SRS・DX』の代わりに『紙プロ』がそのテーマでお話を伺いたいと思います！

堀辺　はい。でも、『SRS・DX』と言えばターザン山本！講師の出番じゃないんですか？（笑）。

——いや、山本さんに聞くと「オール、すべて、ぜ〜〜んぶ、谷川が悪いんですよォォォ！」とかボロクソに言うだけだと思うんで、ゼヒ先生に論理的に語っていただきたいと思います（笑）。

堀辺　わかりました（笑）。「曙は是か非か」っていうのは、同時に「いまのK・1の方向性は是か非か」ということに繋がると思うんですけど、この問題を正しい結論に導くためには、まずK・1の歴史から振り返るとよく見えてくるんですよ。

——〝本来、K・1とはどういうものだったか？〟と。

堀辺　そういうことですね。そこを改めて問い直すことによって、現在のK・1がどうなのか、現在を象徴する曙というものはどうなっているのかということが見えてくると思うんです。ですから、ここに図を持ってきました（図1参照）。

——おお、久々ですねえ（笑）。

堀辺　分かり易くするためにね（笑）。K・1というものが誕生する経緯はいろいろあったと思うんだけど、大きな理由のひとつとして、UWFの影響を強く受けたと言えると思うんですよ。つまり正道会館というアマチュアの空手集団が、興行を中心としたK・1というものを作るアイディアというか、そういうものを提供したのがUWFだったと思うんですよね。

——現在のプロ格闘技興行のイベントとしての礎の築いたのは新生UWFですからね。

堀辺　そのUWFが従来のプロレスと違う方向に持っていった改革というのも、一覧にしたんで（図2）それを参照してください。こういった改革によってUWFは大ブームを起こしたわけですけど、石井（前）館長は、それを横目で見ながら、あるいは直接交流をしながら、「この方向を取り入れていくことによって、空手も巨大なイベントにつながるんじゃないだろうか」と、恐らくそう考えたと思うんですよ。そして、それと平行してソフト面の改革も進めたんです。

——従来の正道カラテをプロ化のために変えていったと。

堀辺　そうです。それで正道会館がまずなにをやったかと言うと、「素手の顔面ナシ」というフルコンタクト空手を「グローブをつけて顔面アリ」という方向に転換したと。しかも流血を起こしやすいような肘打ちなども全面的に廃止して、ムエタイの特徴でもある首相撲を部分的に制限した。これによって、ヒジ打ちによる出血という観客からすると不透明な決着を減らし、なおかつ打ち合いになりやすい、

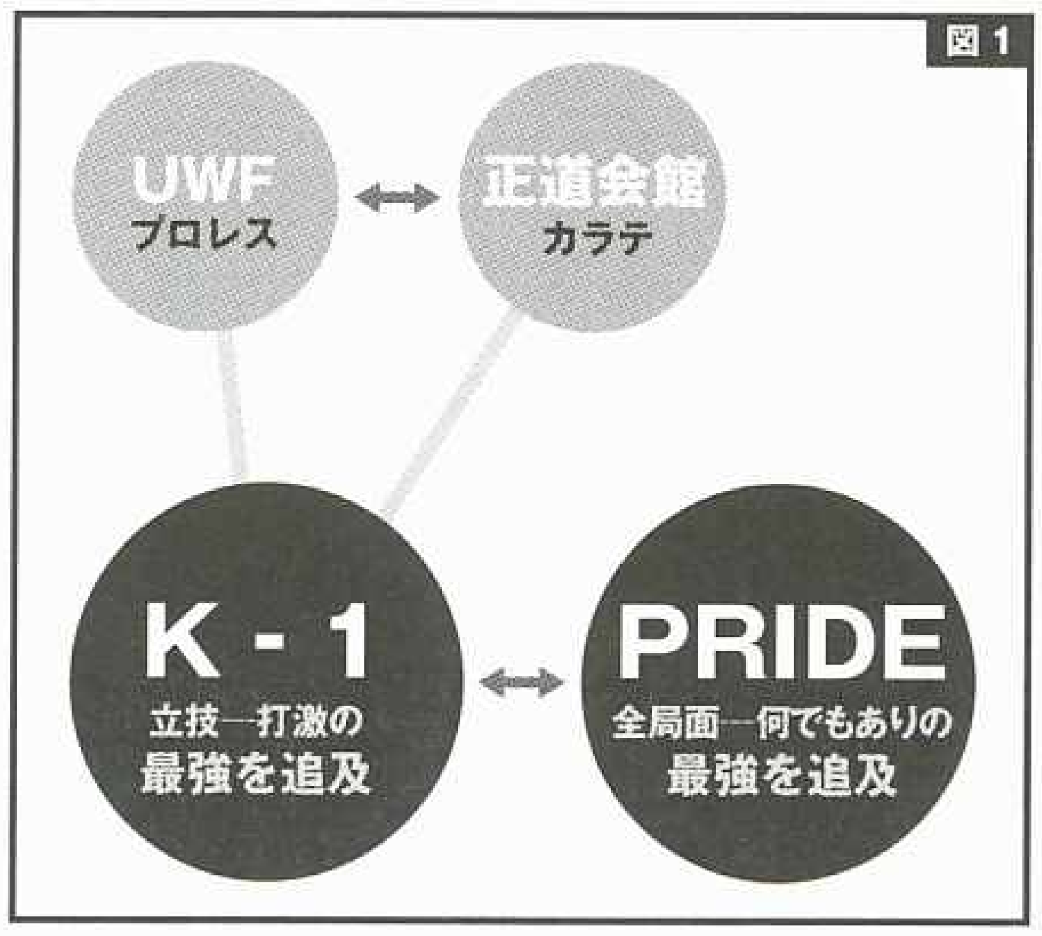


図2

UWFの改革

1 これまでのプロレスになかったオシャレな会場を使用
2 音響、照明を駆使した仕掛けによるメジャー感の創出
3 ルールを明確にしたスポーツ的真剣勝負の強調
4 常人とは差別化される鍛えられた肉体美、技術美を有する選手の登場。

SEISHI Horibe

今のK-1はUWFがかって否定した既成のプロレスに逆戻りしている！



曙は是か非か？

別の言葉で言うとKOが生まれやすいルールに改正したんですよね。それによって、試合の流れというものを変えることに成功したんです。

——当時はムエタイこそ絶対だという価値観だった格闘技界において、館長だけは、そこにとらわれなかったわけですね。

堀辺　そうです。ムエタイとは違う新しい打撃格闘技のスタンダードルールを確立したんです。そしてもう一つは、ヘビー級を中心にした試合を組むことによって、ムエタイとかキックボクシングと差別化したということですよね。これもUWFの人気から学んだという部分だと言えます。

——前田日明の代わりに佐竹雅昭をヘビー級の日本人エースに据えたと。

堀辺　以上のことをだいたいまとめて言うと、UWFが持っていた勝負論というものの曖昧さとか、疑問符が付く部分と、空手とかムエタイが抱えていた、観客から見た試合の分かりにくさ。この二つを石井（前）館長が手を加えて同時に解消したんですよね。これらはもう偉大なる発明と言ってもいい！　このようにして、スポーツライクな真剣勝負を大衆娯楽として確立した。これがつまりK・1なんです！

——なるほど。

堀辺　それを展開していく中で、アンディ・フグや佐竹選手が活躍した時代っていうのは、いま言った理屈が見事に展開されてたことがK・1を上昇させた原点にあった理屈なんですよ。ところが最近のK・1は、いま言ってきたようなところからハズれた方向に変化していったんですね。これを私の言葉で言うと、〝退行的進化〟というんです。

——退行的進化！

堀辺　最近のK・1の試合を観てると、まさにそういう形で進化してきたものが、逆の方向に転換し始めたんですよ。これはどういうことかって言うと、「一般人と差別化された鍛えられた肉体美」っていう部分はK・1も初期の頃は確立されていたし、もう一つは機能的な肉体美ということと伴って訓練された人だけが発揮できる技術の美しさというものを、その当時K・1ファイターは持っていたんです。ところがこの二つの面からK・1を見てみると、最近出てくるのは何とか族とかでしょ？

——〝マウリ族最強の男〟ですね（笑）。

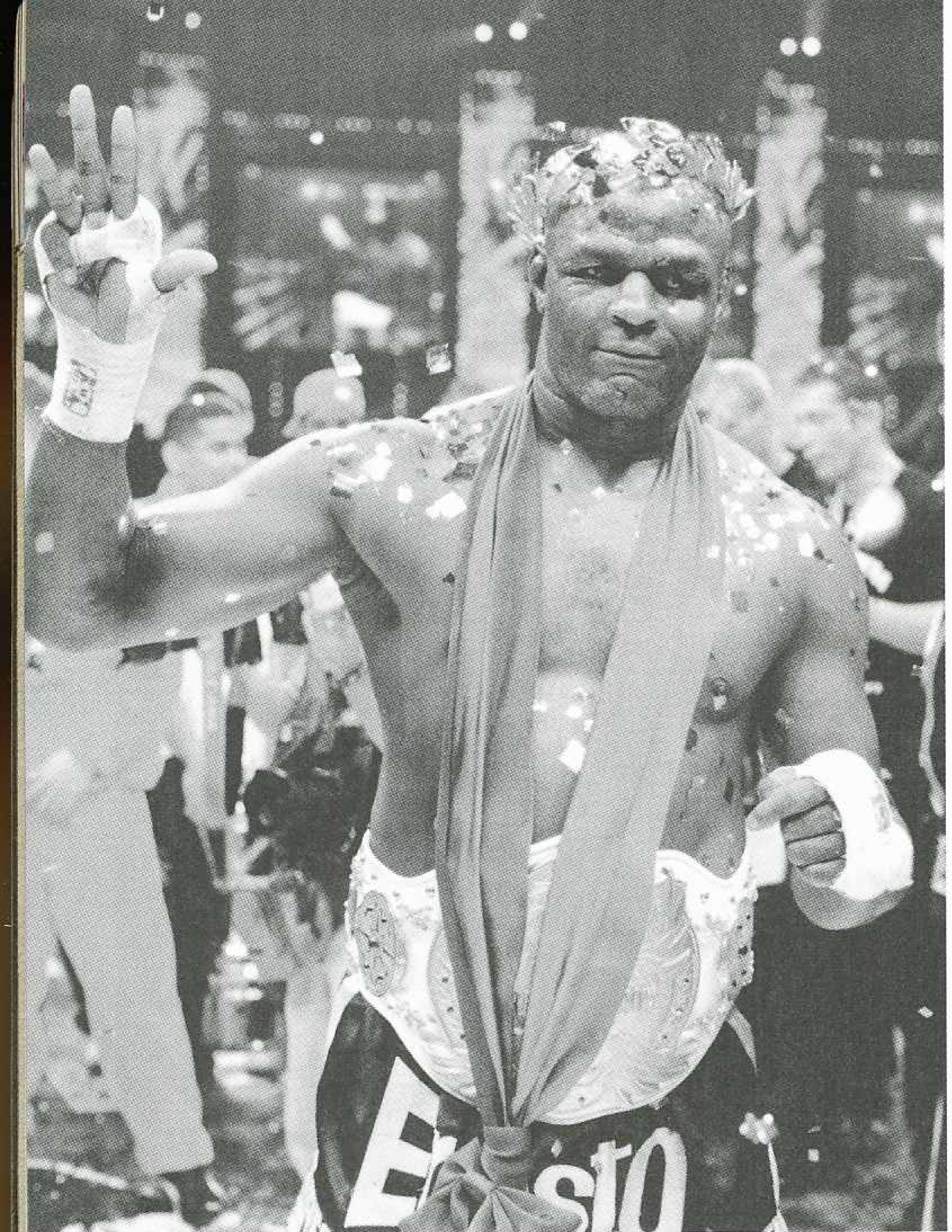
堀辺　そういう怪人が出現しましたよね。確かに身体はデカい。しかし機能的肉体かというと、必ずしもそうではない。どちらかというとUWFが否定的だった既成のプロレスラー的な体型というものに退行していったと思うんですよ。そういう形でまさに退行的進化の方向に向かってるわけですよね。一見すると「え!?　何だ？」って興味を引くようなものを持ってるんだけど、実際に闘ってみると「何だよ！」って底が割れてしまう肉体美に気付かされてしまうわけですよね。

——いわゆる〝出オチ〟で終わってしまうんですよね（笑）。

堀辺　そしてもう一つは、常人と差別化される程の〝訓練され尽くした技術〟っていうものが、最近のK・1に出てくる選手には見られないっていうことなんですよ。その一番の象徴として存在するのが曙なんです。

——曙こそ最近のK・1の象徴（笑）。

堀辺　確かに相撲というジャンルでは横綱



純K－1の象徴である"4タイムス・チャンピオン"アーネスト・ホースト。K－1ヘビー級の技術低下を嘆いているというこの男の活躍に、純K－1復活はかかっていると言っても過言ではない。

にまでなった強い人間であるということは誰しもが認めるわけですよ。彼を弱いだなんて誰も言わない。しかしそれは大相撲という特殊な競技の中で強いということを実証した人なんです。ではK・1に出る技術というものを考えた場合に、訓練され尽くした打撃格闘技ということに照らし合わせたら……いままで何回試合しましたか?

――4回ですね。

堀辺 そのいずれの試合でも、ファンや視聴者の印象に残ったのは「曙はK・1ではド素人だ」と。

――ド素人。久々に聞きました（笑）。

堀辺 相撲では横綱だけども、K・1ではどう見てもド素人なんですよォォ！ 以前のK・1っていうのは、ルールに従った訓練をあらかじめ積んで、技術を十分に身に付けた人たちが上がってくる場だったんです。ところが、その曙だけではないけども、訓練された、競技が要求する技術的な機能美というものを発揮できない選手が中心になってるわけですよね。それは、明らかに逆方向に向かってるんですよ。UWFが否定した既成のプロレスとダブってきてますよね、いまのK・1は。

――マクガイヤーブラザーズがバイクに乗って出てきた感じですか?（笑）。

堀辺 それだとか、バスを引っ張るグレート・アントニオとかね。そういう時代に戻っちゃったね。

――それはずいぶん戻りましたねぇ（笑）。

堀辺 ここにK・1の変貌を大きく感じ取るんですけど、そもそもK・1というものがなぜ支持されたのか、それをいまのK・1は忘れてるような気がしますよね。ハッキリ言って残念です。

――それが純K・1ファンが離れた原因でしょうからね。

堀辺 K・1はスポーツライクな格闘技ということで社会に認知されたわけだから、"スポーツライクな真剣勝負"というものをちゃんと理解しなきゃダメですよ。それには最低必要条件っていうものがあるんですけど、まず一つは、前もって確定されたルールに基づいて勝負が決められるということ。もの凄く当たり前なんだけど、敢えて言っておきます。その次は、出場する選手はそのルールに従って、普段から訓練してるということ。そして三つ目には選手とは、文字通り"選ばれし者"なんですよ。その競技をただ単にプレーできればいいというだけでは済まされない。その競技が要求する一定水準以上の技能を有してるということが選手の条件なんです。一定水準"以上"ですよ。

――昔のK・1だったらそうでしたよね。

堀辺 "競技"であるならば、勝つか負けるかはやってみないと分からないとしても、出場資格というものは問われるんですよ。ところが先程言ったようにK・1は、この部分が非常に曖昧模糊たるものに転落してると。それがなぜかというと、K・1に出る資格はないにしても、興行的に面白いということを優先させたからですよね。でも、そういった選手を出場させれば一時的な興味はひくかもしれないですけど、スポーツというものの競技性っていうものは損なわれてるわけですね。カンフル注射を打って視聴率を取ることによって、同時にK・1という競技の権威性というものを、打つたびに自分たちで破壊してるんですよ。

――細胞が少しずつ死んでいってるですね。

堀辺 自分の基盤を切り崩しながら視聴率を稼ぐというね。そういう状態に陥ってるのが昨今のK・1だということが見えてくるんですよ。K・1はもともと立ち技の打撃格闘技の最強を追求するということを繰り返し言ってきた。そして観客もそれを支持したわけです。ならばハッキリ言って、K・1はあくまでも立ち技・打撃という限定されたスポーツとしての最強を追求しなければならないんですよ。その理念を徹底的に追求していっていれば、いま私が指摘したようなK・1の退行的進化というものはあり得なかった。だから何がいけなかったかというと、K・1はそもそも何をしたかったか、という根本からハズれていったということですね。だからK・1の原点に回帰してこそ、そのK・1がメジャーなリングとして存続し得る条件なんですよ。

退行的進化

――ようやくK・1もそれに気づいたのか、"原点回帰"を打ち出し始めましたよね。

堀辺 ただ、ここまで権威やイメージを破壊してきてしまったので、もう一度イチからやり直しみたいな気持ちでやらないとダメです。森林を一度破壊したら、元に戻すのに時間が掛かりますよね？ だからK・1も荒れ地に苗木を植えるところから始めるぐらいの気持ちでやるべきですね。

――苗木から森になるぐらい根気がいる作業なわけですね。

堀辺 ただ、K・1はまだ良かった頃の記憶が人々の中にあるわけですから。それがある分、いまが立て直すギリギリのタイミングなんじゃないかな?

――では曙はどうしたらいいんですか?

堀辺 曙に関しては4回試合して、進化の跡が見られないんですよね。

――毎回同じパターンですよね（笑）。

堀辺 だから、このままもし無理にK・1を続けていけば、K・1そのものも人気を失うだろうし、曙自身も多くの人に見放されてしまって相撲時代に築いた人気すらも失いかねないと思うんですよね。自分がそういう状況に立たされてるということを考えなきゃいけないし、主催者も曙を使うということがマイナスになってるということに気付くべきでしょうね。

――となると、曙の使い方は相当難しいですねえ。曙選手本人はボンヤスキーとの対

『PRIDE』だったらもし曙が出ても競技自体が破壊されることはなかった！

戦を希望してるみたいなんですけど。

堀辺　ハッキリ言って、それをやったら最悪になりますよ。

―最悪になりますか（笑）。

堀辺　やる前から結果が見えてるし、それ以前にボンヤスキーというK－1のチャンピオンと、いままで一回も勝利がなかった曙を当てるっていうこと自体が、スポーツの世界では考えられないことなんですよ。スポーツの原理というものを無視してる！　その発想自体に主催者の退行的進化が認められるんです。

―では、曙選手の総合転向という案も出ているようですけど、その案についてはどう思いますか？

堀辺　それはある意味賛成ですね。

―あ、賛成なんですか⁉

堀辺　私は曙がK・1に出たこと自体が失敗で、もし曙を生かすとしたらば、ホントは『PRIDE』に出るべきだったと思うんです。というのは、スポーツというのはいくつかの条件があるわけなんだけど、格闘技としてのスポーツというのは闘う局面がそして技が限定されてるということなんですね。相撲には相撲の技があって、柔道には柔道の、ムエタイにはムエタイの技があるんですよ。そしてK・1にはK・1という枠に許された範囲で闘えるわけですね。その限定された打撃系の競技空間に、組技の中でも特殊の大相撲から転向したら、いくら相撲で強いといっても発揮できないですよ。

―全くリンクする部分はないですからね（笑）。

堀辺　でも、『PRIDE』というのは“全局面なんでもアリ”という世界だから、通用するかどうかは別として、曙が培った相撲の技術が制限されることはないわけです。あの身体で突進していってブチかましても構わないし、K・1では反則をとられていた“プッシュ”をしてもいいわけですよ。

―あの体で上からのし掛かってもいいわけですよね（笑）。

堀辺　論理上、曙が自分の力を最も制限されずに、束縛感を感じないでやれる場所はK・1ではなかったんですよ。そこの選択を間違ったわけです。現在『PRIDE』にはもの凄く高度な選手が出てきてますし、PRIDEスタイルを習熟した選手が上がってきてることは確かです。しかしバーリ・トゥードというものは他のスポーツ的格闘技と違って、極端に言えば、ケンカ自慢が出たっていいんですよ。だから、たとえ曙が出たとしても、競技自体が破壊されるということがないわけです。

―K・1は何でもアリじゃない部分にジレンマがあるのかもしれないですね。

堀辺　K・1という限定された競技として魅力ある舞台に、むりやり異種格闘技的要素を加味しようとするから失敗が起きてるんですよ。K・1とはあくまでもさっき言ったような条件を満たしていなければならないんです。その原則から外れるということは、せっかくK・1が獲得した市民権というもの失うしかなくなるということですよ。それを真剣に考えなくてはダメです。

―では、K・1ではなく『Dynamite!!』のような特別な舞台でバーリ・トゥード的なものをやるのはどうですか？

堀辺　K・1と全く別な形に確立すれば、それはそれでいいでしょうね。現在社会が求めているものは、コンセプトそのものが明確でないものはすべてダメだということなんですよ。掲げた表看板とやってる内容が違っては、やはり信頼を失いますから。

―K・1と打ち出したからには、水準の高いK・1を組まなきゃならないと。

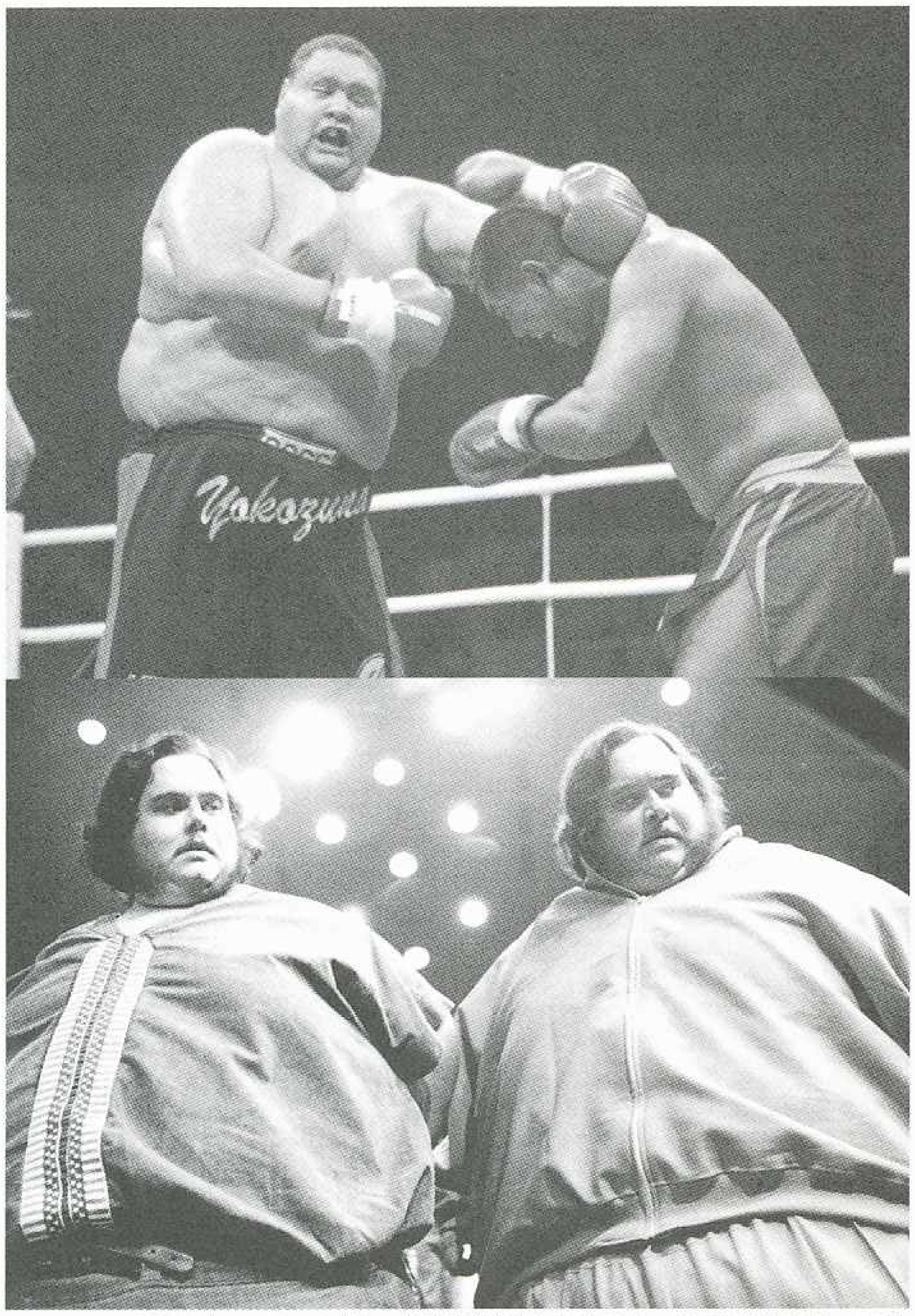
堀辺　そうすれば『PRIDE』というものが存在しても、『PRIDE』はK・1のマネをすることが出来ないですからK・1の価値が下がることはないんですよ。そしてK・1と『PRIDE』という全く逆方向を向いた二つの巨大なイベントが存在してるということが、大衆にとっても非常に幸運なことなんです。その棲み分けがされないで、どっちつかずの曖昧さが出てくると、見てる側は何がなんだか分からなくなって、せっかく格闘技というものが社会の中にテレビ等を通して浸透されてきた良い時代を破壊してしまうんです。だから昨今のK・1は単にK・1を破壊してるんじゃなくて、格闘技が流行してきた現象を壊す要因にもなっているっていう点で強い警告を発したいですね。

―格闘技界の環境破壊だと。それは一刻も早く何とかしないといけませんね。

堀辺　環境保護に協力しないといけないわけですよォォ！　だから、格闘技ファンから、もっと「格闘技界にとっての害悪を流さないで欲しい」という声が起きてこなきゃいけないですね。じゃないと様々な格闘技に悪影響を及ぼすんじゃないかな。

―プロ野球ファンばりに、署名活動でもしないといけないわけですね（笑）。今日はありがとうございました！

【04年9月3日／東中野・骨法武術館にて収録】



いまのK－1は怪奇派プロレスラーの時代へ“退行的進化”を遂げてしまったと語る堀辺師範。ここ数年のこういったイメージを“原点回帰”を打ち出した『ワールドGP』では払拭することができるか？

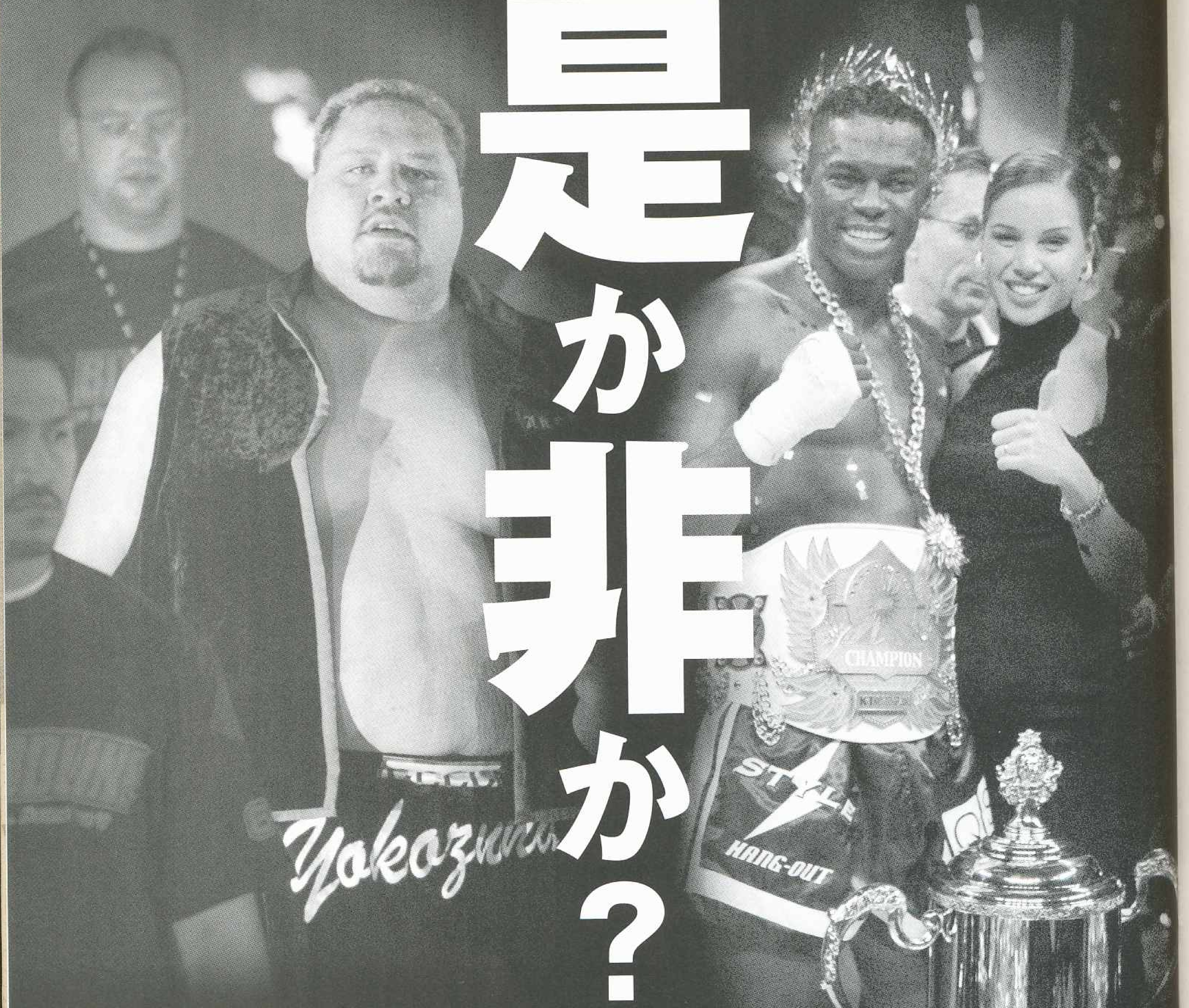
SEISHI Horibe



曙は是か非か？

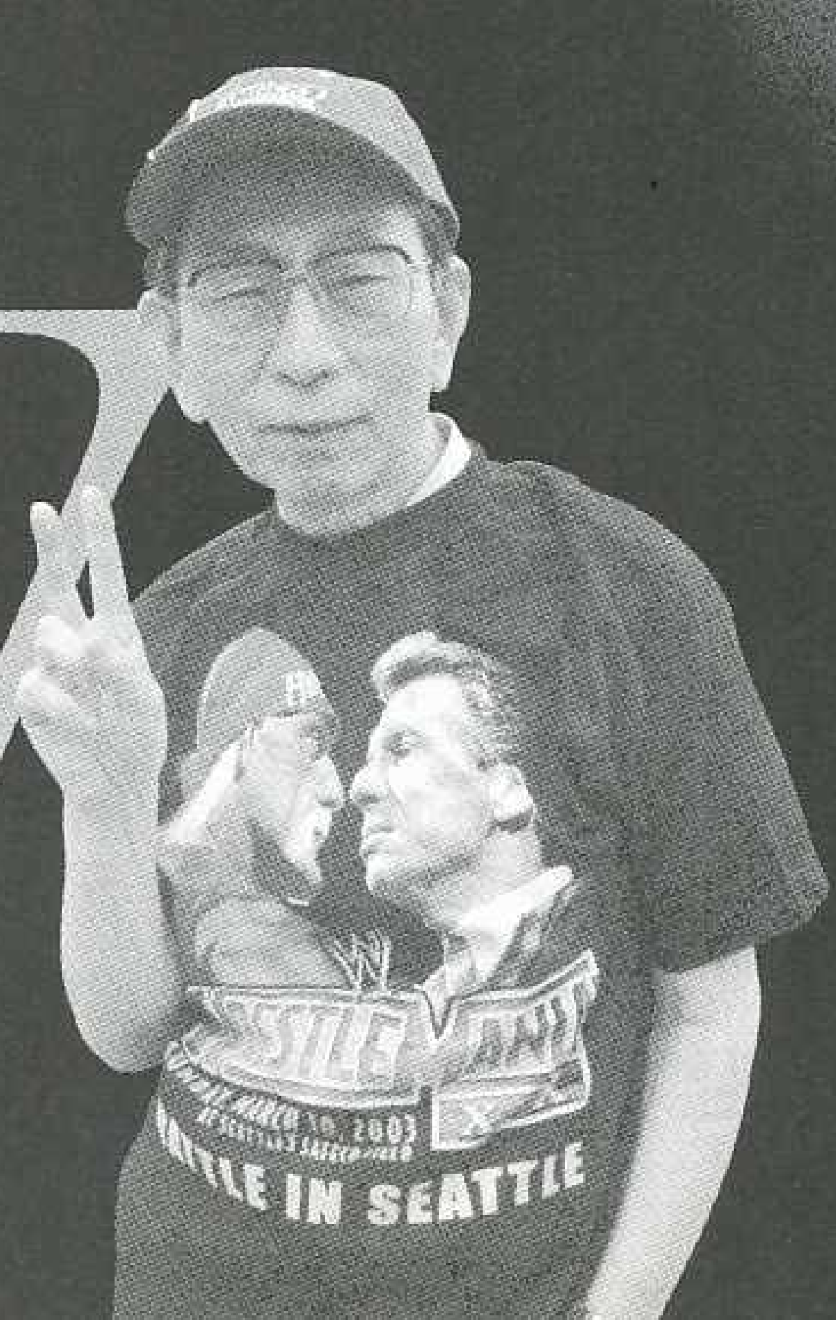
〔言うちゃ悪いけど今月のお題〕

曙vsボンヤスキーは是か非か？



プロレスマスコミの鉄人・I編集長の

喫茶店トークV 特別編



「原点回帰」「完全実力主義」「純K-1」をうたい文句に、敢然とサップ＆曙に「参戦資格なし」の烙印を押した今年の『K-1ワールドGP』。しかし、「X」とされていた前年度優勝のシード選手ボンヤスキーのスーパーファイトの相手が、結局曙に決定！　しかもレミーのビデオレターに曙が激怒するという、ハッスル劇場ばりの会見を開くなど、あっとういう間にモンスター路線の原点に回帰してしまった。はたしてこの決定をI編集長はどう捉えたのか、締め切りギリギリに緊急インタビュー！

聞き手／堀江ガンツ　designed by bun-chan（Two Three）

曙がトンチンカンなことを言い出すのは谷川の旦那や周囲の人間が悪いんだよ！

——井上さん！　実はついさっきK-1の記者会見がありまして、9・25武道館大会でのボンヤスキーvs曙が発表されたんですよ。

井上　ボンヤスキーの相手が曙になったぁ!?

——ですから、今日はまずこの決定についてどう思うか伺いたいのですが。

井上　（しばし絶句）……まぁ、曙を殺そうということだろうな。

——こ、殺そうということですか！（笑）。

井上　もちろん命を奪うということじゃありませんよ。曙のK-1ファイターとしての選手生命を絶ってしまうということでね。言葉で「お前はもうダメだよ」「WWEへ行きなさい」と言う代わりに、ボンヤスキーに当てたということですよ。

——もうダメだと身体でわからせますか（笑）。

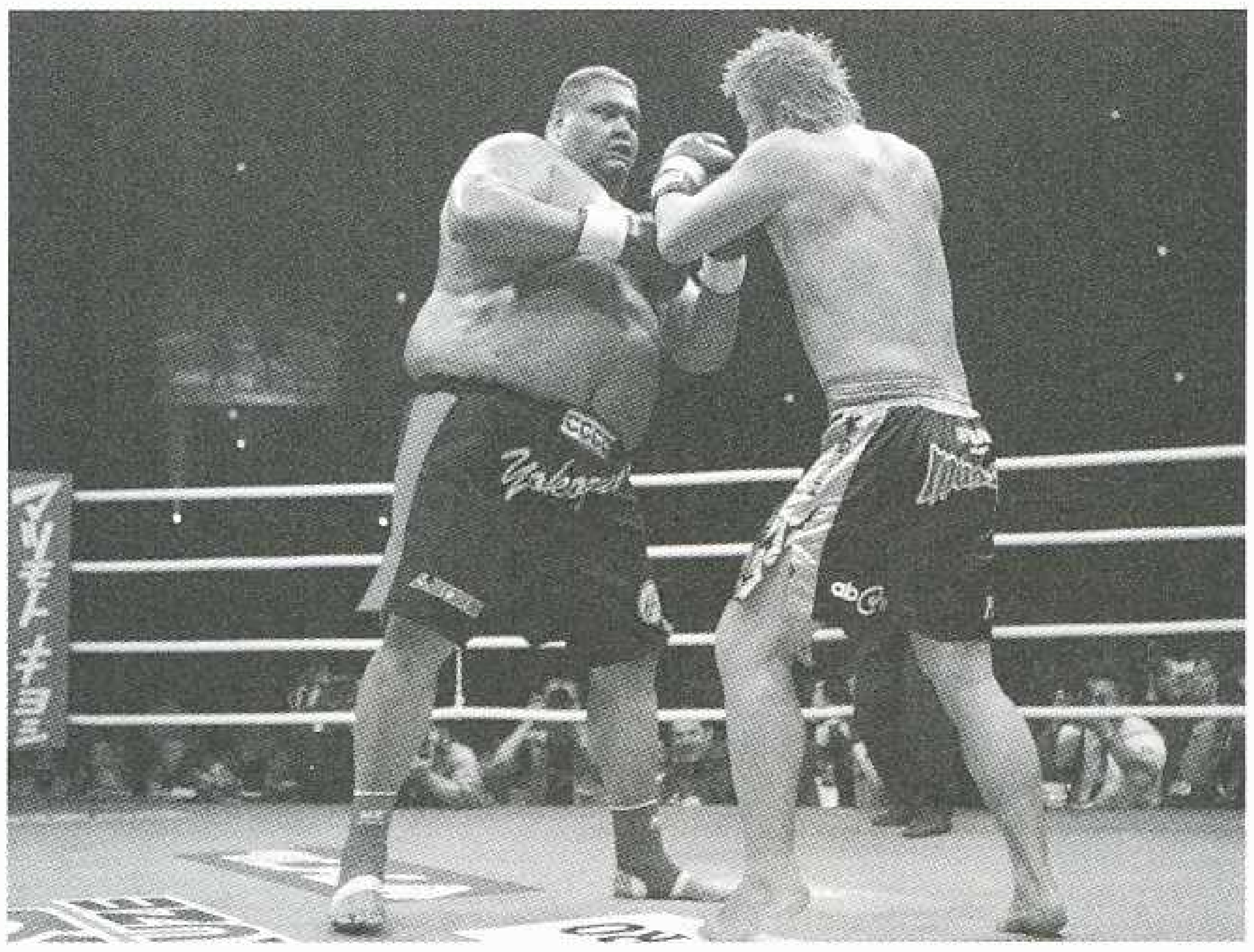
井上　しかも、このカードは曙自身が希望しとったことだからね。もうハッキリ言って、どんな結果になろうと、恨まれる筋合いはないわけですよ。だけれども、曙がなぜ「レミーと闘いたい」なんてことを言い出したのかと考えれば、これは谷川の旦那を始めとしてね、コーチだとか曙の周囲の人間が一番悪いんですよ！

——曙の周囲が一番悪い！

井上　この連中が曙にホントのことを言わないからダメなんだよな！　おそらく「お前さんは逃げない相手であれば勝てる」とか「お前の練習でのパンチは凄いから、これが当たればどんな相手も倒せるだろう」とかね、そういったことしか言ってないと思うんだよな。

——本人をその気にさせるようなことしか言ってないと。

井上　そうでなかったら曙がね、あんなトンチンカンなことを信じ込まないですよ。周囲の人間が、「お前はK-1ルールもMMAルールもしんどい。もうプロレスを加味した相手を捕まえて押し倒す、それしか脳がないんだ！」とね、そういう〝大阪の馬鹿〟が言っているようなことをズバリと言ってやったら、あんなことは言わないと思うのね。



デビュー2戦目となる3・30大会では、前年度のK－1WGP準優勝者・武蔵と対戦した曙。このときは、"相撲技解禁"の特別ルールで行われたが、反則以外でのダメージは与えられず、大差の判定負け。この一戦を見るに、純K－1ルールで王者と対戦は無謀のように思えるが……。

——ホントの意味でのアドバイスをしていないというわけですね。

井上　だから人間の付き合いにおいては、相手をいたわってやるとか、遠回しな言い方をするのも必要だけども、井上流の言い方をするなら、「ズバリ本当のことを言え」と。それは痛みを伴うことだけどね、それがホントの意味での友情なんだよ。それなのにハッキリ言っていまのK-1の連中はそういったことをしてない。そうとしか思えないわ！

——だからこそ曙が「向かってこない相手が悪い」みたいなことを言い出してしまうと。

井上　そうですよ！　ビデオをみせて具体的になぜダメなのか徹底的に言わないとダメなんだよな。それをズバリ言ったら落ち込むかもしれないけど、ホントのことなんだから。あんなに逃げ回る張（慶軍）を捕まえられないのは、逃げた相手が悪いんじゃない。逃げる相手を捕まえることのできない曙が悪いんだよ、ハッキリ言ったら。あんな男、レ・バンナだったら20秒もあれば倒してるぜ！

——レベル的にはそうかもしれませんね。

井上　相手は逃げてるんだからね。本来ならこんな楽な相手はいないんだよ。だからそれを曙にピシッと教えてやらなかったということは、大きな罪ですよ。だから今回の「レミーとやりたい」と言ったときも、谷川の旦那にしたって、やったら曙が負けるということはわかってるハズなんだよな。わかっているんだけど、言葉で「曙さん、あんたもうダメだよ」と言うのは忍びないから、曙が望んだ相手とやらして、とことん突き落として、「もうお前はダメだ」と。「お前さんの言う〝向かってくる相手〟とやって負けたんだから、あんたはもうプロレスラーに転向しなさい」とか、「WWEではビンスがあんたを求めてる」と、それでハワイでプロレスラーとして2、3回試合やった後、引退してハワイの市長でもなんでもなったらいいじゃないか。

——そういう前向きな人生設計をアドバイスするべきなんですね（笑）。

井上　そのほうが有意義な社会生活を送れると思うんだよな。きっとK-1の連中もそういった言葉を試合後に用意してるはずですよ。誰が考えたってボンヤと曙をやらせるなんてムチャなんだから。ボンヤを際だたせようというのだったらまだわかるけど、曙に勝ったところで誰も褒めんからね。

——王者がデビュー4戦全敗に勝っても誰も褒めないですよね（笑）。

井上　だから曙にとっては一番闘っちゃならない相手なんだよな、ボンヤスキーというのは。

——といいますと？

井上　そりゃ飛ぶからね。

——飛ぶからダメですか！

井上　というのも、ボンヤにとったらこれほどありがたい相手はいないわけですよ。サンドバックと一緒だからね。いままでのボンヤは相手にかわされたり、なかなか空飛ぶハイキックが決まらなかった。ところが曙には絶対に決まるんだよ。的がでかくてしかも動かないんだから！　ということはボンヤにとったらもう練習なんかする必要はないと。もう酒をくらって女を抱いて、遊び呆けていても、リングに上がって一発跳び蹴りかましたら、もうおしまいなんだよ。逆に言うたら、曙にしてみたら、絶対に闘ってはならないのがボンヤスキーなんだよな。

——一番ぶざまな姿を晒す可能性がある相手なわけですね。

井上　そう。一番みっともない負け方をする相手がボンヤスキーなんですよ。だからそれを谷川の旦那にしたって、石井の旦那にしたってわかっててさしたっていうことは、いま言ったように、無言の死刑執行なん

片八百長してでもみっともない負け方をさせたらダメ。それが武士の情けですよ

喫茶店トーク 特別編

ですよコレ！

——死刑執行！　非常に残酷なカードなんですね。

井上　誰も勝てるとは思ってませんよ！　そりゃマスコミに対しては「曙が望んだことだし、練習でのパンチは凄い。だから勝てる可能性はある」と言うと思うんだよな。

——「横綱の意気込みに賭けてみたい」とか（笑）。

井上　でも、そんなことがあるはずないというのは、谷川の旦那だってバカじゃないんだから、百も承知ですよ！　〝大阪の馬鹿〟がわかるようなことが、谷川の旦那がわからんはずがない！　ゼ・ッ・タ・イ・ニ！　だから俺が言ってることは絶対の真実ですよ。ただ、谷川の心境と言うのも俺はわからんでもないんだよな。ハッキリ言うたら、これは苦渋の選択ですよ。

——曙に引導を渡すために、やむなく組んだカードだと。

井上　だからもう曙のK・1マッチは9月25日で終わりだろう。まかり間違っても、曙が善戦するなんてのは考えられんからね。ただ、みんなの希望としては「少しは善戦してほしい」ということですよ。ひょっとしたら谷川の旦那が耳打ちしてるかもしれん、「1Rぐらいはもたしてやってくれ」とかね。「曙も横綱を張った男だ。あんまり惨めな、自殺したくなるような負け方だけはさせてやるな」と。おそらくそういったこと言ったか言わないかわからんけど、ノドまで出かかってますよ。

——そういった葛藤もあるわけですか。

井上　俺が谷川の旦那だったらハッキリ言うわ。「少し手加減して、1発や2発パンチを食らってくれ」と。それをやったらハッキリ言うたら片八百長だけども、そうでないと曙は浮かばれないですよ。これからのレスラー生活を送るにしても、ハワイで市長の職につくとしてもね。そういった余地だけは残してやってくれ、と。俺だったら言うな。

——それが最後の優しさというか、武士の情けだと。

井上　そう、武士の情けですよ！　やっぱり横綱張った男だしね、いい男だぜ。そういった意味ではね、惨めな自殺に追い込むようなことはしたらいかん！　もしボンヤスキーがボーンとやってしまったら、それこそ浮かばれないもんな。なんであんな試合を組んだんだと、世間の非難も浴びますよ。「そもそも、なんで曙みたいなものを連れて来たんだ」と言われるからね。ハッキリ言うたら俺だったら連れてこないから。どんなに鍛えたところで、あの曙がK・1の選手になれるはずがないんだよ！　だから俺は最初から言ってる。WWEしかない、と！

——サップ戦の前から言ってましたもんね。

井上　K・1に入れたというのは、1年ぐらい使って、その後WWEに金銭トレードするのだろうと。それを石井さんは最初から考えて引き抜いたと思うんだよな。石井さんというのは非常に頭のいい人だからね。そんなこと読めないハズがない。「曙はK・1ファイターとして大成できる」と思って引き抜いたとしたらね、これはもう俺はハッキリ言ってK・1の記事なんか書かないですよ！

——K・1断筆宣言しますか（笑）。

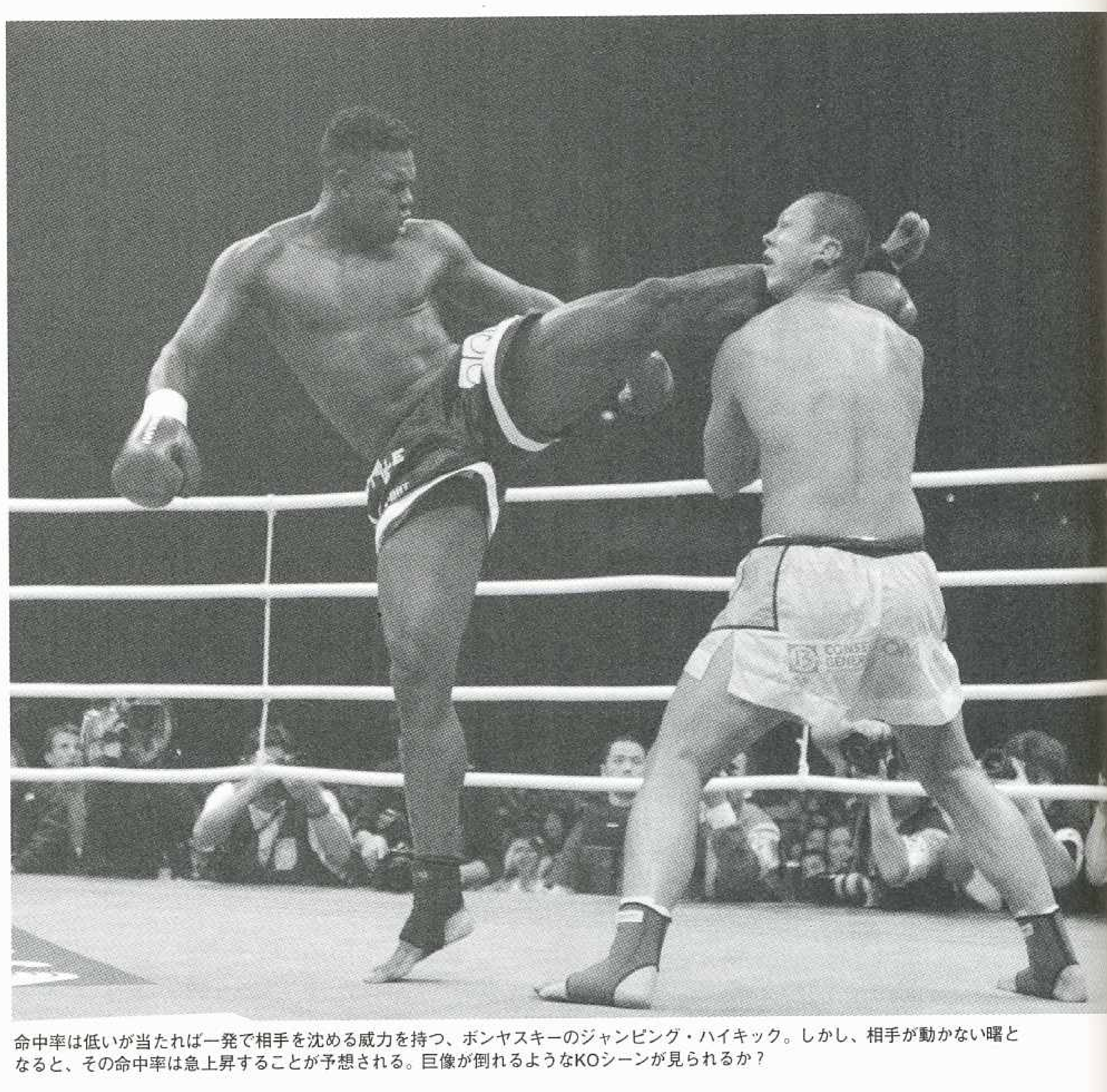
井上　おう！　石井&谷川の2人は大馬鹿だったとなれば、絶縁ですよそんなもん！　でもそういうことはあり得ないと思っとるから。谷川の旦那だってボーっとしとって、一見頭が悪いように見えるけれども、どっこい頭のいい男ですよ。だからなにもかもわかってやってるんだと思うよ。だから谷川を責めたらいかんですよ！

——そうせざるを得なかった理由があるわけですね。

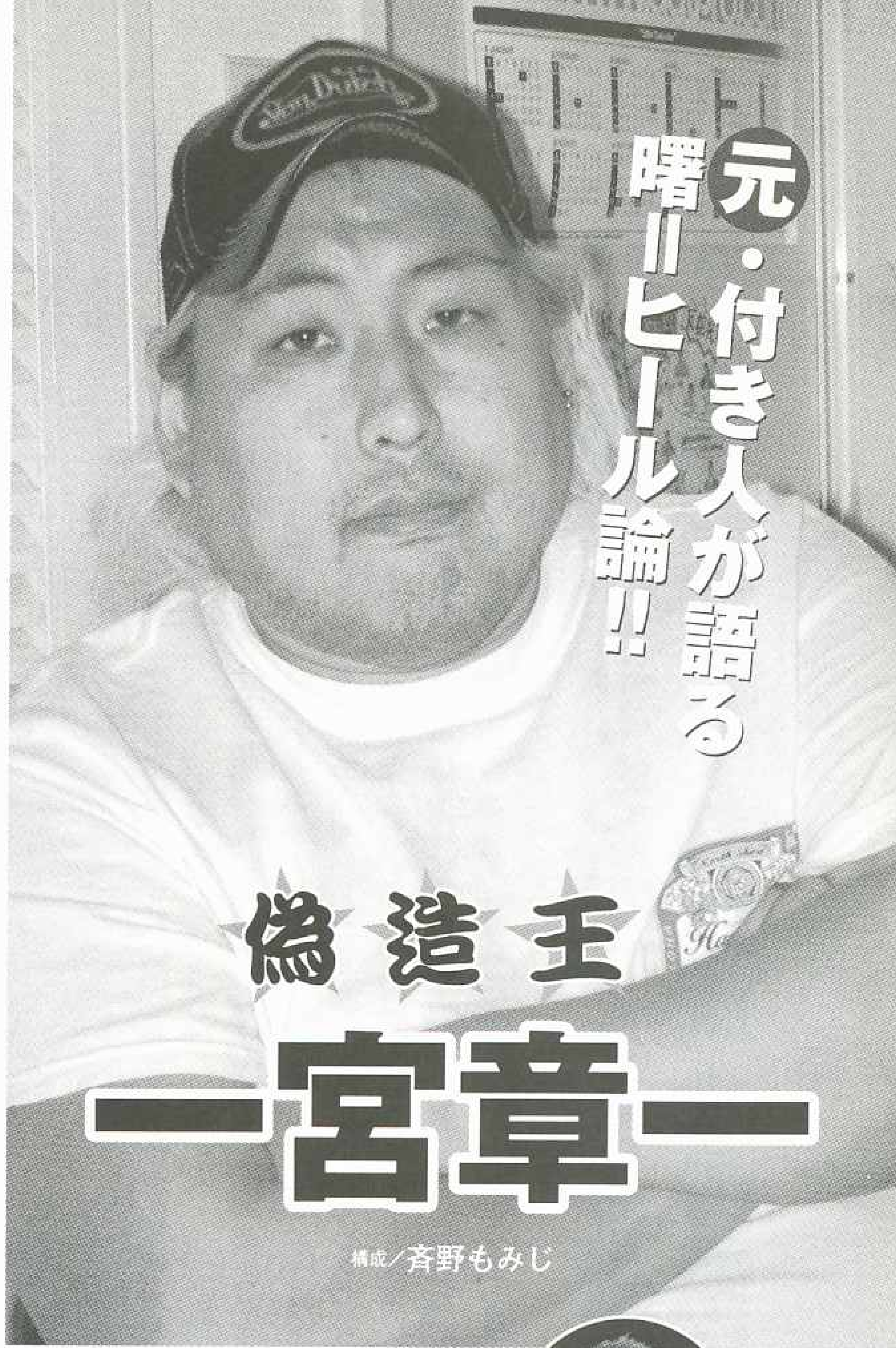
井上　そう。だから「なんで曙にこんなことさせたんだ、あいつは馬鹿か？」という論調は必ず出てくると思うけれど、それはハッキリ言って物事の真実を読み通せない人間の馬鹿さ加減ですよと。そんなことを言ったり書いたりするヤツこそが愚かであり、なんの洞察力も推理力も持ってないことをさらけ出して、「私は馬鹿です」とみんなに見せてるようなもんですよ！　これだけはハッキリ言っとくわ！

——曙vsボンヤスキー戦を組んだ裏にはどんな思いがあるのか見通せというわけですね。わかりました！　来月もよろしくお願いします！

【04年9月13日／電話取材にて収録】



命中率は低いが当たれば一発で相手を沈める威力を持つ、ボンヤスキーのジャンピング・ハイキック。しかし、相手が動かない曙となると、その命中率は急上昇することが予想される。巨像が倒れるようなKOシーンが見られるか？



元・付き人が語る 曙＝ヒール論!!

偽造王 一宮章

構成／斉野もみじ



曙は是か非か?

全面に出すしかないですよ!!

曙のことはコノ男に訊け！　ご存じの方も多いと思うが、一宮は〝偽造王〟という肩書きだけではなく先代・高砂親方（元小結・富士錦）の長男という〝ホンモノ〟の血を受け継ぐ相撲界のサラブレッド。更に同門の横綱だった曙の、マネージャー兼運転手を務めるという異例の経歴を持ち、その私生活をも知る、まさに〝マット界一の曙番〟である。そんな一宮に、K‐1における曙の是非について語ってもらった。

――今回は『曙は是か非か？』ということで、〝プロレス界で曙を最もよく知る男〟一宮さんにお話していただきたいなと思ったんですよ。

一宮　分かりました。横綱のことは僕に何でも聞いて下さい！（笑）。

――では早速ですが、ズバリ、曙選手がK‐1で全く勝てない理由は何だと思いますか？

一宮　リーチも足も長いんで、その部分はK‐1向きだと思うんですけど、上手く利用できてないですよね。

――一向に痩せる気配がありませんが、これからもあの体型で闘うんですかね？

一宮　横綱自身が「自分の身体を生かして闘いたい」って考えてるんで、絞る気は全くないですよ。あの身体があったからこそ、サップを諸手突きでコーナーに押し込む場面もあったんで、あの身体でいいと思いますよ。

――相撲の技術でK‐1に生かせるものはないですか？

一宮　ハッキリ言って、技術的なもので応用できるものはないですね。生かせるのは相撲で培ったパワーぐらいで。上手投げでオーバー・ザ・トップロープとかは狙えますけど（笑）。

――でも相撲取りの方って、ストリートファイトでは強そうですけどねえ。

一宮　強いですよ。よく相撲取りは、喉輪で壁に相手を押し込んで、もう片方の腕で顔面をグシャッといくんですよね。

――それは恐ろしいですねえ（笑）。

一宮　まあ、それもK‐1に応用はできませんけど（笑）。あと横綱がK‐1で勝つには、もっとワガママな性格を全面に押し出した方がいいんですよ。

――というと具体的にどういうことなんですか？

一宮　人は良いんですけど、性格は悪いんですよ。普段はホントにワガママで、完全にヒールですからね（笑）。

――今回もボンヤスキー戦を直訴したりして、GPの出場をごねてますからね（笑）。（9／13、曙VSボヤンスキー戦が決定!!）

一宮　やっぱり大相撲のテッペンまで上った人だし、江戸時代から始まって68人しかいない中の一人ですから、そりゃワガママにもなりますよ。歴代総理大臣より少ないですから。だからって何やっても許されるわけじゃないけど、ある程度のことは周りが目ぇつぶって言いなりになってきてますからね。そういう意味で横綱の秘めたる潜在能力を総て出し切るには、本人のいいようにやらせてあげるのが一番なんですよ。

――それはルール的なことですか？

一宮　それも含めて、総ての環境を横綱の好きなようにさせてあげたいですね。相撲時代から心が弱いって言われてましたけど、横綱は安心感を持ったときに120％の力を発揮するんですよ。そのときの横綱っていうのは、型にはまらない凄さとか強さがあったんで。今は不安でいっぱいだと思うんですよ。

――4連敗中なんで、もう負けられないっていうプレッシャーしかないでしょうからね。

一宮　甘いと言われようが、横綱に対戦相手を選ばせればホントの力が出るんじゃないかなって。サップ戦は別にしても、その後に闘った選手は、横綱が相撲時代に苦手だった貴闘力、安芸ノ島、舞の海とかとやらされてるようなもんですよ。横綱が力を出すのは武蔵丸、小錦との力勝負でしたから。

――サップ以外はタイプ的に技巧派や試合巧者の選手ばかりでしたもんね。

一宮　ああ見えて横綱は結構考えるタチなんで（笑）。相手がデカいと何も考えずにバーンといけるけど、小さくて何か仕掛けてくるような力士には、いろんなことが頭ん中を駆け巡っちゃって自分の相撲が取れない。だから横綱の望む環境・ルールとか全部ワガママを聞いてやった上で、デカい対戦相手と思いっ切りやってもらいたいなって思うんですよ。でもそこで名乗りを上げるK‐1ファイターっていないと思うんですよね。K‐1の懐の狭さですよ。逆にプロレスラーはすぐに名乗り上げるんですけどね（笑）。

――おいしいですもんね（笑）。では一宮さん的にも対戦は全然OKだと。

一宮　全然OKですよ。まあ、負けるつもりはないですね。殴り合って勝ちますよ！（笑）。K‐1ファイターは僕らが思ってる以上に横綱のパワーを脅威に思ってて、どうしても勝ち負けにこだわっちゃうんでしょうけど、横綱を殴り倒したときに得るものも大きいはずですよ。

――でもサップ以外の選手のパンチは、あまり効いてる様子はなかったですから、やりたくないでしょうね。

一宮　みんなクリーンヒットさせてるんですけど、パンチは効いてないですからね。

――谷川さんが「ダメージないんだけど、不機嫌になる」って言ってましたね（笑）。

一宮　心が折れるのが早かったからでしょうけど、相撲時代から突っ張りを喰らうのも嫌いな人だったんですからね。その代わり捕えた時の強さっていうのは凄いですけど、もしボンヤスキーとの対戦が決まったら、捕まえられないでしょうね。

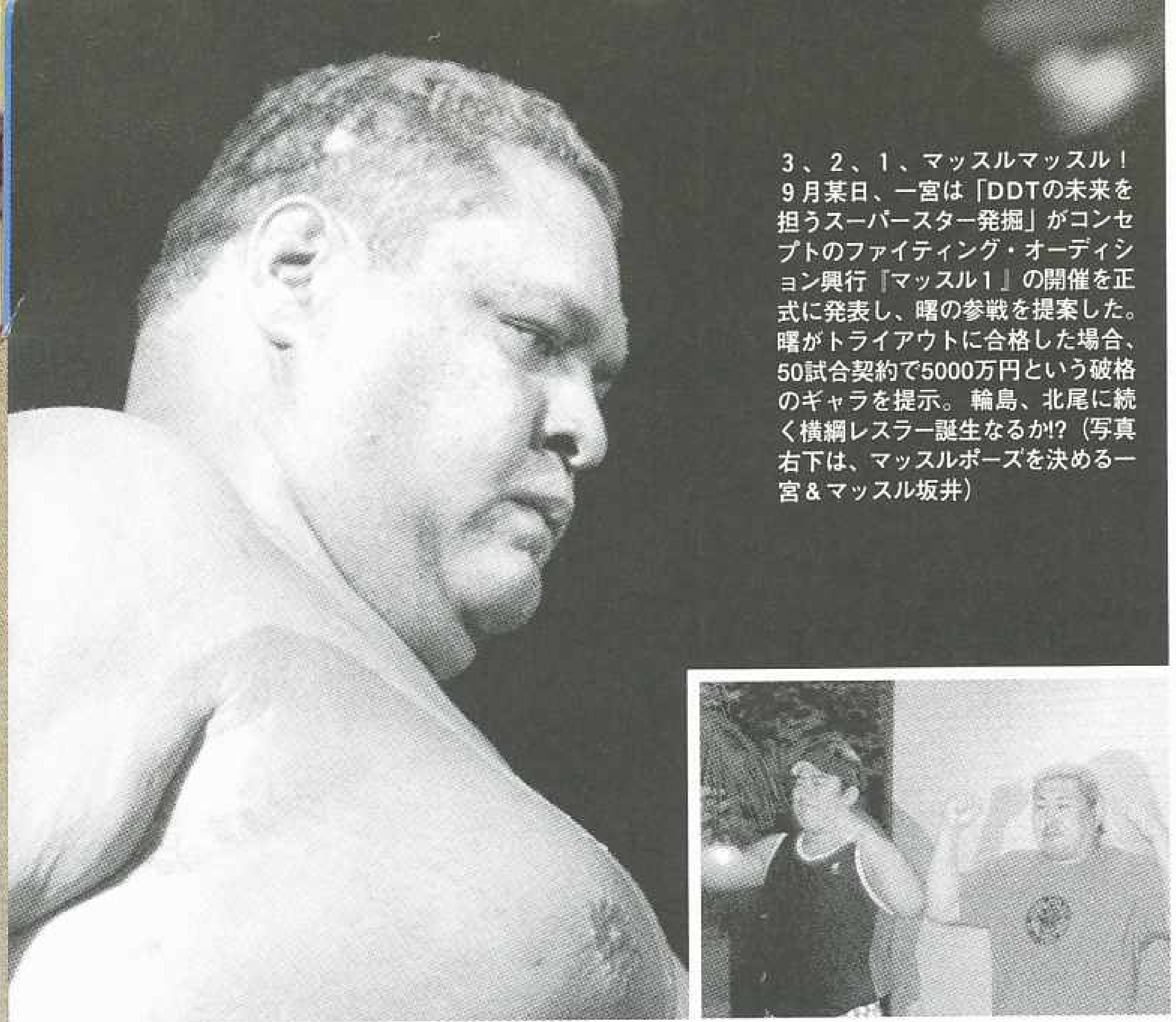
――またヒット＆アウェイの選手ですからね。

一宮　たとえ飛びヒザ蹴りとかで突っ込んできても、捉えられないですよ。K‐1って確かに勝負の世界なんですけど、興行っていうものの面白さを考えるんであれば、やっぱり横綱を生かすも殺すもカード次第ですからね。だから横綱の是非の以前に、カードを決める谷川さんが〝非〟ですよ（笑）。

――問題は谷川さんだったんですね（笑）。

一宮　これ以上商品価値が下がってしまわないように、相手を選ぶ必要がありますよね。

――ところが、曙選手の商品価値がますます下がりそうなバーリトゥードにも挑戦するっていう噂があるんですけど、谷川さんは「横綱は肩固め一本で世界を制する」って言ってるんですよ。総合では先輩になる一宮さんは



3、2、1、マッスルマッスル！ 9月某日、一宮は「DDTの未来を担うスーパースター発掘」がコンセプトのファイティング・オーディション興行『マッスル1』の開催を正式に発表し、曙の参戦を提案した。曙がトライアウトに合格した場合、50試合契約で5000万円という破格のギャラを提示。輪島、北尾に続く横綱レスラー誕生なるか!?（写真右下は、マッスルポーズを決める一宮＆マッスル坂井）

どう思いますか？

一宮　結果を出してない自分が言うのも何ですけど（笑）、確かに横綱に押さえ込まれたら返すのは厳しいと思いますよ。でも、まず横綱に倒される選手っていないでしょ。

――え⁉　相撲は通用しないんですか？

一宮　正直な話、通用しないですね（キッパリ）。経験からして、コーナーに詰めることはできるんですけど、その後っていうのは、柔道とレスリングの投げなんですよね。もし投げたとしても、気が付いたら相手が上に乗ってるっていう感じですね。

――総合には四つの体勢が多いですけど、そこからの投げも通用しないんですか？

一宮　相撲の投げにはまわしが非常に重要ですからね。投げさせないっていうことはできても、こっちからは投げられない。TK（高阪剛）のジムで吉田秀彦さんと練習させてもらったこともあるんですけど、簡単に転ばされましたからね。やっぱりオリンピックレベルは違いますよ。

――土俵とまわしがあってからこその相撲の投げなんですね。

一宮　そうです。横綱は確かに投げられないかもしれないですけど、タックルが切れるかっていうと、これまた無理ですからね。あといまの総合は打撃のレベルも高いので、K-1の技術をある程度マスターしないと、もっと惨めな結果になりますよ。

――ボコボコにされる横綱の姿は見たくないですからね。

一宮　でもいまの横綱がK-1とか総合の技術をどのぐらいマスターしてるかっていうと、まだ1%にも満たないと思うんですよ。あと99%の未知の部分があるんで、育て方とヤル気で大化けしますよ！

――大相撲の頂点に昇りつめる素質って、どう考えても凄いですもんね。

一宮　ファンの期待の高さの裏返しでしょうけど「曙ってダメじゃん」って見限るには、まだ早過ぎますよ。未だ見ぬ99%の部分を見せてくれるかもしれないし、デビューしてまだ1年経ってないわけですから。20歳で相撲界に入って、相撲一筋に10何年やってきた人間が、K-1というリングで再スタートを切ったわけですから、もうちょっと暖かい目で見守って欲しいですね。一発パンチが当たって、横綱に自信が出て、自分のスタイルが確立されればきっと勝てますから。だから横綱は"是"で、横綱を光らせられない谷川さんが"非"なんですよ！

――なるほど（笑）。

一宮　あとは、いまのK-1には自分を表現できる選手が少なくなってきましたから、そういう部分をプロレスを経験して勉強することを薦めたいですね。横綱は居るだけで存在感がありますから、マット界にとって凄く貴重な宝なんですよ！

K-1で勝つには、普段のワガママさを

――K-1で連敗してますけど、プロレスには影響しませんか？

一宮　プロレスファンは暖かいですから、北尾さんのときみたいにはならないですよ。今の横綱は自分で自分のことを弱いと思っちゃってるんですけど、強いんだから自信持って堂々としてもらいたいですね。ヒールならヒールとして、武蔵選手に反則しても謝らないで、貫き通して欲しかったし。そういう部分をプロレスで勉強してもらいたいんですよ。

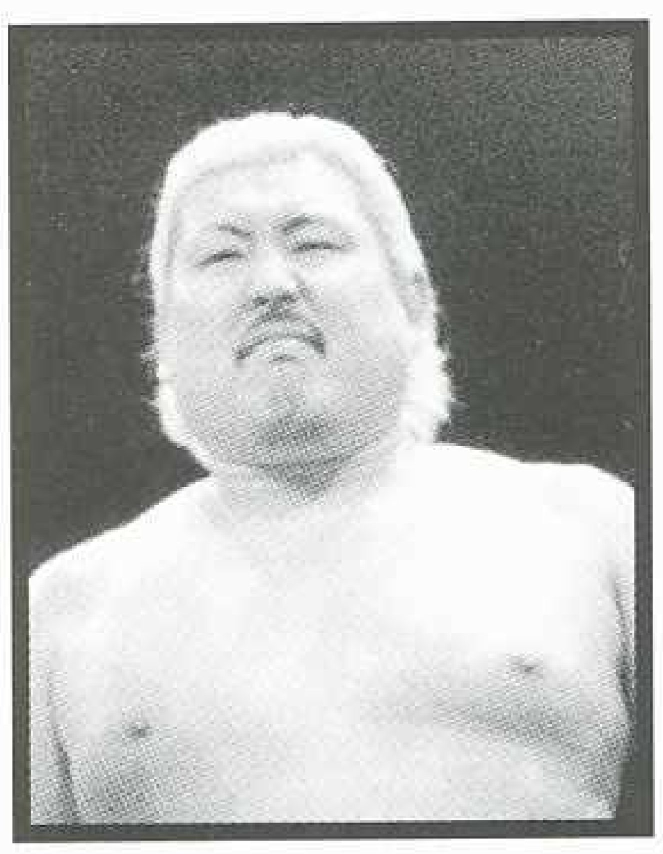
――でも本人はヒールにはなりたくないっていう感じですよね。

一宮　謝るぐらいだったら反則しなきゃいいんですよ、まったく！　根はヒールなんだから、そのままいけばいいんですって。

――ヒールとしてのキャラが確立すれば、またK-1での曙さんが面白くなりますよね。

一宮　そういうことです。横綱からはまだまだ目が離せませんよ‼

【04／8／29　DDT事務所にて収録】



profile

■いちみやしょういち　昭和44年2月14日、東京都出身。先代高砂親方（元小結・富士錦）の長男として生まれ、高見山、朝潮ら現役力士に囲まれて育つ。学生相撲では東日本準優勝、全国ベスト8入りを果たし、平成9年7月、WARでデビュー。団体崩壊後は高砂部屋に戻り曙のマネージャーを務める。平成12年11月20日、偽造有印私文証行使（いわゆる偽造免許証の使用）の容疑で逮捕され五大紙を飾るものの、"偽造王"としてインディー界に確固たる地位を築く。現在、そのレパートリーは50種を越える。180センチ、100キロ。

純度100%のK-1!?　曙VSボヤンスキー、緊急決定!!
『アルゼK-1 WORLD GP 2004 in TOKYO 開幕戦』

■日時　9月25日（土）■試合開始時間　17:00（開場 15:30）
■会場　東京・日本武道館　■チケット（全席指定／消費税込み）
VIP席（特典付き）　100000円　SRS席　30000円
スタンドSRS席　30000円　RS席　20000円
レミー・ボンヤスキー応援シート（特典付き）　20000円
武蔵応援シート（特典付き）　20000円
ジェロム・レ・バンナ応援シート（特典付き）　20000円
アーネスト・ホースト（特典付き）　20000円
レイ・セフォー（特典付き）　20000円／シリル・アビディ（特典付き）　20000円
S席　12000円／A席　7000円
■決定カード
【3分3R 延長2R】
ジェロム・レ・バンナvsフランソワ"ザ・ホワイトバッファロー"ボタ
レイ・セフォーvs天田ヒロミ／ゲーリー・グッドリッジvsマイティー・モー
アレクセイ・イグナショフvsガオグライ・ゲーンノラシン／武蔵vsシリル・アビディ
アーネスト・ホーストvsグラウベ・フェイトーザ／ピーター・アーツvsマイケル・マクドナルド
【スーパーファイト／3分3R 延長2R】
曙 vsレミー・ボヤンスキー
■問　FEG　03-3796-5060　■HP　http://www.so-net.ne.jp/feg/

元気と武田がダブルメインで登場！
『K-1 WORLD MAX 2004 ～世界王者対抗戦～』

■日時　10月13日（水）　■会場　東京・国立代々木競技場第一体育館
■試合開始時間　17:30（開場 16:30）　■チケット（全席指定／消費税込み）
SRS席　20000円
須藤元気応援シート　12000円（S席・特典つき）
山本KID徳郁応援シート　12000円（S席・特典つき）
武田幸三応援シート　12000円（S席・特典つき）
小比類巻貴之応援シート 12000円（S席・特典つき）
S席　12000円　A席　6000円
■対戦カード
【3分3R 延長2R】
9.須藤元気vsマイケル・ラーマ　8.武田幸三vsブアカーオ・ポー・プラムック
【総合格闘技ルール5分3R】
7.山本"KID"徳郁vsジャダンバ・ナラントンガラグ
【3分3R 延長2R】
6.ジョン・ウェイン・パーvsアースラン・マゴメドフ　5.安廣一哉vsサミール・ベルバーチ
4.ドゥエイン・ラドウィックvsウィリアム・ディンダー
3.小比類巻貴之vsアルバート・クラウス　2.大野崇vsマルフィオ"ザ・ウォーリヤータイガー"カノレッティ
1.小次郎vsマイク・ザンビディス
■問　FEG　03-3796-5060　■HP　http://www.so-net.ne.jp/feg/

エッ？ こっちにも曙参戦!?
K-1軍vs伊原軍の対抗戦!!
『TITANS 1st』

■日時　11月6日（土）
■会場　福岡・北九州メディアドーム
■試合開始時間　16:00（開場 15:00）
■チケット
SRS席　50000円
S席　30000円
A席　20000円
B席　10000円
■K-1選手出場候補
曙、マイク・ベルナルド、
マイケル・マクドナルド他
■問　JICプロモーション
093-512-2211
■HP
http://www.shinnihonkickboxing.com/

ザ・検証 出張版!!



曙は是か非か？

【今月の検証 椎名基樹】曙とK-1について

『曙は是か非か？』ということであるが、正直、俺は曙の試合、というか最近のK-1をあまり熱心に観ていないこともあって、その質問の意味もよく解りかねる。「どっちでもいいんじゃん？」と率直に思うので、このテーマが投げかける意味にもピンとこないから、なぜこんな話題で盛り上がれるのか疑問にすら思う。

だから、質問の意味それ自体を理解しようと努めると、「是か非か」ということは、要するに元横綱が他の格闘技の舞台に上がる価値と、みっともない試合で4連敗を喫している曙の存在が、K-1、PRIDEをはじめとする格闘技全般の信用を下げることとを天秤にかけて、「どっちが得なのか？」ということなのだろう。そんなもの普通に考えて、目先の利益よりも、根本に流れるイデオロギーの方が大事に決まっている。真剣勝負のスポーツであるというイデオロギーだ。そう考えれば「非」に決まっている。余りにも負け方がみっともないし、この先、曙が強くなる可能性も大きな疑問だ。曙を、そしてサップを茶番だと感じている人もたくさんいて、なんか面白くて大きい人が年の最後に見世物になっていると感じているのが、普通の視聴者の感覚であろう。ちょうど初詣の神社に出るテント張りの小屋が、よりエンターテーメント化されて、お茶の間に登場しているようなものだ。

もっとも俺自身は、そういったイカガワシイものを愛しているし、イベントの根本は、どんなに金をかけてメジャーになろうとも、そういったイカガワシさだろうから、その意味では曙は最上級の登場人物で、ならば質問の答えは「是」と答えなければならない。

そもそも、このテーマが意味があるように感じられた理由は、曙個人の存在がどうのこうのではなく、K-1という概念自体が揺らいでおり、それを象徴するのが曙だからであろう。

K-1の「K」は、言うまでもなく空手、キックボクシング、カンフーなど立ち技格闘技の頭文字をとったものだ。その中の最強を決めるための最大公約数的なルールで闘うというアイデンティティーで始まったのがK-1であり、つまりK-1という名前には、競技名の要素が元来入っていたのだ。そして、多少こじつけがましいが、このK-1というキャッチーなネーミングセンス良さが、実はK-1躍進の大きな原動力になったと思う。

しかし、最近の『K-1 ROMANEX』、『K-1 WORLD MAX』などは『欽ちゃんのどこまでやるの！』（古い？）、『欽ちゃんのドンとやってみよう！』（ヤバイ？）と同じように、K-1という言葉が、だたのテレビ番組の冠名になっている。

K-1とは何か？　それがいま実に曖昧だ。だがこれは、最近各テレビ局にK-1が手を広げたために起こった現象ではなく、実はK-1は最初から曖昧だった。小さい頃の『紙プロ』で、「K-1って要するにキックボクシングですよね？」と石井館長に訊ねると、館長は「おっしゃる意味がわかりません！（↑この言葉、未だに時々ギャグとして使わせていただいてます）」と、敬語だからこその威圧感で応えたが、確かにK-1は最初から新スポーツとして演出された、ほとんど既存の競技だった。だが、K-1という名前は斬新で、何かものすごく新しいものに見えた。

正確にいうと、K-1はキックボクシングというよりも、キック有りのボクシングであり、首相撲などクリンチ状態からの攻撃を排除した、総合格闘技性からすると、ある意味後退したルールのスポーツのように思う。

そして『K-1とは何か？』を考えるとき一番大事なことは、最強の男とはトーナメント、つまりK-1 WORLD GP決勝戦の覇者であるという部分だ。K-1がチャンピオンを設定せずに、トーナメントをもって最強の男を決定してきたのは、イベント的な派手さもあっただろうが、実は純粋に正道会館が空手であるというアイデンティティー、ひいてはK-1がただのキックボクシングではないという自負によるところが大きかったではないかと、俺は思う。

しかし、そのGPというシステムも、ミルコが「今年も優勝はホーストだろ？」と揶揄したように、誰が一番強いのかわかりにくくし、顔ぶれが同じになるマンネリ化といった弊害ばかりが目立ってきた。GPの価値が崩壊し、そしてMMAという本当に新しいスポーツが登場したとき、新スポーツに見えていたものの、本当の姿が見えてきたように思える。もちろん、ヘビー級の選手がガチでやり合うK-1は画期的だったし、すごく興奮させてもらった。

横道が長くなったが、そうした辻褄が合わなくなってきたK-1に登場したのが曙である。いまK-1を元来の格闘技の緊張が溢れる世界に戻そうとしているみたいだが、もしそうなっても最先端の輝きはないだろう。だから曙は今のK-1にとっては、なくてはならない「是」の存在だと思うし、実にK-1らしい選手である。一度そっちに振った針は、断固として振り続けるしかない。

PS　だからPRIDEはGPに熱を入れるのはやめて、ベルトの価値を高めた方がいいと思う。



日本全国何千万人という人々が、曙vsサップの怪獣対決で一年を締めくくってしまった2003年の大晦日。うっかりもいいとこである。しかし何だかんだ言って今年の大晦日も、我々はイカガワシさに包まれた谷川マジックに翻弄されてしまうのだろう……。

日本マット界最年少美人代表が語る WJ、そしてリキプロ



立石 史

何がやりたいんだ、コラァッ!! インタビュー

日本プロレス界、最年少美人代表が誕生! 彼女の名は立石史。若干23歳の女性である。WJ選手会から発展した形でリキプロ代表となった彼女は短大在籍中にアルバイトとしてWJへ飛び込み、卒業後は正式に入社。選手&フロントが次々と抜けていくのを横目で見ながら最後の最後までWJに残った自称・トンパチガールなのである。『紙プロ』とも意外な接点のある立石代表に、WJ時代のエピソードから、リキプロの今後、そして長州力のことまで、サクッと語ってもらいました!

聞き手/松澤チョロ 撮影/堀江ガンツ designed by shiraki (Two Three)

―日本マット界最年少＆美人代表として、いま話題の立石代表ですが、今日はいろいろ話を聞かせてください！

立石 よろしくお願いします！

―『週プロ』では"ド真ん中の女"ってキャッチフレーズが付けられてましたけど、どうですか、代表になった感想は？

立石 その"ド真ん中の女"っていうのはやめて欲しいんですよ。なんか意味深に受け取る人もいるんで（笑）。

―たしかに"ド真ん中の女"って言われると、長州さんの女なんじゃないかって思う人もいるでしょうね（笑）。

立石 そうみたいなんですよ（苦笑）。『週プロ』で焼き鳥持って「あ～ん」とかしてましたしね（笑）。

―あの写真の長州さんの笑顔は最高でしたね（笑）。

立石 でも、そういうのは全然ないですから。どっちかというと、お父さんみたいな感じっていうか（笑）。

―年齢的にはお父さんでも全然おかしくないですからね。

立石 娘って感じだと思います。でも仕事は仕事として、ちゃんとやってってますけどね。

―でも、リキプロは実質、スタッフは立石さん1人だけなんで、かなり忙しいんじゃないですか？

立石 忙しいですね。ホント、全部1人でやってるんで。興行のこともそうだし、総務的なこともそうだし、広報の仕事もそうだし、営業もアシスタントというか、手配みたいなこともやってますし、全般的にず～っと、いろんな仕事をやってるんで、いつまでたっても仕事は終わらないです（苦笑）。

―立石さんの経歴とか知らない人が多いと思うんですけど、どういう経緯で、この世界に入ってきたんですか？

立石 私はWJに入る前は短大に通ってたんですけど、その頃からプロレスの仕事がしたいと思ってたんですよ。それも裏方の仕事がしたいなって。

"ド真ん中の女"っていうのはやめて欲しい。なんか意味深に受け取る人もいるんで（笑）



―レスラーになりたいっていうのはなかったんですか？

立石 レスラー志望ではないです（笑）。それで、ずっとプロレスとか格闘技関係で就職活動をしてたんですけど、その時期にWJが会社を設立したっていうのが雑誌に載ってたんですよ。

―じゃあ、雑誌でWJが社員募集をしてるのを見て応募したと？

立石 いや、WJは社員募集はしてなかったですね（笑）。

―エッ!? じゃあ、どうやって入社したんですか？

立石 とりあえず、直接、履歴書を持っていって強引に面接していただいてって感じです（笑）。最初はアルバイトとして入れてもらったんですけど。

―凄い行動力ですね（笑）。WJ以外にも他の団体とかに履歴書を送ったりしてたんですか？

立石 いろいろと送ってましたね。でも履歴書出しても「いまは募集してないんで申し訳ありません」みたいな感じで、事前に断られちゃうパターンが多かったんですよ。

―でも、それはまだいい方で、業界的には履歴書送っても音沙汰なしっていう方が多いと思いますよ。

立石 ですよね。結構、あらゆる団体に送りましたから（笑）。

―それほどプロレス界に就職したいって気持ちが強かったわけですか。

立石 そうですね。私はプロレスに限らず、格闘技とかのイベントも好きで、よく見に行ってたんですけど、その盛り上がり方とかに惹かれて、これを裏方で作っていきたいなって思って、この業界に入りたいと思ったんですよ。

―ちなみに短大では何科だったんですか？

立石 あんまりプロレスとは関係ないんですけど、短大は秘書科でした（笑）。

―あ、秘書科でしたか（笑）。立石さんは英語ができますよね？ それっていつ頃、学んだんですか？

立石 英語はできるって言うほどでもないんですよ、ホントは。履歴書とかには書いちゃうんですけど（笑）。

―アハハハハ！ でも日常会話ぐらいは普通にできるんですよね。

立石 そうですね。それは中・高でホームステイしてみたりして覚えたとか、その程度です。特に英語を勉強してたっていうほどでもないんで。

―ちなみにWJ以外に採用通知が届いたところはあったんですか？

立石 え～と、蹴ったところはないんで、採用はなかったです（笑）。

―WJっていう団体については、どれぐらい理解して入ろうと思ってたんですか？

立石 正直あまりよくわかってなかったです（笑）。

―あ、やっぱり（笑）。

立石 履歴書持って行った時は、長州さんと永島さんで団体を立ち上げましたって記者会見をしたぐらいの頃だったんで、全然どんな感じになるのかとか、どんな選手が来るかとかわからない状況で。それに私はプロレスが好きで入ったんですけども、凄い昔から好きだったわけではないんで。

―ファン時代に好きな団体っていうとどの辺になるんですか？

立石 どこっていうか、私はプロレス全体が好きだったんですよ。日本のプロレスもWWEもメキシコのルチャとかも同じぐらい好きでした。

―『週プロ』とか『ゴング』といった専門誌も買ってたんですか

立石 買ってましたね。それも、そんな昔からじゃないんで、皆さんのように長州の全盛期とかそんなに知らないんですよ。だから、そういう意味ではWJっていう団体にそれほどピンと来てなかったっていうのはありますね。

―年齢的に長州さんの全盛期は知らなくても不思議はないですからね。

立石 でも、長州力が有名な選手っていうのはもちろん知ってたし、知識として「噛ませ犬事件」みたいなのは知ってるんですけどね。

―じゃあ問題ないと思います（笑）。それで、かなり前に『紙プロ』でチラッと書いたことがあるんですけど、立石さんは実は『紙プロ』の面接も受けてるんですよね？（笑）。

立石 はい。見事に落とされちゃいましたけど（笑）。

―その後、WJで立石さんを発見した時はかなり驚きましたけどね（笑）。

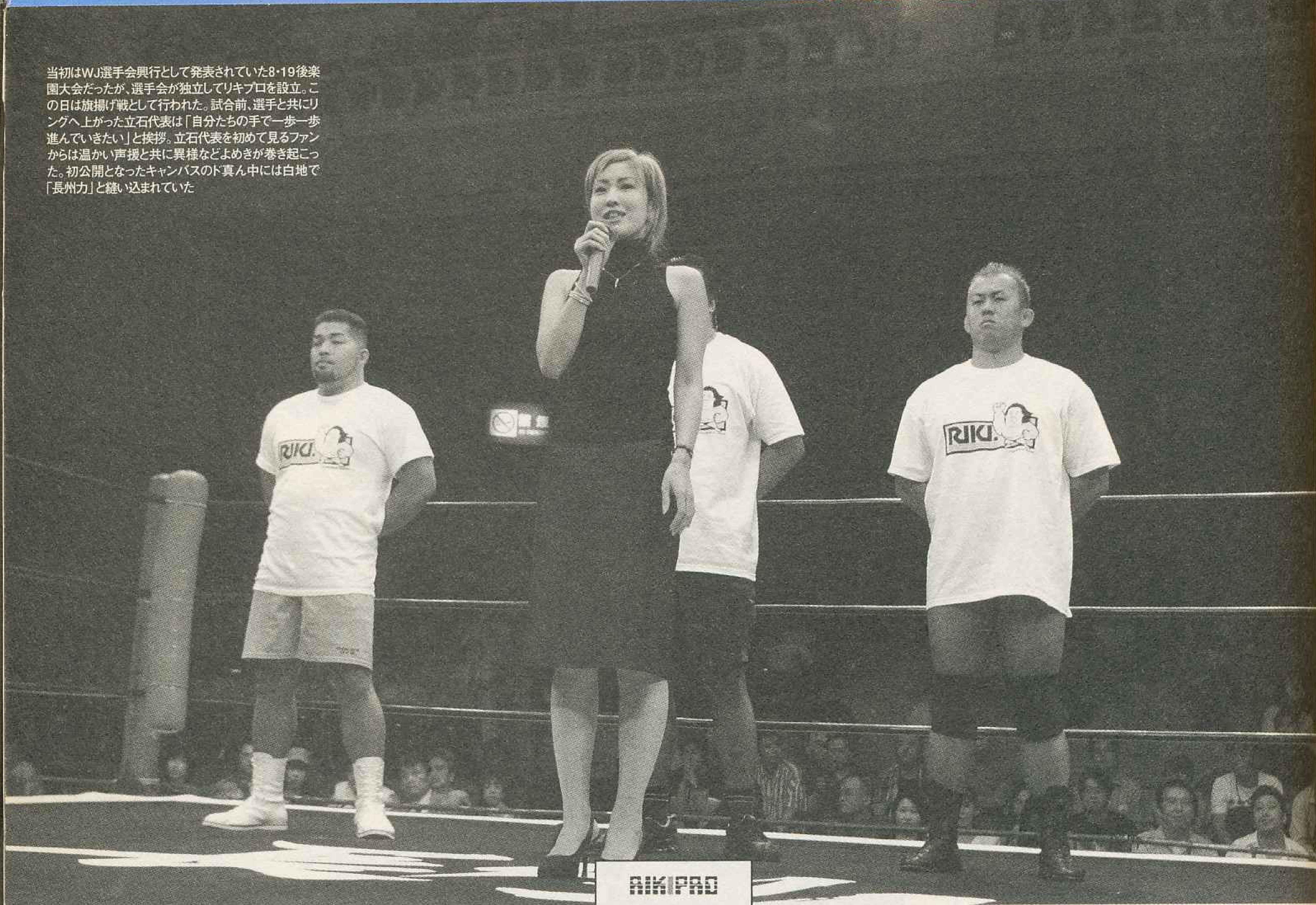
立石 『紙プロ』さんはダメでしたけど、WJは採用してくれたんで（笑）。

―それが気がつけばリキプロ代表ですからね。ホントこの業界は何が起こるか全くわかりませんよ（笑）。

立石 私もまさかこんなことになるとは思ってませんでしたからね（笑）。

―ちなみに『紙プロ』には何で入ろうと思ったんですか？

祝! プロレス生活20周年!!



当初はWJ選手会興行として発表されていた8・19後楽園大会だったが、選手会が独立してリキプロを設立。この日は旗揚げ戦として行われた。試合前、選手と共にリングへ上がった立石代表は「自分たちの手で一歩一歩進んでいきたい」と挨拶。立石代表を初めて見るファンからは温かい声援と共に異様などよめきが巻き起こった。初公開となったキャンバスのド真ん中には白地で「長州力」と縫い込まれていた

RIKIPRO
Fumi Tateishi

立石　ちょうど就職活動してた時に友達が「『紙プロ』で募集してるよ」って教えてくれて応募したんですけど、でも私、よく考えたら文章とか書けないんですよ（笑）。

――いや、そんなことないでしょう。

立石　でも、他もずっと断られてばっかだったんで、どうにか潜り込めないかなと思って、ホントは履歴書を先に送って、お返事いただいて面接っていう段取りだったと思うんですけど、私、無理矢理押し掛けたんですよね、『紙プロ』さんに電話して。

――WJの時と一緒ですね（笑）。

立石　「企業訪問させてください」って電話して、そのまま面接に雪崩れ込ませていただいたんですよ（笑）。

――あ、思い出しました（笑）。大体、『紙プロ』に企業訪問させてください」なんて言われたのは初めてだったんで、わけもわからず「お待ちしてます」って言った記憶がありますね。でも凄いよなぁ。『紙プロ』の面接を受けた人が、あれよあれよという間に代表ですからね（笑）。

立石　でも、それって上がってるのか下がってるのかわかんないですけどね（笑）。

――どうなんでしょうね（笑）。でも、WJ入社後はいろんなことがあったと思いますけど、正直思うのがよく続いたなってことなんですけど（笑）。

立石　それはみんなに言われますね（笑）。たぶん、元々の性格が、ちょっとトンパチなんだと思いますよ。

――エッ、周りからトンパチとか言われたりするんですか？（笑）。

立石　言われるんですよ（笑）。それに、周りを見渡しても同世代の友達でプロレス団体の代表やってる人なんていませんからね（笑）。

――そりゃ、いませんよ！（笑）。

立石　そうですよね（笑）。

――でも代表になって、単純に若いとか、女性っていうのもあるだろうし、まして長州さんのところっていうのもあるし、いろいろと言われたりもするんでしょうけど、結構この状況を楽しんでるところもありません？

立石　正直ありますね（笑）。

――さすが、トンパチ（笑）。

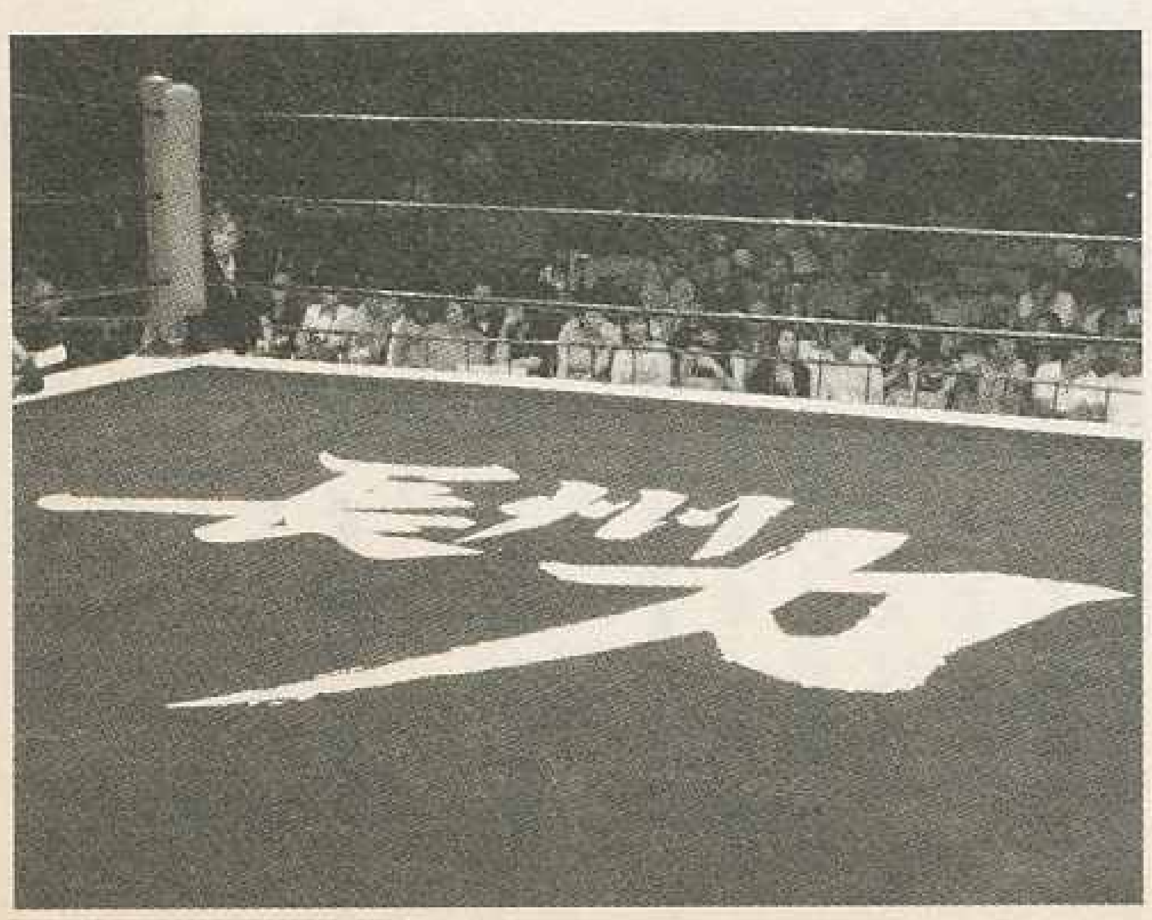
立石　でもやっぱり、不安の方が全然大きいですけどね。

――当然不安もあるでしょうね。

立石　いまは、なったばっかりだし、いろいろマスコミさんにも取り上げてもらってますけど、そうやって一回でも注目を集めさせちゃったら、次になんかコケた時に何倍にもなって返ってきたりとか、逆になんの反応もしてもらえなくなったりとかするじゃないですか？　そう考えると不安ですよね。

――まあWJは散々注目を集めたあげく、コケてばっかりでしたからね（笑）。

立石　そうそうそう（笑）。その怖さは良く知ってるつもりです（苦笑）。



――ＷＪへは福田社長の面接を受けて入社したんですよね。
立石　はい、そうです。
――福田社長はＷＪの社長としてはともかく、人間としては凄く魅力的な人だと思うんで、インタビューしたかったんですよ。残念ながら途中でフェードアウトされちゃいましたけど。
立石　そうなんですよね。私たちも何も知らされないうちに社長が代わったりして驚きましたからね（笑）。
――そうだったんですか（笑）。
立石　ＷＪの時っていうのは私以外にも女の子のスタッフが何人かいましたけど、そういう末端の人間には何にも知らされなかったですからね。
――上で何が起こってるか全くわからなかったと？
立石　そうそうそう。試合とかでも誰が欠場したとか、そういうのとかも試合が終わってから『紙プロＨａｎｄ』とかで結果を見て「エッ、●●は欠場なんだ」みたいな感じで（笑）。
――アハハハハ！　そういうのが当り前だったわけですね（笑）。
立石　はい（笑）。でも、わかんないですよ。そういうのがプロレスの会社って普通なのかもしれないですし。
――ＺＥＲＯ―ＯＮＥとかでも、それこそ携帯サイトを見て「何も聞いてないけど俺の名前がカードに入ってる」とか、よくあるみたいですからね（笑）。
立石　やっぱり、そうなんだ（笑）。
――藤波さんも社長時代は『東スポ』を見て自分の会社のことを知るっていうのが有名でしたからね（笑）。
立石　さすがに社長が知らないのはまずいと思いますけどね（笑）。
――でもＷＪっていうのは、旗揚げ当初は事務所もメチャメチャ立派だったし、社員も凄い人数がいて順風満帆のスタートだったじゃないですか？
立石　そうでしたね、そういえば（笑）。

『紙プロHand』とかで試合結果を見て「エッ、●●は欠場なんだ」みたいな感じで（笑）

――アハハハハ！　いつぐらいから、「これはヤバいんじゃないか？」って感じてたんですか？
立石　う〜ん……やっぱり、人が減っていったじゃないですか？
――ドンドン減っていきましたよね。
立石　急にドカ〜ンっていうんじゃなくて、段々段々なんですよね。
――一番わかりやすいのは、谷津さんが『東スポ』で給料未払いを暴露した時なんじゃないですか？
立石　あぁ、そうですね……それです。
――谷津さんが辞める前後で、社員も何人か抜けちゃいましたからね。立石さん的には、その時期に辞めようとか考えたりはしなかったんですか？
立石　これは言っていいのかわかんないですけど（笑）、最初は社員には支払われてたんですよ。
――選手に未払いはあったけど、社員にはちゃんと払われてたんですね。
立石　最初の頃だけなんですけどね（笑）。なので、辞めるとか辞めないとか、正直あんまり深くは考えてなかったんですよ。
――とは言っても、谷津さんの後にも、健介さんや健想さん、越中さんなんかもフリー宣言しちゃいましたよね？
立石　気がついたら、片手で数えられるぐらいになっちゃって（笑）。
――選手だけじゃなくて、周りの社員もドンドン抜けていっちゃったじゃないですか？　その頃はさすがに辞めようかなって考えたんじゃないですか？
立石　う〜ん……、事務所のスタッフで私と一緒にやってた人って、女の子4人だったんですよ。
――まきさんとか、越中夫人の廉沢さんとかいましたよね。
立石　そうです。あと某雑誌で吉田豪さんにインタビューされたミスターＸの子と（笑）。
――いましたねぇ（笑）。
立石　たぶん、その4人の中で私以外は別にプロレスが好きで入ってきた人じゃなかったと思うんですよ。
――廉沢さんも元スチュワーデスですからね。



“業界のド真ん中を突っ走る”と宣言しマグマのような熱さで発進したWJ。旗揚げ前にはインディーでは名前の知られた石井、高智、宇和野の3人が長州の指導のもとイチ若手レスラーとして入団。新日並の広々としたオフィスで順風満帆なスタートを切ったかに思われたがWJだったが……数ヶ月後には給料未払い等を『東スポ』で暴露した谷津がオリャっと退団。そして度重なる病気に悩まされた高智も知らぬ間に現役を引退していた

立石　ですよね。その後に新日本さんに行ってキャリアもあって、そういう部分でヘルプを要請されてっていう感じでＷＪに来たっていうのもあるし。まきさんに関しても、凄いお仕事ができる人なんですけども。
――もともとプロレスファンだったわけじゃないと？
立石　全然全然。永島さんの知人の紹介みたいな感じで。もう1人も、そこそこプロレス好きだけど、そんなになっていう感じだったんで。そう考えると私は好きで入ってきたんだし、それに結婚してるわけでもないし、1人でチマチマやってるだけだから、「まだ平気かな？」「まだ平気かな？」っていう感じでいまに至る、みたいな（笑）。
――でもプロレスに限らず、好きで入って来た人って、逆に中に入ると嫌なところが見えたりして離れるのも早いって言いますよね。
立石　よく言われるんですけどね。たしかにＷＪでは「こんなことやっても意味ないのに」とかよく思ってました。
――端から見ててもそれは感じましたからね（笑）。
立石　そうですよね。システムとか、あとしきたりみたいなこととか。
――それはプロレス界特有の？
立石　そうだと思います。わかんないですけど、いまでも（笑）。
――他の世界ではやらないだろうなってことが周りで普通に行われ続けてたわけですね。
立石　そうそうそう。「それってどうなのかな？」ってことが凄いあったし、そういうのを見てると「直せばいいじゃん」って思うじゃないですか？

祝! プロレス生活20周年!!



見てみ、この笑顔! 写真は健想入団会見時のものだが、入団時からの希望が叶い現在はKENZOとして夫人と共にWWEで活躍中。越中は夫人と共にオフィスK2を設立しNOAH、ZERO-ONEを中心に活躍。両端の長州と保永レフェリーは強い絆で結ばれ現在も行動を共にしている。立石代表も、わずか数年後に代表になるとは夢にも思っていなかったはず

AIKIPRO

Fumi Tateishi

――思うでしょうね。

立石 でも、「しきたりだから」とか「昔からこのやり方だから」って言われて丸くおさめられるのが納得いかなくて、そういうのは凄い嫌だなぁって思ってましたね。

――前に聞いたことありますけど、福田社長とか、どこに行くにも千疋屋の10万円のメロンとか持って行ってたらしいですからね（笑）。

立石 そうそう（笑）。それはホントなんですけど（笑）、別にそれはプロレス界のしきたりじゃないですよね。

――プロレス界っていうより、福田社長のしきたりでしょうね（笑）。

立石 表向きは見栄を張って、みたいな。まあ、興行会社だから、そういうふうなことも宣伝みたいな感じで大事なのかもしれないけどね。

――勢いがある時だったら全然いいんだと思うんですけど、未払い云々とか報道された後とかも、丼勘定だったって話を聞きましたからね。

立石 そうなんですよね。悪いことが起きちゃったら、まず最初は、そういうふうにならないように考えて、計画立ててやっていったり、どうやってカバーしていくかを考えなきゃいけないのに、それもちゃんとカバーできなくてっていう感じでドンドン落ちていっちゃったじゃないですか。

――そんな感じでしたよね。

立石 それを口で言うのは簡単なことだと思うし、大変は大変なんだろうけど、一つ一つでもやっていけることをなんでやっていかないのかな？っていうのが凄いありましたね。

――端から見ても、それは感じてたくらいだから、中にいたら余計そう思ったりしたんでしょうね。

立石 そうですね。それに、WJって長州が団体の顔じゃないですか？

――それは間違いないですね。

立石 だから、内部のゴタゴタとか、たとえばスタッフのミスで会場を押さえたつもりが押さえてなかったとか。

――後楽園でボクシングとダブルブッキングとかもありましたからね（笑）。

立石 そういうのは明らかにスタッフのミスなんですけれども、結局、全部、長州が被っちゃうじゃないですか？

――そうなっちゃいますよね。

立石 で、「長州は信用ならない」と。だから、試合も見に来ないって感じでドンドンお客さん減っちゃうじゃないですか？ 試合の内容云々以上にそれが大きかったと思うんですよ。

――たしかにWJはリング外の話題で信用を落としちゃったところはありましたよね。永島さんなんかは会見の度に「近いうちにデカイことをやる」とか言っちゃってましたからね（笑）。

立石 何回言いました、それ？

――数え切れないですね（笑）。

立石 とにかく、どうにかして、ごまかそうっていうのが染み付いちゃってるんでしょうね。

――『週プロ』でも、ちょっと書かれてましたけど、立石さんは、永島さんだけじゃなく、福田社長に対してもかなり意見を言ってたみたいですね。

立石 正直、無責任だなって感じましたね。私なんてホント、末端社員でしたけれど、なんて無責任なんだろうっていうのは凄い思いましたよ。

――末端社員とはいえ、このままじゃダメになっちゃうっていう危機感もあったんでしょうね。

立石 それはありましたね。会社の状況って、末端にいてもなんとなくわかるじゃないですか。でも、「ちょっとお給料遅れるから」みたいなこととか正式な通達とか何もないんですよ。給料



残念ながら一度きりで終わってしまった金網VT大会『X—1』。個性豊かな外人選手の数々、健介&中嶋クンの試合、酔っ払ったドン・フライからのメッセージ、そしてトドメは壊れかけた金網と今見ても十分楽しめます

日に銀行に行って「あれ？　入ってないんだけど」みたいな（笑）。

——それは困りますよね（笑）。

立石　そういうのがあると、会社の状況が良くないってわかるんですけど何も言ってこない。でも報道を見ると、いろいろ書かれてるじゃないですか？

——『東スポ』とかには必要以上に事細かに書かれてましたからね（笑）。

立石　「報道だから、ある程度オーバーに書いてるんだろうな」って思ってたんですけど、どうやらホントなんだって気づいて（笑）。

——『東スポ』は正しかったと（笑）。

立石　そうそう（笑）。そういうのあってスタッフもドンドン減ってきてたし、これからどうするのかっていう方向性だけでも言ってくれないと困るじゃないですか？　なくなるならなくなるでもいいし、存続していってどうするっていうのをハッキリ言ってくれないと頑張りようがないっていう話を永島さんにしたんですよ。

AIKIPRO

Fumi Tateishi

——そういう話をしてる時に、たまたま福田社長が入ってきたんですよね。

立石　「そうだよ、専務。しっかりやらないとダメだよ」みたいな感じで言ってたんで、私はカチンと来ちゃって「社長！　そこに座って下さい！」って言ったんです（笑）。

——アハハハハ！　福田社長を座らせましたか（笑）。

立石　「な、なんだよ!?」みたいな感じでしたけどね（笑）。

——それぐらいの時期にボクも立石さんに「辞めた方がいいんじゃない？」って話した記憶があるんですけど、こうなったら最後まで見届けたいみたいなことを言ってましたよね。

立石　そうですね。たぶん意地もあったんだと思うんですけど、このまま悪い状態が何年も続くことはないっていうのも思ったんですよ。

——また、ポジティブですね（笑）。

立石　完全にプツッてなくなるか、バラバラになったとしても、いまみたいにちっちゃい形でいれるかなとか思ったんで、まあもうちょっと様子を見てみようかなと。でも、タイムリミット決めてたんですよ、あの時点で。

——タイムリミットは、どれぐらいに設定してたんですか？

立石　自分の中で「あと半年」とか決めてたんですよ。このままダラダラやっててもあれだしって思って。

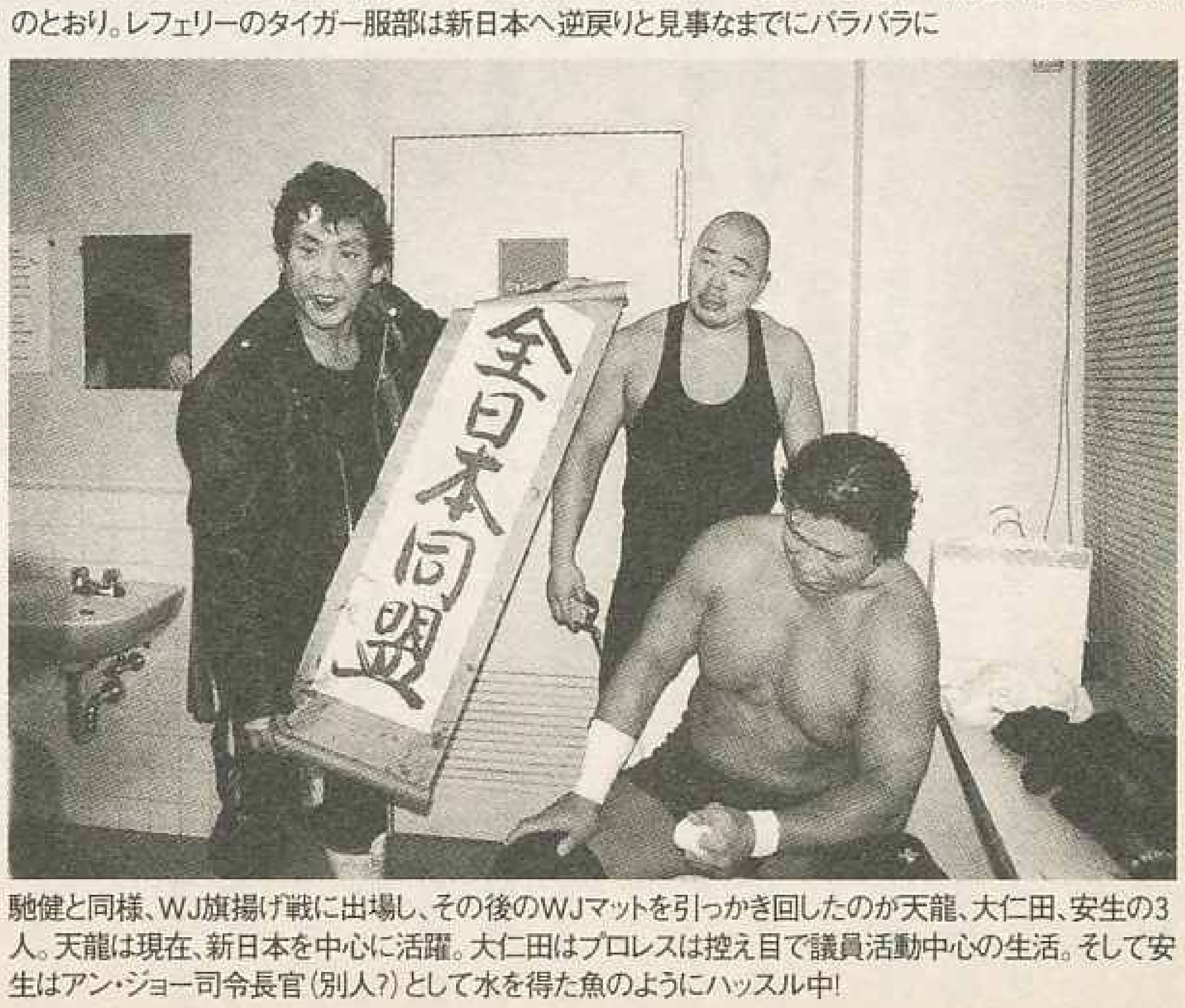
——なんかしらの改善策が見られなかったらキッパリ辞めようと？

立石　そうです。でも、その半年の中で自分もベストを尽くそうって決めて、やっていったら……こういうふうにしようかっていうような話になって、で、リキプロになったんですよ。

——ちなみに、WJっていう団体名にはどういう印象がありますか？

立石　自分自身はWJでいろいろ経験をしてきたし、もちろん嫌な思い出っていうのもありますけど（笑）、でも実際には勉強になった部分っていうのも


WJ旗揚げ戦で久々にタッグを結成した馳健コンビ。対戦相手のボビッシュは現在は高田モンスター軍の一員。馳は変わらず国会議員。この日、次男の誠之介クンが生まれた健介の活躍は皆さんご存知のとおり。レフェリーのタイガー服部は新日本へ逆戻りと見事なまでにバラバラに



馳健と同様、WJ旗揚げ戦に出場し、その後のWJマットを引っかき回したのが天龍、大仁田、安生の3人。天龍は現在、新日本を中心に活躍。大仁田はプロレスは控え目で議員活動中心の生活。そして安生はアン・ジョー司令長官（別人?）として水を得た魚のようにハッスル中!

祝! プロレス生活20周年!!

凄いあるし、人に迷惑をかけたからそんなこと言っちゃいけないのかもしれないですけども、自分はとりあえず、WJでの時間があって良かったなっていう部分は絶対あると思いますね。

――失望よりも希望の方が大きかったってことですかね?

立石　そうですね。だって、改善点がそのまま放置されたままだったじゃないですか?

――たしかに（笑）。逆に言うと、まだこんなに伸びしろがあるんだってことですからね。

立石　そうそうそう。だから、やり甲斐もあるんだと思うし。

――代表っていうのは立候補なんですか? それとも誰かからの指名とか推薦があったんですか?

立石　代表っていうのは、このメンバーだと石井選手が代表をやるのが自然じゃないですか?

――石井さんは選手会長ですしね。

立石　それに残った選手の中ではトップじゃないですか。で、選手以外って言ったらスタッフは私しかいないんですよ。で、なんとなく「どっちかじゃないの?」っていう話になったんですけど、最終的に「女の子がやった方が面白いんじゃないの?」って（笑）。

――たしかに面白いですよね（笑）。それは長州さんも同じような感じで?

立石　そうですね。「俺はどっちでもいいと思うよ。どっちがやっても協力する」って感じで。そんな感じで決まりました。だから、すんごい話し合ったわけじゃないんですけどね（笑）。

――でも、23歳の女代表ということで、ファンとかの間でも「家が資産家なんじゃないか?」とか「選手とできてるんじゃないか?」とか、勝手な噂がいろいろ出てるじゃないですか?（笑）。

立石　インターネットとか見ると凄いですよね（笑）。でも、そういう事実は全くないですよ。家も、どちらかと言うと貧乏だし、選手とできてるっていうのも〝ありえない〟（笑）。

――〝ありえない〟っていうのは長州さん言語で言うと、あるってことなんですけど（笑）。

立石　いや、それはホントにないです。

――選手とかは、やっぱり長州さんに対しては「怖い」っていうイメージがあると思うんですけど、立石さんから見た長州さんはどんな感じですか?

立石　怖くないってことは絶対に〝ありえない〟ですよ。

――またしても、ありえない（笑）。

立石　やっぱり対選手っていうのは、長州さんも意識的に、より厳しく愛のムチでやってる部分があると思うんですよ。怒ってる時の長州さんはメチャメチャ怖いですからね。

――怒ってるところは何度か目撃したとこはあるんですね?

立石　あります。超怖かった!



長州さんのイメージ?　怖くないってことは絶対に“ありえない”です（笑）

――アハハハハ!　超怖かった（笑）。

立石　あれを見ると何も言えなくなりますよ。でも、私に対して頭ごなしに怒ったりとかはないですけどね。それに、私は、どちらかというと勘がいい方ではないと思うんで、いっぱい人とコミュニケーションを取って「こういうふうにしよう」とか思うタイプなんです。だから最近は長州さんとも話すようにしてるんですね。最初は凄い言いにくかったですけど、意見とかもなるべく言うようにしてます。もちろん、「そうじゃないよ!」っていうふうに言われることもありますけど、ちゃんとコミュニケーション取れる人です。

――それはWJ時代からなんですか?

立石　後半は取れましたけど、前のオフィスにいた時は、たまにみんなで食事に行ったりしても長州さんとじっくり話すってことは全然なかったです。

――石井選手とか残った若手選手とは苦しい時を一緒に乗り越えた……のかはわかりませんけど（笑）、仲間意識は相当強いんでしょうね。

立石　そうですね。ただでも、自分の自由な意志で残ったっていう思いがお互いにあると思いますよ。たとえば、「あの時、スゲー辛かったよね」とか、「超嫌だったよね」みたいな話をしてたとしたら凄いわかりあえるというか、盛り上がると思うんですけど、そういう話はほとんどしなかったんですよ。

――やっぱり、フロントと選手では考え方にも違いはあるでしょうからね。

立石　当然あると思いますし、そういう部分とかも正直不安はありますね。

――それはいまでもですか?

立石　はい。

――たとえば、代表になったら、負債も背負わなければいけないっていう事態も考えられるわけじゃないですか?

立石　そうですよね。でも、私が代表を引き受けさせていただく条件の一つが、借金とか手元にないお金に手を出すことは絶対にしないってことなんですよ。だから、もしかしたら凄い長い期間興行はうてないかもしれないけれども、他団体に上げてもらうなりして、コツコツ存続していって、ちゃんとできる状態になった時だけやろうと。

――代表就任会見でも「地道にやっていきたい」って言ってましたからね。そういう意味ではWJを反面教師にしてやっていくべきでしょうね（笑）。

立石　ホントそうですね。規模はちっちゃくなっちゃうかもしれないですけど、地道にやっていく方がいいですよね。おっきいバクチに手を出すより。

――賢明だと思います。話は変わりますけど、立石さん的には〝ド真ん中〟って、どういう解釈をしてます?

立石　あぁ～。ド真ん中は……ド真ん中ですよね。

――意味がわかりません（笑）。

立石　ド真ん中っていうのは、人それ

ぞれなんですよ、たぶん。だから……わかんない（笑）。

——アハハハハ！　WJ時代、長州さんは「業界のド真ん中を歩く」みたいなことを言ってましたけど、リキプロ的にはできることからコツコツとっていう感じなんですかね。

立石　そうですね。別に端っこを歩くつもりもないんですけど、ド真ん中って言った方がいいのかなぁ？

——それはお任せします（笑）。

立石　じゃあ、ちっちゃくド真ん中で（笑）。

——女性らしくていいですね（笑）。そういえば、WJの所属選手だった高智さんの処遇がいまだに発表されてないんですけど、リキプロの代表として何か言えることはあるんですか？

立石　高智さんは引退なんですよね。

——人知れず引退してたわけですね。

立石　ホントはWJのうちに引退試合をやってあげたいっていうのが選手たちの気持ちの中では凄いあったと思うし、ただ、会社的なタイミングっていうのが見つけられなかったみたいでできなかったんですよ。

——そういうことでしたか。

立石　一応、円満退社みたいな形ですけどね（笑）。

——まあ、この業界は「一応、円満退社」っていうのが多いですからね（笑）。あと、リキプロと永島さんはどういう関係になるんですか？

立石　関係はないです。リキプロは永島さんは一切触ってないです。

——どっちかというと触らせたくないような感じで？（笑）。

立石　（小声で）うん。

——アハハハハ！　では、最後にリキプロ代表として、これからのプランを聞かせてください！

立石　これからのプランとしては、ホント、コツコツとやっていこうと思ってます。いまもサイパン興行の話を進めてますし。

——サイパンと言えば長州さんですけど、サイパン興行というのが、代表就任会見の時に言っていた「力（ちから）祭り」になるんですか？

立石　それとは別ですね。サイパン興行は長州の30周年記念興行です。たぶん12月になると思うんですけれども、12月は長州のお誕生日もあるんで。

——代表として、リキプロの所属選手に対する要望って何かありますか？

立石　いろんなことに挑戦して欲しいなっていうのはありますね。別に場所を広げなくてもいいから、一つの場所でも自分をもっともっとアピールできたらオファーも増えたりすると思うんで。ドンドン自分を出していって欲しいなって思ってます。

——一部新聞等で「リキプロのためには一肌脱ぐ」って報道もありましたけど、代表としてWWE的にリングに絡んでいく可能性はあるんですかね？



たていし・ふみ■1981年8月16日、東京都八王子市出身。血液型：B型。趣味：買い物、電話。好きな有名人：キンバリー・スチュアート、カルメン・エレクトラ。興味があること：海外セレブ。好きな音楽：エアロスミス。好きなタイプ：トンパチな人。好きな動物：猫。好きな食べ物：ちゃんこ。得意なこと：特になし。苦手なこと：家事全般（修行中）。宝物：家族と仲間たち（怒ってくれる人）。身長163センチ、体重極秘

『紙プロ』さんの読者の方々も リキプロをよろしくお願いします！

立石　あれは最初に「基本的にはないですけど」ってことで話したんで、新聞を見てビックリしました（笑）。

——新聞に限らないですけど、やっぱり「一肌脱ぎます」って言葉の方がインパクトがありますからね（笑）。

立石　あの記事を見て、うまいなって思いましたね（笑）。

——立石さんは女子格闘技の大会でもよく見かけますけど、自分も闘いたいっていう気持ちがあるって小耳にはさんだことがあるんでよ、それは本当なんですか？

立石　見るのは好きですし、チョロさんに前に言われたように、長州さんとかをセコンドに付けてスマックガールとかに女代表が乗り込んだりしたらマスコミ的には面白いでしょうね（笑）。

——リキプロを背負ってパワーホールで入場してくれたらメチャメチャ盛り上がると思いますよ。

立石　私が凄く強かったり、何かやってたりするんだったら可能性はありますけど、基本的にはありえない話です（笑）。私はあくまで裏方としてサポートしていこうと思ってるんで。

——まあ、試合はともかく、嫌でも表舞台に出て行かなきゃいけない時は来るでしょうけどね（笑）。

立石　『ハッスル』とかから声掛かったりするのかなぁ？（笑）。

——キャプテン・ハッスルとかから「長州がハッスルポーズしないんだったら代表のお前がやれ！」とか言われるかもしれないですね（笑）。

立石　れ、練習しときます！（笑）。

——とりあえず、『紙プロ』面接経験者というのもありますし、リキプロ及びに立石代表は応援していこうと思ってますので、頑張ってください！

立石　よろしくお願いします！

——あ、一つ思い出しました。WJができたばっかりの頃、新日本の流れを汲む団体なんで『紙プロ』は取材はできないかなって諦めてたんですけど、会見のリリースとか立石さんが、こっそり送ってくれてたんですよね。

立石　そうなんですよ。「なんで『紙プロ』が来てるの？」とか言われたけど、しらばっくれてましたね（笑）。

——その節はありがとうございました！（笑）。あとは、いまだに絶賛取材拒否中の長州さんのインタビューができたら最高なんですけどね。

立石　私は直接の理由はよくわからないんですけどダメなんですよね。一応、代表として頑張ってみます！

——よろしくお願いします！

立石　その件は期待に添えられないかもしれませんけれど（笑）、『紙プロ』さんも『紙プロ』さんの読者の方々も、リキプロをよろしくお願いします！

【9月1日／リキプロ事務所にて収録】



祝! プロレス生活20周年!!

AKIRA 武藤敬司

新日本プロレス同期生

プロレス哲学対談

新日本プロレスの“同期の桜”武藤敬司とAKIRAの対談が実現!
破壊王、蝶野、船木ら共に上野毛の道場で幾多の伝説を残してきた2人だが、
この対談のテーマはプロレスを考える上でもっとも核になる“プロレス哲学”だ。
プロレスとは何か——?

聞き手/堀江ガンツ　構成/ジャン斉藤　撮影/乾晋也 designed by hisa (Two Three)

――今日は新日本プロレスの同期生対談＆ムービースター対談ということでよろしくお願いします！（笑）。

武藤　あ〜、俺、今度また映画に出るんですよ。実録モノで、北海道に不良ばっか集める高校の話なんだけど。何ていう映画だったけかなぁ〜？　忘れちゃったよ！

――出演した映画の名前を忘れちゃったんですか（笑）。AKIRAさんも「いかレスラー」「お父さんのバックドロップ」に続いて、また映画出演のお話があるとか。

AKIRA　その役作りのために三泊四日で自衛隊に体験入隊したんですよ。それがホントに過酷でね。キャンプ張ったり、25キロの装備品担いで6時間ぐらい行軍したんだけど、結局その映画の撮影自体が来年の春に流れちゃって。

――そこまでやったのに（笑）。で、お二人は本職のプロレスのほうでは今年でめでたく20周年を迎えました。おめでとうございます！

AKIRA　いや、俺の場合は微妙だからね（笑）。休んでいた時期があるから勘定しづらいよ。

武藤　あれ、ノガちゃんが（新日本で）やんなかったの1年ぐらいでしょ？　もっと長いの？

AKIRA　2年ぐらいやんなかったから。

武藤　あ、そんなにあったっけ？

――では、足掛け20年ということでお話を進めたいと思います（笑）。AKIRAさんには、20年という節目を迎えてどんな感想がありますか？

AKIRA　ここまでくると「いまでも若々しい動きですね」って言われても、もはや誉め言葉じゃなくなるよね。逆に「俺もそんなこと言われる歳になっちゃったのか……」って思うよ。

あの当時の新日本って、我の強え野郎ばっかだったじゃん



武藤　たしかにここになってまた年齢が取り上げられるのはイヤだよな。

――レスラーからするとそういうもんなんですか？

武藤　アメリカってパンフに年齢書いてねえんだよ。だってプロレスに年齢って関係ねえじゃん。もうそのときのインパクトがすべてだからさ。

AKIRA　たしかにそれはありますね。

武藤　ノガちゃんだっていまのほうがインパクトあるよ。新日本より全日本に出てからのほうがスタッフや関係者に人気があるんだよ。

AKIRA　そう？

武藤　全然いいよ。一度、離れたことでプロレスに対して試行錯誤するわけじゃない。そこがまた観客に伝わるんだと思うよ。だから、いまのノガちゃんは新日本にいるときよりハマってるんじゃねえのかな。

AKIRA　たしかに気分的には新日本の頃よりいいなって思ってるけど。

――というと、以前はあまり気分が良くなかったわけですか？（笑）。

AKIRA　いやいや。そんなことは言わないよ（笑）。

武藤　要はさ、俺がいつも言ってる〝陰と陽のレスラー〟の陽のレスラーが新日本に凄え少ねんだよ。確実にノガちゃんは陽のレスラーだからね。それで新日本と合わねえんだと思うな。

AKIRA　そうなのかなぁ？

武藤　いや、昔は陰気くさかったんだけどね、ノガちゃんは。

――AKIRAさんは〝日本の陽気な奴ら〟（J・J・JACK）だったんですけどね（笑）。

武藤　でも、一度新日本を離れてまた戻ってから凄え陽気になったよね。あれ、どうして変わったの？

AKIRA　それは養成所とかでお芝居の勉強をしたからかな。それまでは気分が乗らないままプロレスをやってたというか、要はいろいろ考え過ぎちゃうことが多かったんだけど。でも、役者として舞台に立つということは、気持ちを開き直ってオープンにして元気を出していく。それがまず基本だから。そうしているうちに「役者として勉強したことをプロレスに活用できたら気持ちいいだろうな」と思って。それでまたプロレスをやりたくなったんですよ。

――武藤さんは最近、映画の仕事をすることで、AKIRAさんのように視野が広がったことはないんですか？

武藤　う〜〜ん。っていうかさ、やっぱプロレスの方が面白れえわ、俺。

――ガハハハ！　またズバリ言い切りますね（笑）。

AKIRA　武藤さんの映画での使われ方って、武藤敬司そのものをドーンと出してくれればそれでOKなんだよね。言っちゃえば昔の性格俳優。

武藤　そうなのかぁ。俺はプロレスやってるほうが手応えあるよ。映画って基本的に監督やディレクターがいて、俳優はその中の駒のひとつじゃない。プロレスの場合は、まぁディレクターもいるんだけど、リングの中に入れば、自分が主役であり照明やカメラの位置を頭に入れて自分で演出できるからね。

――自分の意思ある動きによって、その場面を自由自在に演出できるってことですよね。

武藤　あと一番違うのはライブ感だよ！　映画は反応が遅すぎてさ。リアクションが戻ってくるのは、3ヶ月後とか半年後とかじゃない。

――公開されるのはだいぶあとですからね。

武藤　ところでさ、ノガちゃんはなんで役者を目指そうとしたの？

AKIRA　新弟子の頃からお芝居を見始めたんだよ。そんときから「こいつら凄えなあ」と思ってて。で、プロレスから一度離れたときに「もう一度何かに頑張れるものは何だろう？」って考えたら、芝居をやってみたいなと。そう思ってやらなきゃ悔いが残るだろうなって思ったし。

――武藤さんはプロレスを辞めようと思ったことはなかったんじゃないですか？

武藤　いや、俺だって辞めたいと思ったことは何度もあるよ。まずはヒザが悪くなったときだな。ヒザの手術をして戻って試合したら、またヒザが腫れたんだよ。そんときは「もうダメだな……」って思ったもん。

AKIRA　でも、プロレスに拡がりを持つときって、怪我をしたときもきっかけになるからね。俺もそうだったし。

――AKIRAさんがプロレスの視野が広がったのは、海外遠征に行ったことだとも伺ったんですけど。

AKIRA　海外の雰囲気が心地良かったんだよね。しがらみから抜けられて一人でやっていくってことが。

武藤　あの当時の新日本って、我の強え野郎ばっかだったしねえ。ノガちゃんは真面目だし、きっとそれに耐えられなくなったんでしょ？

AKIRA　そんなことはないけど（笑）。

武藤　いやいや。「こんなアホどもと一緒にいたくねえ」という感覚、わかるよ。だって俺でさえそうだったもん。

――武藤さんが嫌になるぐらい濃かったわけですか（笑）。

武藤　ノガちゃんは後輩もイジメなかったけどさ、周りは凄ぇイジメたじゃん？

AKIRA　あったねぇ。

武藤　ホント「キチ●イ屋敷か？」というぐらいだったんですよ。

――ガハハハ！　たしかに振り返ってみると、同期のメンバーも蒼々たるメンバーですよね。橋本さん、蝶野さんに船木さんがいたんですから。

AKIRA　僕は18歳で入門したんだけど、武藤さんは四つ年上で専門学校を卒業してたから常識的な考えを持ってたし、性格的に大らかのは武藤さんぐらいでしたね（笑）。

――〝娑婆じゃない世界〟の中で常識的な考えを持ち合わせていたんですね。

武藤　ノガちゃんは俺より入ったのがちょっと早いんだよね。船木もそうだけど。

AKIRA　だから先輩から「おまえの方が先輩なんだから、武藤〝さん〟なんて呼ぶな。〝武藤〟って呼べよ」って。凄え立場的に困りましたよ（笑）

武藤　ふ〜ん。そんなこと言われてたんだ。しっかし、あのシステムは良くねえよな。

AKIRA　ホントそう思う。

――でも、そんな封建的かつ世間の常識から外れていたシステムがあったからこそ、皆さんの個性が育まれた側面もあったんじゃないですか？

武藤　そんなの物の言い様だよ！

――ガハハハ！　当事者からすれば、たまったもんじゃないと（笑）。

武藤　だから、あれだよ。ちょうど先輩がみんな離脱しちゃったじゃん。それで押し潰されなかったんじゃねえの。

――先輩たちがゴッソリ抜けたことが幸いした、と。

武藤　俺は会社がどうなろうと関係ねえって、自分のことしか考えてなかったから逆に良かったよ。あと俺の場合はすぐ海外に行っちゃったからね。そういう生活は正味1年半ぐらいしかしてねえんだよ。

――では、他の同期とは、プロレスに対する考え方も変わってきますよね。

武藤　俺はリング外のビジネスのことはアメリカで学んだからね。ドンドンドンドンさ。

AKIRA　俺は24、5歳でやっと海外に出れましたから。「そろそろオマエが行く番だ」と言われてたんだけど、なかなかそうはいかなくて。

武藤　俺は海外出てまた戻っての繰り返しだから、記憶が途切れ途切れなんだよな。荒川さんがコーチの頃ってデタラメな練習してなかったけ？

AKIRA　デタラメかどうかわからないけど（笑）。ロックアップとかは、桜田（一男＝ケンドー・ナガサキ）さんに教わったりしてたなぁ。

――荒川さんはそういうことを教えてはくれないんですか？（笑）。

武藤　うん。フラダンスみたいなこと教えられたから。

AKIRA　いや、あれはラインダンスじゃない？

――ガハハハ！　どっちも意味がわからないですよ（笑）。

武藤　地方の体育館でよくやらされたんだよ。みんなで「マイムマイム」みたいなこともやらされたなあ。



武藤敬司×AKIRA
プロレス哲学

性格的に大らかのは
武藤さんぐらいでしたね

ＡＫＩＲＡ　いまでは良い思い出だね（笑）

武藤　あとしょっちゅうランニングだ。嫌だったなぁ、あれは。

――荒川さんはランニングが大好きですからね（笑）。

武藤　荒川さんはなんで走るのが大好きだか知ってる？　あの人、中性脂肪の数値が凄え高えんだよ。猪木さんにしても自分の血糖値を下げてえから走ってんのに、手前の身体の都合によって俺たちも付き合わされたんだから！

ＡＫＩＲＡ　走るのとにかく好きだったね、猪木さんも（笑）。

――武藤さんのランニング嫌いはそれが原因だったんですね（笑）。

武藤　一回さ、稚内かどこかでホテルから海まで走って、そのあと薄氷の海を泳いだからね。血糖値下げるために氷風呂にも入ってたけど、それも付き合わされんだよ！

――ガハハハハ！　決して何かの特訓だったわけじゃない、と。

武藤　ひでぇ話だよ。ホント。でもその中で生き残ってきた奴らはみんな個性あるよね。固まってねえよ、個性が。

ＡＫＩＲＡ　いまは良い意味でも悪い意味でもシステムが確立されてるからね。個性が出しづらくなってるんでしょ。

武藤　うん。俺たちの下の世代とかは馳先生とか長州さんから教わったじゃん。みんな同じようなスタイルなんだよね。天山（広吉）にしろ小島（聡）にしろさ。ちょっと似たような感じなんだよ。

ＡＫＩＲＡ　俺らの下の若い選手って苦労してると思うよ。性格とプロレスがマッチしてないから、持ってる個性を発揮できてないような気がするね。

――生き様が背中にベッタリ貼り付いて



ないところはありますよね

ＡＫＩＲＡ　そこはコーチする人の頭が固くなってるところもあったりするからね。

――武藤さんやＡＫＩＲＡさんの世代はそれぞれが自分の感性でやってたことで個性が伸びたんですか？

武藤　どうなんだろうな？　でも結局さ、プロレスって答えがないじゃない。その中で試行錯誤するというか、自分の趣味に合うようにやるしかねえからさ。そういう意味では、最近の選手は客に媚びを売りすぎなんだよ（キッパリ）。

ＡＫＩＲＡ　技を出して動いてないと落ち着かないんだろうね。動きじゃない表現ができないと言うのかなぁ。たとえばテリー・ファンクみたいに、「オマエら、この痛みをわかれよ！」という間がつくれないというか。

武藤　いまの若え奴はやられてもすぐパッと立ってピョコピョコ動いてさ、そんなのロマンがねえよ。

ＡＫＩＲＡ　きっと客の視線を意識し過ぎちゃうんだろうね。俺はプエルトリコでディック・マードックさんとやったことあるんだけど、その頃のマードックさんは選手間の評判があまり良くなくて。長いこと試合を引っ張ったり、相手にやけに冷たくて。俺も厳しく突き放されたんですよ。でも、突き放されても必死にしがみついたらちゃんと引っ張ってくれたから。あんなプロレスは、いまの時代だとなかなか勉強できないことではありますよ。

――じっくりじっくり組み立てていくプロレスを教わったわけですね。

武藤　ボブ・オートンJr.なんかも凄えよ。最初にスリーパーやったら「ボ～イング（つまらない）！」ってコールが起きて、そ

あの中で生き残ってた奴らは個性が固まってねえよ［武藤］

の声がだんだん大きくなるんだよ。でも、オートンJr.はその野次が終わるまでずっと動かないで、わざとお客を怒らせて怒らせてね。それで最終的には盛り上げるんだからプロだなって思ったよ。

AKIRA　「こうしなきゃいけない」という凝り固まった考えがないのがいいよね。表現者として「俺はこれをやるんだよ！」というスタイルがカッコいいよ。どうしても「こうじゃなきゃいけない」って思って動いちゃうことがあるし、相手が無理に動いてくると、どうもそいつの人間性まで馴染めないっていうか（笑）。

――AKIRAさんの場合は、プライベートにも響いちゃうんですか（笑）。

AKIRA　控室に一緒にいても「それちょっと違うんじゃないの？」みたいにね。それがイヤだったな。

――つまり、プロレスという作品をつくるうえで信頼関係が結べないってことですよね。武藤さんがいままで対戦して選手のなかで、試合の組み立てが一番上手かったレスラーは誰になりますか？

武藤　（即座に）リック・フレアーだよ、やっぱ。

AKIRA　ああ、フレアーはスゲエよね。

武藤　俺、（WCWで）毎日シングルでやってたからね。

AKIRA　フレアーと毎日やれるなんて、それも凄い話だね！

――フレアーがバリバリに脂が乗っていた時期ですもんね。

武藤　プロレスって一歩間違えると展開がワンウェイになっちゃうことが多いんですよ。それがフレアーだと転がすプロレスになるんだよね。お客に合わせて転がしていくんだよ。

――いわゆる山あり谷ありの試合展開になるわけですね。

武藤　さっきのノガちゃんのマードックの話じゃないけど、フレアーも向こうの土俵に乗ったらグイグイ引っ張ってくれるんだよ。乗らないと簡単に捨てるから。あと上手かったのは猪木さんだよ。猪木さんはアメリカンプロレス、しこたま上手いよ。

AKIRA　うん。猪木さんもアメリカンプロレスだよね。

武藤　弟子がやると認めねえけど、テメエだけはアメリカンプロレスやりやがるんだよ（笑）。

――ガハハハ！　猪木さんを知ってる人は、誰もが口を揃えて「あんなショーマンはいない」って言いますよね（笑）。小川（直也）さんも「猪木さんほどアメリカンプロレスを意識している人はいない」と言ってましたよ。

武藤　でも、弟子には絶対にやらせねえじゃん。





1984年の大量離脱騒動でピンチに追い込まれた新日本プロレス。これ以上の離脱者を防ぐために24時間レスラーを監視すべく箱根で強化合宿が敢行された上写真では、若かりし武藤やAKIRA、そして蝶野や破壊王、船木の顔も見れる。下の写真は彼らが新日本を牽引していたころの一枚だ。

AKIRA　だから若い子なんかは履き違えちゃうんだろうな。俺も猪木さんの全部を知ってるわけじゃないけど。

――どうしても、猪木さんのストロング・スタイル的なプロレスの影響を受けちゃってる選手は多いですよね。

武藤　で、猪木さんの場合はテメエだけ目立ちゃあいい。そういう発想のもとでやるからね。もし相手がしょっぱかったらさ、「これはコイツが駄目なんだよ」ってことをお客にわからせるんだよね。

――とにかく自分が一番輝けばいいわけですよね（笑）。

AKIRA　性格を物語ってるよね。そういう点では、全日本はプロレスに対して誠実だから。俺はそこに惹かれるところがあるんですよ。

――AKIRAさんはプロレス生活20年目にして、全日本のリングでカルチャーショックを受けたところがあったんですか？

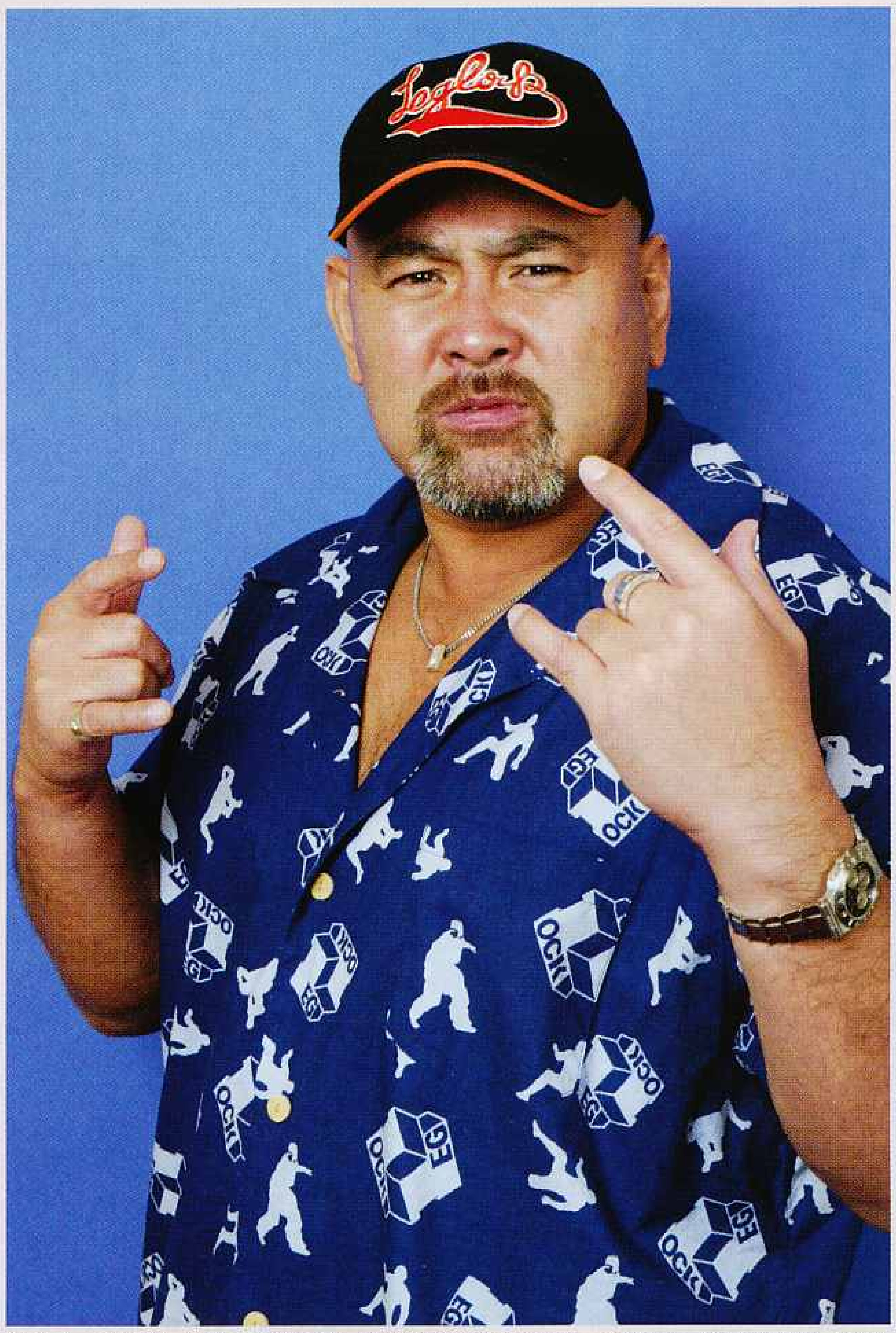
AKIRA　あったね。馬場さんが「誠実」と言われたのは、この部分をいうだろうなってところで。

武藤　ただ、このあいだ西村（修）と渕さんの試合を観たんだけど、あれを見るのはさすがに億劫だよ！

――ガハハハ！　あれは観客が「これは素晴らしいものだ！」って思って観ないと成立しないプロレスですよね。

武藤　あれ、マスターベーションの試合だけどさ、観客を納得させたもんな。西村は「俺の商品はコレだ」ってあのスタイルを押し通して、それを観客に認めさせたんだ

最近の選手は客に媚び売りすぎ。そんなのロマンがねえよ



【むとう・けいじ】1962年12月23日、山梨県富士吉田市出身。84年4月、新日本プロレスに入門。同年10月5日、越谷市体育館での蝶野正洋戦でプロデビュー。02年に新日本プロレスを離脱。全日本プロレスに入団する。同年9月に全日本プロレスの社長に就任。今年の10月にはプロレス生活20周年記念大会が催される。

から大したもんだよ。だって倒立やるだけで盛り上がるんだからさ〜。

——エルボースマッシュ一発で会場を沸かせるレスラーはそうそういないですよね。

ＡＫＩＲＡ こないだは横浜（文化体育館）の大会を客席から観させてもらったんだけど……。

武藤 （遮って）あれ、ノガちゃん来てた？

ＡＫＩＲＡ 控室にも行ったじゃん！

武藤 え？ 試合には出てたっけ？

ＡＫＩＲＡ いや、だから観に行ったんだよ（笑）。

——ガハハハハ！ 社長なんだから把握しておいてくださいよ（笑）。

武藤 あの大会はとにかく長かったことしか覚えてねえなあ。9試合もあったもんな。いつも地方では6試合だからさ。それで十分、時間は埋まっちゃうんだよ。

——横浜大会はいつものペースで、たっぷりやってしまったんですね（笑）。

武藤 ホント長かったな。俺は試合内容はもちろんだけど、ひとつのイベントとして見なきゃいけねえところもあるからね。いろいろ考えなきゃなんねえんだよ。

——とくに最近はパッケージとしてのプロレスが求められてますからね。

武藤 そうそう。そこがプロレスと『PRIDE』の違いでもあるしさ。プロレスって練り込んでいくもんだから。ドキュメントでもいい絵は撮れると思うけど、俺はつくりごとのない世界ってクソつまらないねぇと思うよ。役者をやってるからノガちゃんの身からしても、クソ面白くないものなんじゃないの？

ＡＫＩＲＡ たしかに荒唐無稽ではあるかもしれないけどね。

——ボクなんかはレスラーの一日の生活を追うドキュメント作品なんかあったら、興味を沸いちゃうほうですけどね。たとえば、武藤さんがどうやって古傷のヒザと向かい合っているのかにしても。

武藤 そこはガチンコだよ（キッパリ）。

ＡＫＩＲＡ そこがプロレスのリアルなとこだよね。エンターテインメントの背後には、ホントに身体を酷使してる背後がありますという感じで。

武藤 でも俺はドキュメントに興味ねえんだよ。普段から凄ぇ努力してるけどね。この前もさぁ、新日本に在籍してるときの川田戦がビデオになるからその解説したんだけど、3年前の俺を見たら凄ぇ痩せてんだもん。ビックリしたよ、あれ。

——いまは当時と比べると肉体に厚みが増したわけですね。

武藤 なってるよ。このあいだ藤原さんに「おまえ●●やってんだろ？」って言われたぐらいだからね。

武藤敬司×AKIRA プロレス哲学

——ガハハハハ！ そんな疑いが掛かるぐらい（笑）。

武藤 俺、●●はやってねえけどグリコのサプリメントやってるから。グリコがそういう話を聞くと喜ぶんだよ。それだけ効果があるってことだからさ。

ＡＫＩＲＡ あんまり評判良いから俺も買っちったもんな（笑）。

武藤 要はさ、俺らは肉体を見せることが一種の武器なわけじゃん。逆に肉体がしょっぱい奴は他のところで凄さを見せなきゃ、もう間に合わない。でもこんなに技術が溢れてる時代で、しょっぱい身体で観客を惹かせるレスラーなんて、そんなにいねえよ。

ＡＫＩＲＡ いまはちょっとやそっとじゃ驚かないしね。

武藤 そうそう。しかもいまはボーダレスの時代じゃん。ノガちゃんはフリーだし、ウチのチャンピオン（川田利明）でさえも『ハッスル』に出てるし、小島だってＩＷＡに出てる。新日本の選手も全日本で見れるんだから、他の団体と差別化するためには、ストーリーや試合内容をしっかりさせて「全日本の興行はハズレがない」っていうふうにしてくしかないですよ。そのためにも若い奴らに俺の哲学、全部ぶつけてるよ。

ＡＫＩＲＡ ……哲学か。目から鱗ですね。まさか武藤さんからこういう話を聞けるとは。

——昔の武藤敬司からは考えられないですか（笑）。

ＡＫＩＲＡ 俺があんまり武藤さんと喋ったことがないからかもしれないけどね（笑）。

武藤　ああ、俺は新日本のときは他の選手に見向きもしなかったからね。自分のことしか考えてなかった。新日本が選手に求めてるのは、タレントとして常に上にいようとする感覚だけだったこともあるし。でも、いまは団体の社長なんだから、一タレントとしてのスタンスだけではダメなんだよな。

AKIRA　武藤さんの言うように、これからは若い選手に哲学は伝えていかないとね。そうしないと若い子はプロレスに迷っちゃうから。

武藤　それは新日本を見ればわかることだよ。哲学を下の選手に教えることができる奴がいねえじゃん。だ～れも「プロレスとはこういうもんなんだ」ってことがわかってないんだよ。

AKIRA　新日本は性格的に「俺が俺が」だからね。だから演劇の世界の人間だと「全日本のほうが好きだ」って言う人が圧倒的に多いよ。

――つまり全体でつくり込んでいく要素に惹かれるわけですよね。

武藤　俺らはパートナーシップでやってるからね。新日本には隙を狙うタイプが多いじゃない。そこがノガちゃんが嫌だったんでしょ？

AKIRA　そんなことはないよ（笑）。

武藤　そう？　俺はプロレスLOVEの原点は〝思いやり〟だと思うんだけど、新日本にはそんなのねえじゃん。

AKIRA　まぁ、猪木さんがロシア軍団が来たときに「〝人〟という字はお互いに支え合ってできてる」っていう話してたけど、そこに説得力はなかったね（笑）。

武藤　自分で支えねえからね。

――ガハハハ！　猪木さんのそういう二面性は最高ですよね（笑）。

AKIRA　それにロシア人に日本の漢字の話をしてもわからないんだけどね（笑）。

武藤　あと長州さんの哲学にしても、自分勝手な哲学だからね～（笑）。

AKIRA　アーッハッハッ！

武藤　ねえ（笑）。人に押し付けちゃいけないよね。おかしいよ、あれ。

――「教える」のと「押しつける」のでは訳が違うってことですね（笑）。

武藤　いま振り返ってみても、哲学持ってやってた先輩レスラーって、あんまりいないよね。長州さんだったら、逆に前田（日明）さんの方が哲学があったなって思うよ。前田さんは自分の理念があったからこそ新日本からフェイドアウトしたかんじがあるじゃない。だから俺も前田さんと喧嘩したんだと思うよ。

――新日本とUWFが業務提携してたときに勃発した、旅館をぶっ壊した伝説の宴会のときですね（笑）。

武藤　原因はあれだよ。俺が前田さんに「アンタのプロレス、面白くねえよ！」って言ったらさ、向こうが怒ったんだよね。

――ガハハハ！　それは怒りますよ（笑）。でも、プロレスの価値観が問われる時代だからこそ、哲学は持つことは大事になってきますよね。

AKIRA　うん。当たり前だけど哲学は核になりますよ。

――ドラゴンゲートが成功してるのも、ウルティモ校長が自分の哲学を弟子たちに徹底的に教え込んだわけじゃないですか。

武藤　そうそう。彼はリング外のつくり方をアメリカンスタイルでやってたよね。タレントに対してそんなに情も持たないしさ。だから最終的に自分だけ蹴落とされたんだけど（笑）。

――なるほど（笑）。たとえば、武藤さんが『W―1』を通過することで学んだことも多いわけですよね。

武藤　あれは勉強になったよ～。やっぱりタレント集めるだけじゃ興行をやるのは不可能なんだって。無名でもいいから職人を集めたほうがいいよ。

――いまは『ハッスル』というステージもあるわけですが、武藤さんはどう御覧になってるんですか？

武藤　『ハッスル』はそんなによくは見てねえんだけど。いまは髙田さんと小川のトークショーじゃねえの（笑）。

――彼らのスター性とかキャラクターが受けてるわけですよね（笑）。

武藤　ああいうことは俺が全日本に入ってきた当時、ずっと言い続けてきたことだからね。「変わんなきゃいけない。チャレンジ、チャレンジ」ってさ。

――川田さんも、いまではトラックスーツに挑戦したりしてだいぶイメージが変わり

表現者として「俺はこれをやるんだよ！」というスタイルがカッコいいよ



【あきら】本名野上彰。1968年3月13日、千葉県習志野市出身。84年3月、新日本プロレスに入門。同年10月12日、久留米県立体育館での武藤敬司戦でプロデビュー。'98年に左眼負傷のため長期欠場。それを機に劇団の世界に身を投じながら、リングに上がり続ける。映画「いかレスラー」「お父さんのバッグドロップ」などにも出演。04年4月に新日本プロレスを離脱。現在は全日本プロレスを主戦する。

ましたよね。
武藤　でもさ、あれで違った川田が観れるならいいよ。あの恰好で「アチャー！」とか言ったりさ（笑）。でも基本的に中身は変わってねえじゃん。
——ただ、トラックスーツを着てるんじゃダメってことですね。
武藤　そうそう。グレート・ムタと武藤敬司にしたって、中身は変わんねえけどさ。それぞれ別の商品なってんじゃん。
AKIRA　でも、『ハッスル』は巷にかなり浸透してるよね。ポスターや打ち出し方もセンスがいいし。
武藤　あれは小川の功績だよ。あと『ハッスル』の素晴らしいとこはリング内が未熟だってわかってることだよね。だからリング外をいかに面白くするかに燃えてんじゃん。
AKIRA　外側をしっかりエンターテイメントにして、それでリングの中もちゃんとできれば凄いと思うよ。WWEだって日本に来るときは日本向けのファイトをつくりあげてくるから面白いのであって。『ハッスル』も両立できないこともないと思うけどね。
武藤　いやぁ難しいだろ。あいつら団体じゃないんだよ。そこが『ハッスル』の欠点なんであって。

グリーンボーイ時代にこんな話ができるわけねえんだよ。お互いどっかで蹴落とそうと思ってるわけだから［武藤］


武藤敬司×AKIRA

プロレス哲学

AKIRA　ああ、個人の集まりだから、信念がないと「俺はこの仕事だけやりゃあいい」ってことになりかねないか。
武藤　難しいわ。ああいうのは。ま、プロレスの哲学ってみんな個人差あると思うし、何でもありなのがプロレスだしね。俺は全日本プロレスっていうものを持ってるわけだから。そこで自分の哲学を表現していくしかねえよ。
——両国では武藤さんの20周年記念大会も控えてますけど、何か節目を飾る大仕掛けは考えてるんですか？
武藤　というか、俺が祝われる立場なんだから、自分の口から「これやって」「あれやって」なんて言えねえよ！
——たしかにそうですよね。（笑）。
武藤　周りに助けてもらいながら、俺好みのプロレスをつくり上げていくしかねえよな。ヘルパーとしてノガちゃんにも参加してもらってね。今後も頼むよ！
AKIRA　それはもちろんだけど、しかし新日本にいた当時は、武藤さんとこんな内容の話ができるとは思わなかったですね。
——じつはなかなか込み入った話はできないもんなんですね。
武藤　いや、グリーンボーイ時代にこういう話ができるわけねえんだよ。やっぱ同期だし、お互いどっかで蹴落としてやろうって思ってるわけだから。ねえ？
AKIRA　（無言で頷く）。
——では、今後も良き同期として活躍を期待していきます。今日はありがとうございました！

【04年9月9日／後楽園飯店にて収録】

武藤敬司20th ANNIVERSARY TOUR
LOVE AND BUMP
10月31日 17:00〜東京・両国国技館

全日本が再び両国国技館に進出！　武藤のプロレス生活20周年を祝う大会だけにアッと驚くカードが軒を連ねそうだ。



［チケット料金］
SS席 特別席…￥15000
A指定席…￥10000
B指定席LOVEポーズシート（応援グッズ付）…￥7000
スタンドA席…￥6000
スタンドB席…￥4000

［お問い合わせ］
全日本プロレス 03-3288-0610

武藤敬司本人仕様
「LEGLOCKガウン」を手に入れろ!!

“プロレスLOVE” がたっぷり詰まった武藤ガウンが緊急発売！　本人仕様のガウンだけに超レアアイテム。“プロレスLOVE者” は三食抜いてでも手に入れるべきだ！



サイズ:M〜L　XL〜XXL
価格:52,500円(税込)
9月31日まで期間限定発売。
［オンラインショップ］
http://leglock.nifty.com/
［電話予約］
03-3234-0969まで

AKIRAシリーズ参戦!!
全日本プロレス SEPTEMBER DREAM2004

小島聡が全戦シングルマッチで駆け抜ける9月シリーズにAKIRAが参戦!!　AKIRAは21日大阪大会で小島とシングルマッチ、22日熊本では武藤とのコンビでタッグトーナメントに出陣する。要チェックだ！

9月17日（金）18:30本川越ペペホールアトラス
9月18日（土）18:30桂スタジオ
9月20日（祝）18:00岐阜産業会館
9月21日（火）18:30大阪府立体育会館第二
9月22日（水）18:30熊本興南会館
9月23日（祝）15:00熊本興南会館
9月25日（土）18:30後楽園ホール



あ～あ、腕なんか組んじゃって、ハイアンにバレても知～らない

9・2『ハウス』大成功!
9・20『ハッスル5』&9・26『ケッパレ1』
に行ってみよーっ!!



走り出したら止まらない
ハッスル大進撃!!

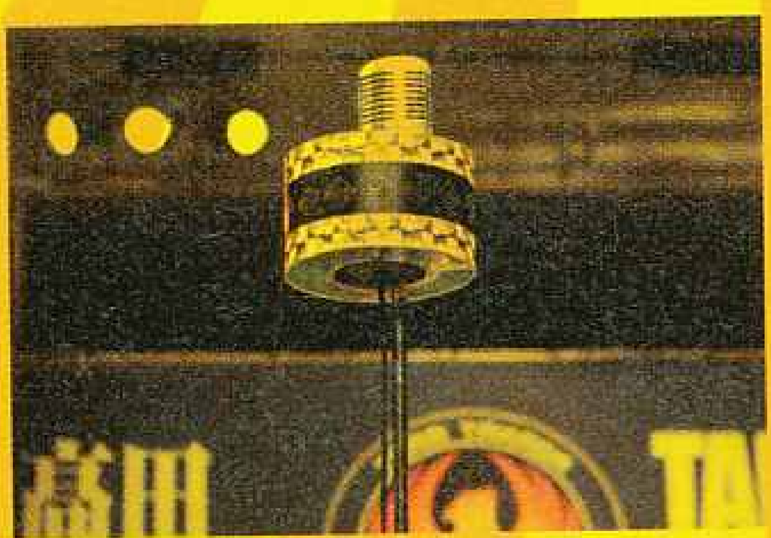
















構成／ジャン斉藤　撮影／平工幸雄　designed by matsu (Two Three)

髙田総統

9・2『ハッスル・ハウスvol.2』

9月2日、前回に続いて超満員札止めの観客で膨れあがった『ハッスル・ハウスvol.2～東京モンスターパーク～』は、またもや大会全般を通して異常なハッスル・パワーが大爆発！　しかしながら、今回の主役も前回と同じ。そう、一刻も早いCMデビューが期待される髙田総統だった！　わずか54秒でヒョードルに敗れた小川を断罪する、総統の大演説を正座して読みなさい!!

【メインイベントでヤドカリ&ボビッシュのモンスター軍がハッスル軍の坂田&崔から勝利を強奪！　対抗戦は3vs2でモンスター軍の勝ち越しとなった。歓喜するアン・ジョー司令長官はマイクでハッスル軍を罵倒する】

アン・ジョー　今日もモンスター軍、ビッグウィンね。ハッスル軍がこんなに情けないから、**オガワのチキンも『PRIDE』でクイックルーズね～！**

【ここで小川の声が響き渡る！】

小川（以下キャプテン）　何だと、アン・ジョー!?　いまからよぉ、そのへらず口きけなくしてやるから、待ってろ、そこで!!

【テーマ曲が鳴り響き、大「小川」コール&観客にもみくちゃにされながら小川が登場！　モンスター軍を蹴散らしてマイクを握る！】

キャプテン　アン・ジョー！　調子に乗ってんじゃねえぞ！　次は許さねえぞ、この野郎！









54秒で負けたチキン君は「54日間のハッスル出場停止」だ!!

【モンスター軍は慌てて退散する】

キャプテン　（気を取り直して）坂田、崔、オメエら、あんなヤドカリ野郎に負けやがってよぉ、悔しくねえのか、この野郎！　オメエらもこっからが勝負だからだな。このまま終わんじゃねえぞ。わかったか、おい……！

【突如として会場に髙田総統の声が響き渡る】

髙田総統（以下総統）　**ギョロ目のチキン君。自分のことを棚にあげて、ほざくのはやめなさい……。**

【「威風堂々」のテーマとともに髙田総統がバルコニーに姿を現す。観客からは大歓声&ブーイング】

総統　（会場を優雅に見渡して）なかなか上手なブーイングだな。マヌケなハッスル軍の諸君、**そして平日の夜に何の予定もない、暇な暇なプロレスファンの諸君……。**

【笑い&大ブーイング】

総統　ようこそ、モンスターパークへ！　**残暑見舞いを申し上げておこう。**ところでだな、そのリングにいる赤シャツ（横井宏考）、青のラメパンツ（坂田亘）、中途半端な金髪（石狩太一）！　アホヅラした君たちは一体、誰だい？

【会場爆笑！　苦々しい表情のヤング・ハッスル】

総統　まあいい。話を元に戻そう。言うまでもないが、我こそが髙田モンスター軍総統、髙田だ！

【歓声&ブーイング】

キャプテン　うるせえ、このコスプレ野郎が！

総統　お～、これはチキン君。先日の『PRIDE・GP』、ご苦労だった。ハッスル査定試合、拝見したよ。いや、正確に言うと、拝見していないんだ。8月23日のフジテレビで（の『PRIDE・GP』の地上波）放送を見ていたんだが、**NHKのオリンピック・ハイライトにちょっとチャンネルを回したら、そしたら君はもう負けていたんだよ！**

【観客大爆笑】

キャプテン　そんなとこからほざいてんじゃねえよ、この野郎！

総統　（無視して）あれだな。**君より、YAWARAちゃんの方が強いんじゃないか？**　我がモンスター軍に彼女を勧誘したいぐらいだ。チキン君。もう少し聞きたまえ。**査定試合、54秒だったな。ずいぶん、早かったなぁ（本当に嬉しそうに）。**そこでだ！　ひとつ、君にグッドアイデアを差し上げよう。あの吉野家の豚丼に対抗して、**「小川屋のチキン丼」**っていうのはどうだ？　キャッチフレーズはこれだ。**「早い、弱い、しょっぱい」だ！**

【観客大爆笑】

総統　まだある。**注文してから54秒で出てくるんだ！**

キャプテン　うるせえんだ、この野


『ハッスル』名物を誌上再録!!

構成／ジャン斉藤
試合写真／平工幸雄
designed by matsu (Two Three)



初御披露目！　Wビターンとは何か？
ノゲイラのスピニング・チョークと並ぶマット界最強の必殺技といえば、総統の「ビターン!!」。今回は「Wビターン！」を披露。その効果はヤドカリの右目右足を完全治癒させるほど！　スゲエ。



ウテ・ワーナー&ランデルマン、追放
『ハッスル4』で坂田に敗れたランデルマンと、セコンドに付いた総統の美人秘書ウテに制裁を加えたことをあきらかに。今号でウテの水着グラビア撮影を予定していた本誌にとっては痛すぎる話だ。



髙田総統、ビジョンに出ずっぱり!!
「これを最近ファンレターが来て調子に乗っている、"スター気取り"のGMに伝えてくれたまえ！」今大会のサブタイトルは髙田総統が命名。それにしても総統の表情・動きはいちいち素敵すぎる。





あ～あ、腕なんか組んじゃって、ハイアンにバレても知～らない

大演説!!

9・2『ハッスル・ハウスvol.2』主役はやっぱりこの男だった!!

郎。さっさと降りて来い、この**"泣き虫"**が!

総統 "泣き虫"? 君はいま、私に泣き虫と言ったな? **本当の泣き虫は君なんじゃないか?** 先日のハッスル査定試合のあとに、君はこんなことを言ったらしいじゃないか。これを見たまえ!

【ビジョンには、GP後にけやき広場で行われたハッスル集会の映像が流され、**ファンの声援で涙ぐみながら「感動をありがとう!」と絶叫する小川の姿が映される**】

総統 わかるだろ? 君こそが**ホンモノの"泣き虫"なんだ!**

【ブーイング＆笑い】

総統 これから、私が下した査定試合の評価を君に教えてあげよう。下々の諸君、そしてチキン君、モニターに注目してくれたまえ!

【モニターに小川vsヒョードル戦の模様が流され、その上に**採点数字がピコピコ回転。「オーちゃん、3点」というロボコン風のナレーション**とともに"3点"と表示される。ふざけた仕打ちに観客は大ブーイング!】

キャプテン 何が3点だ、この野郎!

総統 (無視して) 君に礼を言っておくよ。ありがとう、チキン君。**今日も十分ネタにさせてもらった。しかしだ。もう飽きた(投げやりに)!**

【観客大爆笑】

チキン君より、YAWARAちゃんの方が強いんじゃないか?









総統 この話題はウンザリだよ。そこでだ。我々からひとつ、マヌケなハッスル軍の諸君、そして暇で暇でしょうがないプロレスファンの諸君にニュースがある。**我がモンスター軍に新たなモンスターが加わった。恐れさえ知らない、この男だ!**

【不気味な音楽とともに白使がゆっくりと登場! 白使の墓を暴いたのはやはりモンスター軍だった!】

総統 どうだ? ビビったか? たじろいだか!? 最後にひとつだけ言っておこう。泣き虫のチキン君、君はハッスル査定試合に負けたんだ。それも54秒だ。**よってこれから54日間、出場停止だ!**

キャプテン テメエ、何勝手に決めてんだ、この野郎、オイ!

総統 諸君、次回まで楽しみにしてくれたまえ。バッドラック……!!

【再び「威風堂々」のテーマが流れ、総統及びモンスター軍が立ち去る】

キャプテン おい! 誰だ、その白いのは? **どうせ、また(マスクド・ノーフィアーみたいに)出てこねえんだろ～お!**

【観客大爆笑】

キャプテン ……(気を取り直して)オイ、ヤング・ハッスルに向かって)オイ、オマエらよ、よく聞けよ。俺はよ、『PRIDE』で学んだことがあんだよ。それはよ、勝っても負けてもよ、ハッスルしなきゃ皆同じってことなんだよ! (観客に向かって)俺は勝っても負けてもハッスルしますんで、よろしくお願いします!

【ここで観戦していた城彰二(横浜FC)を発見したキャプテンはリングに呼び寄せ、サッカー界でのハッスル普及を要請。城は"ハッスル・ジョー"を襲名することになった】

キャプテン それでは、最後に皆さん、気持ちよく行きましょうか!

【ここで会場から大「長州!」コールが発生! 長州にハッスルポーズを期待する大歓声だ!】

キャプテン え～、皆さんの期待を裏切っちゃうんですけど、**先程長州さんはお腹痛くて帰ってしまったんで。**

【場内爆笑】

キャプテン **橋本はですね、まだ病院で看護婦さんのお尻を追ってるんで、今日来ることができません。**ということでですね、サッカー界とプロレス界と皆さんが、頑張るために、いまからハッスルします! 行くぞーーッ!

キャプテン＆観客 スリー、ツー、ワン! ハッスル、ハッスル!!!!

最後はキッチリ締めたキャプテンだったが、またしても総統の"言葉の鉄槌"の前にたじろぎっぱなしだった。そして総統が勝手に命じた54日間の出場停止処分は後日、笹原GMが正式に承認! 9・20『ハッスル5』、小川はどこへ……? ハッスル、ハッスル!



パンフレットもモンスター軍が表紙!!

高田総統や参謀長の編集責任により好評を博している『ハッスル』パンフ。今回はアン・ジョー司令長官がその任を務めた。デタラメな解説でハッスル軍をコキ下ろしているのでとにかく必読ネ～。



モンスター軍合同練習も公開!!

モンスター軍の公開合同練習にみちのくの湯浅が乱入。白使の墓を暴いた件を問いただそうとしたが、聞く耳を持つモンスター軍ではない。散々に痛めつけた。とくにヤドカリは試合以上に大暴れ!



仰天! 伝説の2・10東京ドームが甦った!?

ヤドカリに向かってアントン語録を口にしたボビッシュ。それを受けてヤドカリは「時は来た!!」と破壊王調で続き、アン・ジョーが蝶野張りに笑いを堪えるが、伝説のシーンを再現したことに意味はない。



今宵も「ビターン!!」が炸裂ッッッ!

指をグルグル回す「Wビターン!」だけではなく、洗脳効果を持ち合わせている「ビターン!!」も飛び出した。そろそろ総統が「スリー、ツー、ワン! ビターン!!」と興行を締めても構わないぐらいの人気ポーズだ。

『ハッスル』は“お約束の地”を目指す



“お約束の地”で掟破りが起こった!?

“肩狩り酋長”KATAKARIにウリふたつだった“膝狩り酋長”HIZA-KARI。彼の要望により、試合中は太鼓の音楽が鳴らされた（川田の指示で途中でストップ）。モンスターCは川田の技を再三に渡ってパクリ続けた。着こんだトラックスーツは、ハッスルKのそれとはまったく正反対の色使い。

『ハッスル』シリーズには、最初から最後まで“お約束”が随所に散りばめられている。中でも最後の「ハッスル!! ハッスル!!」は最大の“お約束”だ。

その“お約束の地”である『ハッスル』にとんでもない掟破りが勃発した。その震源地は、なんと“ハッスルK”川田利明だ!!

『ハッスル・ハウスvol.2』のセミ・ファイナル、ザ・モンスターCとタッグで激突した川田は、今回も黄色と黒のトラックスーツで猛ハッスルした。

「C!」「C!」「C!」「K!」「K!」「K!」

後楽園ホールの観客は、川田が攻撃すると「K!」、モンスターCが攻撃すると「C!」と絶叫して試合を能動的に盛り上げていく。その場で“お約束”が出来上がり、後楽園ホール全体へと広がっていき、会場の盛り上がりは頂点に達した。

掟破りは試合後に発生する。試合は川田組が敗れたが、それでも川田のハッスルは止まらない。リング上から「リーダー!! 出てきてくれ!!」と呼びかけ、なんとダチョウ倶楽部のリーダー・肥後克広をリング上に呼び入れたのだ。もしもリングアナがケロちゃんだったらマイクを奪い取って「それは違う!!」と絶叫していたに違いない展開だが、ここは“お約束の地”である『ハッスル』のリング。“お約束”の王・ダチョウ倶楽部のリーダーに敬意を払わぬ無粋な者はいなかった。リーダーもリングに上がるなり四方に「ヤァ〜!!」で“お約束”を見事に果たし、「ハッスル!! ハッスル!!」を大合唱した。

「小川ひとりにハッスルを独占されるのも悔しいんで……」という川田のマイクは、むき出しの本音だろう。掟破りに近い形でハッスルするデンジャラスなK……つまり、この日の川田は“デンジャラス・ハッスルK”だった。この日のメイン後にJリーガーの城彰二が登場するが、2試合続けてのサプライズ・ゲストは通常ならあり得ない展開だ。後者はインパクトが薄くなるからだ。事実、ご丁寧にサッカーボール持参で登場した城の登場は心なしか霞んでいた。これは城には何の落ち度もない……強いて言えば、あそこでリーダーを呼び込んだ川田のせいと言えなくもないが、それでもあれだけの盛り上がりを作り出してしまった以上は責めるのもナンセンスだ。

『ハッスル』は基本的に試合以外の部分は、スタッフが何度も何度も会議を重ね、ストーリーを作り、演出リハーサルを何度も行って、大会に臨む。その物語は「ハッピーエンド」という縦糸と、「トゥ・ビー・コンティニュード」という横糸が“お約束”という大きな生地を織り成している。“お約束”を最大限に活かすためには、WWEやドリフのように段取りを入念に確認する作業が必要となってくるのは言うまでもない。

だから、今回の川田の、「ハッスルを小川に独占されるのは悔しい」という意地を表現した行動は、基本的には反則となるはず。しかし、今回の反則はカウント5以内。さすがリング内では三冠王者、リング外では太田プロ所属だけあって絶妙なツボを心得ていた。

『ハッスル』は“旧態依然とした体制”を破壊すると同時に、新たなる“お約束の地”を目指してハッスルしている真っ最中。だが、誤解を恐れずに言えば、すべてが筋書き通りになってしまうと小さくまとまってしまう可能性もある。そこで“俺だけのハッスル”が思わぬ形で顔を出した。随分わがままなキャッチフレーズだが、こうしたレスラーのエゴこそがプロレスの大きな魅力であることを否定する者はいないだろう。

“お約束の地”でお約束の中にすべての意地を込めた川田、それを受け入れる『ハッスル』という広大な土壌。この関係は、今後も注目だ。

個人的にはWWEでクリス・ジェリコがやっている“ハイライト・リール”のような、川田が毎回ゲストを招いてトーク&ハッスルするというコーナーが是非とも見てみたい。

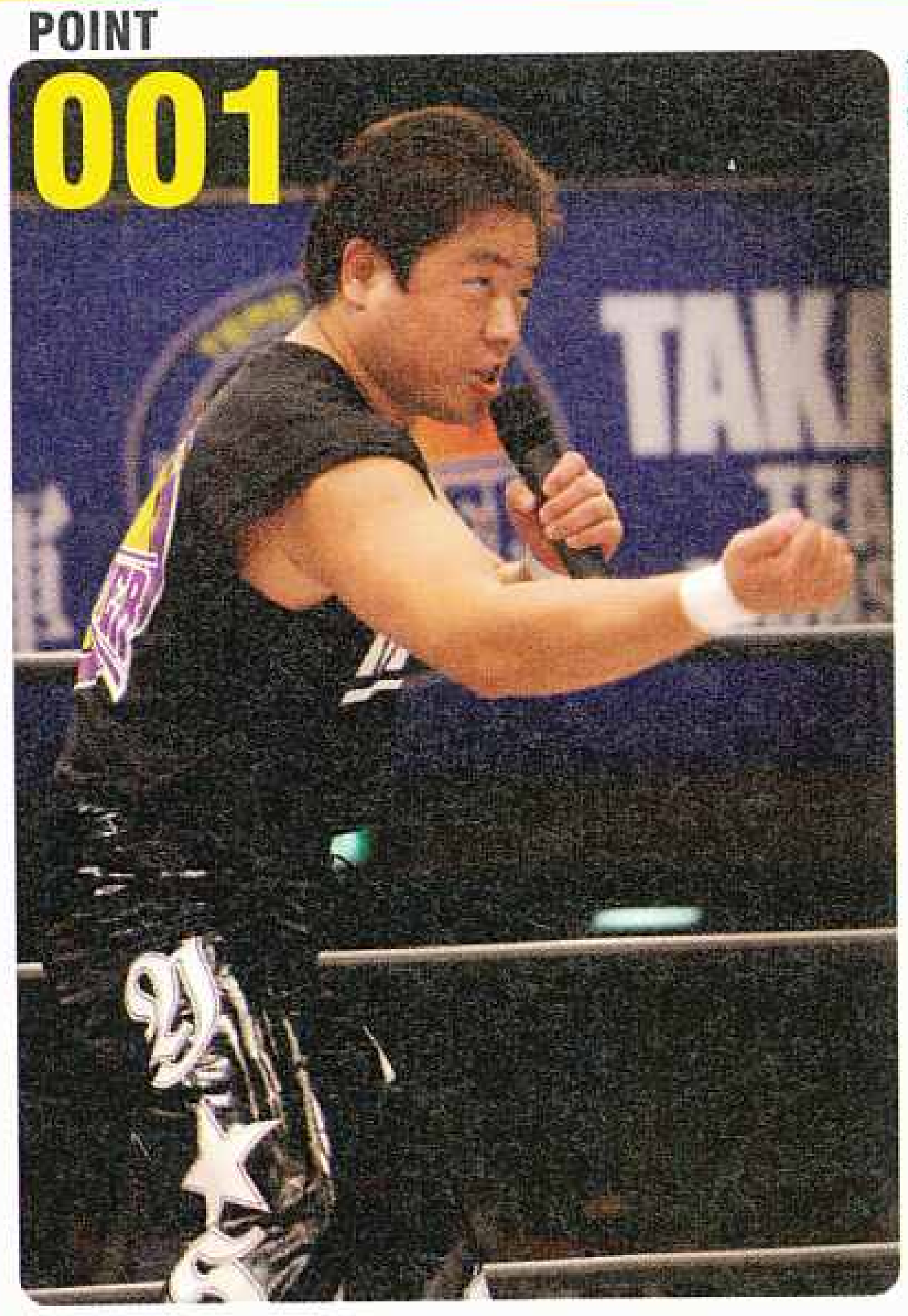
[文/坂井ノブ]



あ～あ、腕なんか組んじゃって、ハイアンにバレても知～らない

ヤドカリ島田がプロレスデビュー戦で失神!! それでもファンの溜飲は下がらず!

POINT 001



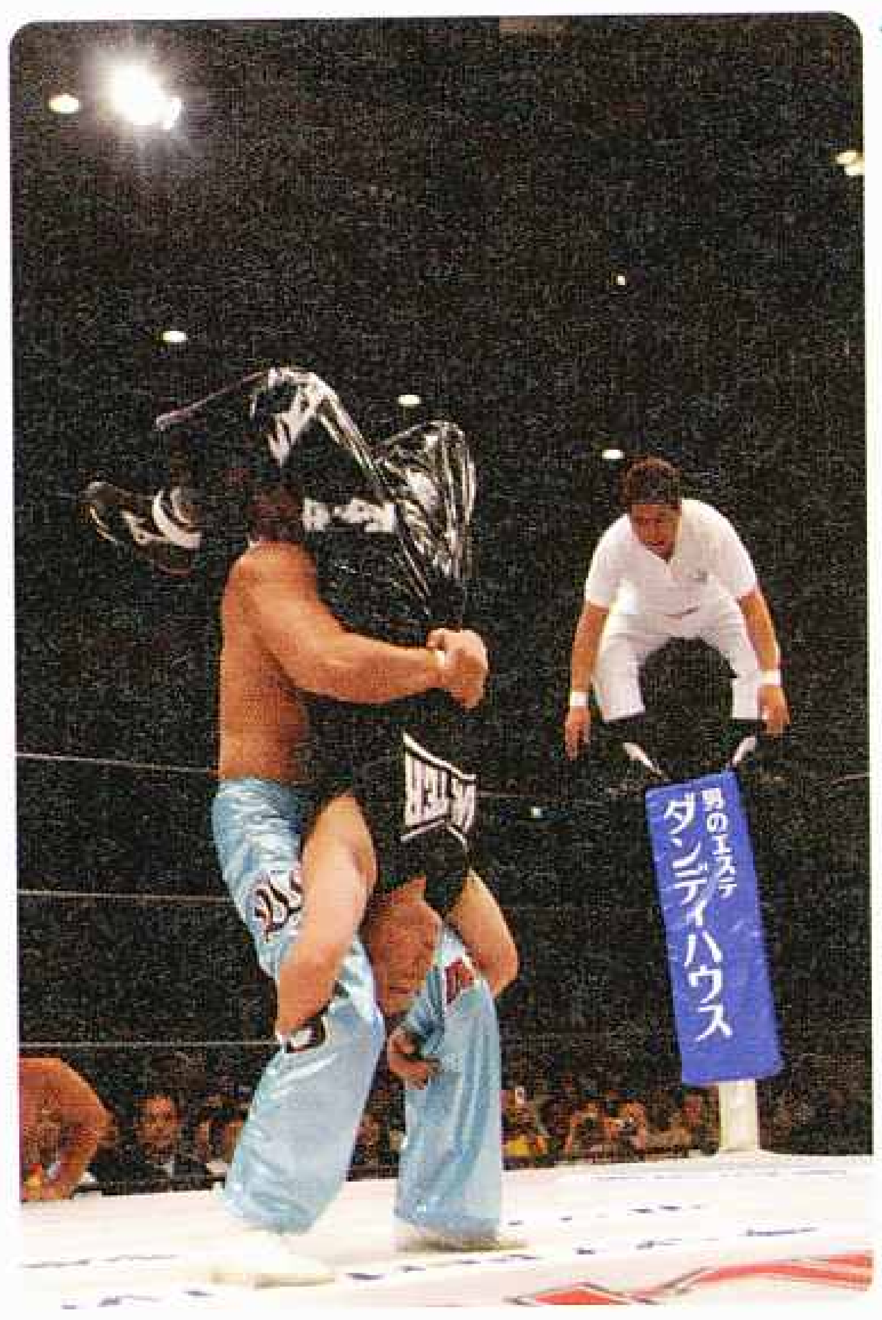
試合前にナルチビ坂田を挑発したヤドカリだが……。

ヤドカリのプロレスデビュー戦。試合前、ヤドカリは「ナルチビ! 魂を込めてかかって来い!」と大口を叩くと、一方の坂田は「島田、本気だぞ」と凄味を効かせて返す。恐れをなした島田は軽くロープワークしただけで、すぐにボビッシュにタッチ。嫌な"お約束"だ。



タッチを拒否! 往生際の悪さはアヌッシュ以上だ!

ボビッシュのタッチを頑なに拒否するヤドカリ!! これも"お約束"。"ドーピング疑惑男"アヌッシュがビビってたじろぐ往生際の悪さに観客が"お約束"のブーイングを送った。



合体パイルドライバーでヤド失神!

ようやく仕方なくなく試合に参加したヤドカリ。トップロープからの攻撃を狙ったが、坂田に"お約束"どおりに捕まり雪崩式ブレーンバスター!! そして特別レフェリーを務めた中村カントクが、いままでの恨みを晴らすとばかりに合体パイルドライバー! これにてヤドカリは失神。しかし試合は"ボビッシュの力"で総統軍の勝ち!



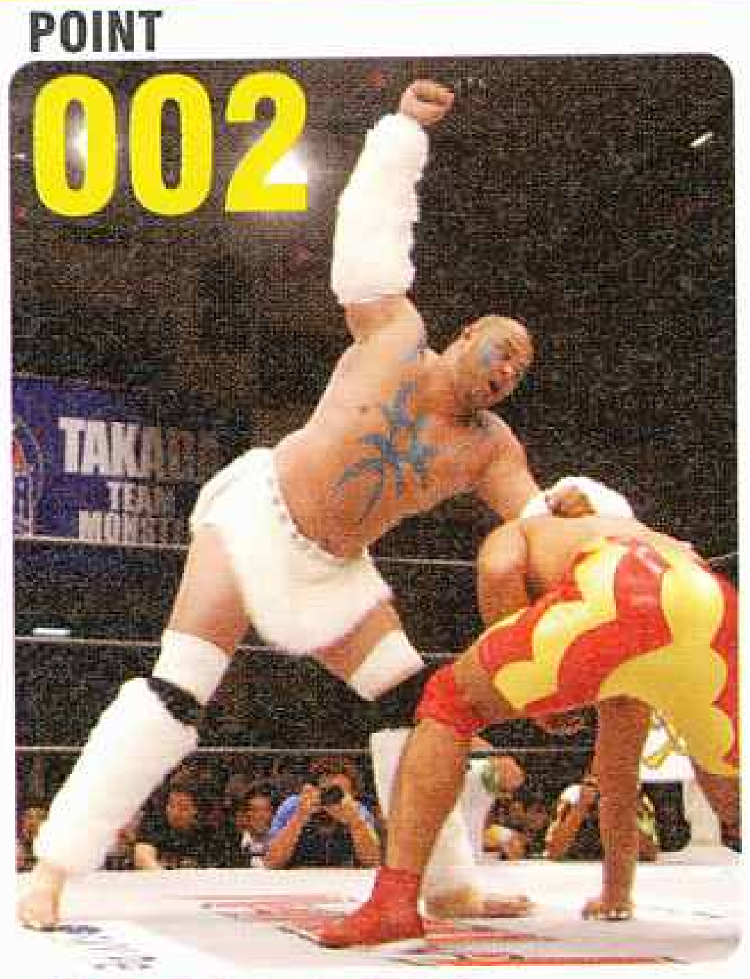
仰天! これがカントクが保持するNWA認定レフェリー証だ!?

ZERO-ONEの中村部長はNWA認定レフェリーでもあるが、その友人の中村カントクも免許を取得していた!? あまりにも偽造っぽい免許証は"お約束"。

『ハッスル・ハウスVOL.2』～東京モンスターパーク～ HUSTLE POINT

掘り出しモンスター!? ヒマラヤの雪男"ヒマラヤン・ビッグフット"

POINT 002



デカくて強くてマヌケな"幻の雪山怪物"が大暴れ!!

髙田総統がヒマヤラ登頂した際に発掘したヒマラヤン・ビッグフットは、日本の暑さのせいか超スローモーな動き。しかし、アン・ジョーが差し入れた氷をむさぼり喰うとパワーアップ!!





『ハッスル』とはアン・ジョーのためにある?

湯浅、横井、軍鶏侍のヤングハッスル軍は"お約束"のようにモンスター軍にブッ飛ばされた。アン・ジョー司令長官は相変わらずC調な動きでハッスル軍をこき下ろす試合巧者振り。

あのハッスル仮面が増殖! ハッスル編隊飛行に成功だ!!

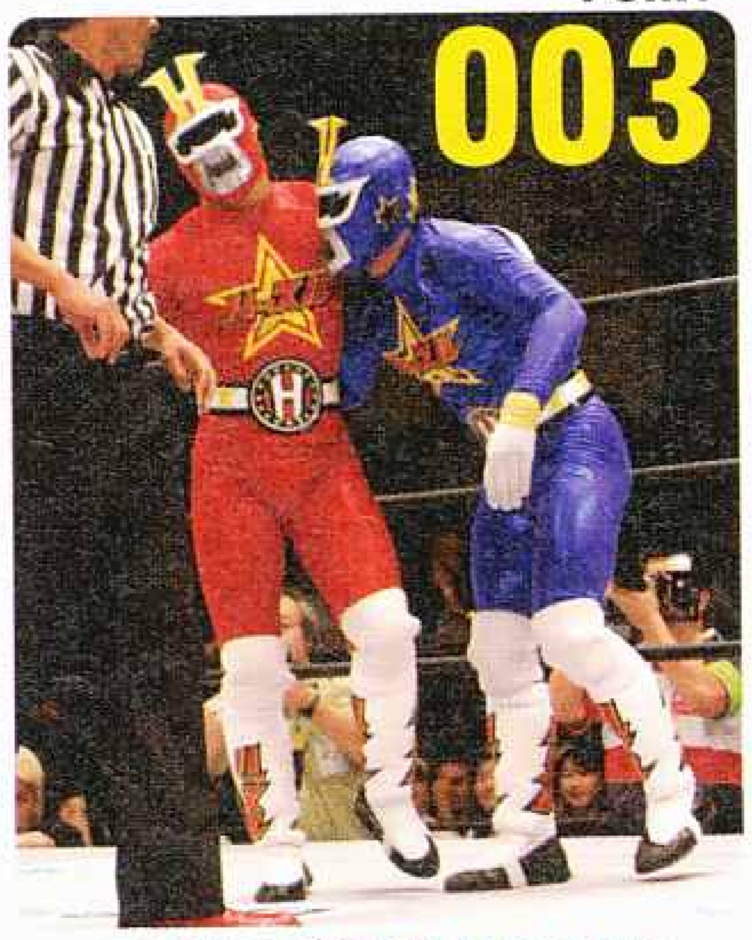
POINT 003





狂気? それとも脳天気? ザ・デビル・ピエロ1号&2号

脳天気なテーマ曲。風船を持っての入場。「オマエは今村か?」という野次は、"お約束"ではなくマニアックすぎる。パントマイム・ボディプレスや肩車式合体ギロチンドロップなどオリジナル・ピエロ技はお見事だった。

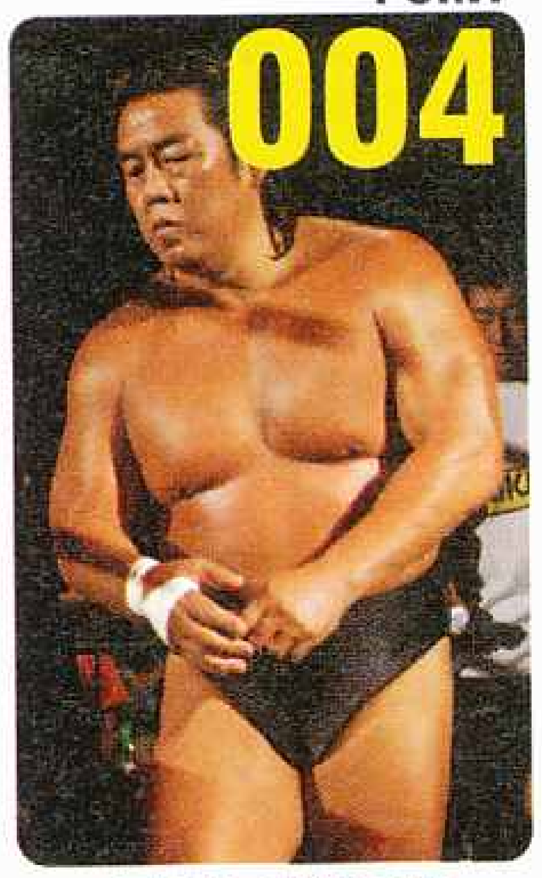


ハッスル仮面が名誉挽回の活躍!!

『ハッスル4』では会場を凍らせるヘタレ振りをみせたハッスル仮面が増殖。レッドは入場でコーナーに上った瞬間、ズルッとこけるヘタレっぷりをまるで"お約束"のようにやってのける。でも今回の試合は凄かった! 次回も期待!

導火線に火を付けたのは"ロートルの黒パンツ"!

POINT 004

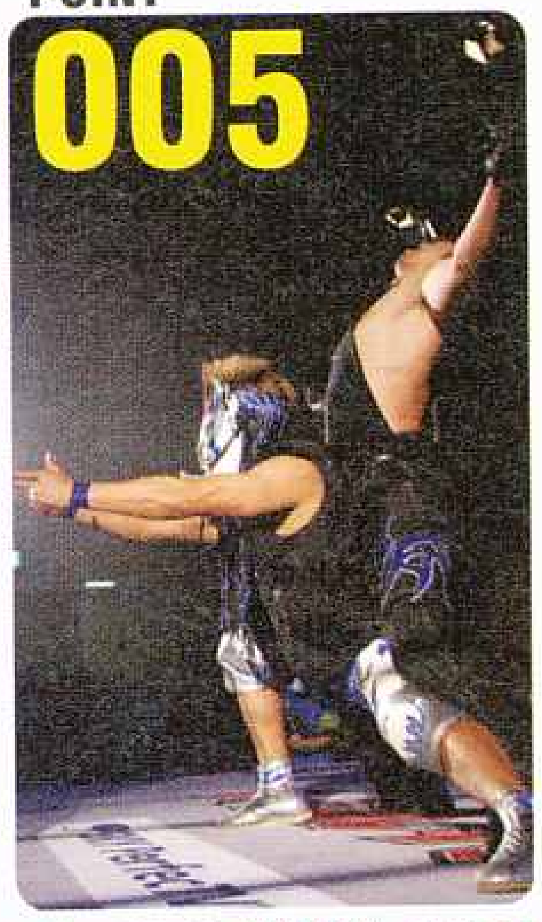


長州力がまたもや"異次元対決"に臨んだ!

テーマ曲が鳴って初めて対戦カードがわかる対抗戦。第1ハッスルでいきなりパワーホールが鳴り出すと、会場は大盛り上がり。長州はサイコ・ザ・デスを"お約束"のリキラリアットで破った! すぐさま控室に引き上げるのも"お約束"だ。

オープニング・ハッスルに異変!? カズ&スパンキーが敗れる!

POINT 005



オープニングを制したのは藤田&日高だ!

オープニング・ハッスルの"お約束"となったカズ&スパンキーのイケメンコンビ。『ハッスル』では土付かずだったが、目まぐるしい空中戦の末、日高郁人&藤田ミノルに敗北!

2200人超満員札止め!! リング外もハッスル、ハッスル!!

POINT 006



Tシャツバカ売れ! 『ハッスル』グッズも絶好調!!

『ハッスル』グッズに身を包むお客さんは数知れず。ヤドカリTシャツを販売したら間違って売れてしまいそうな勢いです。ハッスル、ハッスル!



木原のオヤジ&青木裕子もハッスル、ハッスル!!

『ハッスル』ブースを固めたのは木原のオヤジ&青木裕子さん。『ハッスル4』ではヤドカリが乱入してデタラメな解説をしたが、会場観戦では感じられない楽しみも『ハッスル』にはあるのだ。



山田千鶴ちゃんが優しくハッスル指導♥

『ハッスル』の正しい観戦方法をなぜか新体操のムーブ付きで教えてくれる山田千鶴ちゃん。次回はぜひリング上からナマ指導してもらいたいよ! (GM、カントク、ヤドカリらの"お約束"オープニング劇場はその代わりカットしてな)。

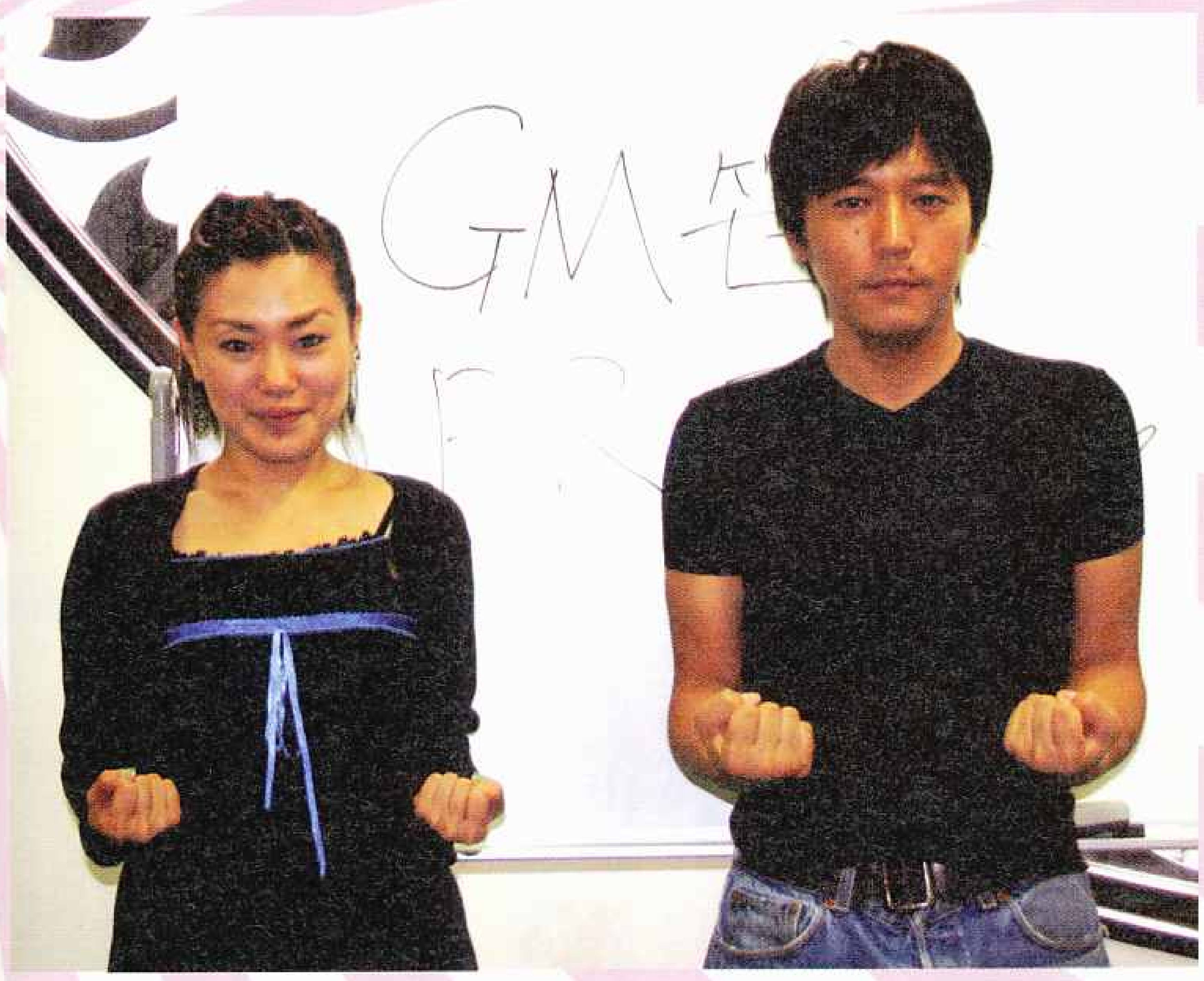
『ハッスル』広報

笹原GMと臼杵PRにハッスルのことを聞いてみよう！

『ハッスル』を広く知らしめるため日々奮闘する笹原GMと臼杵PR（パブリックリレーション）が本誌初登場！　『ハッスル』の登場人物としても活躍するお二人に、今後のイベント戦略などについて聞いてみた。

聞き手／ジャン斉藤

designed by matsu (Two Three)



――今日は笹原GMと臼杵ハッスルPRのお二人に、『ハッスル』についていろいろとお聞きしたいと思ってます！

笹原GM&臼杵PR　よろしくお願いします。

――え〜、まず初めにお伺いしたいのは、臼杵さんが一部マニアから〝DSEのアヤパン〟と呼ばれていることはDSE的に問題はないのかということです（笑）。

臼杵　そ、その話は勘弁してください……。

GM　全然問題ないでしょう！　本人は満更でもないですから。

――まあ、名前が「彩子」ですからね。〝アヤパン〟を名乗ることに文句のつけようはないですよねぇ。

GM　本人も「名前は〝彩子〟だから、みんなわかってるわよね」と強制させるわけですよ。もうかなり天狗になってますから。

臼杵　そんなことはないですからぁ……。もともとサムライTVに出演したときに、勝手に付けられただけなんですよ！

――たしか前号本誌の榊原代表インタビューでも〝DSEのアヤパン〟というくだりがあって、原稿チェックの際に一度、臼杵さんの手によって削られたんですよね。

GM　でも榊原が「そこだけは絶対に載せろ！」ということで。私も同意してそのままにしました（笑）。

臼杵　はぁ……。もう好きにしてってかんじですねぇ……。

――いやあ、実に素晴らしい首脳陣の決断です（笑）。そして笹原GMも髙田総統曰くの〝スター気取り〟どころか、このたび映画デビューされるそうで、晴れてスターになられたというか。

GM　はい。僭越ながら出させていただきました。

――しかも「実写版まいっちんぐマチコ先生THE MOVIE Oh！コスプレ大作戦」への出演だから、これにはビビってたじろぎましたよ！

GM　ボクの役柄には悲劇的な結末が待ってるんです。感涙は間違いないですね（笑）。

――業界の噂では、「GMのむっつりスケベ具合が素晴らしい」という理由で抜擢されたと聞きました。

GM　……それはですね、あなた方の雑誌の編集長が勝手に触れ回ってるだけですよ！

――ゲッ、山口のデマでしたか!?

GM　山口さんの相変わらずいい加減な分析はともかく、この映画は「いかレスラー」も撮られた河崎（実）さんが監督でして、河崎さんは『ハッスル』もご覧になってますから、そんな御縁があったんです。

――聞くところによると、GMにはもう一本、映画出演のオファーが来てるそうですね。

GM　はい。あと小川（直也）さんがJビーフのCMに出演されましたけど、私はそのCMで小川さんの後ろで踊ってます（笑）。

僭越ながら「実写版 まいっちんぐマチコ先生」の出演が決定しました！（笹原）

――映画2本にCMまで出演！　それは『ハッスル』特需もいいところですね（笑）。

GM　いや、私の懐は1ミリ足りとも潤ってないですから（真顔でキッパリと）。

――そ、そうズバリ言われましても……。

GM　でも、私に声が掛かると言うことは、それだけ『ハッスル』が浸透してる証でもありますから。それは嬉しいことではありますね。

――実際に『ハッスル』パワーは増幅の一途を辿ってますよね。9月2日『ハッスル・ハウスvol.2』は前回に続いて超満員。またもや異常熱を生み出したわけですが、GMの率直な大会感想をお聞かせください。

GM　お客さんはたくさん入りましたから、そういう意味では大成功なんですけど、一回目の『ハウス』の爆発振りと比較すると……まだまだですね。もちろん及第点だとは思いますけど。

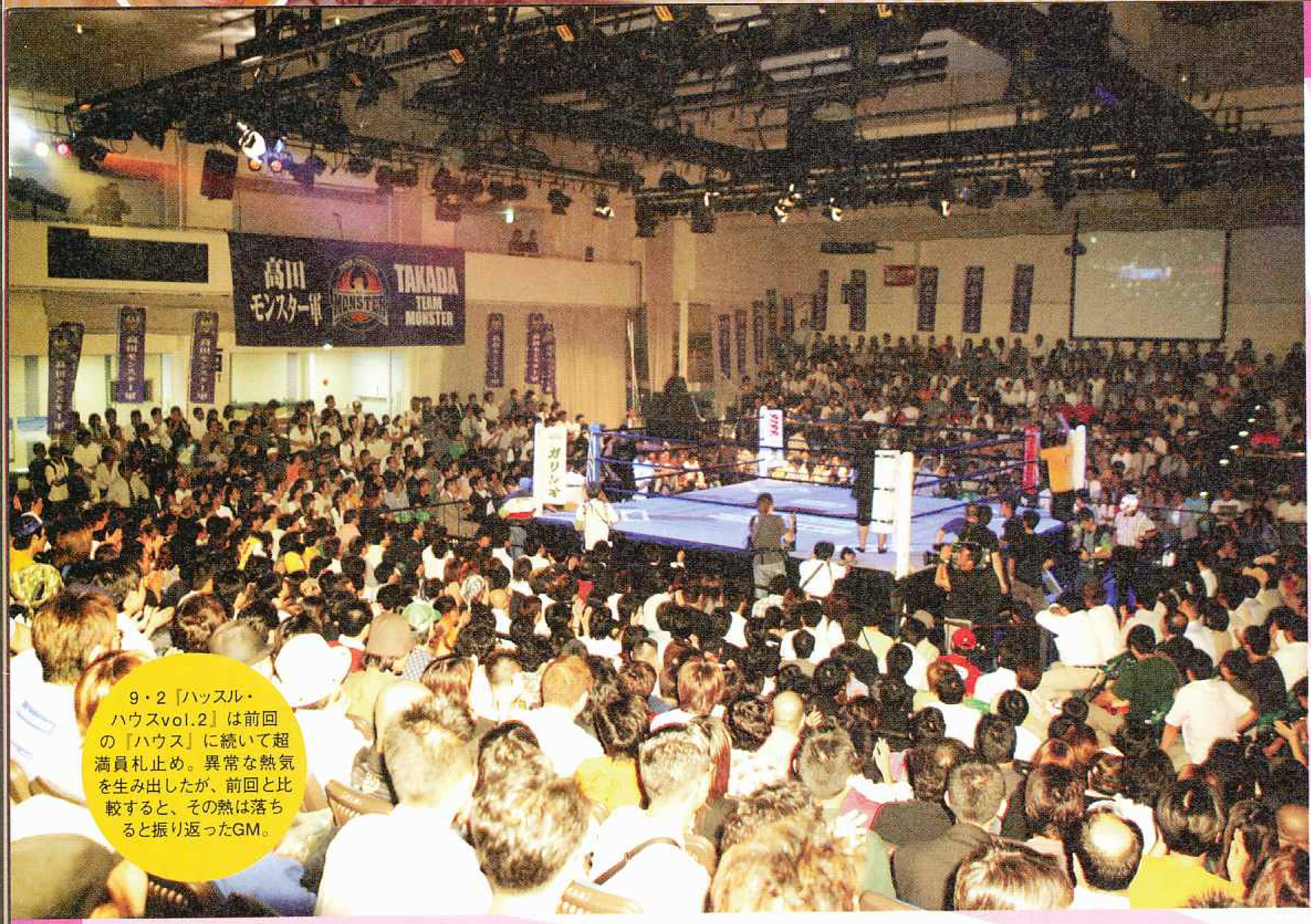
――1回目と比べて物足りない部分はどこになりますか？　試合内容は格段に良くなったと思いますけど。

GM　一回目はいろんなサプライズを出し尽くしたじゃないですか？　川田さんがハッスルポーズをやったり、結局『ハッスル4』には出ませんでしたが、マスクド・ノーフィアーが姿を現したりと。

――いま振り返ってみても、それは贅沢な空間でしたよね。



あ〜あ、腕なんか組んじゃって、ハイアンにバレても知〜らない



9・2『ハッスル・ハウスvol.2』は前回の『ハウス』に続いて超満員札止め。異常な熱気を生み出したが、前回と比較すると、その熱は落ちると振り返ったGM。

GM それが良いのか悪いのかはわからないですけど、あそこまで出し尽くすと「普通のナンバーシリーズと何が違うの？」って話になりますからね。もしかしたら、今回のように8割位の出来でいいのかもしれな

一回目の『ハウス』の爆発振りと比較すると……まだまだですね（笹原）

い。言えることは、『ハッスル』でしか楽しめない要素や、逆に『ハウス』でしか楽しめない要素をつくっていくことは大事だと思いますね。

——差別化を図っていくことが必要なんですね。あの熱を生み出した要因は、GMはどう分析してるんでしょうか？

GM う〜〜ん。何なんですかね？

——正体不明（笑）。

GM ちょっとわかりかねますよね。一回目にしてもあれほどの熱を生み出すとは思いもしませんでしたから。今回も、事前に発表したのは島田参謀長がプロレスデビューすることだけだったのに、それだけでチケットは完売ですからね。

——今回は二試合を除いて当日発表というかたちでしたが、全カードをパッと並べてみると、誤解を恐れずに言えば、とくに引きになるラインナップではないですよね。ファンはカードじゃなくて、『ハッスル』の雰囲気や世界観を堪能したい欲求があったんだと思います。

GM 新しいファンも増えてきてると思うんですけど、従来のプロレスファンが何か新しいものを観たい気分になってるのはたしかでしょうね。

——臼杵さんは従来のプロレスと比べて、何か違いを感じましたか？

臼杵 私、そんなにプロレスはわからないんですよ……。プロレスを観たのは『ハッスル』が始まってからなんです。

——いわゆる初心者からすると、『ハッスル』を見てプロレスにどんなイメージができましたか？

臼杵 う〜ん。笑えるかなぁ……？

——プロレス＝「笑い」ですか！

臼杵 私、お笑いとか大好きなんで。真剣にガーッと試合をされると引いちゃうところもあるというか。

GM まぁ、いまの『ハッスル』は「笑い」が突出してるのはあきらかですよね。でも、それは人間が持つあらゆる感情の中のひとつで、『ハッスル』はすべての感情を表現していきたいですから。いずれは泣かしたいとも思ってるんですよ。

——泣かせる『ハッスル』！ それも非常に期待したいですが、まず注目したいのは、後楽園ホールで生んだような熱を横浜アリーナ級の大会場で生み出せるかってことなんです。

GM それはまだまだ時間がかかると思いますよ。それこそ『ハッスル』がスタートしてまだ1年も経ってないわけで、後楽園ぐらいの規模だとお客さんもたくさん入って熱も生まれますけど、横アリのように1万5千人の規模だと時間は掛かるでしょうね。

——そういう意味では、『ハッスル1』をさいたまスーパーアリーナの、あの広い広いスタジアムバージョンでやったことは、それはとてつもない挑戦でしたね。

GM 無謀以外の何物でもないです（笑）。しかも大晦日に『男祭り』があって、中四日の開催ですよ。

——「プロレスだから大丈夫」とじゃなかった、と（笑）。

GM いずれはあのスタジアムバージョンを一杯にしたいですが、もしかしたら違うゴールがあるかもしれないですね。来年からは『ハウス』を増やして興行形態を変えていきたいとも思ってるんです。2、3000人規模の会場を超満員にして、会場に入りきれなかったお客さんはPPVで見てもらうスタイルが理想なのかもしれないですし。

——いまは実験を繰り返していく段階ということですね。

GM そうですね。やっぱり昔のプロレスじゃないですけど、地方興行があって、最後のビッグマッチでドラマが一旦は完結するかたちにはしたいですね。

——ボクが凄いと思うのは、あの個性の強いレスラーたちをひとつの方向にまとめていることなんです。正式な所属選手でもないのにあそこまでやってくれるなんて。

GM お互いに信頼関係を結ぶまで時間はかかってるんですよね。私たちがいつも選手の方にお話しするのは、「新しいものを一緒につくりましょう。まだ形になってない『ハッスル』を一緒につくりましょう」ということなんですよ。いま参加してるレスラーの皆さんには少なからず賛同して頂いてる。同じ船に乗って進んでる感触はありますね。

——小川さんがDSE主催の興行でハッスルしているなんて、1年前には予想も付きませんでしたよね。まさか『PRIDE・GP』に出ることも。

GM それは私もまったく思ってなかったですね。

臼杵 私もそうですね。小川さんは『ハッスル』だけなんだろうなと思ってました。

——臼杵さんは小川さんのことは

笹原死すともハッスル死せず!!

GMの大会開始前挨拶で恒例となった「笹原死んでもハッスルは死せず!!」の絶叫。今回は「チーズが一切れあれば、皆様方と半分ずつ。毛布が一枚あれば皆様方と半分ずつ」と、名犬ジョリーのエンディングテーマ風な名言が飛び出した♪

『ハッスル』はプロレス初心者の私でも楽しめます（臼杵）

御存知だったんですか？

臼杵　もちろんですよ！（笑）。プロレスラーというと、小川さん、橋本さんでしたから。

GM　でも（臼杵は）まったくプロレスラーを知らないんですよ。（新日本の）G1のポスターに載っていた選手の名前、ほとんど言えませんでしたからね。

臼杵　あと外人選手も知らないんですよ。ミック・フォリーなんて、そんなに凄い人だとは思わなくて（笑）。

——誰だよ、このむさ苦しい外人は？って（笑）。で、『ハッスル』といえば、誰よりも髙田総統が超ブレイクしてるわけですが、やっぱり髙田本部長とは別人なんでしょうか？（笑）。

GM　まったく別人です！……が、たくさん秘密はあると思いますけどね。

——しかし、前代未聞かつ空前絶後なキャラクターではありますよね。

GM　『ハッスル』は新しい試みを多く行ってますが、それはスタッフに「ここまで踏み出さないとプロレスは変わらない」という気持ちがあるからなんです。いまは『PRIDE』という確固たるガチガチの勝負論が存在しているわけですから、プロレスは、針を思い切り反対方向に振り切るしかない。であるならば、その象徴のひとつが髙田総統になるわけですよね。



【うすき・あやこ】
気怠そうに『ハッスル』会見の司会を務めるDSE広報局広報宣伝部所属。02年10月に入社。『PRIDE』HPの情報によれば、元銀行員。特技はモノマネ、お裁縫。身長は151.5センチ、体重は不明。榊原代表曰く次期社長候補筆頭。

【ささはら・けいいち】
『PRIDE』設立当初から携わる。DSE広報局の一番偉い人にして『ハッスル』の最高責任者。DSEが『猪木祭り』に関わっていた頃は、『猪木祭り』の会場に強引に押し掛けてきた大仁田厚と押し問答を繰り広げていたことも。その光景を見て1年の終わりを感じていた関係者は数知れない。

——『ハッスル』には、もはやなくてはならない存在ですよね。ところでお二人は『ハッスル』だけじゃなくて、『PRIDE』関連仕事もお忙しいわけですが、やりがいを感じるのはどちらになりますか？

GM　どっちも同じですね。言ってしまえば、『PRIDE』も『ハッスル』も同じなんですよ。同根というか、どちらも生のライブじゃないですか。自分たちが準備したものにお客さんが腹の底から笑ってくれたり、時には泣いたりしてくれることに関しては同じですからね。

臼杵　私も笹原がいま言ったように、イベントをつくることに関しては、プロレスでも格闘技でも同じですね。プロレスはわからない部分が多いんで、もっと勉強しないといけないんですけど。もともと格闘技を観るのは好きだったんで、『PRIDE』の世界にはにはスッと入れたんですけど……。

GM　要はプロレスをバカにしてるんですよ（キッパリ）。

——よく納得できました（笑）。

臼杵　バカにしてないですよ!!　それは違います。好みの問題ですよ。

——「好みの問題」って、嫌いってことじゃないですか！

臼杵　ち、違いますよぉ！

GM　実際（臼杵は）格闘技のほうをよく観に行きますからね。パンクラスやZSTにも。私よりも行ってると思いますよ。

臼杵　……嫌いなんじゃなくて、プロレスは難しいんですよね。『PRIDE』とかより。

——あらかじめ知識がないと楽しめないポイントがあるってことですか？

臼杵　そうですねぇ。いきなり試合を見せられても、ちょっと……。『ハッスル』だと、映像なんかでストーリーやポイントを教えてくれるじゃないですか？　それに連続で見てなくても、一大会だけ見ても面白いところはありますよね。『ハッスル』は自分が関わってるからかもしれないですけど、初心者でも楽しめるところがあると思います。

GM　こないだの『ハウス』の客層を見る限りでは、昔からのプロレスファンもいましたけど、新しいファン確実に入ってきてると思いますね。混じり合ってる感じがしました。

——『PRIDE』の四点ポジションパロディ「川田組がHIZAKARIの太鼓音楽を認めたため……」がウケる空間で、「やる前から負けること考えるバカいるかよ！」「時が来た！」の2・10パロディもしっかりウケてましたからね。

GM　蝶野さんが最後に吹き出すシーンもアン・ジョー司令長官がパロってましたが、あそこでも観客は笑ってましたから（笑）。

——何年前のネタだよっていう（笑）。

臼杵　？？？　よくわからないけど、あの映像は面白かったです。

——よくモノマネなんかでも、真似されてる本人がわからなくても楽しめますからね。

GM　その楽しめる雰囲気を創ることが大事なんですよね。制作側のボクらはこの方向を信じてやっているので今後もハッスルしていきます！

——よくわかりました！　では今後の『ハッスル』の成功と、臼杵さんの銀幕デビューを願って締めとさせていただきます（笑）。

GM　ああ、映画デビューは臼杵本人も待ち望んでいますからね。

臼杵　……もう勘弁してください。

【04年9月4日／DSE事務所にて収録】



あ～あ、腕なんか組んじゃって、ハイアンにバレても知～らない

9・26『ケッパレ1』でサスケが〝キャプテン〟と電撃合体!!

前号の本誌で9・2『ハッスル・ハウス』への登場を〝ほのめかすような否定発言〟を連発していたザ・グレート・サスケだが、まさか本当に姿を現すことはなかった。しかし、サスケは翌日DSE事務所で行われた『ハッスル』会見に乱入。〝キャプテン〟小川に9・26『ケッパレ1』での共闘を呼び掛け、構想5年のケッパレポーズ、そして「私のキャラに合わない!!」と、誰もが耳を疑うような言葉で頑なに拒否していたハッスルポーズを炸裂!! 言ってることが違うじゃないか！

――サスケさん！ どうして『ハッスル・ハウス』に来なかったんですか？ あれだけ思わせぶりな否定をしてたから、てっきり来るもんだと思ってましたよ！

サスケ 甘い!! 甘いなあ、『紙プロ』さんは。じつはですね、私はあの場にいたんですよ！

――え？ そうだったんですか!?

サスケ 9・26『ケッパレ1』ではモンスター軍を撃退しないといけない。情報を入手しようと、私とバレないようにバルコニーからコッソリ観戦していたわけですよ。

――マスク姿で偵察なんて、まったく隠密じゃないですよ！ で、『ハッスル』はどうでしたか？

サスケ いやぁ、『ハッスル』には違和感はあったね。私のキャラとはまったく合いません！

――前号の本誌では、サスケさんが『ハッスル』と相容れないことが読者によくわかるように、サスケさんの歴史を写真で振り返ったわけですが……やっぱり無理でしたか。

サスケ まったく相容れないね。なんちゅうのかなあ。何かが違うだよな、これが。試合そのものは素晴らしいんですよ。ただし、VTRだなんだと、いわゆるハッスル劇場と呼ばれるものと噛み合ってなかったと思いますね。

――でも、お客さんにはバンバン受けてましたよね。

サスケ 馬鹿言っちゃいけませんよ！ 「あれで何を喜んでるんですか？」と私は言いたい。それに『ハッスル』に出てる選手たちは、普段からハッスルしてるのかと。カメラが回ってるときだけハッスルしてる気がしますねぇ。私はそう睨んでます！

ケッパレポーズとは何か？





「ハッスルポーズとはまったく違うポーズです!!」（サスケ）

――上辺だけハッスルしている恐れがあるわけですね。

サスケ 私の場合は、ひとりのプロレスラー、あるいはひとりの芸人としてリングや舞台を降りてもそれを貫き通してきたわけですよ。『ハッスル』に出ている面々に24時間ハッスルしている人間はいるのかと！ そこを私は強く言いたいね。うん。

――よくわかりました。ところで翌日の『ハッスル』会見であれだけ拒否していたハッスルポーズをやってしまったのはどうしてですか？

サスケ それは〝キャプテン〟小川選手に『ケッパレ1』の出場要請をする手前ね、「やろう」と言われたら断るわけにはいかないし、思わず勢いでやってしまったわけですよ。しかし、改めて言う！ あのポーズは二度とやりません。私のキャラじゃない！ それに私にはケッパレポーズがありますからね。

――ああ、ハッスルポーズに似たポーズのことですね。

サスケ 似ている？ 馬鹿言っちゃいけませんよ!! 手足の角度は違うし、勢いも違う！ それにケッパレポーズはハッスルポーズができる前から私がやってたんです！ つまり、こっちが元祖なんですよぉぉぉ！

――えぇ？ まるでケッパレしている姿は見たことないんですけど……。

サスケ うん。俺も記憶にないんだよ!! ガハハハハハ！ 冗談はともかく、それはね、某UFO機関が妨害のために私の記憶を……（誌面でお届けするにはあまりにも物騒な超極秘情報のため省略）。

“キャプテン・ハッスル”、みちのくプロレス初登場!!

ケッパレ1

2004.9.26 sun
IWATE APPI KOGEN

【日時】9月26日（日）14:00～
【会場】岩手・安比高原スキー場 ザイラーゲレンデ特設リング

【ハッスル＆ケッパレ連合軍vs高田モンスター軍】
- ザ・グレート・サスケ＆小川直也 vs白使＆ジャイアント・シルバ
- 湯浅“ケッパレY”和也vsアン・ジョー司令長官
- 気仙沼二郎＆藤井軍鶏侍 vsガマ大王＆ザ・ピラニアン・モンスター
- ハッスル仮面ブルー＆レッド vsデビル・ピエロ1号2号
- 他、1～2試合を予定

★ ★ ★

【チケット】特別リングサイド¥8000／ファーストクラスゾーン¥6000（小中高¥3000）／エコノミーゾーン¥3000（小中高¥1000） ※当日¥1000増し
【お問い合わせ】（株）みちのくプロレス

★ ★ ★

【ケッパレ宿泊プラン／http://www.appi.co.jp/】
- ホテル安比グランド本館／安比グランドアネックス／安比グランドヴィラ3宿泊
- 各プランとも朝食・9月26日（日）開催みちのくプロレス「ケッパレ1」観戦チケット付き
- 「ケッパレプラン」は特別リングサイド指定席で観戦！ 先着予約70名様限定！

ハッスルポーズはやらないが『セパラドス』を大熱唱!!

9・10みちのく後楽園大会。“東北侵攻阻止試合”として、サスケがアン・ジョーを迎え撃ったが、セコンドの度重なる乱入もありサスケは敗北！ モンスター軍の東北侵攻を許すことになった。サスケは「負けました。何も言うことはないです……」と唇を噛むが、場内からは。大「サスケ」コールが発生!! そして恒例・歌のコーナーを期待する大歓声！ 試合後で息も切れ切れのサスケは、ニワトリを絞め殺したような声で『セパラドス』を熱唱♪ 最後はサスケが音頭をとって、ウルティモ・ドラゴン、セーラーボーイズ、白使の知り合い・新崎人生、そして休憩時間にリング上から挨拶した映画『おとうさんのバックドロップ』主演・宇梶剛士（なんと新崎人生の名付け親!!）とともに「ケッパレ!! ケッパレ!!」と腰を上下振った！ なお勝利したアン・ジョーはサスケに『ハッスル5』出場を強引に要求。サスケが『ハッスル』初登場することに。





「ナメてんだろ？」小川、サスケのケッパレポーズに激怒!!

『ハウス』翌日の『ハッスル』会見に姿を現したサスケ。サスケのもとに総統からVTRが送り届けられ、あの白使を洗脳したこと、『ケッパレ1』にモンスター軍がさし向けることが言及されていた。モンスター軍を撃退するため、サスケに共闘を申し入れられた小川はそれを承諾。いつものようにハッスルポーズで締めようとしたが、サスケは「ケッパレ!! ケッパレ!!」と腰を上下に振ってしまった。これには小川もギョロ目をひんむいて「ナメてんだろ？」「いやいやいや、これは私が5年かけて作り出したケッパレ・ポーズなんですよ」と開き直るサスケ。「ケッパレはわかったけど、ハッスルっつうのがあるんだよ」と小川。ここでGMがサスケにレクチャー。気を取り直して「ハッスル!! ハッスル!!」と腰を前後に振った！

見てみ！ これがケッパレポーズのインパクトだ!!



あまりの勢いに撮影したスモーノブの手が震えた!!（毎号こんなこと書いてる気がするが）。それほどの衝撃がケッパレポーズにあったのだ。

――『ハッスル』がわずか半年足らずで独特の世界観を築き上げたのは、金子さんが描いた、従来のプロレスからでは考えられないポスターイラストの力も大きいと思うんです。金子さんが描いたイラスト通りに『ハッスル』が動いているところがありますから。

金子 嬉しい話ですよね、ホントに（笑）。まさかここまで拡がりが持てるとは思いもしませんでしたよ。

――描いた絵がリングで反映されることを期待して、描かれたところはあったんですか？

金子 思ってもみませんでしたよ、そんなの。そもそも最初に来た話は『ハッスル2』パンフの表紙イラストの仕事だったんだけど、ちょうど他の仕事が詰まってて無理っぽかったんですよ。

――スケジュール的に難しかったわけですか？

金子 絶対に無理無理。締切を聞いたら4日後って言うんですよ（笑）。

――4日後！　それはかなりムチャな話ですね（笑）。

金子 本当にムチャクチャですよ！　結局、その担当者の押しというか、人の都合を考えてない性格が功を奏しましたよね（笑）。

――しかし、もし金子さんが『ハッスル2』の話を断っていたら、小川さんのあのニューコスチュームや、橋本さんのアフロ話もなかったわけですよね。

金子 断ることだってできたわけだからね。ボク自身も仕事を受けて良かったなって思いますよ。

――でも、あのポスターは当初〝良識派〟と呼ばれるプロレスファンや関係者たちからは、いぶかしげに見られたところもあったんですよ。



描いたイラスト通りに現実が動く!?

ハッスルポスターとは何か？

［平成のリアル絵師］金子ナンペイ

【かねこ・なんぺい】1968年神奈川県生まれ。桑沢デザイン研究所卒業後、ゲーム会社に就職。「サイゾー」のイラストレーションなどで脚光を浴びる。『ハッスル2』からパンフ＆ポスターのイラストを手掛ける。小川の新コスチューム、川田のトラックスーツ、破壊王のアフロなどは、金子氏が描いたポスターの世界から図らずも飛び出るかたちとなった。『ハッスル』ワールドを創り上げた重要人物の1人である。

聞き手／ジャン斉藤

designed by matsu（Two Three）

金子 ま、でしょうね（笑）。

――ワハハハ！　そういう反応はあるだろうとは予測はしてたんですか？

金子 まったく考えてなかったというか、ボクはプロレスのことはそんなに詳しくないからね。昔はゴールデンタイムでやってたから見てましたけど、最近はまったく。言うならば藤波・長州世代なんですよ。だから三銃士（橋本、蝶野、武藤）のことはあんまりよく知らなくて。

――三銃士はテレビ放映が夕方や深夜に移行してから生まれたスターですからね。

金子 で、イラストには橋本、小川、あと髙田総統を絡ませてくれと。馬鹿ノリというか弾けた感じで。70年代の黒人文化の匂いがするようなリクエストだったんです。それでボクはあんまりプロレスの流れを知らなかったから、こんなかんじに描けたんだと思うんだけど。プロレスを知っていたら、こうは描けなかったという気はしますね。

――逆に知っていたら、従来の枠に収まっていたかもしれないですよね。

金子 心掛けたのは顔を似せることぐらいで。下書きの段階で小川さんにモミアゲを付けたけど、似なくなるかなぁと心配で。でも、パンフのデザイナーさんが「いや、絶対に入れた方がいいです!!」って強く言うから、じゃあグイっと入れちゃおうと（笑）。

――小川さんはそれに習ってモミアゲをしっかりと描いて、コスチュームまでポスターに合わせてるわけですよ（笑）。

金子 小川さんがあの恰好で入場してきたときは目を疑いましたもん。「俺が描いた絵じゃん!!」って（笑）。会場ではボクが一番、興奮してますよ！

――ワハハハ！　『ハッスル4』のポスターでは如意棒を描き加えたら、それも小川さんは用意してきましたからね。〝キャプテン〟は妙な使命感に燃えてますよ（笑）。

金子 ホント嬉しい話ですよね～。もともと『2』のポスターで小川さんのあの恰好を描くために、いろいろと参考資料をもらったんですけど、初めはパンタロンにする予定だったんですよ。

――それはそれで見てみたかったです（笑）。

金子 『ハッスル2』の頃はネタがなくてね。映画だったらシーンごとのパーツを入れ込めればいいじゃないですか？

――試合描写をメインには据えづらいですよね。だからデコトラや女の子が無理矢理入ってたんですか？

金子 よく映画のポスターに車の絵があるのは、ポスター自体に動きが出てくるからなんですよ。でも、『ハッスル2』のデコトラは、橋本さんが「入場の時に乗りたい」と言ってたらしい情報を聞いたからなんです（笑）。

――ああ、デコトラ入場はキングの昔からの夢なんですよね（笑）。

金子 他の情報としては、髙田さんが「オマエら、男だ!!」と言ってるらしいと。だから『男祭り』の髙田さんも混じってるわけですよ。でも、髙田さんと総統は違うじゃないですか、興行的に（笑）。

――たしかに（笑）。聞いたところによると、『2』ポスターの髙田総統には牙を生やしたかったらしいですね。

金子 そういう話もありましたね（笑）。デスラー総統っぽく緑にはしたんですけど、牙まで生やしていいものかと。いまはかなり振り切ってますけど。

――逆に面白いのは、毎回デフォルメなしの長州さんなんですよ！

金子 そうそう（笑）。長州さんに

小川さんがボクが描いた絵の恰好で入場してきたときは目を疑いました！



あ～あ、腕なんか組んじゃって、ハイアンにバレても知～らない

も何か着せようとは思ってたんですよ。でも髙田総統から〝ロートルの黒パンツ〟と呼ばれてるから、まぁこのままでもいいかと。今回、拳銃持たせけど、これは恐る恐～る描いたんです（笑）。

――一番踏み込みづらいですよね、長州さんは（笑）。川田さんのトラックスーツは、どういう発想から描かれたんですか？

金子　川田さんの場合は、ボクはもともと川田さんを良く知らないというか、面白みに欠ける選手に見えたんですね。割と真面目な感じだし。それにハッスル軍なのかどうかもイメージが固まってなくて。それでデザイナーさんとの打ち合わせのときに「小川の件もあるし、川田もボクらで動きをつくってしまいましょうよ！　こうなったらポスターの言うとおりになりますから」ってことでトラックスーツを描いて（笑）。

――ああ、最初の頃はともかく、途中からは『ハッスル』をリードしていこうとする色気が出てきたわけですか（笑）。

金子　でも、いまは描いた選手が出てこないわで、先がまったく読めないですよ。『ハッスル4』でジェット・シンとローデスが絡んでくるって情報を聞いたんで、シンを描いたら立ち消えになってるし。小川さんも今度の『ハッスル5』には出ないですよね。

――〝小川直也〟としては出場しませんけど、『5』ポスターで描いた西部劇バージョンの〝キャプテン〟は見たかったですね。

金子　拳銃持って入場して「バンバーン!!」ってやってほしかったんですよね～。

――なかなか現実とはリングしづらい状況になってるわけですね。まぁそれは当たり前の話ですけど（笑）。



記念すべき第一回作品は『ハッスル2』パンフの表紙だった。本誌の表紙を飾ったものでもある。



『ハッスル3』は宇宙空間がテーマ。「プロレスステーションが爆破され、プロレス惑星の危機をイメージした」と金子さん。

髙田総統は素材として最高なんです。逆にハッスル軍の選手は……。



『ハッスル4』はカンフー!!　この絵を参考に川田は変身。「橋本さんにも金粉ぬって大仏になってほしかった！」（金子）



最新作となる『ハッスル5』は西部劇風。雷に肩を打たれるキングは秀逸！　キャプテン保安官はいつか実現するのか……？

金子　そっかそっか。そりゃそうだよね（笑）。でも、こっちはいろいろ考えちゃうんですよ。『5』のポスターは試合ができる衣装を描いたというか、『4』のポスターは、ハッスル大仏や坂田選手の全身ペイントなんかしても実現困難。だから現実的に可能な方向で描いたのが『5』なんですけどね。

――これくらいはやってくれ、と（笑）。

金子　でも、次は実現不可能なものに戻そうかなぁと。『6』は名古屋開催で名古屋の色を出すらしいので、名古屋城とか描いて戦国時代の感じにしようかなぁと思ってて。ハッスル軍を戦国武将っぽく鎧を着させて、モンスター軍を自衛隊みたいにしたり。

――つまり、映画の『戦国自衛隊』みたいなかんじですね（笑）。

金子　そうそう（笑）。ちょうどモンスター軍は迷彩服を着てるんで、引っかかりはするから。ただ、モンスター軍は格好良いけど……。

――ハッスル軍のキャラが立ってないから、描きづらいところもあるですか？

金子　そうなんですよね～。髙田総統なんかは素材として最高なんですよ。動きもあるから絵にしやすい。ハッスル軍は逆に絵になる動きが少なくて。『5』ポスターのハッスル仮面なんて「いいよ、どーでも」という感じで描いたのが出てますもん（笑）。

――ワハハハ！　とりあえず描いておくか、と（笑）。

金子　こないだの『ハッスル・ハウス』でハッスル仮面は良かったんで、次回はもうちょっと大きくしようかなと思ってるけど。ハッスル軍はもっとキャラが立ってほしいですよね～。一番のハッスルしてるのは髙田総統でしょ。小川さん、もうちょっとマイクで言い返してほしいですよね。毎回「コノヤロー！」ばっかだから。

――でも、あれは髙田総統がいつも〝暴走〟して予想もしない方向に話を持っていくらしいから、小川さんも下手に話を腰を折れないんみたいなんですよね。

金子　マジで？　髙田総統の演説って単なる〝暴走〟なんだ。それは凄いなあ（笑）。こないだの『ハッスル・ハウスvol．2』も凄かったですもんね。ボクも観に行かしていただきましたけど、『ハッスル』のやりたい方向性が見えてきましたよね。プロレスの会場だから割と男臭いかんじなのかと思っていたら、女の子もたくさんいたし、ホント良い雰囲気でしたよ。

――あの熱気を生み出したきっかけは、小川さんの『PRIDE・GP』参戦だと思うんですが、ヒョードル戦の敗戦はショックでしたか？

金子　負けたときはガックリしましたねぇ。小川さん、『ハッスル音頭』で入場してきたじゃないですか？　これは負けられないぞと。ボクは『ハッスル音頭』のジャケも描かしていただいたんで、これで負けたらどうなんのかなぁって。負けても感動的ではありましたけどね。小川さんが泣き顔になったときにジワーとなりましたから。

――同時に〝『ハッスル』はどうなるんだ？〟って震えたりしませんでしたか？

金子　そう～。これからどうしようって。今回のポスターはあの結果を踏まえて描いたんで、『ハッスル』のテンションが下がらないように心掛けましたね。何よりデザイナーの方が「ボクらが『ハッスル』を助けましょうよ!!」って言ってきたんですよ。それでボクにも使命感が出て来ちゃって。

――熱いですね！　金子さんら裏方さんにも、『ハッスル』は支えられてるわけですね。

金子　小川さんが『ハッスル』のために頑張ってるのはわかりますから。『ハッスル100』までやってほしいし、ボクも描き続けていきたいですね。すでにネタ切れなんですけど（笑）。

【04年9月6日／都内某所にて収録】

金子ナンペイ&デハラノリユキが展覧会を開催!!



狂気さがビンビンに伝わってくる展覧会宣伝写真!!　右のデハラ氏は雑誌挿絵、書籍表紙、広告などを中心にフィギュアイラストレーターとして活躍している。



禁断のペインティング15日間

メンペ展

金子ナンペイ氏とフィギュアイラストレーターのデハラユキノリ氏が「東京メンズペインター協会」を設立。これを記念して二人展を開催します！　2人のペインティング作品を中心に、展覧会限定グッズや各自オリジナルグッズも販売します！　“平成のハッスラー”（by I 編集長）たちは足を運ぶしかない!

【開催期間】10/20～11/3　11：00～21：00
【オープニング・メンペ】10/20　19：00～21：00
【開催場所】東京都渋谷区神宮前1-8-10フォレット原宿4F
【作家来場日】（デハラ10/31・11/1以外はできるだけ）
（金子できるだけ毎日）14：00～
【展覧会情報】www.DEHARA.com

4 **ギョロ目がドン!!**

5 **追い風みたいな**

6 **風も吹きゃ（あっ、そーれ）**

7 **逆風みたいな**



目ン玉をヒン剥いて、ドーンとやってみよう!

前後に2回腕を振る。脚をちょっと曲げるのがポイント!

「風も」で手拍子2回、「吹きゃ」で右方向に腕をかざせ!

「逆風」のときとは手の甲を逆ににして、前後に2回振れ!

8 **風も吹く（ほら、どーした）**

9 **勝っても**

10 **負けても**

11 **どちらでも**



「風も」で再び手拍子2回、「吹く」で今度は左方向に腕をかざす!

思い切り力こぶ! しっかし、ハッスル仮面は貧弱だよな〜。

一転してガックリ泣いてみよう! 誰だってホントは"泣き虫"さ……。

腰に手を当てて顔を左右に振る! リズムよくやれよ!

18 **ハッスル**

19 **しければならない**

20 **ときがある**



これを2回続ける!

人差し指を立てる! 俺の尊敬するホーガンの一番ポーズとは違うからな。

ここでもハッスルポーズ!! 気合い入れろよコノヤロー!

リズム的には「チョチョンがチョン」!! いいじゃねえコノヤロー!

21 **ハッスル、ハッスル、ビターンでドン! ハッスル、ハッスル、ギョロ目がドン!**

22 **ハッスル音頭**

23 **で**

24 **踊り**



ここは1〜4振り付けの繰り返し!!

「ハッ」で両手を合わせて、「スル」で左肩、「音頭」で右肩に手を当て御覧のポーズ!

リズム良く一回だけ手拍子。すぐさま次の動きに移る!

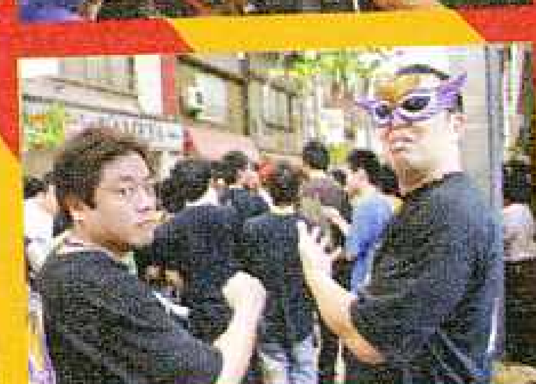
次のページを読めオラ!

商店街で大ハッスル!『ハッスル音頭』PV撮影も大盛況!!





エキストラとしてPRIDEファンクラブ会員約180名が集合! なんと平日の昼間に!! 小川を先頭に台東区のいろは会商店街をハッスルしながら練り歩いたのだ。



PV撮影には髙田モンスター軍の島田参謀長、アン・ジョー司令長官、そして髙田総統もリムジンで乗り付けPVに参加! とにかく素晴らしい内容のPVになっているので必見だ!



目指せ『紅白歌合戦』!『ハッスル音頭』は9月16日に¥1350（税込み）で全国一斉発売されている。"キャプテン"がコブシを効かせて熱唱してるだけではなく、『ハッスル音頭〜ハッスルDance Remix〜』や、『Karaokeバージョン』、そして『髙田モンスター軍』髙田総統も美声で歌い上げている!! いますぐ買いに走ろう。ハッスル、ハッスル、ハッスル!!



あ～あ、腕なんか組んじゃって、ハイアンにバレても知～らない

1 ハッスル、ハッスル!!



まずは歌詞に合わせてハッスルポーズ×2だ、コノヤロー!

2 ビターンでドン!



高田のヤロ一の真似をするのはシャクだけど、ここでビターン!

3 ハッスル、ハッスル!!



再び歌詞に合わせてハッスルポーズを2回だ!

4 ギョ



12 ハッスルできなきゃ



ここで再びハッスル、ハッスルだ、コノヤロー!

13 皆同じ（そら、そーだ）



リズム的には「チョチョンがチョン」ってかんじだな、ここは。

14 男にも女にも



「男にも」で左におっとっと、「女にも」で右に同じ動きをしろ!

11 ど



15 あなたにも



高田のヤロ一の必殺ポーズじゃねえぞ。しっかり指差せよ!

16 わたしにも



「わたし」で右手を左肩に置いて、
「にも」で両腕をクロスさせて首を傾ける!

17 一生に一度



手を水平にしたら直角に曲げて……



24 踊



次

（踊り～の続き）



22～23の動きをまったく逆方向でトライだ!

25 ま



ここでもリズム良く1回だけ手拍子! そろそろフィッシュだぞコノヤロー!

26 しょう



上空に手をグイグイを引っ張るかんじを×2! 逆方向でも2回!

21 ハッスル、ハッスル、ビターン、ビターン! ハッスル、ハッスル、ビターン、ビターン!

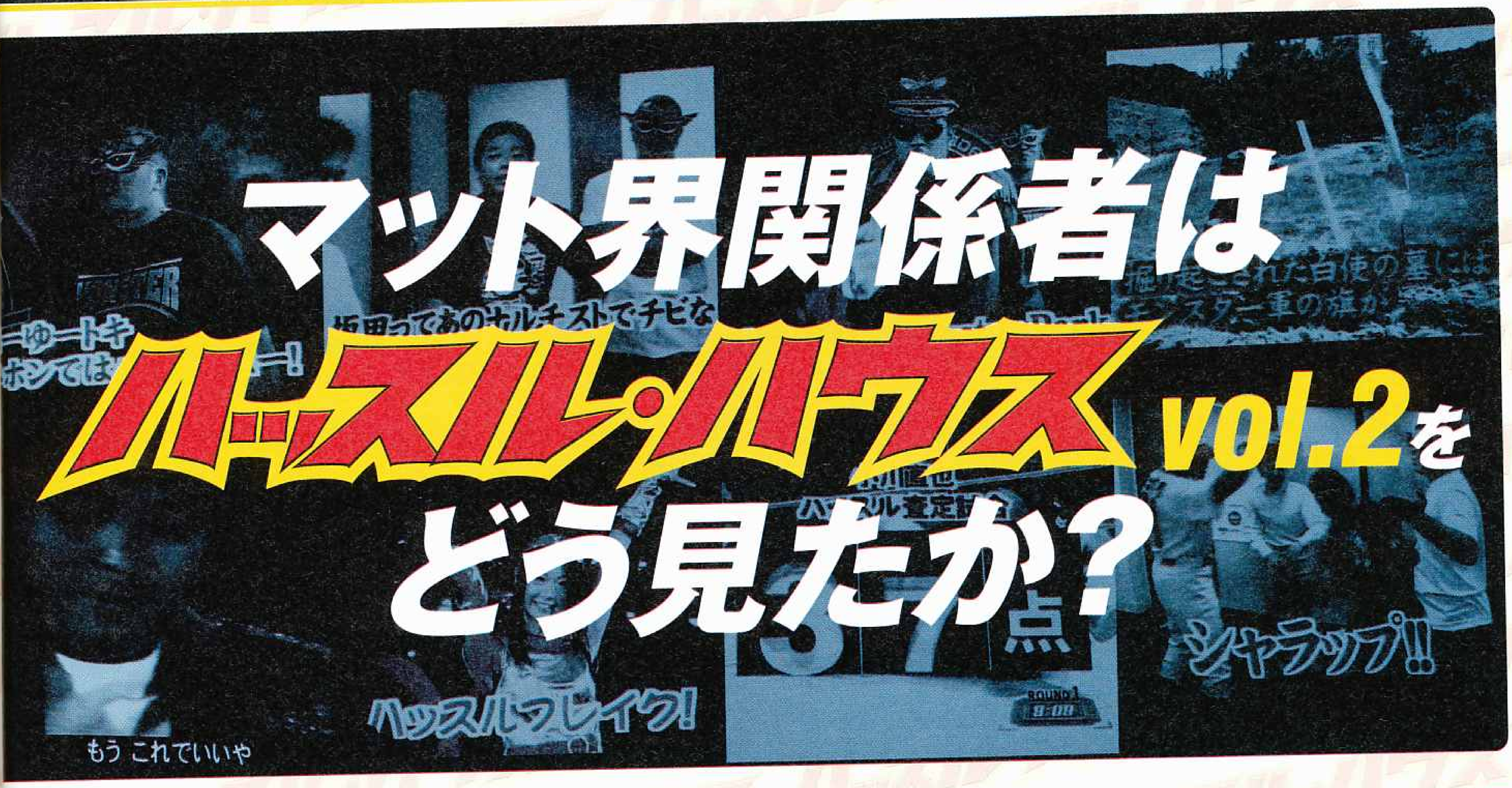


高田のヤロ一の真似をするのはイヤだけど、1～4の動きを2回続ける! よし、もう一丁、最初からやってみろコンチクショー!



"キャプテン・ハッスル"&ハッスル仮面がハッスル指導!『ハッスル音頭』振り付け講座

え～、このたび『ハッスル音頭』の作詞を手掛けた"キャプテン・ハッスル"の小川です。残念なことに『ハッスル5』は高田のヤローのせいで出場できませんが、その代わりに皆さんに『ハッスル音頭』の踊り方を教えます。実技を担当してくれたのはハッスル仮面レッド&ブルー。なんだかポーズがバラバラだったり、試合同様危なっかしいけどよ、皆さんにハッスル魂があればなんとかマスターできるでしょう! それでは行くぞ一一っ!



マット界関係者は ハッスル・ハウス vol.2を どう見たか?



野良犬

小林聡

「プロの興行とは何ぞや?『ハッスル』は勉強になる」

『ハッスル・ハウス』は前回の映像を見て、一度ナマで見てみたいなぁと思ったんです。『ハッスル』も、全部は見てないですけど流れは把握してますよ。『ハウス』は、最後の展開が前回とまったく同じでしたね。同じでもいいんですけど、白使かよって。オレはてっきり、ヒョードルとかが出てくるのかと思ってたんですよ(笑)。

試合はあんまり見てないんですけど、印象に残ったのは髙田総統と川田選手ですね。川田選手、しゃべり上手いですよねぇ。さすがお笑い好きなだけありますよ。えっ? 川田選手って太田プロ所属なんですか? それは知らなかった(笑)。

最近は、キックとかより『ハッスル』とかを見て研究しようと思ってるんですよ。プロの興行とは何ぞや、と。勉強になりましたよ。ヘタにどっかの格闘技を見るよりよっぽど勉強になりますね。小川選手が試合してなくてもあんなに熱があるじゃないですか。あれはスゴイですよ。会場のお客さんはあったかいし、間の映像が面白いですよね。久々にプロレスを見て熱を感じましたよ。『ZERO-ONE U$A』以来ですね。見ててそういう遊びがある興行が好きなんですよ(笑)。

あと、僕はやっぱり恥ずかしくて「ハッスル、ハッスル!!」は出来なかったんですよ。客席でお客さんと一緒にハッスルするのはちょっとなって……。リングに上げられたらどうするかって? やりますよ(笑)! だけど呼ばれないでしょ。城(彰二)で微妙な空気になってるくらいですから僕じゃダメですよ。

今回は笹原GMに招待してもらったんですよ。知人を通じて知り合ったんです。8月の全日本キックは僕が招待して、翌日も祝勝会してもらったりしましたよ。そういう関係ならリングに呼ばれるかもしれないって? いや、そのためにもオレはキックでもっと頑張って、その期待感をつくっておかないと(笑)【談】

★



日本のガマ大王

佐伯繁

『DEEP』代表

「ジェラシーしか感じないわ!!」

『ハッスル・ハウス』は面白いというより……悔しいねぇ。あの熱気は羨ましいわ!! (鼻息荒く)。

ボクは『ハッスル』のナンバーシリーズはよく観に行ってるんですけど、『ハッスル・ハウス』は初観戦でね。お客さんにあんだけ一体感があるのは、ちょっとカルチャーショックですよぉ。ホントお客さんの反応がいい。あそこまでファンが参加している興行は、前代未聞ですねぇ~。ホントに羨ましいわ(フガフガ)!!

ここまで盛り上がってる一番の要因は、やっぱり『ハッスル』の知名度が広まってるからだと思いますね。それで足を運ぼうとなると思うし、のめり込もうという気持ちになるんじゃないですかね。単純に楽しもうと。

あと後楽園ホールという、手頃な箱の大きさも盛況の一因でしょう。世界一盛り上がれる会場だからね、後楽園ホールは。だけど、あそこまで観客を一体化させるのは……とにかく羨ましいわ!!

大会場開催のナンバーシリーズも、同じくらい盛り上がるのは時間の問題でしょ。少しずつ可能になっていくと思いますよ。今後も『ハッスル』の面白さを浸透させていけば、横浜アリーナだって苦にならないと思いますね。周りが騒げば初観戦のお客さんも騒ぐしね。

ただ、『ハウス』は開始が7時からだったんで、休憩がなくてもいいかなって気がしましたね。最初から最後までストレートにやっちゃう。でも、グッズ販売の都合もありますからね。ウチもそうだけど、休憩時間が一番の売り時だからねぇ。ウッシッシッ!……しかし、あれだけお客さんがいたら、たくさんグッズが売れただろうね……ホント羨ましいわ!!

俺のモンスター軍入りはあるかって? いらんこと言わんといてよ、もう! 『武士道』でもっと頑張ろうという気持ちが奮い立ったけどね。『ハッスル』だって初めはよくは言われなかったわけなんで、軌道修正しながら成功してるわけだから。見習っていきたい……いや、やっぱり羨



あ〜あ、腕なんか組んじゃって、ハイアンにバレても知〜らない

ましいの一言に尽きるわっ！【談】

★

GBR主宰／元『ゴン格』編集長

熊久保英幸

「ここまでの世界観を築き上げた『ハッスル』には、格闘技側が参考にすることもある」



プロレスでありながら、従来のプロレス興行ではない。これは独占企業じゃないかと。『ハッスル』は独特の世界観を造り上げましたよね。

『ハッスル』の他にもエンターテイメント的な手法を取り入れている団体はありますよね。ボクも観に行ったことがありますけど、『ハッスル』はそれらとはまったく異なる世界観がありますね。もちろん、他は他で独自の世界観があるわけですが、『ハッスル』はさらに大仕掛けで、しかも一流のスターたちがやっているわけですから。

『ハッスル・ハウス』で一番凄いと思ったのは、第1試合から観客が完全にできあがってたことなんですよね。普通はメインに向けて徐々に盛り上がっていくもんですけど、そういう意味では興行にスピード感がありました。流れがスムーズというか。あとVTRが抜群に面白いですね。極端なことを言えば、試合がなくてもいいぐらい面白い（笑）。

今回の『ハッスル・ハウス』を観戦したのは、小川直也が『PRIDE・GP』で敗れてから初めて人前に出る姿を確認したかったんです。まさか『ハッスル』の世界とはいえ、髙田総統があそこまで徹底的に侮辱するとは思いませんでしたね（笑）。

（格闘技のネタをプロレスに持ち込んだことは）まったく気にならないですねぇ。そこに違和感を持つ格闘技記者はもういないですよ。だって、もうプロレスと格闘技は完全に棲み分けはできているというか、『ハッスル』はさらに違うことは誰にでもわかるじゃないですか？　ボクはUWFの頃から髙田さんを見てますけど、最初に総統の姿を見たときは、まさかあそこまでやるとは思わなかったですし（※編集部注・クマクマンボはとんだ勘違いをしておりますが、髙田総統と髙田本部長はまったく別人。古くからの友人です）。

ボクがプロレス記者からよく聞く話だと、彼らは表だっては言えないけど、プロレスが今後やっていくためには、『ハッスル』の方向性しかないってことなんですよ。それをあれだけのインパクトで仕掛けてしまったことは、他に大きなアドバンテージとなったんじゃないですか。『ハッスル』には非常に大きな強みになりますよ。

ここまでの世界観を築き上げた『ハッスル』には、格闘技側が参考にすることもあるとも思いますね。それは演劇をやれということではなくてね（笑）。つまり、いま総合格闘技は『PRIDE』やK—1といったメジャー団体以外にも、いろいろな団体がありますけど、一般の人から見るとどれも同じに捉えられると思うんですよ。そういう意味では、『ハッスル』が他のプロレスとは異なるように、各格闘技の団体も自分たちの世界を保つことが大事じゃないかと。独自の色を打ち出すことによって、その団体にファンは根付くわけですからね【談】

★

スポニチ美人記者

丸井乙生

「川田利明のハッスル振り、ただ単に地が出ているとの見方が有力だ」



私は怒っている。気が短いと言われて早31年だが、許せないものは許せない。

まずは、みちのくの『ケッパレ1』だ。DSEによると、サスケは「ケッパレは東北弁で頑張れの意」と説明したという。あれは津軽弁だ。誰が何と言おうと津軽弁だ。青森県日本海側の方言で、太平洋側は南部弁。県内の東西でも言語が違う。従って、青森西部を除く東北六県では「頑張れ」を「ケッパレ」とは言わない。東北地方という地域に根ざすことを理念とする団体が、土地の方言を十把一絡げにするとは何事か。

青森市出身の私のほかに、南津軽郡出身のカシンが反論の手を挙げた。「津軽弁です。これは津軽地方のみならず青森県の問題」と断言。ケッパレ＝東北弁で括った東北の人には「おめ、ナァンボほんじねんず」と言いたい。お前は本当にどうしようもないなあ、ってことです。

『ケッパレ1』で熱くなってしまったが、DSEにも言いたいことがある。先日、ハッスル音頭のプロモーションビデオ収録の取材に出掛けた。DSEからの案内によると、集合場所は東京・台東区の吉原公園。時間より20分早く到着し、独りぼっちで待っていた。ソープランド、鳩、ホームレスの皆さんに囲まれ、一体私に何をしろと。近年稀にみる困惑の時を過ごした。

別に怒っているばかりではない。〝ハッスルK〟川田利明には頭が下がる。9・2『ハッスルハウス』では試合後にダチョウ倶楽部の肥後をリングに呼び入れ、その肥後は持ちネタ「イヤーッ」を披露。ともに太田プロ所属という事実ではなく、「イヤーッ」揃い踏みに感銘を受けた。

その翌日の3冠戦ではステキな台詞を連発する。「目ン玉にパンチをもらって星が出た」は有史では漫画以来の情景描写だ。V7達成もベルトを盗まれると「これでは金メダルのない室伏選手のようなものです」とタイムリーかつ哀愁満点。西村を「まさしく、いかレスラー」と言われた日には、「俺だけのハッスル」が「俺ごとハッスル」に転じた可能性もある。本来、芸達者な人で、ただ単に地が出ているとの見方が有力だ。

『ハッスル』は、米WWEのパクリという批判があると聞く。しかし、髙田総統のオリジナリティは確立されただろう。総統のハッスル指数まで他方面がレベルアップすることを願うが、制作サイドには一つお願いしたい。9・2『ハウス』でCK輪唱が起きたように、ファンがリング上を〝超える〟隙を大事にしてほしい。例えば、ドラキュラの試合前に「十字架は禁止です」とアナウンスするのは、果たして有効なのか。ヒマラヤンが氷で涼をとった場面のように、ファンの感性へ興行の一端を託すこともハッスル隆盛のために必要だと思う。

ケッパレの意味は頑張る、よりも、歯を食いしばって踏ん張るという方が近い。水面下ではケッパって、リング上ではハッスルして。白鳥のような努力を重ねれば、新しい道は切り開けるはずだ。

★

大人のファン代表

タダシ☆タナカ

「現状の構成台本では、我々大人のファンは満足できない」



スター主義の復権は喜ばしい。なにしろ日本の欠点として、絶対的なスーパースターが育ってない現状が指摘されてきた。『PRIDE・GP』参戦のおかげで、現時点で最大の日本人スター小川直也を擁する『ハッスル』は、それだけでも幸運この上ないことを感謝せねばならない。しかも、〝ハッスルK〟こと川田利明までもが、ブルース・リーのコスプレで「ファイティング・オペラ」に華を添えている。キング橋本はケガで長期欠場を余儀なくされてしまったが、長州力がハッスル軍（昔風に言えば正規軍）に加入して悪の外国

ましたよ
武藤 で
ならいい
か言った
変わって
――ただ
ダメって
武藤 そ
タと武藤
身は変わ
れ別の商
AKIR
ル』は巷
よね。ポ
もセンスが
武藤 あれ
あと『ハッ
いとこはリ
てわかって
からリング
するかに燃
AKIRA
エンターテ
れでリング
きれば凄い
だって日本

人軍と抗争するのだから、これは新しく見えるだけの古典プロレスの復活なのだ。ボブ・サップというコマを揃えていたものの、対立構造が明確ではなく、格闘家の中途半端なプロレス挑戦だけが印象に残った『W―1』と違って、回を重ねて生き残るメドはついた。『W―1』が結果的に続けることができなかったのは、豪華舞台だけ目立っても、どちらかの軍団に応援するのか感情移入を誘わなかったことにある。

9・2『ハッスル・ハウス』はPPVで観戦した。画面に映し出されたのは、前回の『ハッスル・ハウス』と同じく掛け値なしの超満員の後楽園ホールだ。冷え込んだ話題ばかりのマット界にあって客席が埋まっている興行は嬉しいこと。サップに変わってCM王の座を狙い、流行語大賞にノミネート確実の小川によるスター・パワーの勝利を、ファンも関係者も今一度考えてみる必要がある。金村キンタローらのアパッチ・プロレス旗揚げ戦が成立したのをシュート活字するなら、ポリシー重視の頑固親父と思われていた長州でさえ参戦したからこそ。ただし、寄せ集めのプロモーションが連続ドラマを作り込めるのかは試金石である。ハッスル劇場はカタブツ川田までが真剣に取り組んでいるが、いきなり誰もが最強俳優ビンス・マクマホンになれるわけではない。アメプロのスケッチは実人生をもじったものが多い。舞台裏の対立はすぐさま応用され、下半身ネタや不倫騒動、代表の妻は車椅子の痴呆役までやってのけているが、『ハッスル』はどのような方向性を見出すことでビギナーはもとより、我々のような大人のファン、つまりコアなファン層を掴むことができるのか？　現状の構成台本では我々大人のファンは裏読みの楽しみかたはできないのだ。「小川チキン丼は早い、弱い、しょっぱい」は、その場の笑いは取れても、次回につながったわけではない。突っ込まれるのを見越して裏をかいてこそ、プロの書く台本に価値がある。

中継カメラのスイッチングがミスだらけで、多くのスポットを画面が捉えらなかった反省点もあった。しかし、現在でも満員の密度のせいで客席は期待感で出来上がった空間と化していて、客がハッスル仮面の赤と青をキャリーしている。感情移入が成立している幸運な状態であると同時に、シナリオライターの計算通りにいかないライブ芸術の怖さをフロント陣は思い知らされたことだろう。プロレスは予定調和の演劇ではない。

この後楽園の熱気をどう横浜アリーナに変換していくのか、知恵比べはこれからだ。ポール・Eが陣頭指揮を執り、業界に多大な影響を与えた伝説の米団体ECWは小会場にこだわり続けたが、ハッスルが地方進出も予定する一方で、大箱路線を捨てないなら戦略は再検討せざるをえない。ゼロワンや全日本だけでなく、提携団体枠を広げることも視野に入れざるを得ないだろう。笹原GMのリーダーシップが問われることになる。

スポーツ中継担当

TV局関係者X ★

「他の団体と比べれば、『ハッスル』は製作サイドと選手との間に壁がないように感じる」



自分は以前、某メジャー団体や、女子プロ、インディーのテレビ中継を手掛けてたことがあるんですけど、そういった番組製作に携わってた者からすると、今回の『ハッスル・ハウス2』っていうのは、いろんな意味で面白いことやれてるなって感じましたね。やっぱり、某団体なんかは団体側の力が強いっていうのもあって、あまり映像とかいじれないし、煽りよりも試合を流せみたいなノリがあるんですよ。そういう制約もあるし、あとは、やっぱり予算の問題も大きいんですよね。

逆に某インディー団体の映像とかを作ってた頃は、その団体はエンタメ系の団体だったんで、こっちも少ない予算ながらもやり甲斐はあったし、やってて面白かったです。まあでも、その団体と比べると、『ハッスル』はメジャーどころの選手がたくさん出てるし、インディーに比べれば予算も使えるだろうし、もっと大きくなる可能性はあるでしょうね。製作サイドとしては、どうしても、もっとああしたいこうしたいっていじくりたい部分が出てくるんですけど、その辺も他の団体とかに比べれば『ハッスル』は選手側との壁もないように感じるし、ある程度やりたいことができてるんだろうなっていうのは感じますよね。

『ハッスル』はWWEテイストとか言われたりしてるけど、日本テイストのネタで作ってますよね。それに自分なんかは『ハッスル』は、どっちかというと「プロレス」っていうより、何か違うものとして見てるかな、みたいなところはありますね。それこそ、サブタイトルの「ファイティング・オペラ」に少しずつですけど近づいてきてるんじゃないかと。この間のヒラヤマン・ビッグフットとかもそうですけど、あそこまで突き詰めてやってくれるところは他の団体ではあんまりないじゃないですか。そういう部分も『ハッスル』には期待してます。あとはプラスアルファ試合内容がともなえば、もっとハッスルできるんじゃないかな。一番心配なのはネタ切れでしょうね【談】

"ド真ん中の女"

立石史 ★

リキプロ代表

「長州力のコスプレは"ありえない"と思います」



まずですね、『ハッスル・ハウス2』を見て思ったのは、お客さんが『ハッスル』のファンっていう感じで、いままでのプロレス興行とは違う独特の雰囲気を感じました。WJともリキプロとも全然違いましたね（笑）。もちろん、昔からのプロレスファンもいたと思うんですけど、『ハッスル』だからって見に来た新しい人が多いように感じました。やっぱり、小川さん効果とかもあると思うし、露出も凄いっていうのもあると思うんですよね。

『ハッスル』には長州も出てますけど、長州に限っては、いつもと何も変わらないと思ってます。あと、「長州はいつハッスルポーズするんだ？」とか、よく言われるじゃないですか？　まあ、本人も「気が向いたら、いつでもやってやる」って言ってるので、私もそれがいつになるのか、ちょっとだけ期待して見てますね。

エッ!?　長州のコスプレの可能性ですか？　それは"ありえない"と思うんですけど、これぱっかりは長州次第だと思うので私にはわからないです。『ハッスル』に限らず長州は長州のままでっていうのは変わらないと思うし、流れに身を任せて、もしそういう必然的なタイミングになったらコスプレすることもあるかもしれない、みたいなスタンスでいいんじゃないかなと思いますね。

あと思うのは、『ハッスル』に出てる選手ってレスラーがみんな個性的じゃないですか？　あまり個性がない人は無理矢理でも付けられたりしてますし（笑）、そういうバラエティー豊かな選手が揃ってるのは見てて楽しいんですけども、大会自体のイメージでいうと、やっぱり小川さんと髙田総統がすべてみたいなところもあるじゃないですか？　どうしても、その2人に飛ばされちゃうっていう感じがあるんで、試合してる選手が、それに負けないように、もっともっと感情とかを出したり、自己主張をしているところを見たいなと思います。なんか一ファン的な感想になっちゃってすいません（笑）【談】

あ～あ、腕なんか組んじゃって、
ハイアンにバレても知～らない



U-STYLE初代王座獲得記念対談

田村潔司×キーラ・グレイシー

遂に待望の初来日を果たした"美少女柔術家"キーラ・グレイシー。今回、テレビ収録のため来日したキーラは、その美貌とグレイシー一族初の女性プロファイターということで取材が殺到。『紙プロ』では、あえて単独インタビューではなく対談を企画してみました。お相手は、過去にヘンゾと闘い、最近ではホイス戦を熱望するなどグレイシーとも何かと縁のあるU-STYLE初代王者の田村潔司だ！

聞き手／松澤チョロ　撮影／吉場正和 designed by hisa (Two Three)

キーラ　（取材場所となったキーラの部屋を訪れると鼻歌まじりに）♪ドッ・ドッ・ドッ・ドンキ～、ドンキ・ホ～テェ～。

田村　な、なんで、そんな歌知ってるの？

キーラ　ハイアンとかが日本から帰ってくると、みんな、この歌をうたってるから、ずっと気になってたの。それで昨日の夜、ホテルの近くの「ドンキホーテ」に連れてってもらったら、この歌が流れてたの。「あっ、この歌だったんだ！」ってわかって凄く嬉しかったわ（笑）。

田村　それは良かったですね（笑）。

キーラ　（資料として持っていった『紙プロ・NO37』の田村＆ヘンゾ対談を見て）タムラさんはヘンゾと仲がいいの？

田村　ヘンゾとの仲？　う～ん……（しばらく考え込み）3回くらいしか会ったことがないけど、いい方だと思います。

――キーラさん、田村さんはヘンゾと闘って勝ったことが……。

田村　（遮って）そんなこと言わんでもいいから。なんかイヤらしいでしょ（笑）。

キーラ　その試合は私も見たわ。ヘンゾが負けたのは残念だったけど、とても素晴らしい試合だったってことは覚えてる。

田村　ありがとうございます。

――で、キーラさんに一つ謝っておきたいことがあるんですけど、以前、来日の話があった時に、キーラさんのことを紹介しようと思って写真を載っけたんですよ。それは『グレイシー・マガジン』の表紙で、透け透けの水着姿で驚いてたんですけど、どうやら別人だったみたいで。ごめんなさい。

キーラ　（その写真をじっくり見ながら）な～に、これって裸じゃない？（笑）。

――正直、乳首が透けてるんですよね（笑）。

田村　そんなこと言わんでいいから！　こっちが恥ずかしくなってくるわ（笑）。

キーラ　これは私じゃないわ（笑）。私はこんなセクシーな水着は付けないもの。

――ボクは、ずっとこの写真の子がキーラだと思ってて、「キーラ、早く日本に来てくれ！」ってずっと願ってたんですよ。

同席したブッカーK　キーラ、ポハダ！（ポルトガル語で「殴れ！」の意味）。

キーラ　ハッハッハッハッハッ。今回は特別に許してあげるわ。

――ありがとうございます。キーラさんだったら殴られても良かったですけど（笑）。

田村　ホント、変態だなぁ、チョロは（笑）。

――いや、田村さんにはかないません（笑）。

田村　なんでやねん！（笑）。

――でも、キーラさんのお母さんのフラビアさんもモデルとしてブラジルの雑誌のグラビアを飾ったりしてたんですよね。

フラビア　そうなの。よく知ってるわね。

田村　あれ、キーラさんのお母さんはヘンゾの妹になるの？

フラビア　そうよ。ヘンゾが上で、その次が私、私の下はハウフ、ハイアンね。

田村　へぇ～、凄いなぁ。何人兄妹なの？

フラビア　12、いや13人だったかしら（笑）。

田村　ハッハッハッハッ！　ヤバイこと聞いちゃったかなぁ（笑）。

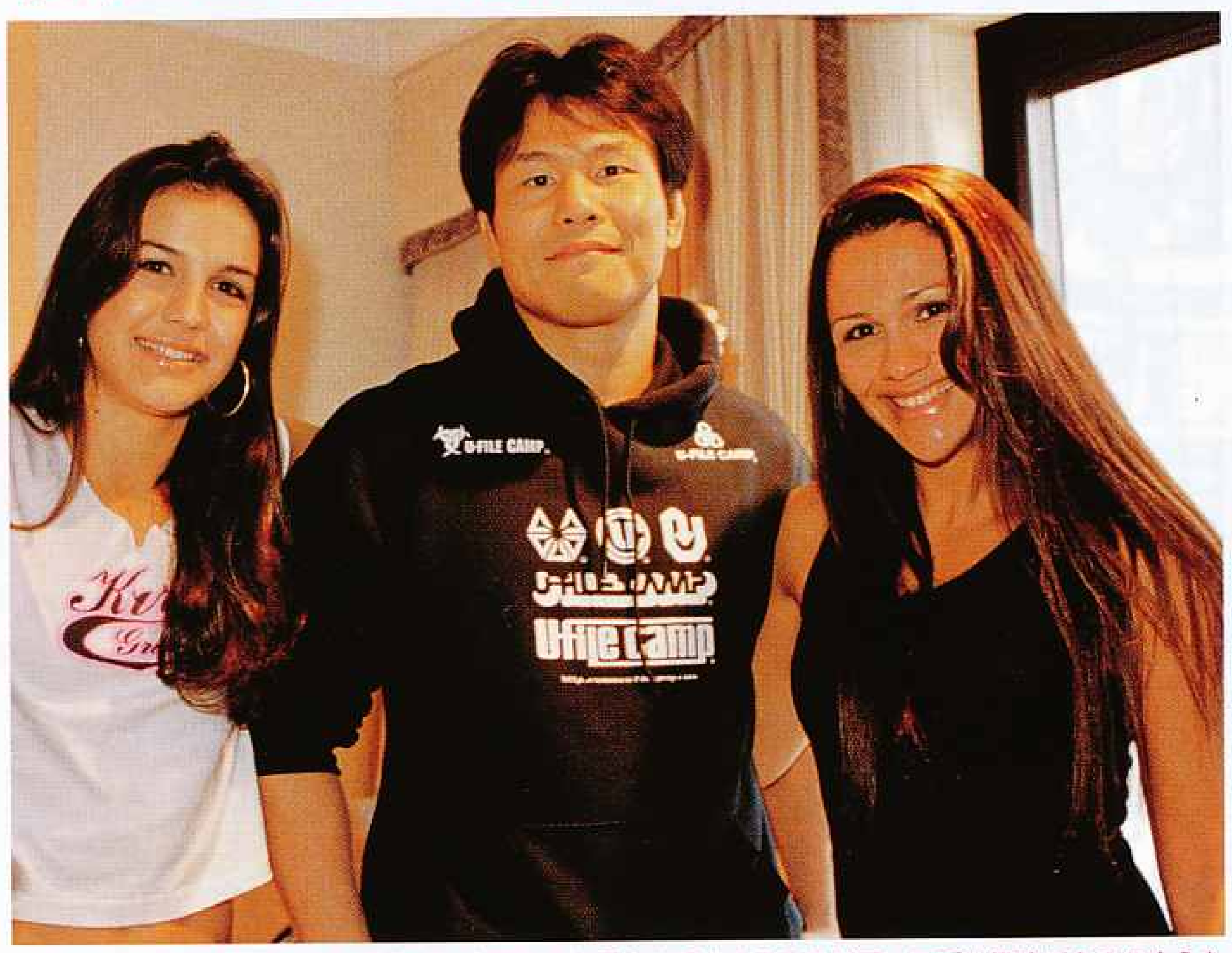
『グレイシー・マガジン』の表紙は私じゃないわよ（笑）。私、こんな水着付けない［キーラ］

フラビア　いえ、ただの時差ボケよ（笑）。私のおじいちゃんは子供が21人いるんだけど、私たちは12人兄妹よ。

田村　でも、それだけ多いとわかんなくなったりしないの？

フラビア　さすがにそれはないわ（笑）。

田村　でもキーラさんって、格闘技やってるようには全然見えないよね。



右側がヘンゾの妹＆ハイアンの姉で、キーラのお母さんでもあるフラビア。モデル経験があるのもうなずける、かなりのナイスバディーの持ち主だ。２人の悩殺系グレイシーにはさまれタムタムもご満悦!?

――パッと見は格闘家って言うよりは、ホント、モデルって感じですよね。

田村　いまもモデルやってるんですか？

キーラ　ちょっと前まではやってたけど、ホント、アルバイト感覚だったから。いまはモデルの仕事はやってないわ。

田村　で、今回の対談の主旨は何なの？

――キーラさんは、まだ日本で試合もしてないのに取材がたくさん入ってるって聞いて、他と差別化するために誰かビッグネームとの対談を考えてたんですよ。

田村　ふんふん。で、何で俺なの？

――やっぱり、日本でグレイシーハンターと言えば、桜庭さんか田村さんって感じじゃないですか。でも桜庭さんは奥さんもいるので、田村さんとの対談だったら気が合えば、将来的に最強の遺伝子が誕生する可能性もあるんじゃないかと思って（笑）。

田村　ハッハッハッハッ！　なるほどね（笑）。キーラさんは日本は初めてですか？

キーラ　はい、初めてです。

田村　日本は、どんな感じですか？

キーラ　前から日本のことが大好きだったし、ずっと来たいと思ってたの。

田村　何で⁉

キーラ　ヘンゾとかハイアンから日本はいいところだって、ずっと聞かされてたから。それに日本は柔術が生まれたところだからずっと来てみたいと思ってたの。

田村　あぁ、そういうことね。

キーラ　実際、来てみたら街並みも綺麗だし、日本人もみんな親切に接してくれるし、とても楽しく過ごせているわ。

――昨日は来日早々、クロスセクションっていう女子格闘技の大会を観戦されたわけですが、会場で撮影攻めにあってたじ



このモデルをキーラと思い込み、過去『紙プロ』に数回載せちゃいました。ごめんなさい。でもこの子にも逢いたい（担当チョロ）

田村　な〜に、これって裸じゃない？（笑）。
——正直、乳首が透けてるんですよね（笑）。
田村　そんなこと言わんでいいから！　こゃないですか。こんなに日本でも知られているって思ってました？
キーラ　ホントにビックリした。それに大会もレベルが高い試合ばっかりで、そっちの方も驚かされたわ。
——驚きっぱなしだったと。いまは女子格闘技の大会もたくさんありますけど、田村さん的には女の子が闘うことに関してはどう思いますか？
田村　嫌だ。
——一言、嫌だ（笑）。どうしてですか？
田村　なんか、怪我したら怖いじゃん。
——それは男でも一緒じゃないですか？
田村　いや、男はいいのよ。でも女の子が格闘技やって怪我したら怖いでしょ。
——キーラさんは柔術家なんで、総合に比べて怪我の心配はないでしょうけどね。
田村　いやいや、柔術でも危ないよね？
キーラ　そうは思わないわ。やっぱり、バーリトゥードをやるんだったら怪我することもあるかもしれないけど、柔術は怪我とかはあまりないから心配しないで（笑）。
田村　だって、柔術でも指ひねったりとか

フラビア　12、いや13人だったかしら（笑）。
田村　ハッハッハッハッ！　ヤバイこと聞いちゃったかなぁ（笑）。

あるじゃないですか？
キーラ　たまに怪我する危険性はあるかもしれないけど、危なそうになったらレフェリーが止めてくれるから問題ないわ。
——キーラさんが柔術の選手っていうのは理解してるんですけど、日本のファンは総合をやってもらいたいって思ってる人が多いんですよ。やっぱり、モデル出身だけに顔面を殴られるのは嫌なんですか？
キーラ　嫌よ（笑）。
——やっぱり。田村さん的にも女の子が顔を殴り合うのはもってのほかですか？
田村　う〜ん……いや、好きだったらやっていいんじゃないですかね。
キーラ　私もそう思うわ。私は顔は殴られたくないからやらないけど（笑）。ヘンゾからも「柔術しかダメ」って言われてるし。
田村　あ、そうなんだ（笑）。
——やっぱり総合ルールはするつもりはないんですね。
キーラ　バーリトゥードに関してはヘンゾやハイアンたちに任せます（ニッコリ）。
——残念ですけど、それならしょうがない

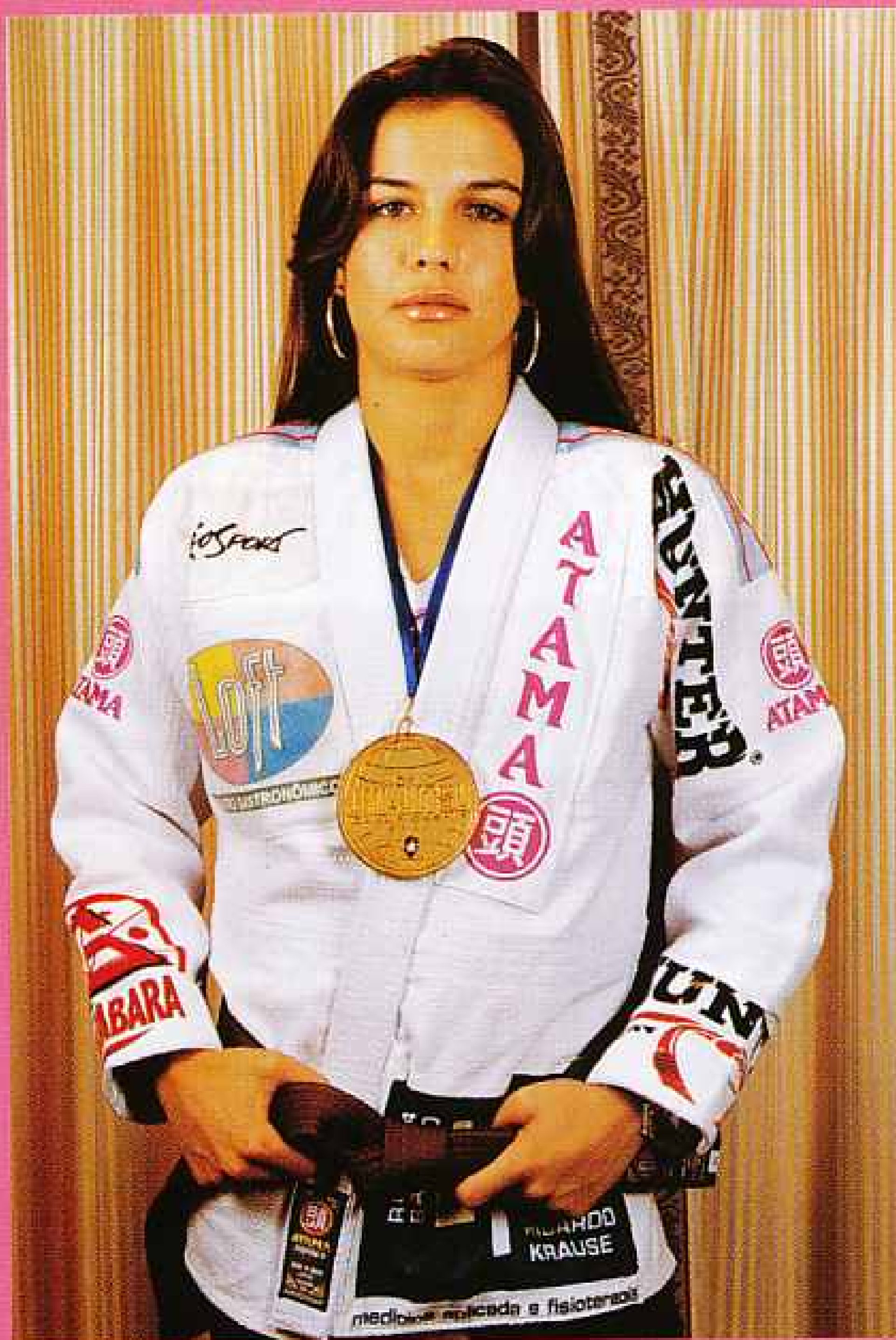
はモデルの仕事はやってないわ。
田村　で、今回の対談の主旨は何なの？
——キーラさんは、まだ日本で試合もしてですね。田村vsヘンゾ戦はご覧になったってことですけど、他にも田村さんの試合を見たことはあるんですか？
キーラ　何試合かは見てるわ。
田村　どうでした、ボク？（笑）。
キーラ　強いし、技術的にもとても素晴らしい選手だと思いました。
田村　顔もカッコイイでしょ？
——突然、何を言い出すんですか（笑）。
田村　ジャパニーズジョークよ（笑）。
キーラ　顔も素敵だと思います。
田村　あ、ありがとうございます（笑）。
——もしかしたら、間違えてるのかもしれないですけど、最近、キーラさんは失恋したんじゃないかという情報が入ってきたんですが、本当でしょうか？
キーラ　うん、それは本当よ。
田村　チョロ、凄いね！　そんな話どっから仕入れてくんの⁉
——『週刊実話』に載ってました……っていうのは嘘ですけど、某柔術関係者から聞いたんですよ。
キーラ　日本まで広まってたなんて私もビ

Kiyoshi Tamura × Kyra Gracie

——昨日は来日早々、クロスセクションっていう女子格闘技の大会を観戦されたわけですが、会場で撮影攻めにあってたじ

ックリだわ（苦笑）。
——あと、キーラさんに関して前から言われてたのは、キーラさんに手を出したらハイアンが、その男をボコボコにするっていう話なんですけど、実際、過去にそういうことはあったんでしょうか？
キーラ　あまり思い出したくないけど、そんなこともあったわ。私と付き合う人はハイアンと仲良くしてくれないダメなの。
田村　へぇ〜、そりゃ大変だ。でも相手も怖いだろうねぇ……（しみじみと）。
——怖いですよね（笑）。そういえば、キーラさんは日本に来たらディズニーランドに行きたいって言ってたみたいですね？
キーラ　そうなの。明日、カワサキさん（ブッカーK）に連れてってもらおうと思ってるんだけど（笑）。
田村　ホントに行くんですか？
ブッカーK　タムラさん、どうぞ（笑）。
田村　お、俺⁉　会ったばっかりなのに？
——『フライデー』とかに撮られるかもしれませんよ（笑）。
田村　いやいや、それは大丈夫だけど、で

キーラ・グレイシーとは何か？



きーら・ぐれいしー（19歳）■ヘンゾの妹フラビアの娘。曾祖父のカーロス・グレイシーはヒクソンやホイスの父エリオの兄にあたる。柔術は８年前から始めたキーラ、得意技はアームロック、オモプラッタ、デラヒーバ。昨年のパンナム（アメリカ柔術選手権）大会では紫帯部門に出場、準決勝で日本でもお馴染みの藤井恵を下し、決勝では、これまた日本の茂木康子に一本勝ちを収め見事優勝。現在、大学生のキーラは弁護士を目指し日夜勉強中。趣味はサーフィン

写真：Gustavo Aragao/Gracie Magazine　提供：Booker K

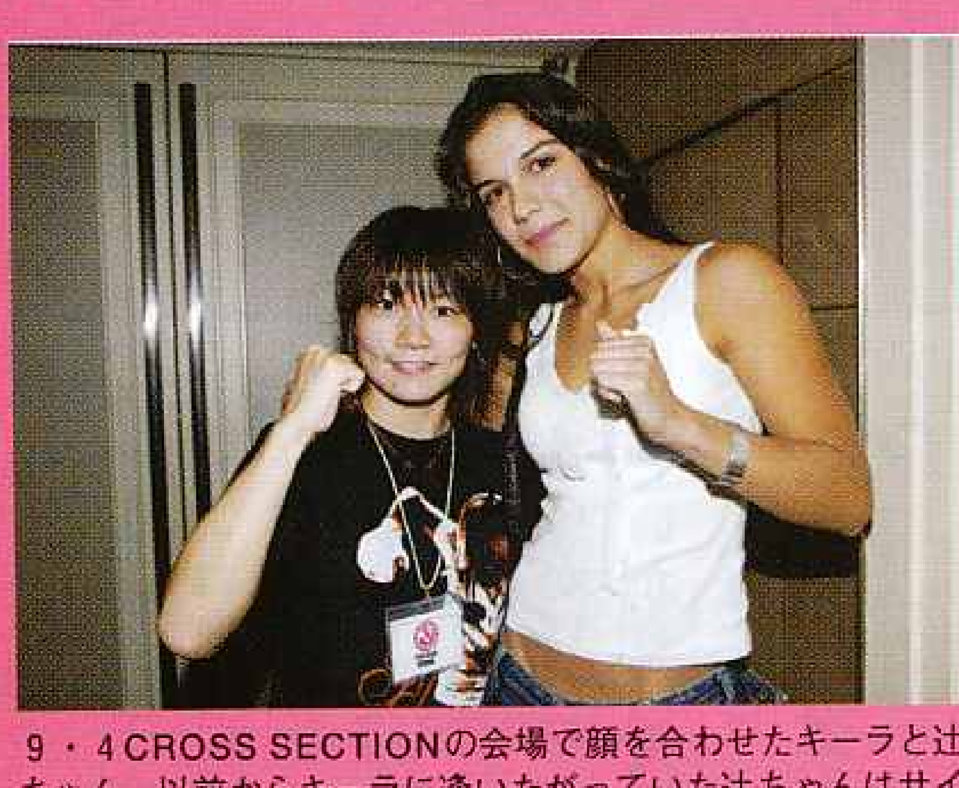


キーラはその美貌だけではなく柔術の実力も間違いなく世界トップクラスである。今年７月に行われた柔術世界選手権（ムンジアル）で優勝し、４年連続国際大会優勝の実績を誇る

提供：Booker K



９月14日にフジテレビ系列で放送された番組内で、過去にレスリングやU-FILEなどで格闘技経験のあるジョーダンズの三又がキーラにガチンコ勝負を挑むも、見事な一本負け！



9・4 CROSS SECTIONの会場で顔を合わせたキーラと辻ちゃん。以前からキーラに逢いたがっていた辻ちゃんはサインを貰ったり写真を撮ったり大忙し。対決の日は来るのか!?

も、ディズニーランドは凄い人ですよ。

キーラ そうみたいだけど、やっぱり、ブラジルでも日本のディズニーランドは人気があるから行ってみたいの。もっと時間があったら「ドドンパ」に乗りたかったんだけど、なんか凄く遠いみたいで。

田村 エッ、「ドドンパ」まで知ってるんだ！ それは凄いなぁ。

——田村さんは遊園地は好きなんですか？

田村 ディズニーランドは好きじゃない。並ぶのが嫌いなの。でもさ、ディズニーランドで乗り物に乗るのに、どれぐらい待たなきゃいけないかわかる？

キーラ う〜ん、30分ぐらい？

田村 ハッハッハッハッハッ！（勝ち誇ったように）。30分は早い方だから。

キーラ エッ、そんなに待つの⁉

田村 顔色変わった！（なぜか嬉しそう）。

ブッカーK この間、平日に行った時、一番待つのは200分待ちだったからね。

田村 3時間以上だ。それでも行く？

——また、意地悪なこと聞きますね（笑）。

キーラ う〜ん……でもせっかくだから、行ってくるわ。今度は私の方から質問させてもらうけど、前の取材でグレイシーって日本では悪役っていうイメージがあるって言われたの。タムラさんもそう思います？

田村 いや、悪役じゃなくて、いい意味で日本の選手からしたらライバルっていう感じだよね。最初に出てきた時、グレイシーは日本の格闘技界の上を行ってたから。それに対してボクらは追いついて追い抜かそうという目的があったから、そういうイメージが付いちゃったんだと思うよ。

キーラ それならいいかな（笑）。

——でも、格闘技ファンからするとグレイシーはルールとか難癖を付けたりっていう

猪木さんのこと知ってるんだぁ。じゃあ、ジャイアント馬場は？［田村］

Kiyoshi Tamura × Kyra Gracie



ごめんなさい。ジャイアント・ババさんって人は知らないわ［キーラ］

イメージがあって、それで悪役って思われるところもあるかもしれませんね。

ブッカーK そういうのをプロモーターがウリに使ったってことだよね。特にホイスとかはそういうイメージがあるよね。

キーラ 私はホイスとはあまり接点がないの。皆さんも知ってると思うけどグレイシーって家族がモノ凄く多いから、みんなと話し合うってことは難しいから（笑）。

——キーラさん、田村さんは、ここ最近、闘いたい選手としてホイスと吉田選手の名前を挙げてるんですよ。

キーラ そうなの？ 私はヨシダさんの試合も見たことあるわ。

田村 ボクとやった試合？

キーラ ホイスとの試合も見たし、タムラさんとやったのも見た気がする（笑）。

——袖車でやられちゃった試合ですね。

キーラ あ、そうそう、袖車。その試合はテレビで見ました。

田村 その試合は見なくていい（笑）。

——田村さん、今更言っても遅いです（笑）。

キーラ でもタムラさんがホイスとやったら必ず面白い試合になると思うわ。どっちが勝つと思うとかは言えないけど。

田村 頑張ります！（笑）。

——ちなみにホドリゴ・グレイシーとは仲はいいんでしょうか？

キーラ 彼はいとこになるんだけど、おじさんって呼んでるわ。よくメールでやりとりしてるし、ニューヨークに遊びに行った時には、あちこち連れて行ってくれるの。

——素敵なおじさんじゃないですか？

キーラ でもね、彼は一言で言うならクレイジー！（キッパリ）。

田村 ハッハッハッハッハッ！

キーラ　それならいいかな（笑）。

——でも、格闘技ファンからするとグレイシーはルールとか難癖を付けたりっていう

猪木
じゃ

イジー！（キッパリ）。

田村　ハッハッハッハッハッ！

——ハイアンも日本ではイメージ的に、かなりクレイジーって思われてるんですけど、どうなんでしょうか？

キーラ　たしかにハイアンもちょっとクレイジーだし、イメージはあまり良くないのかもしれないけど、私たちみたいに親しい人の前では凄く優しい人なの。……たまに過保護過ぎるんじゃない？って思う時もあるけど（笑）。

田村　んなわきゃないよ！（笑）。

——アハハハハ！　でも、将来的に田村さんとハイアンが闘うことになったら、今日撮ったような2人で腕を組んでる写真を見たら激怒するんじゃないですか？（笑）。

キーラ　でも、どうかな？　ハイアンだったら怒るかもしれない（笑）。

田村　ハッハッハッハッ！　でも、そうなんだ。これから気をつけよう。日本は初めてってことですけど、何か日本食は食べました？

キーラ　昨日、スシを食べに行ったんだけど、サーモンがおいしかった（ニッコリ）。

田村　それは良かった。あと何があるかな？　しゃぶしゃぶとか知ってる？

キーラ　シャブシャブ？　わからない。

——では、この後、田村さんの奢りでしゃぶしゃぶでも食べに行きましょう！（笑）。

田村　いやいやいや。それにチョロは来なくていいから（笑）。

——じゃあ、いいです。

キーラ　タムラさん、ブラジルのことはどう思います？

田村　え～、ブラジルは行ったことないからなぁ。なんか、イメージで言うとサッカーのイメージが強いですね。

キーラ　みんなそう言うわ（笑）。

田村　でもブラジルって他になんかある？

——たくさんありますよ。リオのカーニバルとか。ノゲイラとかは、「ブラジルに来たらボン・キュ・ボンの女の子がたくさんいるから紹介してあげるよ」とか言うんで、

田村　ホント、チョロってそんなことばかり考えてんだね（笑）。おかしい！

キーラ　でも、カーニバルは一度見た方がいいと思うわ。ホントに凄いから。

田村　へぇ～。一回は行ってみたいなぁ。

キーラ　でも見たら最後、奥さんとか彼女に殺されると思う（笑）。

田村　な、何で⁉

キーラ　見てるだけで怒っちゃうと思う（笑）。それぐらいエキサイティングだから。

田村　殺されるのは嫌だなぁ。ちなみに日本で知ってる有名人って誰かいます？

キーラ　（即座に）イノキ！

田村　へぇ～、猪木さん知ってるんだぁ。馬場さんは？　ジャイアント馬場。

キーラ　ごめんなさい。その人は知らない。

田村　馬場さんは知らないんだぁ。日本ではね、ジャイアント馬場とアントニオ猪木が凄い有名で、2人はライバルなの。

キーラ　へぇ～、そうなんだ。勉強になったわ。ジャイアント・ババね？

田村　そう（笑）。他には誰かいます？

キーラ　サクラバ。

田村　桜庭？　はい、次！

——アハハハハハ！

キーラ　あとは、アキラ・ショウジ。

田村　小路！　凄いなぁ、小路君。

——基本的にヘンゾとかハイアンと闘ったことがある選手は知ってるんですね。

田村　ブラジルで『PRIDE』とか放送されたりしてるんですか？

キーラ　やってるわ。『PRIDE』はブラジルでも凄く人気があるから、出てる人はみんなの憧れなの。一緒に練習してる選手も、みんな出たがってるから。

田村　凄いなぁ、『PRIDE』って。

——日本ではキーラさんのように強くて美貌も兼ね備えた選手って、あまりいないので、柔術でもいいので、是非、次の来日では試合を見せてください！

キーラ　私もそれを期待してるわ。

田村　でも怪我には気をつけてね。

キーラ　ありがとう。でも、柔術はやめるつもりはないですから（ニッコリ）。

——では、これから田村さんの奢りで、しゃぶしゃぶでも食べに行きましょう！

田村　ハッハッハッハッ。もう帰る（笑）。

【9月5日／都内某所にて収録】



撮影のため柔術衣を着てもらうとキーラは「タムラさん、技をかけさせてもらっていいかしら？」とニッコリ。袖車は拒否した（？）タムタムだったがキーラのチョークスリーパーにタップ寸前！

女子格絶賛営業中。

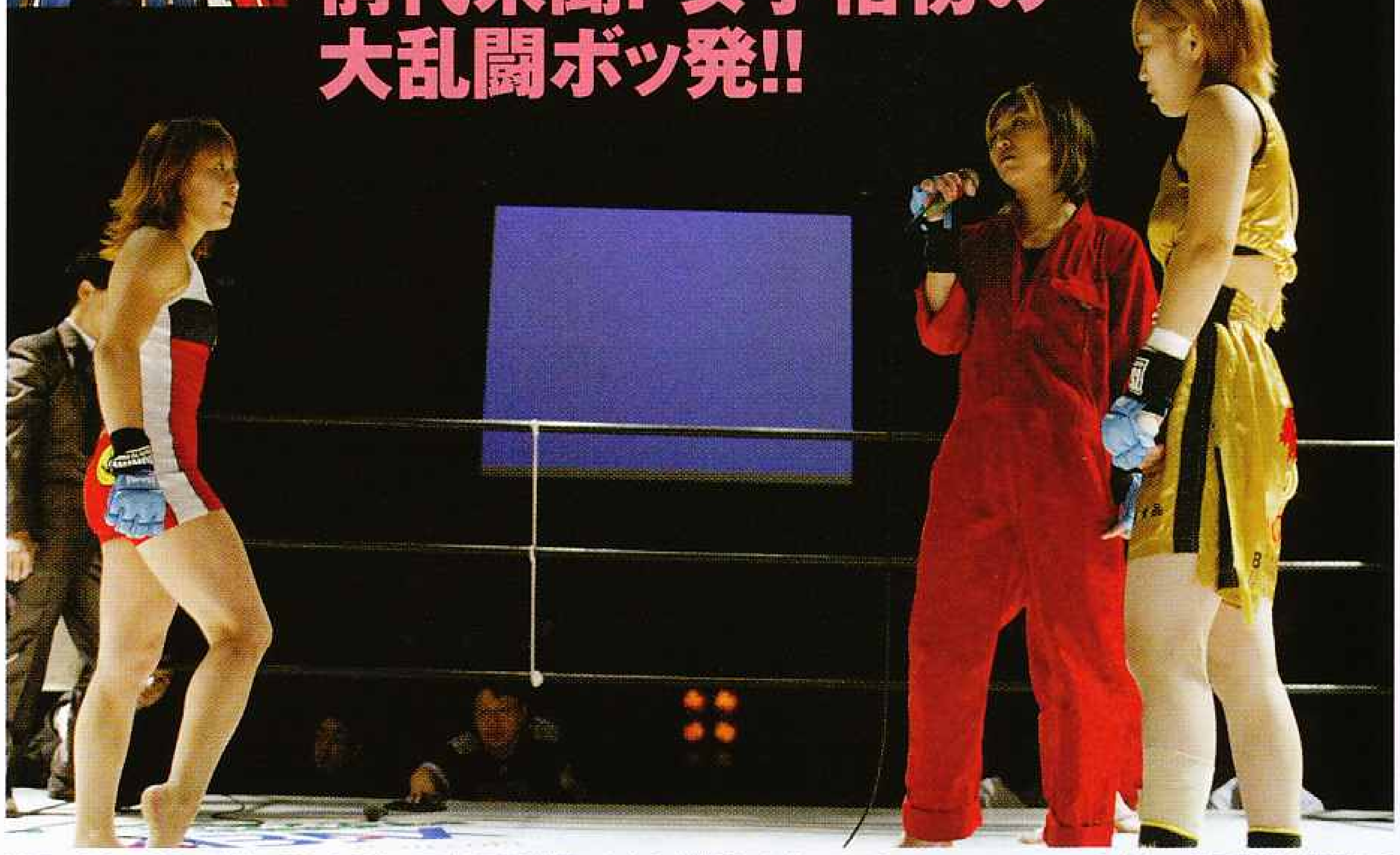


怒りのラブ・インパクト!!

8.29 Love Impact
新木場1st RING



前代未聞! 女子格初の大乱闘ボッ発!!



前回の大会、そして直前の記者会見と、石山絵理を筆頭にしなしを挑発しまくっていたRED DEVIL KIS'S。しなし＆早千予組の相手は当日になるまで発表されなかったが、結局試合に出場したのは川畑千秋と助っ人の亜利弥'の2人。9・4のCROSS SECTIONへの出場が決まっていた石山と坂本奈緒子の2人はコーナーから睨みを効かす。試合前から予想はしていたものの、試合後はホントに大乱闘に発展!



試合後、相手チームの反則上等な姿勢＆主催者に対しRED DEVIL KIS'Sは大激怒!「マジ、ムカつく! 向こうは噛みつくわ、引っかくわ、髪を引っ張るわで、これだったらルールは要らない。反則したもん勝ち。冗談じゃねえよ!」



「つい我を忘れてしまって」延長のアナウンスをしてしまった柴田代表にRED DEVIL KIS'Sは一斉に「お前がやれ!」とツッコミを入れる



「絶対負けたくなかったから1～2回のイエローは仕方ないと思ってた」と言う早千予だったが、得意の打撃でKOすることはできず



総合初挑戦の早千予に対し、開始早々テイクダウンを奪った亜利弥'は一気にスリーパーへ。早千予は苦し紛れに腕を引っかき脱出!



あまりのドタバタぶりに客席から失笑がこぼれると、しなしは「笑わないで聞いて下さい。次はいい試合を見せられるように頑張ります!」



あと1枚のイエローで反則負けを宣告された後も、思わず反則の頭部への攻撃をしてしまう早千予。しかし、これはノーカウントに



体格差のある亜利弥'相手に得意の関節技で一本勝ちを狙う、しなしだったが、結局極めまでは至らず。試合後は感情を大爆発させた



96年サンボ世界選手権金メダリストの武田美智子と柔道の名門ミキハウス出身のプロレスラー・ファング鈴木が激突。両者とも一歩も譲らずドローとなったが、36歳のファングの健闘が光った一戦。もう一丁!



空手界のアイドル・小林由佳が来春の新極真会世界大会を見据え、身長で20センチ、体重で14キロ差もある森田壽恵と対戦。試合は小林が体格差をもろともせず判定勝利! 生で見ると一段と可愛いッス

前号で紹介した8・5スマック後楽園大会に続き、後発イベントのラブインパクトとクロスセクションが相次いで興行を開催。どちらもスマックにも負けず、ある種、異様な盛り上がりを見せた。

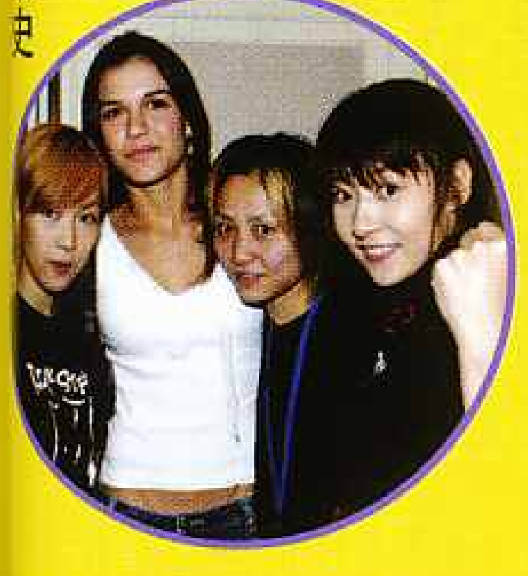
8月29日に女子格初進出となる新木場1stRINGで行われたラブインパクトでは前代未聞の大乱闘がボッ発!

前大会のメイン終了後、"最弱格闘家"ナナチャンチンに勝利を収めたエース・しなしさとこに対して「ぬるい試合してんじゃねえよ!」と、揃いの真っ赤な特攻服姿で挑発したのがレッドデビルキッス（以下・赤鬼）の石山絵理、坂本奈緒子、川畑千秋の3人だった。

その後の記者会見でも、しなしと赤鬼は挑発合戦を繰り広げ、同席したスーパーバイザーの佐伯さんも「この人たち、ガチで仲悪いから」と会見場をおろおろ。要は乱立する女子格イベントの中で差別化を図ろうと、このようなプロレスチックなアングルを安易に組んだものと思われるが、結果的にこれが（ある意味）抜群に面白くなったのだから問題なし!

大会当日も入場セレモニー時から挑発し合う、しなし組と赤鬼組。いざ、メインが始まると、しなしのパートナーで、この日が総合デビューとなるキックボクサーの早千予がルール無視の反則暴走をしでかしたから、さあ大変。もちろん、それはホメられることではないし、格闘技雑誌等では批判的な記事がズラリと並ん

構成／チヨコ　撮影／丸山剛史



女子格トピックス





スマックガール 11・4後楽園ホール 11・23沖縄大会決定ーッ!!

9月10日、SOD女子格闘技道場にてSMACK GIRL実行委員会が会見を行い、近藤有希の引退表明と、11月4日の後楽園大会、11月23日の沖縄大会の開催を発表（大会概要は下記参照)。近藤は11月の後楽園大会は東京最後の試合、そして来春には地元・静岡大会で試合に出場、その前後で一試合行い、引退まで残り3試合をSMACK GIRLで行う予定。引退表明について近藤は「身体のことを考えるとまだできるというのはあるけど、結婚して家庭を大事にしたいという気持ちが出てきたので引退を決意しました。やっぱり結婚したからには子供が欲しい。その気持ちに勝てなかった(笑)」と、照れくさそうに語った。沖縄大会で開催される賞金総額300万円のSMACK GIRL初代無差別級王座決定トーナメントへの出場が決まった薮下めぐみは「みんな大きい選手とやりたがらないですけど、私は大きい選手とやりたいので頑張ります」と、らしいコメント。アテネから沖縄へ。女子総合格闘技の金メダリストが、この秋決まる!

SMACKGIRL2004 〜近藤有希引退記念興行〜（仮）

2004年11月4日（木）後楽園ホール
18:00開場／19:00開始（予定）

■出場予定選手
近藤有希（PUREBRED京都）、舞（パレストラ松戸）/ 他

SMACKGIRL2004 〜WORLD ReMix〜（仮）

2004年11月23日（火・祝）
沖縄県立武道館（沖縄県・那覇市）
15:00開場／16:00開始（予定）

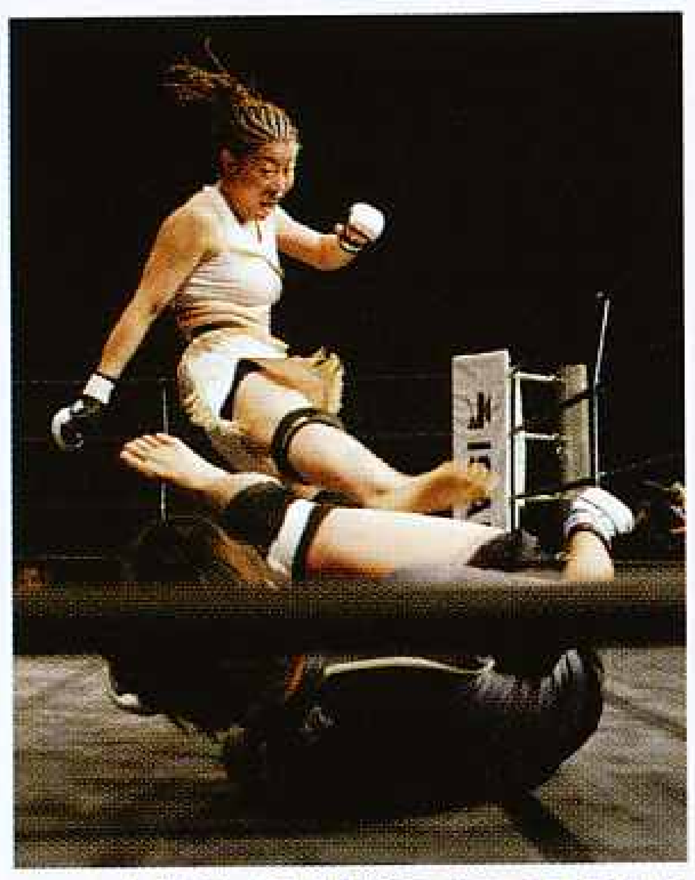
■大会内容：SMACKGIRL初代無差別級王座決定トーナメント
・世界各国より8名参加の1DAYトーナメント
・SGS公式ルール。体重無差別
・日本代表：薮下めぐみ。日本人枠はあと1名
・賞金総額3,000,000円
同トーナメントはオープントーナメントとして国内外より参加選手を大募集!
■トーナメント参加選手募集要項

□資格／18歳以上の感染症の無い健康な女性。
□問い合わせ：
〒156-0041／東京都世田谷区大原1-63-9　恒心ビル801
株式会社プロテック内　スマックガール実行委員会
Tel/Fax:03-3324-8790
（受付時間　平日10:00〜18:00）
Mail:info@smackgirl.com
□募集締切／2004年9月末日

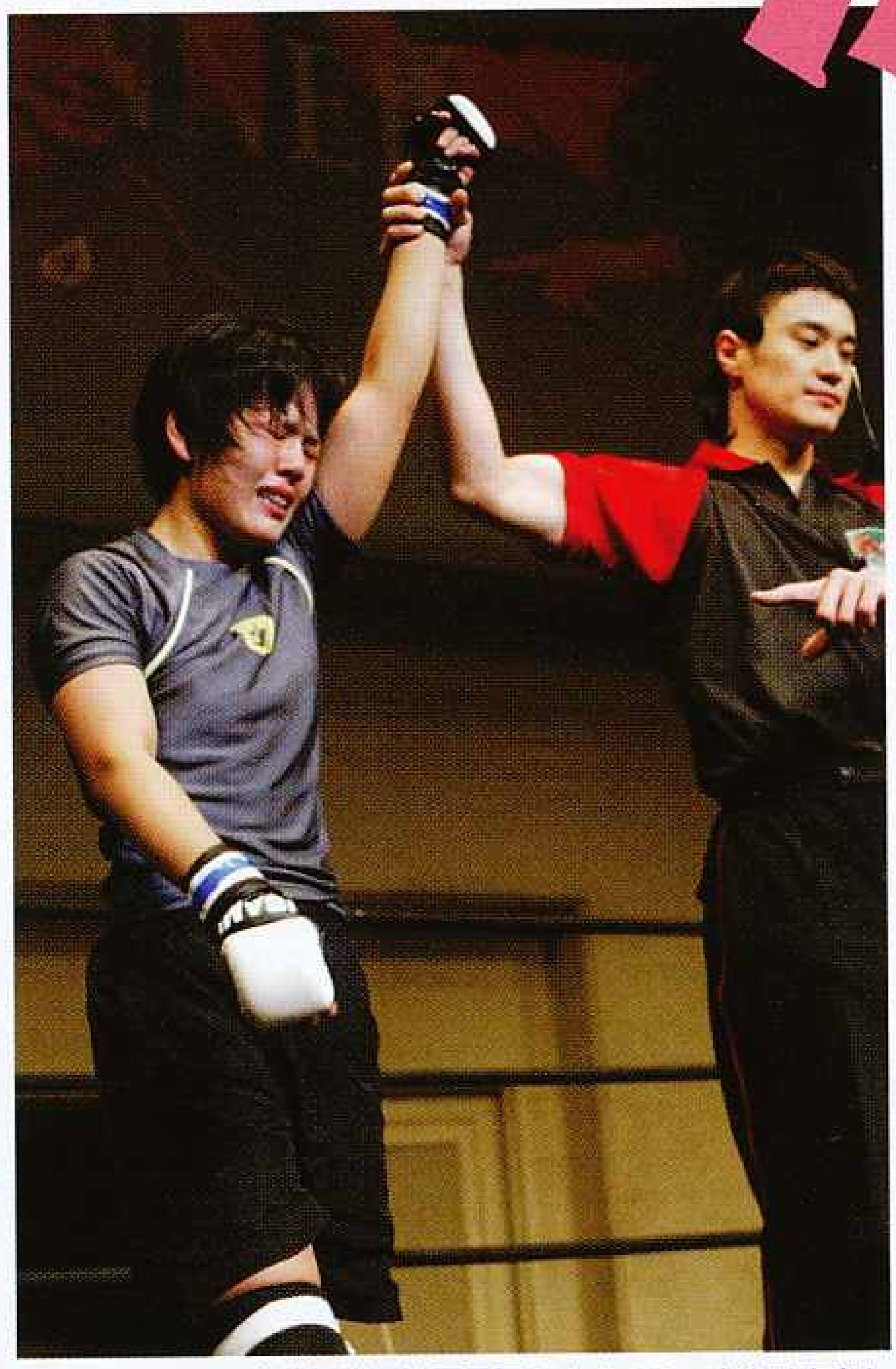
9.4 CROSS SECTION
東京FMホール

涙のクロス・セクション!!

勝っても負けても涙! キーラの来場に感涙!!

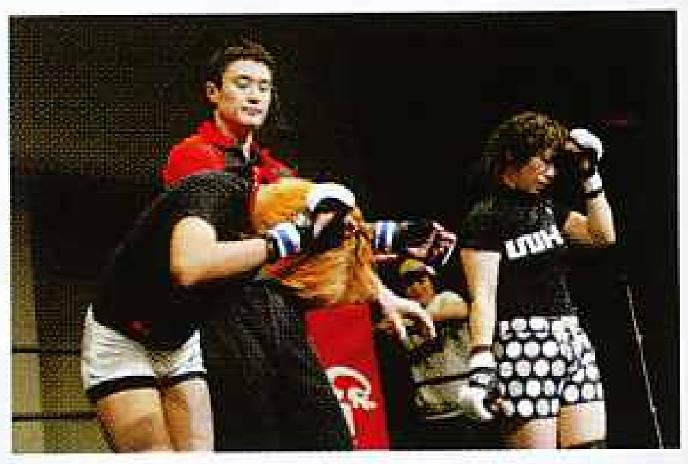

スマックと違い寝技制限のないクロスセクションはキック出身のWINDYには不利だが、もう負けられないとの思いがビンビンに伝わる必死の形相でキックを放っていった


しかし、勝負の女神が微笑んだのは真武和恵の方だった。残り時間、約1分で腕十字に捕らえた真武。しばらく耐え続けたWINDYだったが、2R4分1秒、無念のタップ!


クロスセクション旗揚げ戦で吉田正子にまさかの一本負けを喫したWINDYだったが女子格闘技界のビッグネームというのは変わらない。そのWINDYを総合初挑戦で下した真武は涙の勝ち名乗り!

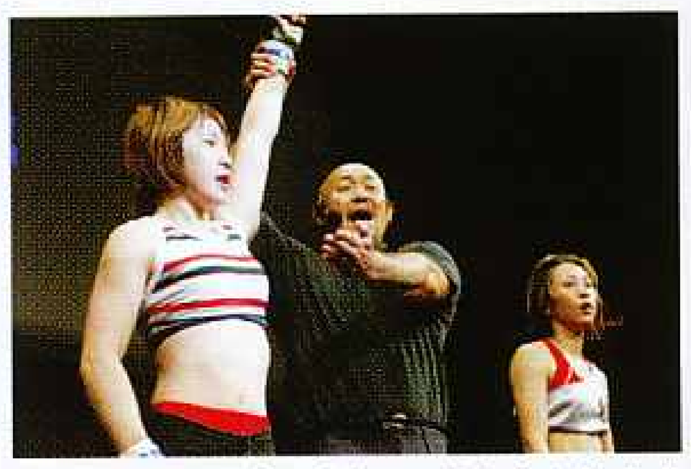

セコンドに辻ちゃんを付けた菊川夏子が慧舟會の端貴代と対戦。持ち前の突進力＆前転パスガード等で活路を開きたい菊川だったが、終始試合を優勢に進めた端が判定勝利


スマック名物のおっさんが、サイボーグ魂で水野裕子と闘った高橋まりと対戦。1Rから高橋の三角地獄で死にかけたおっさんだったが、2R、アームロックで大逆転勝利!


メインはクロスセクションのエース的存在慧舟會の大室奈緒子と、旗揚げ戦でWINDYを下した吉田が激突。試合は一進一退の攻防の末ドロー。大室は号泣でリングを後に

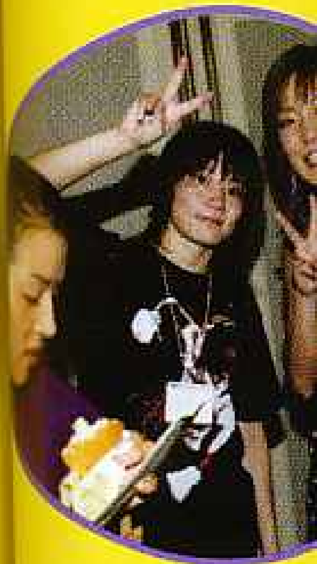

この日、おっさん＆菊川のセコンドとして来場した辻ちゃんに前号での公約通り金メダルを贈呈（notチョコ)。中京女子大の後輩、吉田沙保里に続いて、北京でもう一丁!?


サイボーグ魂にも登場した美形ファイター・筒井千尋がSOD女子格闘技道場のせりと対戦。ゴングと同時に激しい殴り合いを展開した両者。最後は筒井が腕十字で勝利!


この日が総合プロデビュー戦となる松本未来が女子格のマットを荒らしまくっているRED DEVILの石山絵理と対戦。結果は激しい打ち合い＆極め合いを制した松本の勝利!

だ。当然、赤鬼軍団もこれに激怒。時間切れドローとの裁定が出た後も、「逃げんのか？」だの「チビ！」だの「ダイエットしろ！」だの互いに感情にまかせ罵り合い、ブチ切れたしなしが赤鬼の石山にマイクを投げつけたのを合図に大乱闘へと発展したのだ。これだけは終わらない。混乱を収めようとリングに上がった柴田代表が「双方が良ければ5分間の延長を行いたいと思います」とマイクでアピールし、これにて一件落着かと思われたが、赤鬼側は「お前がやれ！」と言い残すと控室へ直行。もう何が何だかわからないが、とにかく凄いことになっているのは伝わってくる。女子格と言うよりは女子プロのリングでガチンコが行われたと言った方がわかりやすいだろう。もう一度同じことをやれと言っても難しいだろうが、まあ一つぐらいこんなハチャメチャな大会があってもいいんじゃないかと。

一方のクロスセクションは、ラブインパクトとは好対照にレベルの高い好勝負が続出。勝って涙。負けても涙。キーラの来場には感涙。男子以上に感情が表に出まくりの女子格は、やっぱ最高です！



構成／チョロ　撮影／丸山剛史

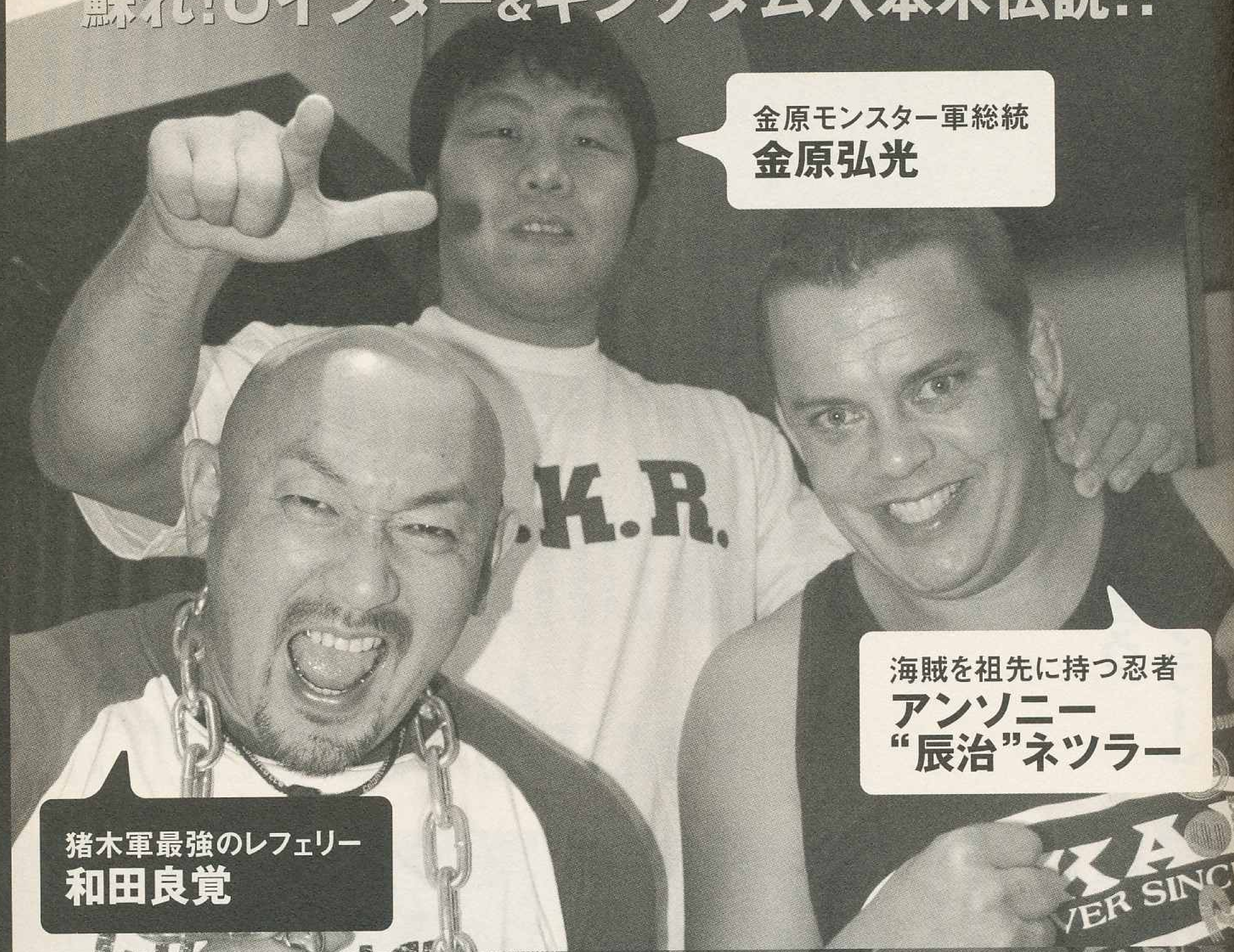




HEAT UP! BARGAIN
ヒートアップ！バーゲン
PRESENT!! 買った人だけアクセスできる！
最強を名乗るために！
中尾受太郎
修斗世界ミドル級4位。このほどフリーになり、7月3日開幕のDEEPウェルター級王座決定トーナメントに参戦。アライケンジを得意の三角絞めで破り、ベルトへ一歩前進した。
太い腕をバランスよくつくりあげる！2種のトレーニングが切り換え簡単！
アームカールEX
一般価格→¥50,400
¥15,000
目玉品
オールラバーコーティングが静寂な練習環境をクリエイトする
ラバーダンベルセット
20kgセット ¥12,144→ ¥4,800
30kgセット ¥16,874→ ¥6,700
40kgセット ¥21,604→ ¥8,600
50kgセット ¥26,334→ ¥10,500
60kgセット ¥31,064→ ¥12,400
ラバーバーベルセット
30kgセット ¥15,294→ ¥6,100
50kgセット ¥24,754→ ¥9,900
70kgセット ¥34,214→ ¥13,700
100kgセット ¥48,404→ ¥19,400
140kgセット ¥67,324→ ¥27,000
TRAINING MACHINE
トップアスリートたちも愛用するトレーニングマシーンブランドだから安心!!
プロフェッショナルベンチNEW-Kモデル
一般価格→¥42,000 50%OFF ¥21,000
プレスベンチホールドタイプ
一般価格→¥16,000 50%OFF ¥8,400
マッスルトレーナー
一般価格→¥10,500 50%OFF ¥5,250
マルチヘルシートレーナーII
一般価格→¥21,000 50%OFF ¥10,500
減量用サポーター（フェイス）
一般価格→¥3,990 50%OFF ¥1,995
減量用サポーター（ウエストベロクロタイプ）
一般価格→¥1,890 50%OFF ¥945
バック&シット
一般価格→¥18,900 50%OFF ¥8,400
シットアップベンチDX
一般価格→¥7,350 50%OFF ¥3,675
TRAINING ITEM
安全に効果的にトレーニングを行うには不可欠です。同時購入をお勧めいたします。
レザーベルトII
一般価格→¥6,300 ¥1,000
リストストラップ（1組）
一般価格→¥1,260 50%OFF ¥630
ダンベルマット
一般価格→¥3,990 50%OFF ¥1,995
トレーニングマット
一般価格→¥1,260 50%OFF ¥945
ラバーマット200
一般価格→¥6,825 ¥4,725
ラバーマット150
一般価格→¥6,300 ¥4,410
マルチマックス
一般価格→¥102,900 60%OFF ¥39,900
¥6,600×5回の分割支払いもございます
手数料は当社が負担します
BODYMAKER INTERNATIONAL
ボディメーカー
〒532-0003 大阪市淀川区宮原5-1-18 新大阪サンアールセンタービル16F
06-6395-9888
www.bodymaker.jp
order@bodymaker.jp
FAXでのご注文 06-6395-9222
ご注文は今すぐ！
電話・FAX・ハガキ・インターネットで
カードご利用OK!!
BODYMAKER SHOP LIST
池袋店:東京都豊島区東池袋4-41-22渡辺ビル1F ☎03-5911-6543
横浜店:神奈川県横浜市中区本牧原12-11マイカル本牧5番街3F ☎045-628-4355
名古屋店:愛知県名古屋市中区新栄2-2-7アーク広小路ビル3F ☎052-238-8815
桑名店:三重県桑名市新西方1-22マイカル桑名1番街3F ☎0594-25-8060
大阪店:大阪市淀川区西中島1-11-9-2F ☎06-6889-3280
FO大阪店:大阪府貝塚市澤890-1コスタモール二色の浜2F ☎0724-39-0760
アメ村店:大阪市中央区西心斎橋2丁目9-28STONESビル2F ☎06-6213-0074
ATCマーレ大阪店:大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟マーレ6F ☎06-6612-8255
加古川店:兵庫県加古川市平岡町新在家615-1加古川サティ3F ☎0794-56-8060
神戸店:兵庫県神戸市中央区琴ノ緒町4-3-3GH三宮駅前ビル3F ☎078-262-7515
福山店:広島県福山市三之丸町1-8福山キャスパ4F ☎084-921-9913
福岡店:福岡市博多区博多駅東1-1-28博多松本ビル2F ☎092-473-5660
沖縄店:沖縄県那覇市松尾2-8-19 那覇オーパ5F ☎098-864-2331
★20才未満の方のご購入には親権者の承諾が必要です。★表示価格には送料は含まれておりません。★改良のため、予告なく色・形状・デザイン等が変わる事があります。★バーゲン商品につき返品・交換・キャンセルには応じかねます。
★代金は商品到着時に配達員にお渡し下さい。★商品についてのお問い合わせはTEL.06-6395-9666迄 E-mail:info@bodymaker.jp 商品の配達期間はお電話にてお問い合せ下さい。★広告有効期限/広告掲載より一ヶ月有効

今回も

蘇れ!Uインター&キングダム六本木伝説!!



混沌のマット界に最凶最後の軍団ついに結成!!

所属団体を根こそぎブチ壊す!

金原モンスター軍

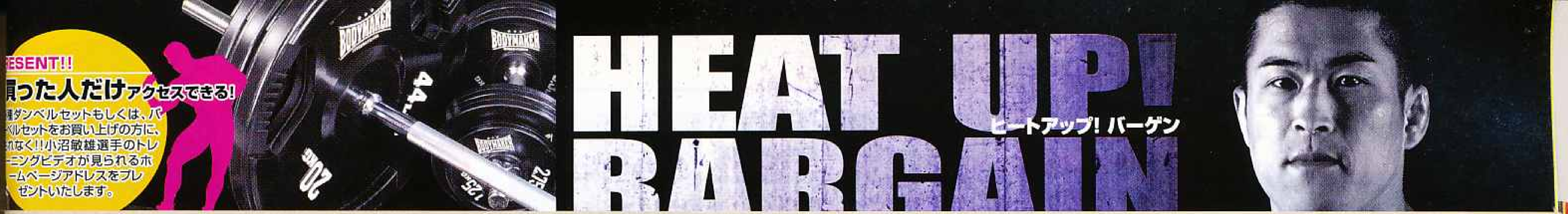
秘密会議

高田モンスター軍の魔の手がみちのくにも及ぶ中、マット界の片隅で“ボヤキング”を総統として新たな軍団が結成されていた。それが「金原モンスター軍」だ! その前身は、90年代後半に夜の六本木で猛威を振るったキングダム&エンセン軍団連合。当時、彼らはいったいリング外でどんな暴れっぷりを見せていたのか? “裏”Uインター&キングダム伝説がついに明らかになる!

聞き手&撮影／堀江ガンツ designed by nogu（Two three）



©中川画伯



――今日はいつの間にやら結成されていた「金原モンスター軍」の秘密会議に潜入させてもらったわけですけど。金原総統、実に屈強なモンスターを連れてらっしゃいますねぇ（笑）。

金原　強そうでしょ？　なんといっても〝全盛期のマーク・ケアーをアブダビで唯一本気にさせた男〟と〝荒れ狂う大巨人シルバをチョークで絞め落とした男〟だからね（笑）。

和田　だから絞め落としてないって！

――では、総統。このモンスター軍を結成されたいきさつをまずはお話いただけますか？

金原　いきさつって、ただ単に冗談でHPの日記に「金原モンスター軍結成を考えてる」って書いたら、あなたが取材申し込んできただけじゃない。

――はい、そうでした。白々しかったですね（笑）。でも、このメンバーはつき合い長いんですよね？

金原　そうだね。和田さんはもちろんUインターのころからだけど、アンソニーはもともとエンセン（井上）のチームにいて、よくエンセンと一緒にウチらの道場に練習に来てたんだよね。あれはキングダムのころだっけ？

ネツラー　そう、六本木のジム。

金原　それで仲良くなって、ちょくちょく遊びにいくようになったんだけど、一緒に『アブダビ』（2000年）に出場したのを最後に、しばらく会ってなかったのよ。アンソニーは格闘技から離れて、京都で牧師さんやってたから。

和田　へぇ～、牧師さんやってたんだ。

金原　でも、牧師さんって言ったって、適当に「アーメン」って言ってただけらしいけどね（笑）。

ネツラー　真面目にやってたヨ！

金原　でも無免許でしょ？

ネツラー　なに言ってんの。免許持ってたヨ～！

金原　嘘だ～（笑）。まぁ、そんな感じでごぶさたしてたんだけど、今年になって俺が京都にあるエンセンのジム（PUREBRED京都）にセミナーで行ったときに、新幹線のホームで偶然アンソニーに会ってさ、「また試合がしたいんだ」って言うから「ほんとにやるんだったら協力するよ」ってことになったんだよね。

ネツラー　いま金原さんに教えてもらってます。いい先生。

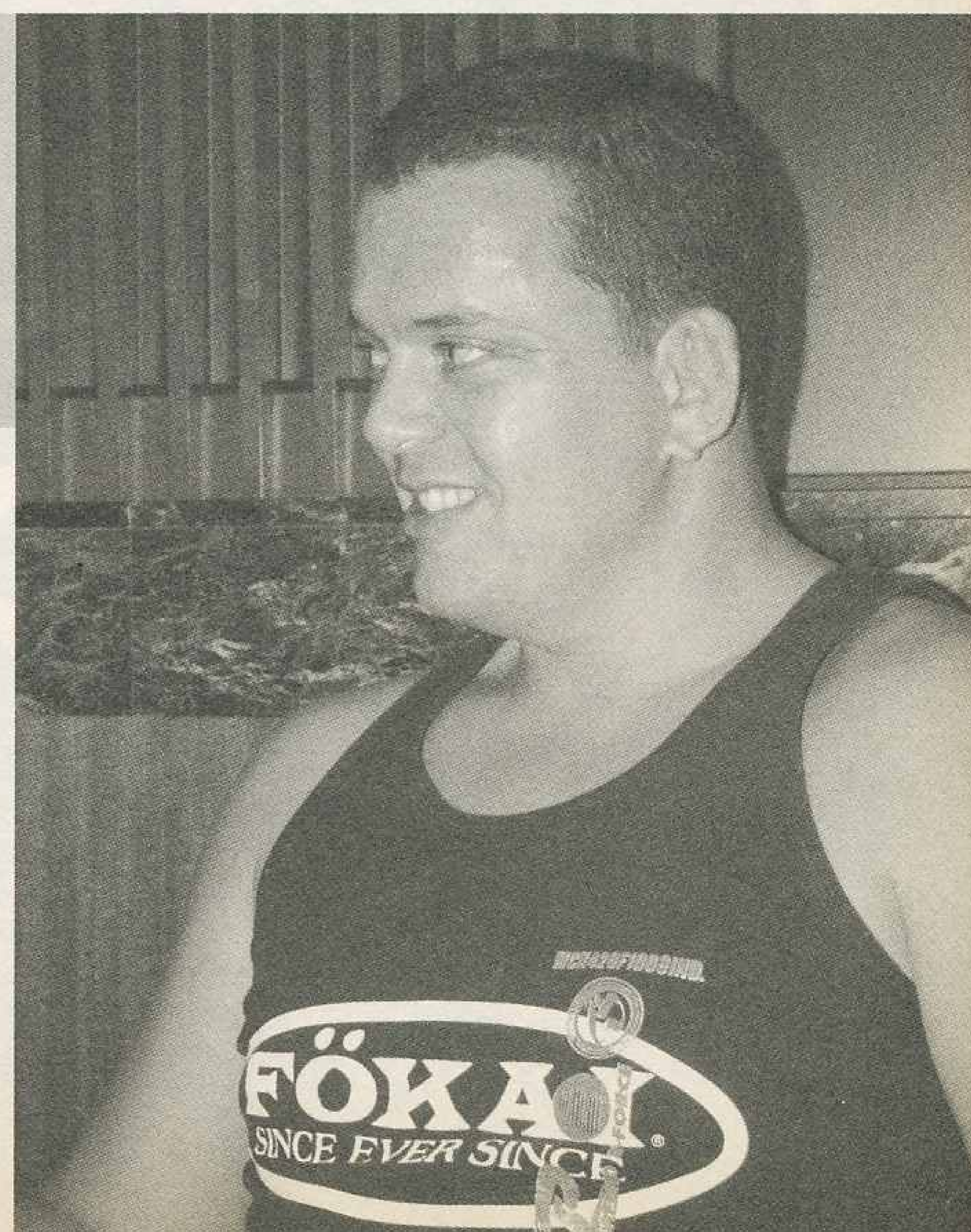
――金原総統自ら稽古つけてますか。

金原　まず金原モンスター軍第1の刺客として、9・24パンクラス後楽園大会に送り込むためにね（笑）。

ネツラー　がんばりマス！

和田　ちなみに、当日はいよいよ僕もレフェリーとして、パンクラスデビューさせていただきますんで（笑）。

ボクは初見良昭先生に忍術を習うために日本に来たんですよ（ネツラー）



海賊を祖先に持つ忍者
アンソニー“辰治”ネツラー

1967年12月26日、ニュージーランド出身。初見良昭師に師事、武神館体術九段の腕前を持つ。かつてはPUREBRED大宮に所属し、エンセン井上から、ブラジリアン柔術、修斗、そしてイタズラの極意を学んだ。9・24パンクラス後楽園大会にはメインに出場！

金原　あ、和田さんも出るんだ。当日は俺もアンソニーのセコンドにつくよ。

――9・24パンクラスでは、いきなり金原モンスター軍揃い踏みなわけですね。ところで、ネツラー選手はもともとエンセンさんとは、どんなきっかけで知り合ったんですか？

ネツラー　94年ぐらいに『バーリ・トゥード・ジャパン』があったときに知り合って、一緒に練習するようになったんですよ。

和田　当時のエンセンの練習はキツかったでしょ？

ネツラー　一回フランク・シャムロック戦の前日、深夜2時にエンセンに「スパーリングやろう！」って呼ばれて、真夜中に凄い血だらけにされたことあります（笑）。

――ダハハハ！　凄い。

金原　それ試合直前でしょ？

ネツラー　もう試合当日の夜明け前（笑）。

――気合いが入りすぎて、試合まで待てなかったんでしょうね（笑）。エンセンさんと一緒に練習する前から総合格闘技はやってたんですか？

ネツラー　総合というか、古武道をやってたんですよ。

金原　アンソニーは凄いよ。18歳のときに日本に来たんだけど、なんで



金原モンスター軍総統 **金原弘光**

ご存じボヤキ格闘家の第一人者。その実力は多くの人が認めるところだが、体調が酷いときに限ってシウバ戦、ミルコ戦などのビッグチャンスが舞い込む悲運の男（そしてボヤく）。そろそろ大物食いをして、その実力を満天に知らしめてほしい！

来たかって言うと、忍者に会いに来たんだよ（笑）。

——忍者ですか？

ネツラー　忍術を学ぶために来たんですよ。初見先生知ってますか？

——ハツミ先生？　ちょっと存じ上げないですね。

ネツラー　初見良昭先生といって、日本ではそれほど知られてませんけど、世界中で知られてるかたなんですよ。

金原　その初見先生って、日本の忍者の伝統を受け継ぐ最後のひとりで凄く有名な人なんだって。でも、俺も最初知らなくてさ、「いまの日本に忍者なんているわけないじゃん」とか馬鹿にしてたんだよ。それが「アブダビ」で、アンソニーを前田（日明）さんに紹介したとき、前田さんが「君はなんで日本に来たんだ」って聞いたら、「ボクは初見先生に会いに来たんです」って答えてさ、そしたら「おぉ～、あの初見先生か！」って前田さんが驚いてたのよ。それ以来、俺も「凄い人なんだ」ってコロッと態度変えたんだけどね（笑）。

和田　前田さんは、そういういろんな達人に詳しいですからね。

金原　それでアンソニーはその人に弟子入りして免許皆伝してるんだよね？

ネツラー　はい。

——凄いですねぇ！　じゃあネツラー選手も正真正銘の忍者なわけですか。

金原　アンソニーは手裏剣も投げられるからね。この前、一緒に高田道場に練習に行ったら、桜庭も「えっ手裏剣できるの？」って興味津々でさ、アンソニーが名刺を手裏剣代わりにピシッって投げたら、みんなで「うぉ～～」とか言って盛り上がったよ（笑）。

——じゃあ、昔のUFCとかだったら「アンソニー・ネツラー（忍術）」って表記されたわけですね（笑）。

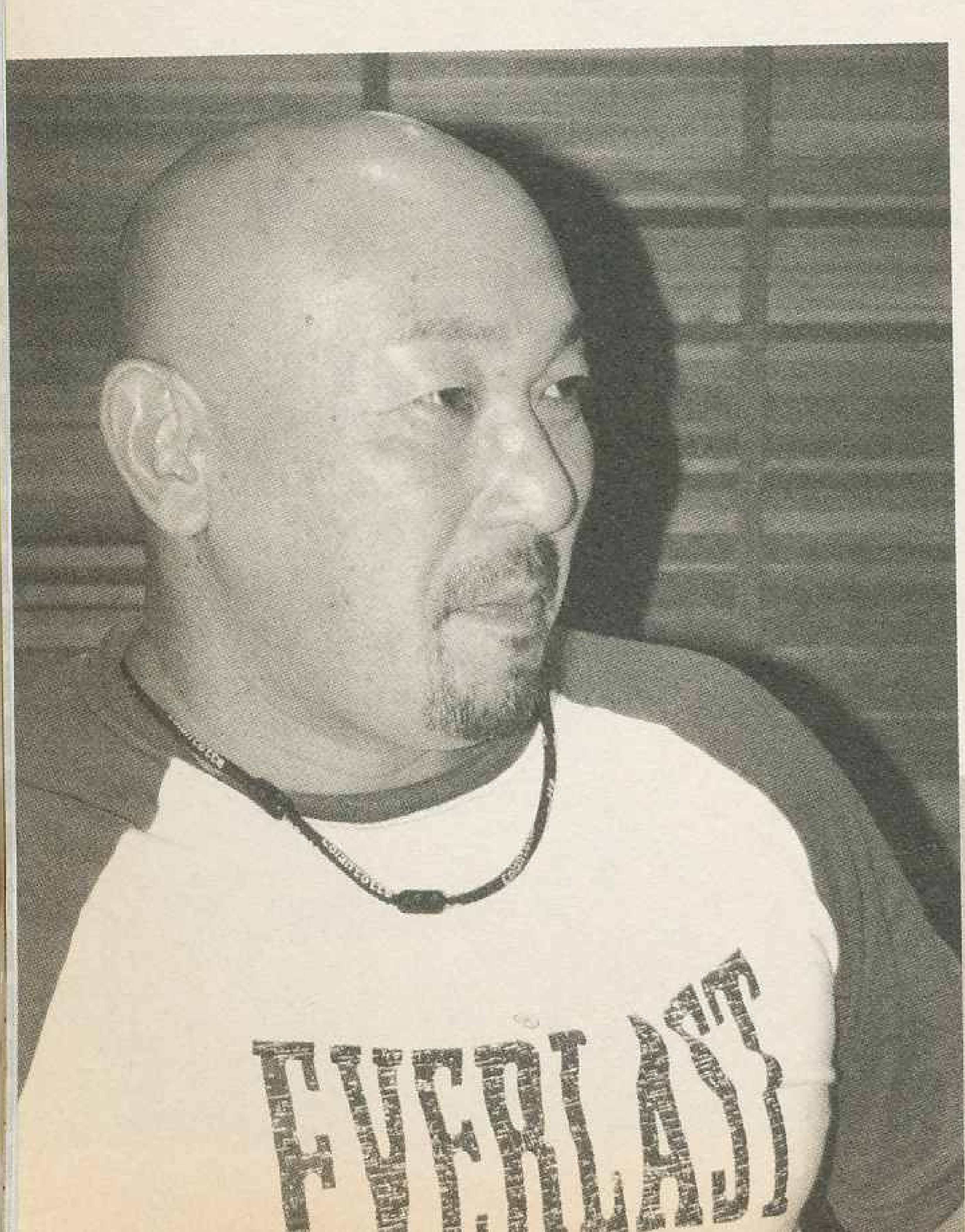
ネツラー　きっとそうなってたね（笑）。

金原　それからアンソニーは祖先が海賊なんだよね？

——自分は忍者で先祖が海賊ですか!?（笑）。

ネツラー　曾お祖父さんが海賊です。「ネツラー」っていう名字はサモアでは有名な海賊のファミリーネームですね。あと、バウンティ号知ってます？　そこに乗ってたのがウチの別ルーツの祖先なんですよ。（バウンティ号＝映画『戦艦バウンティ号の叛乱』で有名）

KANEHARA MONSTER ARMY



猪木軍最強のレフェリー **和田良覚**

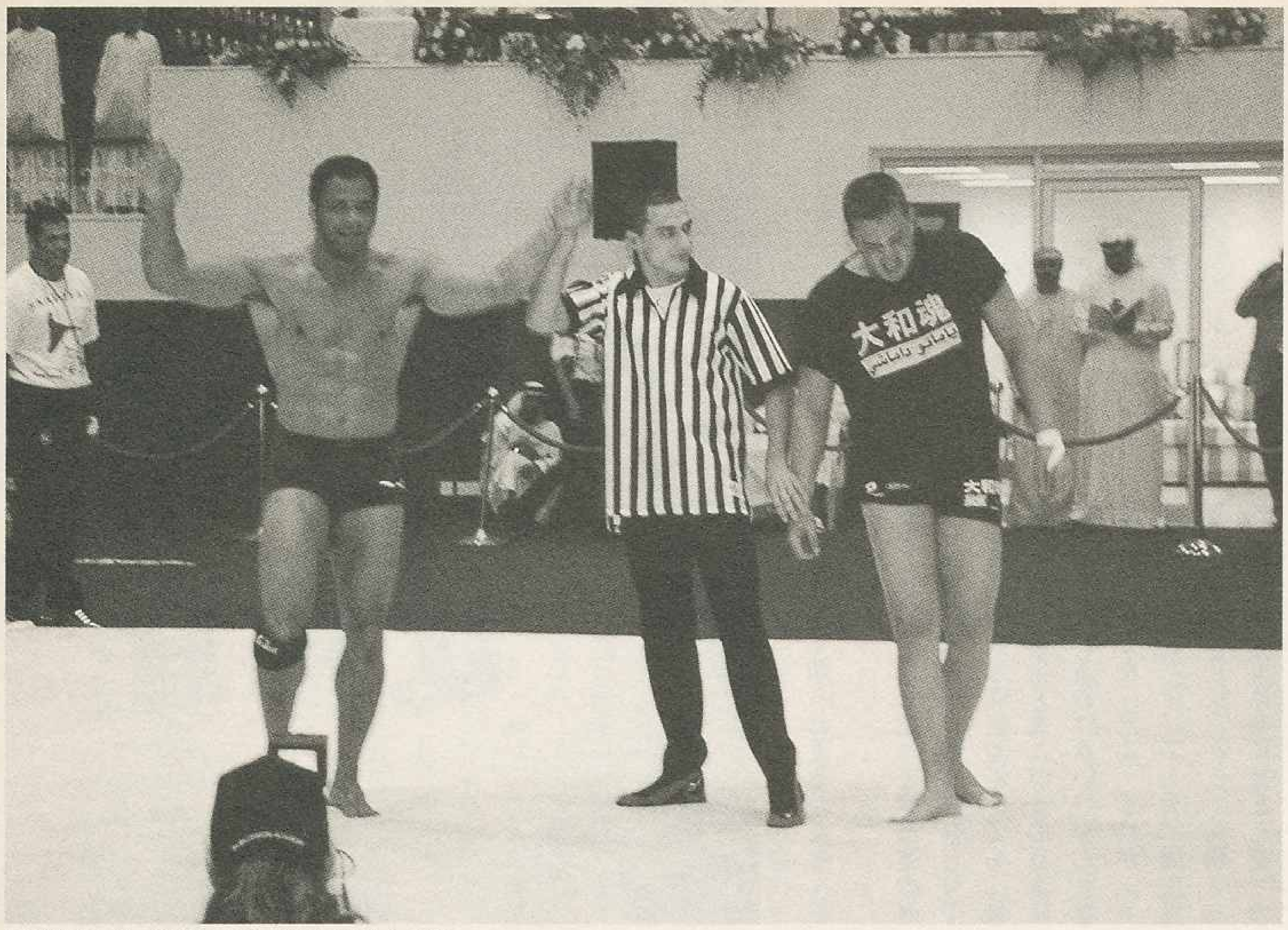
UWFインター、キングダム、リングスと所属する団体が次々となくなってしまう、悲劇のレフェリー。そのパワーと大食いぶりは桜庭、高山、高阪らが一目をおく"最強の男"。9月1日付で猪木事務所入り。はたして和田ジョンイルの北朝鮮上陸はあるのか？

金原　先祖代々悪いんだよ（笑）。アンソニー自身、若いころは海賊みたいなもんだったからね。もうエンセンと一緒に六本木で悪さばっかりしてたから！

――エンセン軍団はそんなに悪かったんですか？

金原　もう、ここでは言えないことがいっぱいあったよ（笑）。六本木に和田さんが週末アルバイトしてた店があってさ、俺たちとエンセン軍団っていう悪いヤツばっかりのメンバーで、毎週末、必ず遊びに行ってたからね。

――和田さんはなんのアルバイトしてたんですか？



『アブダビコンバット2000』99キロ超級に出場したネツラーは、２回戦で全盛期のマーク・ケアーと対戦。もの凄いジャーマンを食らって敗れたものの、「この大会で唯一ケアーを本気にさせた」と言われる健闘ぶり。ちなみにケアーはブッチギリの強さで99キロ超級＆無差別級の２階級制覇をはたした。

KANEHARA MONSTER ARMY

和田　バウンサー……セキュリティです（笑）。

――セキュリティですか（笑）。

和田　でも、平日はUインターやキングダムの道場でヘロヘロになったあと、週末はアルバイトやってたんで、ホントきつかったですよ。

金原　「Uインターの給料じゃやっていけない！　アルバイトしたいんだ！」って高田さんに言ってね（笑）。

和田　勘弁してくれよ！　でも、あれはあれで楽しかったよね。俺は仕事だったけど楽しかったもん。青春みたいな感じだよね。

金原　あのころは、みんな金なかったからね。

――でも、金ない人たちがなんでそんな遊びができたんですか？

金原　だって俺ら全部タダじゃん。

和田　僕がこっそり伝票処分してたんですよ（笑）。

――ダハハハ！　そんなカラクリがありましたか。

和田　だって周りはVIPばかりなのに、平気でお金持たずにみんなくるんだもん（笑）。

金原　それでシャンパンとか空けてたからね（笑）。

――ホントにろくでもない賊ですね（笑）。

和田　だから僕がいっつも言ってたのは、「遊んでいくのはいいから、頼むから暴れないでくれよ」って。

――そのときのメンバーっていうと、どんなメンツだったんですか？

金原　だいたい俺とエンセンと高山君が中心になって、あとはアンソニー、それから同じ大宮ジムのピーターってヤツもいてさ。そこに安生さんとか桜庭とか、他にエンセンの知り合いとかが加わってね。

――メンツを聞くだけで、何かが起こりそうな気配がプンプンしますね（笑）。

金原　だってアンソニーなんかしょっちゅうケンカしてるよ！　なぜか自分も白人のクセに白人が嫌いで、アメリカ人とか大嫌いなんだよね。

――なんで嫌いなんですか？

ネツラー　いや〜、アメリカ人みんな嫌いなわけじゃなくて、六本木にはバカなこと言う、うるさいヤツが多いんですよ。そういうヤツが嫌いで、なんか言われるとムカついてやっちゃうんですよ。

金原　エンセンも白人嫌いだもんね。白人が偉そうにしてると、キレるんだよね。

和田　それを止めるのが僕の役目なんですよ（苦笑）。

金原　中でもピーターってヤツが一番凄くてさ、顔からして「ケンカがしたい」って顔してるのよ（笑）。そのピーターってキングダム最終興行に出てるんだけど（ザ・セイントのリングネームでニーハオ＝MAX宮沢と対戦）、仲間には凄くいいヤツなんだけど、敵に対してはホント怖いのよ！

ネツラー　部屋に入って来ただけで、「コイツやばいナー」ってタイプだよネ（笑）。

――風貌からしてヤバいんですか？

金原　ヤバい！

ネツラー　スキンヘッドにして、頭のアチコチ傷だらけです（笑）。

今回も

みんな悪知恵が働いて、腕っ節も強いんだからタチ悪いですよ！（和田）

——その彼はいまどうしてるんですか？

金原　フランスの留置所にいるらしいよ（笑）。

——ダハハハハ！

金原　エンセンに「最近ピーター見ないけど、どうしてるの？」って聞いたんだよ。そしたら「ちょっとフランスのほうネ」って（笑）。

和田　きっとボッコボコにしちゃったんでしょうね。でも、それをさらに上回ってたのがジェイソンだからね。

金原　そうそう、ジェイソン信長。

——あの『PRIDE武士道　其の壱』に出て、セルゲイ・ハリトーノフのデビュー戦の相手を努めた彼も〝軍団〟の一員でしたか！

和田　僕とジェイソンは仕事が一緒だから仲良くなって、そのあと金原選手、高山選手、桜庭選手とみんな仲良くなったんですよ。でも、彼はニュージーランドではボスだもんね。そのジェイソンが「今度、凄ぇヤツが来る」って言ってたのがレイ・セフォーだから。

ネツラー　ジェイソンは野蛮人だよね（笑）。

金原　なんかエンセンとジェイソンは似てるよね。エンセンはハワイで暴れて、ジェイソンはニュージーランドで暴れて。

ネツラー　エンセンは普段優しいけど、キレると恐ろしい人間になる。でも、ジェイソンは優しい顔のままエンセンより酷いことする（笑）。

——余計こわいですよ！（笑）。

和田　ホント、僕らは仲間で良かったな〜って（笑）。

——とんでもないメンバーと遊んでたんですね。アンソニーさんも率先してかなり〝非公式戦〟は行ってたんですか？

ネツラー　いや、ボクはいつも一人で静かにしてました（笑）。

金原　嘘ばっかり！　アンソニーの左の耳から後頭部にかけての傷見てよ。

（なんとアンソニーの左側頭部に20数センチもの縫い痕を発見！）

——うわ〜、凄いですね！

金原　これナイフで切られた痕だよ。

ネツラー　これ80針縫った。

——80針！　こんな牧師さんいませんよね（笑）。

ネツラー　いつも牧師やりながら心配してたんですよ。「耳の傷バレないかな」って。

和田　そういう牧師さんがいてもいいかもしれないよ。人の痛みが分かる牧師で。

金原　人に痛みをさんざんわからせてきた牧師じゃないの？（笑）。その傷はどんなヤツにやられたんだっけ？

ネツラー　ブラジル人。アイツら大嫌い！

——大嫌い（笑）。

ネツラー　ケンカも1vs1で目を合わせてやるのはいいんですよ。でも、この傷は後ろから突然斬りつけてきた。しかも、集団で。そういうヤツら人間じゃないと思う。虫と思う。

和田　それは卑怯だよね。

——やっぱりケンカにもルールがあると。

金原　でも、アンソニーはケンカは正攻法だけど、●●●、△△△、×××にも手を染めてるからね（笑）。

和田　そういうこと言うのやめなさい！（笑）。

——ダハハハハ！　これは全部伏せ字ですね（笑）。



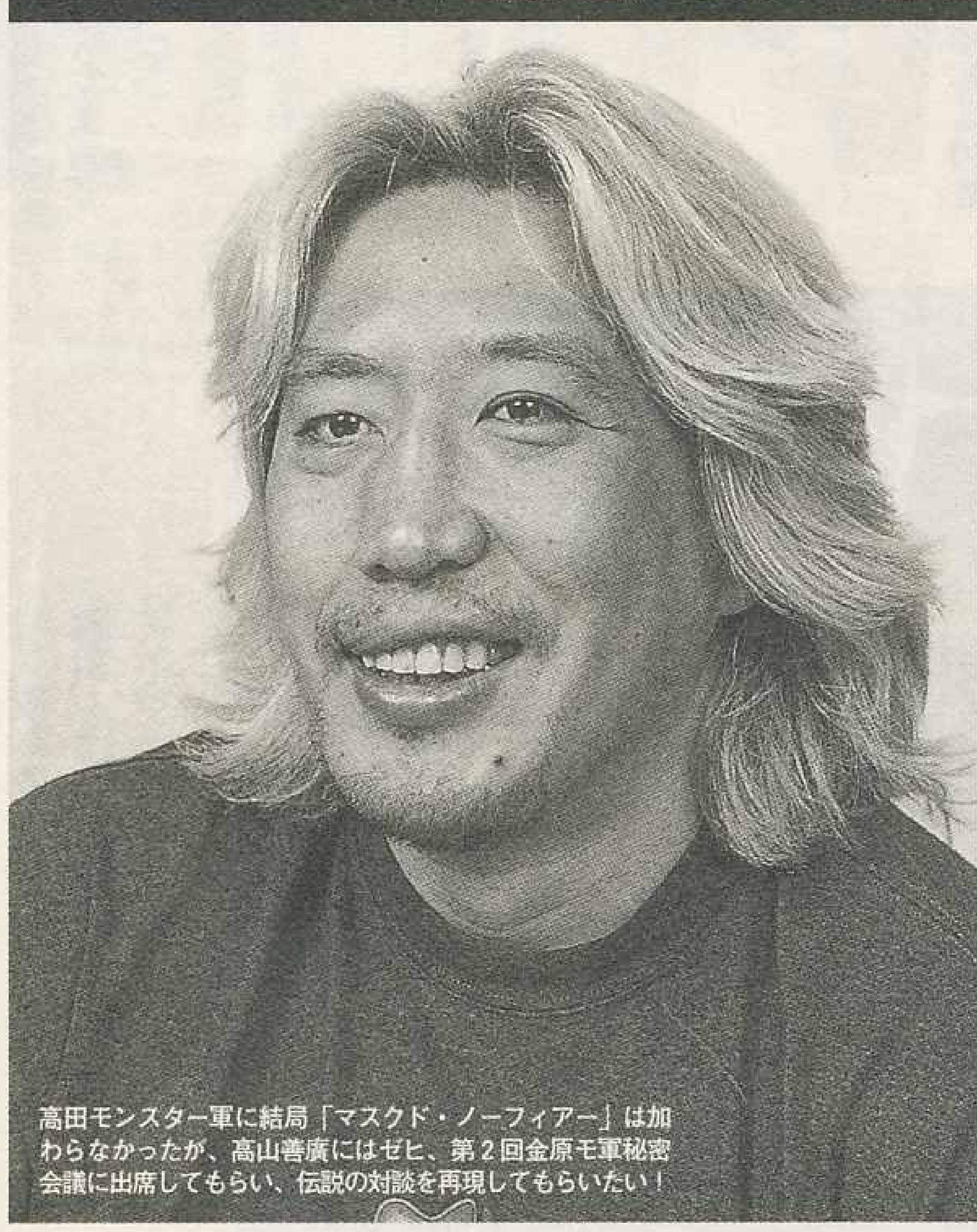
90年代は日本キック協会（当時）のエースとして活躍、昨年は『PRIDE武士道』出場もはたした（ハリトーノフに一本負け）ジェイソン信長も、キングダム勢と仲間だったことが判明。こんなケンカ話を聞くと、再来日してもらいたくなる。

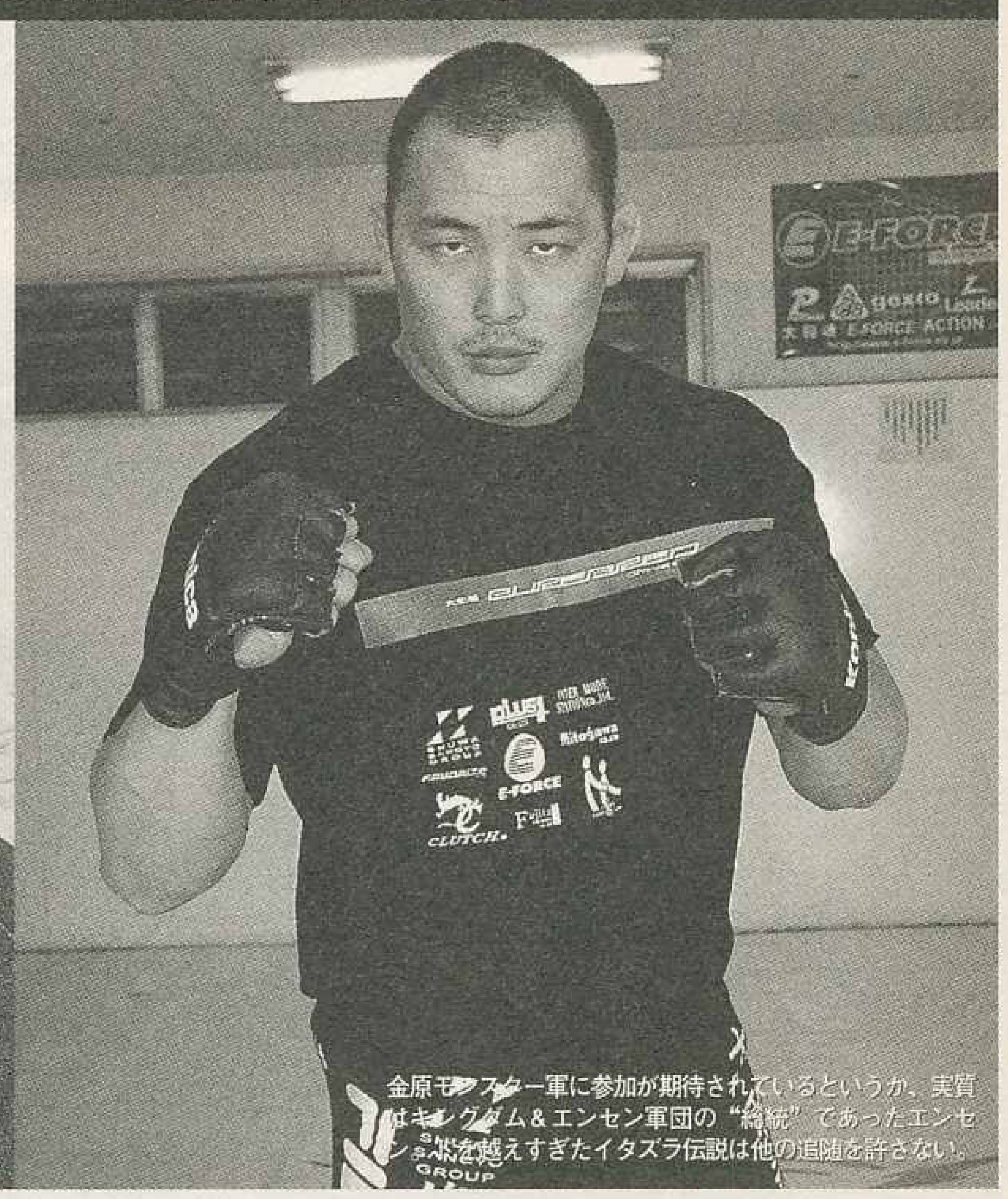
悪いことはみんなエンセンから教わったからね。彼こそ悪の根源であり真の総統だよ（笑）。（金原）

金原　だってさ～、アンソニーは……（その後、若き日のネツラーがやったという様々な"悪事"を暴露。掲載不可能なため略）
ネツラー　そんなことオレやってないヨ～！（笑）。
金原　頭がいいから、いろんな金儲けを思いつくんだよね。それに口がうまいじゃん。アンソニーはどんな交通違反しても警察官を口で丸め込んで、罰金ナシ、点数も1点も引かれないで、最後は「気を付けて帰ってください」って警官に言わせる男だからね（笑）。
和田　みんな悪知恵が働いて、それで腕っ節が強いんだから、タチ悪いですよ～（笑）。
金原　でも、だいたい悪いことは、みんなエンセンから教わったんだよ。彼が悪の根源だからね（笑）。
――モンスター軍、真の総統はエンセンでしたか（笑）。
金原　だってさぁ、エンセンは……（この後、若き日のエンセンの"悪事"を次々と暴露するが割愛！）
――いや～、みんな"不良"だったんですね（笑）。
ネツラー　みんなイタズラ好きなんですよ。エンセンは……（この後、エンセンが行った数々のイタズラを暴露。しかし、ドを越えているのでもちろん割愛！）

KANEHARA MONSTER ARMY

金原モンスター軍参加が期待される方々

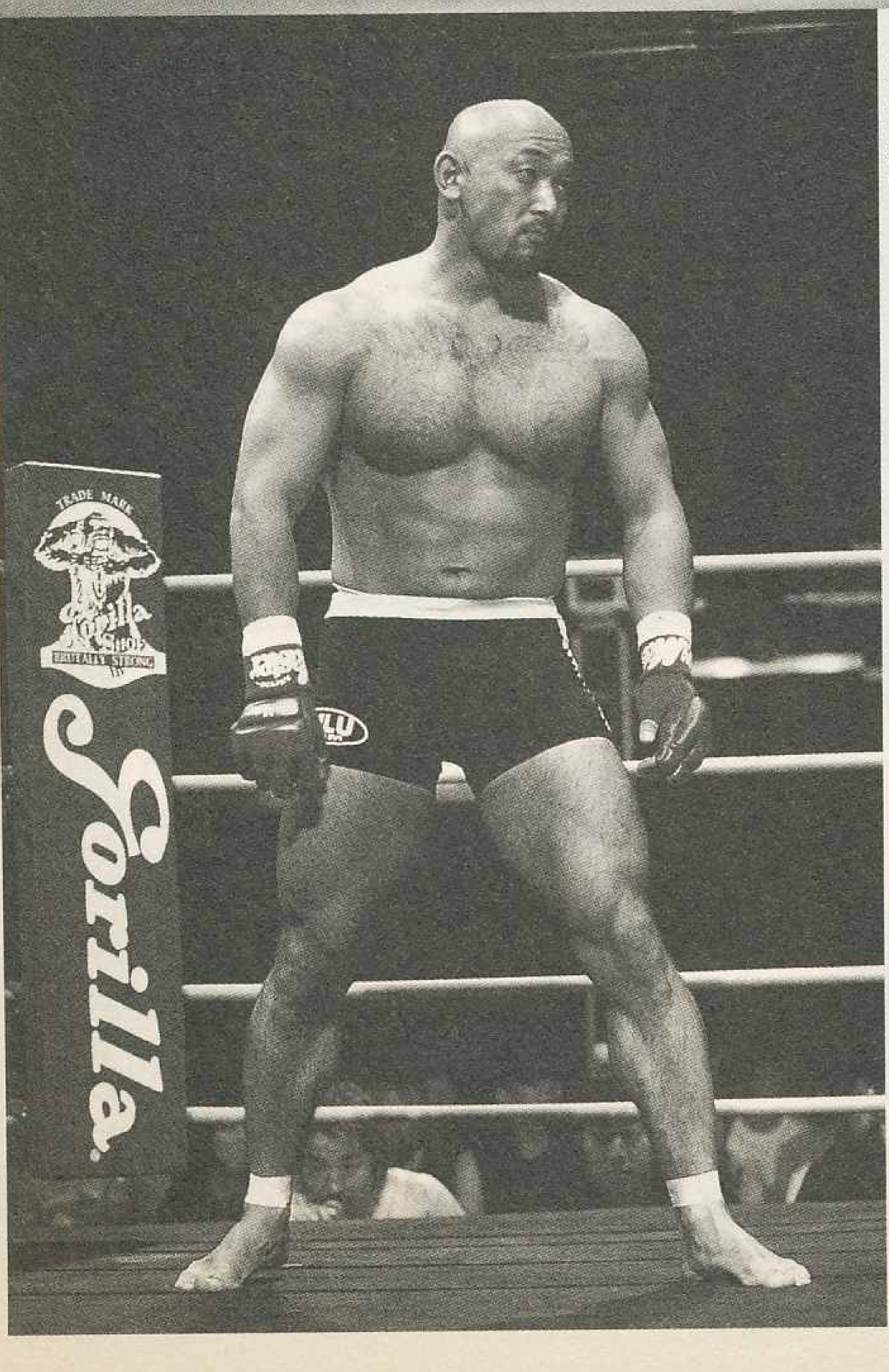

高田モンスター軍に結局「マスクド・ノーフィアー」は加わらなかったが、高山善廣にはゼヒ、第２回金原モ軍秘密会議に出席してもらい、伝説の対談を再現してもらいたい！


金原モンスター軍に参加が期待されているというか、実質はキングダム＆エンセン軍団の"総統"であったエンセン。ドを越えすぎたイタズラ伝説は他の追随を許さない。

一同　ガハハハハ！
金原　そのころはみんな、そういうタチの悪いイタズラしてたよね。さすがにもう落ち着いたけどさ。
――いまだに落ち着いてなかったら困りますよ！（笑）。
和田　でも、そのころ一緒にバカやってた仲間が、いまみんな活躍しているのは嬉しいですよ。
ネツラー　高山さんはどうしてるんですか？
金原　高山君はいまや日本一の売れっ子プロレスラーだよ。でも、この間、試合後に脳血栓で病院に担ぎ込まれて大変だったよ。
――あのとき、金原さんはちょうど新日の会場に見に行ってたんですよね？
金原　そうそう。G1の大阪大会見に行って、帰りに高山君に声掛けていこうと思って控え室に入ったら、イスに座ったまま痙攣してるからビックリしたよ。
和田　もう僕は電話でそれ聞いたとき、ガタガタ震えが止まらなかったですもん。聞いた時点で病名が病名だし、試合直後になったって聞いたから、最悪の事態まで考えて、ホントに心配で心配でしょうがなかったですよ。
金原　俺もさ、最初は首を痛めて手が痺れてるのかと思ったら、脳だって聞いてビックリしたんだよね。大事に至らなくてホントに良かったよ。でも、和田さんみたいなタイプもなりやすいんだよね、血液がドロドロの人。
和田　（顔をしかめて）知ってる。

今回も





5・22『武士道』では1年半ぶりの復帰戦ながらミルコとフルタイム闘う粘闘をみせた金原総統。10・31『ＰＲＩＤＥ・28』でも、ミルコ級の実力者との対戦が噂されているが、体調万全のいまならチャンスだ。頑張れ金原総統！（写真・上）
こちらも2年ほど試合から遠ざかっている"最強の男"和田良覚、猪木事務所所属となり、今年の『猪木祭り』は選手として参戦してほしーい！（写真・左）

金原　あとでドクターといろいろ話したんだけど、聞けば聞くほど「和田さん危ない」と思ったもんね。和田さんは人に言えない病気たくさん持ってるから（笑）。

和田　また誤解されるようなこと言うんじゃないって！

金原　血がドロドロの人が汗かくと、水分が足りなくなるからもっとドロドロになるじゃん。血中濃度が上がっちゃうんだよね。和田さんやばいな～（笑）。

和田　勘弁してくれよ！

金原　でも、和田さん、いいこともあったじゃん。猪木事務所に入ることになったんでしょ？　よかったじゃん、生活安定して。

和田　いや～、でも決まらなかったら大変なことになってたよ。

金原　でもなぁ、和田さんが所属する団体は次々となくなって……（笑）。

和田　そういうこと言うのやめろよ！所属取り消しになったらどうするんだよ！　それに団体がなくなったのはお互い様でしょ！（笑）。

金原　じゃあ和田さん、もう『ＰＲＩＤＥ』でレフェリーやんないの？

和田　やらない。やれないよ、もう。

金原　なんだ。じゃあ、『ＰＲＩＤＥ』これから安泰じゃん（笑）。

――ダハハハハ！

和田　そういうこと言うか！　生活かかってるんだから、勘弁してくれよ！　でも、猪木事務所が決まってるから、『ＰＲＩＤＥ』のレフェリー辞めたわけじゃないですから。『ＰＲＩＤＥ』さんには感謝してるんで、なにも言いませんけど。ただ、高田

俺も試合前にグリコーゲンが足りなくならないよう気をつけるよ(笑)。(金原)

さんに言いにいくときが一番辛かったですね。そしたら「10代や20代じゃないんだから、義理人情も大切だけど、家庭大事にしろ」って言ってもらえてね、真面目に涙出てきましたもん。

金原　へ～、和田さんいくつだったっけ？

和田　41。今年42になる。

金原　思いっきり厄年じゃん（笑）。

――ダハハハハ！

金原　42って言えば、大厄で前田さんもリングス畳んだ年だからね。ということは……（笑）。

和田　まだ言うか！　ホント勘弁してくれよ！

――ダハハハハ、ではお話はつきませんけど、アンソニー選手と金原選手は試合が近いということで、それに向けての意気込みを語ってもらって、最後ぐらいは綺麗にしめましょう。まずはアンソニー選手。

ネツラー　はい。高森戦はもちろん自信あります。まず彼を倒して、そのあとメガトンひとりずつ全部やっつけてやります。

金原　おぉ～、すごい！

ネツラー　それから、とにかくタイトルマッチをやらせてほしいんですよ。だから、その前にやらなきゃいけない選手がいるなら、一人ずつ倒していきます。セーム・シュルト、ロン・ウォーターマン、誰でもいいです。

――では、パンクラスは継続参戦を希望すると。

ネツラー　もうできるだけ出たいです。闘えば闘うほど調子上がると思うから。

金原　オレもずっと休んでたから10月は、『武士道』と『PRIDE・28』、どっちも出たいぐらいだよ！

――ミルコばりに、『PRIDE』連戦希望ですか！

金原　もう体調も万全だからね。あとは俺もグリコーゲンが足りなくならないように、気をつけるよ（笑）。

――ダハハハハ！　そっちもミルコばりに（笑）。

金原　でもさぁ、あのミルコが言ってた理由凄いよね。そんなのフルタイム闘ったら、誰でもグリコーゲンなんて減るよ！

――ダハハハハ！　金原さんはまだ対戦相手は決まってないんですよね？

金原　まだだね。いまはホント、とにかく試合がしたいからさ、誰でもいいから早く決まってほしいよ。

和田　ボクもね、金原選手の実力を、知っているだけに、『PRIDE』でホントの力を見せてほしいですよ。これはお世辞抜きで、彼は"ミスター総合格闘技"だから。僕はいま立場的にコメントしづらい部分もありますけど、金原選手、桜庭選手はずっと仲間だから。どんどんどんどん上がっていってほしいですよ。（金原に向かって）頑張ってね。アンソニーも頑張って。

――では、これからの「金原モンスター軍」の活躍を期待して、本日はお開きにさせていただきます。ありがとうございました！

【04年9月7日／二子玉川にて収録】

KANEHARA MONSTER ARMY



金原モンスター軍総統 5ヶ月ぶりに出陣か？

PRIDE·28
2004年10月31日（日）　開始17：00
さいたまスーパーアリーナ

■入場料金
VIP ¥100,000
RRS ¥30,000
S ¥17,000　A ¥7,000

PRIDE武士道　其の伍
2004年10月14日（木）　開始18：30
大阪城ホール

■入場料
VIP ¥50,000
RRS ¥23,000
S ¥13,000　A ¥6,000

■問い合わせ
DSE 03-5464-1531

アンソニー"辰治"ネツラー メインでメガトンと激突！

Sammy Presents PANCRASE 2004 BRAVE TOUR
2004年9月24日（金）　後楽園ホール　18:30

■ 入場料金：SS ¥12,000-　A ¥9,000-　B ¥6,500-　C ¥5,000-　D ¥4,000-　立見 ¥3,500-
※当日券は一律500円増し。

■ お問い合せ:パンクラス　03-5792-0815

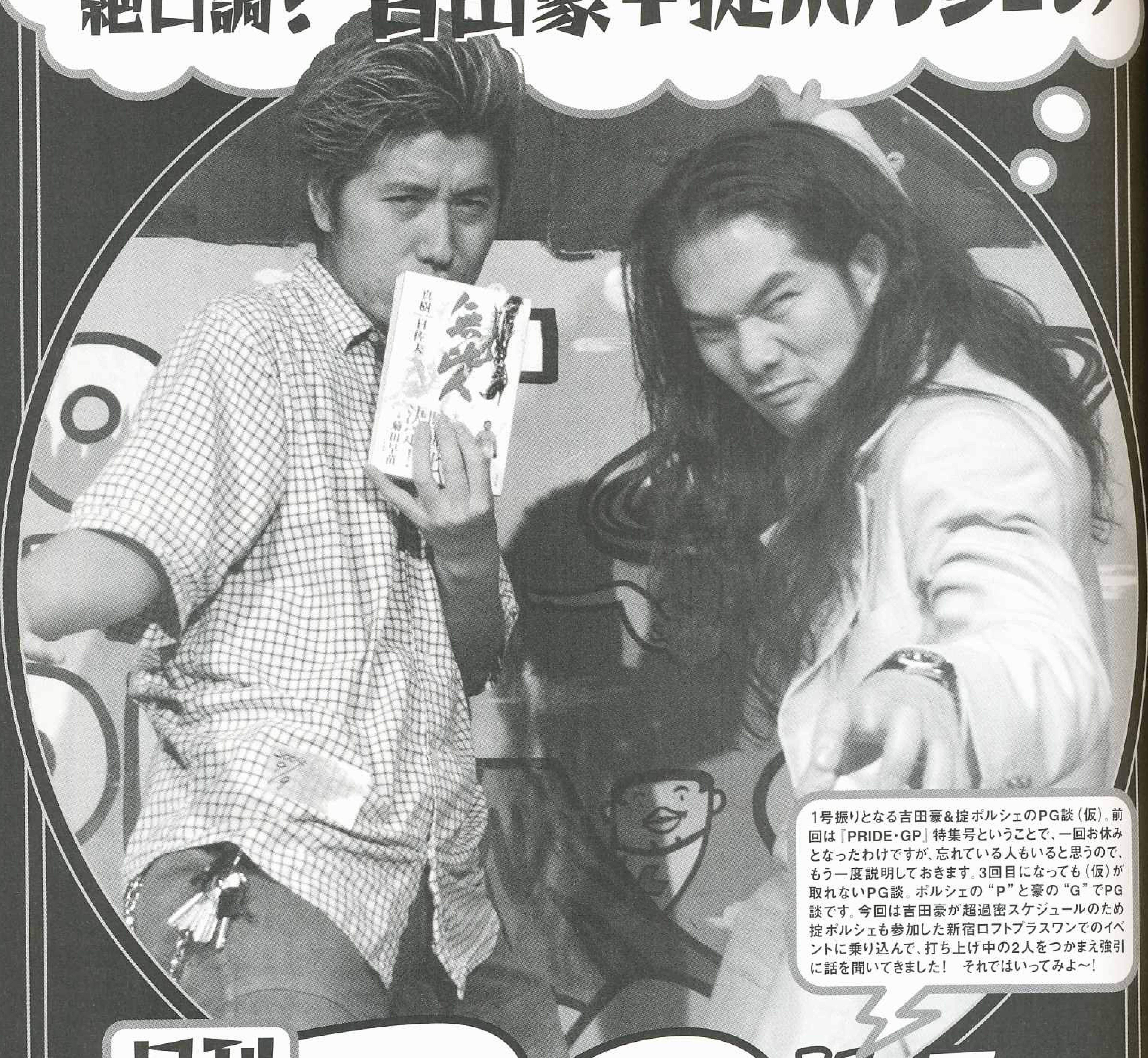
■ メインイベント　スーパーヘビー級戦　5分2ラウンド
高森啓吾（パンクラスMEGATON）　vs　アンソニー"辰治"ネツラー（TEAM Boon！）

■ セミファイナル　ウェルター級戦　5分3ラウンド
ヒース・シムズ（チーム・クエスト）　vs　北岡悟（パンクラスism）

■ライトヘビー級戦　5分3ラウンド
佐々木有生（パンクラスGRABAKA）　vs　エルヴィス・シノシック（マチャドブラジリアン柔術）

■ スーパーヘビー級戦　5分2ラウンド
謙吾（パンクラスism）　vs　アレックス・ロバーツ（KJK/Justiceマネージメント）

今回も絶口調！吉田豪＋掟ポルシェの



1号振りとなる吉田豪&掟ポルシェのPG談（仮）。前回は『PRIDE・GP』特集号ということで、一回お休みとなったわけですが、忘れている人もいると思うので、もう一度説明しておきます。3回目になっても（仮）が取れないPG談。ポルシェの“P”と豪の“G”でPG談です。今回は吉田豪が超過密スケジュールのため掟ポルシェも参加した新宿ロフトプラスワンでのイベントに乗り込んで、打ち上げ中の2人をつかまえ強引に話を聞いてきました！　それではいってみよ～！

月刊PG談（仮） Vol.3

構成＆撮影／松澤チョロ　designed by Tani-Yan (Two three)

小川がヒョードルに負けても、桜金造がワニに勝ったから帳消しですよ！（笑）

掟

―打ち上げ中のところ申し訳ありませんけど、お話を聞かせてください！

豪　何？　もしかして『PG談』？

掟　あ、まだあの連載、終わってなかったんだ！　なんで先月は『PG談』がなかったの？　絶対おかしいよね？

豪　やっぱり『PRIDE』特集だから、俺らは呼ばれなかったってこと？

掟　あー、なるほど、「邪魔者は消せ！」ってことかぁ……。やっぱり『紙プロ』でこの2人の対談連載をやること自体に無理あるんじゃない？　いっそのこと『BUBKA』とかに移籍した方がいい？

豪　そっちの方がいいかもなぁ。マクドナルドとかイベントの打ち上げ会場で対談を収録する暴挙は普通はあり得ないからね。

―いや、全然他意はないですから。『PRIDE』特集号だから、他の連載は全部お休みっていうことだけです。

掟　だけど、『PRIDE』と全然関係のないイーデス・ハンソンのインタビューはなぜかあったわけじゃん！

―それは、だいぶ前にアポが取れてただけですよ。

豪　でも、確かに前号で取材を受けてたら「『PRIDE・GP』は最悪だった！」って話で盛り上がってたと思うよ。

掟　うん、確かにつまんなかった。

豪　俺も『紙プロHand』に「第1試合みたいな余計なカードは組むな」「GP準決勝の組み合わせは絶対に失敗」「決勝戦で流血した後の処理が下手すぎ」「駅周辺の混雑も尋常じゃないから、もう二度とは生観戦したくない」とか当たり前の感想を述べたけど、その程度で「吉田豪が『PRIDE』を大バッシングした」とか言われたのが不思議でしょうがないんだよね。

掟　期待していた日本人格闘家は、ほとんど全敗。決勝のラストが流血によるノーコンテストって、期待度が高かっただけに落胆も大きい。こんな期待と真逆の結果でターザン！みたいに炎上できるのがうらやましいよ（笑）。

豪　でしょ。でもホント、マスコミで批判的なこと言ってる記事って、ほとんどなかったわけ。軽くフォローすると、『PRIDE』の失敗した興行っていうのは、それでもよその興行と比べると面白かったりするわけじゃん。だけど、今回は散々ドラマを引っ張ってきて「さあ、皆さん見てください！」って、最高の選手と膨大な数の客を集めて興行をやった結果としては最悪だったって事実は書かなきゃいけないはずなのに、そういう当たり前の記事がないでしょ。せいぜいプロレス雑誌が「G1の圧勝！」って勝ち誇ってたぐらいで。

掟　実際、いままで『PRIDE』って消化不良な試合とか消化不良な興行って山ほどあったよね。『PRIDE2』とか酷かったもん。菊田とヘンゾの膠着試合とかさ。そんなの山ほど見せられてきたわけだから、あの頃に比べたら興行全体が技術的に見るに耐えうるものになっていて、はるかにマシだったよ。でも今回は実力の測定値が如実に出る場所だったわけじゃない？

豪　しかも、小川効果で初めて会場に来た人がいっぱいいる状況で、あれじゃマズいでしょ。

掟　ねぇ。で、小川は秒殺されちゃうしさ。いままであった小川幻想みたいなのが破れた瞬間を見せられて、強さの象徴としてのプロレスが本当の意味で死んだ日だった。落ち込んだ人は多いと思うよ。まあ、それでも、みんなでハッスル×3でしょ？

豪　かつては、掟さんも解説席で一緒にやってたやつね（笑）。そこで「ハッスルポーズで感動した」っていうのは、あまりにもハードル低すぎだと思うんだよ。マスコミやファンがやるべきことは、そのまま当然のようにハッスルに専念することがないよう、『PRIDE』で闘わざるを得ない流れに追い込むことだと思ったから、俺は「ご起立下さい！」って言われても立たなかったんだけど。

掟　確かに、あれは、みんな暖かすぎだよね。

豪　それでメインがあの結果だから、帰りはダウナーなオーラに包まれた人混みの中に巻き込まれて、タクシーも止められない、駅にも入れないって状態で。良かったのは、行きの電車でほしのあきに会えたってことだけだよ！

掟　その点、こっちは楽しかったねぇ。毎回、『PRIDE』はプロストーカーの堀越（日出夫）さんの家にみんなで集まってPPV観戦してるんだけど、つまらない試合でも堀越の愛犬とも戯れたら楽しいしさ。

豪　会場にいると延々とメールが来るわけ。「こっちは面白いよ」とかさ（笑）。

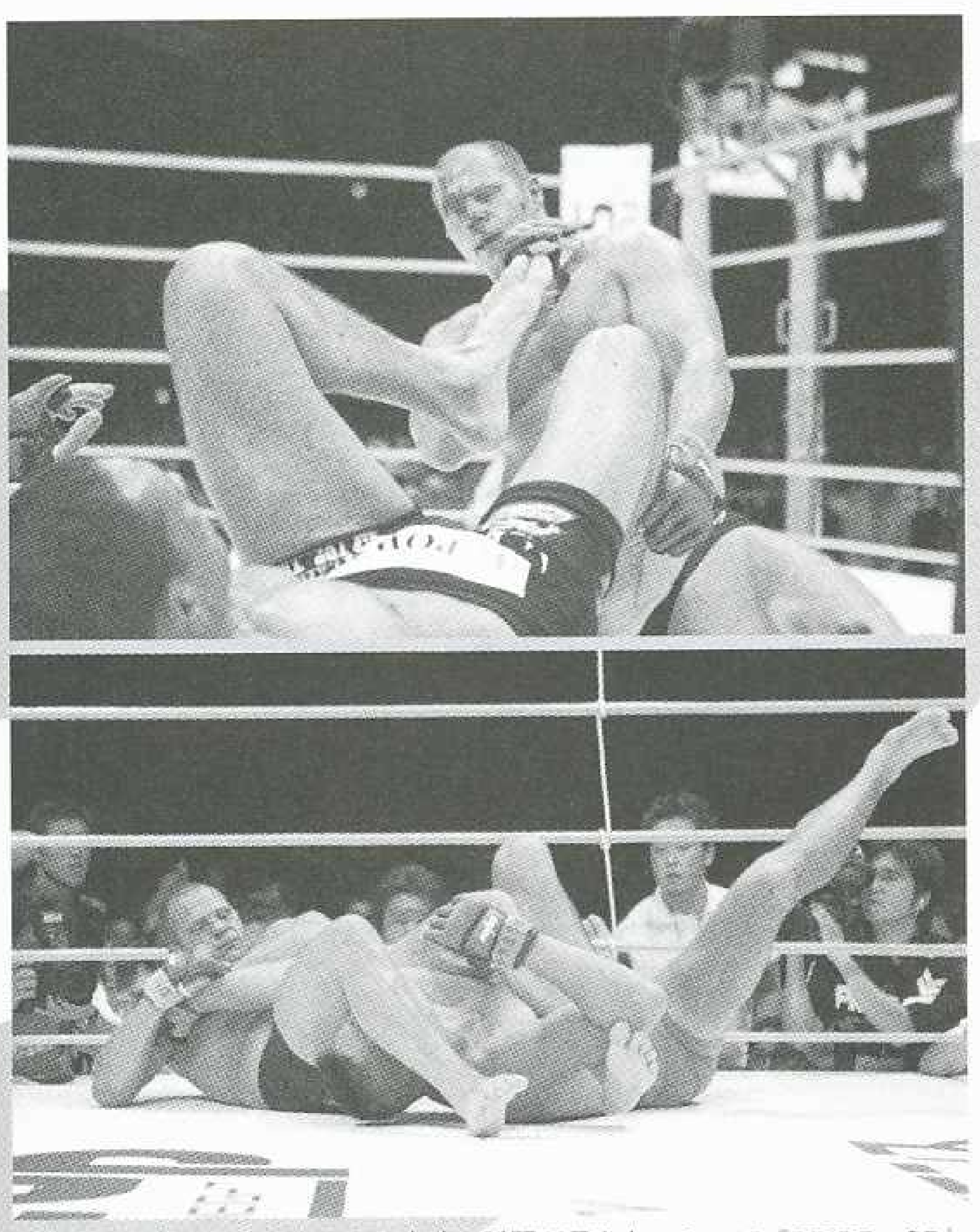
掟　小川がヒョードルに負けても、桜金造がワニと闘って勝ったから帳消しですよ！（笑）。

豪　いいなぁ。知り合いがみんなウチから徒歩5分の所で盛り上がってたかと思うと悔しくてしょうがないよ！

掟　で、今回もPPVを見た後で嫌な気持ちを晴らそうと思って、すぐに『お笑いウルトラクイズ』のビデオ見ちゃって。また、そっちの方がシュートかつハードヒッティングだったりするからね（笑）。でも、ホントに面白かったなぁ、『お笑いウルトラクイズ』！　DSEも興行が気まずい終わり方だったことを見越して、リングサイドに人間大砲とか常に用意しといた方がいいね！　パコージンがトリモチのプールにはまって「聞いてないよ〜！」って言ったら俺はすべてを許す！

豪　それじゃ逆に暴動が起きるよ！（笑）。

掟　そっか。でも豪ちゃんも、こ



1ヶ月以上経った今でも、ある意味、話題が尽きない8・15『PRIDE・GP』。果たしてノゲイラとヒョードルの再戦はいつ行われるのか？　そして、ヒョードルに54秒で敗れ、現在54日間の『ハッスル』出場停止処分を受けている小川の『PRIDE』参戦はあるのか？



こちらが東邦出版より現在絶賛発売中の『無比人』の表紙だ。帯に登場している映画版『無比人』の主演・菊田早苗の写真には「待ち受けるのはSMの甘いワナ……」との言葉が載っかっている。今から公開が待ちきれない！

れからはPPVにした方がいいよ。それなら菊田とヘンゾの膠着試合とか見せられても、すぐにリカバリーできるから。

豪　今度はそうするよ。菊田といえば真樹日佐夫先生の新刊『無比人』の帯、見た？　今度、映画で主演する菊田の全身写真に「待ち受けるのはSMの甘い罠」って文字を乗せてたから、それだけで『PRIDE　GP』より面白かったね（笑）。

――（唐突に）いまちょうどいい感じで話題が変わったので、『PRIDE・GP』から日も経っちゃいましたし、ここ最近はマット界でも大きな話題がないので、今日のイベント（『男の星座（ナミダ）を受け止めろ！』）の話を聞かせてもらいましょう！

豪　チョロはどうだったの、基本的な事情も知らないで聞いてて。

――ボクは途中から来たんですけど、それでも4回は泣きましたね。

豪　今日も、ホントみんな泣いてたね。それも、前半で流した梶原先生の逮捕＆バッシング映像が振りとしてあると、後半の奥さんとの復縁シーンや死亡報道で余計泣けるわけよ。まずは、タイガーマスクの権利料未払いや寛水流って空手流派を作った件で梶原先生に“監禁”された猪木さんのインタビューとかを流したんだけど。

掟　しかし、当時のワイドショーは酷いね。特にフジの須田アナウンサー！　インタビュアーがえげつなすぎて血も涙もない！

豪　梶原先生が有名女優の裸の写真と、ある部分の写真をたくさん撮ってるって元妻の白冰冰が言ったら「やっぱり、ある部分の写真っていうのは下半身ですか？」とかね（笑）。

掟　もうヒドすぎ！　国際電話を使った羞恥プレイだよ！

豪　「その時の衣装はSMですか？　やっぱり嫌がってたんですか？　まさか喜んでるわけないですよねぇ」とか……朝8時台のワイドショーでエロ話をさんざん引っ張って、白冰冰は「でもみんな喜んで撮られてるよ、おかしいよニポンジン」とか（笑）。

掟　「そんなわけはありません！」って勝手にレイプだと断言してね。

豪　梨元勝も酷い酷いって言われてるけど、あの映像を見るとようやく芸能人が怒ってた理由がわかるよね。

掟　いまのレポーターも酷いけど、酷さのレベルが昔はやっぱ違う。

豪　しかも、当時は民法全局がツルんでやってたわけでしょ。そんな中で一番酷かったのが、やっぱりアントニオ猪木なんだけどね（笑）。

掟　インタビュアー顔負けの酷い言葉を連発してたからね。

豪　「監禁される理由はないんですよ。ただ単に強いからお前は気に喰わない、みたいなね」とか「俺は空手の流派なんか作っちゃいないですよ！」とか「ああいうの（梶原）がいつまでも野放しになてもいいのかな、と思ってましたね」とか「（梶原とは）1回もメシ喰ったこともないんでね、まあ立ち話程度で」とか「（梶原には）ちょっとやっぱ精神異常的な部分もあるんじゃないですか」とか「人間はみんな平等だし生きる権利があると言いますけど、生きる価値のない奴もいるかもしれない」とか、凶悪だよね（笑）。

掟　「アイツの周りもドラッグやってるヤツばっかりで」って感じで。あのとき梶原先生が捕まったのは覚醒剤の別件逮捕だったから、そこに便乗したんだろうね（笑）。

豪　そういう部分も含めて、ボクらは猪木さんも好きなんだけどね（笑）。

掟　しかし、昭和は、芸能人やタレント、公人に対してのプライバシーはまったくなしっていうか、ゼロ以下だよね。

豪　三浦和義がいかにマスコミと闘って状況を変えたのか、いまさらながらよくわかったよね。だって、容疑者なのに呼び捨てが基本だし。

掟　あくまでも容疑者だからね。本来は逮捕されてちゃんと容疑が固まらない時点では呼び捨てにしちゃダメなんだから。

豪　「梶原はレイプ魔で」とか、「ということで女優との性行為はどうなんですか？」とか、ホントに視点がゲスだからね。

掟　そりゃ、「こんなもの早送りしろ！」って真樹先生が機嫌悪くなるのもしょうがないよ。

豪　まあ、ある短期連載のために真樹先生にガソリンをくべるっていうのが今回の裏テーマだったから（笑）。

掟　そうだったんだ（笑）。誰に対する怒りなのか近々、某雑誌でわかるわけね。その代わり、機嫌が悪くなった真樹先生が横に座ってたワルさんの膝とかを延々殴ってたという（笑）。たぶん、ワルさん、骨一本ぐらい欠けてると思うよ（笑）。可哀相だから途中で席を代わったんで、俺も何発か喰らったけどね。

豪　俺は篤子さん側の席で良かったよ（笑）。涙ぐむ篤子さんを間近で見れたし、真樹先生からはすれ違いざまに手刀を一発食らっただけだったから（笑）。

掟　やっぱりね、あれは真樹先生のワルさんに対する愛情が深いことの証でもあるからね。空手家以上に空手界の事情に詳しいから、ワルさんはそっちの人間だと思われてるから（笑）。

豪　もともと中村カタブツ君が空手界の人間なだけあって毎回思いっきり喉輪をされたりとかで、ハードコミュニケーションの相手だったんだけど。俺はそっち側の人間じゃなくて良かったなと思ったら、最近は必ず何か頂戴するようになって。

掟　それは関係性がより近くなったってことだよね。愛情表現だよ。

豪　でも、真樹先生は格闘技界の人によくある面倒臭さがないからいいよね。

掟　ああ、自分たちの派閥に入れたがるってことがないわけでしょ。ヤクザっぽいって言われて無闇に怖がられることも多い真樹先生だけど、本当はあれだけ優しい人もいないからね。確かに見た目からして威圧感たっぷりなんだけど（笑）、俺は真樹先生は『すてごろ懺悔』にも登場してくるような、昔気質ないい意味での親分だと思ってるんですよ。俺たちみたいな貧弱なカタギの者にまで目をかけてくれて、それていてまったく押しつけがましいところがない。自分の置かれてる環境の中で筋を通すでしょ。

真樹先生は格闘技界の人によくある面倒臭さがないからいいよね

豪



9・9、新宿『ロフトプラスワン』で行われた、この日のイベント。一時間に一度は涙腺が刺激されまくるエピソードの乱れ打ちで、なぜかメガネ率が多かった会場ではメガネを上げ目頭を抑える人が続出

豪　任侠道だよね。

掟　真樹先生のことを誤解してる人は、いっぱいいるだろうけど、ホントに昔ながらの任侠を貫いてる人だと思いますよ。ほら、ちょっと嫌な暴力で訴えてくる人、こういう業界じゃなくてもいっぱいいるじゃない？　そういう意味では抜き手や手刀を何発食らっても、それが暴力だったことは一度もないよ。

豪　真樹先生はハードコミュニケーションなだけで（笑）。

掟　コミュニケーションがハードってったって、入院するほどブン殴られるわけじゃないしさ。篤子さんが浮気や暴力に耐えかねて一度逃げ出した時、梶原先生に足腰立たなくなるぐらい殴られて、以降、2年間椅子に座れなかったって話をしてたけど、こちらはせいぜい思いっきり手加減された抜き手が胸骨に入って翌々日くらいまで痛いとかその程度でしょ（笑）。

豪　でも、そういうことも全部許しきれる篤子さんの肝の座り方ってホント素晴らしいし、会う度に惚れるよね。

掟　泣かされるし、惚れさせせられるし。大忙しだよ、俺たち！

豪　毎回、打ち上げの度に「俺ら、やっぱり篤子さんみたいにはなれないよね」って話になるからね。今回も別れ際、「篤子さん、タクシー代です」って渡したギャラを「はい、ありがとう」って言いながら俺の懐に入れてさ。

掟　「あなたたちもわかってるでしょ？　私は受け取れないんですよ」っていうね。それこそ故人の遺志を尊重してね。

豪　去年イベントに篤子さんに出てもらった時は、ギャラ貰って帰ったら梶原先生に仏壇で説教されたって言って、後から送り返してきたからね。

掟　『「チヤホヤしてもらった上に、お金までもらっていい気になってるんじゃない。このお金は皆さんでお酒でも飲んで楽しんでもらいなさい」って言われましたので』ってことだったんだよね。

豪　なんで死んでんのに怒られてんだっていう話なんだけど（笑）。

掟　そう言われちゃったら、こっちはもう何も言えないからね。

豪　ただ、最終的には感動で終わったけど前半の映像が映像なんで、さすがに緊張感が漂ってたよね。

掟　しかもロフト側の手違いで、真樹先生の入り時間が遅くなっちゃったからね。

豪　そうそう。前半部分を真樹先生と見て、後半の復縁部分を篤子さんと見たらちょうどいいのに、真樹先生が8時半に来るっていうんで、さすがに篤子さんに電話したんだよ。「愛人問題がどうとか女優のヌード写真がどうとか、そういう話題が出てくる映像を最初に流すから、篤子さんはそのとき壇上から席を外した方がいいですか？」って聞いたら、「私が見てまずい映像などありませんから。なんでも流してください」だって。

掟　篤子さんは梶原先生のことをすべて許し切ってるってことだよね。

豪　そして後半では退院後の激瘦せした梶原先生のインタビューが続くわけだけど、奥さんのことを聞かれて満面の笑みを浮かべる梶原先生が最高なんだよね。それまで対世間だけじゃなくて、家庭の中でも梶原一騎像に忠実であろうとしてきたのが、病気を経て意地を張らなくなった感じが。

掟　「いまは女房に頭上がんないね」なんて、あんなこと絶対言える人じゃなかったからね。親兄弟っていうか、家族に対して優しい顔見せるなんていうのは恥だと思ってた人でしょ。

豪　だって娘がおまるの練習してて、失敗したっていうだけで……。

掟　ラーメン被せたのよ、頭から！

豪　そのまま縛りつけて放置した

毎日、篤子さんには、惚れさせせられるし、泣かされるし、大忙しだよ！

掟



こちらがイベント終了後の記念撮影。左からワル、ＰＧのＧの方・吉田豪、この日の主役・高森篤子さん、そしてもう1人の主役＆『ＰＧ談』への登場回数が多い真樹日佐夫先生。最後はＰＧのＰの方・掟ポルシェ

そこらのプロレスの興行以上に面白いことを俺らは安値でやってるから

豪

んだよ！　そのせいで娘が風邪ひいて泣き出して、これはヤバいってわかると、娘を背負って病院に運んで。それを見た篤子さんが「ホントに主人の背中は尊い」って（笑）。

掟　被せない方がっていう選択肢はないわけね（笑）。だからそういう、ホントに家族の在り方みたいなものを根底から見せてくれる人って、なかなかいないと思うんで。

豪　俺が自宅でイベント用のビデオをダビングしてたとき掟さんが家に来たんだけど、和解に差し掛かった頃の映像をちょっと見ただけで涙ぐんでたからね（笑）。

掟　だって、今の時代、男の人がここまで強がるところってなかなか見れないじゃない？　しかも身内にだよ。家族さえ弱い見せない男の強がりを見せられたら、俺は何をしているんだろうということも含めて泣けてしょうがなくてね。

豪　で、その強がりを理解できる夫人っていうのもいないだろうしね。

掟　そういう関係性が凄く美しいなと思って。

豪　プロレスラー以上に〝梶原一騎〟っていうのを演じ続けてて、それに一度は耐え切れなくて逃げた奥さんが、やがて梶原先生の事件や病気を経た頃にすべてを理解して戻って来る。そして復縁したら、間もなく梶原先生が死んでいくという。

掟　そこの人間ドラマがホントに完成度高すぎなんだよね。

豪　で、そんな晩年の梶原先生を見て「丸くなったアニキは好きじゃない」って言ってる真樹先生も最高なんだけどね（笑）。

掟　子供が生まれる日に、一緒に飲んでたら時計ばかり見るのが許せなくて、外へ出るなり大外刈りでドブに叩き込むし（笑）。

豪　でも、篤子さんのあのカッコ良さってなんなんだろうね？

掟　やっぱり「かしずく」ということに全身全霊を懸けてるってことじゃないかな。梶原一騎という男性のステイタスとその才能になら命を捨てられるという覚悟を、先生の死後もいまだに持ち続けている揺らぎのなさとか。

豪　途中で逃げたけれども、その残りの足りなかった部分を自分で学んで戻って来るんだからね。

掟　梶原先生の十三回忌の時も「梶原の素晴らしさを忘れないでいて欲しい」ってことで篤子さんは1億かけてパーティーやったんだけど、それもサラッと言うからね。

豪　1億だからね。サラッと言うけど大変なことだよ。そのために家とか抵当に入れてんだよ。

掟　石ノ森章太郎先生の法要が相当盛大だったという話を聞いて、「石ノ森先生も素晴らしい方だが、梶原の才能がそれに負けているわけがない！」と。それで1億！

豪　十三回忌の頃って俺が『マンガ地獄変』とか出した頃だけども、まだ梶原先生の復刻とかそんな動いてない頃で、『ジョー＆飛雄馬』も何もない頃で、お金の入る当てもない時に1億かけて自宅を抵当に入れて、「払えなかったら私が死ねばいいや」って。

掟　凄い話だよね。だって十三回忌の法要で「死ねばいいや」だからね。現実に生きてる旦那の借金を返すとかじゃないんだよ。死んだ旦那のステイタスを守るために普通死ねないよ。

ワル　しかもあの赤プリの鳳凰だか孔雀だかって、だいたい100 0人なんですよ。で、1万円で1 000人だから結局1000万しか入んないのよ。

豪　十三回忌のパーティーは俺も行ったけど、たしか会費2万だったかな？

掟　でも全然足りないよね。引き出物とかもあるからね。あと、そのパーティーでの篤子さんの挨拶も素敵なんだけど、最後に「皆さん、お酒は控えめに」と言いながら、引き出物は必ずお酒なんだよね（笑）。

豪　梶原先生のああいうイベントは毎回引き出物がお酒だからね。それは一貫してるから。日本酒だったりワインだったりするけど。

掟　まあ、酒よりキツいものやるよりは、酒の方がいいよ（笑）。そういう意味でも梶原先生は信用できるんだよね。ドラッグ関係も「やったことある」って素直に言ってるから。

豪　「海外で」って話だけどね（笑）。

掟　勝新太郎さんも「若いヤツに言っておきたい。大麻っていうのは結構メシが進んで意外といいもんだけど、でも悪いこと言わない、白い粉の類は絶対やらないように。あれは百害あって一利なしだ」って言ってたけど、なぜか俺たちの好きないい男はみんな意見が一致してて。

豪　真樹先生も「いろいろやったけどさ、そんな面白えもんじゃねえな。やっぱり酒と女だ」って（笑）。

掟　やっぱり、人間がアッパーな人って逆にいらないんだと思うよ。

豪　でも、篤子さんと真樹先生が仲良くなってホント良かったよね。

掟　それホント、豪ちゃん凄いよ。以前はホント、アンタッチャブルな関係だったわけだからね。

豪　それまでは同席もさせられなかったみたいだから、こうして2年連続で一緒にイベントできただけでもホント良かったと思う。

掟　今日のイベントで、もらい泣きしない方がおかしいよ！　……じゃあ一応、プロレスの話とかする？　見てないけど。

豪　えっ、見てないの？

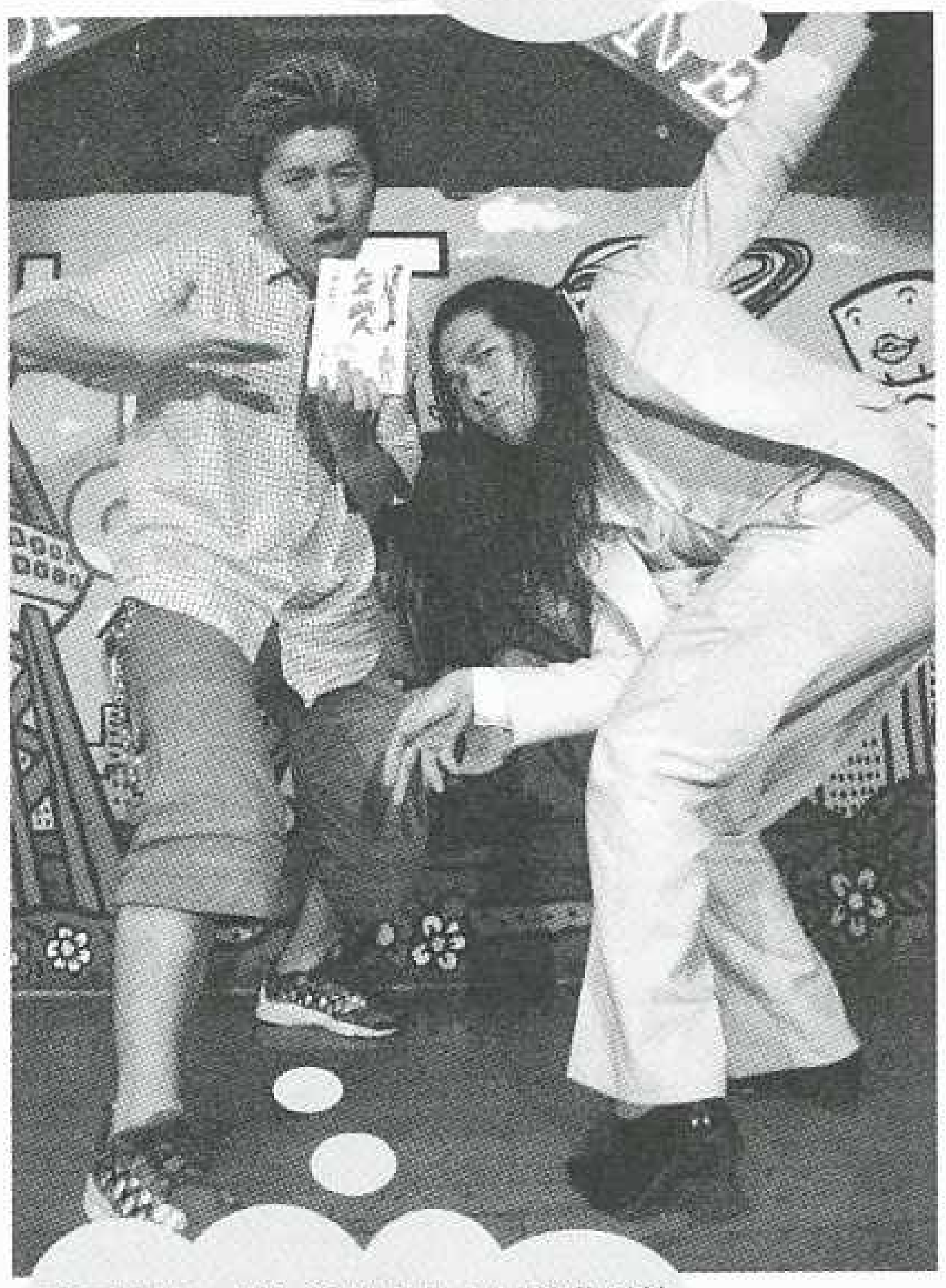
掟　全然見てないよ。豪ちゃんは見てるの？

豪　いや、ほとんど見てない。

掟　ハハハハ、見てないんじゃん（笑）。

豪　というか、そこらのプロレスの興行以上に面白いことを、俺らはトークショーという形で安値でやってるんだから。

【9月9日／新宿『ロフト・プラスワン』にて収録】





ZST本戦初勝利記念!

各自調査!

元『紙プロ』投稿者がコンバットレスリング王者に!!

村田卓実とは何者か!?

9・12ZSTの第2試合に出場し、見事勝利を収めた村田卓実。この名前を聞いてピンと来た人は、かなりの『紙プロ』通（もしくは格闘技通）。村田クンは今から約5年ほど前の『紙プロ』の読者投稿ページで大活躍した男なのだ。独特の文体、そして「各自調査」という流行語（？）を生み出した村田クンに、近況から今後の展望まで話を聞いた。

構成／松澤チョロ　試合撮影／乾晋也



ライセンスナンバー15

「プロレスと生きる」

村田卓実（18歳）

約3年前まで『紙プロ』を買い、『週プロ』も買い、全日をビデオに撮ってた。会場には一度だけ全日に行った。

今は『紙プロ』と『トゥナイト』だけだ。5巻まであった全日本プロレス中継も全部消した。

何故なのか考えたい。

『週プロ』は始めは全日の為に買っていたがFMWとW★INGを見て、ただのデスマッチ好きになりました。

『週プロ』の月間スケジュールを見てデスマッチ団体の興行に合わせて『週プロ』を買うということ（全日はいつも載ってる）を中学生らしくやっていました。

そしてアルティメットが始まり、大仁田は辞め、金村は焼豚みたいになってW★INGは消えた。IWAは荒谷のサクセスストーリーになるかと思ったら辞めちゃったんで見んのやめた。

立ち読み期スタート。

そんな時『週プロ』白黒ページの団体情報に「新格闘プロレスの茂田信哉、シュートの日系人（エンセン井上）に馬乗りパンチでボコボコ」というような話が載っていて『格通』（カラーページ）とTVでそれを見たら、エンセン側はちょっと感動的な感じで報道していて、それを見て初めて「プロレスラーは最強」てのはウソだと思った。

それから、「リングの汁」と『格通』の立ち読みでシュートとは何かを知り、仮面シューター・スーパーライダーが元シュート（ウェルター級）王者だということを知った。

そして『紙プロ』を買い、他は立ち読みで今にいたるが、最近、小路晃＝誠軍団1号、木村浩一郎＝スーパー宇宙パワーということを『紙プロ』で知った。それは浅すぎる私にとって大きなショックだった。

『週プロ』で新日、全日のレスラーが言う「リングに上がってほしくない奴」だったはずの彼らがプロレスラーが「勝てない」奴らと戦っていたのだ。

「プロレス」は消えると思った。

世間では昔の子供の前にプロレスがあったように、今の子供の前にはK－1がある。

大人の為に夜中に放送するプロレスには大人しか集まらない。〃今のままだとイノキとババが歴史に残るだけだ。

プロレスよりも残酷なもの、暴力的なものがそこにある今（格闘技か否かに関わらず）プロレスは終わってゆくのか、変わっていくかを死ぬまで見たいと思った。

98年10月のバーリ・トゥードを、昔全日に一緒に行った友達に誘われました。

それは私の新しい「プロレス人生」の始まりでしょうか？

約5年前に発売された『紙プロNO16』の読者投稿ページで『紙プロ』デビューを飾った村田クン。当時18歳の村田クンは「プロレスと生きる」という名作を発表！

──お久しぶりです！

村田　あ、どうも。

──元『紙プロ』投稿者の村田クンがアマチュア大会で活躍してたのは知ってたんですけど、ZSTとか本戦に出場するようになったので、専門誌に取材される前に『紙プロ』でインタビューしておこうと思って。

村田　ありがとうございます。

──村田クンのことは、新しい読者とかは知らない人も多いと思うんですけど、4～5年前の読者投稿ページでかなりブレイクしたんですよね。

村田　あ、そうなんですか？

──〝各自調査〟なんて村田クンが流行らせたようなもんですから。ウチの編集長なんかも使ったりしてますからね。

村田　そ、それ違う。それは花くまさんじゃないですか？（笑）。自分、誰かの見て使ったような気がしますよ（笑）。

──パクリでしたか。でも、一番最初の「プロレスと生きる」っていう投稿はモノ凄いインパクトがありましたよ。

村田　そうなんですか？（笑）。

──プロレスへの興味が消えかかってきた時に総合に誘われて「これは新しいプロレス人生のはじまりでしょうか？」っていう意味深な終わり方だったんですけど、その後は見事にプロレスから離れて格闘技へハマッちゃったんですよね？

村田　そうですねぇ。投稿してた頃は修斗とか、ちょっと見始めたぐらいだったんですけど。

──高校時代は柔道をやってて、その後は小路さんに憧れてA－3へ入ったんですよね。

村田　単純にその頃、小路さんとイズマイウとの試合が凄い試合したじゃないですか？　あれ見て凄い人がいるんだなって。

──入ってからは、どのぐらいのペースで通ってるんですか？

村田　入ったばっかの時は週5ぐらいは行ってたんですけど。

──週5！　で、たしか今はは大学生なんですよね？

村田　駒沢大学に行ってます。今年卒業なんですけど、もう大学入って2～3日ぐらいで、なんか凄い嫌になって（苦笑）。

──早かったですねぇ（笑）。

村田　家族が卒業した方がいいって言うし、学費とかは全部家族に世話になってるんで。

──卒業ぐらいはしとかなきゃって感じなんですか？

村田　もう最終的に、それだけなんですけど、目的は。別に学校でなんかしたっていう記憶とかはないんで（笑）。

──そうなんですか（笑）。村田クンは肩書きっていうと何になるんですか？　やっぱりプロ格闘家なんですかね？

村田　プロ格闘家っていうほど、お金は貰ってないんで（笑）。なんだろう？『紙プロ』読者じゃないですかね（笑）。

──そんな肩書きないですよ（笑）。今はプロレスは、ほとんど興味がないって感じですか？

村田　いや、前号かなんかの『紙プロ』で『ハッスル』を見て、ちょっと面白そうだって（笑）。川田とか四天王の頃の全日は見てたんで。

──ブルース・リーばりにハッスルKをやってますからね。

村田　それは見たいなって。

──逆に格闘技系は、どの辺を見てるんですか？

村田　K－1はMAXだけ見てますね。『PRIDE』もなんか、凄い自分のいるところと全然違うっていうか（笑）。

──将来的に『PRIDE』のリングに上がりたいとかは？

村田　もう全然違う世界の話ですよ。違う国っていうか。現実感がない感じなんで（苦笑）。

──単純に好きで見ていた側から、実際やってみてから、考え方とか変わりました？

村田　やっぱり、実際やってみると、地味なとこで痛かったり辛かったりするんで（笑）。ホントいろいろと大変ですよ。

──今後の格闘技界での目標を聞かせて下さい！

村田　そうですねぇ、アブダビに出れたらいいなって思ってるんですけど……。でも同じ慧舟會の戸井田（カツヤ）さんとか、平田（勝裕）君とか、逆立ちしてもかなわないんで（苦笑）。

──日本代表になるのも大変ですよね（笑）。

村田　そうなんですけど、目標として目指して頑張ろうかなと。現実的なような気がするのは、ZSTで大石（真丈）選手と闘うとか。大石選手の試合は修斗の時から見て、凄い強くて面白いなぁって思ったんで。大石選手は今はZSTに出てるから、自分が順調に行けば、やれないこともないかなぁって。

──ちなみに趣味は何ですか？

村田　映画が昔から好きですね。『IZO』って見ました？　吉田さんと掟さんのPG談でも触れられてましたけど、あれ凄い面白いですよ。

──今度見てみます。

村田　ボクは三池崇史監督が凄い好きなんですよ。で、魔裟斗が凄いうらやましいんですよ。

──魔裟斗さんは『IZO』とかにも出てるんですよね。

村田　あと『デッド・オア・アライブ2』に出てて。ホントうらやましいんですよねぇ。

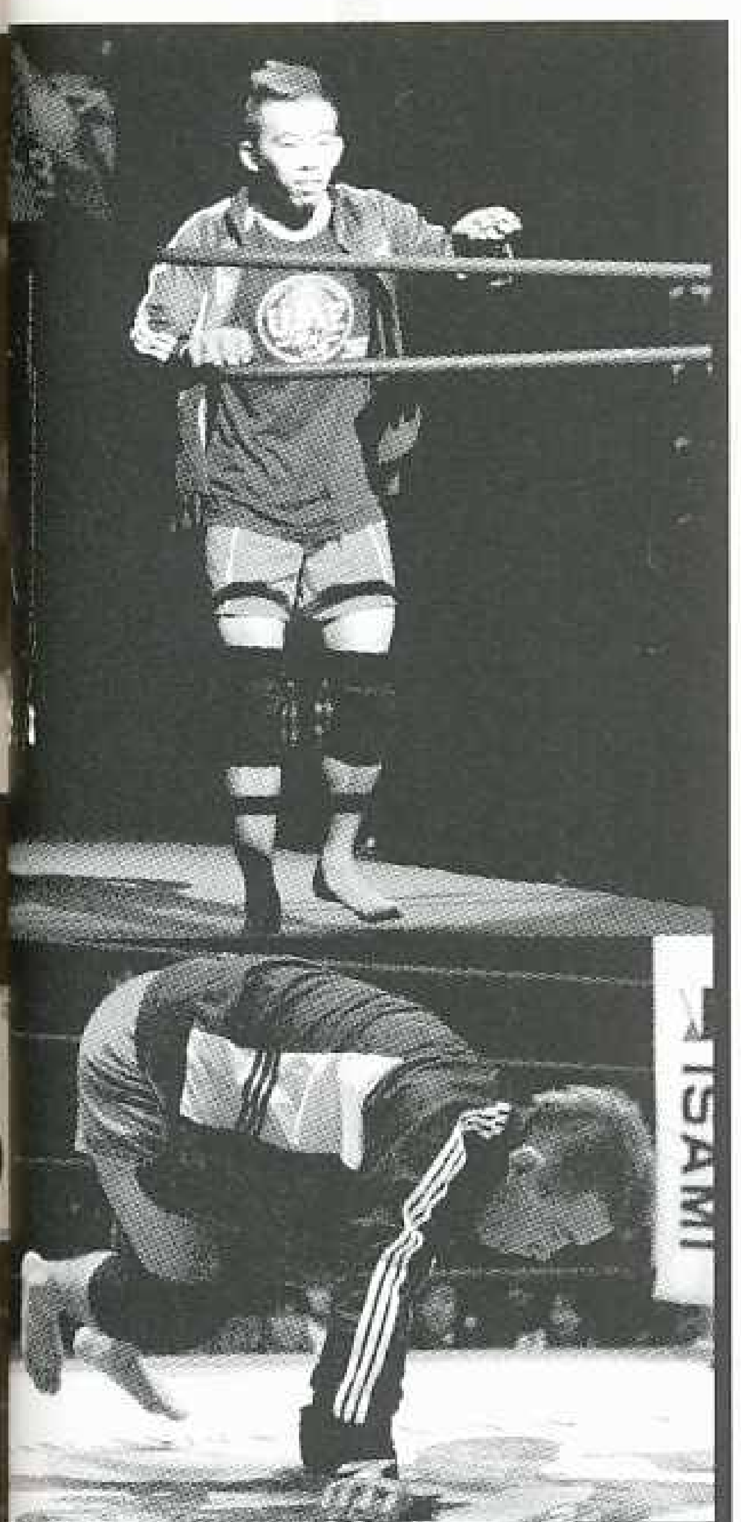
──格闘家として結果を残していけば、そういう話が舞い込んでくるかもしれないですよ。

村田　そうですよぇ。三池監督と接点持ってるのが凄いなと。そういうのは格闘技にとって夢を持てる部分ですよね。

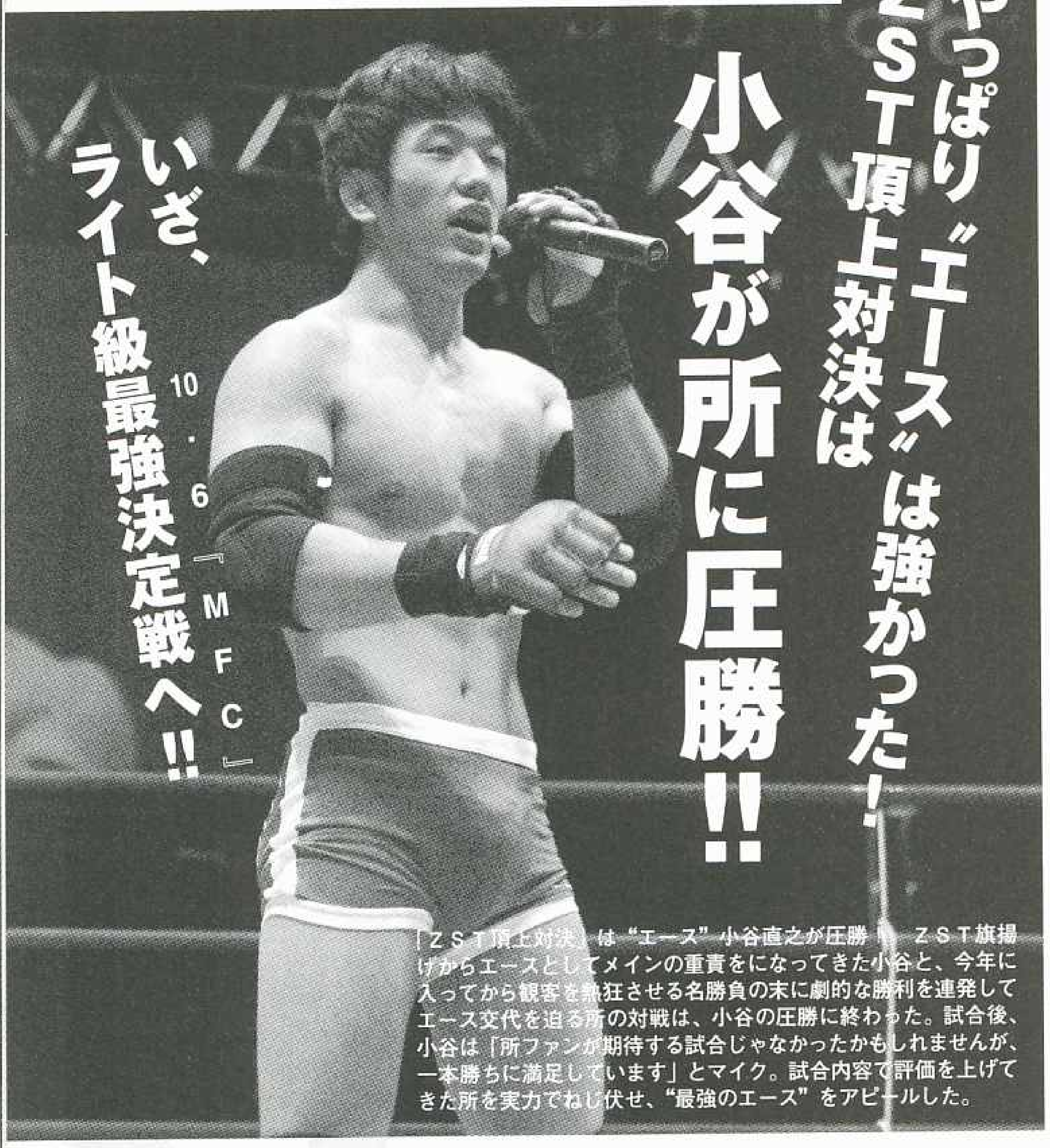
──映画以外に趣味って何かありますか？

村田　本読むとかですかね。さっきも言いましたけど、雑誌が好きなんで、吉田豪さんと、『映画秘宝』にも書いてる町山さんが凄い好きなんで。でも、最近『紙プロHand』が一番面白い気がするんですよ。

──あ、そうですか。吉田豪コラムが多忙につき月2回になるみたいですけどね。



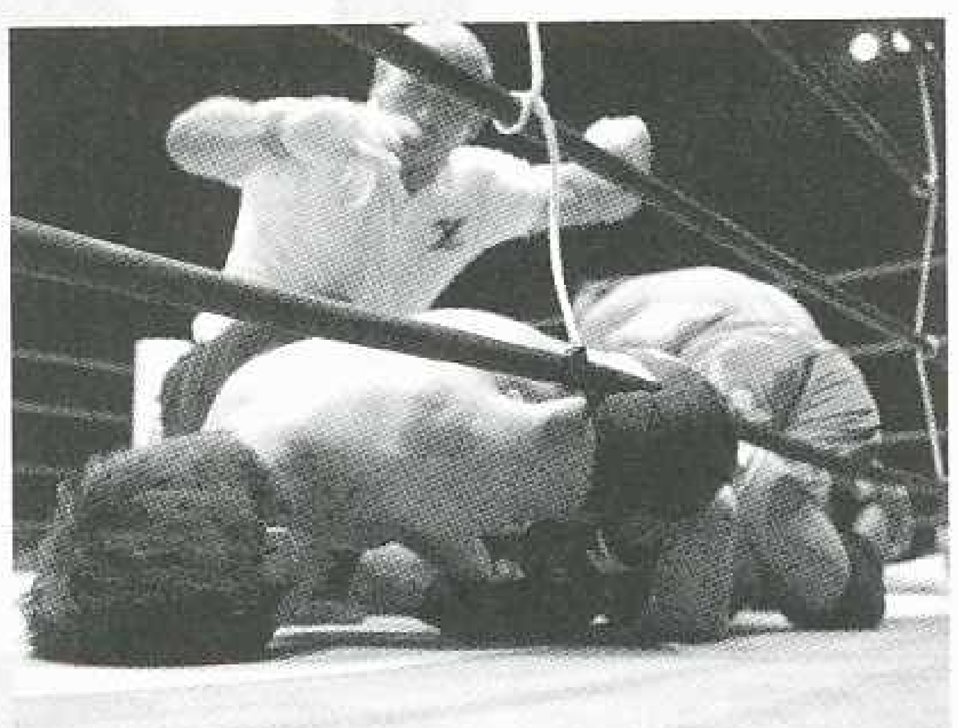
ZST6 Zepp Tokyo 09.12



やっぱり“エース”は強かった！ ＺＳＴ頂上対決は小谷が所に圧勝!!

いざ、10・6『ＭＦＣ』ライト級最強決定戦へ!!

「ＺＳＴ頂上対決」は“エース”小谷直之が圧勝！ ＺＳＴ旗揚げからエースとしてメインの重責をになってきた小谷と、今年に入ってから観客を熱狂させる名勝負の末に劇的な勝利を連発してエース交代を迫る所の対戦は、小谷の圧勝に終わった。試合後、小谷は「所ファンが期待する試合じゃなかったかもしれませんが、一本勝ちに満足しています」とマイク。試合内容で評価を上げてきた所を実力でねじ伏せ、“最強のエース”をアピールした。



わずか１分44秒、ヒールホールドで一本勝ち。誰もがその実力は認めながらも、堅実に勝利のみを求める闘いぶりから、人気の面でいつのまにか所に後塵を拝していた小谷。しかし、直接対決での完勝で自らの正当性を無言で照明した形だ。この“強いエース”は10・16米ＭＦＣ大会に“日本代表”として堂々と乗り込む。



勝利が男を変えたのか、コールを受ける姿にも自身がみなぎっていた所。かつての“ＺＳＴ四兄弟”の“パシリ”風なイメージはもうどこにもない。次は年末のＺＳＴ・ＧＰに期待！



ＴＫの弟子、宮川博孝がＺＳＴ本戦デビュー。リトアニアで今一番の有望株というアンジェ・クジェネフスキーをタックルからしつこく絡みつくヒールホールドで快勝！



元修斗世界フェザー級王者・大石真丈とジェフ・カランのいぶし銀の実力者同士の一戦は、フロントからのギロチンチョークでジェフの秒殺勝ち！　ＺＳＴ・ＧＰに弾みをつけた。



元ＭＡキックのランカーであり、Ｕ－ＦＩＬＥの打撃コーチである磯崎則理がリトアニア最凶の打撃をもつダリウスと対戦。強烈なカウンターのフックでＫＯ負けを喫してしまった。



“リトアニアの負けず嫌い王”として、試合内容ではなく、その諦めの悪さで妙な人気が出たスミルノヴァス兄が“こんにゃくレスラー”佐東と対戦。見事に両者決めてがないドローを演じた。

村田　ホントですか？　それはちょっと困りますねぇ。『紙プロＨａｎｄ』は企画がいいですね。格闘家のコラムと、井上編集長と、あとターザンの絵葉書。あれはちょっと見づらいんですけど（笑）、吉田豪さんのコラムもあるし、『紙プロＨａｎｄ』が一番面白いですね。

——『紙プロ』はどうですか？

村田　今月号は、あんま面白いのなかったな（笑）。かなり前だけど、今成さんのインタビューは凄く面白かったです。

——毒舌全開で大好評でしたからね。で、就職活動もしてないってことですけど、卒業したら、どうするつもりなんですか？

村田　たぶん、就職したら練習ができないじゃないですか？

——まあ、環境にもよるんでしょうけど。

村田　いや、入って何ヶ月かは練習できないじゃないですか？　それだったら面倒臭いなって思ってて（苦笑）。

——でもバイトとかは何かしてるんじゃないですか？

村田　あ、してますよ。キャバクラのホールやってます。

——キャバクラのホール（笑）。練習時間とか被りません？

村田　いや、練習すると寝れなくなるんですよ。で、朝まで起きてて学校行く前に寝ちゃうっていう（笑）。最近は卒業のため学校に行くようにしてるんですけど、まあ図書館とかだったら寝れるんで。だから練習して働いて、学校で寝てますね。

——じゃあ、どっちかというと格闘技を中心に生活してるって感じなんですね。

村田　４月からそのまま行ってるんですよ。キャバクラで働いて寝ないで学校に行って。で、そのまま練習して、練習終わったらもう10時、11時だから、そのまま仕事に行くって感じで。

——凄い生活してますね（笑）。

村田　格闘技優先っていうよりも、仕事もずっと出てるから、家に三日とか帰んなかったりして（笑）。格闘技優先のつもりだったんですけどね。よくわかんなくなってきて。忙しいわけじゃないですけど、ずっと外うろうろして何やってんだろうって（笑）。ボクは、これから、どうすればいいですかねぇ？

——読者に相談してみましょうか（笑）。「村田クンは今後どうすればいいか？」ってテーマで。どなたか、適切なアドバイスを読者ページ宛にお願いします！

村田　お、お願いします。まあ、そこそこ金があれば生きていけるけど、どうやってこれから生きていこうかと思って。ホントに卒業したら真剣に考えなきゃいけないじゃないですか？　格闘技が金になんないから他のことをやるのか？　金になるように格闘技をやるのか？　ホント、最近考えてしまうんですよ。

——まあでも、実家住まいだから食べてはいけますよね？

村田　そうですね。ウチの実家が花屋と文房具屋なんですよ。一緒の店舗で、店の真ん中で別れてるんですけど。

——花屋と文房具屋っていう組み合わせって凄いですね（笑）。あと継がなくていいんですか？

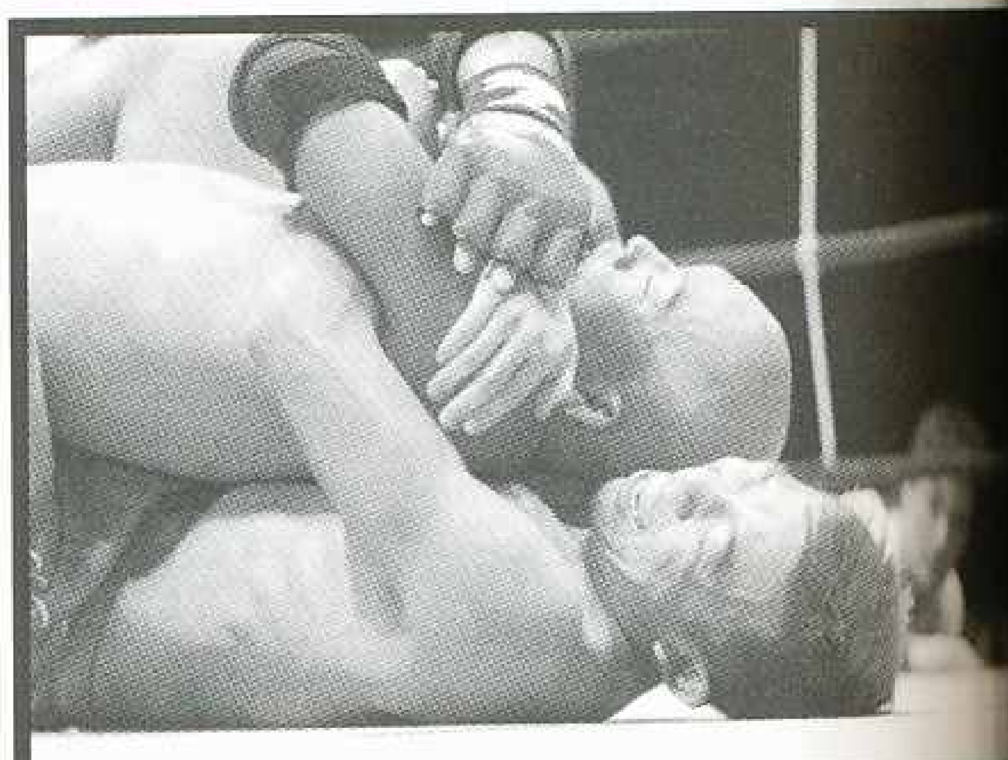
村田　いや、親戚みんなでやってる感じなんで。まあ、最終的には経営に携われるようになると思うんですけど。

——では、今後の活躍を期待してますんで頑張って下さい！

村田　はい。頑張ります。

——あと、たまには投稿もしてきて下さいね。

村田　あ、わかりました。





軽快なステップを踏みながら入場してきた村田クン。着ているのは『紙プロ』Tシャツ。エライ！　リングに登場するや村田クンは、ぎこちないブレイクダンスを披露。ここ最近ZSTで結果を出せていない内山貴博と対戦した村田クンだったが、1R&2Rは膠着気味の展開に。しかし、最終R、グローブを外し素手で登場した村田クンは得意技のチョークで見事一本勝ち！　さすが、コンバットレスリング現役王者!!

ささきぃの"STAND BY ME"（仮）

極私的立ち技格闘技連載

第1回

『S-CUPとは何か？』

今回からささきぃが強引にスタートさせてしまう、これまで『紙プロ』ではあまり扱ってこなかった立ち技格闘技の面白さを読者とともに学んでいく連載ページ。連載第一回目は、発売日翌日に大会を控えたシュートボクシング（以下SB）の祭典『S-CUP』について教えてもらってきました！　各団体の皆さん、何も分かってない担当が行きますけど怒らないでいただけると嬉しいです。ではでは、闘う広報森谷さん、どうぞよろしくお願いします！

教えてくれた人



森谷吉博さん

シュートボクシングの"闘う広報"

SBスーパーバンダム級王者でありながら、広報を務める森谷さん。7・19の仙台大会では地元メインで見事勝利。その闘いを見た母親・加代子さんからは、なぜかリング上で平手打ちを受ける羽目になる。ラーメンにはうるさい32歳

——今日は『S-CUP』についてじっくりお話をお伺いしたいと思ってます。9・19のカードが発表されましたけど、格闘技に相当詳しい人じゃないとそのすごさがわかりにくいかと思うんですよ。

森谷　そうですねぇ。

——で、前回の『S-CUP』というのは02年の7月7日に開催されてるんですが、その当時の私は何の迷いもなくZERO-ONEの両国大会へ行っておりまして……。

森谷　何の迷いもなく（笑）。「『S-CUP』なんか知らねぇよ」みたいな感じですか？

——いや「アレだよね、ヴォルグ・ハンの弟子が来るんだよね？」みたいな（笑）。

森谷　アハハハハ！　…でもまぁ、そんなもんでしょう（苦笑）。

——なのでと言っては申し訳ないんですが、まずはちょっと「『S-CUP』とは何か？」というところから教えていただきたいんですが。

森谷　なるほど。…『S-CUP』っていうのは、まぁシーザー会長が、ウチに吉鷹弘というエースがいた時に、ヨーロッパ、タイ、アメリカっていう世界の強豪と実際にやらしてみたい、当ててみたらどうなるんだろうって考えて実施されたのが当時の『S-CUP』でしたね。強いといわれる選手たちを一同に集めて、SBというルールの中で最強を「決めようや！」というのが、スタートです。

——「決めようや」と。同じ70kg級のトーナメントとして、後から出来た『K-1MAX』のカードが先日発表されましたよね。地上波の影響も大きいですけど、あまり詳しくない人が一見すると「MAXのほうが豪華じゃないか」って感じちゃうんじゃないかなぁっと思うんですよ。

森谷　うーん……。それはもう、昔うちの会長が悪いことをしている時に……（笑）。

——ここで言う「会長」というのは、前田日明さんが初対面で会ったとき「エッ？　村田さんって、あの箕面学園の村田さんですか？」と、本名を聞いて本気でビビったというシーザー武志会長のことですね。

森谷　会長が悪さの限りをつくした高校当時の話を聞いて、前田さんが「村田さんって、3人くらい人を殺したって僕は聞いていますけど」っておっしゃって。

——高校生なのに（笑）。

森谷　それで会長が「アホかぁ！」って（笑）。まぁ、そんな会長が自分の知らないところで、殴った後に様態が急変したような人たちがいたんでしょうね。

——それが今になって。

森谷　だって、スゴイ選手をいっぱい生み出してて、強い選手もいっぱい呼んでてねぇ……。なのに民放がついてるのは他の団体だったりとかしてねぇ。だから多分それは会長への怨念が。

——会長の通った後に生まれた、数々の屍たちからの呪いが（笑）。じゃあその呪いが、大事な場面でアンディ・サワーをカットさせたりしてるわけですか（笑）。

森谷　そうそう（笑）。SBっていうのは、流れがすごいいいなぁって言うときに、乗ってやったことがうまく成功したことがほとんどないんですよ。

——あららら（笑）。

森谷　会長自身は、ここ一番にすごく強いんですけど、教え子にそのむくいが来てるんですよ（笑）。こんなこと言ったら怒られますけど。ホント、SBの歴史を見てると負けるはずのないところで負けたり、ビックリするところで勝ったりしてるんですよ。会長自身は「修行だ」って言ってますけどね。ホント修行させられてますよ（苦笑）。

——さっきの話で言えば、サワーvsクラウスがあんな結果になるなんて、誰も予想はしてなかったですし（03・7・5、元同門対決が『K-1MAX』で実現、気合い十分に挑んだサワーだったが、流血によるTKO負け）、03年10月の土井さんの試合にしてもそうですよね。まぁ、私は試合より事前会見の時にかけてきた土井さんのパーマに驚いたんですけど。

森谷　あのパーマがいけなかったんですよ！　あのパーマをおかしいと思わなかった時点で、彼は試合に負けてたんですよ（笑）。

——あの時点で（笑）。大一番を前にして気合いが入っちゃったんですかね。

森谷　どうなんですかねぇ。ネイサン・コーベットっていう、今回も参戦するSBマニアの外人が『MAX』のすぐあとに日本に来て。空港について開口一番「土井は髪を切ったか？」って。

——アハハハハ！　何よりも先に（笑）。

森谷　何で？　って言ったら「K-1の時に（髪のジェスチャーをしながら）こうなってた」って。「どう思う？」って聞いたら顔をしかめながら「NO〜〜〜!!」って（笑）。「なんだ。どうしたんだ」って。

——「どうしたんだ」（笑）。

森谷　土井本人に「負けたこともショックだっ

9・19
SHOOT BOXING
S-CUP 2004

SHOOT BOXING WORLD TOURNAMENT
S-CUP 2004
神奈川・横浜文化体育館　15時開場 16時試合開始
当日券は会場前にて14時より発売開始。
A席¥5000とB席¥4000、当日アリーナS席¥7000を若干増席！
枚数に限りがある為、お早めに
問： シュートボクシング協会　03-3843-1212

Special one Match／3分×5R <エキスパートクラスルール>
ネイサン・コーベット（ファイブ・リングス・ドージョー）vs
ニルソン・デ・カストロ（シュートボクセ・アカデミー）

SB世界ウェルター級チャンピオン **土井広之**（シーザージム）vs
WPKL世界ウェルター級チャンピオン **フィクリ・ティアルチ**（ムシドジム）

OPENING　MATCH／3分×5R<エキスパートクラスルール>
<第1試合>SB日本フェザー級　**石川剛司**（シーザージム）vs 調整中
<第2試合>SB日本Sフェザー級2位　**歌川暁文**（U.W.Fスネークピットジャパン）vs 調整中

トーナメントのリザーブマッチ
SB日本Sライト級チャンピオン**宍戸大樹**（日本・シーザージム）vs WMF世界ウェルター級チャンピオン**ブルース・マクフィー**（オーストラリア・ファイブ・リングス・ドージョー）

優勝賞金 500万円

S-CUP2002王者
アンディ・サワー
（オランダ・リンホージム）

IMTC世界Sウェルター級王者
オーレ・ローセン
（デンマーク・KRSジム・Team　OLE）

UFC初代世界ライト級チャンピオン
ジェンス・パルバー
（アメリカ・チームエクストリーム）

2004年中国散打65kg級王者
代常亮
（中国・中国武術協会）

K-1WORLDMAX2002王者
アルバート・クラウス
（オランダ・ブーリーズジム）

WMTASウェルター級王者
チャンプアック・チェーセパサート
（タイ・ISSジム）

SB日本Sウェルター級王者
緒形健一
（日本・シーザージム）

ストームムエタイミドル級王者
カテウ・キビス
（ブラジル・チームノゲイラCWB　Sports）

SBっていうのは、流れにのってやったことが成功したことがほとんどないんですよ（笑）

たらしいけど、頭がそんなふうになったことも、ショックだったらしいよ」って俺が伝えたら、それがすごく心に響いたらしくて、翌日刈ってきましたね。

――さっぱりと（笑）。話を戻して、参戦メンバーについて詳しくお伺いしていきたいんですけど、『紙プロ』読者の中でかなり格闘技に詳しい人でも、なんとか引っかかるのがジェンス・パルバーくらいですよね。

森谷　そうですねぇ…。たとえばチャンプアックなんて本当に強いんですけど、詳しくないと一般の人はわからないですよね。

――『UFC』までチェックしてるような人なら、宇野薫選手をKOしたパルバーがついに立ち技参戦！　って、すごいカードですよね。

森谷　BJペンがK－1に名乗り上げてますけど、パルバーはペンにも勝ってるんですよね。

――そのパルバーの相手が散打ですよね。いままで私が見てきた散打って「手からイナズマを出す男」くらいのイメージしかなかったんですけど…。

森谷　なっ！　前回の『S－CUP』で準優勝に輝いたジョン・イーゴの凄さを知らない！

――スイマセン、そのころ私は両国で……。

森谷　あぁ（笑）。散打は打撃プラス投げじゃなくて、投げプラス打撃の競技です。

――へぇ～。散打っていう字から考えて、つい「打」のほうがメインの競技なのかと思ってしまいましたけど、そうじゃないと。

森谷　そうです。散打の投げの技術ってものすごいですよ。キックボクサーなんかは特に、投げられることに慣れてないですから、前回の『S－CUP』なんかはイーゴが投げの技術で試合をリードしてましたね。投げをやれる散打の技術に対して、あのパルバーが投げられちゃうのか？　って考えただけでもこのワンマッチが俄然面白くなってくると思うんですよ。

――勝敗だけじゃなくて、パルバーが投げられるシーンが出てきたらそれは衝撃的ですよね。

森谷　他のメンバーで言えば、緒形の相手のカテウがねぇ…。カテウは本当に強いですよ！

――あのアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラの打撃の師匠！　ということですが、誰々の師匠、と聞いてつい想像してしまうのはミルコの打撃の師匠だったというマイク・バットマン・ベンチッチなんですけど（笑）。

森谷　いや（笑）、本当は2年前に呼びたかった選手なんですよ。以前はシュートボクセに所属してて、そのころから中量級でいったら誰もかなわないような選手だったんですから。今回トーナメントをかき回すような存在になってほしいと思っていたんですが……なぜか緒形の相手になってるんですよねぇ。



前回の『S－CUP』では、圧倒的な強さを見せて優勝したアンディー・サワー。2連覇の意欲は充分だ。『S－CUP』初出場となる日本のエース、緒形健一の優勝が期待されるが、はたして9・19、最後に残るのはいったい誰なのか……？

――ダークホース候補のはずが、よりによってエースの初戦相手に（笑）。

森谷　いや、ホントにこのトーナメントの中では一番厄介なヤツかもしれない。ただ、緒形はそういうのに負けたことはないんですよ。いくら強くてもね、たぶんなんとかするだろうと。それくらいしか言えないですよ。なんとかするだろうと。なんとか、してくれ（笑）。

――もうひとつ聞いておきたいのが、ワンマッチで参戦するフィクリ・ティアルチですよね。

森谷　今回は『S－CUP』を緒形に背負わせるから、土井にもしかるべき相手を用意したほうがいいんじゃないかと。

――でも、フィクリっていったら私、全く知らなかったんですけど（笑）オランダではクラウス、アンディと並び称される強豪……なんですよね？

森谷　そうです。サワーが「違う相手に出来ないのか？」って気遣ってました。

――トーナメントの中のワンマッチって言ったら、お楽しみカードでいいと思うんですよ。なぜわざわざそんなキツイカードを組むのか不思議なんですけど。

森谷　いや、会長は「緒形が命を懸ける試合の陰で、土井が楽な試合をやって納得するわけがない」って言うんですよ（笑）。それに今回はパーマもかかってないですし。SBは常に、外と勝負していくんですよ！

――は－……。トーナメントにしても、SBの中で、公正さを何回も何回もジャッジして表に出してる感じがしますよね。緒形さんにも全くラクをさせてないですし（笑）。

森谷　そうでしょ？　この組み合わせ。このメンツの中で、やっぱり自分のところの選手だけヒイキするような真似は出来ないですよ。たまたまタイミングがあってクラウスとかも出れることになったけど、奇跡的な状況で。たぶん今まで会長があやめてきた人間たちも、ようやく許してくれたんじゃないかと。

――安らかな眠りについて（笑）。

森谷　そうそう。ようやくその業にケリがついたんじゃないかと。まだまだ話さなきゃいけないことはあるんですけど、『S－CUP』がスゴイって分かってもらえましたか？

――だいぶわかりました。ていうか、本当に……豪華っていうか、残酷なカード揃いですよね（笑）。

【9月8日浅草・某所にて収録】

J-SPORTS放送日程

大会は発売日翌日！　見逃した人はJ-SPORTSの中継で!!　「シーザー魂」放送日程はシュートボクシングの公式HPをチェック！

■ **9.19(日) J SPORTS3 22:00～**
「格闘人生劇場　シーザー魂　#4」

■ **9.22(水) J SPORTS3 22:00～**
「格闘人生劇場　シーザー魂　#4」

■ **9.23(木) J SPORTS3 08:00～**
「格闘人生劇場　シーザー魂　#4」

シュートボクシング協会公式HP
http://www.shootboxing.org/

Present!!



シュートボクシングの祭典・『S－CUP』開催を記念して、土井広之の直筆サイン入り中川画伯イラストを1名にプレゼント！　宛先住所はプレゼントコーナー参照。このページの感想を書いて「8月5日で30歳」の係まで。イラストは土井本人もお気に入りで「部屋に飾ってある」という

リザーバー大抜擢！
オーストラリア強豪のリベンジを受ける

宍戸大樹



エッ、会長が宍戸はホモだって言ってたんですか？　……会長に言われるたび、苦笑いしてるんですけど……。僕はノーマルですって言っても「ウソだろ、オマエ」って聞く耳持ってもらえなくて（笑）。あんまり強く否定すると「何だオマエ」って怒られるんで（笑）。
最初はワンマッチの予定だったんですけど、仙台大会の後にリザーブって言っていただいて、自分が『S－CUP』にかかわれるって聞いて舞い上がりましたね。体重は普通に言ったら3階級くらい上なんですけど、そこまで上げて、自分がどこまで通用するか試してみようって。
ここで内容がともなった試合が出来れば、次回の『S－CUP』参戦っていうのも視野に入れられると思うんで、自分にとって大事な試合だと思っています。

オランダ四強のフィクリと
ワンマッチで激突

土井広之




今回もハッスルしてますよ。早い時期からハッスルしすぎて、中だるみです（笑）。相手については、強い中量級の選手とやりたかったんで。で、ワンマッチだから弱い相手とか、簡単に勝てるような相手とかっていうのはイヤだったんですよ。ジャン・スカボロスキーって話もあったんですけど、フィクリでもどっちでも良かった。あんまり弱い相手とやってもね。せっかく緒形が『S－CUP』で強い相手とやってるのに。土井、弱い相手と何ラクしてんだよ、みたいに思われるのは嫌だったし。トーナメントに出てるのと同じくらい強い相手が良かったんで。フィクリは玄人受けするような相手ですよね。対策たてられないし、立てても一緒ですよ。自分の力を100%出せたら勝つと思うし。大会場では僕、全部負けてますからね（笑）。勝ってそのジンクスを破らないと。

今大会、日本人として唯一
『S-CUP』へ参戦

緒形健一



今回、ようやくこういう、目標としてた舞台でやれることはすごい嬉しいですね。トーナメント対策ですか？　特にないです。考えてもしょうがないじゃないですか。勝ちにはいきますけど、僕は足を使って勝ちにいこうとは思わないんで。とりあえず一戦一戦。片足使えない、片腕使えないっていう状況も想定した練習はしていますけど。初戦を突破しないと、何もないですから。自分がやることは1回1回、何が何でも、噛みついてでも勝たなきゃいけないっていうそれだけですからね。
いまは、肉体的にも精神的にもいい状況になってきていますね。試合まで思いっきり、できることをやって。人事を尽くして天命を待つじゃないですけど、そういうつもりでいます。


9・23
全日本キック
出陣決定!!
桜木裕司
YUJI
SAKURAGI

一番弟子が明かす
"伝説の男"佐山聡＆掣圏道の真実

"伝説の男"佐山聡の一番弟子として掣圏会館へ入団以来、常に佐山と行動を共にしてきた桜木裕司。ここ数年、アルティメットボクシングを中心に着実に力を蓄えてきた桜木は、今年に入ると6月に韓国で総合ルールへ挑戦、そして今月23日には全日本キックへの出場が決まるなど、積極的に闘いの場を求めている。そんな桜木に師匠・佐山聡、さらには掣圏道について、たっぷり語ってもらいました。押忍！（敬礼）

聞き手／中村カタブツ君　撮影／松澤チョロ　designed by Tani-Yan (Two three)



――ところで、桜木さんは佐山さんと何年一緒にいるんでしたっけ？

桜木　今年の7月で5年目ですね。

――もう5年も一緒にいるんですか。佐山さんはその頃から極右の人だったんですよね？

桜木　いや、最初はそうでもなかったですね。参議院選挙に立候補した時ぐらいからですね。

――「暴走族は撃ち殺せ」とかって、物騒な演説したアレですね（笑）。

桜木　でも、僕が入ったばかりの頃はああいうことはそんなに言ってなかったですね。逆に、シューティングの頃は渡部（優一）先生や田中（健一）先生が言うには「押忍！」って言うとブン殴られていたって（笑）。

――エーッ！　コロコロ変わる人だなぁ（笑）。

桜木　もともとそういう考えは持っていたみたいですけど、なんかいろいろ気が付いて変わっていったようです。

――ちなみに、佐山さんとは普段はどんな会話をしてるんですか？

桜木　ちょっと前だと、車に乗ってる時に日露戦争の話をしてました（笑）。

――ワハハハ！　極右ですねぇ（笑）。今日はそういった佐山さんの素敵なエピソードや、最近外に向かって活発に動き出した掣圏道についてお聞きしたいんですが、そもそも桜木さんが佐山さんのところに行こうと思ったキッカケはなんだったんですか？

桜木　市街地型実戦格闘技っていう言葉に惹かれてですね（笑）。やっぱり極真をずっとやっていたんで実戦っていう部分にこだわりがあったんですよ。それに、その時、僕はダメ人間だったものですから（苦笑）。

――でも、極真時代はK・1MAXで活躍している小比類巻貴之さんも出た大会で優勝してるじゃないですか。

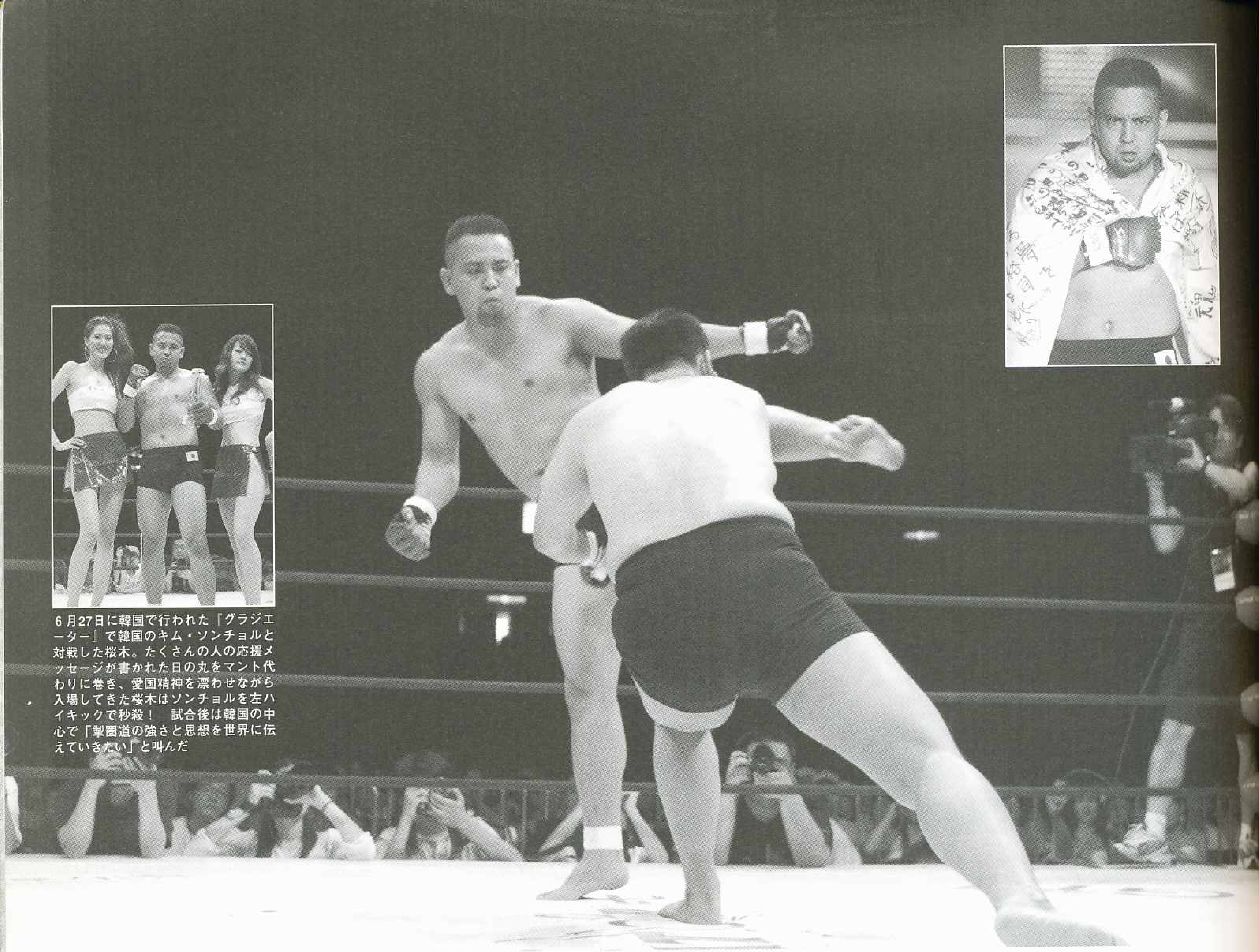
桜木　いや、その後の4年間ぐらい堕落してたんで（苦笑）。
——でも、極真のあとに目黒ジム（現・藤本ジム）にも行ってますよね。
桜木　いや、あんまり行かなかったんです、藤本会長にはだいぶ目をかけてもらっていたんですけど。それで、いい加減ちゃんと考えなきゃなって思ってる時に掣圏道の試合の話が来て、「試合じゃなくて、内弟子として住み込みでやっていきたい」って会長に言ったんですよ。藤本会長は佐山先生の高校の先輩なんで。
——あ、そうだったんですか。
桜木　だから、話は早かったですよ。先生とは、最初、『ボディ・プラント』で会ったんですけど、「ちょっと軽くサンドバッグ蹴ってみて」って言われて、チョンチョンと蹴ったら「分かった分かった」って感じで。
——で、合格と（笑）。
桜木　はい。それが6月の頭だったんですけど、7月1日から北海道に行くことになったんですよ。
——あ、掣圏道は北海道でいろいろやってましたね。
桜木　〝虎の穴〟とか（笑）。
——小学校の廃校を改造したジムだったんですよね、あれ（笑）。
桜木　僕もそこに行くはずだったんです。で、1日までに全部家も引き払って準備万端にしてたら、「ちょっと待ってくれ。状況が変わったから」ってことになって、一ヶ月ぐらい友達の家を転々とすることになって。でも、さすがに居づらくなってきて先生の自宅に行くことになったんですよ。
——え!?　佐山さんの家に住み込みですか!
桜木　はい。一ヶ月ぐらいお世話になって。そのあと昭島に本部が出来たんで昭島に行ったんです。

佐山先生の本当の怖さを知ったのは北海道です。朝の10時から夜の10時まで練習でした。

——面白い話が一杯あるなぁ（笑）。佐山さんの家での生活ってどんな感じだったんですか?
桜木　いやもう食事が大変でしたね。最初はおいしかったんで食べれたんですけど、だんだん量が増えてくるんですよ。「食べれるでしょ」って感じで。和・洋・中と品数が豊富で、みんなボウル一杯とか量がハンパじゃなくて。飲み物も何種類も用意していただいたんですけど、出された物は全部食べないと失礼なんで、それが苦しかったですね（苦笑）。
——プロレスラーばりに食って身体を作れって感じだったんですね（笑）。生活のサイクルはどんなだったんですか?
桜木　最初、「朝から、いろいろ家のことを手伝わなきゃな」って思ってたんですけど、奥さんが昼前まで寝かせててくれて、10時くらいから起きて食事を取って、午後は1時から2時くらいに『ボディ・プラント』で練習して、夕方はサンボとレスリングを習いに行ってたんですよ、総裁のところで。
——総裁!?　もしかして、アントニオ猪木さんやユセフ・トルコさんとともに世界格闘技団体連合を結成した、あの朝堂院大覚総裁ですか?
桜木　あ、そうです（笑）。
——また、凄いところへ行ってたんですね（笑）。総裁は右翼の世界でも名が通った方ですからね。
桜木　でも、僕は普通に格闘技を習っていただけなんで（苦笑）。で、サンボは昔〝サンボの怪物君〟って言われてた萩原さんを指導してた古川先生から教えて貰って、レスリングは元金メダリストの伊達先生って、国士舘大学の方から教えていただいてました。
——伊達先生って伊達治一郎先生ですか?
桜木　そうです。
——それも凄いですね。伊達先生ってソウル五輪金メダリストの小林孝至さんが「日本のアマレス史上で一番強かった人」って言ってた人ですよ。
桜木　だけど、優しかったですよ。あとでレスリングやってる友達に聞いたら、凄い厳しい先生だって言ってて、ビックリしましたけど。
——いや、ビックリっていうか何かモノ凄く濃いところで練習してますよね、さすがは掣圏道!（笑）。
桜木　いや、皆さん優しい方々ばかりだったですよ（苦笑）。で、それが終わって9時過ぎに先生の自宅に戻って、食事をとったら、あとは寝るだけっていう生活でした。
——その間、佐山さんはどこにいるんですか?
桜木　いや、先生は北海道と東京を行き来してて、家にはほとんどいなかったですね。
——じゃあ付き人みたいな仕事はなかったんですか?
桜木　それは昭島に入ってからですね。
——へぇ〜。その頃、桜木さんとしては普通に格闘技の修行をしてただけなんですよね。
桜木　はい。
——だけど、ハタから見ると、凄い黒くて深いところでやってるなぁってビンビン伝わって来るんですけどね（笑）。
桜木　はぁ（苦笑）。
——いや、恵まれてますね、良くも悪くも（笑）。で、昭島に移ってからはいよいよ本格的に佐山さんの指導が始まったんですね。
桜木　でも、その頃は本当の先生の姿は見てないですね、凄い優しく教えてもらってたんで。本当の怖さを知るのは北海道に行ってからですね。
——北海道で本当の怖さを知ったわけですね。
桜木　はい（笑）。デビュー戦前に先生と、極真の岩崎（達也）さんと一緒に



さくらぎ・ゆうじ■1977年7月20日、宮崎県出身。極真空手出身の桜木は95年極真空手全日本Jr高校重量級で優勝し、その後、新日本キック・目黒ジム（現・藤本ジム）を経て掣圏会館へ入団。昨年行われた第1回掣圏武芸トーナメントでは見事優勝を果たし、現在は掣圏道参段にしてSWAヘビー級1位。掣圏会館の師範を務め指導も行う桜木は今後、総合及びキックのリングに積極的に登場予定。180cm・95kg



6月27日に韓国で行われた『グラジエーター』で韓国のキム・ソンチョルと対戦した桜木。たくさんの人の応援メッセージが書かれた日の丸をマント代わりに巻き、愛国精神を漂わせながら入場してきた桜木はソンチョルを左ハイキックで秒殺！　試合後は韓国の中心で「掣圏道の強さと思想を世界に伝えていきたい」と叫んだ

行ったんですけど、朝の10時から夜の10時まで練習でした。それに相手はロシア人で、彼らは2時間練習したら帰って、また新しい人たちが来るんですよ。僕は朝からぶっ通しだったんですけど（笑）。

――いきなりキツくなりましたね。

桜木　それで最後の最後に先生が来たんですけど、その時、僕、ロシア人のレスリング世界チャンピオンと練習してボロ雑巾のようになってたんですよ。先生はそれを見てて、「てめぇ、この野郎、何そんなにやられてんだぁ！」って倒れてる僕の頭を蹴られて（苦笑）。

――ムチャクチャだなぁ（笑）。

桜木　凄い剣幕で蹴って来たんですよ。で、その形相がまた怖いんですよ。

――黄色い悪魔になったと（笑）。

桜木　ロシア人がみんな日本語で「ゴメンナサイ！」って言って先生を止めてましたから（笑）。だけど、先生は止まらなくて、僕は殺されると思ったんでワーっていったら倒せたんですよ、グレコローマンのチャンピオンを。そしたら、先生は急に普通に戻って「これが必死の力って言うんだぞ」って。

――急に笑顔になったんですね（笑）。佐山さんって意外と教え上手ですよね、そういう意味では。

桜木　いやでも、キレてる時は怖いですよォ。僕の前に入った人たちはみんなその段階で辞めてて、ヒドい人だと夜中に旭川から札幌まで自転車で逃げた人もいましたから。で、昭島に帰ってきてからもやっぱり怖いんですよ。なんかあると道場のシャッターを閉めるんですよ、外に音が漏れないように。

――それは凄い嫌ですねぇ（笑）。

桜木　嫌でしたねぇ（苦笑）。「追い込みするよ」ってことですからね。

――でも、佐山さんは人に練習しろと言うわりに、本人はしないじゃないですか。

それに関してはどう思います？（笑）。

桜木　いや、それに関してはちょっとノーコメントということで（笑）。

――ですかね（笑）。まあ、ともかくよく辞めなかったですよ。

桜木　格闘技界で一番の天才って言われてる先生のところでダメだったら、もうどこに行ってもダメだと思ってたんで。だから、やめるぐらいだったら先生に殺されようって思って、デビュー2戦目の前に「殺して下さい」って自分から直訴したんですよ（苦笑）。

――なんでですか？（笑）。

桜木　たぶん一杯一杯だったんでしょうね。でも、それを言ってからは自分の気持ちが前向きになって、先生にだってキレられればキレ返すくらいになりましたからね。

――キレ返すって（笑）。

桜木　いや、練習の気合いで返すっていう意味で。そうすれば先生の怒りも収まって来るんですよ（笑）。

――接した方も分かってきたんですね。ところで、佐山さんの怒りのポイントってどこなんですか？

桜木　やっぱり礼儀ですよね。でも、表現方法のちょっとした違いでキレることもあるんで、そこが難しいんです（苦笑）。例えば、昔、鈴木という道場生は「そろそろ試合大丈夫か？」って聞かれて、「たぶん大丈夫だと思います」って言った時の〝たぶん〟が地雷だったみたいで。『「たぶん」だと、この野郎！』って。だから、言葉を選ばないと（笑）。僕の時もズラフって2メートルのヤツとやる時に、「死ぬ覚悟でやります」って言ったら、「死ぬなんてそんな大げさな」と言われましたね、怒られはしなくて良かったんですけど。

――いまとは大違いですよね（笑）。

桜木　違いますよね（苦笑）。あと、最近怖かったのが僕、地元の宮崎に帰っ

YUJI SAKURAGI

てる時に喧嘩を売られたんです。酔ったヤクザがいきなり殴りかかってきたんですよ。で、こういう場合やろうかどうしようか迷うんですよ。というのも昔、渡部先生が「正当防衛で喧嘩したら、あとで先生にボコボコにされた」って言ってたし、先生の本にもそれが書いてあったんで。

――それは考えますね（笑）。

桜木　だから、とりあえず避けてたんですけど、事務所に引っ張って行かれそうになったんで、ヒジ打ちを入れたら失神しちゃったんですよ。

――あらま（笑）

桜木　で、すぐニープレスして、そのまま携帯で警察に電話したんです。あの時はやっぱり市街地型実戦格闘技だなって思いましたけどねぇ（笑）。

――掣圏道の基本的な動きですよね。

桜木　掣圏道に間違いないなって思ったんですけど、ただ、喧嘩を先生に報告する時が凄い怖かったんですよ。

――渡部さんのようにボコボコにされるか、それとも考え方がもう変わっているか、どっちなんだと？（笑）

桜木　ホント、どっちに転ぶか分からないですからね（苦笑）。で、「とりあえず正当防衛でやりました、警察も分かってくれました」って言ったら『格闘技やってるから喧嘩しませんでした』なんて言うようだったら殺すところだったよ」って（笑）。

――えー！　渡部さんの時とまったく逆じゃないですか（笑）。

桜木　渡部先生の時はシューティング時代だったんで、たぶん今は（笑）。

――掣圏道ならＯＫと（笑）。そういえば佐山さんはシューティングの時は竹刀で殴ってましたけど、掣圏道になったら市街地型なのかどうか知りませんけど、木刀に変わったっていうのもありますし（笑）。

桜木　あ、今は木刀ですねぇ。最近はもうないですけど最初の頃しょっちゅう流血してましたね。大晦日に頭から血を流しながらロードワークしてた時もありましたし。試合の時も、虐待のあとみたいなアザが背中一面にあったこともありましたね（苦笑）。

――やっぱり凄いな、掣圏道は（笑）。

桜木　だから、相手が怖いとかどうこうよりも、常に先生との闘いなんですよね。先生の納得いく試合をしないと意味がないっていう。逆にそれが一番いいことで、負けても先生が納得する試合だったら何も言われないし、勝ってもダメだったら言われます。

――ともかく前に出る姿勢がないとダメなんですよね。

桜木　試合中にちょっとでも引こうもんなら、「殺すぞ」って言うんですよ。その声に観客は最初笑ってるんですけど、何度も言うからだんだん引いてくるのが分かるんですよね。ヒドい時は瓜田（幸造）さんの試合でリングに上がって殴ってましたからね。

――うわぁ、猪木さんみたいなことしてますね（笑）。

桜木　東京体育館の時です。

――えー！　あの大会って世界格闘技団体連合の主催で、観客は全員ダークスーツを着た人ばっかりだったじゃないですか！

桜木　その時、瓜田さんに「こんな恥ずかしい試合するなら止めるぞ」って。

――怖いなぁ（笑）。あの時、客席は●●組の関係者とかでしたからねぇ。だけど、話を聞いてると佐山さんは試合前に限って気合いを入れてませんか？

桜木　それはまあ試合前なんで。

――いや、試合前って普通みんなクールダウンの時期ですよね？

桜木　あ〜。でも、先生の最終チェックが試合の3日前にあるんですね。僕らはその日に向かって最高の状態に持っていくんですよ、試合の時じゃなくて（笑）。

――実に一風変わったコンディション作りですね（笑）。

桜木　だから普通、最後の方って一番キツくて身体とか動かなくなるじゃないですか。でも、それだと、「お前ら何やってたんだ？　練習してたのか！」って怒られるんで、先生が最終チェックする日を一番に持って行って、その時に「お〜、いい仕上がりだね」って言われないとダメなんです。

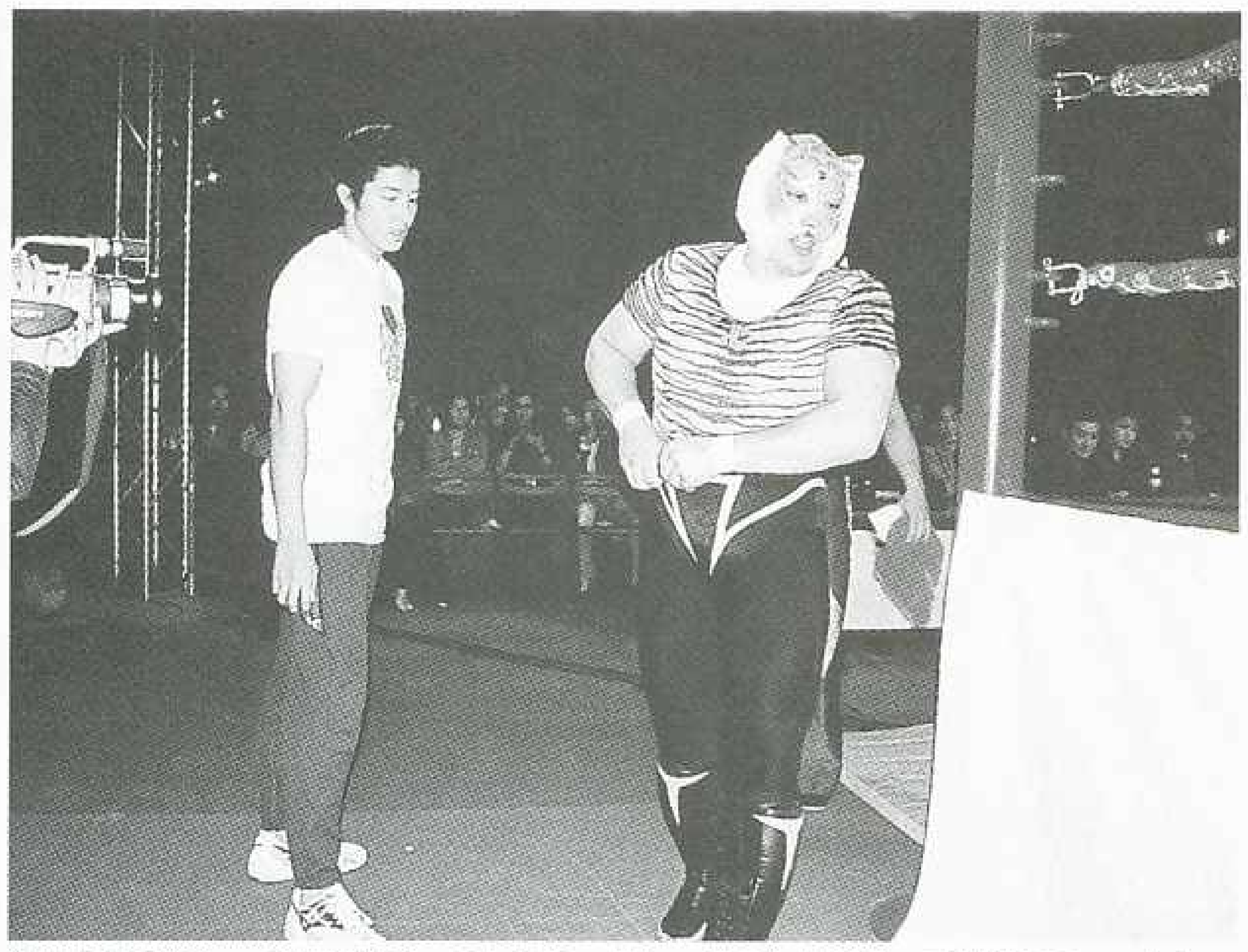
――じゃあ試合前に一試合終わってる感じなんですね。

桜木　終わってます（笑）。でもその後、本当の試合があるんで、二段階で来てるって感じですね。そこでいい試合しないと「あれほど調子良かったのに、試合でできないのは気持ちが弱いからだ」って怒られるんで（苦笑）。

――また木刀が飛んで来ると。

桜木　そうですね。最近はないですけど、最初の3年ぐらいは。

――普通の格闘技とはやっぱり違いますね、掣圏道は。あと、アルティメットボクシングってスケジュールがムチ



佐山皇帝のキレっぷりにビビってたじろいだか、様々な人が入っては辞めていったという掣圏道。タレントとして活躍していた新・加勢大周こと坂本一世もその1人。現在、何をしているかご存知の方は、いろいろと話を聞いてみたいので連絡ください。押忍！



歴史的一戦、桜庭vsホイスが行われた2000年の『PRIDE・GP』で自慢のロシア戦士を引き連れリングに上がった佐山は「リングの上でゴロゴロ転がってる『PRIDE』選手の皆さん」とタチの悪いマイクアピールを敢行。愛弟子・桜木の『PRIDE』参戦も間近か!?

ャクチャだったじゃないですか。ヒドい時なんか、一ヶ月に5試合とかあったんですよね。

桜木 あ〜、去年がそうでした。

―今時、そんな試合してる日本人って桜木さんたちだけですよ。もうタイ人以上ですよね。

桜木 やっぱり、自分の限界って自分で決めちゃうじゃないですか。でも先生に言われるとできるんですよ。だから絶対的信頼感って言うか、不思議な感じですよね。だって、4日で3試合って時もあったんで（苦笑）。

―5月の15、16、18日の3連戦ですね。

桜木 でも、その時はずっと1ラウンドKOで勝ってたんで。だから、ギリギリのところまで追い込まれて集中力が上がると、一発で決められるのかなっていうのは感じました。

―でも、佐山さん自身は興行に行かないで、掣圏道のHPからエールを送ってたんですよね（笑）。

桜木 まあ、そうですね（苦笑）。

―そういうところも含めて掣圏道は面白いですよね、ハチャメチャで。あのぉ、普段の佐山さんって怖いんですか。

桜木 普通ですね。だけど、車とかに乗ってると怒る時はあります。例えば、細い道で対向車が来て、こっちが待ってる時ってあるじゃないですか？ そういう場合、対向車はクラクションとか鳴らして挨拶しますよね。でも、一回オバさんみたいな人が挨拶もしないで、後ろに乗ってた先生が「いま睨んだ」って言うんですよ、「俺はああいうのは許せないんだよ」って。で、パッと見たらもう車を降りてて、オバさんのところに行ってましたからね。あとは渋滞の時に、後ろでクラクション鳴らす人がいて、それで怒って「お前か、鳴らしたのは！」って（笑）。

―容赦ないですねぇ（苦笑）。付き人してる時とか怒られたりしました？

桜木 いえ、あんまり細かいことは。「全部自分でやるからいいよ」っていう感じでしたんで。

―極右の人たちとの集まりとかにも付いていってるんですよね？

桜木 そうですね。でも、そこでも普通に挨拶ができればいいんです。あと、そういう集まりは僕も嫌いじゃないんですよ、自衛隊に行ってたんで。思想の話とかも勉強になりますね。

最終段階としては総合に出ていって、本物の武士道を見せたいと思ってます！ 押忍!!（敬礼）



現在、昭島にある掣圏道会館本部道場と六本木のボディプラントで指導を行っている桜木。掣圏道の強さ、そして思想を学びたいという人は今すぐ電話しよう！『掣圏道本部道場』TEL.042-544-6979 『六本木道場』TEL.03-5772-2791

―掣圏道でもそういう講義の時間っていうのはあるんですか。

桜木 あります。いまは先生が僕に話して、僕から道場生に話すっていう感じですね。

―そういえば最近、掣圏道は真陰流掣圏道になったんですよね？

桜木 なりましたね。いまの人たちに合ったわかりやすい形で武士道を伝えるっていうことで、先生が武士道を理論的に再構築したんです。

―それが真陰流だと。具体的にどういう風になりそうなんですか？

桜木 いやぁ、名前もいろいろ候補があったみたいですけど、これは先生しか分からないんで（苦笑）。

―まあ、ともかく掣圏道で一番怖いのは佐山さんの考え方がガラッと変わっていくところですよね（笑）。

桜木 まあ（苦笑）。でも、一貫してる部分はあって、それを追い求めた結果がいまなんで。

―分かりました。あと、今後の掣圏道なんですけど、今年に入って瓜田さんがパンクラスに出たり、桜木さんが韓国のバーリトゥードや全日本キックの試合に出たりと、動きがありますよね。

桜木 やっぱりいろいろ言われるんですよ、「掣圏道は名前があがらない」だとか、「よそに移籍したら」とか。でも、先生のことも理解してきたし、まったくやめるつもりはないんですよね。

―桜木さん自身の今後はどういう感じでやっていくつもりですか。

桜木 最終段階としては総合の方に出ていきたいと思ってて、まあいまだったら『PRIDE武士道』ですね。この間も韓国で佐伯さんに「出して下さい」って言ったら、「え、大丈夫なの？」って言われて。「前から目はつけていたんだけど、佐山さんに怒られるかなって思ってて」って。

―佐伯さんは前から「武士道にぴったりな選手がいる」って言ってたみたいですね（笑）。

桜木 だけど、先生は「あれは武士道じゃない」って言ってましたけど（笑）。

―だからこそ、桜木さんに本物の武士道を見せて欲しいですね。

桜木 出たいですね。だけど、まずは9月23日のキックを頑張ろうと思ってますね。この前も藤原先生の道場でチェックしてもらったんですけど、やっぱり勉強になりました。

―佐山さんと藤原先生に見てもらえるっていうのが凄い贅沢ですよね。

桜木 でも、それが一番困るっていう部分では困りますね（苦笑）。言ってることが全然違う時があるんで。藤原先生は「スピードを出して考えずに蹴れ」って言って、佐山先生は「丁寧に考えながら蹴れ」って（苦笑）。たまにリンクすることはあるんですけど、まったく逆の時もあって。

―それは混乱しますよね（笑）。

桜木 たぶん根本的には一緒なんだと思うんですけど、伝説の人たちを1人占めしてて、これで結果が出なかったら僕の能力がないと分かるわけじゃないですか？ だから、23日は絶対に勝って掣圏道の強さと思想を伝えていきたいですね。

―期待してます！

桜木 押忍!!（敬礼）。

【9月3日／六本木『ボディ・プラント』にて収録】

RADICAL CALENDAR

9 September

18 SAT.
新日本■新潟・新潟市体育館(18:00)
全日本■埼玉・桂スタジオ(18:30)
ZERO-ONE■静岡・川根町総合体育館(18:00)
DRAGON GATE■福島・ビッグパレットふくしま(18:30)
DDT■福島・福島国体記念体育館第二競技場(18:30)
国際プロ■神奈川・鶴見青果市場(14:00)
Oh!台場湾岸Battle!!■東京・ディファ有明(18:00)
北都プロ■北海道・小清水町トレーニングセンター(18:00)
NEO■岐阜・平成ふれあいドーム(18:30)
AtoZ■石川・七尾市総合体育館(18:30)

19 SUN.
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(12:00)
DRAGON GATE■宮城・ニューワールド仙台テニスクラブ(16:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(13:00&17:00)
大日本■愛知・JR稲沢駅前特設リング(13:30)
SPWF■千葉・SPWF道場(14:30)
ナイトメア■東京・バトルスフィア東京(18:30)
全女■茨城・笠間市民体育館(18:30)
AtoZ■石川・金沢流通会館(18:30)
JWP■東京・JWP道場マッチ(13:00)
格闘美■東京・新木場1st RING(14:00)
シュートボクシング■神奈川・横浜文化体育館(16:30)
DEMOLITION■東京・お台場SDM(17:00)
プロ柔術Gi-05■東京・ディファ有明(13:30&17:30)

20 MON.
ハッスル5■神奈川・横浜アリーナ(16:00)
新日本■大阪・なみはやドーム(15:00)
全日本■岐阜・岐阜産業会館(18:00)
DRAGON GATE■新潟・新潟フェイズ(18:00)
大日本■三重・四日市オーストラリア記念館(17:00)
DDT■奈良・松村電気店私有地特設会場(15:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(17:00)
AtoZ■長野・上田市創造館(18:00)

21 TUE.
全日本■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:30)
北都プロ■北海道・静内神社境内(18:30)
LLPW■東京・バトル スフィア東京(19:00)

22 WED.
新日本■和歌山・県立橋本体育館サブアリーナ(18:30)
全日本■熊本・興南会館(18:30)
大日本■埼玉・本庄市民体育館(18:30)
DDT■東京・北沢タウンホール(18:30)
北都プロ■北海道・静内神社境内(18:30)
AtoZ■東京・後楽園ホール(18:30)

23 THU.
新日本■三重・松阪市総合体育館(16:00)
全日本■熊本・興南会館(18:30)
NOAH■東京・ディファ有明(16:00&18:30)
DRAGON GATE■茨城・水戸市民体育館(18:00)
K-DOJO■大阪・いきいきランド交野(13:00)
大日本■東京・お台場青海地区K区画特設リング(15:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)
NEO■東京・板橋グリーンホール(13:00&17:00)
AtoZ■愛知・名古屋市中スポーツセンター(13:00)
EXPERT■東京・新木場1st RING(14:00)
全日本キック■東京・後楽園ホール(17:15)

24 FRI.
DRAGON GATE■群馬・群馬県総合スポーツセンター ぐんまアリーナ(18:30)
パンクラス■東京・後楽園ホール(18:30)

25 SAT.
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
DRAGON GATE■埼玉・本川越ペペホール・アトラス(18:00)
大日本■東京・お台場青梅地区K区特設リング(17:00)
全女■神奈川・横須賀ウェルニー公園特設リング(18:00)
GAEA■大阪・大阪ドームスカイホール(18:00)
LLPW■東京・新木場1st RING(19:00)
K-1 WORLD GP 開幕戦■東京・日本武道館(17:00)

26 SUN.
ケッパレ1■岩手・安比高原スキー場ザイラーゲレンデ特設リング(14:00)
DRAGON GATE■埼玉・越谷桂スタジオ(16:00)
大日本■東京・後楽園ホール(12:00)
大日本■東京・お台場青梅地区K区特設リング(18:00)
WWS■埼玉・本庄市民体育館(13:00)
K-DOJO■北海道・札幌テイセンホール(18:30)
GAEA■静岡・浜松市体育館(14:30)
JWP■東京・新木場 1st RING(18:30)
格闘美■東京・新木場1st RING(12:30)
AtoZ■東京・江戸川道場マッチ
修斗■東京・後楽園ホール(18:00)

27 MON.
DRAGON GATE■神奈川・相模原市総合体育館(18:30)

28 TUE.
K-DOJO■青森・八戸ビューホテル(19:00)
全女■千葉・千倉町ドラッグストア アベール特設リング(18:00)

29 WED.
K-DOJO■岩手・サンビレッジ紫波(18:30)

30 THU.
DDT■東京・後楽園ホール(19:00)
K-DOJO■宮城・Zepp仙台(19:00)

10 October

1 FRI.
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
浅野グレース興行■東京・バトルスフィア東京(18:45)

2 SAT.
ZERO-ONE■宮城・石巻市総合体育館(18:30)
DRAGON GATE■岡山・倉敷山陽ハイツ体育館(18:30)
みちプロ■栃木・宇都宮市体育館(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
華☆激■Zepp Fukuoka(18:30)
格闘美■東京・新木場1st RING(18:00)

3 SUN.
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(12:30)
DRAGON GATE■福岡・博多スターレン(16:00)
DDT■新潟・新潟フェイズ(15:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
東海プロ■愛知・三菱電機グラウンド特設リング(14:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
NEO■東京・板橋グリーンホール(18:00)
長南祭り■山形・三川町町民体育館(13:30)
新日本キック■神奈川・三浦市総合体育館(16:00)

5 TUE.
DRAGON GATE■山口・下松市体育館(18:30)

6 WED.
DDT■東京・新木場1st RING(19:00)
キングダムエルガイツ■東京・渋谷culb ATOM(19:00)

7 THU.
NEO■新潟・上越市厚生南会館(18:30)

8 FRI.
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(19:00)
DRAGON GATE■兵庫・神戸チキンジョージ(19:00)

9 SAT.
新日本■東京・両国国技館(18:00)
NOAH■東京・後楽園ホール(18:30)
みちプロ■青森・弘前市河西体育センター(18:30)
DRAGON GATE■愛知・津島市文化会館(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
U-STYLE■東京・ディファ有明(17:00)
格闘美■東京・新木場1st RING(18:00)

10 SUN.
新日本■神奈川・厚木市荻野運動公園体育館(18:30)
NOAH■埼玉・本川越ペペホールアトラス(16:00)
みちプロ■宮城・ニューワールドテニスクラブ(15:00)
DRAGON GATE■岡山・卸センターオレンジホール(18:00)
バトラーツ■埼玉・越谷桂スタジオ(17:00)
金村キンタロー秋祭り■千葉・BlueField(15:00)

11 MON.
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
NOAH■東京・ディファ有明(17:00)
みちプロ■岩手・一関市文化センター体育館(16:00)
DRAGON GATE■島根・松江くにびきメッセ(16:00)
IWA JAPAN■山梨・大月市総合体育館(15:00)
JWP■東京・バトルスフィア東京(15:00)

12 TUE.
ZERO-ONE■北海道・小樽朝里クラッセホテル体育館(19:00)
みちプロ■秋田・西木村ふれあいプラザ クリオン(19:00)
パンクラス■東京・後楽園ホール(18:30)

13 WED.
新日本■鹿児島・鹿児島アリーナ(18:30)
ZERO-ONE■北海道・帯広市総合体育館(18:30)
NOAH■愛知・豊田市運動公園体育館(18:30)
みちプロ■岩手・花巻市民体育館(18:30)
マッスル1■東京・北沢タウンホール(19:00)
K-1 WORLD MAX■東京・代々木第一体育館(17:30)

14 THU.
ZERO-ONE■北海道・岩見沢市スポーツセンター(18:30)
NOAH■兵庫・兵庫県立武道館(18:30)
PRIDE武士道-其の伍-■大阪・大阪城ホール(18:30)

15 FRI.
新日本■宮崎・都城市体育館(18:30)
ZERO-ONE■北海道・室蘭市体育館(18:30)
NOAH■愛知・アイテムえひめ(18:30)
みちプロ■宮城・気仙沼市総合体育館(18:30)
IWA JAPAN■東京・後楽園ホール(18:30)
DEMOLITION■東京・北沢タウンホール

16 SAT.
全日本■長野・飯田市勤労者体育センター(18:30)
NOAH■徳島・徳島市立体育館(18:30)
みちプロ■秋田・秋田市立茨島体育館(18:30)
DRAGON GATE■千葉・千葉ポートアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
GAEA■新潟・新潟フェイズ(18:00)
全日本キック■東京・後楽園ホール

17 SUN.
新日本■福岡・福岡国際センター(15:00)
ZERO-ONE■北海道・札幌メディアパーク・スピカ(17:00)
全日本■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール(15:00)
みちプロ■宮城・鹿島台町鎌田記念ホール(14:00)
DRAGON GATE■岐阜・岐阜商工会議所(18:00)
大日本■新潟・十日町クロス10大ホール(14:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
GAEA■宮城・Zepp Sendai(15:00)
NEO■東京・東京キネマ倶楽部(13:00)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(17:00)
LLPW■埼玉・LLPW川口道場(14:30)
格闘美■東京・後楽園ホール(12:00)

18 MON.
新日本■長崎・長崎県立総合体育館(18:30)
全日本■福井・福井市体育館(18:30)

19 TUE.
新日本■熊本・熊本市総合体育館(18:30)
NOAH■千葉・千葉公園体育館(18:30)

20 WED.
全日本■山形・山形市総合スポーツセンター サブアリーナ(18:30)
みちプロ■山形・藤島町民体育館(18:30)
DDT■東京・新木場1st RING(19:00)

1ページでもハッスルする読者ページ

紙プロ元気大学

中量級戦線が加熱し、一部格闘技雑誌では武田選手の相手がザンビディスになってしまっていた今日この頃。皆さんお元気でしょうか？　読者ページ担当のさささいです。本業は電気部です。今月はなぜか1ページでお送りするこのページ。次号からどうなるかは、皆さんのお便りにかかっています。よろしくお願いします。冒頭から読者を脅かしてみました。それでは、はじまりはじまり。



(石川県・シーザー孝志)「いつか載せてください…。シメキリが訳わからなくなってきたんで」➡なるほど。私もだいぶ訳わからなくなってきています。タイトルコーナー久々掲載ですよ。

校内巡回

『紙プロ』78号　面白かった記事

【小川直也インタビュー】
★嘘偽りない率直なインタビューは読みごたえがあり、胸が熱くなりました。それと特筆すべき点は表紙がカッコイイ‼　ところ。
(北海道・虹伝説・31歳・警備員)
⬇前号のナンバーワンはぶっちぎりでキャプテン・ハッスルインタビュー！　表紙かっこよかったですか？　私もかっこよかったと思うから嬉しいんですけど、発売日も特殊だったために『紙プロ』だと気づかず買ってない人が多数いるのではないかと気にしています。以下、皆さんからの感想を順不同でお送りします。

【ザ・グレート・サスケインタビュー】
★面白かった記事は、谷川貞治とみせかけてザ・グレート・サスケ。ある意味ではイノキイズムをびしびし受け継いでいると思います。インタビューと写真を見ていると、よく議員になれたと感心します。面白いです。
(東京都・寺田純・23歳・学生)
⬇「谷川貞治とみせかけて」って、なんでアンケートハガキ内でフェイント使うか。サスケさんの「いやいやいや…」という、言葉の前振りが私は好きです。そういえば議員なんですよねぇ。日本は大丈夫かな。

【「ザ・検証」入江秀忠スペシャル】
★矢野卓見選手のコメントが最高！　ヤノタクは敵をつくるタイプなんですね。
(兵庫県・春乃・37歳・会社員)
⬇評価の高かったヤノタクコメント。かなり削ってもあの内容だったらしいです。

【イーデス・ハンソンインタビュー】
★この人のことは全く知りませんでした。こんな人がいたんですね。とても面白かったです。
(山形県・佐藤英樹・23歳・フリーター)
⬇この他「もっとカタい人だと思っていた」などのご意見多数。私もはじめてプロレスファンだと知りました。

『紙プロ』78号　つまらなかった記事

【ターザン山本！記事】
★ターザンさん記事は、写真なしにしていただきたい。
(神奈川県・廣木和宣・39歳・会社員)
⬇確かに刺激がきつすぎたかな、とも思ったのですが、私は『毒食らわば皿まで』の心境で『紙プロＨａｎｄ』の待ち受け画面にしてしまいました。

小川直也選手へ望むこと

★ＵＦＯ自主興行時代の試合のビデオ化をすすめてほしい(国内外ともに)。あと、猪木との対談。
(山梨県・松儀博史・33歳・会社員)
⬇気持ちはすごくよくわかりますが、ビデオ化の件は小川選手以外の人に頼まなくてはいけないような気がする。『ＯＨ祭り』もお願いしまーす(天に向かって)。

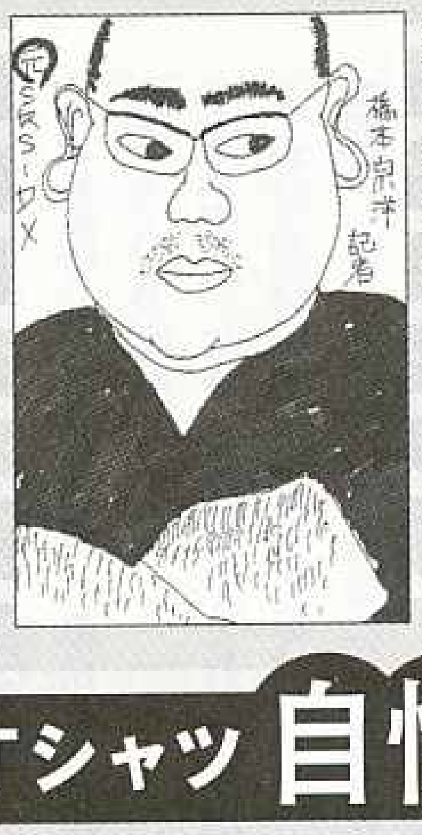
★ぼくは『ＰＲＩＤＥ』よりハッスルがすきだから、ハッスルに出場してほしい。
(東京都・桑本薫平・11歳・小学生)
⬇きっと小川選手は、その期待に答え続けてくれるはずです。ハッスルのほうが好きか。そうか。

★ヒョードルにリベンジ！　あとは、みんなに元気をくれればうれしいです。
(埼玉県・金子晃司・28歳・会社員)
⬇この言葉には、ちょっとジーンとしてしまいました。小川選手へのメッセージはたくさんありましたが、誌面の都合があって載せきれずゴメンなさい。もっとも多かった意見は「また『ＰＲＩＤＥ』に出て欲しい」「もちろん『男祭り』参戦」…でした。ハッスル、ハッスル‼





(北海道・アカツキ)⬇オーちゃんを肩車しているのは……金髪にしたハッスル・キングじゃないですよね。曙かな？　肩車と言えば『ＬＥＧＥＮＤ』が懐かしい。



(石川県・馬並初江)⬇今月号でも活躍いただいているライターの橋本さんです。…世の中、似顔絵の対象としていろんなところに目をつける人がいるんだなぁと思った次第です。それを載せる雑誌だと思われていて、実際載せてしまう自分。福耳っぷりがよく似ていますが、この写真は悪人顔すぎてて似顔絵にするのは気の毒かもしれない。



(埼玉県・稲葉聡)➡怖いよミルコ犬。もう１枚もけっこう怖い夏のマット界イラスト(？)。歴史の教科書に載っていた、外国の新聞に出てる風刺漫画みたいな感じがしました。ターザンの足も切れてるし。マラソン選手は、かわいそうだったなぁ。あの肉親にインタビューするのとかは間違ってると思います。

衣料部・Tシャツ自慢コーナー



(静岡県・目ガ覚メタロウ)「中川画伯特製、サミー・リー＆クイック・キック・リーTシャツ　恍惚のみ我にあり。心優しい画伯は、イラストまでプレゼントして下さいました。有難う御座いま〜す。押忍！(敬礼)」
⬇Tシャツも興味深いですが、目ガ覚メタロウさんがだいぶ素顔に近いことも興味深いですね。マスクのせいで、一瞬アン・ジョー司令長官かと思いました。押忍。『ほんとにジョーク』がなくなるということは、このコーナーもなくなってしまうのでしょうか？　一番最初の「欲しいTシャツの案を考えて送る」というプランも、いまさらながら募集しようかと思います。

紙プロ78号・読者が選ぶ面白かった記事ベスト５

- 1位　小川直也インタビュー
- 2位　イーデス・ハンソンインタビュー
- 3位　榊原代表インタビュー
- 4位　ミルコ・クロコップインタビュー
- 5位　浅草キッドインタビュー

1位はブッチぎりで「敗戦翌日に語っているのがカッコイイ！」小川直也インタビュー。2位は「こっち側の人だとは知らなかった」イーデス・ハンソンインタビュー、3位に榊原代表インタビュー。4位にミルコ、5位は「平成教育委員会の間、ずっと顔がひきつっていた」という目撃証言も届いた浅草キッドインタビュー。ベスト5以降はザ・検証、ターザンインタビューが続きました。

おハガキ・お便り・メール大募集‼

「以前『紙プロ』にいた人の話が面白すぎる」という、ややこしい諸事情により今月は読者ページが1ページになってしまいました。ボンちゃんにも負けない非常識な読者からのお便りは募集…していません。普通にお便りをお待ちしています。『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は

メールは radical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702
(株)ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部
紙プロ元気大学「僕はノーマルです」の係まで。
★☆★携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます!★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに!
プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。
匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。



(東京都・ヤー)⬇ヤーさん、今月もたくさんありがとうです。1枚しか載せられなくてごめんなさい。1枚選ぶとしたらやっぱりコレかしら、と、佐山皇帝を選んでみました。

“伝説の紙プロ編集者”

片山ボンちゃんが結婚する日

片氏911

［結婚記念座談会］

構成／ジャン斉藤　designed by nogu（Two three）



ビビった！　たじろいだ!!
いま明かされる衝撃エピソードの数々!!

あのボンちゃんが結婚する！　元『紙プロ』編集者・片山ボンちゃんが、このたび同棲中の彼女（元『闘魂ショップ』の店員）と結婚。これを機に地元の大阪に帰郷し、飲食店を構えることになった。ボンちゃんといえば、お母さんが大阪の超高級クラブを経営する超ボンボン。身に付ける服装の総金額は、『紙プロ』在籍時の給料を遥かに凌ぐほど！　それゆえに世間ずれしてない性格から生まれるモラルハザードなエピソード（ホッチキスの芯を詰め替えられずホッチキス本体自体を買い換えたり、ビリヤード台を衝動買いし数回プレイしたのち飽きて返品したり、皇室一族も訪れるオペラを観に行って不敬にも皇太子様に握手を求めたり）の数々は、とにかく強烈だった！　結局「文章が書けない。文章が書けたら、あんな楽しい仕事はないのに……」という名言を残して編集部を去ったが、実家には帰らず東京に残留。お母さんからの仕送りを受け悠々自適な日々を送りつつ、現在は彼女共々絶賛無職中。毎月テープおこしなど『紙プロ』のお手伝いをしていたので、本誌編集部は日頃の感謝の意も込めて式の準備に追われるボンちゃんを呼びだし送別会を催したのだ。

編集部一同　ボンちゃん、結婚おめでとう！

ボン　ありがとうございます〜ぅ。わざわざ送別会まで開いてもらって、ホントすいません。

吉田　こっちこそボンちゃんには感謝してるんだよ。なにしろボンちゃんのエピソードを聞くだけで原稿一本が書けたぐらいだからさ。

チョロ　ウヒャヒャ！　これは吉田さんらしいお祝いの言葉ですね。

吉田　（すかさず）チョロに俺が金を貸してるのも同じ理由だよ！　何か原稿のネタになるかと思って貸してるんだよ。

チョロ　そ、そうなんですか……!?　ウヒャ!?

ガンツ　で、ボンちゃんはどれくらい『紙プロ』編集部にいたんだっけ？

ボン　4ヶ月ぐらいですね。

お婆ちゃんが持ってる4LDKの億ションに住む予定です（ボン）

吉田　そんな短かった？　だとしたらホント濃密な4ヶ月だったよ！

ガンツ　短期間でいろんなことがありましたよねえ（笑）。

ジャン　片山さんはボクと同期だったわけですけど、もともとは（ターザン）山本！さんの勧めで上京してきて、それで山本！さんが『紙プロ』に推薦してきたんですよね。「何かあったら俺が責任を取りますよぉぉぉ！」ぐらいの勢いで（笑）。

吉田　ボンちゃんが辞めても、あのオヤジはやっぱりフォローしなかったけどね。それどころか、ボンちゃんが『紙プロ』辞めてエディタースクールに入って、クラスの女の子たちと一緒に温泉旅行に行ったことを伝えたら、嫉妬の炎でマジギレしたからね。いつものターザンなら「殺してやりますよぉぉぉ!!」って炎上するところなんだけど、あのときは「殺してやる……!!」って炎上を通り過ぎて完全に目がすわってたんだから！

ガンツ　ボクもあんなターザンは初めて見ましたよ！　ホント背筋が凍りましたよねえ（笑）。

吉田　ボンちゃんも普段は温厚だけど、そんなターザン遺伝子をしっかり受け継いでるよね。

ガンツ　ターザンが和民の店長を土下座させるなら、ボンちゃんはキセルの罪を問われると逆ギレして、なんと駅員を土下座させましたからね（笑）。

吉田　あと、代々木駅前の交番で暴れたことがあったじゃん。会社に財布を置き忘れて電車賃がなくて、取りに戻るのが面倒だから交番に「金を貸してくれ！」って駆け込んだら「最近は返しに来ない悪質な奴が多いし、持ち合わせがない……」と断られたんだけど。それでボンちゃんは、警官に「お前の財布を見せてみろや!!」って逆ギレしたという（笑）。

ガンツ　ガハハハ！　何を言ってるんだって話ですよ（笑）。

吉田　しかも、その警官がデリバリーで弁当を頼もうとしていたことに気付いて「弁当、頼む金があるだろ！　それを貸せ！」とも吠えたわけだからさ。最後には、その警官が呆れて「サラ金にでも行け！」って言ったら、ボンちゃんは大声で「みなさ〜ん！　この警官はボクにサラ金に行くように脅すんで〜す！」って騒ぎだすから最高だよ！

ボン　あのときは他の交番から応援の警官が来ましたねぇ。

ガンツ　当たり前！　逮捕されても不思議じゃないよ（笑）。

吉田　それと、髪型が崩れるからノーヘルで原チャリ乗ってて警官に止められたこともあったじゃん。どう考えてもボンちゃんが悪いんだけど、「早く印刷所に原稿を届けないと『紙プロ』が出なくなる！　そうなったら責任取れんのか!?」ってやっぱり逆ギレするし。あげくには「ヘルメット被れ言うなら、お前のを貸せ！」とまで言い切ったからね。ボンちゃんは国家権力に対して、よく噛みつくんだよ。

ジャン　その割には編集部近くの警察署の洗面所に、「編集部はお湯が出ないから」ってことで顔を洗いにたびたび侵入してましたよね。よく職務質問されなかったのか不思議でしょうがないですよ。

ボン　あぁ。警察の人も慣れっこになってましたねぇ。

ガンツ　触ってはいけない〝危険人物〟としてスルーしてたんだろうね（笑）。

ジャン　ボクは数あるエピソードの中でも、片山さんが某・大手牛丼屋チェーンを脅しかけた話が一番、大好きですね。

吉田　ああ、牛丼に蜘蛛が入ってて「金取るチャンスや!!」といきりたった事件ね。

ボン　あれ、お金取れると思いましたねぇ。

ガンツ　ガハハハハ！　ただでさえ、ボンボンなのに（笑）。

吉田　一旦はお詫びの商品券を受け取ったんだけど納得いかなくて、店に戻って

「こんなもんいらな〜い！」って店のカウ
許してくれ〜ぇ！」ってワンワン泣きな
ボン　●●はあんまり知られてないじゃ
ジャン　去年の話ですけどね。ボクは地
あと入校作業で家に帰れなくて、冷蔵庫

ボンちゃんがDVに目覚めたきっかけは、ブリの照り焼きが原因だからね（吉田）

「こんなもんいらな～い!」って店のカウンターに投げ捨てて帰ったんだけど。ボンちゃんが凄いのはそこまで立ち回ったのに、また店に戻って「やっぱり商品券くださ～い」って言ったことだよ!

ジャン それで当時は食品関係の異物混入騒動がよく起きていたから、恐れをなした●●は金銭で解決しようとしたんですよね。

吉田 でも、ボンちゃんは「●●みたいな大手がこんなときに名前が出たらどうなると思う? こんな端金で済むと思うなよ～。もっと出せ～!! 倍や～!」と要求したわけだよ!

ガンツ ガハハハハ! それ、間違いなく恐喝ですよ!

ジャン 結局、あんまりしつこくクレーム付けてたことが逆に怖くてなって「●●が雇った暗殺者に狙われてる……」と被害妄想に陥ったわけですよ。

ボン いやいやぁ、ホントにあの当時は誰かに尾行されてたんですよぉ。

吉田 ダハハハ! しかし、これで原稿が書ければ、優秀な編集者だったのにねえ。

ボン ……ボクも『紙プロ』で働きたかったんですけどね（ションボリ）。

吉田 最近は彼女と上手くいってるの? また殴ったりしてない?

ボン また殴っちゃいましたねぇ。結婚式の新郎新婦の入場曲を「スカイハイ」にしようとしたら、彼女に「絶対にダメ!!」って言われて。それで顔を2発殴っちゃいました。

ガンツ さすがDVの帝王（笑）。

吉田 ボンちゃんがDVに目覚めたきっかけは、ブリの照り焼きが原因だからね。彼女がブリの照り焼きをつくったら、「生臭いから食べられへん!!」ってテーブルをひっくり返して家を飛び出したんだけど、土足のまま家に引き返してきて台所にいた彼女を殴ったんだよ! で、「生まれて初めて人を叩いてもうた! ゴメン。許してくれ～ぇ!」ってワンワン泣きながら謝ったんだよね。

ボン 今回は結婚式場の玄関で殴ってしまって、ホテルの人が止めに入ったんですよぉ。「スカイハイ」はどうしても流したかったのにぃ。

吉田 ちなみに結婚式はいつやるの?

ボン 大阪で9月11日にやります。

吉田 ダハハハ! よりによって「911」に「スカイハイ」を流すのはマズイだろ!

ボン はぁ。退場のときは「UWFのメインテーマ」を流そうとしたら、それも止められましたねぇ。

ガンツ 「UWFのメインテーマ」は分裂の象徴みたいなもんだからよした方がいいよ（笑）。

吉田 まったく一枚岩じゃないというね（笑）。余興も派手にやろうとしてるの?

ボン 大阪プロレスのえべっさんと、くいしんぼう仮面を呼ぶことは決まってるんですよ。その日は大阪で試合があるんですけど、試合順を変えてまできてくれるんですよ。

チョロ ギャラを弾んだの?

ボン ●万円ですけどぉ。

ジャン ●万円! そんなに払えば、試合順は容易に変えるでしょうね。

ボン もっとビッグサプライズがほしくて、▲万円で小川さんを呼びたかったんですよぉ。最後に小川さんが出てきて「ハッスル、ハッスル!!」で締めてもらおうかなぁと。

チョロ でも〝キャプテン・ハッスル〟は最近、イベントのオファーがひっきりなしだからね。その倍の金額はかかるかもしれないよ。

ボン それは手が出ませんねぇ。

吉田 というか、単なる余興に▲万円も用意してる時点で普通の結婚式じゃないよ!

チョロ 他で呼びたいレスラーはいないの?

●●をヴァーっ!と呼ぶとか。

ボン ●●はあんまり知られてないじゃないですかぁ。

ジャン ●●でダメ! 片山家のハードルは高いなあ（笑）。

チョロ 春（一番）さんなんかどう?

ボン ……? 「ハルさん」って、ハル園田を呼べるんですか?

一同 ハル園田じゃなくて、春一番!!（一斉に突っ込み）。

ボン あぁ。春一番ですかぁ。

吉田 ハル園田はそれこそ「スカイハイ」な事故で天国にいるよ! 要は全国的知名度があるレスラーに来てほしいんでしょ?

ボン そうですね。小川さんか、もしくは破壊王が良いんですけど。

チョロ 破壊王は欠場中だから呼べないことはないけど、近日中に肩の手術でアメリカに行っちゃうそうだから。

ボン ボクの結婚式のあとにアメリカに行ってほしいですぅ。旅費ぐらいはボクが持ちますよぉ。

吉田 ダハハハハ! 〝旅費ぐらいは〟って（笑）。

ボン いや、最後を締めるレスラーがいないと、式を挙げる気もしないですから。あと司会も決まってないんですよ。笑い飯に頼もうと3年前から構想してて、ルミネで出待ちで何度かお願いしてたんですけどねぇ。

吉田 それはオファーというより、まるでたけし軍団の弟子入りだよ（笑）。

ボン 結局ダメで。それでダイノジにしようと思ってHPにメールしたら「まずは口の利き方を直してからにしろ!」って返信されたんですよ。「口の利き方が悪いってどういうことですか?」ってまたメールしたら、それっきりでしたねぇ。あと吉田さんにも余興をお願いしようと思ってたんですよ。

吉田 え? 俺が余興で何をするの?

ボン 古本の講演したり、古本販売してもらおうかなぁと。

一同 ダハハハハハハ!

ガンツ どんな結婚式だよ! しかし、式もそうですけど、結婚生活が大いに心配ですねえ（笑）。

ボン そういえば、斉藤さんも結婚されたんですよね。

ジャン 去年の話ですけどね。ボクは地味にやりましたよ。

ガンツ 単純に新婚状況を比較するだけで、ボンちゃんの凄さがわかると思うよ。斉藤家の新居の間取りは?

ジャン 1LDKですね。リビングが12畳ぐらいあるから広めですよ。

ボン ……ボクは4LDKですぅ。お婆ちゃんの持ってる億ションなんですよぉ。

一同 ダハハハハハハハハハ!

ボン そのマンションには、やしきたかじんが住んでるんですよぉ。

ガンツ やしきたかじんが住んでる4LDKの億ション! 無職同士の新婚カップルが住むマンションじゃないよ（笑）。

吉田 ホントにボンちゃんのネタは完成されてるよなぁ（しみじみと）。

ボン それが最近、お婆ちゃんが「オレオレ詐欺」に遭って1億円近く取られたんですぅ。

チョロ え? それはボンちゃんの名前を騙られて詐欺にあったの?

ボン いや、そういうわけじゃなくて。お婆ちゃんは、その人間に返してもらえると信用して、3、4年に渡って貸し続けたみたいなんですけどね。

ジャン それは「オレオレ詐欺」じゃなくて単なる詐欺ですよ（笑）。

ガンツ 早く警察に通報した方がいいよ!

ボン 一応弁護士に相談したんですけど、借用書が存在しないから法的には無効らしいんですよ。困ったことに、おばあちゃんは、まだ貸そうとしてるみたいなんですよぇ。

吉田 筋金入りの一族だね（笑）。ところで、子どもはつくる予定はあるの?

ボン う～～ん。ボクは子どもは嫌いなんですよぉ。

吉田 それはわかる。自分が子どもでいたんでしょ?

ボン というか、子どもと目が合わせられないんですよぉ。結婚式で親戚の子どもがやる花束贈呈も、それが理由で断りましたからぁ。

吉田 ボンちゃんは虫も大嫌いじゃん。都内の高級マンションに住んでる時にゴキブリが出たことが理由で、わざわざ新築の超高級マンションに引っ越したりさ。あと入校作業で家に帰れなくて、冷蔵庫に虫が沸いてるんじゃないかと不安になって開けられなくて、当時大阪にいた彼女にわざわざ上京させて確認させたり（笑）。子どもと虫、どっちが嫌い?

ボン ……う～ん。子どもですねぇ。

ガンツ ガハハハ! 子どもはゴキブリ以下かよ（笑）。

吉田 でも、大阪に帰ったら飲食店をやるんでしょ? 飲食店絡みのテナントだと、絶対にゴキブリが出るはずだよ。

ボン あぁ。まったく考えてなかった……。まぁ、別に飲食店もやりたいわけじゃないんですけどねぇ。

ガンツ なんだそりゃ（笑）。何料理をやる予定なの?

ボン 何も決まってないですねぇ。でも、フードコーディネーターの人がボクでもつくれる料理を考えてくれるそうですけど。

吉田 ボンちゃんでもつくれる料理っていうけど、ボンちゃん、いままで料理したことあるの?

ボン まったくないですねぇ（キッパリ）。

吉田 ダハハハ! とりあえず、お幸せに!

【04年8月26日／代々木にて収録】

その後、ゲスト招聘の件で各方面に多大な迷惑をかけ続けたボンちゃん。もう聞いて呆れる内容なので詳細は割愛するが、なんとか破壊王の招聘には成功!

急な依頼にも関わらず、スペシャルゲストとして式場に駆けつけた破壊王。乾杯の挨拶を務めたあとに、自ら指名した式出席者（しかも全員女子）に続けざまに水平チョップをお見舞い! その胸板は赤く腫れ上がってしまい、ちょっとした騒動になったというから、さすがは破壊王だ! そして各テーブルを回ってハッスルポーズを連発! 新郎新婦にはプレゼントを持参する気の使いようで、ボンちゃんは式の冒頭から涙が溢れて止まらなかったという。良かったね。というわけで、今後は大阪を拠点に生活を送ることになるボンちゃん。数々のエピソード（本当はもっと危険。掲載可能なものだけをセレクト）を読めばわかるように、今後も〝歩く人間トラブル〟としてその伝説を増やし続けるのは間違いない。

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

行楽の秋！　一家総出でプロレス＆格闘技三昧!!

パンクラスでヤノタクが、柔術大会で十段がそれぞれ復活。事件後、初の試合に挑む入江。ムエタイの現役選手を迎え撃つしなし。地元に凱旋する長南などなど、非常にアクの強い……じゃなくて個性豊かなファイターが揃った情報ページ！　担当はサイノです。

Fight & Ticket　試合・大会情報

ブラジル帰りの今成が 9・19プロ柔術大会に参戦！

『プロ柔術GroundImpact～Gi-05～』
■日時　9月19日
昼の部 開始13:30（13:00開場）　夜の部 開始17:30（17:00開場）
■会場　東京・ディファ有明
■チケット（1枚で昼夜両方の観戦可能・当日500円up）VIP席 50000円（南正面最前列・グッズ&特典付）／SRS席 12000円（最前列）／RS席 8000円（アリーナ2～3列目）／A席 6000円／B席 4000円（完売）
■対戦カード　今成和成vs渡辺孝、中井祐樹vsヒカルド・デラヒーバ、早川光由vsペドロ・ブランダオ、TAISHOvs山崎剛、他
■HP　http://www.if-pro.com/

10・30DEEP後楽園大会 しなしvsムエタイ、入江出場決定!!

『DEEP 16th IMPACT DEEPウェルター級トーナメント準決勝・決勝』
■日時　10月30日（土）試合開始18:00（開場17:00）
■会場　東京・後楽園ホール
■チケット　VIP席（最前列）15000円 ／SRS席 10000円／指定A 8000円／指定B 6000円／指定C 5000円
■対戦カード　しなしさとこ（フリー）vs スパットラー・カオマヒン（現役ムエタイ選手）
羅王（猪武者）vs 藤沼弘秀（荒武者総合格闘技術）
小野瀬哲也（FEGHTING SPIRITS）vs 長岡弘樹（総合格闘技DOBUITA）
入江秀忠（キングダムエルガイツ）vs X　他、数試合予定
■問 DEEP事務局 052-339-0303　■HP http://www.deep2001.com/

バチバチの秋！ 10・10バトラーツ越谷大会!!

『闘いのソナタ』
■日時　10月10日（日）試合開始17:00（16:00開場）
■会場　埼玉・桂スタジオ
■チケット　SRS席 5000円／自由席 4000円／小中生 1000円（当日販売）
■参加選手　石川雄規、原学、藤原喜明、ライダー2号、竜司ウォルターズ、臼田勝美、倉島信行、他
■問　バトラーツ　0489-63-0005　■HP　http://www.battlarts.jp/

スマックガール アマチュア大会

大会詳細は下記の通り。参加をご希望する方は、メール、電話、FAXにて参加申込用紙を請求すること。

『SG-F10』参加選手募集！
■日時　10月17日（日）　試合開始予定11:30（計量11:00）
■会場　SOD女子格闘技道場（東京都豊島区要町1-1-11　要町KTビル5F）
■試合形式
【SGS-Fルール】※防具着用。スタンドの打撃有。グラウンドでの顔面パンチは無し
【SGG-Fルール】※グラップリングルール
■募集階級　－47kg級・－52kg級・－60kg級・－70kg級・無差別級
※応募状況によっては、体重の近い選手同士の対戦の場合あり
■出場資格　16歳以上の感染症の無い健康な女性　※プロ・アマ問わず
■参加費　2000円　※要スポーツ保険　■応募締切　10月6日（水）必着
■問　スマックガール実行委員会　090-1773-5647（担当 勝井）
■FAX　03-5378-1860　■メール　smackgirl2002@hotmail.com
■HP　http://www.smackgirl.com/

9・24&10・12パンクラス後楽園大会 古武術の不良外人・ネツラーに大注目！

金原モンスター軍（P89からのインタビュー参照）のネツラーがメインに登場し、メガトン総帥・高森と激突する。アブダビや修斗を経験し、更に古武術武神館体術10段という"海賊の末裔"ネツラーの闘いに注目だ。他にも佐々木vsシノシック、失地回復をはかる謙吾の登場、デビュー戦で素晴らしいファイトをみせた三浦の第2戦目など見所満載!!　10月にはヤノタクが復活だ!!

『PANCRASE 2004 BRAVE TOUR』　試合開始18:30（17:30開場）　東京・後楽園ホール
■チケット（当日500円up）SS席 12000円／A席 9000円／B席 6500円／C席 5000円／D席 4000円／立見 3500円

■9月24日（金）
◎対戦カード　❼【スーパーヘビー級戦 5分2ラウンド】高森啓吾（パンクラスMEGATON）vs アンソニー"辰治"ネツラー（TEAM Boon!）❻【ライトヘビー級戦 5分3ラウンド】佐々木有生（パンクラスGRABAKA）vs エルビス・シノシック（マチャドブラジリアン柔術）❺【スーパーヘビー級戦 5分2ラウンド】謙吾（パンクラスism）vs アレックス・ロバーツ（KJK/Justiceマネージメント）❹【ウェルター級戦 5分3ラウンド】和田拓也（SKアブソリュート）vs 井上克也（RJW/CENTRAL）❸【ミドル級戦 5分2ラウンド】中西裕一（フリー）vs 三浦広光（パンクラスMEGATON-TOKIN）❷【ライトヘビー級戦 5分2ラウンド】佐藤光芳（パンクラスGRABAKA）vs 白井祐矢（アンプラグド国分寺）❶【ウェルター級戦 5分2ラウンド】関直喜（フリー）vs 石毛大蔵（SKアブソリュート）

■10月12日（火）
◎対戦カード　【ミドル級戦 5分3ラウンド】石川英司（パンクラスGRABAKA）vs 岡見勇信（和術慧舟會東京本部）／【ライト級戦 5分2ラウンド】NUKINPO!（P'sLAB東京）vs 井上和浩（インプレス）／【フェザー級戦 5分2ラウンド】山本篤（KILLER BEE）vs 藤原大地（パンクラス稲垣組）／【ライト級戦 5分2ラウンド】※キャッチレスリングルール　矢野卓見（烏合会）vs 宮田卓郎（名古屋ブラジリアン柔術クラブ）／【ウェルター級戦 5分3ラウンド】伊藤崇文（パンクラスism）vs 門馬秀貴（A-3）　※他、数試合を予定
■問　パンクラス　03-5792-0815　■HP　http://www.pancrase.co.jp/

山形初のプロVT大会 10・3『長南祭り』開催！

10月3日、CLUB DEEPが東北初上陸！　山形が生んだ狂戦士・長南亮が地元凱旋を果たし『長南祭り』を開催する。エキシビジョンに登場する長南の対戦相手は、なんと"若き寝技王"高瀬大樹。山形に密行決定だ!!



■日時　10月3日（日）試合開始15:00、フューチャーファイト13:30（13:00開場）
■会場　山形・三川町町民体育館
■チケット（当日500円up）全席自由 3500円（小学生以下無料）
■対戦カード【エキシビジョン】長南亮 vs 高瀬大樹
【5分3Ｒ】リオン武 vs 小塚誠、司杉内勇 vs 堀友彦、長岡弘樹 vs 金井良一、他8試合
■問　DEEP事務局　052-339-0303、マイロビー内長南亮後援会　0235-33-0110

田村抜きで開催！　10・9U-STYLEディファ大会!!

10月９日のU-STYLE 11は、若い選手たちが"試合内容で勝負する"というコンセプトで開催。有名選手のネームバリューに頼らないとのことで、あえて田村潔司が欠場する。ちょうど１年前も同様に田村抜きで大会を行い、内容的には盛り上がったものの、客入りでは大惨敗。成長著しい若手たちは、客席がガラガラだった１年前の悪夢にリベンジすることができるか？

■日時　10月9日（土）試合開始17:00（16:00開場）　■会場　東京・ディファ有明
■チケット席種（当日500円up）VIP席（最前列）7000円／RS席 5000円／指定A席 4000円
■出場予定選手　上山龍紀、伊藤博之、佐々木恭介、原学　他
■問　U-STYLE　044-932-0282　■HP　http://www.u-filecamp.com/

入江事件みそぎマッチ敢行！ 10・6キングダム渋谷大会!!

Ticket Present　大会チケットを3名様にプレゼント
応募方法はP143参照

■日時　10月6日（水）　試合開始19:00（プロの試合は20:00～）　■会場　東京・渋谷club ATOM
■チケット（当日500円up）全席自由　4500円
■対戦カード【エルガイツ特別ルール】入江秀忠 vs X　【エルガイツルール レベル3（ヒジ、頭突きあり）】RYOTA vs 金家充幸
※他、大物格闘家の試合を含む13～14試合予定。
■問　042-376-1639　■HP　http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/



団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■猪木事務所
03-5468-5656
〒150-0001　東京都渋谷区東1-25-2　丸橋ビル4F
http://www.inokiism.com/

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002　大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025　東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011　東京都目黒区青葉台4丁目4番5号渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp/

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/

■掣圏道
042-544-6979
〒196-0013　東京都昭島市大神町1-2-22
http://www.seiken-do.com/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073　東京都千代田区九段北1-5-10　九段有楽ビル6F　http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒153-0064　東京都目黒区下目黒2-17-17
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053　神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■高田道場　03-5749-5030
〒142-0062　東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂　03-5464-2806
〒150-0011　東京都渋谷区東2-17 -12 -404号
http://www.Takayama-do.com

■闘龍門JAPAN
078-333-9797
〒650-0004　兵庫県神戸市中央区中山手通2-3-18
メープル中山手201
http://www.gaora.co.jp/dragon/index.html

■ドリームステージエンターテインメント（PRIDE）
03-5464-1531
〒107-0061　東京都港区北青山3-12-9　花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス 03-5792-0815
〒106-0047　東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063　東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048　神奈川県横浜市中区蓬莱町2ー247　SSビル310

■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063　岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

■リキプロ　03-3754-6340
〒146-0085　東京都大田区久が原3-23-13 サシダハイツ久が原303

■A to Z　03-3678-7777
〒132-0013　東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT　03-5360-6653
〒106-0022　東京都新宿区新宿1-23-6　グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071　愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0004　兵庫県神戸市中央区中山手通2-3-18 メープル中山手201
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036　東京都渋谷区南平台6-7　MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061　東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン 03-3352-3366
〒160-0004　東京都新宿区新宿2-15-13　第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052　東京都港区銀座1-8-21　第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP　03-5849-2341
〒121-0052　東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW　03-5228-4331
〒112-0014　東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号
http://www.llpw.co.jp/

■NEO　044-422-8344
〒211-0011　神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■SMACK GIRL 実行委員会
090-1773-5647（担当・勝井）
〒156-0041　東京都世田谷区大原1-63-9　恒心ビル801　株式会社プロテック内
http://www.smackgirl.com/
info@smack girl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014　神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO　0467-82-2034
〒253-0053　神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R　044-833-7042
〒213-0027　神奈川県川崎市高津区野川2193ー11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■UNW　03-3362-3014
〒164-0003　東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F.スネークピットジャパン　03-3337-1889
〒166-0002　東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WJプロレス
03-3751-4546
〒146-0085　東京都大田区久が原3-31-1　いずみハイツ
http://www.wj-pro.net/

■WMF　049-239-3520
〒350-0812　埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS　0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

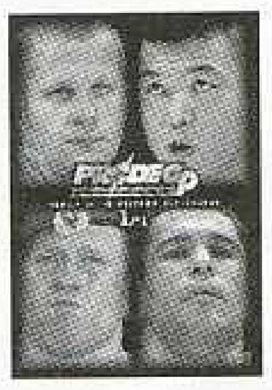
■ZERO-ONE
03-5730-3401
〒105-0014　東京都港区芝2-30-11　寿ビル601
http://www.zero-one.to/top.html

■ZST　03-5321-9595
〒106-0023　東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F
http://www.zst.jp/

DVD　話題＆最新作情報

『PRIDE GP 2004 決勝戦』

DVD／168分／¥5040（税込）／10月29日（金）発売

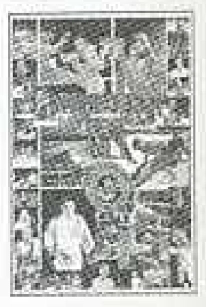


全試合を完全決着で勝ち抜いた4選手が“60億分の1”を賭けて大激突！ 史上空前の超ド級イベントはどういった結末を迎えるのか!? GPの他にもミルコ復活劇、シウバvs近藤の王者対決、そしてDVDならではの特典映像など見所満載だ!!

■全対戦カード　❶中村和裕 vs ムリーロ・ブスタマンチ ❷【PRIDE GP 2004 Semi Final】アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs セルゲイ・ハリトーノフ ❸【PRIDE GP 2004 Semi Final】小川直也 vs エメリヤーエンコ・ヒョードル ❹【PRIDE GP 2004 Reserve Match】ケビン・ランデルマン vs ロン・ウォーターマン ❺ミルコ・クロコップ vs エメリヤーエンコ・アレキサンダー ❻ヴァンダレイ・シウバ vs 近藤有己 ❼【PRIDE GP 2004 Final】アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs エメリヤーエンコ・ヒョードル
■問メディアファクトリー 03-5469-4880（10:00〜18:00/土日、祝日は除く）
■HP　http://www.mediafactory.co.jp/

『修斗 2004 BEST vol.1』

2枚組約290分／7980円（税込）／10月2日（土）発売



名勝負が続出した2004年前半戦の中から厳選した試合を収録。ホーキ vs 高谷、植松 vs パルバー、川尻 vs 宇野、ルミナ vs ペトライティス、松根 vs リマ、パーリング vs 高谷、他多数！

『全日本ライト級最強決定トーナメント2004』

約240分／5880円（税込）／10月20日（水）発売



大月晴明、小林聡、白鳥忍 、サトルヴァシコバ、そしてサムゴーら強豪が多数参戦した最強決定トーナメントがDVD化！『藤原祭り』で行われた奇蹟の対決・藤原敏男＆國奥vs宇野＆小林も特別収録だ!! 掣圏道のモデル・我らが敏ちゃんに刮目!!
■問　クエスト　03-3360-3810
■HP　http://www.queststation.com

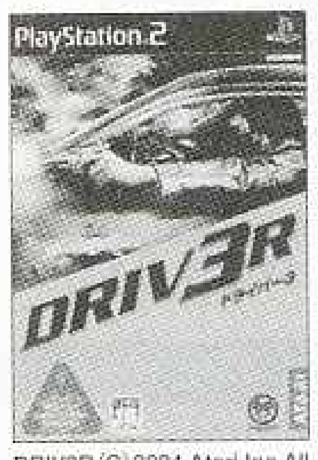
And Others　その他情報

マチコ先生の実写版になんと、笹原GMが出演!

ファンレターが来て調子に乗ってる、スター気取りの笹原ＧＭ（by高田総統）が、なんと『実写版まいっちんぐマチコ先生』に出演！ 監督は『いかレスラー』でお馴染みの河崎実。出るか、魂の“シャラップ”!!

『まいっちんぐマチコ先生 THE MOVIE〜Oh! コスプレ大作戦〜』
■上映　10月16日（土）〜22日（金）20:00〜21:30予定（19:45開場）
■入場料　1200円（当日200円up／ワンドリンク付）
■会場　アップリンク・ファクトリーで特別限定レイトショー
■監督　河崎実
■出演　名波はるか、加藤つかさ、倉貫まりこ、類家明日香、笹原GM、イジリー岡田、他
■問　TMC　03-3464-2721
■HP　http://www.tmc-ov.co.jp/

イメージキャラはミルコ! 過激ゲーム『DRIV3R』発売決定!!



DRIV3R (C) 2004 Atari,Inc.All Rights Reserved.

ミルコ・クロコップがイメージキャラクターを務める『DRIV3R（ドライバー3）』が10月に発売！ 全世界でシリーズ累計1200万本の販売実績をもつ超ヒット・ドライビングアクションゲームだ。元組織犯罪専門捜査官のミルコになりきって、国際窃盗団の壊滅を目指せ！

『DRIV3R』7140円（税込）／10月発売予定
■対応機種　プレイステーション２
■ＨＰ　http://www.atari.com/driv3r

吉田豪のジャングルファイト

■日時　9月25日（土）19:00開演（18:30開場）
■会場　ジャングルインディペンデントシアター（大阪市浪速区日本橋5丁目12-4 ジャングル本店1F）
■交通　大阪市営地下鉄堺筋線 恵美須町駅1B西出口 左手（南）に1分
■チケット　2500円（当日300up）
■問　TEL　06-6635-1777（FAX　06-6636-7449）
■HP　http://west-power.co.jp/theatre/map.htm

クロアチア直輸入のミルコグッズがズラリ!

シーズ カンパニーでは、謎多きミルコの特訓内容が明かされたDVDや、オフィシャルTシャツなどファン感涙のアイテムを多数取扱い中！ 今回はシーズ カンパニーがミルコグッズセットをドカンと3名様にプレゼント!! （P142参照）

■問　0794-85-8228　■HP　http://www.seaz.jp/

『ハッスル物語』でお馴染み須田先生が連載開始!



ハッスルパンフの『ハッスル物語』でお馴染み・須田信太郎先生が、現在発売中の『月刊コミックビーム』10月号で新連載『ハードコアパパ』（全5回）を開始！ ハードコアプロレスラーでロック世代の父親と、初期援助交際世代の母親、そしてその子供が織りなす愛の物語だ。必読！

■HP　http://www.enterbrain.co.jp/

紙プロHand　更新・最新情報

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスHand』では、発売日翌日の９月19日（日）深夜０時より『PRIDE.28』のチケット先行予約を開始!! 一般発売より早く、特典つきのチケットが予約出来るぞ!! ショッピングコーナーでは新作ハリトーノフ・パーカーの他、Ｔシャツ、リストバンドなどの『ハッスル』グッズも携帯から買える！ もちろんその他メニューも充実。写真は９月配信の中川画伯カレンダー待画。毎月“旬”のイラストカレンダーを２枚ずつ配信！ 近日コラムコーナーに新メニューもスタート予定なので、こちらも要チェック!!



Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲	紙プロHand
au/TU-KA	トップメニュー	遊ぶ・楽しむ or インターネット	スポーツ	格闘技	紙プロHand
vodafone	メインメニュー	ボーダフォン・ライブ	メニューリスト	スポーツ → 格闘技	紙プロHand

本誌 Back Number



no.08 '94.01

特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが「紙プロ」初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen 50%OFF



no.13 '95.03

特集 道場破りとは何か？

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／「平成ファミコン・プロレス」馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen 50%OFF



no.14 '95.04

特集 神秘とは何か？

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF



no.15 '95.05

特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF



no.16 '96.06

特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen 50%OFF



no.17 '95.07

特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄規・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF



no.19 '95.09

特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

780yen⇒390yen 50%OFF



極真魂溢れる16人を直撃！ 完売間近

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／盧山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen 50%OFF

"燃える情念"石川雄規、初の自叙伝!! '00.04



情念～夢一途なり～石川雄規

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長・石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆十書き下ろし！ 自称"世界一の猪木信者"石川社長が、あまねく全ての人に捧げる珠玉の一冊！ 情念とは何かが分かる本である。

1700yen⇒900yen 50%OFF

みんなで遊べる付録付き!! '01.04 完売間近



総238ページ

さくぼん

『PRIDE』の会場でも大人気!! サクのすべてがよくわかる桜庭和志初のインタビュー集！ 花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやポスター、動く必殺技「炎のコマ」「炎の人力車」、サクマシン立体組お面など付録がこれでもか！とばかりに付いています！

1000yen

インタビューという名の鉄拳史 完売間近



紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！
プロレス、UWF、そしてリングスとは何か？／大山倍達とは何か？／激白！プライドとは何か？／特別対談 撃墜王・坂井三郎×前田「勝負師とは何か？」／特別対談 イエローキャブ社長・野田義治×前田「巨乳とは何か？」／『バカの壁』著者・養老孟司×前田「脳みそとは何か？」／大和魂檄談・エンセン井上×前田 他、珠玉のインタビュー＆対談が多数収録!!

1575yen

no.63 表紙 OH砲（イラスト） '03.06 / 880yen

吉田秀彦が大英断！ ミドル級GP出陣！

- 「お前は男だ」劇場炸裂！ 高田延彦
- 『PRIDE』REBORNを大総括!!
- 憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー
- 芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭&田村 '03.07 / 900yen

灼熱の『PRIDEミドル級GP』直前号!!

- "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- 『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー
- ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"
- スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08 / 880yen

ヒョードル×ミルコ、闘争本能世界一決定戦!!

- "最後の皇帝"燃え上がる！ ヒョードル
- "反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ
- 吉田秀彦戦の"謎"に迫る！ 田村潔司
- 闘魂ストーカーを捕獲！ イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09 / 880yen

ミルコ、『武士道』電撃出陣！ もはや誰にも止められない!!

- 緊急独占インタビュー！ ミルコ
- マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮
- "天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦
- 『東スポ』とは何か？ 柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田 '03.10 / 880yen

吉田とシウバ、いざ激突!! 衣(ギ)は赤く染まるか!?

- ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー！ ミルコ
- "柔術超獣"復活へ!! ノゲイラ
- 『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー
- アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

no.68 表紙 高田&桜庭&曙&猪木 他 '03.11 / 880yen

人類史上稀にみる"大晦日・格闘技大戦"!! 白黒ハッキリ決めようやーッ!!

- 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 高田延彦
- 横綱がK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
- 一年ぶりの勝利で ニコニコインタビュー 桜庭和志
- "野良犬"『紙プロ』初登場！ 小林 聡

no.69 表紙 OH砲 '03.12 / 900yen

大晦日・格闘技大戦&1・4プロレス戦争直前!! 年末年始もドゥ・ザ・ハッスル!!

- 出てこい！ 泣き虫!! 橋本真也&小川直也
- 『泣き虫』著者登場！ 金子達仁
- 大晦日直前インタビュー！ 田村潔司
- アイ アム リアルプロレスラー 美濃輪育久

no.70 表紙 ミルコ '04.01 / 880yen

年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!! OH、ゴーバー登場！『ハッスル』とは何か!?

- PRIDE征服宣言！ ミルコ
- シウバに宣戦布告！ 近藤有己
- ド真ん中の真実を語る！ 佐々木健介&北斗晶
- 発表！ 紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&高田 '04.02 / 880yen

プロレスよ、踊れ！ 3・7『ハッスル2』は大フィーバー!!

- 『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ&ノゲイラ
- 待望の『紙プロ』初登場！ 川田利明
- 理想のプロレスを追い求める！ AKIRA
- スクープ！ 幻の猪木vsアミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ '04.03 / 840yen

最強への求道者たち全員集合!! PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!

- GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル
- 第二のミルコとなるか!? ステファン・レコ
- K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁
- 全て見せます!!『突撃！ 佐々木健介邸』

no.73 表紙 小川直也 '04.04 / 880yen

暴走王が忘れたころにやってきた！ PRIDE・GPでハッスルするぞ!!

- GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也
- PRIDE・GP出場全選手パーフェクトガイド
- キックの名伯楽登場！ 伊原信一
- 魔界のニューリーダー 村上和成

no.74 表紙 小川直也 '04.05 / 880yen

シュート？ ワーク？ くだらねえ、次元が違うよ！ いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!

- PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也
- リベンジロード発進!! 桜庭和志
- "ハードコアのカリスマ" ミック・フォーリー本誌初登場！
- 聖圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

no.75 表紙 小川&桜庭&吉田 '04.06 / 880yen

英雄、奇蹟の揃い踏み！ 小川、桜庭、吉田がPRIDE GP準決勝に集結!!

- シウバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也with藤井軍鶏侍
- 奇蹟の独占インタビュー！ 高田総統
- インド狂虎登場！ タイガー・ジェット・シン
- 年金未納からUFOまで ザ・グレート・サスケ

no.76 表紙 小川直也 '04.07 / 880yen

プロレス大爆発へ最後の挑戦！ ハッスルするなら今しかねえ!!

- スクープ発言連発！ 小川直也
- 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ
- 厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志
- 新連載『月刊PG談（仮）』 吉田豪×掟ポルシェ

no.77 表紙 小川直也 '04.08 / 880yen

『PRIDE・GP決勝』直前濃密大特集！ 小川、史上最大の査定試合へ!!

- 「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」 小川直也
- 狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ
- サンボの神様降臨!! ビクトル古賀
- ロシアで英雄と再会！ ヴォルク・ハン
- 幻想大国ロシア・現地潜入徹底リポート

no.78 表紙 小川直也 '04.09 / 840yen

『PRIDE・GP』徹底総括！ ハッスルとは出直しの連続なり!!

- 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也
- 小川の敗戦をどう見る!? 高田PRIDE統括本部長
- K-1のトップが小川を語る 谷川貞治
- 壮絶インディー人生！ 田中将斗

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文
②電話注文 03-3403-5142
③メール注文 kapra@kamipro.com

※①～③の通販方法はすべて代引きです。
※代引きの送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

④郵便振替で注文
00130-3-769154
(株)ダブルクロス

※郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記して下さい。
※本誌かRADICALかを必ず明記して下さい。

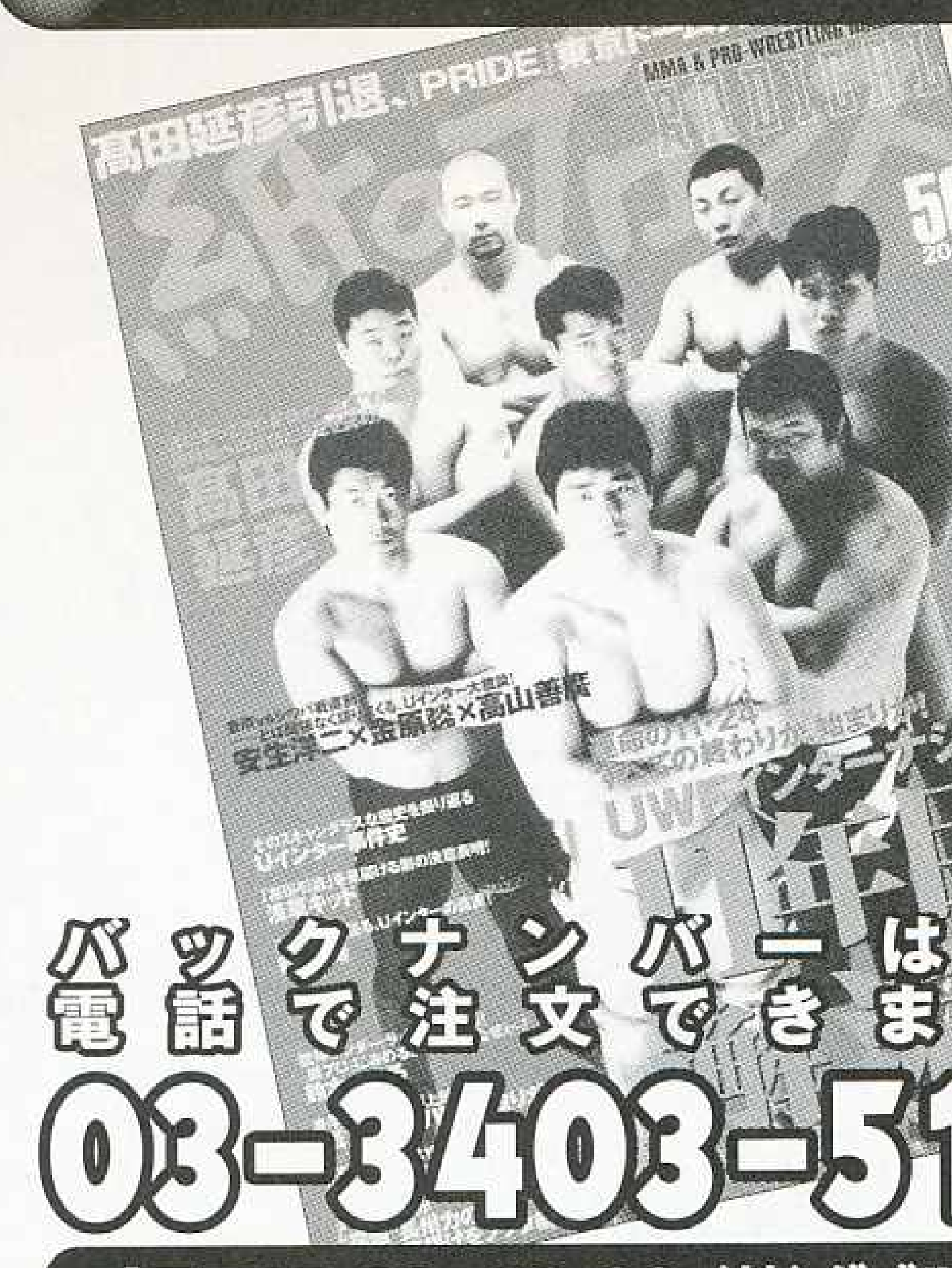
▼郵便振替の送料
1冊＝310円、2冊＝380円
3～4冊＝450円、
5冊＝520円、
6冊以上＝700円

紙のプロレスRadical 常備店

- ■アイドール新宿店
- ■新宿ファイター
- ■大山アメリカン
- ■プロレスマニア館
- ■チャンピオン
- ■リングスパレス
- ■バディスラム
- ■タコシェ
- ■レッスル池袋
- ■書泉ブックマート
- ■書泉ブックタワー
- ■書泉グランデ
- ■グレートアントニオ
- ■東京イサミ

最強のプロレス団体
Uインター、もう一丁ッ!!

Radical Back Number



バックナンバーは電話で注文できます!!

03-3403-5142

【平日15:00〜22:00（株）ダブルクロス】

"マット界の奇蹟"Uインターとは何か？ バックナンバーで再検証だ!!



no.55 『PRIDE.23』で高田vs田村が実現! 細胞を叩き起こす夢幻大の真剣勝負!!

- 「真剣勝負」発言から7年目の決意を語る! 田村潔司
- "Uの実力者"がシウバと一騎打ち! 金原弘光
- 『PRIDE.23』で劇的復活!! 桜庭和志
- 掣圏道完成! 靖国神社で興行開催か? 佐山聡

'02.09 / 880yen



no.56 愛すべき若気の至り! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!

- 田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 高田延彦
- 超大好評!『蘇れ、Uインター伝説』 安生&金原&高山
- 高田vs田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド
- ライガー戦直前! 遂に『紙プロ』初登場!! 鈴木みのる

'02.10 / 880yen



no.57 一瞬の11・24!『PRIDE.23』 高田延彦引退試合を大総括!!

- 高田戦直後、新たなる"U"が始動!! 田村潔司
- サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- 高田vs田村を語り尽くす! ターザン×鈴木健×山口日昇
- 悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ

'02.11 / 880yen



no.58 UWF、そしてUインターとは何か? Uの落とし子がプロレス界に爆弾投下!!

- Uの遺伝子を受け継ぐ超豪華対談 田村潔司×高阪剛
- "Uインターの頭脳"が再会! 宮戸×安生×鈴木健
- 夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
- 名言&迷言大集結! マット界語録2002

'03.01 / 880yen

---

no.15 表紙 小川直也 '99.02 / 780yen

リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川vs橋本"1・4事変"勃発!!

- あの"1・4事変"を徹底大検証!!
- "前田日明・最後の相手" アレキサンダー・カレリン
- 引退記念雑談会 「語ろうマサ・サイトー!」
- S多重アリバイ 佐野雄飛

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03 / 780yen

格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!

- 環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- 完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- 相撲多重アリバイ 石川孝志
- マーク・コールマン

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!

- 三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- プロレススーパースター列伝 仲野信市
- 本誌独占ジャンボ鶴田夫人 最愛の夫の真実を語る!!
- TKおかん

no.32 表紙 小川直也 '00.10 / 840yen

針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!

- 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
- プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- "和製カレリン"本田多聞

no.34 表紙 小川直也 '01.01 / 840yen

『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!

- UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- 修斗から『猪木祭り』へ! 宇野薫
- ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン（イラスト） '01.02 / 840yen

「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号

- ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- "ノアの怪物"杉浦貴
- UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也（イラスト） '01.02 / 840yen

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!

- ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
- ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言
- W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- 吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37 表紙 小川直也（イラスト） '01.04 / 840yen

小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻

- 安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!
- アブダビコンバット2001一大探検記!
- シュート活字×ファンタジー活字
- 他に比類なきプロレスがWWFにはある!

no.38 表紙 高田（イラスト） '01.05 / 840yen

小川と長州、どちらが孤独だったのか!?

- 忘れ物の正体は——。高田延彦
- ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- プロレススーパースター列伝 阿修羅原
- 死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06 / 840yen

どうなるんだ、リングス! 前田 is デッド!?

- 前田道場新エース・金原弘光
- 怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会
- 壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen

猪木軍vs K-1に見たいものは"地上最強のプロレス"

- 蘇れ!Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光
- 熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎
- プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen

Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来!

- リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る
- 真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!
- W☆INGの真実・茨城清志
- 毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen

猪木なら何をやっても許されるのか!?

- ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- "ヒャッホーの真実"辻よしなり
- 蘇れ!UWFインター伝説! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- 誇り高きルチャ戦士 カト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.10 / 880yen

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!

- ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- 大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
- 金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
- 野武士が語るんだよな 中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen

サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?

- その修羅場の数々! シーザー武志
- 怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
- ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- 闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen

「K-1vs猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!

- 悪魔の書、現る! ミスター高橋
- ジェラルド・ゴルドー人生相談
- プロレススパースター列伝 グレート小鹿
- 語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen

WWE日本侵攻5秒前!

- "天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
- 噂の馳浩が新日分裂から ミスター高橋本までを語る!
- 第一次リングス閉幕特集
- プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!

- 奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー
- 和田良覚伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
- 伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
- WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭 '02.04 / 880yen

究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!

- 和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
- 破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
- ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05 / 880yen

サクが笑えば、世界が笑う!!

- 「地方発世界」開始! 小川直也&橋本真也
- リングスロシア軍団の軌跡
- パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!
- ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen

ZERO-ONEに願いを!

- 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也
- 『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子
- 天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談
- 新・超獣 ザ・プレデター

no.52 表紙 OH砲 '02.07 / 880yen

見えない鎖を引きちぎれ! 小川直也リング外での暗闘!!

- 全身プロレスラー・高山善廣
- USAの渡世人ドン・フライ
- 『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- 戦慄の『LEGEND』前夜!

売り切れ寸前!!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08 / 880yen

世紀のビックイベント『Dynamite!』直前大解剖!!

- ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- 独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
- 爆裂! 川村社長ガチンコ語録!
- 偽造王の知られざる半生! 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08 / 880yen

不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!

- "首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー
- "青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット
- 純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- 猪木とは何か? アントン実兄・猪木快守

売り切れ寸前!!

no.59 表紙 ヒョードル '03.02 / 880yen

吹けよ!呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!

- いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
- アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
- 爆発!! WJマグマ語録
- 吉田道場の秘密兵器 中村和裕
- UWFの再興と再考 田村潔司

no.60 表紙 ヒョードル '03.03 / 880yen

英雄、変貌好む!!『PRIDE』RE・BORN!!

- ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
- 驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
- あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
- 全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04 / 880yen

5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!


- 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也
- 1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05 / 880yen

誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!

- ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- 現役復帰間近!? 船木誠勝
- 藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル
- 新日本バードを徹底検証!!

BACK NUMBER



絶賛発売中!
プライベート、オフショットも満載!
DRAGON GATE
ぴあ
DRAGON GATE PRO-WRESTLING
オフィシャル・ブック
新たな伝説の扉が今、開かれた!!
5年間の歴史を完全パック!
ユニット変遷史
CRAZY MAX／正規軍
M2K／Do FIXER
イタリアン・コネクション
悪冠一色
EL NUMERO UNO & UDG王座 PLAY BACK
感動のアニベルサリオ
7・4神戸ワールド記念ホール大会
「闘龍門JAPAN」から『DRAGON GATE』へ!
新体制のビジョンと決意を語る
マグナムTOKYO 岡村隆志
初の
完全ガイドブック
定価:本体1700円+税
登場!
闘龍門JAPANからDRAGON GATEへと、
劇的変貌を遂げた団体の
5年間の歴史を集大成!
彼らの過去・現在・そして未来が
この一冊にすべて詰まっている!
【主な内容】
・新体制、決意表明!
マグナムTOKYO／岡村隆志
・ユニット別変遷史
C-MAX／正規軍／M2K／
DoFIXER／
イタリアンコネクション／
悪冠一色
・UDG歴代王者
・EL NUMERO UNO
2001～2003激闘史
・EL NUMERO UNO
2004全公式戦完全網羅!
・プライベートショットも満載!
・B5サイズ　オールカラー　128P
・発売:ぴあ株式会社
・問:03-3265-1424(ぴあ販売部)
ぴあ
DRAGON GATE PRO-WRESTLING



ターザン山本！

ウルティモ・ドラゴン

すべての言葉が危険球！

激論！ 21世紀――！ プロレスが生き残る道とは？

［前編］

混迷のマット界をブッた斬る好評企画が再び登場！　毎回毎回物議を醸すこの対談、今回は闘龍門－「DRAGON GATE」の“分裂騒動”をウルティモ本人が激白！　さらにどこかの「TVプロレス討論会」のようなお題を10倍過激ににてお届けします！

本文構成／松澤チョロ　構成／堀江ガンツ
撮影／乾晋也　試合写真／平工幸雄
designed by matsu (Two Three)

ターザン山本！

ターザン （嬉しそうに）浅井さん！ 今回の一連の闘龍門（『DRAGONGATE』）絡みの話っていうのは、ホント面白いというか、振り出しに戻ったというか、ゼロになったというか、築き上げてきたものがなくなったというかね（笑）。

ドラゴン ホントそうなんですよ。

ターザン これは、アーティストではよくある話なんですよ。僕、ピカソが好きなんだけど、彼の言葉の中に「自分にとって、自己を模倣することが一番嫌いだ。いままで自分がやったことは二度とやりたくない」っていうのがあるんだよ。次から次へと作品が変貌していくという。

ドラゴン 世間ではいろいろ言われてますけど、僕がWWEに行く前にもう辞めるっていう話をしてたんですよ。「籍だけは残してくれ」って言われて、給料も出してくれるから、まあいいかなって思ったんですよ。で、WWEから帰ってきて、自分の中では「もういいかな」って考えてるときに、マグナムとCIMAが独立したいっていう話を持ってきたんですよ。

ターザン で、どうなんですか？ それがスッカラカンになったというか、真っ白になった気分は？

ドラゴン いいんじゃないですか？ 楽しいですよ、こっちの方が（笑）。

ターザン 寂しい部分もあるでしょう！

ドラゴン 寂しいっていうか、一部の選手たちに気がかりな部分はありますけど。別にそれはそれでいいんじゃないかと。

DRAGON GATEは 俺が築きあげたものが ようやく世に出ただけですよ



ターザン 置き去りですか？（笑）。

ドラゴン ん〜、そんな感じですね。

ターザン 「俺は俺の道を行く」と。君はなぜか、いつもこういうことを繰り返してきたわけだよね？

ドラゴン 俺の人生っていつもこうじゃないですか。良いことがあって、ダメなことがあってって繰り返す感じで。そんなんばっかりですよ。

ターザン でもマット界では、いままさに『DRAGON GATE』が世間に出た瞬間に、それを創った張本人の浅井さんがドカーンッとすべてを失うというのは、面白いというかおかしいというか。その明と暗の対比のアンバランスがお見事だよね！（笑）。

ドラゴン 『DRAGONGATE』がフジテレビでやるっていうのは、もっと前から知ってたんですよ。

ターザン フジテレビは目先が利くから、流行に乗ったコンテンポラリーなソフトには、すぐ手を付けるからねぇ。そん時、どう思ったの？

ドラゴン やればって。俺、『スマックダウン』の人知ってるじゃないですか。その関係から「そういう話があるよ」って聞いてたんですよ。俺が直接開拓した話じゃないですから、それに対して俺がどうのこうのって言うのはおかしいし。

ターザン でも、あれは君が築き上げたんだからさぁ。創ったのはウルティモじゃないですか!?

ドラゴン 選手たちはそう思ってなかったんじゃないですか？ 彼らは自分でやってきたと。

ターザン いや、でもすべての保有権はウルティモにありますよォォ！

ドラゴン 岡村も選手も、そう思ってなかったんじゃないですか？ だったら、こっちはどうぞ、と。

ターザン 「じゃあ、あげますよ」と。

ドラゴン でも、おかしいなと思うのは……。

ターザン （遮って）おかしいよ、コレ！ おかしいというか……面白いよォォ！ ネタとして最高に面白い！（笑）。

ドラゴン 彼らは「独立してすべて新しいものを創る」っていう話をしてたんですよ。「じゃあ、名前も全部変えるの？」って聞いたら、「変えます」と。で、決まったのが『DRAGONGATE』。一緒じゃないかって。闘龍門を英語にしたら『DRAGONGATE』じゃないですか。

ターザン ギャグですよォ！

ドラゴン 「リングネームももちろん変えるんだよな？」って聞いたら、「それはできません」って。結局はいま彼らが評価されてるのは、俺が築き上げてきたものが、いまようやく形になって世の中に出ただけであって。確かにお台場で1ヶ月やったヤツ（お台場毎日プロレス）、あれはホント一生懸命頑張ったと思いますよ。それは評価しますけど、いま世間に出てるからって別に彼らがやったわけじゃないじゃないですか。

ターザン だって、猪木さんが言う環状線の理論でいくと、一番遠い外側の世間にやっと届いたから、フジがつまみ食いしたんだよね、単なるそういうことですよォォ！

ドラゴン そう。それを誰が売ったかということですよね。張本人がいるってことですよ。プロデュースとかクリエイティブな部分って、目に見えないものじゃないですか。

ターザン クリエイティブとは形のないものを形にしていくものだからねぇ。つまりゼロから有（う）を生むんだから、錬金術みたいなもんですよ。彼らがもしやるとしたら、いまの『DRAGONGATE』は、無から一桁の足し算をしていくだけですよォ！

ドラゴン 独立っていうのは〝独りで立つ〟っていう言葉通りじゃないですか。俺が最後にマグナムとCIMAに言ったのは「オマエらが一から自前の選手を育てて、〝マグナムプロレス〟でも〝大島プロレス〟でもやって、それで形になれば俺は他を立ち上げようかなって思ってた」って言ったんですよ。でも現時点でやってることに関しては評価できないですね。

ターザン 引き継いでるだけだからね。

ドラゴン それだけなんですよ。今回、お台場でフジと合体してやったりということに関しては評価しますよ。だけどそれはただ単にフジが「面白いかなぁ」って思ってるだけであって。つまんないものには話持ってこないじゃないですか、絶対に。

ターザン 『週刊プロレス』の表紙もさぁ、急におかしな状況になったよねぇ。『ゴング』も『DRAGONGATE』の特集やったりとか。

一体これって何なんだと言いたいよォ！ 僕なんかハッキリ言って、2〜3年前ぐらい闘龍門をからやってたでしょ？

ドラゴン 前からそういう話をしてたじゃないですか。実際にお客さんが入ってたのは、山本さんが一生懸命にやっててくれたときがピークだったんですよ。内容とかもね。

ターザン そうでしょ？ 『週刊プロレス』のホントにピークは95年の4・2『夢の架け橋』、あの1〜2年前なんですよ。やや部数が落ちかけたときに世間はやっと遅れて気がつくんですよ。それが事実なんですよ！ 世間に届いたときには物事はすでにやや下降気味なんですよ。

ドラゴン それはわかりますよ。

ターザン これっておかしな話だよね。実際に求心力が弱まってきてるんですよ。だから『週刊プロレス』が2週間連続して『DRAGON GATE』を表紙にしたってことは、逆にもうヤバいことなんだよねぇ……。

ドラゴン いや、いま表紙になるってことは、他の団体がダメだからなんですよ。まともにやってる団体が少ないからああいう形で出るだけで。これが昔の新日本みたいにちゃんとした形でやってれば、こういうことにはなってないですよ。

ターザン とにかくいまは、プロレス界の未曾有の危機というか、危機を通り越して、柱になるとかリーダーシップ取れるとこことかはないよね。中心になるものが沈んできたので、『DRAGONGATE』が自然と浮かび上がってきたっていう。

ドラゴン ただそれだけの話ですよ。他に扱う面白いネタがないから。『ファイト』さんにも取材されたんですけど、そこでもっと俺の強烈な発言を期待してたと思うんですよ。でも俺は団体の分裂とか興味ないし、所詮相手は子供たちじゃないですか。喧嘩する相手じゃないんですよ。



ウルティモの退団が発表された7・4神戸大会の翌日、新体制発表会見が行われ、新団体名『DRAGON GATE』を発表。その場でUDG王座はウルティモに返上された。ウルティモ、『DRAGONGATE』どちらにとってもこれからが正念場だ。

激論！
21世紀――！ プロレスが生き残る道とは？

ターザン （拍手しながら）彼らはカワイイ少年たちですよォォォ！

ドラゴン ホントのことを世間の人に言う必要はないし、言ったらすべてパーになってしまうこともあるんで。それは言えないですよ。まあ、俺にとっては、また何かいろんなことができるから良かったなって。

ターザン その「これからいろんなことができる」って発想は、猪木さんがよく使うフレーズなんだよね（笑）。いつもそうやって、「いまはダメだけれども、このことによって何かが新しい展開になる。必ず新しい好転反応が起こる」って言うんだよ。それって猪木さんと発想が同じじゃないですか!? やっぱり自分のことを“猪木”だと思ってんの？

ドラゴン どうなんですかねぇ。

ターザン 猪木的だとは思ってるでしょ？

ドラゴン いや、スケールは違いますけど、最近、サイモンさんとか猪木さんのまわりにいる方とよくお仕事させていただいてて、「プロレスの業界の中で考え方とか感性が一番猪木さんに近い」って言われますね。プロレスに関してですよ。エネルギー問題とかにはあんまり興味ないし（笑）。

ターザン ハッハッハッハッ！

ドラゴン まあでも、俺が思うに、たぶん向こうとしては「僕ら独立します」って言って、俺に「ちょっと待てよ」って言って欲しかったんじゃないですか？ 「お前らの好きなようにやらせるから。俺がちょっと引くから」っていうぐらいのことは聞きたかったんでしょう。それを「ならいいよ。辞めるよ」って即決でしたからね。

ターザン それは僕が『週刊プロレス』の編集長を辞めるときと一緒だねぇ。アッサリと「ああ辞めるよ」って。

ドラゴン だって嫌じゃないですか。ウジウジするのって。

ターザン 僕も残ろうと思えば残れたんですよ。会社の功労者でいっぱい雑誌を売ったんだから、ベースボール・マガジン社に残って、そのあとは役員になれるわけですよ。でもアッサリ辞めたんだよね。それと一緒ですよォォ！ まるで自分を見てるみたいだ〜ッ!!（興奮して立ち上がりながら）

ドラゴン でも、いろんなことがあって面白いですよね。

ターザン ついこの間は、SUWAが辞めたけど、あれはどうなの？

ドラゴン 辞めたときに連絡きましたよ。

ターザン 彼だけ体質が合わなかったの？

ドラゴン 考え方が違うんじゃなくて、彼がいろんな本質を見抜いたっていうことですよね。

ターザン （手を叩いて）あっそう（笑）。ということは、彼の性格が真っ直ぐに出たわけだ！

ドラゴン アイツに聞いた方が話はわかりますよ。アイツは中にいた人間だから。「30歳でプロレスを辞めます」って言って、あと1〜2

ターザン山本！

年じゃないですか。何で1～2年我慢できないのかってなると、それが本質を示してますよ。アイツの離脱がすべてを語ってるんじゃないですか。それ以上の細かい話はあえてしなかったんですけど、SUWAから「これからまた何かあったらよろしくお願いします」って電話が掛かってきて、俺が言ったのは「俺はお前を使わないよ」と。

ターザン （手を叩いて）いいねぇ！

ドラゴン 昨日のウチの大会（TORYUMON―X）のXの正体はSUWAっていう噂が出てましたけど、「俺はお前を使う気はないし、だってお前の人生だし。ただお前がどっかの団体に行きたいときには、俺が知ってるところであれば口は利いてやる」っていう感じでしたね。そりゃそうですよ。あの時点で2人が他のメンバーを誘ってどうのこうのとか昔のプロレス団体の分裂劇みたいなこともなかったし。1人になって何かやった方が楽しいかなって思ったんですよね。いろんなの何人も付けてるよりも。

ターザン 自分一人になった方が一番いいですよ。それが原点に戻ることですから。また振り出しに戻るんですよ！

ドラゴン 気分的には凄く楽ですね。

ターザン でもまたこれから一から新しいことやるとしたら、厳しいよォォォ！

ドラゴン いやあ、そうでもないですよ。逆に楽しいですね。今回、「俺も北朝鮮に出して下さい」っていう話したんですよ。

ターザン そういう発想をするところが面白いねぇ（笑）。スイッチがすぐに切り替わるというか。

ドラゴン そしたら「今回は格闘技の大会なんでウルティモさんはプロレスラーだから、ちょっと趣向が違うんでダメです」って言われて。

ターザン 出たら面白いのにねぇ⁉

ドラゴン サイモンさんにも頼みましたからね。「猪木さんに北朝鮮に連れて行ってもらえるように、何とか頼んで下さい。猪木さんの付き人でも何でもいいから行きたい」って。アメリカ人はみんな嫌がったらしいですけど、いま北朝鮮って旬じゃないですか。

ターザン 旬だよねぇ。観に行く価値はあるよねぇ！

ドラゴン メッチャ行きたいですよ。『松茸食べ放題』っていう題名はダメだと思いますけど（笑）。

ターザン あれはしょっぱいよォ！

ドラゴン それこそマジな話、拉致被害者の人たちを取り返しに行くぐらいの気持ちでね。猪木さんが昔イラクへ人質解放に行ったように、そういう目的だったらいいと思うんですよ。ただ行って『平和の祭典』するだけだったら、それが何になるのってことになるじゃないですか。だから右翼の方に反対されたりして。向こう行って金正日に「ふざけんな、お前！ 人質返せ！」って言えたら面白いと思うんですけど。

ターザン それは面白いよォ！（笑）。

ドラゴン 猪木さんはそれぐらいのことやりかねないじゃないですか。キューバのカストロさんとかと会ったりイラクの人質解放とかやってますからね。今回は何しに行くんだろうなって。ホントの意味を知りたいですね。

ターザン なおさら行って欲しかったねぇ。ホント残念だよ。

ドラゴン 非常に面白い企画ですよね。旬なときに行くっていうのがいいですよね。

ターザン 旬というか、北朝鮮がいま世界の中心のド真ん中！ 面白いですよォォ！ ところで今日のテーマとして、何でこんなにプロレスが衰退してしまったのかと。この現実を見ないで何があるんだって言いたいんだけど、どう思います？ 恐ろしいほどの、予想を越えた衰退ですよ！

ドラゴン まあ物事には始めがあれば終わりがあるように、プロレスは終わりに近づいてるっていうことなんじゃないですか？

ターザン 力道山から始まって、馬場・猪木が続けてきた全日本、新日本っていう長い長い大河ドラマが、最後にフェイドアウトしてしまうということ？

ドラゴン いや、終わるとは言い切れないですけどね。

ターザン でも、終着駅に近づいているということでしょ？

ドラゴン 昔、日米対抗ローラーゲームってあって、凄い人気があったけど、あれだってなくなったじゃないですか。だからわかんないですよ。野球だって一時期と比べたらねえ？

ターザン いまの合併問題だって、誰も考えてなかったもんね。

ドラゴン すべてが同じものを見せ続けたら、飽きられますよね。で、大リーグっていろいろ趣向凝らしてやるじゃないですか。そしてまた人気ぶり返してきて。でも日本ってそういう努力しないですよね。

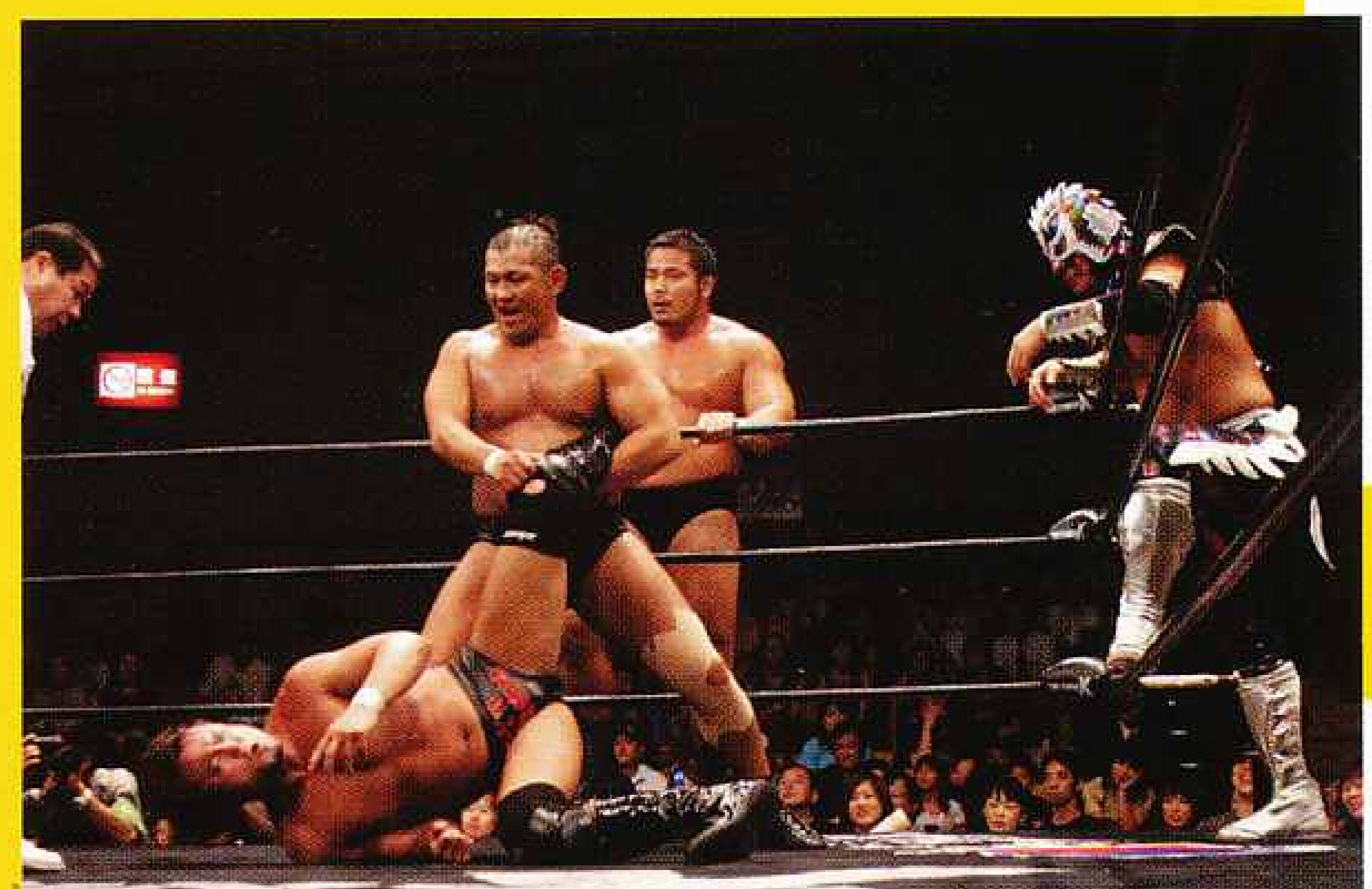
ターザン ワールドシリーズなんて素晴らしい企画だもんね。

ドラゴン あとやっぱりプロレスが沈滞してるっていうことは、これ日本の世の中すべてに言えることだと思うんですけど、社会を動かしてる人たちの高齢化の問題ですよね。ヨーロッパとかだと、たまにいますけど、アメリカの大統領って50歳ぐらいの人っているじゃないですか。

ターザン いますよォ！

ドラゴン でも日本の総理大臣って絶対60歳過ぎてるし、下手したら70歳とかもいますからね。そんな

SUWAの離脱がすべてを物語ってるんじゃないですか





ウルティモ＆中西＆鈴木みのるvs永田＆棚橋＆カズ・ハヤシという、実に浅井プロデュースらしい異色のマッチメークがセミファイナルで組まれた9・8「闘龍門X最終興行」。試合途中でみのると中西が仲間割れするのも実に浅井プロデュースらしい。

人たちが国を動かしたらダメだと思うんですよ。だからいまのライブドアの社長さんとか、あそこまで若いとちょっとどうかなって思うんですけど、本来ならば40～50歳ぐらいの方が。山本さんだって『週プロ』でバリバリやってたときって若かったんじゃないですか？

ターザン 40歳の半ばぐらいだよ。

ドラゴン そうでしょ？ それぐらいの人が上に立たないとダメなんですよね。昔、新日本ができたばっかりのときっていうのは、猪木さんがまだ30歳ぐらいですよね？ それがどんどん会社が歳取って、歳取るということは、最後に死ぬしかないじゃないですか。いまの新日本がやらなきゃいけないのは、中の人の若返りですよね。それにはやっぱり思い切った人事ですよ。歳いってる人にはポジションを与えて勇退してもらって、元気な若い人がやらないとダメですよ。プロレスって昔から若者が見るものじゃないですか。若者が見るものを年寄りがプロデュースしたら面白くないですよ。

ターザン でもプロレス界ほどベテランとかキャリアのある人とか年齢のいってる人が幅を利かせる古い価値観が支配して、若い人たちを押さえる世界はないでしょ。

ドラゴン そうですね。俺が思うに、新日本っていう高齢化の象徴がU―30ってあるじゃないですか。U―30っておかしくないかと。23歳以下のレスラーっていうのはむずかしいんで、U―26とか27。30はないですよ。

ターザン 30はないよねぇ。

ドラゴン あのベルト持ってて何の意味があるのかって思うんですよ。

ターザン それがまさに棚橋っていうレスラーへの象徴的な答えだよね。彼の存在のすべてを表してますよ。

ドラゴン 彼なんか素晴らしいレスラーなのに、なんでそんなのにこだわってるのかと。もうＩＷＧＰのチャンピオンになってもいいレスラーだと思うんですよ。そういうレスラーが新日本にはゴロゴロいますよね。なんでチャンピオンにならないんだと。



ミニエストレージャ揃いの闘龍門Xに新たに新崎人生のミニ版、野橋真実が登場。拝み渡りなども完コピしてみせた（上）。『DRAGON GATE』では見れなくなった“オリジナル”C-MAXのミニ版が登場。ミニCIMA、そして南野たけしは今後注目すべき逸材だ。

プロレス界はどうせ低迷するなら、若手を登用して未来への投資をするべきですよ

ターザン 何なんでしょう？

ドラゴン むずかしい問題ですよね。世間の人たちは「何でプロレスって50歳過ぎた人がやってんの？」って不思議なんですよ。そういう体質を変えていかないと。もちろん俺は先輩たちをリスペクトしてますけど、上の人たちが出てるうちはプロレス界は良くならないですよね。

ターザン まあ天龍さんとか長州さんは50歳過ぎてるけど、彼らはいい味だしてるよね。いわゆるプロレスラーの雰囲気とか匂いとか、そういうものがあるのね。でも、それと若い人たちの時代は違うからね。

ドラゴン だからそういう人たちは、全部で8試合ぐらいあるんだから、2～3試合目ぐらいで、これから伸びていきそうな奴を相手にプロレスを教えながら壁になればいいんですよ。最前線でやる必要はないし、若手が可哀想ですよ。でもネームバリューがあるから会場が沸くじゃないですか。

ターザン 会場は沸かせますよォ。

ドラゴン でもそれは世間が求めてるものと一致するのかというと、違うと思うんですよ。

ターザン 時代の最先端として若者が彼らのニーズとして求めているものとは違うんだよね。女子プロでいうと、長与千種とかデビル雅美とかだったら、客沸かすコツ知り尽くしてますよォ！ でもそれと今の時代の空気とか気分とかとは違いますよね！ どう？

ドラゴン たぶん、ここ2～3年、プロレス業界はさらに低迷すると思うんですよ。新日本が特にそうだと思うんですけど。これ、上井さんにも言ったんですけど、「どうせ低迷するんだったら、若手を起用して低迷した方がいいだろう」って。

ターザン 合理的な発想だねぇ！

ドラゴン 何である程度できあがった選手を使っていまを凌ぐのかと。どうせ低迷するんだったら、何かに投資して賭けた方がいいじゃないですか。もちろんいまのやり方は安全パイだと思うんですよ。でもここ半年とかですよね。2～3年後のこと考えたら、その人たちって歳取ってきますよね。そしたら結果的に良くないじゃないですか。だからいまは目先のことだけでいっぱいいっぱいになってるんで。

ターザン 要するに、ごまかしながらごまかしながら、守りながら進んでるという、後ろ向きの発想なんですよ！ 何とか保険をかけながらっていう形でやってるから、逆に大きなひずみができてきてマグマの塊ができて、手遅れになるんですよ！ 違う？

ドラゴン ホントそうですよ。もう低迷するんだったら、思い切った博打するしかないですよね。これはホントに賭けですよ。それぐらいのことしないと。

ターザン 上井さんなんかすべてがわかってってできないから余計ジレン

ターザン山本!

マでしょ。

ドラゴン　あの人は全部わかってますよ。でも、あの人は新日本からUWFに行って、戻ってきて営業やって、営業っていうまったく畑の違う人がマッチメイカーに任命されてやってるじゃないですか。やっぱり僕にはわからないしがらみがあると思うんですよ。

ターザン　一歩踏み出せない何かだよね。

ドラゴン　立場的に上井さんは辛いと思いますよ。もの凄くいろんな人に気ィ遣ってるし、見てて「この人、大丈夫かなあ」っていうぐらい一生懸命だし情熱持ってやってるし、可哀想ですよ。だからマッチメイクはもっと冷酷な人間がやった方がいいですよね。俺はそうですからね。

ターザン　僕だってそうですよォォォ!

ドラゴン　ダメなものはダメ。いいものはいいっていう。まあ、そのかわり上の人から権限をもらわないとダメですよね。

ターザン　全権を委任されるということだよね。権力を一点に集中させるという。

ドラゴン　でも、例えばいま急にやれって言われても3年ぐらいかかりますよね。もうダメになってんだから、1年じゃできないですよ。いまの若い選手たちが、あと2～3年経って花が咲くぐらい。棚橋とか中邑、柴田とかいいと思いますけどね。あと俺は長尾(浩志)とか、あのへんもいいと思うんですよ。あれは間違いなく久々の大型新人ですよ。

ターザン　あっそう。まだ手垢は付いてないですよね。

ドラゴン　あれはスターになれますよ。いまのうちに引っ張り上げないとダメですよ。あとジュニアだったら、ウチの選手になりますけど石森(太二)とか。もう石森とかに賭けるしかないんじゃないですか。いまのジュニアは高齢化し過ぎてますよ。

ターザン　それは言えるよね。オッチャン連中ばっかりですよ。ライガーみたいに。

ドラゴン　それはもうジュニアって言わないですよ。俺としてはライガーにはヘビー級に転向して欲しいんですよ。ヘビー級に転向して、また新たなライガーの伝説を創って欲しいですよね。タッパはないけど、パワーはヘビー級なんだし。なんでジュニアにこだわってやってんだろうなって。今のライガーは俺からしたら、ジュニアのまわりの選手になんだか気ィ遣ってるのが見え見えなんですよ。

ターザン　そうだよねぇ。

ドラゴン　あの人は昔みたいに尖って「俺は小さいけど、オマエらナメんなよ。ふざけんなじゃねえ、この野郎!」って、シュパッて行くのがあの人の良さだったのに。それがジュニアの長老みたいになっちゃって、まわりの調整役になってるようにしか見えないんですよね。

ターザン　長老とかご意見番になったら人生終わりですよ。粗大ゴミと一緒だよ!

ドラゴン　丸くなっちゃったら面白くないですよ。だからこそ俺は鈴木みのるに頑張って欲しいんですよ。ああいう尖った人間って面白いじゃないですか。

ターザン　鈴木みのるの嫌味ったらしいファイトはいいよねぇ。ゾクゾクしますよ!

ドラゴン　俺も闘ってて「こいつ大丈夫かな?」って思いますよ。

ターザン　あれは昔でいうヒールでしょ? 彼はヒールというものを一番心の中に抱いてるレスラーですよ。ああいう感覚を、みんな持たなくなったもんね。良い子になっちゃって。つまんないよォォ! この世界は嫌われてナンボでしょ?

ドラゴン　そうですよ。ライガーもいまはジュニアでCTUってやってますけど、そうじゃなくて一匹狼の方が力を発揮すると思うし、あの人がIWGPのヘビー級チャンプになってもおかしくないじゃないですか。それぐらいアリかなって思いますよ。

ターザン　そういう常識を打ち破った発想を、いまのマット界の人ができるかどうかですよ。

ドラゴン　しなきゃダメでしょうね。

ターザン　でも、『ハッスル』なんかはどう思うの? 可能性感じる?

ドラゴン　この間の『ハッスルハウス』を観に行ったんですけど、選手じゃなくてZERO―ONEの中村さんとか、俺はあの人が好きになったんですよ。

ターザン　ユニフォーム着てやってますよ(笑)。

ドラゴン　〝カントク〟って書いたユニフォーム着てメガホン持ってアピールして、これ凄え面白いなって思って(笑)。俺、あの人がZERO―ONEの人って知らなかったんですよ。ウチの若いもんに「あれは誰だ?」って聞いたら、「ハッスル軍のカントクなんですよ。ZERO―ONEの中村さんですよ」って言われてビックリして。次の日、見た『SAMURAI』ではスーツ着てメガネかけてたんで、「エッ!? あれがカントク?」って思って(笑)。

ターザン　(拍手をしながら)それは中村さんの勝ちですよ!

ドラゴン　ボクの中で一番旬のキャラですよ。でも『ハッスル』にしても、もっともっと面白くできると思





9・8後楽園では、邪道外道&竹村に気後れしたか、技のミスが目立ったセーラーボーイズ。しかし、石森太二のセンスと動きのよさは特筆すべきものがある。新日マットで一皮剥ければ大化けの可能性も。

すべてのものに一生がある。

うんですけど、登場人物が役者と

としてやってきた強味だよね。場数

うんですけど、登場人物が役者としてまだまだですよね。
ターザン　まだ未熟ですよォ！
ドラゴン　唯一素晴らしいのは高田総統ですよね。
ターザン　アレだけは群を抜いて型にはまってますよ！
ドラゴン　一つヒントを出すと、リングに上がって、GMとカントクがいて、モンスター軍の参謀長がいるじゃないですか。それでリング上でやりあってるんですけど、お客さんを見ながら話してるんですよね。お客さんに「そうですか？」って聞くときはいいけど、言ってるときは3人の真剣勝負なわけですよね。なのに相手をちゃんと見てないんですよ。お客さんの方見て言ってたんじゃ伝わんないですよ。
ターザン　それはあるよね。
ドラゴン　だから、まだ総合プロデューサー的な人がいないんじゃないですか？　そういう細かい部分の演出をする人が。
ターザン　本物の演出家がいないもんなあ。完成品にはまだほど遠いって言うか、全然練れてないっていうか、あるいはフォローされてないっていうか。
ドラゴン　でも今の段階であれだけ面白いと、逆に可能性はあるんじゃないですか？
ターザン　できたばっかりなんで、手探り状態ですよ。これをどうしたらいいのかっていう部分をキチッとした戦略と哲学がないとね。高田総統だけは完璧なキャラになってるんですよ。あれはプロレスラー

すべてのものに一生がある。プロレスは今まさに人生を終えようとしてるんですよォ



『ハッスル』はいまの段階であれだけ面白いんだから可能性はあると思いますよ

ウルティモ・ドラゴン

ウルティモ・ドラゴン
本名・浅井嘉浩。S41年12月12日、名古屋市出身。新日道場に入門後、単身メキシコに渡り、日本では90年ユニバーサルのリングでデビュー。その後、U・ドラゴンに変身。メキシコにプロレス学校「闘龍門メキシコ」を設立。今年7月に闘龍門JAPAN改め『DRAGON GATE』から離れたが、闘龍門メキシコは健在だ。今後の動向に注目！

ターザン山本！
本名・山本隆。元・週刊プロレス＆格闘技通信編集長。現在は、葛飾の狂人。今年の夏に足切断寸前まで悪化していた糖尿病で入院。退院後は、1日1800キロカロリーの生活を送り、日に日にスリムになっていく58歳。インターネットサイト「ターザンカフェ」で連日大量更新中！　『紙のプロレスHand』の連載「ラブレターフロム葛飾」も好評。

としてやってきた強味だよね。場数を踏んできた人間のスイッチの入り方だよ。
ドラゴン　そう考えると、人間どこで弾けるかわかんないですよね。
ターザン　わかんないですよォ！
ドラゴン　でもやっぱり、髙田総統じゃないですけど、いまは『PRIDE』ですよ。あっちが面白いからプロレスファンも行っちゃったんですよ。昔はプロ野球、大相撲、プロレスってあったじゃないですか。いまはプロ野球はメジャーリーグになって、『PRIDE』、K―1があって、ジャンルが増えたじゃないですか。で、プロレスがどんどん下に追いやれてる感じですよね。
ターザン　完全に格下げされてるよね。野球だってイチローとかのメジャーリーグしか観ないもん。
ドラゴン　日本のファンもバカじゃないし、何でイチローが日本の野球を捨てたかというと、要はレベルが高いところに行きたかったですよね。松井が巨人という日本最高の球団で、4番としてホームランをバンバン打ってたのに、向こうでは7番バッターでホームランも20本ぐらいだし。だからそのへんで「本物は何か？」っていうことに気付いたんじゃないですか？　プロレスも昔の猪木さんとか馬場さんがやってた頃は、プロレス本来の姿というか、ホントのプロレスっていうものをやってたじゃないですか。それがここ最近の傾向を見ると、格闘技なのかプロレスなのかわからない中途半端なことやってますよね。だからダメになったと思うんですよ。
ターザン　かつてスポーツに関して日本で人気があったのは、プロ野球、相撲、プロレスですよ。この3つが衰退していっちゃった。
ドラゴン　最初に言いましたけど、やっぱり始まりがあれば、終わりはありますから。
ターザン　物事っていうのは、誕生してそれから成長して青年になり、やがて大人になって成熟して断続していって、最後には死を迎えると。これは人の一生と同じなんですよ！　プロレスっていうものが誕生して、まさにいま一つの時代が一生を終わりかけてるところなんですよ！
ドラゴン　俺はそのいい時期にレスラーになれて、これから引退していく方じゃないですか。俺にとっては何もダメージがないから（笑）。
ターザン　ホント、君は都合よく自分のこと考えるねぇ！（笑）。
ドラゴン　でもやり方次第でできると思うんですよ。一つ例を挙げると……。

【9月10日／都内ホテルにて収録】

※話は途中ですが、今回はここまで。次号の後編では、ウルティモが考えるプロレス復興のヒント、混迷が続くK―1、猪木＆新間コンビの功罪、さらには力道山の素晴らしさまでウルティモ＆ターザンがノンストップで語り尽くします。最後にはウルティモの口から衝撃のカミングアウト発言まで飛び出した後編を期待して待て！



9・10ノア武道館大会に突如乱入!
緊急コメントも掲載!!

DRAGON GATEに背を向けた男 “離脱の真相”を独占激白!

SUWA

「何を言われても構わない 俺には俺の人生がある!」

人気絶頂『DRAGON GATE』に事件発生! 前UDG王者SUWAが、8月20日、電撃的に退団を発表。一期生として旗揚げから中心選手として活躍していたSUWAの退団だけに、ファンに大きな衝撃を与えたが、プロレス週刊誌では思いの外、大きく取り上げられることはなかった。そこで、マット界に何かがあったときは『紙プロ』の出番! というわけで、SUWAにインタビューを敢行。これまで報道されなかった、リアルな思いの丈を語ってもらった。

聞き手/堀江ガンツ　撮影/乾晋也　designed by matsu (Two Three)

――『DRAGON GATE』突然の退団、驚きました!

SUWA 来ましたねえ、『紙プロ』さん(笑)。今回の件については他のプロレス週刊誌とはまた違った部分の見方で、『紙プロ』が一番食いついてくるんじゃないかなと思ってたんですよ。

――予想通りでしたか(笑)。闘龍門一期生SUWA退団っていうのは、ファンにとってかなり衝撃大きいはずなのに、なぜか週刊誌系は不自然なくらいひっそりとした扱いだったんで。これはウチがちゃんと聞かなきゃイカンと思って、今日は参りました。

SUWA まあ辞めた理由とかは話せば長くなるんですけども。だいぶ日が経ってるんで……もう半分忘れたっていうか。単に対マスコミ用の言葉が出てこない(笑)。

――ダハハハ! じゃあ、今日は対マスコミってことを忘れて、本音の部分でいきましょう! (笑)。まず、8月20日の退団発表のときは、岡村社長から「SUWAは30歳で引退を考えてたので、最後に1年間自由に暴れたいということで送り出しました」と説明があって、プロレス週刊誌では「30で引退」がやたら強調されてましたよね?

SUWA 強調されてましたねえ。

――でも、これはズバリ聞きますけど、30歳で引退する気はホントにあるんですか?

SUWA 「30で引退を考えてた」って言うのは嘘でもなんでもないんですよ。自分はいままでもずっとそうなんですけど、全部区切り区切りでやって。プロレスラーになる前に1回サラリーマンやってたときも、自分の中では1年間だけって決めて、怒られながらも辞めた。これは浜口さんのところ(アニマル浜口ジム)に行くための資金作りするための計画だったんですけど、今回、会社(ドラゴンゲート)に言ったのも


MOTOR
CYCLES

そうですよね。自分は変に人生計画を立てていて、もう40歳で人生をセミリタイアする予定でいるんですよ。

——40で早くも人生をセミリタイヤ！

SUWA　30歳までプロレスやって、30～40歳まではリタイアするためのお金を作って。それで40歳でセミリタイアして、行く末は海外かどっかに移住したいなと。

——『金持ち父さん』のロバート・キヨサキみたいですね（笑）。

SUWA　やっぱり自分の人生なんで、自分で動いて作るもんだと思ってるんで。ただ30歳、40歳って区切っていても、そんなドンピシャに行くとは思わないですけどね。

——じゃあ、あと1年きっかりで辞めるというのではなく、“30ぐらいで引退するつもりでいる”って感じですか？

SUWA　そうですね。それが「30歳まで」って妙に強調されちゃったんでね、俺もある意味迷ってるんですけど。確かに引き際はもう考えてますよ。

——その30歳の区切りっていうのを考えてたっていうことは、「退団」というのも結構前から頭にはあったんですか？

SUWA　前からあったのもそうですし、過去に遡れば3～4年前から、あえて名前は言いませんけど、いろんな人から多少なりともラブコールを受けてたのは事実なんですよ。でもやっぱり自分の中でもイマイチまだ結果を出せてない状況だったし、クレイジーMAXってユニットもあったんで、まだ思い切れなかったというか、闘龍門の中でもまだ発展途上だったんで。

——FAの資格がまだ自分の中で持てない頃だったわけですね。

SUWA　そうですね、わかりやすく言えば。まだそういう声を掛けてもらっても、動けるほどの根性がなかったなって。

「見えないゴールを目指して」というのは、彼だけの考えだから



SUWA

——じゃあ、それが今回そう思えたのはなぜなんですか？

SUWA　やっぱり一番大きいのは、今年3月末にやった肩の怪我（右肩脱臼）ですね。あのとき肩吊って、なんもできない状況で、なにするかっていったら、散歩と本を読むことぐらいだったんですよ。それでいろいろ考える時間とかもあったんですけど、21歳でデビューして、28歳で怪我してできなくなって。その8年間っていろんなことあったけど、大して記憶に残ってないなって思っちゃったんですよ。

——大して記憶に残ってない！

SUWA　知り合いとかに「あのときはどうのこうのだったよね」とか、前の試合のことを言われても、自分の中に残ってないんですよね。なんかスケジュールに追われながらあっと言う間に7年経って、1ヶ月に2～3回ウチ帰ってゴロゴロして、また週末荷物まとめて出て行く、みたいな。そういった生活を客観的に見たとき、やっぱり考えましたよね。

——負傷欠場して初めていまの生活を客観視できたと。

SUWA　そうですね。いまは会社が人気あって全国回ってるけど、自分の人生これでいいのかなって。しかも、ケガして欠場してる間にあれよあれよという間にいろんな話が進んでいて、全然、状況把握できないまま『DRAGON GATE』になっちゃったみたいな感じなんで。

——SUWAさんぐらいでも、状況が把握できてなかったんですか。

SUWA　俺、一切会社に対してそういう話はしてなかったんで。あくまでもケガの療養のみでやってたんでね。まあその真実とかっていうのは、俺にとっては別にどうでもいいことなんですけど、ただそういう状況で主張できぬままに『DRAGON GATE』になって、7月に年に1回の地元・鹿児島の大会があったんで、見切り発車で復帰したんですよ。でも、やっぱりね、怖かったんですよね。肩の脱臼は癖になるっていうのがあるじゃないですか。

——破壊王なんかそうですよね。

SUWA　そう、俺も癖になるのが怖かったんですよ。また外れるんじゃないかっていうことばっかり考えて、気を使ってもらって6人タッグとかが多かったんですけど、怖くて怖くてね。その中でフジテレビの「お台場毎日プロレス」が発表されたんですけど、正直言って、あの精神状態では無理でしたね。それプラス、さっき話したみたいに、このまま時間だけが過ぎて、たぶんいまのこのサイクルで過ごしたらあっと言う間に正月ですよ。こんな生活いつまで続くんだろうって思って。そう考えたとき、甘ちゃんなんでしょうけど、この現実から逃げたいなって思ったのが正直なところですよ。

——『DRAGON GATE』に身を捧げる」っていうことが、精神的にも肉体的にもできなくなったと。

SUWA　やっぱりね、自分の体は自分のものであって、自分で守るしかないじゃないですか。だから、誰がとは言いませんけど、ある人間は「見えないゴールを目指してやってる」とか言ってるけど、それは彼だけの考えであってね。それについてく人間はそれでいいと思うんですよ。でも、俺は正直言って自分の人生を優先したいんで。自分の体を犠牲にしてまでもそいつらと一緒に最後までいるのもどうかなって。

——でも、『DRAGON GATE』の選手からしてみたら「SUWAは、この生活から脱落した」って思ってる人も当然いると思うんですよ。

SUWA　そうですね、それでいいと思いますよ。全然構わないです。根性なかったって思われようが、それでいいし。嫌なこともありましたね、毎日同じ生活リズムで。ただ、辞める決意をする前に、ケガしてどん底に落とされた自分を這い上がらせるために、もう一度闘龍門ナンバーワンのベルト、つまりUDGに挑戦しないといけないとは思ってたんですよ。それが、いつの間にか「ドラゴンゲートなんとか～」ってベルトができていたじゃないですか。

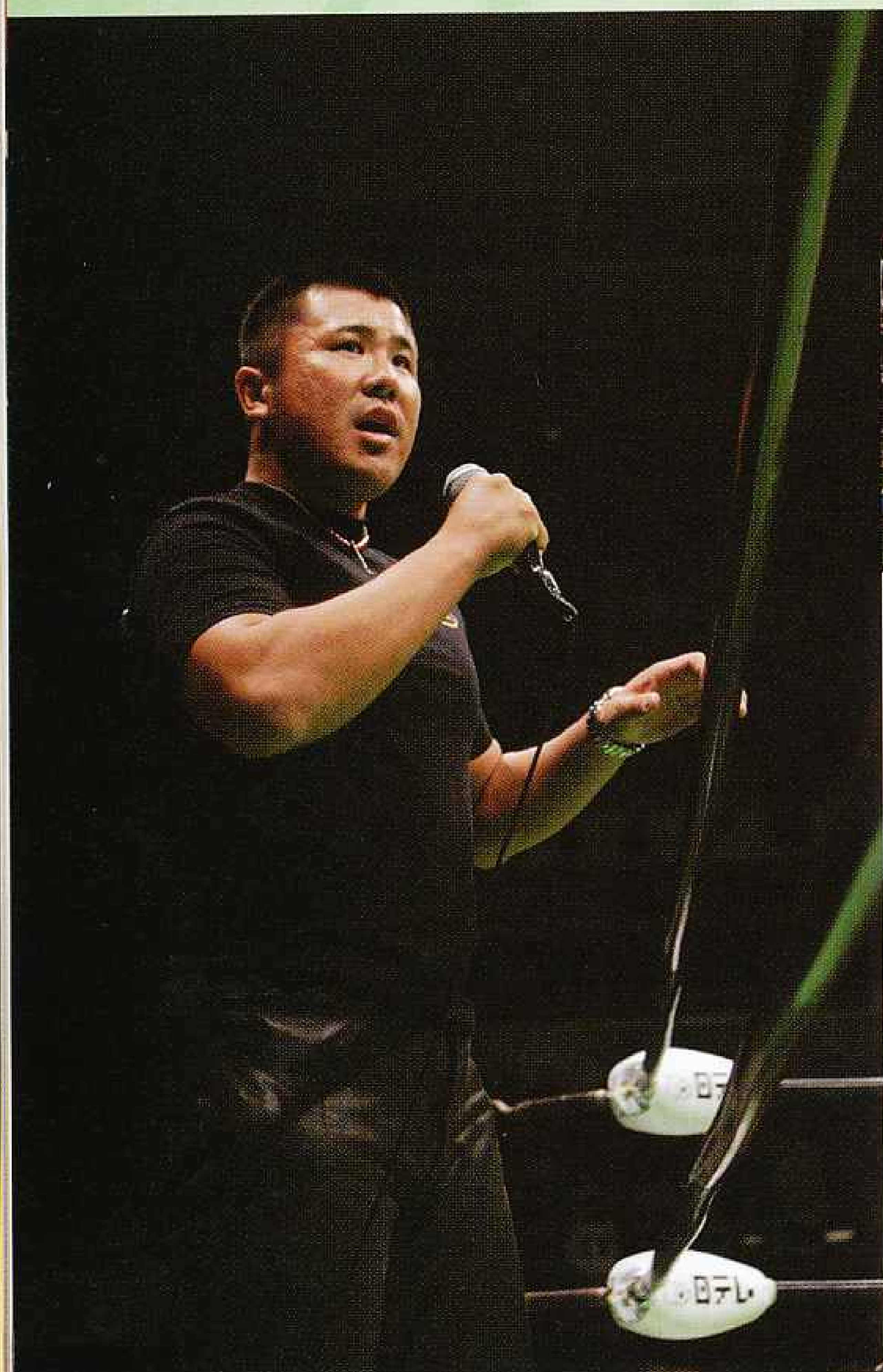
——新ベルト「オープン・ザ・ドリームゲート」ですね。

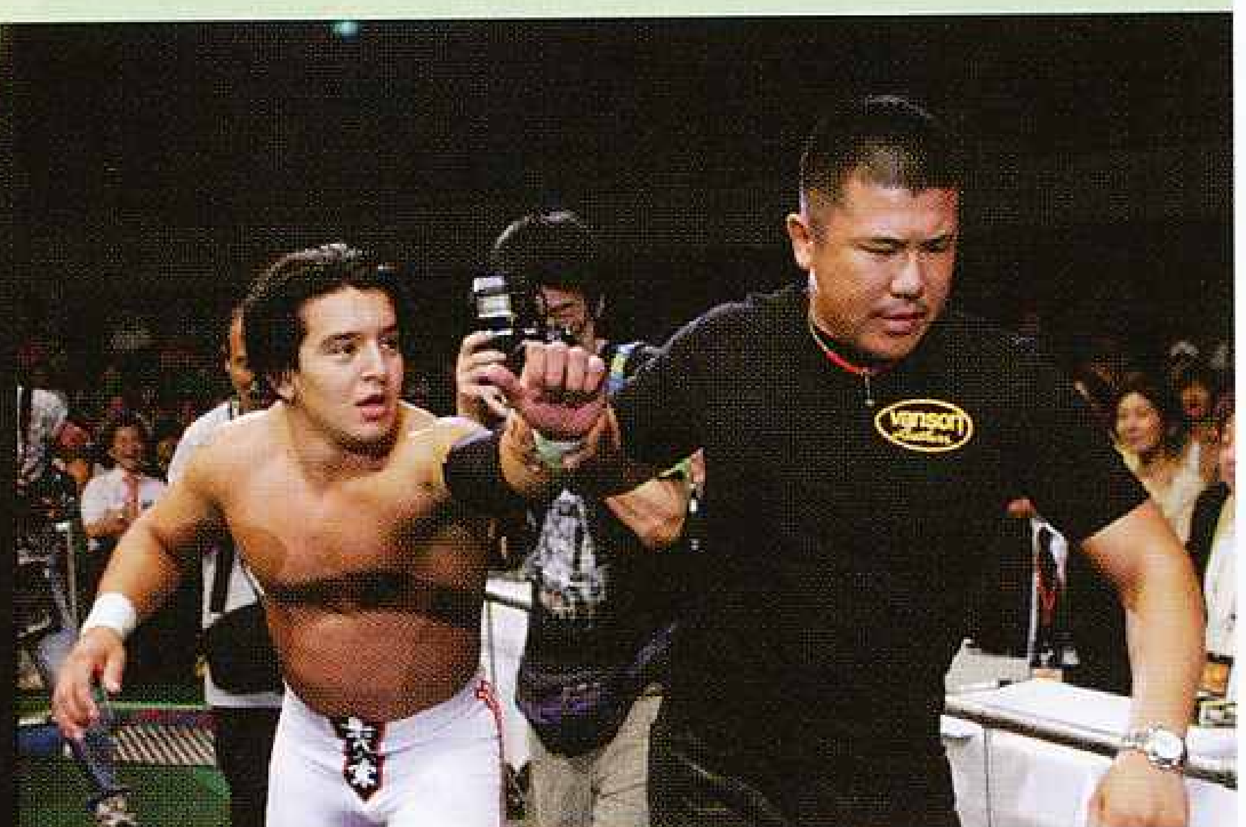
SUWA　そこでそのベルトに挑戦するのか、それとも自分の人生を優先するのか天秤に掛けたら、やっぱり自分の人生の方を優先した方がいいという結論になったんですよね。だからそのとき自分に言い聞かせたんですよ。「UDGがないんだから、もういいじゃないか」って。



――「オープン・ザ・ドリームゲート」とUDGの最大の違いはなんですか？ どちらも団体ナンバー1のベルトですよね？
SUWA なんでしょうねぇ？ やっぱり、俺はあのベルト（UDG）が巻きたかったんですよ。あのベルトをウルティモ・ドラゴンがどうするのかわかんないですけど、いまそういう状況になって突然新しくできたベルトをわざわざ巻く必要もないし。それだったら強引に状況を変えてもいいんじゃないのかなって思いましたけどね。

――ところで、ウルティモ・ドラゴン校長も7月に『DRAGON GATE』から離れたわけですけど、なんらかの形で行動を共にすることは考えられますか？
SUWA 現時点ではないですね。連絡も取ってませんし。いまウルティモ・ドラゴンが新日本に出てますけど、これで俺が新日本に出たら、「ウルティモのコネか」って思われるのがオチじゃないですか。だからちょっと距離は置きたいなっていうのはありますよ。別に嫌いとか、仲違いしたってわけじゃないし、一生師匠って形は続くかもしれないですけど、やっぱり自分でとった行動は、あくまでも最後まで自分でケツを拭きたいですからね。そういうこととは関係ない状況で、将来的に新日本に上がる機会はもしかしたらあるかもしれませんけど。





9・10ノア武道館大会第3試合終了後、SUWAが突如乱入！ 「俺は丸藤、KENTA、あまえらみたいなイケメンが大嫌いなんだよ」と難癖つけ、GHCタッグへの挑戦を要求。パートナーとして、かつて闘龍門にも上がっていたリッキー・マルビンを強引に引き連れていった。闘龍門（ドラゴンゲート）の選手が本格的にメジャー団体に参戦するのは初。はたしてSUWAは自分の闘いを貫けるのか、注目だ！

――でも、よくこのタイミングで辞める決意をしましたよね。だって、ようやくこれまで一生懸命畑を耕して、タネ撒いて、いま『DRAGON GATE』として収穫の時期にきたところなのに。
SUWA そういうことはあんまり考えないですけどね。
――そうなんですか？ かたやフジテレビと組んで夏のイベントをやるほど勢いがあって、そこから一歩外に出たらプロレス界は「氷河期」とか言われてる現状があるじゃないですか？
SUWA ああ、そうですね。でも、それは自分の生き方優先ですよ。これまでは、ある意味会社って組織に守られてた部分でマンネリ化したっていうのもありますよね。それだったらもうちょっと環境の違うところに行ったら、ホントに自分というか、いいも悪いも凄くわかるんじゃないかなって思うところはありますし。辞めた途端にいくつかの団体さんから電話が来たりとか、お声を掛けていただいたんですけど、俺自身8年間やってきて、「闘龍門」じゃなくて、俺個人を応援してくれてた人も結構いるんですよ。だから、そういう人たちのことも考えて、その人たちに堂々と見せれる団体に上がるのが理想だなとは思うんですよね。
――今後の具体的なプランとかはもう考えてるんですか？
SUWA 今後のプラン……どうでしょうね？（ニヤリ）
――意味深な（ニヤリ）ですねぇ（笑）。
SUWA まあ、自分が行けなかったようなところに行くというか、貫きたいなって。
――でも他団体に出るということに、ちょっとした恐怖とかないですか？
SUWA 恐怖ですか？
――昔からよく校長が「お前ら、闘龍門だからこそ光れるんだ」って言ってたじゃないですか。
SUWA なるほど。ウルティモ・ドラゴンがそう言うんだったら、別にそれはそれで信じる子はそれでいいと思うし。でも、俺はそういう言葉にビビッてるようじゃ何やってもうまくいかないんじゃないかなって思ってるほうなんで。昔から"何でも試したい派"なんですよね。
――たとえば大きい団体だと、ジュニアとヘビーって分かれるじゃないですか。そうしたら、ヘビーでやってみたいとかって思います？ SUWAさんはちょうどヘビーとジュニアの中間ぐらいだと思うんですけど。いま何キロですか？

SUWA　90～92キロぐらいですね。でも、体格差とかは全然気にしてないですよ。どんなもんなのかっていうのは、体で感じ取るしかないと思ってるし。それで叩きのめされて負けたって、全然気にしてないですよ。今回の離脱で1からやり直すっていう気持ちもあるし、見栄を張る必要はないと思うしね。だから「元DRAGON GATEのSUWAです」って上がる必要もないと思う。

――そこまで思ってますか!

SUWA　かといってリングシューズにショートタイツってわけにもいかないですけど（笑）。自分は自分のプロレスするだけだと思ってますから。

――でも、自信というか、これまでやってきた自負は当然あるんじゃないですか?

SUWA　まあそれはそうですよね。やっぱり昔の自分を知ってる人もいるわけですからね。ただ、そういうものを一度リセットして、俺がクレイジーMAXとして最初にみちのくやメキシコで暴れた原点に戻りたい、自分の根本にあるものを出していきたいという気持ちがあるんですよ。イコールそれはヒールですよね。だから、どこかのリングに上がることになったら、ヒールとして暴れてやりますよ。

――末期の闘龍門JAPAN、そしてドラゴンゲートでは、それができなかったジレンマみたいなものがあったんですか?

SUWA　それはだいぶありましたよ。それができなかったというか、好まれなかったというか。そういうチームや団体の方向性もあって、冷静に考えて、我慢してまで居残る必要はないんじゃないかな、と。そういう自分のやりたいことができないんじゃないか、と。それは本音ですね。

――じゃあ、もう未練はないですか?

SUWA　全然ないですね。いまはホント充実してるんですよ。欠場して時間ができてから、異業種の知り合いも凄く増えたし、早寝早起き、朝6時ぐらいに起きて散歩したりしてね。

――まったくプロレスラーとは思えない生活ですね（笑）。

SUWA　考えられないですよね（笑）。でも、すごくスッキリしましたよ。

――じゃあ、そうなると、オリジナル・クレイジーMAXはもう見れないって思った方がいいんですかね?

SUWA　もう見れないでしょうね。岡村社長が、「引退試合は是非ウチで」とか言ってくれて、それはもうありがたい気持ちで受け止めますけど、自分がこういう行動を取ったわけですから、古巣にもう一度っていうのは難しいですよね。

――自分から捨て去ったんだからっていう。

SUWA　そう。だから彼らは「見えないゴールを目指して」必死にやってるんだろうし、それに誇りを持ってるんでしょう。

“オリジナル”C-MAXはもう2度と見れないでしょうね



闘龍門の象徴的ユニットであり、これまでオリジナルメンバーは不動だったクレイジーMAXについにヒビが。SUWAが抜けた穴は近々新メンバーが埋める予定だが、このメンバーが揃う姿はもう2度と見れないという……。

そして俺は自分で決めたゴールを目指してやってるわけだから。目指すところが違ってしまってるんですよね。だから、向こうはどういう意見を持ってるか知らないですけど、オリジナル・クレイジーMAXはもう見れない。俺はそう思いますね。

【04年9月6日／都内・某所にて収録】

このインタビューを収録した時点では、今後のプランについて口を濁していたSUWAだが、数日後、早くも行動を起こした！　ノア9・10武道館大会に乱入。丸藤正道&KENTAの持つGHCジュニアタッグ王座へ挑戦表明をしたのだ。

その翌日、さっそくSUWAに電話で連絡を取り、心境を語ってもらった。

――突然の乱入驚きました。このノアという選択肢はどこから来たんですか?

SUWA　いろんな各団体をリサーチしたのは事実なんですよ。その中で、フリーとしてとっ始めとして面白いなんじゃないかなと思ったのと、「ウルティモ・ドラゴンとの関係で新日に出るんじゃないか」と周りから思われてたのがシャクだったんで、意表をつけるとしたらノアかなと。俺は天の邪鬼なんでね。

――もちろん、やりがいがある団体だって意識もあるわけですよね?

SUWA　もちろん、ヘビーからジュニアまで面白い選手揃ってますからね。暴れがいがありますよ。まぁ、まだ出られるか決まったわけじゃないんだけど（笑）、あそこまでアクション起こさせてくるんだったら、OKってことでしょう。ヘビー、ジュニア問わずやってみたいですね。

――小橋建太も体感したい?

SUWA　体感したいですね。やっぱり風俗なんでも「あそこは凄ぇサービスだ」って聞いたら行きたくなるじゃないですか。どんだけ〝過激なサービス〟なのか、体感してみたいですよ（笑）。

――どんな例えだ（笑）。やっぱり今後、レギュラー参戦を希望していますか?

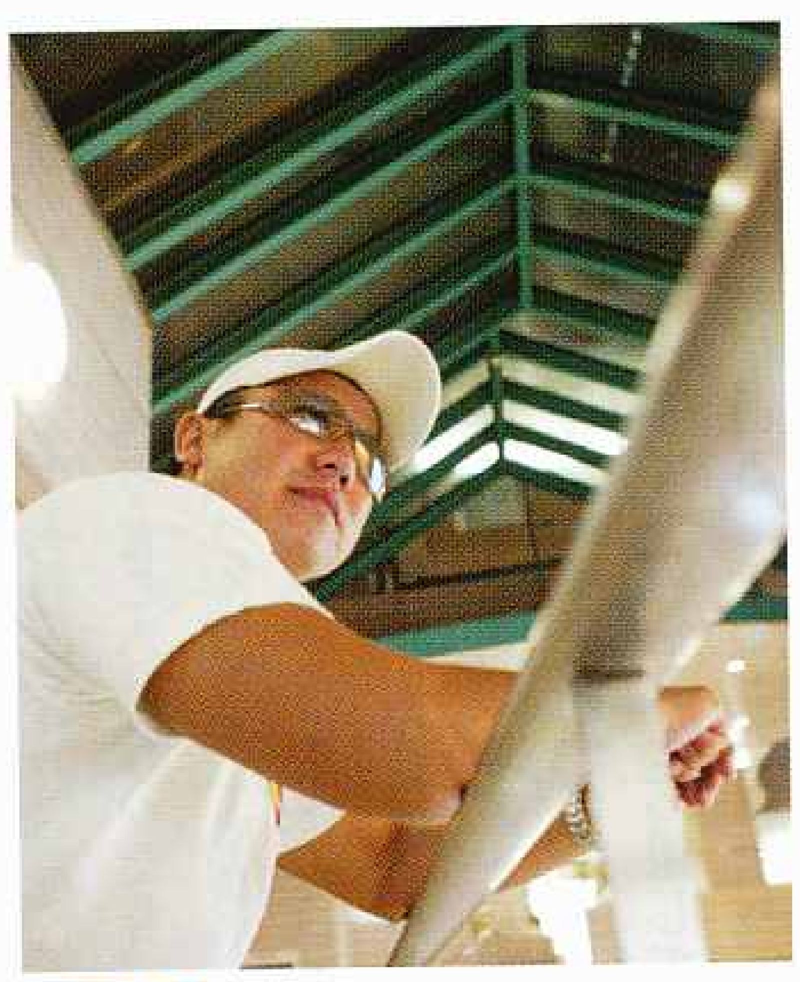
SUWA　俺も性格的に飽きやすいんでね、先のことはわからないですけど、いまのところ他に天秤にかけるような団体もなかったんで、当面はレギュラーで暴れさせてもらえればありがたいかなと。俺もオマンマ食わなきゃならないしね。

――今後はかつて闘龍門にも参戦したリッキー・マルビンと行動を共にするんですか?

SUWA　リッキーも昔よりイキイキしてるんでそれでもいいですけど、別に他にもっといい相棒がいれば、そいつとタッグ王座に挑戦してもいいし、まだわからないですね。まぁ、楽しみにしててくださいよ。

【04年9月10日電話取材にて収録】

SUWA



SUWA

1975年8月31日、鹿児島県出身。本名・諏訪高広。闘龍門一期生として入門。C-MAX随一の実力派として、闘龍門創生期からトップの一角として活躍。今年2月にマグナムを破り、第3代UDG王者になるが、3月に肩を脱臼し返上。8月20日、『DRAGON GATE』を電撃退団した。180cm、93kg。

レインボーブリッジだけじゃなく、プロレス界も封鎖するな!!



全力疾走の夏を越え、次の季節へ――!!

DRAGON GATE お台場毎日プロレス

プロレス界史上初の挑戦は、歴史的観客動員の記録を達成!!
“お台場毎日プロレス”という大きな挑戦を経て、
DRAGON GATEが、新たな一歩を踏み出した。

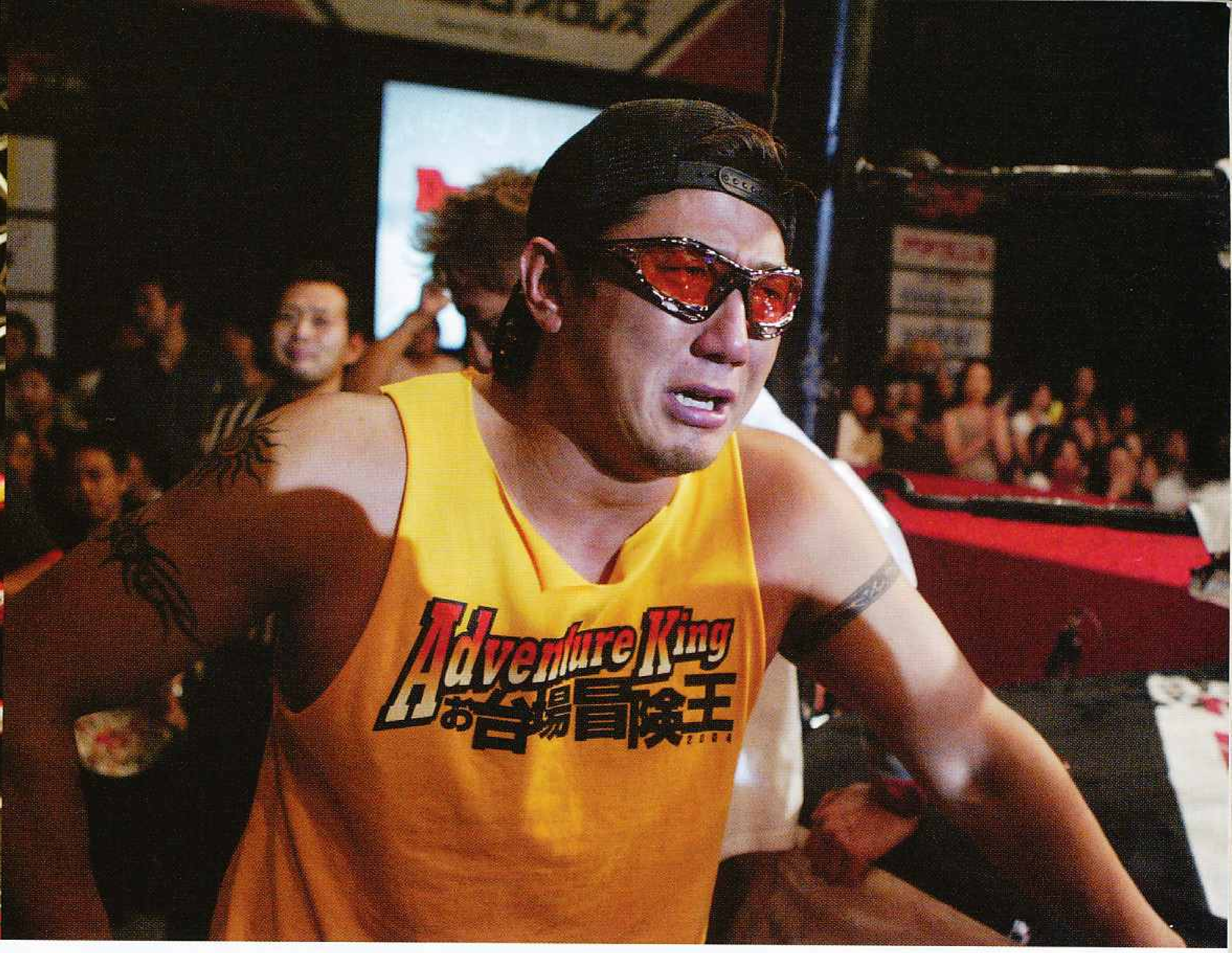
構成／ささきぃ　撮影／乾晋也　designed by matsu（Two Three）









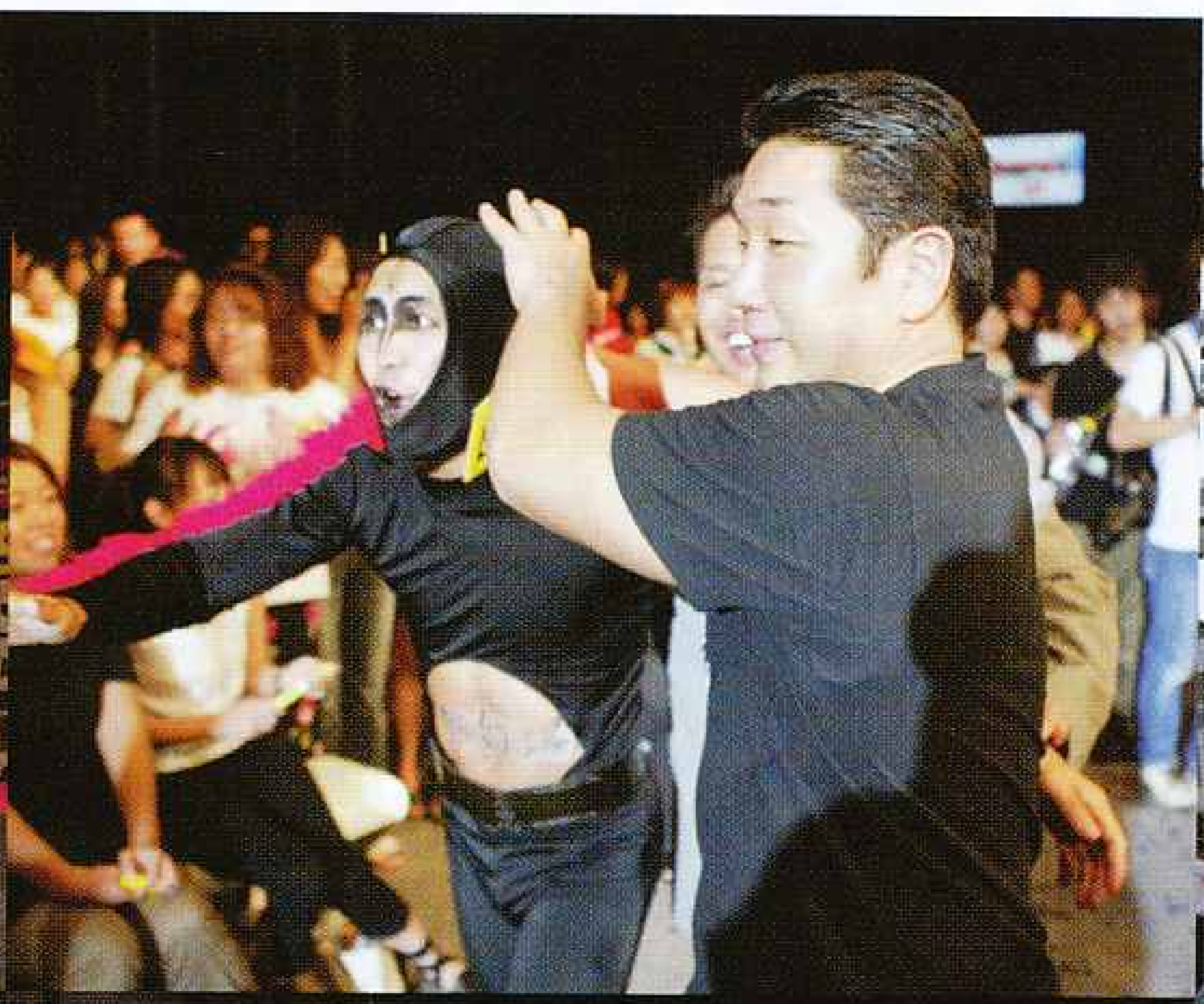
ODAIBA MAINICHI PRO-WRESTLING

DRAGON GATE お台場毎日プロレス

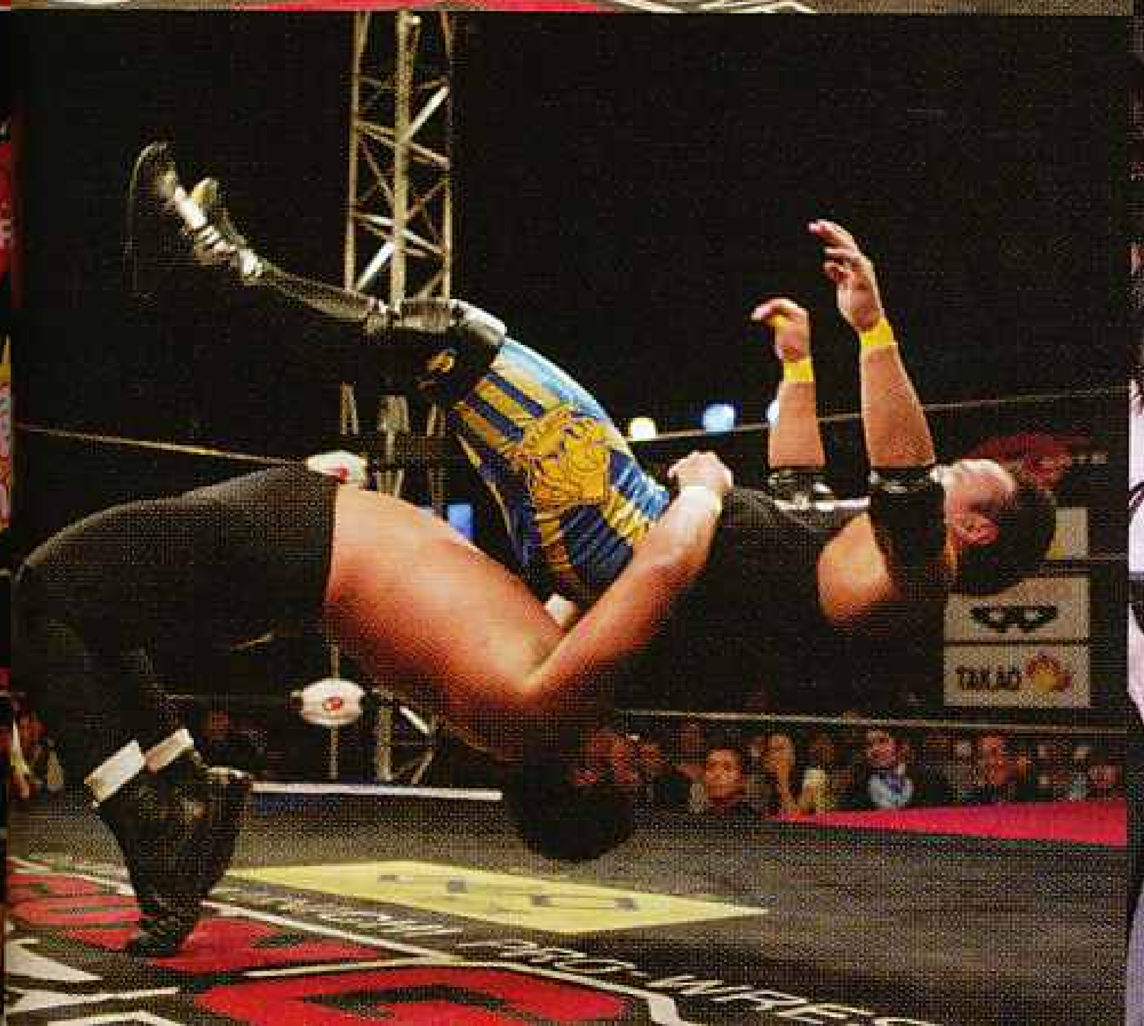
Supported by GEO ゲオ

「話題沸騰の"ビジュアル系プロレス団体"
DRAGON　GATE（紹介チラシより）」が、
フジテレビ夏のイベント・
お台場冒険王2004とコラボレーション。
7月17日から9月5日まで、51日間にわたる
お台場の闘いを駆け抜けた。
この日程をこなしながら、後楽園大会を含む
通常の巡業をこなしたというまさに大忙しな熱い夏。
プロレス界の歴史にまたひとつ、大きな功績が残った。













DRAGON GATEの51日間にわたる長く熱い夏が、終わりを告げた。

8月31日、最後のプレミアムマッチを終えたDRAGON GATE勢を、観客の黄色いサイリュームライトが出迎える。選手には一切知らされていなかったこの〝観客からのプレゼント〟に、泣かないと決めていたというマグナムTOKYOも涙を流した。

この日のメインで行われた、チームお台場とヒール軍団・悪冠一色の因縁は、前週のプレミアムマッチでスタートした。第4試合後、菅原拓也に敗れたTARUに対し、セコンドの近藤修司がマイクを持ち「TARU、残念だったなあ。年寄りには毎日プロレス、厳しいだろ」とTARUを揶揄。さらに「ひとつ言いたいことあるんだよ、毎日プロレスに出てるヤツらリングに上がって来い」と、新井健一郎、アンソニー・W・森、スペル・シーサー、斎藤了らをリングへ呼び込んだ。近藤は「お前らが本隊に合流しないで、毎日プロレスしてる理由わかってるのか？　お前らは2軍なんだよ。オマエら、はっきり言ってDRAGON GATEのお荷物なんだよ。プロレスやめちまえ」と、暴言を吐き、リングを去った。

残されたのは後に〝チームお台場〟と命名される5人。先頭に立って『お台場毎日プロレス』を引っ張ってきたアラケンは「TARUさん、俺らは普段、ユニットも違うバラバラのメンバーだった。最初はお客さん相手に、何していいかわからなかった。だけど、だんだんひとつになってきて、お台場プロレス、すげぇ盛り上がってきたと思うんだよ。俺はたとえ総理大臣であろうと、俺らの頑張りを否定するヤツはブン殴ってやる。そういう気持ちだった」と、怒りをあらわにして言い放った。

この言葉に、アンソニー、シーサー、斉藤了も同意。TARUも「年寄りの俺やけど、力かしてくれ」と、4人に共闘をよびかけた。

DRAGON GATEにしか実現できなかった〝毎日プロレス〟を経て出来た、ユニットを越えたつながり。5人はその絆を手に、自分たちが過ごした夏を侮辱した、近藤修司率いる悪冠一色へ立ち向かうことを決めた。

31日、チームお台場がすべてをかけて挑んだ一戦は、毎日プロレスのムードメーカー・斎藤了がメッセンジャーでカウント3を奪取。文句なしの勝利によるハッピーエンド。岡村社長の「君らの団体の社長であることを誇りに思います」という言葉の後、マグナムが涙を浮かべながら「みなさんの応援が、これほどまでに暖かいと思った日はなかったです」と、〝らしくない〟マイク。全選手が観客席になだれこみ、握手、ハイタッチ、リング上で市川、続いてマグナムを胴上げ（最後は落とす）。ひとりひとり選手がリングを去った後、マグナムが観客へ向かって深く深く礼をして、花道の奥へ消えた。

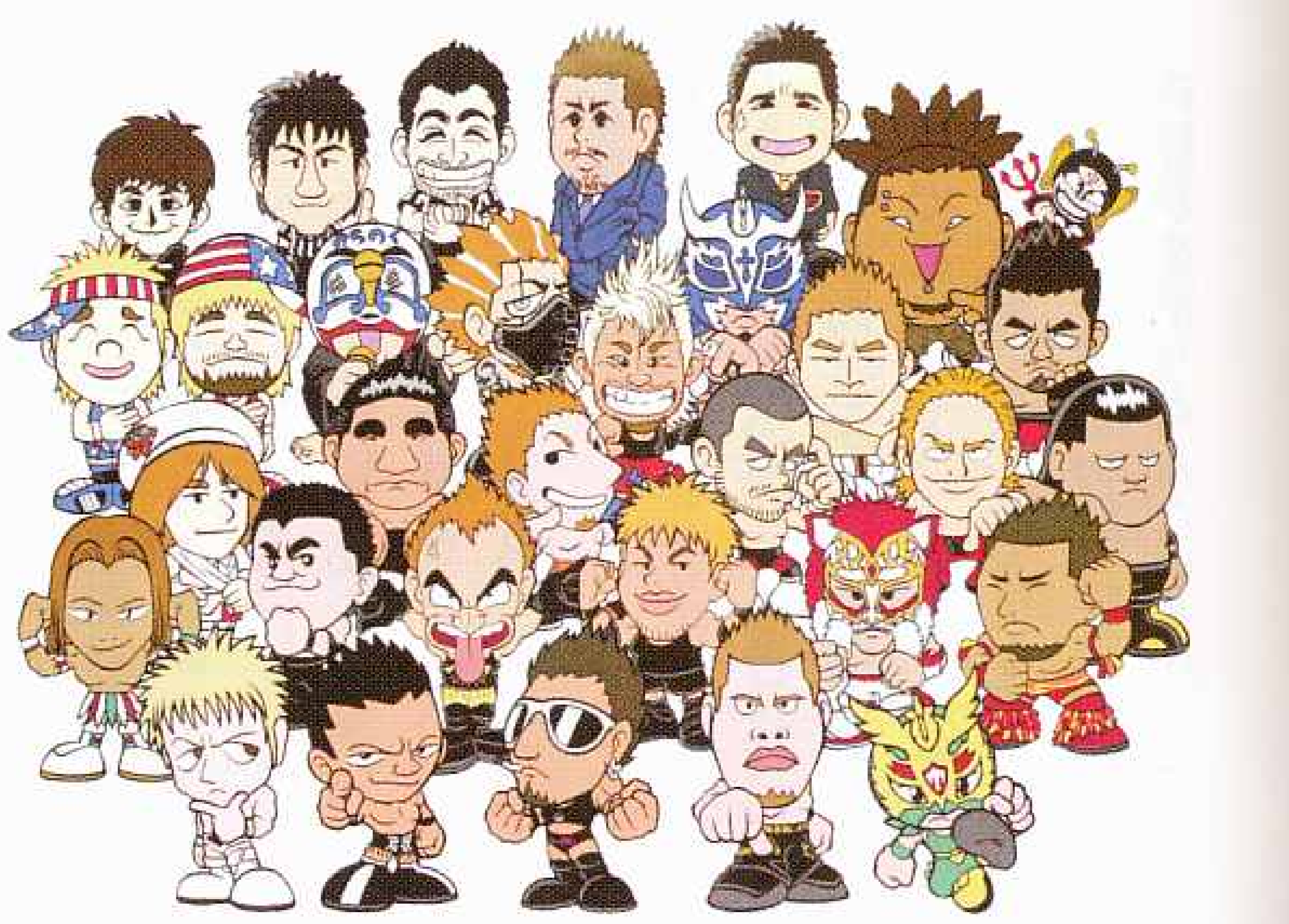
週に1回行われるプレミアムマッチが毎週火曜日開催ということは、プロレス業界的には意味が重いことだ。専門週刊誌が2冊ともに水曜発売の今、火曜日の試合結果および大会の流れは、週刊誌では手に入れることが出来ない。団体の流れをキャッチし、興味をひかれて試合を見に行こうと思っても、プロレス専門誌発売当日の水曜には、もう次の物語が昨日終わったばかりとなる。

それでも、プレミアムマッチのたびに観客は、リング上で行われる事件に歓声をあげ、巻きおこる闘いの物語に拍手していた。観客は能動的に情報を得ようとしていたし、何より団体側が自分たちの存在、ストーリーを伝えるために懸命に努力していた。それは自分たちが打ち出しているものに自信がなければ出来ないことだ。自信を持って打ち出せる〝ソフト〟を作りあげ、それを客席のすみずみまで伝えきる。相手がプロレスファンであっても、一見の客でも同様に。その結果として、DRAGON GATEの試みは「来場者30万人突破」という、大きな数字を打ち立てることに成功した。

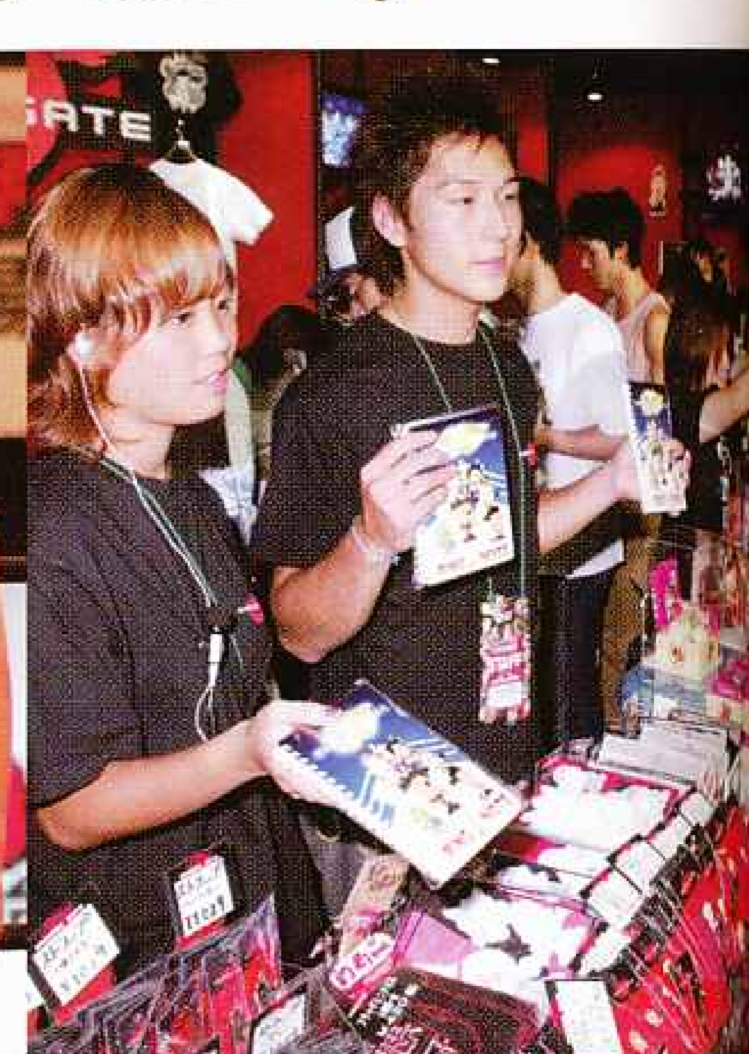
長くて熱い夏が、終わりを告げた。DRAGON GATEが大きな挑戦を終え、また新たな一歩を踏み出していく。















世界一のプロレス団体『WWE』のスーパースター兼No.1アナウンサー

FUNAKI

世界一の格闘技団体『PRIDE』のレフェリー兼ルールディレクター

島田裕二



俺たち 同・窓・生 対談［後編］

日本が世界に誇るこの2人、いまはなき藤原組の同窓生であるということは、最近のファンにはあまり知られていない事実だろう。前編（本誌NO.77）にも収録したとおり、藤原組～バトラーツを経て離散した選手&スタッフの中でも、この両者だけは頻繁にやりとりしている仲良しコンビだ。前編では藤原組時代の昔話を中心に話が弾んだが、今回は一体どんな事実が明らかになるのか？

聞き手／坂井ノブ

フナキ　そういえば、俺は藤原組最後の大会（1995年11月19日、横浜文化体育館）でメインだったんだよなぁ。

島田　そうそう。ザ・グレート・サスケとのシングルマッチね。

――でも、あの大会って、かなり大変だったんじゃないですか？

島田　セミで士道館と藤原組の大乱闘があったからね（注・藤原組長vs村上竜司の異種格闘技戦で、組長の反則パンチで両軍セコンド入り乱れての大乱闘に発展した）。今明かすけど、あの乱闘はガチンコですよ！　ビックリしたよ！

――そりゃ驚きますよね。

島田　だって、士道館はみんなバンバンに入れてるんだよ？　藤原さんもバンバン入れてたけどね。そう思うとプロレスラーは強かったよなぁ。

フナキ　あの時、怖かったもん。自分の試合の前にそんなことになっちゃったから、俺は出て行けなかったんだよ。

島田　よく、あれでメインを締めたよね（笑）。あの時、乱闘に加わらなかった岡村（隆志）さんをリング下で見つけて、「ホント勘弁してください!!」って言ったんだけどねぇー。もう、あの時は村上竜司親衛隊が凄かったんだよ!!

――その後、バトラーツの旗揚げですね。

島田　バトラーツのスタイルを考えてる時も、ショーンはいろいろプランニングしてくれて、「飛び技も入れながら、バチバチやっていこう」って。

フナキ　そうだね。

島田　ちなみに、いま日高（郁人）が使ってるショーン・キャプチャーの名付け親は俺だから。そろそろ俺に恩返ししてもいいんじゃないの？

フナキ　いやぁ……、ありがとうございます（笑）。

島田　アメリカでは超スーパースターなんだから。

フナキ　そんなことないですよ。

――でも、お話をうかがってると、フナキさんは日本でもいろんなことを体験しながら、広い視野をもって、いろいろ周囲にアドバイスしていくようなポジションだったわけですよね？　いま、WWEでもそういうポジションにいるという話はうかがってますけど。

フナキ　まあ、そうですね。

島田　人に嫌われないっていうのが一番だよね。フナキのことを悪く言う人はひとりもいないもん。……俺は言われるけどさ。

フナキ　ハハハハハ。

――島田さんを良く言う人って……。

島田　いないもんね（キッパリ）。

フナキ　PRIDEの会場でも思いっきりヒート買ってるんでしょ？　すげえ見てみたいなぁ（笑）。

島田　今日のWWE日本大会でフナキに飛んでた大歓声と比べると、ビックリするぐらい正反対だよ。同じ団体から巣立ったとは思えない。

――島田さんは、そんなフナキさんをうらやましく思ったりもするんですか？

島田　これは俺の勝手な意見だけど、ショーンはアメリカに住んで成功してるでしょ？　俺の夢を託してる部分はあるんだよね。俺はマレンコ道場に行って2年ぐらい生活してたんだけど、もともとアメリカに住みたかったからね。

――それは、アメリカでプロレスラーになりたかったってことですか？

島田　いや、ただアメリカで就職したかったんだけど、なぜか運命の導きで藤原組に入ることになっちゃって。親には「ヤ●ザになるのか？」と言われ……。

――藤原組をそっち系と勘違いされたんですね（笑）。フナキさんから見て、いまの島田さんがアメリカに行ったらどうなると思いますか？

島田　仕事がないよ！

フナキ　でも、島田さんは向こうでも有名だよ。あっちでESPNを見てたら、何かのシュート・ファイトの試合を放送してて、その試合で島田さんがレフェリーやってんだ

もん。「あ、島田さんがレフェリーやってる」って（笑）。

島田　（急に得意げになり）でしょ!? フェイマスだよ。ラスベガスのレフェリー・ライセンスも持ってるもん。アメリカでもレフェリーは出来るんですよ！　まあ、今じゃカジノのディーラーぐらいしか出来ないけど、手品とかやって暮らしていきたいね。

――そのショーは是非ラスベガスで見たいです（笑）。

島田　でも、子供が大きくなったら住みたいなぁ。ショーンの隣の家でも買って。

フナキ　来るの？　サンアントニオに？

島田　でも、フロリダもいいんだよなぁ……。

フナキ　そう？　俺はフロリダは湿気が多くてダメだわ。こないだ夜の11時頃にフロリダのオーランドに着いたんだけど、飛行機を降りた途端にモワァ～っと湿気が襲ってきて、「ああ……、ここはダメだ。住めねえなぁ」と思ったよ。

――勉強になりますね（笑）。

島田　でも、真面目な話、フナキから教わることは多いんだよ。身体作りから、サプリメントの摂り方とかね。あと日本に来てる時も寝る間を惜しんでトレーニングしてるから。来る前から「ジム予約しておいて」って連絡してくるもんね。

――アメリカに行って、身体に関する考え方は変わりました？

フナキ　変わりましたねぇ。

島田　食事もトレーニングも〝昔ながらのプロレスラー〟って感じじゃないんだよ。もう、〝アスリート〟だから。仲がいいジョン・シナがある意味でパーソナルトレーナーみたいな感じなんでしょ？

フナキ　そうだね。ジョンはずっとボディ・ビルをずっとやってたから知識も豊富だし……。

島田　お互いに切磋琢磨しながらやってるんでしょ？



これは藤原組時代の2人の貴重なショット（中央は現バトラーツ・石川雄規）。この時の模様は小さい版型の紙プロ本誌17号に収録されているので、興味がある方はバックナンバーを買うべし!!

フナキ　……いやぁ、切磋琢磨って単語を久しぶりに聞いたなぁ。

――あ、「テラを切る」に続いて（本誌NO．77参照）、久しぶりに聞いた日本語（笑）。

フナキ　（余韻にひたりながら）なんか、すごく懐かしいなぁ……。

島田　（おかまいなしに）いやぁ、今日ＷＷＥのバックステージに行ってきたけど、みんないい身体してるよねぇ。間近で見ると凄いわ。あれは銭を取れる（しみじみ）。

フナキ　周りがそうだから、やらざるを得なくなってくるんだよね（笑）。

島田　『週プロ』でも肉体改造特集とかやってたけど、日本のプロレス界も遅ればせながら「飲む、打つ、買う」じゃないプロレスラーが出てきてるんだよ。

フナキ　でも、日本のフィットネス事情はまだまだ遅れてるよ。向こうはジムも24時間営業が当たり前だから。そういうジムが、そこら中にあるもん。

島田　トレーニングをやらなくて肥満になってるヤツもいっぱいいるけど（笑）。

フナキ　差が激しいんだよね。

島田　日本は食べ物がおいしいし、いろいろチョイス出来る環境なんだよね。でも、アメリカは食べ物が大雑把だから、自分で考えないヤツはブクブク太っていくんだよ。ハンバーガー、ピザ、パスタみたいなのばかり食べてるとダメだよ。

フナキ　アメリカでも、そこそこのレストランに入ればちゃんとしたものも出てくるんだけど（笑）。

島田　いやいや、健康になるには金もかかるよ！　フナキはミリオンダラーマンだからいいんですよ！

フナキ　何言ってんの？（笑）。まあ、日本にいたときよりはもらってるけど。

島田　それって藤原組時代のこと？　あの頃とは比べちゃいけないよ（笑）。

――日米のプロレス団体ではギャラだけじゃなく上司の違いもありますよね？

フナキ　まあ、ＷＷＥはすごく大きい組織だからねぇ。

島田　ビンスと藤原さんは違う？

フナキ　そりゃ違うでしょ。ビンスはレスラーじゃないから（キッパリ）。

――ビンスと話す機会というのは？

フナキ　ああ、毎日ありますよ。そんなにベチャクチャしべったりはしないですけど。試合を見てくれて、「いい試合だったよ」とか。

島田　今日もシェインに「いい試合だっよ」って言われてたもんね。

フナキ　うん。来日大会の初日の第1試合だからインパクトあるじゃないですか？　いい試合っていうのを心がけましたけど。

島田　でも、そうやってみんなの信頼を得られるっていうのは大したもんですよ。俺に足りないところだね（キッパリ）。

フナキ　ハハハハハ。今、すっごくかっこ良かった！（笑）。

島田　俺は最終的に自分好きだからね。フナキとは職業が違うし、しょせん俺もレスラーじゃないから。まあ、フナキに続く藤原組の出世頭Ｎｏ．２ぐらいですよ。

フナキ　でも、今日、久しぶりに会ったら島田さんの車が変わってたじゃない？

島田　車ぐらい買わせてよ！

フナキ　それに越谷から都内に引っ越したんでしょ？（笑）。

島田　引越しぐらいさせてくれよ！　何年、下積みすりゃええのん？（笑）。

※このページのプレゼント応募方法はP143を参照!!

フナキ　しかも麻布十番にジムまで持っちゃってさ。
島田　ショーン、君は世界一のプロレスラーかもしれないけど、俺も世界一の格闘技団体のレフェリーしてるんだよ⁉
フナキ　確かにそうだけど、ここ最近で一番変わってる。
――その変わり方が、成金的なんですかね？
フナキ　そうそう（笑）。
島田　（焦って）ふざけるな！　誰だって家族が増えたら車も大きくなるじゃん。成金なんて言うと、みんなにそう思われるだろ！
フナキ　まあ、……とにかく変わったよね（笑）。
島田　あれだって会社の車だよ！　でも、いまはアキレス腱が切れてるから、あまり仕事も出来てないんだけど。
フナキ　でも、誰も信じてくれないんでしょ？（笑）。俺もウソかと思ったよ。
島田　そうなんだよぉ。ディーン（・マレンコ）にも「ウソだろ？」って言われたもん。
――そこまで信じてもらえないアキレス腱断裂も珍しいですね（笑）。
島田　それはそうと、ショーンは『ハッスル』って見たことあるの？
フナキ　ないよ。でも、ハッスル・ポーズは日高から教えてもらったよ。「橋本さんはすごく腰が入る」って（笑）。
島田　そうそう（笑）。今日は特別にDSEからハッスルTシャツもらってきたんで、それあげるからちゃんと着ろよ！　ジョン・シナの分も渡しておくから。これで2人はハッスル軍入りですよぉ！
フナキ　あれ、島田さんは髙田モンスター軍じゃないの？
島田　ああ、髙田モンスター軍の参謀長は、俺の双子の弟の島田裕三だから。彼は「フナキと『ハッスル』のリングで闘いたい」って言ってたよ。
フナキ　おお、そうなんだ（笑）。



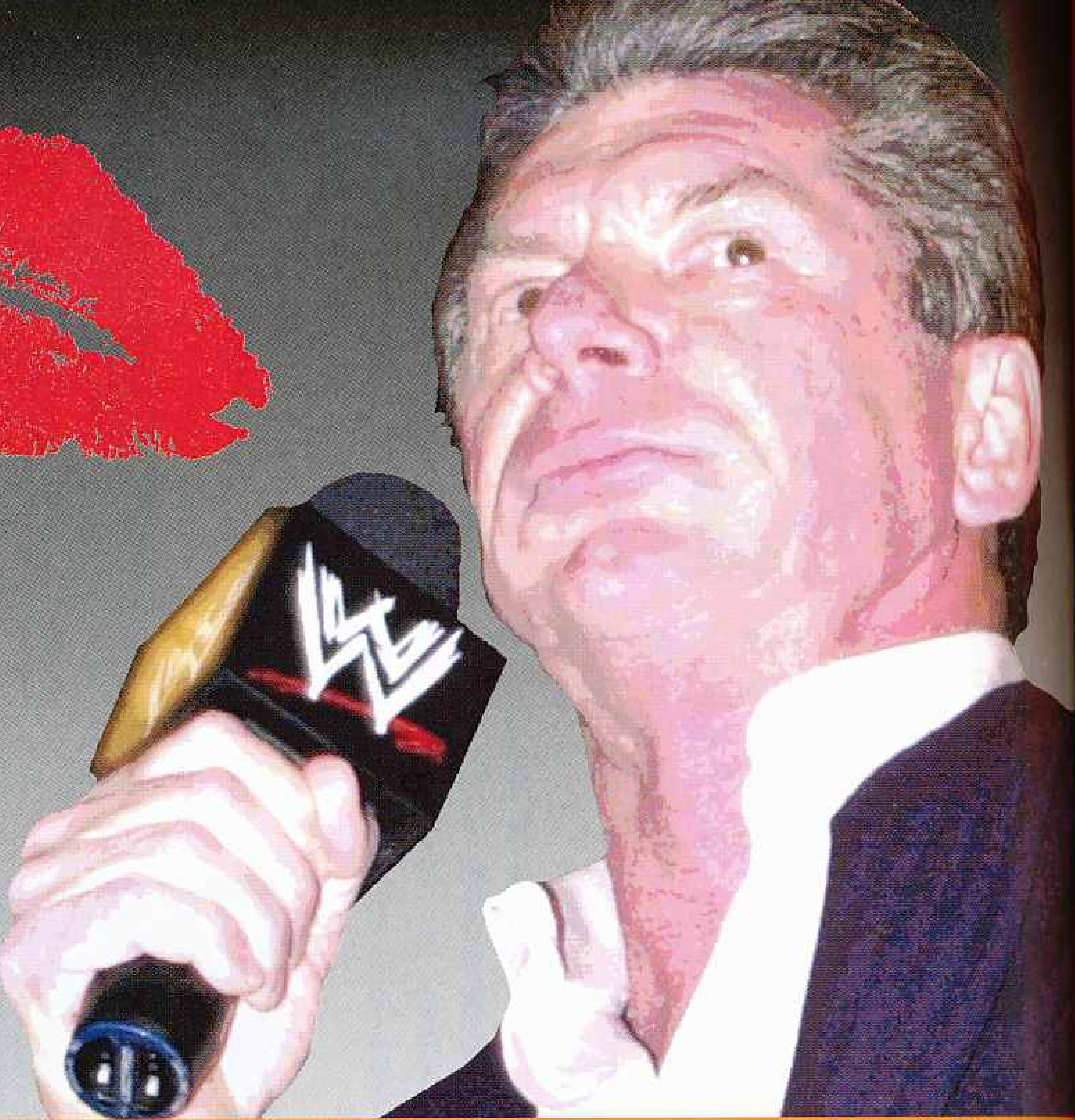
ふなき■本名・船木勝一。通称・ショーン。昭和43年8月24日、東京都葛飾区出身。A型。藤原組～バトラーツ～みちのくプロレスを経て00年にWWEへ。SMACKDOWN!所属。
しまだ・ゆうじ■昭和41年11月24日、広島県福山市出身。B型。88年に渡米してマレンコ道場に入門、92年よりレフェリーデビュー。プロレス・格闘技を問わず幅広く活躍中。

凄いねぇ。
島田　でも、今日もWWEのバックステージを見てたら、仕事がちゃんと整理分担されてるよね。
フナキ　ホントにそれは違うよ。ひとつひとつの試合にエージェントがつくし。エージェントもみんな元プロレスラーだし。
島田　レフェリーもしっかり試合に入っていくし。試合は選手に任せっきりにするんじゃなくて、みんなのチームワークでつくっていく感じだったね。ああいう部分を日本の団体も見習った方がいいなぁ。それにひとりひとりが誇りを持って働いてたよ。「世界中で超人気の団体の一員なんだ」「これがなくなっちゃったら俺たちは困る！」っていう気持ちってあるでしょ？
フナキ　そう。それは確かに強いかもしれない。
島田　ツアーに出れば家には帰れないし、身体もあちこち故障だらけで大変なんだけど、それでも命懸けでWWEを守っていこうとする姿勢が凄いよ。今日もバックステージで選手が祈ってるんだよ。ああいうのも日本にはないね。
フナキ　向こうじゃ当たり前のようにみんなやってるけど。
島田　ECWに行った時も、試合前にポール・Eが全員を集めて、「お前ら、今日は命懸けで闘ってくれよ‼」って檄飛ばして、レスラーも「オオーッ‼」って応えてて凄いショック受けたんだよね。それで日本に帰ってきて、藤原さんに「どうですか？　藤原組でもやりましょうよ」って言ったら、「やらねぇよ。面倒くせえ」って（笑）。あれはショックだったなぁ。
フナキ　ハハハハハ。
――そろそろ時間もなくなってきたので、それぞれお互いにエールを送っていただければと思いますが。
島田　今になって思うのは、信じた道をどれだけ思うかってことだよね。フナキはその思いが強かったんだよ。
フナキ　島田さんは……、ああ、すげえ眠くなってきた……。
島田　いまは思いより眠気が強いみたいだけど（笑）。
――今日はお疲れのところ、ありがとうございました（笑）。

【7月16日、目黒区のデニーズにて収録】

ビンス・マクマホン徹底研究連載

KISS MY ASS CLUB Vol.6



7月、遂に『SMACKDOWN!』で復活を果たした我らがビンス。その復活を記念して、当コーナーも2号ぶりに戻って参りました!! 横暴を繰り返すGMカート・アングルを追い落として試合出場を命じた威厳は、まさにWWEのオーナーそのもの。そんなわけで今回も多角的にビンスのビジネスを分析してみたいと思います!!

僕らが愛するビンスの悪行をプレイバック!!

あの素晴らしいビンスをもう一度

第2回

「無礼者! マイクを向けるな! カメラを止めろ!」

ナベツネよりも6年早くビンスは吼えていた!?

「アンフォーギブン(1998年4月27日)」~「オーバー・ジ・エッジ(1998年5月31日)」

「アンフォーギブン」で、ビンス派のデュード・ラブが王者ストーンコールド(以下SCSA)に玉砕。さらにビンスはこの試合で、SCSAのイス攻撃で失神。怒りは頂点に達していた。

翌日、誰もが「SCSAはクビ」と思ったが、リング上でのビンスのコメントは「解雇はしない」とあっさりした発言。だが「解雇なんて生ぬるい。生き地獄を味わえ!」と漂々とした顔でポアを宣言! 独断でSCSA対ゴールダストを決定し、ビンスの右腕G・ブリスコをレフェリーに、そしてビンス自身は好き勝手にゴングが鳴らせる〝タイムキーパー〟を志願。さらにSCSAがレフェリーに指一本でも触れたら試合終了、即王座剥奪という完璧な〝SCSA包囲網〟を敷いた。

この数分後、ラブはアナウンサー、ケビン・ケリーのインタビューに対し、「ビンスに就いて仕事を全うしたが、一回の敗北で終わりか?」と再戦直訴。インタビューを途中で切り上げ、バックステージで談笑するビンスを捕まえ猛烈に抗議! 受けるビンスは「カメラを止めてくれ」と嫌悪顔で警告。そんなことはお構い無しで、ケビンはビンスの口元にマイクを近づける空気を無視した大胆な行動へ! するとビンスは「無礼者! マイクを向けるな! カメラを止めろ!」とナベツネよりも6年早い暴言を連発! さらにインタビュアーの手首に、〝拳の鉄槌〟を振り下ろし「カメラもマイクも俺の所有物だ! 勝手に使うな!」と理不尽な発言で撮影は中断。結局、ラブとビンスの討論は謎のまま……。

SCSA対ゴールダストではブリスコが善悪偏ったジャッジに終始。SCSAの渾身のスタナーからのフォールも「め、目にゴミがぁ!」と半泣き顔を浮かべる始末。この光景にビンスは、満面の笑みで木槌を振り回し、ゴング乱打を待ち構えていた。そこにラブが乱入し、SCSAへ襲い掛かり両者は場外へ! さらにブリスコも加わり大混乱! そこにビンスが、ベルトを持ち、SCSAに狙いを定め振り下ろす! しかしベルトはブリスコの額へ! 結局ブリスコの失神でノーコンテスト。ビンスの王座奪回はまたも失敗に終った。

4月28日の「RAW」でラブは改めてビンスに結託を志願。PPV「オーバー・ジ・エッジ(以下OTE)」における王座挑戦権を掛け、テリー・ファンクと対戦し勝利。ビンスは服従するラブに水着ギャルを与え、自らもジョン・トラボルタよろしくマンデーナイト・フィーバー! 頭の弱いオーナーぶりを世界中に見せ付けた。

5月11日の「RAW」でビンスは「ラブの王座奪回を全面協力する!」と宣言。タイムキーパーはブリスコ、リングアナにP・パターソン(あまり意味なし)を任命した。ビンスは「レフェリーは、実に偉大な人物で、ズバ抜けた才能を持つ天才だ。それにどんな誘惑に対しても己を貫き、感情を乱さない勇敢な男だ。彼のジャッジは今後のWWFで新しい模範を築くはずだ。それではご紹介しよう! SCSA対デュード・ラブのレフェリーは……」

観衆の視線はエントランスゲートに向くも、誰も出て来ず。バックステージに下がり、特別レフェリーを迎えに行くビンス……。嫌な予感……。

そこに登場した人物は、ボディビルで鍛え上げたパンパンな胸筋と上腕二等筋を誇示するビンス! 完璧な一人芝居をキメたビンスは恍惚の表情だ!

だがその「OTE」では、ラブが放ったSCSAへのイス攻撃が、ビンスに誤爆! ラブにスタナーを決めたSCSAは、失神しているビンスの手首を掴み強引に3カウント! おののくブリスコはゴングを乱打。ビンスの壮大な王座剥奪計画はあっさり失敗! かつビンスはPPV2大会連続失神という、不名誉な記録まで作ったのであった。

文/阿部タケシ(フリーライター)

この頃なかなか人前に姿を現さないビンス。今年は全米各地の共和党ではなく民主党大会に参加してPRされた「SMACKDOWN VOTE!」（大統領選挙の選挙権登録を促す運動）に登場したのもリンダ夫人やミック・フォーリー。ご本尊の姿を拝みたく思っていたら、久しぶりに「サマースラム」直前の「スマック！」に現れた。またまたド派手な名演を繰り広げ、日本全国・推定1千万のビンス・ファンは大喜び（胸を張り大股で歩くのがクセ）。カート・アングルの松葉杖を取り上げ、鬼の表情でブンブン振り回すビンス（必死になって逃げるカートはつまり動ける、というオチつき！）。エディ・ゲレロのローライダーに招かれ、車体のバウンドに激しく驚くビンス。またしても最高。どんなレスラーも敵わない、なりきり方に敬服してしまう。スーパースターとはつまりアンタの事だろ、と言いたくなるのである。

命がけでビジネスに向かう、ということは自分が職場で果たすべき役割や役柄になりきることでもあろう。ご承知の通り、リング上のビンスは悪徳経営者ミスター・マクマホン。その完璧なりきりぶりは、ストーンコールドの自伝『ストーンコールド・トゥルース』（エンターブレイン刊）にも詳しい。1997〜98年はWWF（当時）の当たり年。ブレット・ハート脱退後、ストコンとビンスの抗争が開始。98年の「レッスルマニア14」にはマイク・タイソンも出演し、世間知は急上昇。この頃、TV番組「ロウ・イズ・ウォー」はライバルWCWの「マンデイナイトロ」を視聴率で抜き去り、団体は過去最高のマーチャンダイズ収入を上げている。

上司ではあるが同時に友人、とビンスへの信頼を隠さないストンコは、同書でこんな風に語っている。

「ビンスは頭が良くて、貪欲だ。直感的にガンガン前に突き進む。もちろん過ちだって犯してきた。でもヤツは勝者だ」

「ヤツの家族だってみんな同じだ。俺がマクマホン家を評価しているのは、俺達に向かって一生懸命に働けなんて言わないことなんだ。あいつら自身が率先して猛烈に働くんだ。それを見て、俺達もせっせと働くようになるってわけさ」

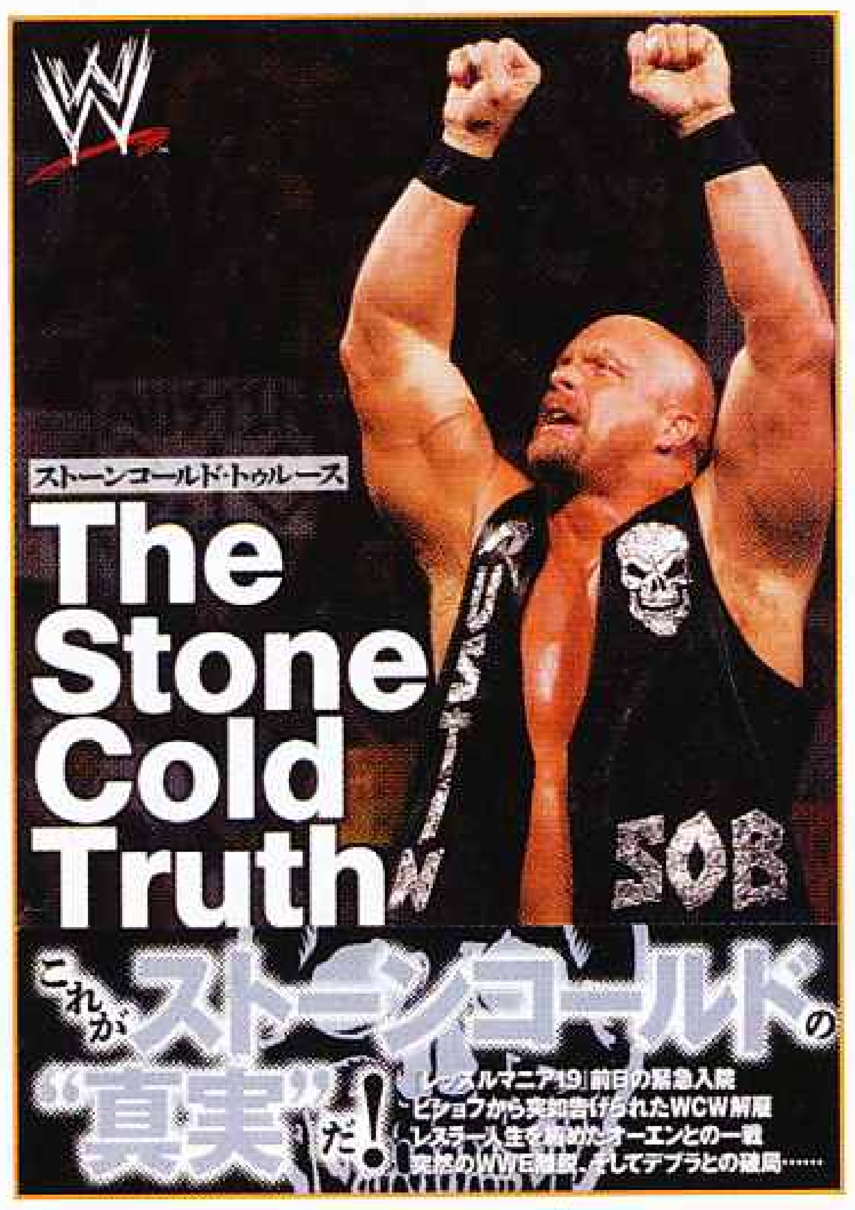
上司が行うべきは命令よりもまず実践。国が違っても、その効力は変わらないようだ。月に2回、NYの床屋にリムジンで駆けつけるという（さすが！）ビンスに例え急所蹴りが入っても文句は言われたことがない。反対にストンコ後頭部に今も残る大きな傷は、ビンスの椅子攻撃のものらしい。本当はビンスはレスラーになりたかったが、先代社長のシニアが許さなかったなんて嬉しいエピソードもある。

足を折って入院中のビンスをストンコとミック・フォーリーが襲撃するという、今もアーカイブでちょくちょく紹介される伝説の名スキットがある。単に殴られるだけでは気が済まないビンス。入院患者用のおまるで俺を殴れ、とストンコに申し出たそうだ。撮影前、2人はこんな会話を交わす。

「でもよ、ビンス。ありゃけっこう痛いぜ。ステンレス製だしよ。あれで殴ってケガがないようにするなんて、どうすりゃいいかわかんねえぜ」

「いいからおまるで殴ってくれ。本気っぽくやってくれよ」

「仕方ねえな、そう言うなら」



"ストーンコールド"スティーブ・オースティンが半生を綴った自伝『TheStoneColdTruth』（日本版はエンターブレインより￥2000・税別で発売中!）長い下積み時代、世界的ブレイクからラストマッチまでエピソード満載!

何が仕方がないのか。その後ストンコはどこを叩いたらいい音がするか、自分の頭で試したそうだ。おバカである。真剣である。そしてこれがプロレスラブである。リハもなしに4トントラックで本間朋晃を轢いてしまったグレート・ムタもグレート、しかしWWEもクレイジーかつ念入り。

「ビンスはとにかく支配欲が強いもんだから、自分の意のままにならないものは、くしゃみでさえ我慢ならないんだ。くしゃみをした後に悪態をつきまくってるビンスを見たことがあるぜ。あくびが出ちまったときだって、怒りまくってるんだ」

くしゃみに怒るビンス、大笑いだが想像できなくもない。こういうストンコのアメリカン・ジョークも気が効いてる。ビビる大木（持ち芸のアメリカン・ジョークは時々可笑しい）の格好のお手本になるかも。

一方こちらはミスター・マクマホンというより経営者ビンスの素顔（『WWEレッスルマニア　オフィシャル・インサイダー・ストーリー』角川書店・刊より）。「レッスルマニア14」にマイク・タイソンを上げるには、何よりギャラが大変。この頃タイソンはホリフィールド戦で耳を噛みちぎり、現役生活は謹慎中。ファイトをさせる訳にはいかないが、それでも出演料は500万ドルを上回ると噂された。会場のチケット数は1万9千枚。

チケット売上げを合わせても出演料には足りない。タイソンが出なくても40〜50万世帯のPPV収入が見込める現状の中、あるスタッフはタイソン抜きの手堅い黒字興行をビンスに進言した。

「君は分からないのか？　私ならば40万世帯に番組を売って黒字を出すよりも赤字覚悟で80万世帯に見てもらいたいと思うがな。我々はそうやって会社を成長させてきたんじゃないか」

ビンスはそう切り返した。ハイリスク・ハイリターンの世界に打って出たのはビンス本人。結果は吉と出る。その後2年間でTV視聴率は3倍に伸び、会社は株式の店頭公開を果たした。

今年2月、さいたまスポーツアリーナでのRAW興行を終えた後「今夜はただのサクセスじゃない。ヒュージ・サクセスだ！」と、リック・フレアーは帰りのバスで上機嫌だったらしいが（会場はフルハウス、関連グッズもバカ売れでこの夜だけで3億強の売上げがあったとか）、「レッスルマニア」は並みのスケールを越えるサクセス。まさしく〝機を見るにビンス〟だったのだ。機を見るに、敏敏。

ビンスの過去の名言を、もう一つ。

「致死病の治療法を考える科学者にでもならない限り、この世に残された最高の仕事は人々を楽しませることである！」

半分冗談・半分本気と思われる一言は、世界のミスター・プロレス＝ビンス・マクマホンのCIのようにも感じられ、痛快。人生のご褒美とも言えるギルティプレジャーをマクマホン一家は製造する。エンターテインメントには終わりがない。ギルティプレジャーを作るのが人生なのか、人生がギルティプレジャーなのか、時には分からなくなる。ファンも、恐らく本人も。



この世に残された最高の仕事は人々を楽しませることである!

文／長谷川博一

ビンス・マクマホン目撃証言集

私は見た!!

IWA JAPANに来日したコンガ・ザ・バーバリアン。80年代後半には新日本プロレスにも登場したが、90年代初頭にはWWF(当時)でも活躍している。バーバリアン(=野蛮人)というリングネームとは裏腹に、紳士的に答えて頂きました

文／長谷川博一

――アメリカでもコンガ・ザ・バーバリアンの名前でファイトしているのですか。

「コンガが付くのは日本だけ。向こうではザ・バーバリアンと名乗ってる。かつてWCWからWWFに移籍した時も、ビンスは〝名前はそのままでいいじゃないか〟と言ってくれたんだ。ファイトスタイルも変えられなかった」

――ビンス・マクマホンは、どんな人？

「人が何と言おうと僕は好きだよ。自分と家族をケアしてくれたからね」

――WWEのレスラーは「家族をケアしてくれる」という謝辞を述べる場合が多い。どういう意味ですか。

「契約する時から僕には妻と子供がいることをビンスは知ってる。そこを踏まえた上での契約内容を提示してくれる。レスラーには期日通りに小切手をくれるし、本来の契約とオプションの契約の両方を用意してくれる」

――一番収入が良かった時で、どれくらいでしょう。

「フフフ、内緒にしたいね。その前のWCWも良かったけど、ビンスは少しだけアップしてくれた。人のことなら言えるけど知りたい？　やっぱり最高はハルク・ホーガンだろうな。ロイヤリティ収入を入れずにファイトマネーだけで1年に500万ドルくらい貰ってたよ」

――6億円！　日本で見てると、その価値が今一つ分からない…

「残念ながら私の名前はホーガンじゃない（笑）」

――TVマッチでいいファイトをすると、今でもビンスはポケットマネーをくれるそうですね。

「僕も貰ったことがある。ハードな試合をすると少しボーナスをくれる。PPVに出るとボーナスが支払われるという契約もしていた。僕の頃で一回のPPVで1万ドルくらい貰ったかな」

――1990年、それから91年のレッスルマニアに出場してますよね。

「今でも憶えてるよ。90年はカナダ、トロントのスカイドームだろ？」

――ええ、レッスルマニアⅥです。7万人の大観衆の前で、第2試合でティト・サンタナと闘ってます。

「イエス、憶えてる。あんなにたくさんの観衆の前でファイトしたことはない。興奮するというよりナーバスになった」

――翌年はLAスポーツアリーナでの開催でした。

「僕は確かハクと組んでザ・ロッカーズと闘ったんだよな」

――WWEと契約してたのは、どれくらい？

「5年間だった」

――じゃあ5年後にWWFと契約が切れる時には失望しましたか。

「そうだね、もっとお金が欲しかった。家族のためにも。WWFが好きだったし淋しかったよ。意見の食い違いが生じるのは仕方がない。最後の契約内容を団体から提示された時、納得が行かなかったのでWCWに電話を入れてみた。2週間後に改めてWCWから連絡があり、それから向こうに復帰した」

――現在のWWEについては、どんな印象がありますか。

「TVで観てるけど大きく変わったね。大相撲の世界を引退した後、僕はLAに行った。LAのレッド・バスティンのジムでプロレスを習いデビューした。ジムの同期にはスティングやアルティメット・ウォリアーがいる。僕はオールドスクールの選手だしオールドスクールが好きだ。今のWWEに、オールドスクールの要素を見つけるのは難しい。会社の新しい世代が変えていったんだよ」

――今やハウス興行よりTVが中心だし。

「そこも僕らの時代と違う。毎週のTVが中心、そしてPPVが中心になってる。TV寄り・PPV寄りというのは、つまりハリウッドスタイルなんだろうな。ジムで育った僕にとっては、まるで違うものに感じられる」

――TV中心・見てくれ重視のレスリングもビンスが定めた路線ですよね。異議を唱えたい部分はありますか？　それでもビンスは良い人？

「彼はとてもスマートだよ。今も優れたビジネスマンだ。お金を生むためには何でもするしね（笑）。時々、彼自身はリミットを越えてしまうね。女性問題のいざこざとか、子供達には見せられないシナリオがTVに登場するから、父親としては理解に苦しむ時がある（笑）。でもビンスは僕らに仕事を与えてくれるし、約束通りのペイをしてくれる。全てのプロモーターがそうじゃないから、僕は敬意を表したい」

――苦労人のバーバリアンさんならではの発言だ。IWAの社長・浅野起州氏もリッチでフェイマス、「日本のビンス」と呼ばれる時もあるらしいです（笑）。

「本当かい？　期待したいね。彼もきっと、いい男なんだろう。何で会社のスタッフが笑ってるんだい？」

ビンスはとてもスマートだよ。今も優れたビジネスマンだ。お金を生むためには何でもする（笑）

今月の目撃者



IWA JAPANで久々に来日!!

コンガ・ザ・バーバリアン

元関脇・高鉄山の手ほどきを受けトンガで16歳から相撲を学ぶ。相撲愛好家の国王の命を受けてミング（＝キング・ハク）らと共に大相撲に入門。「相撲の世界のシステムはベリー・ディフィカルト。オヤカタ、オカミサン、アニデシ……。あんな上下関係はトンガにはないからねぇ」と言いつつも「幸の島」の四股名で幕下まで昇進。だが、朝日山部屋のゴタゴタに巻き込まれて廃業。21歳の頃、ハクのプロレス入りに刺激を受け両親の住むアメリカ・カリフォルニアでプロレス入り。トンガ・ジョンのリングネームで闘ったデビュー戦は「ドイツ出身の巨人と闘わせられて怖かった（笑）」。プエルトリコでバーバリアンに変身、マネージャーのミスター・フジがペイントを考案した。ウォーロードとのタッグ「パワーズ・オブ・ペイン」はロード・ウォリアーズにそっくりの出で立ちだった。86年にはプロレスラーとして新日本に来日。「チョーノ、ムタ、イノキ、フジナミ、キムラ、フジワラ、タカダ、マエダ、アラカワ……みんなベリー・グッドだった。じつは私はショーマン・スタイルは好きじゃない。ジャパニーズ・スタイルが大好きなんだ」

皇弟に続き、読プレコーナーも制圧！

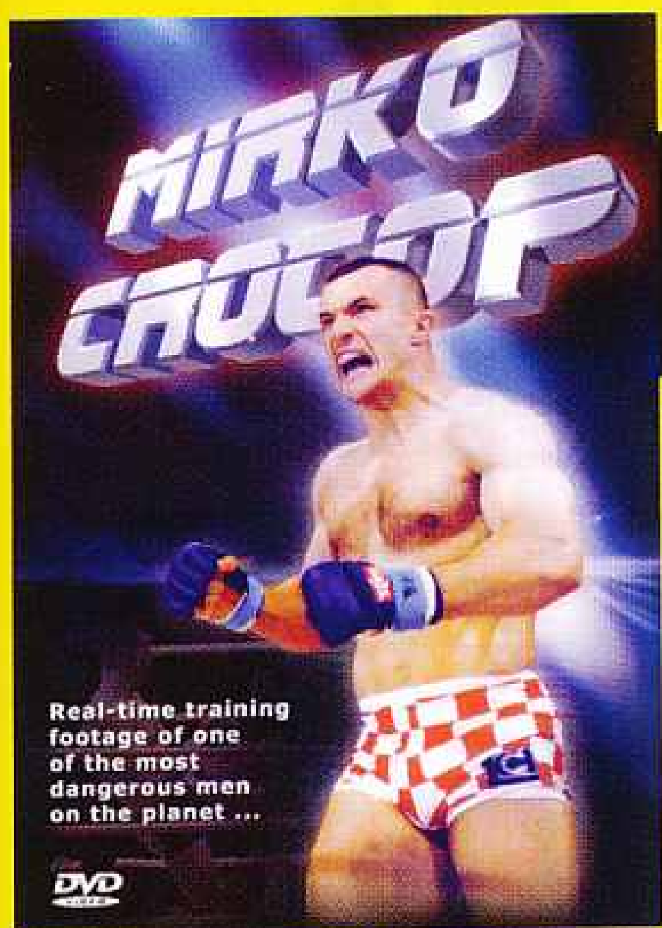
RADICAL PRESENT



MIRCO

全商品がクロアチア直輸入！　他では手に入らないミルコDVDとオフィシャルTシャツのセットを3名に。確実に手に入れたい人は、発売元のSEAZ COMPANYに問い合わせよう！　※TシャツはすべてLサイズ。希望のタイプを明記してください。
【SEAZ COMPANY提供】【住所】〒673-0533 兵庫県三木市緑が丘町東3-9-16【TEL】0794-85-8228　【HP】http://www.seaz.jp/

セットで 3 名様



★ミルコ・クロコップ オフィシャルDVD
80分／¥7500



★ミルコオフィシャルTシャツ type3
¥5500／S~XL

★ミルコオフィシャルTシャツ type2
¥6000／S~XL

★ミルコオフィシャルTシャツ type1
¥5500／S~XL

HUSTLE

総統ニューTシャツがビターン！　川田TシャツがK！　野球軍Tシャツがオイッス！　そして漫画の世界どころか、モノマネの世界に浸った神無月Tシャツも何コラ、タココラと登場だあ！
【DSE提供】［TEL］03-5464-1531［HP］http://www.so-net.ne.jp/pride/

各 1 名様



★ハッスル野球軍Tシャツ
¥3800／S~XL／ホワイト

★ハッスルK Tシャツ
¥3800／S~XL／ブラック

★ビターンTシャツ
¥3800／S~XL／ホワイト

★ビターンTシャツ
¥3800／S~XL／ブラック



★神奈月モノマネTシャツver.2
（長州力／SCORPION ROCKの商品）
¥3800／S~XL／ブラック

★神奈月モノマネTシャツver.2
（長州力／SCORPION ROCKの商品）
¥3800／S~XL／ホワイト

★神奈月モノマネTシャツver.1
（長州力／MONOMANE FIGHTERの商品）
¥3800／S~XL／ブラック

★神奈月モノマネTシャツver.1
（長州力／MONOMANE FIGHTERの商品）
¥3800／S~XL／ホワイト

HARDCORE

各 1 名様



★PLANET OF THE APES 類人猿の惑星
¥3990（税込）／チビ、S~L
ブルー・ブラック・レッド・イエロー

★八仙飯店之人肉饅頭
¥3990（税込）／S~XL／ブラック

伝説の怪奇派レスラー“ミッシング・リンク”と『猿の惑星』のドッキングTシャツと、実録食人映画『八仙飯店之人肉饅頭』のオフィシャルTシャツが登場！　10月16日『Tシャツ・ラブ・サミット』（入場料¥100、11:30〜）が九段下の科学技術館2号催物場で開催！　コアチョコを含む55ものブランドが集結する日本最大規模のTシャツ祭りの詳細は公式サイト http://www3.to/t-love でチェック!!【ハードコアチョコレート提供】
［TEL］03-5481-3561［HP］http://hardcore.hp.infoseek.co.jp/

ART JUNKIE

1 名様



★パウンダーTシャツ　¥3990／XS~L
ホワイト・ブラック・オレンジ・パープル

数多くの格闘家とのコラボTシャツを実現するART JUNKIEが、殴って殴って殴りまくる、怒りのパウンダーTシャツを『紙プロ』読者に提供！　プレゼントはパープルのMサイズ。商品の問い合わせはGROUND COBRAまで。
【ART JUNKIE提供】
［TEL］GROUND COBRA　092-711-1021
［HP］http://homepage2.nifty.com/groundcobra/

BAM BAM BIGELOW

各 1 名様



01★マスカラス ネイティブTシャツ　¥5040（税込）／チャコールグレー
02★マスカラス バードTシャツ　¥5040（税込）／ネイビー

旗揚げ9周年を迎えるバンバンビガロが、大ヒットシリーズのマスカラスTシャツを『紙プロ』読者に提供！　サイズはどちらもL。映画『いかレスラー』とのコラボTシャツも絶賛発売中！　さあ、今すぐアクセス！
【バンバンビガロ提供】
［TEL］03-3460-1145［HP］http://www.bambam88.com

RADICAL No.79 応募券 田上火山

SHINJUKU FIGHTER

セットで1名様



01★『〜逆転〜長州力』　02★『さらば、長州力』
03★新宿ファイターパッチ　¥1000　04★『PRIDE.1』Tシャツ

新宿ファイターお蔵だし！　長州の自伝本では「前へ前へと自分自身の気持ちを隠すことなく、どんどん自己主張をしていくべき」とドラゴンにアドバイス。ドラゴンのブレーキを壊したのは長州だった？
【格闘技ショップ 新宿ファイター提供】[TEL] 03-3354-1903 [HP] http://www13.ocn.ne.jp/˜fighter/

MUAY THAI

各1名様

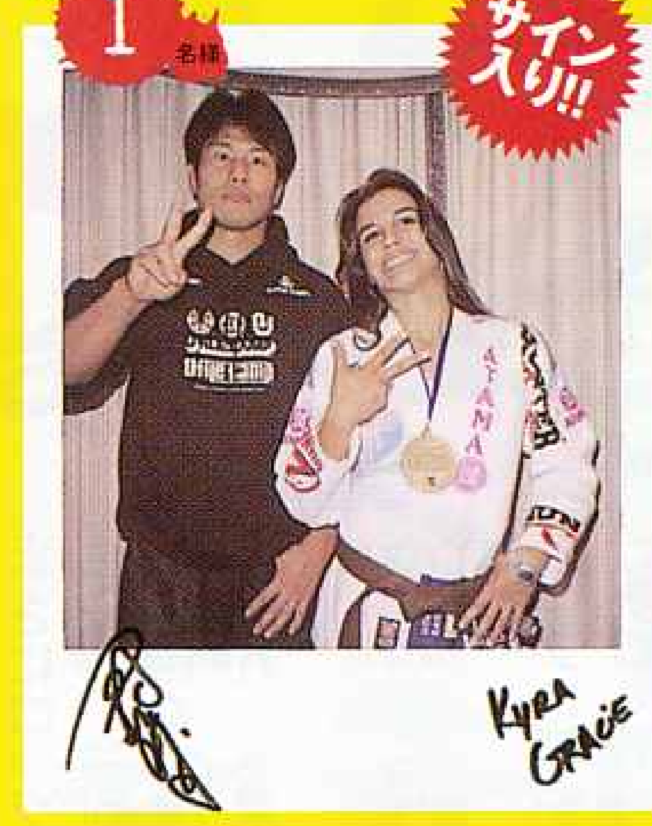


★女子キック選手サイン入りTシャツ

8月11日にタイの女子ムエタイに出場した渡邉久江、グレイシャア亜紀、杉貴美子。2敗1分けという結果に終わってしまったものの、アウェイの地で大健闘した3選手のサインを現地でゲッツ!!【橋本宗洋&全日本キック提供】
[HP] http://www.aj-kick.com/

KIYOSHI♥KYRA

1名様　サイン入り!!



★田村&キーラ　サイン入り2ショットフォト

モデル出身のキーラが少しでも背を高く見せようと背伸びをすると、なぜか負けじと背伸びする田村。冬でもTシャツ&短パンなのに、残暑厳しい中なぜかパーカー姿で現れた田村。そんな赤いパンツの不思議者とキーラの奇蹟の対談はP81から！
【田村&キーラ提供】

BOOKS

★ブラジリアン柔術ブラックベルト

¥2800（税別）／ジャン・ジャック・マシャード 著
中井祐樹（日本ブラジリアン柔術連盟会長）監修



革新的な動きで様々な柔術大会で優勝しているジャン・ジャック・マシャードの技術をくわしく解説。さらに『アブダビコンバット1999』でオールー本勝ちを収めた道衣なしのサブミッションテクニックも披露!! 左手のハンディを乗り越えて闘う姿は感動的だ!!
【新紀元社提供】

3名様

[TEL] 03-3291-0961
[HP] http://www.shinkigensha.co.jp/

★無比人　真樹日佐夫・著／¥1375（税込）



『紙プロ』で連載し、菊田早苗主演で映画化も決定したバイオレンス&SMのプロレス小説『無比人』が、遂に単行本化! 圧倒的に強くて女好きでエゲツない、理想のプロレスラーがここにある！　解説はもちろん吉田豪!!
【東宝出版】

5名様

[TEL] 03-5396-7100
[HP] http://www.toho-pub.com/

NAKAGAWA GAHAKU

セットで3名様



★中川画伯特製缶バッチ

中川画伯待望の新連載開始！　記念して画伯特製の缶バッチを5ヶセットで大放出! 『ほんとにジョーク』が終了した今、ここで手に入れるしかない？　中川画伯の日常と仕事っぷりは下記のHPでチェック!!
【中川画伯提供】
[HP] http://chu-kichi.jp/

BATTLEROYAL



セットで1名様

★憂国の虎セット

"時代の10年先をいく男" 佐山サトルグッズで友達に差を付けろ！　水道橋のプロ格本舗『バトルロイヤル』では、定期的に選手愛用品オークションやイベントを開催中。下記HPを随時チェック。押忍!!（敬礼）
【バトルロイヤル提供】

01★スーパータイガー・セミレプリカマスク　¥6825
02★初代タイガーマスクフィギュア　¥1575

[住所] 東京都千代田区三崎町2-20-5 丸山医院2F（11:30〜20:00）
[TEL] 03-3556-3223 [HP] http://www.battleroyal.jp/

DRAGON GATE

[TEL] ドラゴンゲート　078-333-9797
[TEL] セブンエイト　03-5337-8103
[HP] http://www.seveneight.co.jp/

各1名様



★闘龍門伝説 2003年編 File.3
[DVD] 155分／¥7140（税込）



★闘龍門伝説 2003年編 File.4
[DVD] 150分／¥7140（税込）

EL NUMERO UNO 2003を制し初代UDG王者に輝いたCIMAのベルトに、なんと師匠ウルティモ・ドラゴンが挑戦したFile.3と、二代目王者マグナムやはぐれ軍（現・悪冠一色）が台頭したFile.4をそれぞれ1名様に!
【DRAGON GATE提供】

VALIS

太っ腹！　DVDとVHSをそれぞれ3名様に!
【VALIS提供】※DVDかVHSを必ず明記して下さい。
[TEL] 03-5342-2681

名様3名様



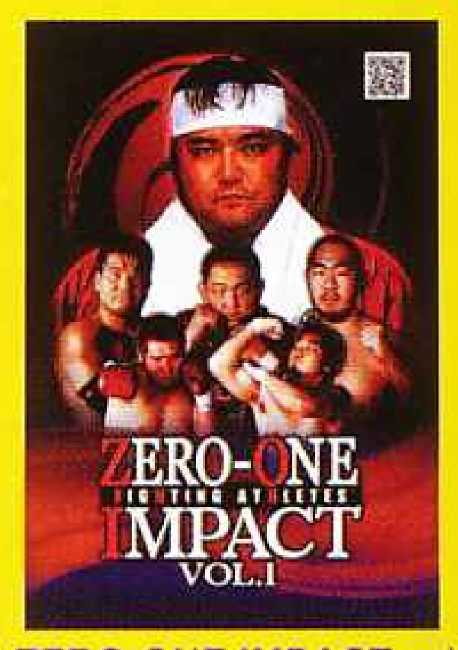
★新日本プロレス聖戦SPIRAL
[DVD] 100分 ¥5040（税込）／
[VHS] 100分 ¥7140（税込）／9月30日発売

G1を1ヶ月後に控えたトップ選手たちが火花を散らした好カードを多数収録。天山と中西、健介と中邑、蝶野と天山、永田と金本が激突し、棚橋は後藤、山本、安沢のヤングライオン3人掛けに挑む!



★地獄の死闘（デスマッチ）vol.1 伊東竜二スペシャル
[DVD] 120分 [VHS] 90分／¥5250（税込）

vs金村、vsA小林、vsマッドマン・ポンド……。有刺鉄線、蛍光灯、画鋲、ガラスボードを駆使して闘うBJW王者・伊東の超絶デスマッチの数々を完全収録！　"義足の英雄" ザック・ゴーエンも登場だ!



★ZERO-ONE IMPACT vol.1
[DVD&VHS] 90分／¥3990（税込）

橋本&永田vs三沢&秋山、OHvs武藤&川田、橋本vs長州などのビッグカードが目白押し！　他にも、靖国神社奉納プロレス構想に反対する謎の軍団と破壊王の緊迫感漂うやりとりの一部始終を完全収録!!

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦曙は是か非か&その理由
⑧ボクorワタシのPRIDE武士道再生案

応募券

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「禁じ手・秩父セメント」係まで
※締切は2004年10月18日（月）当日消印有効

QUEST

【クエスト提供】
[TEL] 03-3360-3810
[HP] www.queststation.com

各1名様



★合気道養神館 極意 塩田泰久
[DVD] 90分／¥5,880（税込）

実戦合気道の総本山・養神館合気道の基本から極意を、塩田剛三に師事し直々に神技を受け継いだ塩田泰久養神館高田馬場道場長が披露する。



★大橋秀行ボクシング完全教則ー上級篇ー
[DVD] 88分／¥5880（税込み）

元WBA、WBC世界王者・大橋秀行が教えるボクシングテクニックの最終巻。世界を獲ったボディブロー、そしてPRIDEファン必見のロシアンフックなど徹底解説。



★マルセロ・ガッシア エクストリーム柔術
[DVD] 70分予定／¥5880（税込）

ヘンゾやシャオリンを退けADCC2003を制し、今年はムンジアル黒帯で優勝したマルセロ・ガッシア。そのテクニックを公開したセミナーの模様を項目ごとに見やすくパッケージ。

MEDIAFACTORY

★『PRIDE武士道ー其の四ー』DVD
約168分　¥5040（税込）9月30日発売



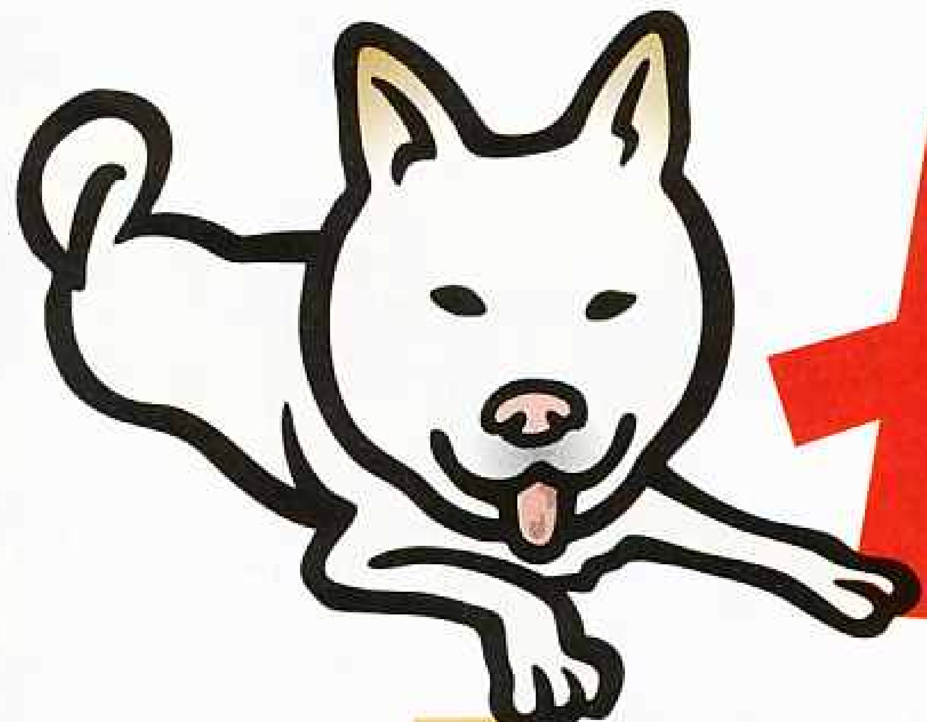
7月19日、久々に名古屋に『PRIDE』が上陸！　快進撃を続ける五味、リベンジを期す小路とカズ、美濃輪vs山喧のUWF第三世代対決、そしてミルコ登場と見所満載！『武士道』存続を賭けた日本人たちの活躍に大注目だ!!
【メディアファクトリー提供】

3名様

[TEL] 03-5469-4880〈10:00〜18:00/土日、祝日は除く〉
[HP] http://www.mediafactory.co.jp/

突然ですが新連載!!

中川画伯の絵日記 犬とTvの日々



http://chu-kichi.jp/

第1回

ファイナリー、ザ・画伯・ハズ、バック・トゥ・『紙のプロレス』〜!! 中川画伯が『紙プロ』に帰ってきたぜ〜! 恥ずかしながら帰って参りました。こんなに早く帰ってこられるとは…。

8月30日 誰だ?

えっと…最初に何を書くかと言ったらやっぱ自己紹介でしょ! ちゅう訳で自分は中川雅博と申します。「中川画伯」って呼ばれたり名乗ったりもします。フリーのイラストレーターです。26歳です。もうすぐ27歳です。AB型です。天秤座です。犬が好きです。ものスゴく。

8月30日 革命小戦士

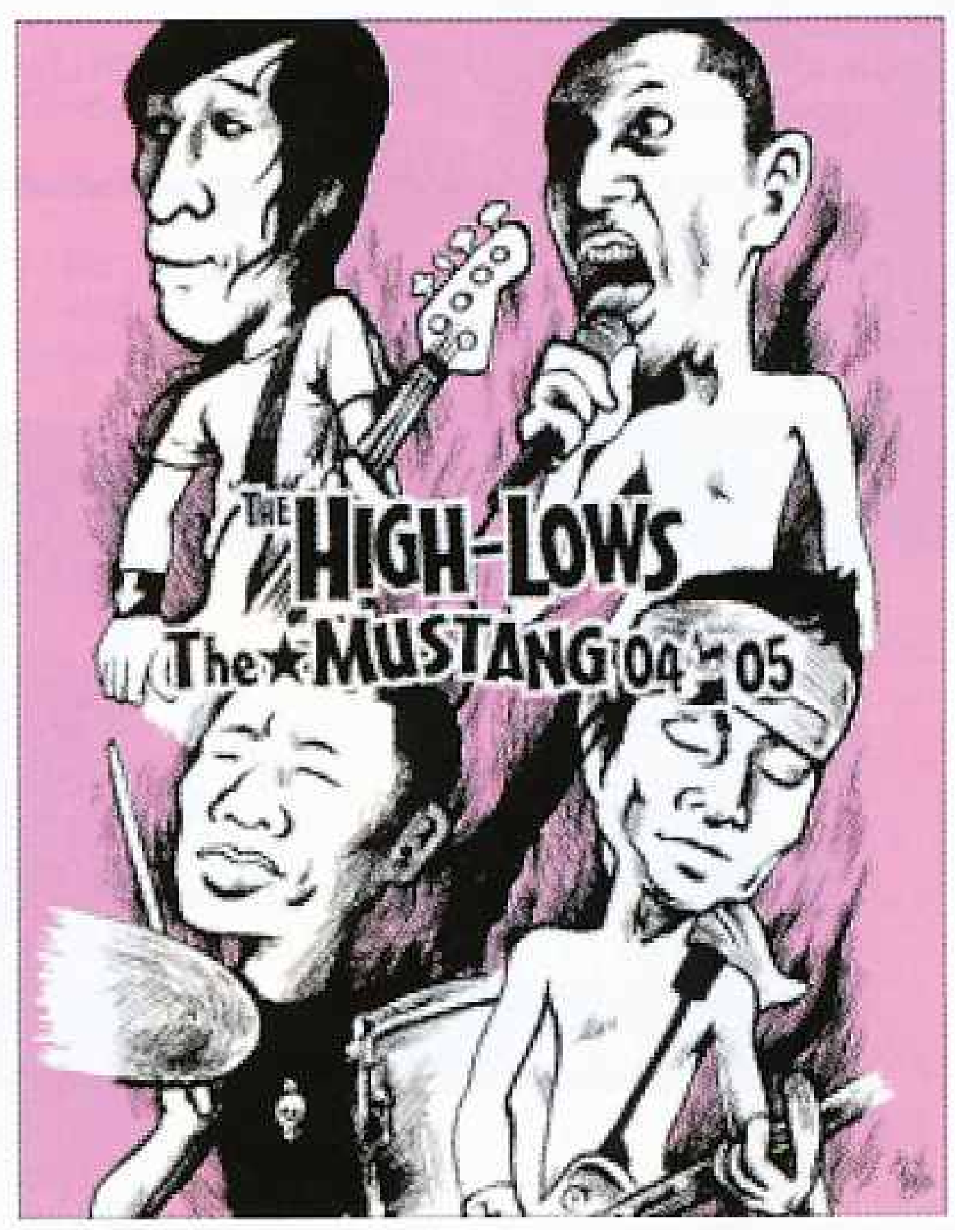
『内村プロデュース』に長州小力が出演。小力って、なんか可愛いよね! アレッ? 今日もアウェーだな…。

9月1日 ゴー! ハイロウズ! ゴー!

渋谷公会堂で『ハイロウズ』観ました。『The★MUSTANG04→05』の初日。スゲー格好良かった。心臓ドキドキ。舞台装置とか全然無くても4人の音(&声)だけで、ものスゴい迫力。まさにロックンロール・モンスター。自分は、今回のツアー・ポスターを描かせて頂いたのです。夢心地です。選ばれし者の恍惚と不安、二つ我にあり。

9月3日 ブルーノくんの「お袋の味」

『紙プロ日記』の先輩・真下純子さんに「手づくりジャーキー」を頂きました。犬まっしぐら。もう、ペロッ! ちゅう感じ。ありがとう、ありがとう! とても嬉しいです。



9月4日 クロスセクション

東京FMホール『クロスセクション』観戦。よく考えたら格闘家って、そんなにたくさん試合出来ないんだよね。ちょっぴり寂しいね。今後、沖縄や韓国で行われる『スマックガール』は観に行けません。遠いから。関東で好きな選手が試合するのなら多少ムリしてでも観に行かなきゃね! 大室奈緒子選手を応援に。



以前、自分は大室選手にイラストを褒めて頂いたことがあるんです。だから大ファンなんです。調子いいでしょ? 褒められると調子にのります。お世辞でも。

試合は大室選手も吉田正子選手もアグレッシブで面白かったです。判定はドロー。大室選手は下を向いて帰っていらっしゃいましたがノー問題です。メインイベンターの責任感にグッときました。

9月5日 辻結花×エリカ・モントーヤ

Jスポーツで『スマックガール』TV観戦。やっぱり辻選手は格好良いねぇ。今年のベストバウト。DVD買わなきゃ!



最後、辻選手が十字を取りにいった時画面の奥で大喜びの自分が写ってて…ガッカリ。ヘコみました。油断&ポカした〜。

9月6日 カナディアン・クリップラー

クリス・ベンワー、ウチの愛犬コマに似てるなぁ。

9月9日 妹 結婚

智恵、おめでとう! 戻って来ちゃダメだよ。

9月10日 核家族ゲーム

祖母さんが泊まりで遊びに行っています。家の中が静かで仕事がはかどります。ちょっぴり「核家族」気分。

何を書いて良いのか解らず暴走気味。ブレーキの壊れた自転車です。御指導御鞭撻願います。紙のプロレス「中川画伯絵日記係」まで。抽選で1名様にイラスト・プレゼント。好きな選手の名前を3人書いてクダサ〜イ!

ロシア「RTT」パーカー
¥6,000 M or L or XL



ロシア「RTT」Tシャツ〈グレー〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT



ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉
¥3,800 SOLD OUT or SOLD OUT or L or XL



ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or SOLD OUT or SOLD OUT or SOLD OUT



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or XL



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT



赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL



ヒョードルSARU Tシャツ〈ベージュ〉
¥3,800 SOLD OUT or M or SOLD OUT or XL



『紙プロ』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。
(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい)

★代引き手数料は315円です。
(代引き金額によって異なります)

『紙プロHand』でご注文の場合

詳しくは『紙プロHand』の通販コーナーをご覧下さい。 ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧下さい。

電話でご注文の場合

平日15:00〜22:00
(株)ダブルクロス 03-3403-5142

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承下さい)。

リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥~~4,500~~ ➡SALE ¥2,500 S or M or SOLD OUT



『カズ・H』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL



『COZY BAKA』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL



トートバック〈ブラック〉
¥1,500



ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 XS or S or M or L or XL



マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500 S or M or L or SOLD OUT



紙のプロレス RADICAL
No.79
2004年10月20日発行

No.80は
10月20日(水)発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎(合併反対のスト突入で非番)

補欠
斉野もみじ

スーパーバイザー
吉田豪

助っ人
片山ボン
ジャイ子

電気部
ささきぃ
スモーノブ

アートディレクター
出田さん(TwoThree)

デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき(以上TwoThree)

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志(以上さおとめの事務所)

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
福島勝儀
菊池茂夫

試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林"ヘックション"一枝

体調
プリン体・入江(TwoThree)

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

ハッスル & 紙のプロレス コラボグッズ 第1弾

髙田総統グッズがビターーン!と発売中!!





「髙田総統」フェイスタオル
¥2100(税込)



「BITAAAN!」メッシュキャップ
[ブラック／パープル] ¥3150(税込)



「ビビったか? たじろいだか?」Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／ホワイト] ¥3990(税込)



「BITAAAAN!」Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト] ¥3990(税込)



「ビビったか? たじろいだか?」ナップザック
[ブループリント／オレンジプリント] ¥2100(税込)

ハッスル グッズは紙プロ通販でも買えますよ!!



ハッスルロゴTシャツ[XS・S・M・L・XL　ホワイト／ブラック／イエロー／レッド／ピンク／ブルー／グリーン／オレンジ]
¥3990(税込)



ハッスルアフロくん
ストラップ／キーホルダー
各¥1050(税込)



ハッスルメッシュキャップ
[ブラック／レッド／イエロー／ピンク／ブルー／グリーン] ¥3150(税込)



ハッスルストラップ／キーホルダー
各¥1050(税込)



ハッスルリストバンド
[ブラック／イエロー／グリーン／ピンク／ホワイト／レッド]
¥1050(税込)



ハッスルフェイスタオル
[ブラック／イエロー／グリーン]
¥2100(税込)



ハッスルホログラムステッカー
¥1050(税込)

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZINE MOOK 258
2004 NO.79
"キャプテン"に休息なし！
『ハッスル』怒濤の進撃!!

平成16年10月20日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580　東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体800円+税


9784898297384
ISBN4-89829-738-2
C9476 ¥800E
1929476008008
雑誌　69860—58

印刷：図書印刷株式会社



BITAAAN!


THE
MONSTER


MONSTER
驚愕!!ネパールの魔境7000キロ
ヒマラヤ山脈最深地に"幻の雪男"
ヒマラヤン・ビッグフットは
実在した!!


紙プロ探検シリーズ
THE MONSTER